稲田　隆

養父　英次郎
養母　静枝
妻　ハマ
男　淳一、五生
女　トシ　大六、七生

正五位勳四等、工學博士、九州帝國大學教授、工學都勳務
長崎縣士族
文久三、九生、現戸主
明一八、九生、長崎、金森穎吉妹
明二七、四生、分家養叔父豹次郎長女

君は長崎縣人山縣高成の二男にして明治二十五年十月を以て生れ同四十年稲田英次郎の養子となる大正九年九州帝國大學工學部土木工學科を卒業し鐵道技手に任じ次で九州帝國大學助教授となり歐米に留學す歸朝後同校教授に進み工學部に勤務し今日に至る昭和二年工學博士の學位を授與せらる家族は尚二女瑤子（大一五、一〇生）二男覺（昭四、二生）あり養叔父豹次郎（慶應二、五生）同妻スヲ（明七、一一生、長崎、士、北野泰次郎妹）は共に分家し叔母フミ（明一六、五生）は長崎縣人稲田大吉に同ト ク（同一七、一〇生）は同縣人朝長悌一郎幸元太郎に嫁せり（福岡市鳥飼町）
参照＝※森峰一の項

稲田秀爾

稲田病院、醫師
京都府在籍
妻　文　明二二、六生、京都、稲田左膳長女
男　素臣　明四二、四生
女　温子　大六、二生

君は京都府人河野興右衛門の二男にして明治十九年三月二十八日を以て生れ同四十年先代左膳の養子となり大正十年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京慈恵會醫學專門學校を卒業現時醫師にして稲田病院を經營す家族は尚三女洋子（大一〇、一二生）三男九作（同一三、一〇生）五女昭子（昭二、二生）ありA五五二（京都市中京區二條通東洞院東入松藏町一電上一四四二）

稲田槙之助

妻　あい　平二女
男　幸次郎　大八、一二生

大阪アルミニユーム製作所（往常務取締役、アルミニユーム製造業大阪府在籍　明二七、一〇生、兵庫、赤松彌一郎幸元太郎に嫁せり（福岡市鳥飼町）
※森峰一の項

稲田昌植

養母　むめ
妻　久米
男　植樹　大九、四生、學習院在學

君は兵庫縣人稲田浚五郎の二男にして現戸主貴之助の弟なり明治二十二年三月を以て生る大阪アルミニユーム製造業を營み現時大阪アルミニユーム工場實地視察の爲出張し同十一年歸朝す家族は尚長女敏子（大一一、一〇生）あり長男祐太郎（同六、二生）は兄貴之助の養子となれり（大阪府泉北郡濱寺町下九四三ノ五電五）
参照＝稲田貴之助の項

稲田龍吉

妻　とし
男　一四、七生、東京、豊住隆造叔母

正三位勳二等、醫學博士、帝國大學教授、九州帝國大學、東京帝國大學各名譽教授、宮内省御用掛
愛知縣在籍

君は愛知縣人稲田見龍の二男にして同三之助同進の兄なり明治七年三月を以て生れ大正十一年兄宣四郎方より分れて一家を創立す明治三十三年東京帝國大學醫科大學醫學科を卒業し次で文部省留學生として獨逸に留學し内科學を研究す同三十六年東京帝國大學獨逸醫科大學助教授に任ぜられ歸朝後同教授に進み大正七年東京帝國大學教授に轉じ昭和九年之を辭し宮内省御用掛仰付けらる又九州帝國大學東京帝國大學各名譽教授たり明治四十年醫學博士の學位を受け大正五年故井戸博士との共同研究「黄疸出血性スピロヘーチ病」に對し帝國學士院より恩賜賞を授與せらる昭和三年帝國學士院會員に推さるA一二〇一（東京市神田區駿河臺二ノ九ノ九電神田三五〇〇）
参照＝稲田三之助、稲田進の項

稲塚庄三郎

養父　義徹
養母　ウメ
妻　コウ
男　一郎、一一生、先々代彦次郎長女

正五位勳四等、檢事、青森地方裁判所檢事正、東京府士族
慶應二、八生、福島、大内吉之介叔父、現戸主
明四、一一生、養父義徹長女
明二〇、一〇生、養父義徹の養子となる同四十君は宮城縣人毛利庄兵衛の三男にして明治十年五月を以て生れ同四十四年現戸主義徹の養子となる同四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し檢事に任じ爾來金澤地方兼同區高山區石巻區登米區青森地方兼同區盛岡地方兼同區福島地方仙臺地方兼同區各裁判所檢事弘前區裁判所檢事兼青森地方弘前支部檢事松本區兼長野地方松本支部檢事等に歴補し小倉區兼福岡區小倉支部檢事を經て現時前記の職に在り（青森市大字大野官舎電二四四）

稲富市郎

男　四郎　明二一、一生、三男四郎妻、德島
婦　ツネ　平賀定吉長女
男　茂文　明二三、四生
孫　福子　明四一、四生、三男四郎長女
孫　等子　明四三、一二生、三男四郎二女
孫　親光　大元、一二生、三男四郎三男

君は德島縣人山田平十郎の二男にして安政六年七月を以て生れ先代義七の養子となり明治二十七年家督を相續す肥料材木商並酒造業を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國稅五百八圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尚孫邦平（大四、九生、三男四郎四男）同助男（同五、一〇生、同五男）あり長女エイノ（明一四、三生）同夫信太郎（同九、九生、德島、三浦彌惠藏二男）は其子女を伴ひ四男傳（同二〇、一二生）同妻ツヤノ（同二〇、一一生、德島、山田虎猛二姉）は其子女を伴ひ各分家し養姪キヨ（同一八、五生、養妹サダ長女）も亦分家し三女トミエ（同一八、一〇生）は德島縣人稲富卯八郎に嫁し庶子忠二（同一八、六生、生母、德島、松島キクエ）は同縣人高輪仙藏の養子となれり（德島縣板野郡板西町電長五）

稲延利兵衛

東京府在籍
男　新太郎　明一〇、一生、慶應義塾出身
孫　榮一　明三八、三生、長男新太郎長男、三井銀行勤務、慶大經濟學部出身
孫妻　静子　大三年生、孫榮一妻、栃木、箭田國郎孫、京華高女出身
孫　豊子　明四〇、三生、長男新太郎二女、府立第三高女出身
孫　喜美子　明四二、一〇生、長男新太郎四女、府立第三高女出身
孫　清　明四四、一一生、長男新太郎二男、鐘淵紡績會社員、慶大經濟學部出身

第一機罐保險懸取締役

當家は古くより江戸に出で常陸屋と稱し代々履物商を營み家柄なり君は先代安兵衛の長男にして嘉永四年十二月を以て生れ明治六年家督を相續し前名勘太郎を改め家業を繼承し東京下駄問屋組合を組織し頭取となる事十ヶ年現在其の相談役となり前記會社の重役たり藝に鐘淵紡績富士瓦斯紡績各會社重役を務め又日本通商銀行頭取にして東京市會議員東京商業會議所議員日本橋區會議員等に擧げらる二男彌三郎（明一三、一〇生、俳優、藝名市川三升）は東京府人堀越秀一九代目市川團十郎）の養子となり孫米子（明三六年生、長男新太郎長女、府立第三高女出身）は分家祖母コトの死跡を相續せりA四五〇〇（東京市品川區五反田五ノ七八ノ一電高輪六九五）

稲葉章通

醫師
岡山縣在籍
妻　芳子　明三四、八生、岡山、太田始四郎四女
男　俊雄　昭四、九生
女　章子　大六、二生

君は岡山縣人稲葉幸市の三男にして明治二十三年十月八日を以て生れ大正十年分れて一家を創立す醫師たり家族は尚三女泰子（大一四、一〇生）甥孝男（明四三、一一生）ありA五四〇（大阪市東區今橋二ノ二七電本局一二八九）

稲葉逸好

醫學博士、滿洲醫科大學長兼教授、同專門部教授、三重縣在籍
男　好夫　明四二、一〇生

君は三重縣人大中道莊太郎の二男にして明治十二年四月を以て生れ後先代佐門の養子となり大正三年家督を相續す明治三十七年京都帝國大學醫科大學を卒業後同大學附屬醫院に勤務し同四十二年助教授に任じ後ち南滿洲鐵道會社に聘せられ大連醫院醫長南滿醫學堂教授となり大正九年南滿醫學堂長兼奉天醫學堂長たり爾來滿洲醫科大學設立せらるゝや學長に就任し教授兼一年滿洲醫科大學設立せらるゝや學長に就任し教授兼醫長たり兼に醫學博士の學位を授けらる家族は尚夫人タカ子あり長女壽（明三三、五生）は岡山縣人醫學博士廣島病院婦人科部長松本操一に二女恭（同三五、四生）は醫學博士大連醫院副醫長西岸眞玄に三女光（同三八、一〇生、日本女大國文學部出身）は香川縣人長谷川輔五郎長男川崎汽船會社員由利に嫁せり（滿洲國奉天市八幡町八）

稲葉丑太郎

奈良縣參事會員、生駒町長
奈良縣在籍
妻　美江　明二三、三生、奈良、大神榮治妹
男　重之　明四四、四生
男　健一　大三、三生
女　俊子　大五、五生
女　勝子　大八、八生

君は奈良縣人稲葉重平の三男にして明治十年十一月を以て生れ同二十九年兄榮三郎方より分れて一家を創立す現時生駒町長奈良縣參事會員全國町村長會顧問にして農に生駒郡會議員奈良縣會議員奈良縣町村長會長たりしことあり又曾て南滿洲シベリヤを巡遊す家族は尚五女康子（大一二、一一生）三男穣（同一五、五生）四男昭夫（昭四、八生）あり長女シゲ（明三二、八生）は大阪府人阪戸茂に嫁し二女ナヲ（同三四、九生）は奈良縣人依本吉藏の養子となれり（奈良縣生駒郡生駒町電三一）

稲葉吉左衛門

茨城縣多額納稅者、醬油釀造業
茨城縣在籍
妻　すま　安政二、四生、由良規矩造三女
男　榮　明一三、三生
婦　はる　明一八、四生、長男榮妻、茨城、飯塚新次郎三女
女　美子　明一〇、三生
孫　義也　明三七、四生、長男榮長男
孫　幸子　明四三、七生、長男榮三女
孫　茂久　明四五、六生、長男榮二男
孫　正三　大三、三生、長男榮三男
孫　次子　大四、三生、長男榮四女
孫　まち子　大六、一一生、長男榮五女

君は茨城縣人先代吉左衛門の長男にして嘉永五年四月を以て生れ明治四年家督を相續し前名貫一郎を改め襲名す醬油釀造業を營み茨城縣多額納稅者にして直接國稅千四百六十五圓を納む養に下妻銀行取締役たり事あり家族は尚孫芳子（大一〇、三生、長男榮六女）同善十郎（同二二、一〇生、同四男）同加久雄（同一五、一生、同五男）あり長女けい（明六、五生）は茨城縣人横瀬忠右衛門に二男加美夫（同二一、三生）は東京府人堀越孝次郎に三男慣三（同二六、九生）は茨城縣人鈴木直一郎に各養子となり二女こう（同八、二生）は同縣人赤萩藤太郎長男新太郎に四女美津（同一六、九生）は同縣人大曾根惣平長男一良に五女勢起（同一八、九生）は同縣人坂入與兵衛に六女蘭（同二四、三生）は同縣人土田譲吉長男右馬太郎に七女豊（同二九、一二生）は同縣人大曾根誠に孫かね（同三九、一一生、長男榮長女）は栃木縣人楠松一七之孫に同良（同四一、九生、同二女）は千葉縣人小森半助孫鐘吉に嫁し養子吉平（安政四、八生、茨城、中山吉之介養弟）同妻せい（同四、八生、茨城、菊地德三郎妹）は其の一子を伴ひ分家せり（茨城

縣結城郡豊加美村）
參照＝堀越孝次郎の項

稲葉近藏　醫師　大阪府在籍
養子　孝　昭二、三生、廣島、小川保夫四男
君は三重縣人稲葉宗一の四男にして明治十七年六月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す醫師たり長女和子（大一〇、九生）は三重縣人岸江九馬藏の養子となれりA三〇〇（大阪市東淀川區本庄川崎町一ノ一電北四二〇六）

稲葉源一郎　從七位勳六等、吉沼村長、茨城縣多額納稅者、五十銀行監査役、農業、茨城縣在籍
妻　美知　明一五、九生、茨城、大久保莊次郎妹
男　孝　明三五、一二生、早大專門部政治科出身
婦　たか　明三六、一〇生、長男孝妻、千葉家政科出身
男　信之　明三九、一一生、東京帝國大學研究生
婦　はる子　明四四、五生、二男信之妻、茨城岩瀬義一三女
男　三郎　大三、四生、早大在學
女　德子　大六、七生、跡見女學校在學
君は茨城縣人稲葉小平の長男にして明治八年十一月を以て生れ大正四年家督を相續す慶應義塾に學び農業を營み五十銀行監査役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅千九百三十六圓を納む嘗て吉沼郵便局長たる事二十數年に及び現時吉沼村長に擧げらる家族は尚四女文子（大九、二生、跡見高女在學）四男光（同一一、九生）孫勝行（昭二、八生、長男孝長男）同久子（同四、一生、同長女）あり長女喜代子（明四三、二生、跡見女學校出身）は千葉縣人久保木惣右衛門長男昇に二女政子（同四四、七生、出身校同上）は茨城縣人根本嘉平次に嫁せり（茨城縣筑波郡吉沼村電二）

稲葉三吉　玩具商　東京府在籍
男　德三郎　明四一、五生
婦　千代　明四二、三生、二男德三郎妻、東京、佐藤敏夫妹
孫　三之輔　昭五、一生、二男德三郎長男
君は東京府人稲葉又兵衛の長男にして嘉永三年七月を以て生れ後家督を相續す玩具商を營む家族は尚孫吉蔵（昭八、一生）ありA一一八二（東京市淺草區馬道町二ノ四電淺草二七六九）

稲葉俊太郎　正位勳六等、瀧戸市長、佐賀縣在籍
母　セキ　文久二、九生
妻　ウメ　明二三、一二生、佐賀、士、香山貞一郎長女
女　つね　明四五、二生
君は佐賀縣人稲葉三郎の長男にして明治十五年七月一日を以て生れ大正五年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業同四十四年文官高等試驗に合格大正元年廣島縣警部に任じ爾來同縣警務官同事務官關東廳警務官同事務官理事官青島守備軍民政部事務官關東廳警務部長山梨愛知各神奈川縣事務官香川宮城廣島各縣警察部長に歷任し昭和八年瀧戸市長に就任今日に至る家族は尚チヨ（明二一、九生）あり同ハル（同二六、二生）は佐賀縣人大久保武雄に同キミ（同三二、一一生）は同縣人岩野正男に嫁せり（瀧戸市役所內）

稲葉宗吉　駿河銀行取締役、靜岡縣在籍
妻　るく　明七、八生、靜岡、深澤諒平妹
男　五郎　明三七、一一生
婦　光子　明四三、一〇生、三男五郎妻、靜岡、深澤久萬五郎姉
男　理雄　明四六、一一生、亡兄七郎長男
婦　むめ子　明三二、二生、養子理雄妻、靜岡金森信郎四女
男　六郎　明四一、四生
男　直　明四三、一生
女　嘉子　大五、一生
君は靜岡縣人稲葉藤吉郎の二男にして明治十年八月を以て生れ同二十九年家督を相續す現時駿河銀行取締役にして蘊に同行監査役に擧げらる家族は尚孫信子（昭二、二生、三男五郎長男）同敏男（同四、五生、同二男）同聽子（大一三、五生、養子理雄長女）同裕司（昭三、二生、同長男）あり二男四郎（明三六、五生）は兵庫縣人深澤邦貞の家籍に入り六男美奈男（同四四、八生）は望月良男の養子となり姉くま（同二、一二生）は同縣人仁藤由松に嫁せりA一七七（沼津市上香貫電五八八）
參照＝※室伏完の項

稲葉彦六　正四位勳三等、奈良女子高等師範學校長、茨城縣士族
妻　ぎむ　明八、一二生、茨城、士、松島茂承二女
男　通彦　明三二、八生
婦　かつろ　明三七、二生、長男通彦妻、茨城小岩井長妹
君は茨城縣士族稲葉通明の長男にして明治五年五月を以て生れ同二十六年家督を相續す同三十一年東京高等師範學校を卒業し長野縣師範學校京都府師範學校を經て同三十五年東京高等師範學校教諭に任じ同四十四年同校教授となり昭和二年文部省督學官に轉じ同六年歐米各國に出張を命ぜられ翌年歸朝後直に奈良女子高等師範學校長に任じ今日に至る家族は尚孫清彦（大一五、三生、長男通彦長男）あり姉みさほ（慶應三、八生）は茨城縣人秋山忠厚に嫁せり（奈良市法蓮町電三六五五）

稲葉廣通　從五位勳六等、營林局技師、熊本營林局勤務、靜岡縣在籍
妻　千代子　明三〇、一〇生
男　利廣　大一五、九生
君は靜岡縣人にして明治二十五年十一月を以て生る大正六年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し山林技手となり青森大林區署勤務遠野大鰐各小林區署長を經て同十二年山林技師に任ぜられ昭和四年營林署技師に轉じ碇ケ關營林署長に補せられ同九年七月營林局技師に任ぜられ熊本營林局勤務を命ぜらる家族は尚長女遠乃（大一〇、一生）二女照江（同一二、二生）二男義通（昭七、五生）あり（熊本市熊本營林局內）

稲葉正弘　正五位、子爵　舊肥州館山藩
妻　榮子　明三九、一〇生、子爵松平親義妹女子學習院出身
當家は稲葉美濃守正則の三男備中守正員の後なり正員分れて一家をなし肥州館山一萬石を領す後七代を經て先々代正善に至り明治十七年子爵を授けらる君は子爵本多正聲の弟にして伯爵松浦陞の從弟子爵松浦靖侯爵大隅信常子爵井上勝純の甥子爵稲葉正凱男爵佐竹義利の從兄に當る明治三十五年十二月二十八日を以て生れ先代正顯の養子となり大正三年家督を相續し翌年授仰付同十二年學習院を經て東京農業大學に學ぶ家族は尚長女瑞子（昭三、一生）二女幸子（同八、一〇生）あり（東京市大森區雪ケ谷町一〇八七）
參照＝侯爵大隈信常、伯爵松浦陞、子爵井上勝純、子爵稲葉正凱、子爵本多正震、子爵松浦靖、子爵松平親義、男爵佐竹義利※男爵鄉誠之助※岩崎彦彌太※酒井忠純※鈴木忠治※松方義輔の項

稲葉正凱　正五位、子爵　舊城州淀藩
母　隆子　明三、一〇生、子爵前田利滿伯母
妻　德子　明四五、五生、子爵松平保男二女
當家は彦狹島命の苗裔河野通有の後なり九代內匠頭正成に至り稲葉氏を冒し豐臣氏に從ひ後德川氏に仕ふ其室は有名なる春日局なり其子正勝君側に侍し累進して老中に昇り小田原八萬五千石に封ぜらる後世山城國淀に移り十四代を經て先々代正邦に至り明治十七年子爵を授けらる先代正繩は松浦家より入りて當家を繼ぎ英國に留學し東宮侍從式部官に歷任す君は其二男にして伯爵松浦陞の從弟子爵松浦靖侯爵大隈信常子爵井上勝純の甥男爵佐竹義利子爵稲葉正弘子爵本多正震の從弟に當る明治三十九年一月十四日を以て生れ大正八年襲爵被仰付曉星中學を經て英國劍橋大學セント・ジョンス・カレッジに法律建築を學びパチエラー・オヴ・アーツの學位を受く洋畫音樂を好む家族は尚長女榮子（昭九、四生）あり姉熊子（明三〇、三生、學習院女學部出身）は神奈川縣人小野哲郎に同英子（同三五、七生、出身校同上）は男爵鄉誠之助養子朝雄に嫁せりA九二〇（東京市澁谷區青葉町七電青山四一五）
參照＝侯爵大隈信常、伯爵松浦陞、子爵井上勝純、子爵稲葉正弘、子爵本多正震、子爵前田利滿子爵松浦靖、男爵鄉誠之助、男爵佐竹義利、小野哲郎、鄉朝雄※岩崎彦彌太※鈴木忠治※

稲葉順通　正三位、子爵　舊豊後臼杵藩
母　多美　安政元、一一生、京都、清水熊藏長女
妻　鑑子　明一五、七生、伯爵酒井忠良再從姉
男　直通　明三三、三生、正五位、劍橋大學出身
婦　道子　明四〇、一生、長男直通妻、侯爵西鄉從德長女、女子學習院出身
女　貞子　大三、一〇生、女子學習院出身
當家は孝靈天皇の皇子彦狹島命の遠裔河野通有の二男通治の後なりそれより八代通富美濃に移り初めて稲葉氏と稱す孫伊豫守長通繼豊二氏に仕へ勇名あり一鎖と鍔す其子右京亮貞通德川氏に屬し豊後臼杵六萬石を領す十三代を經て先代久通に至り明治十七年子爵を授けらる君は久通の長男にして明治八年十月二十六日を以て生れ同二十六年襲爵被仰付學習院に學び寫眞及射的を趣味とし其技に精通す家族は尚孫綾子（大一五、三生、長男直通長女）同和通（昭二、六生、同長男）同典子（同三、八生、同二女）あり長女華子（明三六、四生女子學習院出身）は男爵中御門經民に二女利子（同三八、八生、出身校同上）は京都府人永田彦太郎に三女茂子（同二、八生、出身校同上）は奈良縣人新谷寅三郎に嫁し弟通暉（同一九、八生）は分家し妹善子（同一八、一生）は其家籍に入り島根縣人湯淺温に嫁し弟通方（同二六、二生）同妻直子（同三〇、七生、子爵久留島健三郎妹）は共に分家せりA一〇四〇（東京市澁谷區原宿二ノ二〇七電青山一一二六）
參照＝侯爵西鄉從德、伯爵酒井忠良、子爵久留島健三郎、男爵中御門經民※公爵岩倉具榮※侯爵西鄉吉之助※伯爵小松從志※子爵板倉勝豪※子爵大給近孝※子爵內藤信利※子爵內藤頼輔※子爵松平直顯※男爵伊地知精※男爵上村從義男爵鍋島直明※男爵古河虎之助※久留島武彦※久留島政治※西鄉豊二※酒井忠純※酒井忠孝※西脇健治※元田肇※安田善次郎の項

稲葉實　廣島電氣㈱常務取締役、廣島電證券三原電燈各㈱取締役、廣島縣士族
妻　ウメ　明二三、一生、大分、士、山本義人姉
君は大分縣士族稲葉猶治の長男にして明治十五年十二月を以て生れ同四十三年家督を相續す同四十一年京都帝國大學理工科大學電氣工學科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尚養子タマヱ（大九、七生、愛媛、村尾栞五女）あり（廣島市八丁堀二）
參照＝村尾栞、山本義人※中山豊の項

稲葉林之助　小樽商工會議所議員、小樽築港㈱社長、北海道銀行、共同運輸倉庫各㈱取締役、函館重油タンク㈱監査役、愛知縣在籍
妻　たに　明七、一生、神奈川、鈴木市三郎二女
男　欽一　明二七、一一生
婦　治枝　明三四、三生、長男欽一妻、北海道、柳田一郎妹
男　修二　明二九、一〇生
男　健三　明三六、七生
女　道子　明四一、七生
男　實　大二、五生
君は愛知縣人稲葉周三郎の長男にして明治四年十月を以て生れ大正十二年家督を相續す現に前記銀行會社の重役にして推されて小樽商工會議所議員たり家族は尚孫初枝（大一二、三生、長男欽一長女）同泰雄（同一四、一生、同長男）同敏二（昭二、一生、同二男）あり養子ゆうこ（明三六、九生、愛知、八木末吉姉）は東京府人岩松三郎に嫁せり（小樽市色內町六ノ二電二三九）
參照＝※杉江仙次郎※山本寛太郎の項

稲畑勝太郎　正六位勳三等、貴族院議員、日本商工會議所副會頭、大阪商工會議所會頭、大阪駐在ルーマニア國總領事、ポーランド、ベルギー、ポルトガル、ペルー、ボリヴィア各國領事、ボルトガル、京都駐在領事、稲畑商店、日本料理製造各㈱社長、新大阪ホテル、日本航空輸送各㈱取締役、富國徴兵保險（互）取締役、南朝鮮鐵道、島津製作所、日本無線電信各㈱監査役、稲畑香料店、電代表社員、日露各㈱監査役
松方義輔の項

稲葉宗吉　駿河銀行取締役、靜岡縣在籍
妻　るく　明七、八生、靜岡、深澤諒平妹
男　五郎　明三七、一一生
婦　光子　明四三、一〇生、三男五郎妻、靜岡、深澤久萬五郎姉
男　理雄　明四六、一一生、亡兄七郎長男
婦　むめ子　明三二、二生、養子理雄妻、靜岡金森信郎四女
男　六郎　明四一、四生
男　直　明四三、一生
女　嘉子　大五、一生
君は靜岡縣人稲葉藤吉郎の二男にして明治十年八月を以て生れ同二十九年家督を相續す現時駿河銀行取締役にして蘊に同行監査役に擧げらる家族は尚孫信子（昭二、二生、三男五郎長男）同敏男（同四、五生、同二男）同聽子（大一三、五生、養子理雄長女）同裕司（昭三、二生、同長男）あり二男四郎（明三六、五生）は兵庫縣人深澤邦貞の家籍に入り六男美奈男（同四四、八生）は望月良男の養子となり姉くま（同二、一二生）は同縣人仁藤由松に嫁せりA一七七（沼津市上香貫電五八八）
參照＝※室伏完の項

稲葉彦六　正四位勳三等、奈良女子高等師範學校長、茨城縣士族
妻　ぎむ　明八、一二生、茨城、士、松島茂承二女
男　通彦　明三二、八生
婦　かつろ　明三七、二生、長男通彦妻、茨城小岩井長妹
君は茨城縣士族稲葉通明の長男にして明治五年五月を以て生れ同二十六年家督を相續す同三十一年東京高等師範學校を卒業し長野縣師範學校京都府師範學校を經て同三十五年東京高等師範學校教諭に任じ同四十四年同校教授となり昭和二年文部省督學官に轉じ同六年歐米各國に出張を命ぜられ翌年歸朝後直に奈良女子高等師範學校長に任じ今日に至る家族は尚孫清彦（大一五、三生、長男通彦長男）あり姉みさほ（慶應三、八生）は茨城縣人秋山忠厚に嫁せり（奈良市法蓮町電三六五五）

稲葉廣通　從五位勳六等、營林局技師、熊本營林局勤務、靜岡縣在籍
妻　千代子　明三〇、一〇生
男　利廣　大一五、九生
君は靜岡縣人にして明治二十五年十一月を以て生る大正六年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し山林技手となり青森大林區署勤務遠野大鰐各小林區署長を經て同十二年山林技師に任ぜられ昭和四年營林署技師に轉じ碇ケ關營林署長に補せられ同九年七月營林局技師に任ぜられ熊本營林局勤務を命ぜらる家族は尚長女遠乃（大一〇、一生）二女照江（同一二、二生）二男義通（昭七、五生）あり（熊本市熊本營林局內）

稲葉正弘　正五位、子爵　舊肥州館山藩
妻　榮子　明三九、一〇生、子爵松平親義妹女子學習院出身
當家は稲葉美濃守正則の三男備中守正員の後なり正員

賀易協會、日遥賀易協會、大阪出品人協會、帝國飛行協會、佛文化協會副會長、日本輸出駒組合理事、通商組合、近東貿易、法律制度調査會、不戸廉費委員會、各賃貸審議會委員會、各委員會、鐵道運賃審議會委員、制度委員、統計委員、各都府在籍、國際觀光局元、九生、東京、士、森重遠三女、東京晉樂學校出身

妻　トミ　明三一、五生

君は京都府人稲畑利助の長男にして文久二年十月を以て生れ明治三十六年分れて一家を創立す同十年京都府師範學校に在學中同府より選ばれて佛國に留學し同國里昂工藝學校同里昂大學に學び歐洲各國の化學工業工場を視察す帰朝後京都府御用掛皇居御造營御用掛となり明治二十年京都織物會社創設に盡瘁し後京都染色講習所教授京都織物會社技師長等に擧げられ同二十四年之を辭し稲畑商店を開き同二十九年稲畑染工場を設立し後軍隊用カーキ色染を創業す實業發達の功に依り大正六年藍綬褒章を授けらる現時ルーマニア國其他四ケ國の日本駐在領事を嘱託せられ又前記諸會社の重役たり活動寫眞を初めて我國に輸入し毛斯綸紡織會社染料製造會社等を創設するなど關西實業界に重きをなし擧げられて日本商工會議所副會頭大阪商工會議所會頭の任に在り大正十一年勲三等に敍せられ同十五年貴族院議員に勅選せらる昭和九年夏ユーゴー・スラヴィア首都ベルグラードに於て開催されし萬國商事議員會議に貴族院議員として出席を命ぜらる長女きく(明二六、一一生)は分家し東京府人今井二郎を迎へ二女麗子(同二八、一一生)は京都府人理學士松本虎吉に妹アイ(同九、一一生)は京都府人稲畑廣之助の母たり A一二五六二B七二(大阪市南區順慶町通二ノ五一電長船場三六〇〇)

参照‖稲畑二郎、稲畑太郎、稲畑廣之助、松本虎吉の項

稲畑二郎

日本染料輸出㈱副社長、稲畑商店㈱日本染料製造㈱常務取締役、稲畑染工場㈱監査役、稲畑香料㈱代表社員、大阪府在籍

妻　きく　明二六、一一生、大阪、稲畑勝太郎長女

君は東京府人今井茂兵衛の二男にして明治二十一年三月四日を以て生れ大正三年先代きくの入夫となり家督を相續す同二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し實業界に入り現時日本染料輸出會社々長稲畑商店副社長の外前記各會社の重役たり家族は尚長女和子(大一〇、七生)二男英二郎(同一四、四生)三男順三(昭六、一生)四男慶四郎(同七、二生)あり A八一二四(大阪市南區順慶町通二ノ五一電長船場三六〇〇)

参照‖稲畑勝太郎※稲稲太郎※稲畑廣之助※松本虎吉の項

稲畑太郎

稲畑商店㈱專務取締役、稲畑染工場㈱取締役、京都府在籍

父　勝太郎　文久二、一〇生、現戸主

妻　玉子　明三九、九生、子爵東龍祿二女

男　勝雄　大一五、一生

君は京都府人稲畑勝太郎の長男にして明治三十一年五月を以て生る大正十一年東京高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尚二男秀雄(昭二、一二生)三男(同五、三生)あり A一六四六(京都市左京區南禪寺福地町電上二五〇〇)

参照‖子爵東龍祿、稲畑勝太郎※稲畑二郎※松本虎吉の項

稲畑廣之助

日本勤業銀行出納課長、京都府在籍

養母　アイ　明元、一一生、京都、稲畑勝太郎妹

妻　房子　明三二、九生、養父惣七養子、梅田高女出身

男　勝學　大一〇、三生、兵庫縣立第一中在學

女　喜美子　大七、七生、聖心女子學院在學

君は愛知縣人伊藤直太郎の弟にして明治二十二年七月を以て生れ先代惣七の養子となり大正十二年家督を相續す同三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し日本勤業銀行に入り同十年英米訪問實業團に加はり歐米各國を視察す後同行京都大阪各支店副支配人を經て現時同行出納課長たり家族は尚三女雅子(大一二、一生)二女千代子(同八、一〇生、聖心女子學院在學)は東京府人今井茂兵衛の二男にして明治二十一年三月四日を以て生れ大正三年先代きくの入夫となり家督を相續す同二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し實業界に入り現時日本染料輸出會社々長稲畑商店副社長の外前記各會社の重役たり家族は尚長女和子(大一〇、七生)二男英二郎(同一四、四生)三男順三(昭六、一生)四男慶四郎(同七、二生)あり A八一二四(大阪市南區順慶町通二ノ五一電長船場三六〇〇)

参照‖稲畑勝太郎※稲稲太郎※稲畑廣之助※松本虎吉の項

稲畑太郎

稲畑商店㈱專務取締役、稲畑染工場㈱取締役、京都府在籍

父　勝太郎　文久二、一〇生、現戸主

妻　玉子　明三九、九生、子爵東龍祿二女

男　勝雄　大一五、一生

君は京都府人稲畑勝太郎の長男にして明治三十一年五月を以て生る大正十一年東京高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尚二男秀雄(昭二、一二生)三男(同五、三生)あり A一六四六(京都市左京區南禪寺福地町電上二五〇〇)

参照‖子爵東龍祿、稲畑勝太郎※稲畑二郎※松本虎吉の項

稲畑廣之助

日本勤業銀行出納課長、京都府在籍

養母　アイ　明元、一一生、京都、稲畑勝太郎妹

妻　房子　明三二、九生、養父惣七養子、梅田高女出身

男　勝學　大一〇、三生、兵庫縣立第一中在學

女　喜美子　大七、七生、聖心女子學院在學

君は愛知縣人伊藤直太郎の弟にして明治二十二年七月を以て生れ先代惣七の養子となり大正十二年家督を相續す同三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し日本勤業銀行に入り同十年英米訪問實業團に加はり歐米各國を視察す後同行京都大阪各支店副支配人を經て現時同行出納課長たり家族は尚三女雅子(大一二、一生)二女千代子(同八、一〇生、聖心女子學院在學)は東京府人今井茂兵衛の二男にして明治二十一年三月四日を以て生れ大正三年先代きくの入夫となり家督を相續す同二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し實業界に入り現時日本染料輸出會社々長稲畑商店副社長の外前記各會社の重役たり家族は尚長女和子(大一〇、七生)二男英二郎(同一四、四生)三男順三(昭六、一生)四男慶四郎(同七、二生)あり A八一二四(大阪市南區順慶町通二ノ五一電長船場三六〇〇)

参照‖稲畑勝太郎※稲稲太郎※稲畑廣之助※松本虎吉の項

稲畑二郎

日本染料輸出㈱副社長、日本染料製造㈱常務取締役、稲畑染工場㈱監査役、稲畑香料㈱代表社員、大阪府在籍

妻　きく　明二六、一一生、大阪、稲畑勝太郎長女

君は京都府人稲畑利助の長男にして文久二年十月を以て生れ明治三十六年分れて一家を創立す同十年京都府師範學校に在學中同府より選ばれて佛國に留學し同國里昂工藝學校同里昂大學に學び歐洲各國の化學工業工場を視察す帰朝後京都府御用掛皇居御造營御用掛となり明治二十年京都織物會社創設に盡瘁し後京都染色講習所教授京都織物會社技師長等に擧げられ同二十四年之を辭し稲畑商店を開き同二十九年稲畑染工場を設立し後軍隊用カーキ色染を創業す實業發達の功に依り大正六年藍綬褒章を授けらる現時ルーマニア國其他四ケ國の日本駐在領事を嘱託せられ又前記諸會社の重役たり活動寫眞を初めて我國に輸入し毛斯綸紡織會社染料製造會社等を創設するなど關西實業界に重きをなし擧げられて日本商工會議所副會頭大阪商工會議所會頭の任に在り大正十一年勲三等に敍せられ同十五年貴族院議員に勅選せらる昭和九年夏ユーゴー・スラヴィア首都ベルグラードに於て開催されし萬國商事議員會議に貴族院議員として出席を命ぜらる長女きく(明二六、一一生)は分家し東京府人今井二郎を迎へ二女麗子(同二八、一一生)は京都府人理學士松本虎吉に妹アイ(同九、一一生)は京都府人稲畑廣之助の母たり A一二五六二B七二(大阪市南區順慶町通二ノ五一電長船場三六〇〇)

参照‖稲畑二郎、稲畑太郎、稲畑廣之助、松本虎吉の項

稲畑太郎

稲畑商店㈱專務取締役、稲畑染工場㈱取締役、京都府在籍

父　勝太郎　文久二、一〇生、現戸主

妻　玉子　明三九、九生、子爵東龍祿二女

男　勝雄　大一五、一生

君は京都府人稲畑勝太郎の長男にして明治三十一年五月を以て生る大正十一年東京高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尚二男秀雄(昭二、一二生)三男(同五、三生)あり A一六四六(京都市左京區南禪寺福地町電上二五〇〇)

参照‖子爵東龍祿、稲畑勝太郎※稲畑二郎※松本虎吉の項

稲畑廣之助

日本勤業銀行出納課長、京都府在籍

養母　アイ　明元、一一生、京都、稲畑勝太郎妹

妻　房子　明三二、九生、養父惣七養子、梅田高女出身

男　勝學　大一〇、三生、兵庫縣立第一中在學

女　喜美子　大七、七生、聖心女子學院在學

君は愛知縣人伊藤直太郎の弟にして明治二十二年七月を以て生れ先代惣七の養子となり大正十二年家督を相續す同三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し日本勤業銀行に入り同十年英米訪問實業團に加はり歐米各國を視察す後同行京都大阪各支店副支配人を經て現時同行出納課長たり家族は尚三女雅子(大一二、一生)二女千代子(同八、一〇生、聖心女子學院在學)は東京府人今井茂兵衛の二男にして明治二十一年三月四日を以て生れ大正三年先代きくの入夫となり家督を相續す同二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し實業界に入り現時日本染料輸出會社々長稲畑商店副社長の外前記各會社の重役たり家族は尚長女和子(大一〇、七生)二男英二郎(同一四、四生)三男順三(昭六、一生)四男慶四郎(同七、二生)あり A八一二四(大阪市南區順慶町通二ノ五一電長船場三六〇〇)

参照‖稲畑勝太郎※稲稲太郎※稲畑廣之助※

稲茂登三郎

勳四等、東京市場建物㈱社長
東京府在籍
明二四、一〇生、長女千嘉子夫、群馬、佐藤安蔵三男、歯護士、法學士
養子　恒次
女　千嘉子　明三二、二生、養子恒次妻
女　三重子　明三三、一〇生

君は群馬縣人木暮武祿の三男同武太夫の叔父にして慶應二年二月を以て生れ明治三十一年先代かねの入夫となり家督を相續す夙に群馬縣立中學校を卒業し上京して英數簿記を學び實業界に入り倉庫銀行東京信託會社日本電線會社等の創立に盡力し現時東京市場建物會社長たり義に日本絹絲紡績東京報知機其他諸會社の重役に擧げられ東京商工會議所議員同副會頭及び東京市會議員衆議院議員等に當選し日獨事件の功に依り勳四等に敍し瑞寶章を賜はる家族は尚孫興一(大一三、一生、養子恒次長男)同道子(昭五、八生、同長女)同恭子(同八、一二生、同二女)あり三女英子(明三五、三生)は三重縣人岡崎正也長男正彦に四女輝子(同三七、二生、九段精華高女出身)は東京府人横田イト養子玄司に嫁せり(東京市澁谷區松濤町一八電青山四六五四)
參照＝岡崎正也、木暮武太夫の項

稲本源兵衛

乙調銀行㈱頭取、丸幸、醤油釀造業、京都府在籍
男　茂一郎　明二四、三生
婦　三代　明二七、五生、長男茂一郎妻、京都、井上與四郎妹
男　麟三郎　明三七、一生
孫　鯉峨野　大三、一二生、長男茂一郎長女
孫　あふひ　大六、一生、長男茂一郎二女

君は京都府人先代源兵衛の長男にして明治三年九月を以て生れ同二十一年家督を相續し前名竹治郎を改め襲名す丸幸と稱し醤油釀造業を營み現時乙調銀行頭取に擧げらる家族は尚孫昭子(大一〇、一生、長男茂一郎三女)同眞千穂(同一二、九生、同長男)同復也(同一五、一二生、同二男)同康彦(昭五、六生、同三男)同忠子(同八、一〇生、同四女)あり二男清二郎(明二七、六生、マスター・オブ・アーツ)は京都府人內藤あいの入夫となり妹ハル(同一七、三生)は同府人四方秀三郎に嫁し弟貫一(同二二、一生)同妻シズ(同二四、三生、京都、長谷川繁太郎二女)は共に分家せり(京都府乙訓郡向日町電一七)
參照＝四方秀三郎の項

稲本太一郎

伊都合同銀行㈱取締役、和歌山縣農工銀行㈱監査役、農業、和歌山縣在籍
男　正清　明二八、一生、千葉縣立高等園藝學校出身
婦　清子　明三二、一二生、長男正清妻、奈良、松田清一妹
男　三郎　明三四、一一生、北海道帝國大醫學部助手、醫學士
男　璃穂　明三九、一一生、東京商科醫學專門學校出身
女　八重子　明四二、二生、縣立橋本高女出身

稲本家は往時より紀州笠田町に定住し代々地主として家格なり君は先代安之助の長男にして明治二年七月八日を以て生れ同二十二年家督を相續し前名太市郎を改む東京に遊學し現時前記銀行の重役たり義に和歌山縣會議員に三回選ばれて同副議長に擧げらる家族は尚孫茂(大一三、一一生、長男正清長男)同道子(昭四、二生、同一女)あり長女雪子(明二六、京、大村義勝二女)及其子女あり三女和壽子(同三四、三生、跡見女學校出身)は横濱市技師伊藤清に四女恭而子(同三五、一〇生、山脇高女出身)は兵庫縣士族新井智三郎長男昭和銀行員甲子郎に五女靜江(同三九、五生)は磐岡縣人森田茂弟進に嫁し弟喜幸(同一九、八生)は同妻アサ(同二一、二生、神奈川、荒金源藏二女)を伴ひ分家せりA一二七六(東京市京橋區銀座西六ノ二電銀座一四四九)
參照＝伊藤清の項

稲本利右衛門

稲西㊟代表社員
滋賀縣在籍
母　たみ　文久元、八生、滋賀、字野惣兵衛四女
妻　ゑい　明三四、一一生、滋賀、山中兵右衛門妹
男　隆一郎　大一一、一生
男　百合子　大三、八生

君は滋賀縣人先代利右衛門の二男にして明治三十二年五月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名雅太郎を改め襲名す現時西村重兵衛と共に稲西合名會社を經營し其の代表社員たり家族は尚長女俊子(大九、一〇生)二男悌次郎(同一四、九生)三男史郎(昭二、四生)あり姉せつ(明二八、三生)同夫治三郎(同二五、八生、滋賀、岸和田藤八六男)は分家せり(大阪市東區本町二ノ一電本町七二八)
參照＝山中兵右衛門の項

稲山傳太郎

稲山保全㈱社長、隅田川機船、大正鑛林業各㈱取締役、東京府在籍
妻　イヽソ　明一三、八生、神奈川、山根牧太妹
男　絢太郎　明三一、一〇生、法學士
男　雪江　明三九、一一生、長男絢太郎妻、東京、河村利次郎四女、府立第五高女出身
婦　嘉寛　明三七、一生、八幡製鐵所副參事經濟學士
男　靜江　明三一、一〇生、法學士

君は東京府人稲山久仙の二男にして明治三年七月を以て生れ大正十五年家督を相續す現時稲山保全會社々長の外前記各會社の重役たり家族は尚孫瑤子(昭三、六生、長男絢太郎長女)同一彦(同四、一二生、同長男)弟常勝(明一七、二生)同妻テイ(同二三、一二生、東京、大村義勝二女)及其子女あり三女和壽子(同三四、三生、跡見女學校出身)は横濱市技師伊藤清に四女恭而子(同三五、一〇生、山脇高女出身)は兵庫縣士族新井智三郎長男昭和銀行員甲子郎に五女靜江(同三九、五生)は磐岡縣人森田茂弟進に嫁し弟喜幸(同一九、八生)は同妻アサ(同二一、二生、神奈川、荒金源藏二女)を伴ひ分家せりA一二七六(東京市京橋區銀座西六ノ二電銀座一四四九)
參照＝伊藤清の項

稲山彌三郎

毛糸洋傘商
愛知縣在籍
妻　じゃう　明一九、八生、愛知、大原梅吉長女
男　彌太郎　明四五、四生
女　百合子　大三、八生

君は愛知縣人稲山市兵衛の長男にして明治十三年十一月を以て生れ同二十三年家督を相續す毛糸洋傘商を營む家族は尚四女鈴子(大九、八生)あり長女ふじ江(明四一、四生)同夫正治(同三八、二生)は其一子を伴ひ分家し妹てる(同二一、一二生)は愛知縣人川村巖に嫁せり(名古屋市中區鐵砲町三ノ一電中一七六九)

田舍方清一

吉清、桐油合羽商
愛知縣在籍
母　けい　明一六、三生、愛知、尾張彌兵衛長女

君は愛知縣人田舍方清七の長男にして大正元年十二月十日を以て生れ同十三年家督を相續す吉清と稱し桐油合羽商を營む家族は尚姉歌子(明三九、三生)ありA三四三(名古屋市西區押切二ノ四電西一八七七)

犬養　健

從五位、衆議院議員(東京府選出)著述家、東京府在籍
妻　伸子　明三三、一生、男爵長與立吉妹
男　康彦　昭三、四生

當家は先代毅より顯はる毅は岡山縣人犬養源左衛門の二男にして幼にして森田月潤の門に遊び長じて犬養松窓に就く明治八年東京に出でて藤田茂吉の知遇を得慶應義塾に學び學生中西南の亂に報知新聞通信員として名顯はる同十四年統計院權少書記官に任ぜられ大隈侯冠を挂くるに及んで連袂職を辭し報知社に入り立憲改進黨組織の事に從ふ後東京府會議員に選ばれ同十八年朝野新聞に入り更に轉じて尾崎行雄等と共に民報を起し其廢刊に及びて再び報知社に入る同二十三年選ばれて衆議院議員となり同三十一年憲政黨內閣成るに及び文部大臣に任ぜられ正三位に敍せらる爵許もなく職を辭し憲政本黨總務委員として專ら黨務を執掌せしが後立憲國民黨創立の事に參畫して其領袖となり大正二年桂內閣に反對して憲政擁護を唱へ全國を震撼す同十一年國民黨を解散して革新倶樂部を組織し同十二年第二次山本內閣に入りて逓信大臣に親任せらる同十三年加藤內閣成るや三度入りて逓信大臣となり後之を辭し特に前官の禮遇を賜はる後年立憲政友會に入り其總裁に擧げられ昭和六年大命を拜して內閣總理大臣に任ぜられ翌年五月十五日首相官邸に於いて兇彈に仆る衆議院議員に當選する事十八回清廉を以て鳴る君は其男にして明治二十九年七月二十八日を以て生れ昭和七年家督を相續す大正六年學習院高等科を卒業し東京帝國大學文科大學哲學科に學び戲曲「家鴨の出世」短編集「牧歌」を相續す大正六年學習院高等科を卒業し東京帝國大學「南京の六月祭」等の外多くの短編あり昭和五年推されて衆議院議員に當選同七年再選し內閣總理大臣秘書官に任ぜらる現時立憲政友會議員に當選同十一年再選し內閣總理大臣秘書官(大一〇、四生)あり姉操(明一九、九生)は貴族院議員芳澤謙吉に妹信(同三八、一二生、雙葉高女出身)は東京府人多田正俊に嫁せり(東京市四谷區南町八八電四谷三〇〇)
參照＝男爵長與立吉、芳澤謙吉※岩永祐吉※齋藤博の項

犬飼柔吉

電信協會主理、庶務編輯各部長
東京府在籍
妻　てつ　慶應三、五生、東京、關口竹次郎二女
男　顯二　明一八、一二生
婦　あさ　明二七、五生、長男顯二妻、京都雜賀長三郎妹
孫　あき　大七、一二生、長男顯二長女

君は兵庫縣人犬飼老之助の二男にして安政四年十一月二十一日を以て生れ明治十一年分れて一家を創立す現時電信協會主理にして庶務編輯各部長を兼ぬ家族は尚孫ユキ(大九、四生、長男顯二二女)同彦一(同一〇、一二生、同長男)同恭(同一四、一一生、同三女)同政幸(昭五、二生、同二男)同洋(同九、二生、同四女)あり長女ひさ(明三一、四生)は山口縣人棟居俊一に三女(同四二、六生)は三重縣人石原直義に二女(同三四、一〇生)は滋賀縣人宮脇襄二に孰れも嫁せりA四三八(東京市赤坂區青山高樹町一二ノ一〇電青山一四〇〇)

犬上慶五郎

犬上商船㈱社長、海運業、北海道在籍
妻　りツ　明九、一生、新潟、山本彦平三女
男　慶一郎　明三五、三生
婦　きぬ　明三六、八生、長男慶一郎妻、東京、眞砂榮吉四女
養子　慶造　明三四、一〇生、長女春子夫、北海道、加藤辰夫從兄
女　春子　明三八、一生、養子慶造妻、東京女學館出身

君は兵庫縣人宮脇襄二の長男にして犬塚勝之丞同三郎の兄なり明治元年三月四日を以て生れ同三十年家督を相續す同二十二年東京帝國大學法科大學を卒業し直ちに內務省試補となり翌年內務大臣秘書官に任じ傍ら東京法學院講師となる爾來長崎縣選信省法制局各參事官となり貴族院書記官を兼任す次いで選信省鐵道局長內務省土木局長及青森長崎大阪各府縣知事に歷任し逓信農商務兩省の次官に任じ大正九年貴族院議員に勅選せられ又曾て錦鷄間祗候仰付けられ其他大禮使參與官臨時產業調査會總務部長鐵道會議員道路會議員臨時國民經濟調査會幹事長等諸種の委員委員長たること尠なからず萬國道路會議及國際勞働會議等に帝國代表として出席せること數回に及ぶ又英獨に留學し數次歐米各國其他埃及小亞細亞地方を巡遊す義に衆議院議員に當選せる事あり妹つる(明一四、四生)は北海道士族富樫良純二男良三に同松枝(同一六、六生)は千葉縣人小野崎長義二男貞に同たけ(同二三、四生)は岐阜縣人今西卓に二女光(同三二、二生)は兵庫縣人菅藤太郎弟和三郎に嫁せりA一四一(神奈川縣倉鄙鎌倉町淨明寺六六電三一六)
參照＝犬塚勝之丞、犬塚三郎、菅藤太郎※松波仁一の項

犬塚勝太郎

正三位勳一等、貴族院議員
東京府士族
妻　しつ　明七、二生、千葉、士、津田出五女
女　照子　明二八、八生

君は舊庄內藩士犬塚盛毅の長男にして犬塚勝之丞同三郎の兄なり明治元年三月四日を以て生れ同三十年家督を相續す同二十二年東京帝國大學法科大學を卒業し直ちに內務省試補となり翌年內務大臣秘書官に任じ傍ら東京法學院講師となる爾來長崎縣選信省法制局各參事官となり貴族院書記官を兼任す次いで選信省鐵道局長內務省土木局長及青森長崎大阪各府縣知事に歷任し逓信農商務兩省の次官に任じ大正九年貴族院議員に勅選せられ又曾て錦鷄間祗候仰付けられ其他大禮使參與官臨時產業調査會總務部長鐵道會議員道路會議員臨時國民經濟調査會幹事長等諸種の委員委員長たること尠なからず萬國道路會議及國際勞働會議等に帝國代表として出席せること數回に及ぶ又英獨に留學し數次歐米各國其他埃及小亞細亞地方を巡遊す義に衆議院議員に當選せる事あり妹つる(明一四、四生)は北海道士族富樫良純二男良三に同松枝(同一六、六生)は千葉縣人小野崎長義二男貞に同たけ(同二三、四生)は岐阜縣人今西卓に二女光(同三二、二生)は兵庫縣人菅藤太郎弟和三郎に嫁せりA一四一(神奈川縣倉鄙鎌倉町淨明寺六六電三一六)
參照＝犬塚勝之丞、犬塚三郎、菅藤太郎※松波仁一の項

男　慶治　明四四、一生
男　慶元　大九、九生

君は北海道士族犬上清三郎の弟にして慶應元年三月を以て生れ明治三十一年分れて一家を創立す夙に海運業を營み傍ら前記各會社の重役にして曩に北海道鐵道會社長日本海運富國火災海上保險擔振鐵道各會社取締役に就任し又推されて小樽商業會議所特別議員たり家族は尚五男慶利(大四、一二生)六男孝(同七、四生)七男忠(同九、六生)孫榮子(昭三、二生、長男慶一郎長女)同慶昭(同三、四生、養子慶造長男)あり二男慶雄(明三六、五生)は分家し二女里喜(同四〇、九生、東京女學館出身)は東京府人平川半千代三男涼に嫁せり(小樽市南濱町電一〇八〇)

犬塚勝太郎

正三位勳一等、貴族院議員
東京府士族
妻　しつ　明七、二生、千葉、士、津田出五女
女　照子　明二八、八生

君は舊庄內藩士犬塚盛毅の長男にして犬塚勝之丞同三郎の兄なり明治元年三月四日を以て生れ同三十年家督を相續す同二十二年東京帝國大學法科大學を卒業し直ちに內務省試補となり翌年內務大臣秘書官に任じ傍ら東京法學院講師となる爾來長崎縣選信省法制局各參事官となり貴族院書記官を兼任す次いで選信省鐵道局長內務省土木局長及青森長崎大阪各府縣知事に歷任し逓信農商務兩省の次官に任じ大正九年貴族院議員に勅選せられ又曾て錦鷄間祗候仰付けられ其他大禮使參與官臨時產業調査會總務部長鐵道會議員道路會議員臨時國民經濟調査會幹事長等諸種の委員委員長たること尠なからず萬國道路會議及國際勞働會議等に帝國代表として出席せること數回に及ぶ又英獨に留學し數次歐米各國其他埃及小亞細亞地方を巡遊す義に衆議院議員に當選せる事あり妹つる(明一四、四生)は北海道士族富樫良純二男良三に同松枝(同一六、六生)は千葉縣人小野崎長義二男貞に同たけ(同二三、四生)は岐阜縣人今西卓に二女光(同三二、二生)は兵庫縣人菅藤太郎弟和三郎に嫁せりA一四一(神奈川縣倉鄙鎌倉町淨明寺六六電三一六)
參照＝犬塚勝之丞、犬塚三郎、菅藤太郎※松波仁一の項

郎の項

犬塚勝之丞

沼津毛織株式會社常務取締役、東京モスリン紡織株式會社監査役、三井物產株式會社參事、業務課次長、東京府在籍

妻　フジ　明二五、八生、男爵益田孝養子

男　盛信　大四、一〇生

君は東京府士族從三位勳三等犬塚盛毅の二男同勝太郎の弟同三郎の兄にして明治十四年二月を以て生れ後分れて一家を創立す同三十六年東京高等商業學校を卒業し三井物產會社に入り三池支店長新嘉坡支店長を歷任し同社業務課參事となり業務課支店掛主任を經て現時業務課次長たり傍ら前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙男盛孝(大六、一生)四男悌臣(同九、九生)五男長(同一一、六生)あり(東京市荏原區中延町一〇八二電荏原二二二七)

參照‖男爵益田孝、犬塚勝太郎、犬塚三郎※益田克信※益田太郎の項

犬塚官吉

長崎縣多額納稅者、金融業

長崎縣在籍

妻　テル　女　慶應三、一生、長崎、松本儀八三

養子　二郎　明四〇、七生、長女ヨシ子夫、長崎、荒木松次二男

女　ヨシ子　大二、九生、養子二郎妻

君は長崎縣人犬塚犬藏の長男にして文久三年十月十五日を以て生れ明治十八年家督を嗣續す金融業を營み直接國稅七百三十五圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙孫喜久子(昭八、一〇生、長崎、太田清姉)は長崎縣人谷川誠に嫁せり(長崎市片淵町電二四八七)

犬塚岸三

正五位勳四等、第四高等學校教授

長崎縣士族

養父　幾太郎　明三、一生、長崎、士、鷹田定保

養母　ノフ　明二二、三生、養父幾太郎長女、長崎縣立平戸高女出身

妻　タカ　大二、九生、長崎、士、須賀崎與市二男、金澤醫大在學

養子　泰三

君は長崎縣士族長嶺礎太郎の養弟にして明治二十年四月を以て生れ同三十八年犬塚義太郎の養子となり家督を相續す同四十五年東京帝國大學文科大學獨文科を卒業し大正三年陸軍通譯となり同十年第四高等學校教授に任ぜられ現在に至る昭和九年文部省在外研究員を命ぜられ獨逸に留學す(金澤市上柿木畠三八ノ一)

犬塚三郎

妻　ヨネ　株式會社監査役、東京府在籍

明二三、二生、福島、江尻彙治長女

男　輝夫　大三、一〇生、靜岡高校在學

君は東京府士族犬塚重遠の二男にして明治十七年九月を以て生れ同四十四年廢家犬塚氏を再興す夙に立教學院に學び後實業界に入り日本銀行員日本興業銀行員合資會社麗島商會員等を經て角丸商會常務取締役たりしが昭和二年大東證券會社を設立し現時同社常務取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙二男光次(大一一、八生)三男重三(同一三、三生)あり長女ゆり(明四二、七生、府立第八高女出身)は鳥取縣人松島重太郎長男重信に姉きた(同一六年生)は同縣人橋井富三郎に嫁し妹有(同二五、三生)は法學博士牧野菊之助の養子となれりA五三九(東京市大森區新井宿二ノ一五二七電大森四七〇)

參照‖牧野菊之助の項

犬塚三郎

博多商工會議所議員、博多株式取引所株式理事長、櫻澁酒、莞津礦產各株式會社監査役、東京府在籍

男　鐵太郎　大一〇、九生

君は貴族院議員犬塚勝太郎同勝之丞の弟にして明治二十一年十月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す明治四十三年中央大學を卒業し現に博多株式取引所理事長にして前記諸會社の重役を兼ね博多商工會議所議員に擧げらる家族は尙長女和子(大九、一〇生)二女節子(同一二、二生)ありA二二九(福岡市西職人町電二四五八)

參照‖犬塚勝太郎、犬塚勝之丞の項

正四位勳二等功四級、海軍中將、秩父宮別當、東京府士族

犬塚太郎

妻　ヨシ　明二四、四生、福岡、士、正木實長女

家孝　明四二、六生、海軍中尉

男　家壽　明四三、一生、立教大學在學

泰子　大四、六生

女　嘉瑞子　大八、一生

君は佐賀縣士族犬塚德四郎の長男にして明治八年十月を以て生る同三十年海軍兵學校を卒業し同三十二年海軍少尉に任じ大正十四年海軍中將に累進す其間浪速千代田各砲術長として日露戰役に功あり功四級金鵄勳章を賜ふ同四十二年海軍大學校を卒業し爾來海軍兵學校教官兼監事檢名副長第二艦隊參謀須磨新高各艦長東宮武官第五戰隊司令官鎭海要港部司令官軍令部出仕等に歷補し昭和二年豫備役となり同五年別當仰付られ現時秩父宮附たり家族は尙三男家親(大一〇、三生)弟榮三郎(明一四、九生、現戶主)妹ナヲ(同二〇、四生)弟春芳(同二七、一生)同妻トキエ(同三四、一〇生、福岡池內虎太郎六女)あり(東京市世田谷區上馬町一ノ七六五電青山五七四〇)

犬塚力

正六位勳六等、宮內事務官、北白川宮附、山形縣士族

妻　梅江　明一五、二生、池田寬治女

男　武次　明三九、一〇生、清水組社員

婿　みき　明四一、五生、長男武妻、勳五等佐藤禮介女、實踐高女出身

女　定子　明四五、一生、頌榮高等女學校出身

君は山形縣士族犬塚定衞の長男にして明治四年九月を以て生る同二十八年帝國大學を卒へ同二十九年以來山形縣立庄內中學校千葉縣立成東中學校及大分縣立宇佐中學校等に歷職を奉じ大正六年四月北白川宮御養育掛を拜命し北白川宮御用掛を仰付られ後宮內事務官に任ぜられ現今に至る家族は尙二女利子(大一五、二生)孫峯夫(昭六、七生、長男武長男)あり弟定次郎(明一〇、五生)同三郎(同一二、九生)は各分家して朝鮮金山大邱に在住し同毅四郎(同一八、二生、陸軍步兵大佐)は故陸軍中將仙波太郎の養嗣子となり同小五郎(同二〇、八生)は其妻子と共に臺灣北港に在住す(東京市芝區高輪南町一七北白川宮官舍電高輪五九六)

犬塚悌三

從五位勳六等、營林技師、郡山營林署長、山形縣士族

父　祐吉　安政五、三生、現戶主

妻　てう　明三四、二生、山形、川島彥三郎長女

君は山形縣士族犬塚祐吉の三男にして明治二十二年九月を以て生る大正五年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し爾來愛知縣林業技手同技師營林局技師等に歷任し昭和三年營林署技師に任ぜられ臼田營林署長を經て現時郡山營林署長たり家族は尙兄純一(明一三、九生)同妻喜佐尾(同一七、三生、山形、富田利驤二女)及其子女弟展介(同三七、三生)あり兄悌士(同一五、九生)同妻初井(同一七、一一生、山形、常世安定長女)は其子女を伴ひ弟悌介(同三〇、八生)は同妻道(同三六、九生、山形、黑崎典太郎長女)と共に各分家し姉清(同一八、四生)は山形縣人伊藤四郎右衞門長男悅太郎に同小雪(同一〇、一二生)は石川縣人小川忠明に妹登(同二五、六生)は山形縣人中村一吉弟一次に嫁し兄卓彌(同四、六生)は同縣士族中根長經の養子となれり(郡山市營林署內)

犬丸巖

正五位勳四等、判事、大審院判事

東京府在籍

妻　三美　明二六、三生、岡山、金谷一二妹

男　眞太郎　大四、二生

女　翠　大七、六生

君は舊岡山藩士犬丸石雄の二男にして東京府士族犬丸鐵太郎の弟なり明治十六年十月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し司法官試補を經て判事に任じ爾來松山東京前橋名古屋各地方檢察區裁判所判事名古屋地方裁判所部長東京控訴院判事東京地方裁判所判事等に歷補し昭和三年長崎控訴院部長に轉じ現時前記の職に在り家族は尙二男直(大一二、九生)あり(東京市杉並區東田町一ノ四五)

參照‖犬丸鐵太郎の項

犬丸徹三

帝國ホテル株式會社取締役候補者、東京府在籍

妻　治　明三三、八生、石川、小林三郎二女

山莊株式會社取締役、東京府在籍

男　一郎　大一五、三生

君は石川縣人犬丸六右衞門の長男にして明治二十六年六月を以て生れ大正八年兄仁太郎方より分れて一家を創立す明治四十三年東京高等商業學校を卒業し後永く歐米に在り歸朝後帝國ホテル支配人に擧げらる現時同社取締役兼支配人にして兼ねて燕山莊取締役たり家族は尙長女子代子(大一三、八生)三男二郎(昭二、一〇生)ありA二四九(東京市麴町區中六番町五二電九段二六六四)

犬丸鐵太郎

從七位、資產家

東京府士族

妻　恒　明一四、一〇生、岡山、江原萬里姉

男　秀雄　明三七、一生、第四高等學校教授法學士

男　實　明四〇、三生、內務省社會局勤務法學士

女　雅世　大四、七生、府立第六高女出身

君は舊岡山藩士犬丸石雄の長男にして明治七年四月二十九日を以て生れ同三十二年家督を相續す先代石雄明治戊辰の役に功あり賞典錄を賜はる後清國に渡り歸朝後岡山藩養蠶所頭取となり大に蠶業を指導奬勵し縣內斯業中興の祖たり君其跡を嗣ぐ君曾て農商務省海外實業練習生として歐米に留學を命ぜられ歸朝後內國勸業博覽會審査官巡路易萬國博覽會審査官農商務省商品陳列館技師等に歷任す同三十九年官を辭して東京人造肥料會社專務取締役東京米穀商品取引所專務理事等に就任後東京菓子會社中國葉煙草會社亞細亞煙草會社等事業に盡瘁す現時閑地にあり米國大學卒業論文に「米國綿業史論」を提出して名あり又彥稈眞田及經木眞田其他貿易品に關する著書多し家族は尙三男純男(大七、一〇生)あり弟巖(明一六、一〇生、大審院判事、法學士)は分家せり(東京市品川區五反田五ノ六〇電高輪四〇六〇)

參照‖犬丸巖の項

犬山善助

神奈川縣多額納稅者、大阪屋、地主、神奈川縣在籍

妻母　ナミ　明八、九生、神奈川、片岡源助長女

君は大阪府人鈴木作十郎の長男にして明治十三年一月を以て生れ先代卯兵衞の養子となり昭和三年家督を相續し前名國之助を改め襲名すラクトーゲン發賣元とし

妻　ハナ　明一三、四生、養父喜助養子

男　銀治郎　明三五、一二生

婿　文子　明四一、三生、長男銀治郎妻、神奈川、横山廣治二女

男　貞雄　明四一、七生

女　孝子　明四四、一〇生

女　正子　大三、七生

女　敏子　大六、七生

君は東京府人鈴木濱次郎の二男にして明治九年九月を以て生れ先代嘉助の養子となり同四十二年家督を相續す大阪屋と稱し地主にして直接國稅七千百五十二圓を納め神奈川縣多額納稅者に列す家族は尙孫和子(昭五、一一生、長男銀治郎長女)あり長女ハル(明三二、二生)は東京府人代田正司に嫁せり(横濱市神奈川區臺町一二電本局一四八三)

戊亥忠一

正五位勳四等、檢事、和歌山地方裁判所檢事正、奈良縣在籍

妻　セイ　明一七、三生、奈良、野坂善一郎三女

君は奈良縣人戊亥千代造の長男にして明治十四年一月を以て生れ同三十三年先代タマの後を承け家督を相續す同四十年京都帝國大學法科大學を卒業し同四十二年判事に任じ大津地方區神戶地方大阪地方同區彥根區各裁判所判事を經て大正七年檢事に轉じ大阪地方同區各裁判所檢事大阪控訴院檢事同地方裁判所檢事等に歷補し現に前記の職に在り大正十五年歐米各國に出張を命ぜらる(和歌山市西汀丁電一六)

乾卯兵衞

大阪府多額納稅者、乾卯商店株式會社代表取締役、ラクトーゲン發賣元、藥品貿易商、大阪府在籍

養母　セイ　明五、七生、京都、鈴木作十郎二女

妻　タネ　明一八、八生、大阪、日野嘉三郎長女

男　卯一　明四二、五生

婿　重野　明四四、八生、長男卯一妻、東京中村房吉三女

君は大阪府人鈴木作十郎の長男にして明治十三年一月を以て生れ先代卯兵衞の養子となり昭和三年家督を相續し前名國之助を改め襲名すラクトーゲン發賣元とし

て知られ現時乾卯商店代表取締役にして大阪府多額納税者に列す家族は尚二男國三（大四、三生）三男鍾藏（同七、六生）四男勢三（同八、八生）五男五三郎（同一二、二生）あり養子福之助（明一三、一二生）は分家せりA四八八六B一三五（大阪市東區道修町二ノ二一電本局三九七〇）

参照＝乾福之助の項

乾　吉治郎　辯護士　大阪府在籍

妻　やちよ　明八、二生、兵庫、士、堀施龜彦長女

男　久治　明三七、一生、正七位、大阪地方裁判所判事、法學士

婿　重山　明四〇、三生、二男久治妻、和歌山、權擬試之進二女

男　欽男　明四〇、二生、湖東紡績會社勤務法學士

男　恒雄　明四三、一生、三和銀行勤務、經濟學士

女　道　大二、一二生、大阪禦蔭女子專門學校出身

君は大阪府人小寺政五郎の二男にして同房治郎の兄に當る慶應三年十二月を以て生れ先代モトの養子となり明治十四年家督を相續す同二十二年明治法律學校を卒業し爾來辯護士を開業し傍ら小作借家借地商事金錢債務各調停委員を兼務す家族は尚孫和夫（昭八、六生、二男久治長男）あり長女勝（明三四、二生）は大阪府人小寺正久に二女みさ子（同三九、一一生）は同府人辯護士山野晨に嫁せりA五六一（大阪市北區老松町二ノ三七電北一〇〇六）

参照＝小寺房治郎の項

乾　久次郎　三菱商事㈱参事、燃料部副長　東京府在籍

妻　ハル　明二八、二生、栃木、室塚熊吉二女

男　崇夫　大九、一生

女　昌子　大五、八生

女　米子　大七、三生

君は東京府人乾久三郎の二男にして明治二十三年九月一日を以て生れ大正三年養兄清方より分れて一家を創立す明治四十四年東京高等工業學校を卒業し三菱商事會社に入り後日華製油會社に轉じ更に大正十二年三菱商事會社に入社漢口支店長を經て現時三菱商事會社參事燃料部副長たり家族は尚三女泰子（大一一、八生）二男洋夫（昭八、一二生）ありA一四七（東京市大森區調布嶺町一ノ五四三電田園調布五三七）

乾　庶子　茂　大同洋紙店㈱專務取締役兼京都支店長、京都在籍

大六、三生、生母、京都、松本マン

君は大阪府人小原茂平の長男にして明治二年五月を以て生れ先代くにの養子となり同三十一年家督を相續す現時大同洋紙店專務取締役兼京都支店長たり庶子健吉（明四五、四生）は其生母松本マンの死跡を繼げりA一四九四（京都市上京區小山堀池町三四電西陣九一四）

乾　新治　日本鐵線鋼索㈱代表取締役、乾製紙㈱取締役、索㈱代表取締役、兵庫縣在籍

父　新兵衛　文久二、二生、現戸主

妻　恒子　明二七、六生、和歌山、森田庄兵衛二女

女　通子　大三、一生

君は兵庫縣人乾新兵衛の長男にして同鼎一の養弟同新三の兄なり明治二十一年十一月を以て生る現時日本鐵線鋼索乾製紙各會社の重役たり（兵庫縣武庫郡御影町電三四二六）

参照＝乾新三、乾新兵衛、乾鼎一の項

乾　新三　乾製紙㈱社長、栖原漁業㈱取締役兼庫縣在籍

父　新兵衛　文久二、二生、現戸主

妻　阿壽賀　明二九、一二生、鳥取、士、近藤喜兵衛三女

男　勳　大三、一二生

女　澄子　大七、六生

君は兵庫縣人乾新兵衛の二男にして同鼎一の養弟同新治の弟なり明治二十四年七月を以て生る現時乾製紙會社長たる外前記會社の重役にして嘗に乾鐵線關西電氣化學山十土地各會社の取締役に擧げらる家族は尚二男章（大五、六生）三男紀雄（同一〇、二生）四男孝夫（同一二、一一生）あり（神戸市須磨區東須磨下細澤一電須磨一四〇四）

参照＝乾新治、乾新兵衛、乾鼎一、滝永田三十郎の項

乾　新兵衛　兵庫縣多額納稅者、明治實業、乾倉庫土地各㈱社長、金融業　兵庫縣在籍

男　スズ　明一六、六生、東京、阿部純蔭姉

養子　新治　明二一、一一生

養子　繁壽　明九、六生

男　新三　明二四、七生

君は兵庫縣人前田甚兵衛の三男にして岡村勇造の養甥なり文久二年二月を以て生れ明治二十五年先代よりの入夫となり家督を相續し前名鹿藏を改む金融業を營み傍ら前記會社の社長たり關西實業界の雄として知られ兵庫縣多額納稅者にして直接國稅七萬九千百九圓を納む養子鼎一（明一三、五生）は分家し二女むめ（同一九、七生、京都府立第二高女出身）は北海道人栖原角兵衛に嫁せり（神戸市葺合區北野町四ノ三六電葺谷二六〇六）

参照＝阿部純蔭、乾新治、乾新三、乾鼎一の項

乾　捨造　地主　大阪府在籍

妻　スカ　慶應元、二生、大阪、橋本清十郎三女

養子　廣一　明一六、八生、長女ハツメ夫、大阪、田中英逸郎弟

女　ハツメ　明二〇、一一生、養子廣一妻

孫　成美　明四一、二生、養子廣一長男

孫　倫子　明四二、一〇生、養子廣一長女

孫　美喜　大三、一一生、養子廣一二女

君は大阪府人乾千之助の長男にして明治四年十一月十五日を以て生れ同十六年祖父勘右衛門の死跡を相續す地主たり孫博之（大八、二生、養子廣一二男）は大阪府人中田鑑造の養子となれりA四五六（大阪市旭區赤川町二八〇電東三八二〇）

乾　環　從三位勳二等、廣島文理科大學教授、東京府士族

妻　トミ　明一七、一一生、東京、士、櫛淵宣秀二女

養子　儘樹　昭二、一〇生、廣島、加藤剛介二男

女　時子　明四二、四生

女　玉枝　明四四、七生

女　秋子　大二、一〇生

君は東京府士族乾成軒の二男にして明治六年九月を以て生れ同四十年家督を相續す先是同三十一年東京帝國大學理科大學植物學科を卒業し同三十六年第五高等學校教授となり同四十四年廣島高等師範學校教授に轉じ現時廣島文理科大學教授たり養に廣島文理科大學長廣島高等師範學校長各事務取扱を命ぜらる長女八重子（明三七、一一生）は廣島縣人加藤剛介に二女歌子（同四〇、三生）は同縣人篠村幹一四男順三に嫁せり（廣島市吉島町沖新開五三二ノ四）

乾　鼎一　乾製紙㈱取締役、神戸電機製作所山十土地、北海農各㈱監査役、中山鐵馬倶樂部理事、海運業　兵庫縣在籍

君は兵庫縣人有本重五郎の三男乾新治同新三の養兄にして明治十三年五月を以て生れ乾新兵衛の養子となり大正十二年分れて一家を創立す現時乾製紙會社取締役の外前記諸會社の重役たりA二四四四（神戸市須磨區天神町四ノ四電須磨三九四）

参照＝乾新治、乾新三、乾新兵衛の項

乾　福之助　東洋興業、東洋水產各㈱取締役、共信商事、日本亞鉛鑛、東洋製藥貿易各㈱監査役、大阪府在籍

妻　ます　明一七、一〇生、大阪、梅園藤太郎三女

男　福一　明四五、六生

君は大阪府人淺井元七の二男にして明治十三年十二月を以て生れ同府人乾卯兵衛の養子となり同四十一年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役にして嘗にハート汽船會社取締役たり家族は尚二男福藏（大五、八生）三男福二（同七、八生）四女富久子（同九、九生）四男福男（同一三、一二生）五女鈴枝（同一五、九生）ありA七〇〇（大阪市東區道修町三ノ一四電本局五一三）

参照＝乾卯兵衛の項

乾　政彦　法學博士、辯理士、鎌倉山㈱監査役、辯護士、奈良縣士族

妻　龍　明二四、九生、故醫學博士大澤岳太郎長女

男　孝　明四四、八生

當家は代々大和國十津川の郷士なり君は奈良縣士族乾結吾の二男にして明治九年十一月を以て生れ先代榮二郎の養子となり同二十二年家督を相續す同三十三年東京帝國大學法科大學を卒業し獨逸に留學し伯林大學及ボン大學に學び民法及商法を專攻す同三十八年歸朝後東京高等商業學校教授となり傍ら東京帝國大學法科大學慶應義塾法政大學明治大學及專修大學に於て民法商法を講ず大正三年法學博士の學位を受く辯護士會長法政大學々監に推さる家族は尚二女濱（大九、一二生）三女ウタ子（同一二）男春男（昭四、三生）ありA一五六〇（東京市本郷區曙町一二ノ一〇電大塚五七二〇）

参照＝滝高橋信美の項

乾　御代子　大阪府在籍はり半本店、料理業

父　由之助　明元、七生、現戸主

母　由　明二、八生

君は大阪府人乾由之助の二女にして明治二十九年四月十日を以て生るはり半本店と稱し料理業を營む家族は尚長女フキ子（大九、一二生）ありA六五三B一七八（大阪市南區末吉橋通電舗場七六八）

参照＝乾由之助滝山田イチの項

乾　保之助　藥劑師、藥種商　大阪府在籍

男　武一　大二、一生

女　純子　大四、二生

君は大阪府人乾利右衛門の五男にして同利兵衛の叔父なり明治十六年二月を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す藥劑師にして藥種商を營む家族は尚二男富之助（大五、一二生）ありA五二三（大阪市東區道修町二ノ一二〇電本局二四四五）

参照＝乾利兵衛滝泉谷儀三郎の項

乾　由之助　はり半、旅館並割烹業　大阪府在籍

女　御代子　明二九、四生

女　好子　明三四、三生

君は大阪府人乾喜兵衛の長男にして明治九年七月を以て生れ同二十一年分れて一家を創立すはり半と稱して旅館並に割烹業を營む三女末子（明三二、一〇生）は大阪府人久保常太郎に庶子美子（同四四、一生）は其生母同府人佐々木ヒサに同公子（昭三、四生、生母、山田ゆき）は同府人山田イチに各養子となれりA二四〇九B二八二（西宮市中字目神山電一五〇・一八〇一）

参照＝乾御代子、山田イチの項

乾　利兵衛　家主　大阪府在籍

妻　ユキ　明三四、二生、大阪、永井利兵衛二女

男　修　昭七、三生

當家は大和の出にして元祿年間大阪に移り九代を經て先代に至る代々利兵衛を襲名す君は先代利兵衛の長男にして明治三十年十月を以て生れ同四十四年家督相續と共に襲名して前名貞太郎を改む家主たり家族は尚二女精子（昭六、二生）弟正信（明三九、二生）及叔母まつ（嘉永五、六生）あり叔父慶藏（明一〇、一生）同保之助（同一六、二生）は各分家し弟康治郎（同三三、四生）は大阪府人泉谷儀三郎の養子となり同信三郎（同三六、四生）は同府人增井千代の入夫となり妹光子（同四三、九生）は同府人櫟原新輔長男敏雄に嫁せりA一四二五（兵庫縣武庫郡住吉村親普林一八七五ノ三〇電御影二八二一）

参照＝泉谷儀三郎、乾保之助、櫟原新輔の項

乾　亮　金澤商工會議所常議員、金澤米穀取引所㈱理事長、北陸企業銀行、金澤製米各㈱取締役、東美電燈㈱監査役、辯護士、石川縣在籍

男　武一　明二、八生、養父太平長女

女　のぶ　明三二、一生

妻　健多朗　明三一、一一生、長男健多朗妻、石川、高田久兵衛妹

婿　仙　明三一、一生、長男健多朗妻、石川、高田久兵衛妹

君は石川縣人東興之助の二男にして明治二年三月を以

て生れ先代太平の養子となり同三十六年家督を相續す同三十三年和佛法律學校を卒業し辯護士試驗に合格し辯護士を開業す現時前記會社の重役を兼ね義に金澤辯護士會長石川縣會議員同副議長に推さる家族は尙孫藏子(昭二、八生、長男健多郎長女)養妹しづ(明五、一生)石川縣人平田天嶽に養子つよ(同二八、一二生、石川、東與四兵衛二女)は同縣人金田友三郎に嫁せり(金澤市古寺町一三電三一九)

禰　千七　資產家　鹿兒島縣在籍

妻　ナツ　明二八、二生、山口、薩嘉一姉
男　豊　昭三、九生
女　紀美子　明四四、二生

君は東京府人禰都興則の長男にして明治十三年七月を以て生れ後家督を相續す兼に離歷土地建物會社取締役にして鹿兒島縣多額納稅者たりし事あり(鹿兒島市鹽屋町八五)

茨木源三郎　淡水魚會社員、鮒幸、川魚商　京都府在籍

妻　のぶ子　明二九、一二生、京都、勝田梅次郎長女
男　慶三　大一〇、一一生

君は京都府人茨木幸吉の三男にして明治二十年三月六日を以て生れ同三十年家督を相續す鮒幸と稱し川魚商を營み淡水魚會社員たり家族は尙二女智子(大一二、四生)姉エン(明一五、六生)弟富次郎(同三一、七生)あり姉ヨシ(同一三、四生)は絕家茨木氏を再興し弟晴太郎(同二四、一一生)は分家し妹ヒデ(同二七、六生)は京都府人甲田正良に嫁せりA七三五(京都市上京區仁和寺街道七本松西入電西陣二一三七)

茨木清次郎　從三位勳二等、浦和高等學校長　石川縣士族

妻　良　明二〇、一二生、男爵本多政樹妹
男　順一　明三九、九生
女　秀　大三、九生

君は石川縣士族茨木操の二男にして明治九年八月を以て生れ同四十年家督を相續す同三十二年東京帝國大學文科大學英文學科を卒業し爾來第四高等學校教授文部省視學官兼圖書審査官文部省普學官東京普樂學校長東京外國語學校長松本高等學校長東京女子高等師範學校長等に歷任し昭和二年浦和高等學校長に轉じ現在に至る家族は尙三男辰三郎(大五、一生)四男敬四郎(同七、一生)四女美和(同一〇、四生)五女延(昭三、七生)あり長女光(明四三、五生)は大分縣人熊野御堂衞に妹幾重(同二三、三生)は同縣人淺野つるに甥良久(同三二、一二生、亡兄忠良長男)は同縣人大西佐市に各養子となれり(浦和市一六八二電二六四)

參照＝男爵本多政樹※男爵長基連※田代義德※田中東の項

茨木守之　從四位、男爵　和歌山縣華族

母　花　明一一、二生、和歌山、士、古田庸長女

當家は先々代惟昭より顯る惟昭は舊和歌山藩士にして風に陸軍に入り陸軍中將に累進す其間戶山學校長歩兵第十一旅團長金州城行政長官總督部參謀長發民政部長歩兵第八旅團長第六師團長等に歷補し後貴族院議員に舉げらる明治二十八年日清戰役の功に依り華族に列し男爵を授けらる先代昭一は縣社南龍神社々掌官幣中社籠山神社主典たり君は昭一の長男にして加藤某は君の大叔父に當る明治三十四年四月を以て生れ大正九年襲爵被仰付夙に府立園藝學校を卒業す家族は尙長女薰(大二一、七生)二女翠(同一四、三生)あり叔母路榮(明一二、一生)は東京府人原錦吾に嫁せり(東京市杉並區阿佐ヶ谷四ノ九二九)

參照＝加藤某、原錦吾の項

茨木與八郎　北海道多額納稅者、漁業　北海道在籍

妻　マサ　明二一、七生、北海道、中里松三郎長女
男　康郎　明三九、一生
女　静　明四二、九生
女　マキ　明四四、一〇生
男　康次　大二、八生
女　ミヨ　大七、一一生

君は北海道人先代與八郎の長男にして明治十六年十二月を以て生れ大正七年家督を相續し前名竹松を改め襲名す漁業を營み北海道多額納稅者にして直接國稅千六百九圓を納む家族は尙四男廉夫(大一〇、一生)五男廉吉(同一一、一一生)六男廉行(同一三、九生)七男廉一(昭三、七生)あり長女シマ(明四〇、一二生)は北海道人荒井德一に嫁し三男松郎(大四、八生)は分家弟竹三の死跡を相續せり(北海道高島郡高島町電小樽一一一〇)

今井榮次郎　東京海上火災保險㈱火災營業部長　東京府在籍

妻　喜代　明一九、八生、埼玉、田口甚左衛門妹
男　敏雄　大三、五生

君は東京府人小松幸兵衛の二男にして明治十年十一月を以て生れ今井しけの養子となり同三十九年家督を相續す同年慶應義塾理財科を卒業し現時東京海上火災保險會社火災營業部長たり家族は尙二男潔(大六、七生)二女榮子(同一四、一二生)ありA一三〇四(東京市小石川區大塚仲町四ノはノ二八電大塚一四九七)

今井榮量　營口水道電氣㈱專務取締役、日滿マグネシウム㈱常務取締役　長野縣在籍

妻　伯　明三二、一二生、長野、宮入眞一長女
男　淳之　大一二、五生

君は長野縣人今井金作の五男にして明治二十年六月を以て生る大正三年九州帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し明治專門學校教授となり同九年南滿洲鐵道會社に入り電氣作業所に勤務す同九年歐米に留學し同十二年同社參事に任じ同十五年南滿洲電氣會社の創立せらるや其常務取締役兼技師長に就任す現時前記諸會社の重役たり家族は尙長女照(大一三、一〇生)二男義量(同一五、八生)兄大太郎(明一一、四生、現戶主)同妻ゆき(同一四、二生、長野、中俣黑司姉)及其子女兄邦三(同一八、八生)同妻幸(同二八、八生、長野、清水太一郎孫)弟要人(同二二、九生)同妻アヤ(同三四、一生、福岡、井上半之助三女)及其子女あり兄寬造(同一六、一一生)は分家し姪はる(同三六、三生、兄大太郎長女)は東京府人田中榮次に嫁せり(滿洲營口新市街

吉野町三電五五三四)

今井悅太郎　兵庫縣多額納稅者、地主　兵庫縣在籍

父　善右衛門　文久二、七生、現戶主
妻　あや　明二二、六生、兵庫、阿江勳妹
男　勤義　大三、一生
女　鎭子　明四五、三生

君は兵庫縣人今井善右衛門の長男にして明治二十年六月を以て生る同四十三年早稻田大學商科を卒業す地主にして直接國稅千七百七十八圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙二男榮泰(大五、二生)あり(神戶市濱區五宮二五九電元町三四〇七)

參照＝今井善右衛門※岩城俊藏※小笹耕作※直木久兵衛の項

今井音七　今井商店、藤武良商店各㈱取締役　今井釀造㈱監査役、北海道在籍

文久二、三生、新潟、寺本彌右衛門二女
養母　コマ
妻　美代　明二九、四生、養父良七五女
男　良雄　大一一、三生
女　昌　大六、二生

君は北海道人今井武七の五男同雄七同清七の弟同久平の養弟にして明治二十一年十月を以て生れ先代良七の養子となり大正十二年家督を相續す現時今井商店藤井良商店各取締役にして前記會社の重役を兼ね家族は尙二女芳子(大一〇、一生)三女智子(同一三、九生)養妹チヨ(明二五、九生)同夫四郎(同一九、一生、新潟、廣瀨富五郎六男)及其子女あり(函館市青柳町七二電三六三)

參照＝今井清七、今井久平、今井雄七の項

今井嘉一　正五位勳五等、平壤高等普通學校長兼教諭、熊本縣在籍

妻　タマ　明一四、一一生、養父宗平長女
男　清澄　大四、三生

君は熊本縣人古庄常一の二男にして明治十三年九月を以て生れ先代宗平の養子となり大正七年家督を相續す明治三十九年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し大正七年長崎縣立壱岐中學校長となり爾來同縣立諫早中學校羅南中學校各校長を經て昭和四年新義州高等普通學校長に轉じ後平壤高等普通學校長兼教諭に任ぜられ今日に至る家族は尙四男正德(大八、八生)五男隆義(同一〇、一一生)あり長女八重子(明四〇、九生)は長崎縣士族宇都宮太美孫四郎に二女芳子(同四五、七生)は朝鮮總督府司法官試補坂本一郎に妹タマエ(同二三、三生)は熊本縣人廣重龜喜に嫁せり(平壤府南山町三八電七三六)

今井龜造　家主　大阪府在籍

養母　とみ　文久元、一二生、大阪、竹內源七長女
妻　いと　明一四、五生、大阪、今井直助長女
男　一四、五生、大阪、今井直助長

君は大阪府人植田幸八の二男にして明治八年九月四日を以て生れ先代いとの入夫となり同四十三年家督を相續す家主たりA四四四(大阪市天王寺區上本町六ノ二一電南八二二三)

今井喜八　大日本林業㈱監査役　東京府在籍

母　チウ　安政三、一生、東京、堀田久兵衛妹
妻　ふじ　明二〇、一〇生、千葉、茂木七郎治妹
男　喜一郎　明四四、二生
男　善次郎　大三、一〇生

今井家は舊來伊勢屋と稱し質屋を營みしが先代喜八に至り實業界に入り後政界に投じ東京市會議員衆議院議員に擧げらる君は其長男にして明治十九年三月一日を以て生れ昭和三年家督を相續し前名秀吉を改め襲名す現時大日本林業會社監査役にして又千住製氷會社の大株主として其名を知らる蘭に吉野木材株式會社取締役千住製氷會社監査役に就任せる事あり家族は尙四男已之助(大六、三生)二女南彌(同一〇、九生)三女幸子(同一五、三生)あり長女登久(明四一、八生)は東京府人堀內良平二男義男に嫁せりA八九〇(東京市淺草區橋場町三ノ二電淺草一三七)

參照＝堀內良平の項

今井喜代志　日本鑛業㈱專務取締役、臺灣鑛業㈱取締役、日立電力㈱監査役　福井縣士族

妻　ちよ　明二五、三生、福井、池端誠藏長女
男　一郎　大六、四生、東京商大豫科在學
女　富士子　大三、一生、府立第三高女出身
女　光子　大四、三生、府立第六高女出身

君は舊越前福井藩典醫今井玄良の長男にして明治十五年四月を以て生れ後家督を相續す同三十九年京都帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業し直に住野銀山に率職し勤續六年にして日立鑛山に轉じ昭和三年大分縣佐賀關製錬所長より再び日立鑛山に復歸し日本鑛業會社專務取締役に擧げられ昭和八年本社勤務となり藏山部長炭油部長を兼務し前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙二男次男(大九、一一生、武藏高校在學)あり長女美佐子(明四二、一〇生、大分高女出身)は樺太鹿技師工學士馬屋原敬吾に嫁せりA四六六一(東京市四谷區仲町三ノ三八電四谷五〇六三)

今井儀三郎　大野屋、旅館業　大阪府士族

妻　ツネ　明一五、四生、新潟、武見喜三次長女
男　榮三郎　明三二、一一生
婿　夏子　明三八、一生、長男榮三郎妻、大阪、池田欽次郎四女

君は大阪府人先代ミムの孫にして明治十一年八月二十五日を以て生れ同二十四年家督を相續す大野屋と稱し旅館業を營む家族は尙孫保子(大一二、一一生、長男榮三郎長女)同眞一(同一四、三生、同長男)同信子(昭四、一〇生、同二女)同條子(同八、四生、同三女)ありA三八三B一八五(大阪市南區心齋橋筋二ノ二一五電南四七九)

今井儀等　東京製藥原料㈱代表取締役　東京府在籍

妻　あと　明一四、六生、東京、松野善藏長女
男　精一　明三八、一二生
男　庸平　明四三、九生

君は新潟縣人今井賢誠の弟にして明治十四年五月二日を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す現時前記會社の代表取締役にして雙に今井商會社取締役社長たり長女繭(明三六、九生、日本橋高女出身)は栃木縣人佐山芳郎に嫁し二女靜子(同四一、八生)は東京府に於て絕家せる松野氏を再興せり(東京市世田谷區松原町一ノ一二五電四谷一三七八)

今井久吉　北海道多額納稅者、今井組、土木建築請負業、北海道在籍

明二四、七生、和歌山、松本桂之助三女

妻　こずゑ

男　琢磨　明四五、一生

女　幸子　大七、二生

君は京都府人今井長次郎の庶子にして明治六年五月を以て生れ同三十六年兄敏造方より分れて一家を創立す同四十二年七月京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し横濱市水道局米國貿易會社ホンコンパニー建築部技師等を勤め大正八年七月土木建築請負業を創め今井組と稱す直接國稅三千三十二圓を納め現時北海道多額納稅者に列す家族は尙二男正鴻(大九、一生)三男鐵郎(同一〇、一生)四女薫子(同一一、一〇生)五男陽吉(同一四、二生)六男久隆(同一五、一一生)五女しづか(昭三、一二生)あり(函館市會所町五六電二一〇九)

今井久作　醫療器械商　東京府在籍

妻　ヤエ　明三一、三生、新潟、笛木利市妹

女　ハナ　大四、一一生

君は山梨縣人今井市造の三男にして明治二十二年八月十四日を以て生れ大正二年分れて一家を創立す醫療器械商を營む長女ヒサ(大二、五生)は新潟縣人渡邊德五郎孫一郎に嫁せりA三七六B一五二(東京市神田區鍛冶町一五電神田一九九二)

今井久平　今井醸造、藤武良商店、今井商店各㊫取締役、北海道在籍

妻　キミ　明一八、七生、養父良七長女

男　勝七　明四二、三生

男　清　明三六、一〇生、長女八重夫、新潟、羽賀誠作二男、法學士

女　八重　明四一、四生、養子行藏妻

女　重　明四三、四生

君は新潟縣人小林良平の三男にして今井晉七の養兄同雄七の養弟なり明治十二年三月を以て生れ今井良七の養子となり大正十一年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役にして雙に大日本乳製品會社取締役たりし事あり家族は尙孫喜枝子(昭五、三生、養子行藏長女)あり(函館市谷地頭町二六電三〇七)

今井雄七　楢岡銀行㊫常務取締役、兩羽銀行㊫常務監査役、山形縣士族

明二、八生、東京、岩田實姉

妻　くみ　明一六、七生

男　誼平　明二六、一〇生

君は長野縣人片倉兼太郎の兄同僑一同方平同耕介の叔父にして安政六年十一月を以て生れ今井太郎の養子となり明治二十三年家督を繼ぐ少壯時代より蠶絲業に專念從事し夙に米國に遊び蠶絲貿易を研究し又支那に渡り同地の蠶絲業を視察し我國の蠶絲業が今日の如く偉大なる發展を來たるに稗益すること尠らず其功績に依り綬綬褒章を賜はる又我國の現狀に鑑み海外發展事業に盡瘁し關係團體の役員として大に努むる處あり現時貴族院議員松本商工會議所會頭にして幾多公共事業に携はり朝鮮土地改良信濃鐵道日華製絲片倉生命保險其他各會社長たる外前記各會社の重役を兼ね直接國稅千六百四十三圓を納め長野縣多額納稅者に列す長女たけ(同二四、六生)は醫學博士熊谷直樹に嫁し養第二女こと(同二一、一二生)同妻かずの(同二一、七生、長野縣人佐藤辨治長男宗治郎に同とめ(同二八、六生)は同縣人庄司芳次郎二男精一郎に嫁し二男德太郎(同三四、一一生)は分家し弟正作(同二四、三生)も亦同妻てる(同二八、六生、山形、鈴木清助妹)及其三子を伴ひ分家し同八吉(同三〇、一生)は山形縣人渡邊久七に同幸治郎(同三〇、一生)は同縣人後藤久兵衛に各養子となれり(山形縣西村山郡宮宿町一九一電五)

參照＝鈴木清助※長谷川平五郎の項

今井清　從四位勳三等功五級、陸軍中將、參謀本部第一部長、愛知縣在籍

明二三、一一生、愛知、伊藤茂助四女

妻　はな　明四二、八生

男　武臣　明四四、一生

君は愛知縣人今井清惟の三男にして明治十五年九月十日を以て生れ昭和五年兄鍉一方より分れて一家を創立す明治三十七年陸軍歩兵少尉に任じ昭和九年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校兵學教官參謀本部々員歩兵第八十聯隊長參謀本部課長兼海軍々令部參謀第三十旅團長陸軍大學校幹事兼同校兵學教官等を經て昭和九年參謀本部附となり同年參謀第一部長に補せられ今日に至る家族は尙二男義郎(大四、一〇生)三男三郎(生年月同上)あり(東京市牛込區余丁町四二電牛込六四三〇)

參照＝今井鍉一の項

今井銀次郎　家主　愛知縣在籍

父　清吉　明一一、五生

君は愛知縣人今井清吉の二男にして明治四十年九月二十九日を以て生れ昭和三年名古屋高等商業學校を卒業す家主たりA六二一(名古屋市中區橋町六ノ一電南一四二四)

今井國治　昭和銀行㊫堀留支店長　岡山縣在籍

父　治右衛門　安政四、五生、現戸主

君は岡山縣人今井治右衛門の二男にして明治二十三年十二月を以て生る大正四年專修大學經濟科を卒業し昭和銀行に入り島之内丸ノ内各支店長を經て現時堀留支店長たり家族は尙妻千惠子(明三六、三生)同妻千惠子(同四三、三生)及其一子妹忠子(同四三、三生)あり姉米(同一四、四生)は岡山縣人前田享一郎に同笹野(同二〇、三生)は同縣人羅波一二長男健一に妹光子(同三二、一二生)は同縣人佐野良二に嫁せり(東京市大森區入新井町三ノ五四二)

今井慶松　邦樂家(箏曲)、山田流箏曲協會長　移風會々長主宰、日本女子大學講師、東京府在籍

妻　慶明　大二、一生、生母、東京、野澤すゑ、慶大經濟學部在學

男　武臣　大五、三生、室井孫三四女、雙葉高女出身

養子　春枝

君は東京府人今井宗三郎の長男にして明治四年三月十五日を以て生れ大正七年第女次郎の跡を承けて家督を相續す四歳にして眼疾を病み遂に失明爾來箏曲長唄を習得す其の將來を嘱望せられ箏曲の師三上慶翁氏の推薦する所となり十五歳にして山田家の大家東京音樂學校教授山勢松韻の門に入る十六歳東京音樂學校に樂證を研究し始めて「御代の春」を作歌作曲す十七歳慶松の號を授けられ更に山勢門下の逸足能島松翠に就き斯流の護奥を究む十九歳にして有栖川宮邸に召され英照皇太后陛下の御前に「小督」「松竹梅」を演奏す以來御前演奏の榮を擔ふこと三十有餘回明治三十一年師松韻の後を襲ひて東京音樂學校教授に任ぜられ大正十五年累進して高等官二等に敍せらる夙に福風會を起して同流の發展に盡し三拍子八分の六拍子等の新機軸を出して一般箏曲界の發達に貢し大正十四年山田流の醫分派を打つて一丸とする山田流箏曲協會の設立せらるゝや之が會長となり又移風會々長主宰たり近作に「肉彈三勇士」等あり劇相撲に趣味を有す家族は尙亡弟友次郎妻よね(明一四、八生、千葉、安藤一郎長女)あり庶子靜枝(大元、一生、生母、東京、杉本タカ)は東京府人中能島欣一に嫁し妹そで(明一二、三生)弟芳之助(同一六、一〇生)は各分家し同富三郎(同一五、一〇生)は同妻綾(同二一、一二生、桑田立三二女)と共に其子女を伴ひ分家せりA五〇八(東京市麻布區本村町二二五電高輪一〇一五)

今井五介　正六位勳四等、貴族院議員、縣多額納稅者、松本商工會議所會頭、朝鮮土地改良信濃鐵道日華生命保險中央生命人壽保險日華蠶絲國華蠶絲昭和紡績下瀬製絲片倉製絲共立火災保險各㊫取締役、帝國火災海上保險㊫顧問、帝國經濟會議員、海外協會理事、海外移住組合理事、中央會長、中央信託會長、日本蠶絲會理事、大日本種苗會長、聯合會理事、聯合會長、聯合會委員、聯合會議員、帝國蠶絲組合理事、長野縣在籍

妻　くみ　明一六、七生

男　誼平　明二六、一〇生

君は長野縣人片倉兼太郎の兄同僑一同方平同耕介の叔父にして安政六年十一月を以て生れ今井太郎の養子となり明治二十三年家督を繼ぐ少壯時代より蠶絲業に專念從事し夙に米國に遊び蠶絲貿易を研究し又支那に渡り同地の蠶絲業を視察し我國の蠶絲業が今日の如く偉大なる發展を來たるに稗益すること尠らず其功績に依り綬綬褒章を賜はる又我國の現狀に鑑み海外發展事業に盡瘁し關係團體の役員として大に努むる處あり現時貴族院議員松本商工會議所會頭にして幾多公共事業に携はり朝鮮土地改良信濃鐵道日華製絲片倉生命保險其他各會社長たる外前記各會社の重役を兼ね直接國稅千六百四十三圓を納め長野縣多額納稅者に列す長女たけ(同二四、六生)は醫學博士熊谷直樹に嫁し養第二女こと(同二一、一二生)同妻かずの(同二一、七生、長野縣人佐藤辨治長男宗治郎に同とめ(同二八、六生)は同縣人庄司芳次郎二男精一郎に嫁し二男德太郎(同三四、一一生)は分家し弟正作(同二四、三生)も亦同妻てる(同二八、六生、山形、鈴木清助妹)及其三子を伴ひ分家し同八吉(同三〇、一生)は山形縣人渡邊久七に同幸治郎(同三〇、一生)は同縣人後藤久兵衛に各養子となれり(山形縣西村山郡宮宿町一九一電五)

參照＝鈴木清助※長谷川平五郎の項

今井五六　片倉磐城製絲㊫代表取締役、昭和紡績下、日東紡績、長崎製絲各㊫取締役、長野縣在籍

父　五介　安政六、一生、現戸主

妻　ふさ　明三二、六生、長野、岡村謙吾妹

男　久人　大一〇、一生

君は長野縣人今井五介の二男同眞平の弟片倉兼太郎の嗣にして明治二十六年十月を以て生る大正六年稻田大學商科を卒業す現時片倉磐城製絲會社代表取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙三男公人(大一四、二生)あり(長野縣諏訪郡川岸村)

參照＝今井五介、今井眞平、片倉兼太郎の項

今井梧樓　長野縣參事會員、松諏鐵道㊫取締役、長野縣在籍

父　千尋　文久元、八生、現戸主

妻　くに　明三四、一〇生、長野、一柳志豆米三女

君は長野縣人今井千尋の長男にして明治二十五年二月を以て生る現時前記會社の重役にして長野縣參事會員に推さる家族は尙長女密(大一〇、一〇生)弟夏夫(明三八、六生)あり姉美篤(同一五、一〇生)は長野縣人小口正衛長男惟一に同る(同一八、四生)は同縣人今井昌に妹名す農を業とし傍ら社團法人帝國蠶絲組合理事の外前記各銀行の重役にして直接國稅二千六百五十八圓を納め同縣多額納稅者たり養に今井商業銀行頭取左澤銀行取締役たりしことあり家族は尙孫好夫(昭三、四生、三男傳三郎長男)同和美(同五、五生、同二男)の外弟重太郎(明三四、九生)同妻よね(同四一、三生、山形、島澤八十二妹)及其一子あり長女きぬ(同二八、一生)は山形縣人齋藤政吉孫政太郎に三女しげ(同四二、一一生)は同縣士族今井治郎三郎孫力雄に妹そで(同二七三生)は同縣人佐藤辨治長男宗治郎に同とめ(同二八、六生)は同縣人庄司芳次郎二男德太郎(同三四、一一生)は分家し弟正作(同二四、三生)も亦同妻てる(同二八、六生、山形、鈴木清助妹)及其三子を伴ひ分家し同八吉(同三〇、一生)は山形縣人渡邊久七に同幸治郎(同三〇、一生)は同縣人後藤久兵衛に各養子となれり(山形縣西村山郡宮宿町一九一電五)

參照＝鈴木清助※長谷川平五郎の項

今井五郎八　山形縣多額納稅者、羽陽銀行㊫取締役、帝國蠶絲組合理事、農業、山形縣在籍

妻　傳三郎　明三七、三生

男　ひさえ　明四〇、三生、三男傳三郎妻、山形、安部榮太郎長女

男　良作　明三八、一一生

男　泰治　明四一、一生

女　こと　大八、二生

君は山形縣人先代五郎八の二男にして明治八年六月を以て生れ同三十七年家督を相續し前名猶治郎を改め襲名す農を業とし傍ら社團法人帝國蠶絲組合理事の外前記各銀行の重役にして直接國稅二千六百五十八圓を納め同縣多額納稅者たり養に今井商業銀行頭取左澤銀行取締役たりしことあり家族は尙孫好夫(昭三、四生、三男傳三郎長男)同和美(同五、五生、同二男)の外弟重太郎(明三四、九生)同妻よね(同四一、三生、山形、島澤八十二妹)及其一子あり長女きぬ(同二八、一生)は山形縣人齋藤政吉孫政太郎に三女しげ(同四二、一一生)は同縣士族今井治郎三郎孫力雄に妹そで(同二七

妻　ルイ　明一六、六生、香川、渡邊伊織二女
男　穆郎　明三四、一〇生
婿　綾子　明三六、五生、長男穆郎妻、大阪横田嶺彌孫
男　捷平　明三七、一〇生

君は香川縣人今井芳造の二男にして明治三年八月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時四國民報社長にして傍ら前記銀行會社の重役を兼ね推されて香川縣參事會員たり家族は尙孫史子（大一五、三生、長男穆郎長女）同久子（昭四、二生、同二女）あり（香川縣仲多度郡多度津町電三三）

今井三吉

池貝鐵工所㈱監査役

妻　はな　明九、四生、東京、梅田英太郎妹
東京府士族
養子　四郎　明三〇、一〇生、養子美彌夫、山梨、相川廣作四男、池貝鐵工所員
養子　美彌　明三五、九生、養子四郎妻、千葉池貝庄太郎四女、香蘭女學校出身

君は東京府士族今井みちの三男にして明治七年四月を以て生れ同三十八年家督を相續す現時池貝鐵工所監査役たり事あり家族は尙孫百合子（大一四、三生、養子四郎長女）同昭（昭二、四生、同長男）ありA一一一七（東京市品川區西大崎一ノ八七電高輪三一七八）

參照＝相川廣作、池貝勝男※池貝杉二※池貝秀雄の項

今井三郎

九州電氣工業、九州保全、延岡電氣、神都電氣興業、昭和電證、大分電氣工業各㈱取締役

妻　しけえ　明一七、五生、山形、佐藤七兵衛三女
男　正夫　明四四、三生

君は新潟縣人今井淳三の長男にして明治七年八月を以て生れ同二十九年家督を相續す同三十三年東京帝國大學工科大學電氣學科を卒業現時九州電氣工業會社取締役たる外前揭諸會社の重役を兼ね九州送電會社嘱託たり曩に九州水力電氣會社常務取締役博多電氣軌道筑後電氣北國水力電氣各會社取締役たり事あり長女ヒサ（明三七、八生）は東京府人吉川伸雄に嫁し庶子春夫（大九、三生）同キヨ（同一一、一生）は共に其生母大分縣人堤光枝の家籍に入り弟熊平（明二一、一生）は其二女と共に分家し姪ミチエ（同四一、九生、亡弟勁次郎二女）は新潟縣人大橋テイの養子となれりA九六九七（福岡市春吉町五四八電一七八一）

今井茂次

姫路商工會議所議員、姫路倉庫㈱代表取締役、日本電球、姫路莫大小各㈱取締役、中國合同電氣㈱監査役、酒造業、兵庫縣在籍

妻　もと　明一二、一〇生、兵庫、荒木眞次郎三女
養子　重太郎　明三三、一一生、養子千代夫、兵庫、荒木卓三郎二男
養子　千代　明四二、八生、養子重太郎妻、兵庫、今井久次郎長女

君は兵庫縣人今井直次郎の長男同一雄の從兄にして明治十年二月を以て生れ大正五年家督を相續す酒造業を營み傍ら姫路倉庫會社代表取締役たる外日本電球姫路莫大小中國合同電氣各會社の重役にして推されて姫路商工會議所會頭たりしが後之を辭し現に同會議所議員たり家族は尙孫康郎（昭三、八生、養子重太郎長男）あり弟幾次郎（明二二、三生）同妻和佐子（同二六、六生、兵庫、河合八太郎二女）は分家し妹達江（同三一、五生）は兵庫縣人昌保源右衛門長男始男に嫁せり（姫路市村木町三五電三九）

今井繁

鉱石鑛山、北海曹達各㈱監査役

東京府士族
妻　くら　明一二、一二生、東京、士、藤田信孝六女
男　隆　明四五、三生

君は東京府士族今井雅彌の長男にして明治七年九月二十日を以て生れ同四十一年家督を相續す同二十七年東京高等商業學校附屬主計學校を卒業す前記各會社の重役たり曩に三井鑛山會社神岡鑛業所主事同社神岡水電建設事務所長補佐富山鐵道監査役たり長女豊子（明三九、四生）は熊本縣人江上信寂父忠次に二女英子（同四一、三生）は靜岡縣人鈴木愛子弟作造に嫁せり（東京市小石川區大塚仲町四一電大塚一〇八一）

今井修二

大倉商事㈱取締役、日本自動車、日本アスベスト、昭和製作所各㈱監査役、中央自動車㈱相談役

養子　武彦　明一二七、九生、和歌山、濱善太郎弟、大倉組絃育支店勤務
婿　秀　明三三、一〇生、養子武彦妻、大阪、中川豊妹

君は和歌山縣人今井守次郎の長男にして慶應二年九月を以て生れ明治三十七年家督を相續す現時前記各會社の重役にして曩に裕津製革有限公司南部鉄製造所日本化工各會社の重役たりし事あり家族は尙孫富美子（大一二、二生、養子武彦長女）同雅子（同一四、一生、同二女）同一郎（同一五、七生、同長男）妹いま（明八、一二生）あり弟信藏（同六、二生）同妻かつ（同一三、八生、三重、五味玄潤長女）は其子を伴ひ分家せりA一五四八（東京市大森區田園調布三ノ六八二電田園調布一五四八）

參照＝※濱恒次郎の項

今井丈助

越後屋、質業、地主

東京府在籍
元治元、三生、東京、栗原佐左衛門三女
妻　とよ　明三七、一〇生
男　光治　明四二、一生、三男光治妻、東京田口又次郎二女
婿　輝子

君は東京府人今井米保の長男にして文久二年二月四日を以て生れ明治十五年家督を相續す越後屋と稱し質業を營み傍ら地主たり家族は尙孫啓順（昭四、一二生、三男光治長男）ありA五九八（東京市本郷區森川町三二電小石川一六三三）

今井錠一

北村商店㈱代表取締役

愛知縣士族
妻　壽子　明三四、三生、二女壽子夫、三重水谷傳之助四男
養子　傳五郎　明三八、三生、養子傳五郎妻

君は愛知縣士族今井惟清の長男にして明治二年十月を以て生れ大正七年家督を相續す先是明治二十三年東京專門學校政治科を卒業し同三十年日本紡績會社に入り果遂して營業部長たりしが後獨立して絹絲商を營み現時北村商店代表取締役たり弟正（明二〇、四生）は分家し同清（同一五、九生）も亦其妻子を伴ひ分家せりA一一〇（兵庫縣川邊郡川西村豊池田七四五）

參照＝今井清の項

今井眞平

父　五介　安政六、一一生、現戸主
妻　おきやう　明二四、三生、長野、訪歌要一姉
男　彌八　明四四、一一生
男　太八　大二、八生
女　きみ子　大七、九生

君は貴族院議員今井五介の長男にして同五六の兄片倉兼太郎の甥なり明治十六年七月を以て生れ現時前記各會社の重役として知られる曩に蠶業視察の爲め歐米各國を巡遊す家族は尙三男文八（大五、四生）四男平八（同一一、一生）五男善八（同一二、一一生）あり（長野縣諏訪郡平野村電四一四）

參照＝今井五介、今井五六、片倉兼太郎の項

今井新造

山梨縣會議員、山梨開發協會㈱取締役、山梨縣在籍

妻　みさほ　明三五、三生、山梨、奥石仙吉二女
男　勇　大一一、四生

君は山梨縣人今井茂右衛門の三男にして明治二十七年一月を以て生れ大正十三年兄茂右衛門方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして山梨縣會議員に選ばれ曩に同縣參事會員たりしことあり家族は尙二男桑（大一三、九生）あり（甲府市紅梅町一五電三八一四）

今井新兵衛

家主

大阪府在籍
妻　ワエ　明一三、七生、大阪、阪口芳三郎長女
男　勇三　明三九、一生
婿　恵美　明四二、九生、三男勇三妻、大阪岩崎通五郎長女

君は大阪府人先代新兵衛の長男にして明治七年二月を以て生れ同三十五年家督を相續し前名を改め襲名す家主たり家族は尙孫達一郎（昭四、九生、三男勇三長男）ありA一五〇九（大阪府泉北郡濱寺町下電六三二）

今井甚太郎

杏林會㈱代表社員、克誠堂、出版業、東京府在籍

妻　よしの　明二六、六生、宮城、今野甚長女
男　彰　大一一、三生
女　恭子　大八、八生

君は東京府人今井範次郎の長男にして明治十二年六月を以て生れ同三十二年家督を相續す克誠堂と稱し出版業を經營し合資會社杏林會代表社員たり家族は尙三男釀（大一四、一生）弟藤助（明三〇、一二生）あり同喜三郎（同一七、一二生）は其妻よね（同一六、一二生、茨城、古橋七兵衛二女）と共に分家し妹カノ（同二三、二生）は愛知縣人守隨眞吾に嫁せりA二一〇二B二三二（東京市本郷區駒込本富士町二電小石川七七六七）

今井清吉

愛知縣多額納稅者、愛知電氣鐵道碧海電氣各㈱監査役、愛知縣在籍

母　たか　明二一、一生、愛知、白木松兵衛長女
妻　れい　明三九、四生、新三河セメント㈱監査役、經濟學士
男　清之助　明四〇、九生
女　ゆき　明四四、一生
男　眞三　大三、五生

君は愛知縣人今井清兵衛の長男にして明治十一年五月を以て生れ大正五年家督を相續す現時愛知縣多額納稅者に列し且つ愛知電氣鐵道及び碧海電氣兩會社監査役の職に在り多年名古屋式取引所名古屋瓦斯會社等に監査役として在職し又名古屋市會議員都市計畫愛知地方委員たりしことあり曩に賞勳局より金盃を拜受せり家族は尙二女敏子（大一二、一二生）ありA三八四六（名古屋市中區橋町六ノ一電南一四三三）

參照＝後藤太助の項

今井清七

今井商店㈱取締役、今井醸造㈱監査役、東京府在籍

妻　ヌイ　明二五、二生、新潟、師尾市太郎長女
男　和七　大三、七生
女　きん　大五、七生

君は新潟縣人今井武七の三男同雄七の弟同晋七の兄にして明治十七年十一月を以て生れ昭和四年家督を相續す先是明治四十一年長崎高等商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙二男多七（大七、三生）四男弘七（同一二、三生）二女また（同一五、一生）ありA三八六（東京市淀橋區下落合一ノ四一五電大塚三〇二五）

參照＝今井晋七、今井雄七の項

今井精一

從五位勳五等、埼玉縣立浦和中學校長兼教諭、長崎縣士族

妻　延子　明二〇、五生、熊本、士、田口廣志姪
男　正人　明三六、一二生、東亞同文書院出身
男　守之　明四四、七生、海軍少尉

君は平戸藩士今井尙人の長男にして明治十三年六月を以て生れ同四十四年家督を相續す同三十六年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し東京神奈川熊本長崎香川等各府縣の教育界に盡し現時浦和中學校長の職に在り劍道柔道竝に弓術居合術に堪能たり家族は尙三男良夫（大四、八生、浦和高等學校在學）四男武成（同七、四生、浦和中學在學）あり二女千鶴子（明四二、二生、佐世保高女出身）は岡山縣人陸軍砲兵大尉森安精一に嫁せり（浦和市鹿島臺電八六二）

今井善右衛門

兵庫縣多額租稅者、雜貨度量衡器商、兵庫縣在籍

妻　いく　明二〇、六生
女　悦太郎　慶應二、一二生、養父善右衛門長

君は大阪府人高堀元三郎の兄にして文久二年七月を以て生れ先代善右衛門の養子となり明治二十四年家督を相續し前名政之助を改む雜貨度量衡器商を營み直接國稅二千四百二十八圓を納め兵庫縣多額納稅者に列す長女あや（明二二、八生）は兵庫縣人有馬藤次郎長男順二に嫁し二男謹之助（同二六、九生）は同妻須賀（同三二、

七生、愛知、關口高次二女）を伴ひ大阪府人高垣せんに三男一二三（同二九、二生）は兵庫縣人直木久兵衛に各養子となれり（神戸市神戸區榮町五ノ三四電元町四九三）

參照＝有馬順二、今井悦太郎、直木久兵衛※關口遜次の項

今井善八郎

妻 ヨシ 清 明四〇、一一生、長男清妻、東京鈴木英太郎妹、日本女大出身、自由學園專攻科在學

婿 ひさ 明七、八生、山口、金子文七三女

男 千 珠 明三七、一生、立大出身

男 武 明四一、三生、早大文科出身

君は埼玉縣士族今井良綱の長男にして慶應三年四月を以て生れ明治十三年家督を相續す現時砂利共販㈱取締役、月島機械、東京埼玉縣士族、中野炭礦各㈱監査役、京濱土地㈱取締役の外前記諸會社の重役にして嘗て大倉組土木部會計主任同監査役たり事あり亡弟靜三郎妻さか（明九、三生、埼玉、士、尾崎政得二女）は其子女を伴ひ分家せり A四四五（東京市麴町區九段二ノ六ノ七電九設一六〇一）

今井善兵衛

群馬縣多額納稅者、農業

繼母 ヒデ 群馬縣在籍

妹 久三、七生、栃木、須藤鐵次郎

妻 新子 明二五、六生、群馬、山口彦太郎二女

男 善一郎 明四二、一〇生

男 權三郎 大二、六生

君は群馬縣人先代善兵衛の長男にして明治二十一年一月を以て生れ大正五年家督を相續し前名善平を改め襲名す農を業とし縣下の多額納稅者にして直接國稅九百九十二圓を納む蠶に群馬銀行取締役たりしことあり家族は尙弟敬三郎（明二七、二生）同妻以久（同三一、二生、群馬、千明三右衛門長女）及其三子弟源四郎（同二九、四生）同武六郎（同三三、一生）同榮七郎（同三四、八生）妹十女（同三八、八生）あり弟恭次郎（同二三、六生）は同妻より（同三〇、三生、群馬、正田文右衛門五女）及其四子を伴ひ分家し弟義五郎（同三〇、一一生）は群馬縣人春山富治の養子となれり（群馬縣勢多郡北橘村）

參照＝山口彦太郎※木村淺七※坂本友七※正田良一郎※山口求馬の項

今井卓雄

妻 シマ 明二、六生、大阪、亡井上廣克女、大阪府立夕陽丘高女出身

男 正雄 大三、一二生

君は舊山城國綴部藩士今井豐吉の二男にして明治十九年九月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す明治四十三年神戸高等商業學校を卒業し住友銀行に入り孟買倫敦各支店長を經て同行東京支店長となり昭和七年住友信託㈱常務取締役兼本店總務部長、大阪府在籍、大阪、亡井上豐吉二女）及其一家族は尙長女清子（大九、八生）あり（西宮市南郷町五六電西宮四三八）

今井武三

妻母 タマ 明八、一二生、大阪、長尾伊右衛門妹

家主 大阪府在籍

男 敏保 明三四、二生、先々代卯兵衛長女タミ大九、四生

君は大阪府人遊上龜五郎の弟にして明治二十五年八月十七日を以て生れ大正八年先代タミの入夫となり家督を相續す家主として知らる家族は尙三男德藏（大一三、一二生）長女桂子（昭二、二生）あり（大阪市南區高津七番町二八）

今井健彦

妻 くにえ 明四五、三生、慶大出身

男 幸彦 大七、三生

女 節子 明四五、四生

君は靜岡縣士族今井信郎の三男にして明治十六年七月を以て生る夙に早稲田大學政治經濟科を卒業し採鑛界に入り福井日報社東京毎日新聞社各社長に就任す衆議院議員に當選すること四回に及び立憲政友會所屬にして養に農林參與官に任ぜらる曾て鮮滿支那及び歐洲各國を視察し萬國議院商事會議及列國議會同盟會議に列席す夫人くにえは今井郁子と稱しアラ、ギ派の歌人として知らる家族は尙兄信夫（明一三、七生、現月主）同妻幹子（同二六、一一生、愛媛、門田嘉石四女）及其一女姉りう（慶應二、一生）同つる（明七、一一生）あり（東京市澁谷區千駄ケ谷三ノ五二七電青山五七五八）

今井忠作

繼母 ハル ク、ニ 明二二、八生、新潟、鈴木七蔵孫

妻 忠一 大一〇、一一生

男 忠一 明元、八生、新潟、渡邊憲司妹

君は新潟縣人今井忠太郎の長男にして明治十六年三月を以て生れ同三十四年家督を相續す現時前記銀行の重役たり家族は尙二男忠二（大一二、一二生）あり（新潟縣西蒲原郡吉田町）

今井忠輔

妻 トヨ 明一七、八生、東京、山川晉次郎長女

第十八銀行㈱常務取締役 東京府士族

君は舊幕臣今井唯太郎の弟にして明治九年三月を以て生れ同二十年家督を相續す夙に開成中學を卒へ直に安田銀行に入り安田善次郎翁の薫陶を受け後同行銀座支店長を經て現時第九十八銀行常務取締役たり A四四七（千葉市寒川一五二四）

今井貞次郎

母 さと 明二二、一生、京都、佐々木佐助長女

妻 久榮 明二二、一生、京都、山本源兵衛長女、府立第一高女出身

男 一 明元、一生、京都、

君は京都府人今井定七の長男にして明治十五年十二月を以て生れ同十六年家督を相續す八方堂と稱し骨董商を營む傍ら京都美術倶樂部取締役たり昭和三年御大禮に際し京都市へ寄附同年其功により紺綬褒章を賜ふ著述「樂燒」あり同二年大谷光瑞大谷尊由兩氏と共に北支那に於ける製陶界を視察す姉よね（明八、一二生）は京都府人森村捨三郎に嫁し妹あき（同一八、三生）弟常三郎（同二九、三生）は各分家せり A四六三B一七二（京都市下京區四條通寺町西入電本局五）

今井傳太

妻 サイ 明一〇、一〇生、先々代貞太郎二女

男 周造 明三八、八生

君は香川縣士族植松武平の三男宮武恒造の弟にして明治八年十月を以て生れ先代サイの入夫となり同三十二年家督を相續す現時高松百十四銀行取締役たる外前記各會社の重役にして香川縣多額納稅者に列し直接國稅二千二百八十五圓を納む家族は尙娶子チエ（大一五、九生、香川、今井榮次郎長女）あり長女サト（明三三、九生）は分家せり（高松市四番町五〇電二三一五）

今井德左衛門

妻 すみ 明四二、九生

男 龍 明四四、一生

男 慶 明四四、一生

君は兵庫縣人今井德次郎の長男にして明治十六年九月を以て生れ大正七年家督を相續す現時今井德太郎商店代表社員の外前記會社の重役たり弟三郎（明二五、一四生）は同妻美壽恵（同三二、二生、和歌山、森口徹三郎長女）を伴ひ分家し弟昇（同三〇、一生）は兵庫縣人吉田勝子の入夫となり妹蓮（同三七、八生）は同縣人辻憲蔵㈱取締役、農業、香川縣在籍

今井德太郎

妻母 ミエ 明一七、七生、大阪、高井彌市郎三女

男 良 明三七、八生

君は代々神奈川縣小田原町に住し酒醬油釀造販賣業を營み藩主大久保家に出入を許され苗字帶刀御免の家柄なり君は先代德左衛門の長男にして明治九年六月を以て生れ同三十一年家督を相續し前名莊太郎を改め襲名して家業を繼承し老姉とし直接國稅千二百十四圓を納む縣下の多額納稅者に列す義に明和銀行取締役たり長女幸子（明三三、三生）は神奈川縣人伊藤濱平長男清に妹ハン（同一四、三生）は其一子を伴ひ同縣人大矢安太郎に嫁し弟重雄（同一九、七生）同妻リキ（同二六、一〇生、神奈川、大矢次三郎長女）は其一子を伴ひ分家せり（奈神川縣足柄下郡小田原町萬年町四ノ六一五電小田原三）

今井年美

母 ミエ 明一七、七生、大阪、高井彌市郎二女

妻 シン 明三女

君は大阪府人今井源三郎の長男にして明治十二年五月二日を以て生れ同四十三年家督を相續す現時攝津銀行取締役たり家族は尙朔大雄（大元、八生、亡弟元次郎長男）同義尙（同三、一〇生、同二男）同義郎（同九、四生、同三男）あり A三二九（大阪府三島郡茨木町茨木一四二〇ノ一電一二六）

今井豐吉

妻 ハルヨ 明二七、一二生、福岡、立野部與八三女

男 歓一郎 大一〇、一生

女 綾子 大七、一一生

君は福岡縣人今井常吉の長男にして明治二十五年五月を以て生れ大正十年家督を相續す夙に野村銀行に入り名古屋支店長を經て現時取締役營業部長たり家族は尙二男浩一郎（大一一、四生）三女敏子（同一五、九生）弟健治郎（明三〇、七生）あり A二九三（兵庫縣武庫郡精道村松本四五〇電二八〇五）

今井直城

母 ひさ 明元、四生、山口、士、丸山良信二女

妻 ヒサ 明二六、八生、東京、山本庫吉長女

男 直哉 大九、四生

君は東京府人今井直江の長男にして明治十九年七月九日を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十一年東京商船學校機關科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙二男直美（大一一、五生）長女世喜（同一三、一生）あり妹ちた（明二三、八生）は長野縣人堀内成晃に嫁し弟良援（同三八、七生）同妻キク（同三〇、一一生）東京、宮崎貞次郎）は其四子を伴ひ分家し妹田鶴（同二二、二生）は東京府人石田政吉に同はな（同三五、五生）は同府人大塚巳之助に嫁せり（東京市世田谷區野澤町一ノ二三）

今井直太郎

妻 ふく 明三六、二生、東京、角初太郎二女

地主 東京府在籍

君は東京府人今井鉢太郎の長男にして明治二十八年十月を以て生れ同三十八年家督を相續す現時地主たり家族は尙長女君枝（昭七、一〇生）弟三郎（明三七、一生）同妻コウ（同三七、一生）あり弟鐵次郎（同三二、一二生）は分家せり A六二二（東京市下谷區中根岸町五六）

今井延夫

母 チエ 明二〇、八生、大阪、中西トク三女

家主 大阪府在籍

君は大阪府人今井延太郎の三男にして明治四十四年四月一日を以て生れ大正十四年家督を相續す家主たり家族は尙弟武夫（大四、一二生）あり姉淑子（明四一、三生）は大阪府人井村米三郎の養子となれり A二八六（大阪市西成區千本通六ノ二電天下茶屋二〇七七）

今井信之

母 かめ 安政六、一一生、今井敬之長女

妻 花枝 明二三、一〇生、長野、務臺量平二女

養子 精一 明三四、一一生、長女富美枝夫、鹿兒島、山下平藏弟

女 富美枝 明四一、七生、養子精一妻

女 和子 明四三、六生

女 雪枝 明四五、三生

女 靜香 大三、九生

君は東京府士族今井平三の長男にして明治十七年十一月を以て生れ大正五年家督を相續す著述業にして英語商船學校機關科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙二男直美（大一一、五生）長女世喜（同一三、一生）あり妹ちた（明二三、八生）は長野縣人堀内成晃に嫁し弟良援（同三八、七生）同妻キク（同三〇、一一生）東京、宮崎貞次郎）は其四子を伴ひ分家し妹田鶴（同二二、二生）は東京府人石田政吉に同はな（同三五、五生）は同府人大塚巳之助に嫁せり（東京市世田谷區野澤町一ノ二三）

英語通信社、著述業 東京府士族

通信社として知らる家族は尙孫洋子（昭六、七生、養子補一長女）ありA五八四B二〇四（東京市本郷區駒込西片町一〇ノ二二電小石川二二）

今井半次郎

理學博士、三菱鑛業會社技師、技術部調査係、愛媛縣在籍

妻　榮　明二二、一生、愛媛、鴨川正幸妹縣立松山高女出身

男　功　大一四、一〇生

君は愛媛縣人今井道藏の二男にして明治十七年六月を以て生れ大正五年家督を相續す同年東京帝國大學理科大學地質學科を卒業し現時三菱鑛業會社技師にして技術部調査係たり曩に理學博士の學位を受くA一三〇（東京市澁谷區原宿二ノ一七〇ノ五電青山四八九五）

今井彦三郎

從三位勳三等、大正大學教授、宮城縣在籍

妻　つな　明二二、二生、知妹

男　時郎　明二六、九生、正七位、陸軍砲兵大尉

男　建巳　明三六、六生、二男建巳妻、秋田士、須田秀朔姉

婿　清子　明二八、一〇生、外務書記生

男　茂郎　明三九、一一生、三男茂郎妻、秋田、神澤蓮治長女

婿　キミ

男　史郎　明三三、六生

男　通郎　明三六、六生

今井家は古くより宮城縣石卷に住し累代醫を業とせり君は先代長英の長男にして元治元年三月を以て生れ明治十九年家督を相續す夙に芳野金陵島田篁邨に漢學を學び東京大學文學部古典科を卒業し秋田千葉宮城各縣師範學校及中學校教諭に歷任し同二十九年第一高等學校教授に任じ昭和五年之を辭し現時大正大學教授たり曾て大東文化學院教授たりし事あり家族は尙孫壽太郎（大一三、四生、二男建巳長男）同元子（同一五、一生、同長女）同正（昭三、五生、同二男）あり長女しん（明三一、五生）は理學博士田中務に妹しを（同一五、二生）は宮城縣人桑原壽に同なみ（同一七、七生）は秋田縣士族吉成彌五郎長男翁助に嫁せりA一三一（東京市本郷區駒込淺嘉町九九）

今井フユ

繼母　ミネノ　今井銀行㈱頭取、農業、新潟縣在籍

養子　洞流　明一七、八生、新潟、登坂良平妹

養子　ヤヨエ　明三〇、八生、養子ヤヨエ夫、北海道、金子源次郎長男

養子　榮一郎　明三九、五生、養子洞流妻、貴族院議員五十嵐甚藏二女

君は新潟縣人今井孫市の長女にして明治十三年十一月を以て生れ大正七年家督を相續す豪農にして現時今井銀行頭取たり家族は尙孫敬子（昭二、一〇生、養子洞流長女）同眞佐子（同四、七生、同二女）あり（新潟縣西蒲原郡石田町）

參照＝五十嵐甚藏※中原藤藏の項

今井文平

大倉商事、奉天造兵所各㈱取締役、昭和製作所、南部銃製造所、大倉銃砲店、奉天電車各㈱監査役、長野縣在籍

母　そて　明三一、一〇生、長野、林亨一姉

妻　信　慶應元、六生、貴族院議員小坂順造妹、雙葉高女出身

男　榮一郎　大六、四生、東京高校在學

君は長野縣人今井榮介の長男にして明治十八年六月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學工科大學機械科卒業大學院に學び大倉組に入り本淡湖製鐵所設立の衝に當り大正五年組育支店長となり同九年歐洲を經て歸朝同十一年大倉鑛業會社取締役に舉げられ現時は大倉商事會社奉天造兵所各取締役として傍ら前記各會社の重役たり家族は尙三男晉郎（大一一、八生）四男俊平（同一三、二生）五男隆吉（昭四、二生）ありA七六四（東京市麻布區新龍土町六電青山一一七九）

參照＝小坂順造※小坂武雄※關根善作※田中隆三※深井英五※美濃部達吉の項

今井又治郎

角丸商會㈱專務取締役、共同證券㈱取締役、東京府在籍

妻　かう　明二一、一二生、東京、加藤長九郎二女

男　ユリ　明四〇、五生、長女ユリ夫、岐阜新井清弟

女　澤　明四五、六生、養子澤妻

君は千葉縣東金町に於ける舊家今井新右衛門の二男にして明治六年八月を以て生れ同十四年甥美治方より分れて一家を創立す幼にして父母を失ひ孤立の境遇に在りて自活の途を講じ後上京して東京株式取引所仲買人岡本商店に勤務すること數年藤田商店に轉じ爾來恪勤精勵次第に堅實なる地位を築き現時角丸商會專務取締役にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙二女治子（大一四、二生）ありA八三五（東京市麴町區元園町一ノ四二電九段五〇五）

今井道

從四位勳四等、全國石灰窯業共販組合勤務、新潟縣在籍

妻　トキ　明二六、五生、新潟、野澤伊助二女

女　みよ　大四、四生

君は新潟縣人今井惣左衛門の五男にして明治十六年四月を以て生れ大正七年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し農事試驗場技手臺灣總督府研究所技手同府技師兼同府研究所技師等に歷任し大正六年農事試驗場技師となり同十年歐米各國に留學を命ぜられ同十二年歸朝す昭和五年官を辭し現時全國石灰窯業共販組合勤務たり家族は尙二女幸（大一一、一生）三女綾（同一三、九生）第六彌太（明二一、三生）同妻マツ（同三六、三生、新潟、上村清治妹）及其一男三女あり（東京市杉並區阿佐ヶ谷四ノ四三六）

今井六雄

染料商、京都府在籍

母　さく　明三六、一生、京都、安邨吉兵衛二女

君は京都府人先代六兵衛の長男にして昭和二年十二月を以て生れ同六年家督を相續す染料商を營む弟久彌（昭五、一〇生）は亡伯母フサの養子となれりA八二三（京都市下京區寺町高辻下ル電一五二二）

今井安太郎

永廣堂本店、香料商、大阪府在籍

妻母　のふ　明六、二生、大阪、尾崎久兵衛長女

妻　ゆう　明二三、一〇生、現戸主

男　信行　大八、一〇生

女　久惠　大三、一一生

女　邦子　大六、一〇生

君は佐賀縣人名古屋宇太郎の弟にして明治十八年九月を以て生れ同四十四年大阪府人今井ゆうの入夫となる同年長崎高等商業學校を卒業し香料商を營み永廣堂本店と稱す長女芳子（明四五、四生）は中塚常三郎に嫁せりA一二〇二B三二八（大阪市南區安堂寺橋筋一ノ三六電船場二三三二〇）

今井雄七

今井商店、藤武良商店各㈱社長、今井鑛業㈱常務取締役、新潟縣在籍

養母　ステ　安政二、一〇生、新潟、鈴木半左衛門三女

妻　ソナ　明二三、五生、新潟、松川第八郎妹

男　道雄　大四、一生

君は新潟縣人今井武七の長男にして同清七同晉七の兄なり明治十一年四月を以て生れ伯父藤七の養子となり大正十四年家督を相續す明治三十年慶應義塾を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙二男義雄（大七、三生）三男信雄（同一一、一生）四男秀雄（昭二、三生）ありA二九一五（東京市豐島區高田本町二ノ一電牛込二一一一）

參照＝今井清七、今井晉七の項

今井義和

從四位勳四等、京北都市、東京土地開發各會社顧問、愛媛縣士族

妻　好子　明一八、一〇生、東京、士、大多和五郎三郎庶子

男　榮六　明四二、五生、日本皮革會社員、慶大經濟學部出身

女　乃里子　大元、一二生、東京女學館出身

君は愛媛縣士族今井義矩の長男にして明治十二年五月を以て生れ大正年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し爾來東京鐵道局技師新橋保線事務所長鐵道技師秋田建設事務所長建設局勤務等を經て後官を辭し湘南電氣鐵道會社技師長たりしも其後會社を辭し現時は京北都市及東京土地開發各會社の顧問たり家族は尙四男正九郎（大九、一一生）五男千秋（同一二、三生）六男昭（昭二、一生）ありA姉ヒデ（明五、一生）は分家し姪孝（同三二、八生、姉ヒデ二女）は愛媛縣人工學士春日龍男に嫁せりA一一一（東京市淀橋區淀橋町三四七電四谷一五九三）

今井嘉幸

正七位、法學博士、辯護士、兵庫縣在籍

妻　竹子　明三三、一生、兵庫、佐伯武市養子

君は愛媛縣人今井角次の二男にして明治十一年五月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す先是明治三十七年東京帝國大學法科大學を卒業し東京地方裁判所判事に補せらるゝ次いで支那政府の招聘により天津北洋法政學堂に於て司法制度を教授し退官歸後雲南軍政府の招きに應じ中華民國軍務院顧問となる大正三年法學博士の學位を受け同六年衆議院議員に選出せらるゝ現時辯護士たり家族は尙長女幸子（大一〇、七生）二女英子（同一一、一一生）三女和子（昭三、三生）四女周子（同四、九生）ありA四一二（神戸市神戸區中山手通四ノ二一電葺合三一三五）

今井利喜三郎

三井銀行㈱常務取締役、交詢社常議員、埼玉縣在籍

妻　かつ　明九、八生、埼玉、加藤晉四郎妹

男　利一　明三三、一〇生、三越勤務

婿　幸　明四一、一生、長女ユリ夫、岐阜深川靜長女、長崎高女出身

男　英二　明五五、一〇生、三井信託會社員、慶大經濟學部出身、英國オックスフォード大學修學

女　茂子　大二、一生、香蘭女學校出身

今井家は古くより武州寄居町に主居せる地主農にして代々名主總代を勤めたる同地方著聞の舊家なり君は先代清作の長男にして明治四年十二月を以て生れ大正七年家督を相續す先是明治二十五年慶應義塾正科を卒業し郷里に在る事六年同三十一年同行常て京都支店長本店營業部長等を經て大正十三年同行常務取締役に就任し現に其職に在り書畫骨董に趣味を有す家族は尙姉たか（慶應二、五生）あり長女久子（明三七、一二生、香蘭女學校出身）は東京府人佐々木興一弟東京海上火災保險會社員榮五郎に二女光子（同四〇、四生、出身校同上）は東京府人矢田長之助長男折蔵正（※印は姻族關係）

今井田清德

從三位勳二等、朝鮮總督府政務總監、岡山縣士族

妻　鶴　明二二、六生、岡山、大村直太郎二女

女　和子　大六、二生

君は岡山縣人國盛與三郎の三男にして明治十七年二月を以て生れ同二十三年先代善十郎の養子となり家督を相續す同四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し通信屬となり文官高等試驗に合格す爾來通信事務官大阪中央郵便局長遞信管理局事務官神戸管理局總務部長電氣局事務官遞信局副事務官通信局事務官通信局電話課長遞信書記官遞信省參事官兼關東廳參事官通信局庶務課長遞信局長兼地方海員審判所長簡易保險局長貯金局長等に歷任し昭和二年大阪市參與同市電氣局長たりしも同四年遞信次官に任ぜられ同六年朝鮮總督府政務總監に任ぜらるゝ曩に遞信事務研究の爲再度歐米各國に出張せり爾來阿片委員會委員第六十回帝國議會拓務省所管事務政府委員米穀統制調査會臨時委員第六十五回帝國議會拓務省所管事務政府委員被仰付らる（京城府大和町官舍電本局六八）

今居眞吉

醫師、大阪府在籍

妻　しく　明六、六生、石川、士、寺西武雄姉

男　清　明二七、二生、大阪醫科醫專出身

男　二　明二八、五生、慶應義塾出身

男　三郎　明三〇、三生、大阪醫大出身

婿　勝子　明三八、一生、三男三郎妻、大分松村安雄三女

君は東京府士族今居元吉の長男にして慶應二年十二月を以て生れ後家督を相續す明治二十四年帝國大學醫科大學を卒業し大阪高等醫學校教授となり同眼科醫長た

りしも後獨立開業して今日に至る家族は尙孫太郎（大一五、八生、長男清長男）同藤吉（昭二、四生、三男三郎長男）同俊雄（同三、七生、同二男）あり長女治子（明三五、四生、夕陽丘高女出身）は農學博士逸見文雄弟農學博士東大教授武雄に嫁し四男四郎（同三三、四生、大阪醫大出身、豫備海軍々醫）は叔父陸實の跡を相續し弟三吉（同一〇、一〇生、法學士）は分家せりA二〇九（大阪市西區土佐堀通二ノ七電土佐堀二一八〇）

參照＝逸見文雄の項

今泉嘉一郎

從四位勳三等、工學博士、ルクセンブルグ國名譽總領事、工業品規格統一調査會委員、日本鋼管㈱取締役、大日本自轉車會社顧問
群馬縣在籍

妻　マリ　明二四、九生、佛國人勳四等プロスペール・フック三女、學習院女學部出身
男　嘉秋　明三〇、九生
婿　喜久子　明三七、七生、二男嘉秋妻、兵庫松浦善助長女、東京府立第三高女出身

君は群馬縣人今泉常子の長男にして慶應三年六月二十七日を以て生れ明治二十六年家督を相續す同二十五年帝國大學工科大學を卒業し次で獨逸フライベルグ鑛山大學及伯林鑛山大學に學ぶ同二十九年製鐵所技師に任ぜられ爲朝後製鐵所工務部長鋼材部長等に歷任し同四十五年官を退き日本鋼管會社を創立今日に及ぶ其間製鐵學理及實地研究の爲歐米を視察する事七回大正四年工學博士の學位を受け現時前記公私の職に在り大正九年より同十三年まで衆議院議員たり其間墺國維納に開催せられたる第十九回萬國議員總會に日本帝國議會代表議員團長として派遣され又臨時財政經濟調査會委員度量衡改正委員帝國經濟會議々員たりし事あり家族は尙四男常正（大九、八生）五男益正（同一〇、一二生）六女昭子（昭二、一〇生）七男季正（同五、八生）あり長女芳子（明三二、二生）は男爵千田嘉平弟工學士武彥に二女富子（同三三、二生）は愛知縣人工學士伴義定に三女テツ子（同三四、一二生）は兵庫縣人商學士清瀨炎郎に嫁すA一一六七（東京市澁谷區穩田一ノ四電青山八二三〇）

今泉喜興

地主
東京府在籍
母　たま　明二一、二生、東京、石山龍藏五女

君は東京府人今泉金五郎の二女にして大正二年十二月九日を以て生れ昭和三年家督を相續す舊家として又地主として知られる家族は尙妹芳江（大五、五生）同松子（同八、一生）同照代（同一四、一二生）あり（東京市豐島區堀之內町四六）

今泉吉太郎

莫大小機械製造業
東京府在籍
男　正雄　大元、八生
男　秀雄　大三、一生

君は群馬縣人和田テウの私生子にして明治二十一年二月を以て生れ同二十二年先代今泉定吉の養子となり大正五年家督を相續す莫大小針の製造を業とし居たりも同九年莫大小製作機械の製造を開始してより時代の要求に合致して業運大いに昂る家族は尙三男健藏（大四、五生）四男文雄（昭四、二生）あり妹フク（明二三、七生）は群馬縣人渡邊佐吉長男庄一郎に嫁せりA一〇八五B三六〇（東京市小石川區久堅町八五電小石川二二四）

今泉健三

王子煉瓦㈱取締役、王子電氣軌道㈱支配人、
麻島縣在籍
妻　ダイ　明一一、五生、山口、川崎チヨ三女
男　順吉　大二、八生
女　澄子　大四、一二生
齊須子　大七、二生

君は麻島縣人今泉喜兵衛の三男にして明治十四年二月を以て生れ大正六年兄卯吉方より分れて一家を創立す明治四十年慶應義塾法律科を卒業し西部合同瓦斯會社理事博多商業會議所書記長に就任し現に王子電氣軌道會社取締役を兼ねA一八五（東京市豐島區池袋二ノ九〇八電大塚一八八一）

參照＝男爵千田嘉平、清瀨炎郎、伴義定※大內愛七※佐藤逢次郎※山田陸槌の項

今泉小源次

足柄農商銀行㈱頭取、東海工業㈱代表社員、神奈川縣在籍
妻　キク　明三〇、一〇生、神奈川、高橋嘉六長女
女　數江　大八、二生

君は茨城縣人今泉小源次の二男にして明治二十五年十一月を以て生れ同四十四年明孝一方より分れて一家を創立し前名鶴次を改む現時足柄農商銀行頭取東海工業合資會社代表社員たり家族は尙二女裕江（大一一、八生）三女俶江（同一四、二生）四女依子（昭五、三生）あり（神奈川縣足柄上郡山北町川村山北二ノ六三〇）

今泉鹹至

從四位勳四等、前專賣局副參事、
鶴島縣在籍
安政六、一生、鶴島、太田虎三長女
養母　カツ
妻　サダ　明一六、一生、鶴島、阿部茂左衛門三女、跡見女學校出身
男　正義　明三六、一〇生、千代田生命保險會社員、慶大經濟學部出身
男　信佐　明四四、一〇生、慶大在學

君は鶴島縣人安齋茂七郎の五男にして明治九年三月を以て生れ後先代久三郎の養子となり同四十五年家督を相續す代々郷土の爲に盡瘁し先代の如きは藍綬褒章を授與さる同三十七年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し鹽務局事務官となり專賣局主事同副參事に任ぜられ東京地方專賣局横濱出張所長同秦野出張所長を歷任し後退官す家族は尙四男尙久（大五、三生、慶大在學）あり二男忠良（明三七、七生）は分家し長女伊勢（同四二、一生、三輪田高女出身）は他に嫁せりA二七五（東京市杉並區阿佐ケ谷五ノ三四）

今泉鐸次郎

善光寺銅索鐵道㈱監査役、財團法人長岡社盛事、新潟縣士族
妻　テツ　明九、一生、養父正雄長女
男　剛一　明二七、一〇生
婿　ミサヲ　明三二、九生、長男剛一妻、新潟三枝守邦三女
男　省三　明三八、一〇生
孫　テイ　大八、三生、長男剛一長女

君は新潟縣士族神戶熊太郎の弟にして明治六年一月を以て生れ先代正雄の養子となり明治四十五年家督を相續す少壯操觚業に從事し後實業界に入りしも今や專念著書に從事す又昭和四年六月維新史料編纂會委員を仰付らる著書「河井繼之助傳」「北越名流遺芳」等數種あり家族は尙孫ユキ（大九、一二生、長男輝一二女）同正一（同一三、三生、同長男）同モモ子（昭四、四生、同三女）あり三女カズ（明四二、一生）は神奈川縣人峰一郎に四女セツ（明四四、一〇生）は福井縣人工學士佐々木徵雄に嫁せり（長岡市東千手町三二二電五二九）

今泉得三

郡山商工會議所議員、新町軌道、郡山土地建物、丸伊呉服店各㈱取締役、二本松銀行㈱監査役
福島縣在籍
妻　テイ　明二三、五生、福島、渡邊鐵五郎三女
男　弘　明四五、三生
男　正敬　大三、三生

君は福島縣人今泉顯治の弟にして明治十六年七月を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す現時商記銀行會社の重役にして推されて郡山市參事會員たり家族は尙四男廣治（大七、三生）五男朗（同八、三生）六男剛（同一〇、五生）長女フミ（同一三、二生）二女昌子（同一五、一生）三女光子（昭三、二生）あり（郡山市細沼町四〇電四三六）

今泉一

萬興業㈱取締役、昭和製菓㈱監査役、川崎第百銀行㈱檢査部長
東京府士族
妻　英　明二四、一〇生、東京、岡部惣五郎二女、三輪田高女出身
男　一　明四四、一二生
女　千枝子　大三、一生
和子　大五、五生

當家は薩佐賀藩主鍋島侯爵代の家臣なり父勝平に至り同藩御用達馬具師の役を勤め入つて當家を興ぐ外國煙草輸入業を營み市會議員市參事會員區會議員等に擧げらる君は其長男にして明治十九年一月一日を以て生れ同三十五年家督を相續す同四十二年東京高等商業學校を卒業し第百銀行に入り計算課長を經て新宿支店長に進み現に川崎第百銀行檢査部長にして萬興業會社取締役並に昭和製菓會社監査役を兼ぬ家族は尙四女敬子（大九、一一生）二男徹（昭二、一〇生）三男勝彥（同六、一生）あり姉シナ（明一五、一〇生）は佐賀縣士族村岡嘉郎長男淳一に妹駒乃（同二九、三生、跡見女學校出身）は東京府士族日比翁助長男勝治に養姉タツ（同三、一一生）は工學博士高松豐吉に嫁し市淀橋區柏木三ノ三七電四谷三九九九）

參照＝高松豐吉の項

今泉政

川崎第百銀行㈱番町支店長
東京府士族
父　安之助　明元、五生、現戶主
妻　貞　明三三、二生、長崎、柴田鐵四郎妹
男　昭一　昭四、二生

君は東京府士族今泉安之助の二男にして明治二十六年三月二十九日を以て生る大正五年中央大學商科を卒業し川崎第百銀行に入り池袋支店長を經て現時同行番町支店長たり家族は尙長女喜代子（大一二、三生）の外兄政雄（明二四、一〇生）妹シヅ（同三四、九生）弟經（同三九、九生）あり妹安子（同三六、九生）は廣島縣人玖島親夫に嫁せり（東京市麴町區三番町七六）

今泉善夫

正五位、東京、東京府士族
孝　明二八、七生、東京、清水蕉兵衛
妻　東京物理學校講師

君は東京府士族今泉雄作の長男にして明治二十六年九月二十七日を以て生れ後家督を相續す大正七年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し同十年東京高等工業學校教授に任ぜられ昭和四年秋田鑛業專門學校教授に轉任現在東京物理學校講師の職に在り（東京市芝區新橋三ノ一二）

今枝源右衛門

柏源商店、米穀商
愛知縣在籍
男　藏義　明三五、一生
婦　藤子　明四一、二生、西浦道太郎孫
女　靜子　明三六、一一生
男　源一　明四〇、二生
男　鑑三郎　明四三、一二生

當家は養祖重直前田利家に仕へてより以來世々金澤藩の國老として一萬四千石を食み先代直邦に至る君は其長男にして明治三年七月二十一日を以て生れ同七年家督を相續し同三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる同二十六年農科大學林學乙科を卒業し農商務省に入り技手に任じ盛岡巢鶴各小林區署長石川縣勸業事

參照＝男爵千田嘉平、清瀨炎郎、伴義定※大內愛七※佐藤逢次郎※山田陸槌の項

今泉喜興

地主
東京府在籍
母　たま　明二一、二生、東京、石山龍藏五女

君は東京府人今泉金五郎の二女にして大正二年十二月九日を以て生れ昭和三年家督を相續す舊家として又地主として知られる家族は尙妹芳江（大五、五生）同松子（同八、一生）同照代（同一四、一二生）あり（東京市豐島區堀之內町四六）

今泉吉太郎

莫大小機械製造業
東京府在籍
男　正雄　大元、八生
男　秀雄　大三、一生

君は群馬縣人和田テウの私生子にして明治二十一年二月を以て生れ同二十二年先代今泉定吉の養子となり大正五年家督を相續す莫大小針の製造を業とし居たりも同九年莫大小製作機械の製造を開始してより時代の要求に合致して業運大いに昂る家族は尙三男健藏（大四、五生）四男文雄（昭四、二生）あり妹フク（明二三、七生）は群馬縣人渡邊佐吉長男庄一郎に嫁せりA一〇八五B三六〇（東京市小石川區久堅町八五電小石川二二四）

今泉健三

王子煉瓦㈱取締役、王子電氣軌道㈱支配人、
麻島縣在籍
妻　ダイ　明一一、五生、山口、川崎チヨ三女
男　順吉　大二、八生
女　澄子　大四、一二生
齊須子　大七、二生

君は麻島縣人今泉喜兵衛の三男にして明治十四年二月を以て生れ大正六年兄卯吉方より分れて一家を創立す明治四十年慶應義塾法律科を卒業し西部合同瓦斯會社理事博多商業會議所書記長に就任し現に王子電氣軌道會社取締役を兼ねA一八五（東京市豐島區池袋二ノ九〇八電大塚一八八一）

今泉小源次

足柄農商銀行㈱頭取、東海工業㈱代表社員、神奈川縣在籍
妻　キク　明三〇、一〇生、神奈川、高橋嘉六長女
女　數江　大八、二生

君は茨城縣人今泉小源次の二男にして明治二十五年十一月を以て生れ同四十四年明孝一方より分れて一家を創立し前名鶴次を改む現時足柄農商銀行頭取東海工業合資會社代表社員たり家族は尙二女裕江（大一一、八生）三女俶江（同一四、二生）四女依子（昭五、三生）あり（神奈川縣足柄上郡山北町川村山北二ノ六三〇）

今泉鹹至

從四位勳四等、前專賣局副參事、
鶴島縣在籍
安政六、一生、鶴島、太田虎三長女
養母　カツ
妻　サダ　明一六、一生、鶴島、阿部茂左衛門三女、跡見女學校出身
男　正義　明三六、一〇生、千代田生命保險會社員、慶大經濟學部出身
男　信佐　明四四、一〇生、慶大在學

君は鶴島縣人安齋茂七郎の五男にして明治九年三月を以て生れ後先代久三郎の養子となり同四十五年家督を相續す代々郷土の爲に盡瘁し先代の如きは藍綬褒章を授與さる同三十七年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し鹽務局事務官となり專賣局主事同副參事に任ぜられ東京地方專賣局横濱出張所長同秦野出張所長を歷任し後退官す家族は尙四男尙久（大五、三生、慶大在學）あり二男忠良（明三七、七生）は分家し長女伊勢（同四二、一生、三輪田高女出身）は他に嫁せりA二七五（東京市杉並區阿佐ケ谷五ノ三四）

今泉鐸次郎

善光寺銅索鐵道㈱監査役、財團法人長岡社盛事、新潟縣士族
妻　テツ　明九、一生、養父正雄長女
男　剛一　明二七、一〇生
婿　ミサヲ　明三二、九生、長男剛一妻、新潟三枝守邦三女
男　省三　明三八、一〇生
孫　テイ　大八、三生、長男剛一長女

君は新潟縣士族神戶熊太郎の弟にして明治六年一月を以て生れ先代正雄の養子となり明治四十五年家督を相

續す少壯操觚業に從事し後實業界に入りしも今や專念著書に從事す又昭和四年六月維新史料編纂會委員を仰付らる著書「河井繼之助傳」「北越名流遺芳」等數種あり家族は尙孫ユキ（大九、一二生、長男輝一二女）同正一（同一三、三生、同長男）同モモ子（昭四、四生、同三女）あり三女カズ（明四二、一生）は福井縣人工學士佐々木徵雄に嫁せり（長岡市東千手町三二二電五二九）

今泉得三

郡山商工會議所議員、新町軌道、郡山土地建物、丸伊呉服店各㈱取締役、二本松銀行㈱監査役
福島縣在籍
妻　テイ　明二三、五生、福島、渡邊鐵五郎三女
男　弘　明四五、三生
男　正敬　大三、三生

君は福島縣人今泉顯治の弟にして明治十六年七月を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す現時商記銀行會社の重役にして推されて郡山市參事會員たり家族は尙四男廣治（大七、三生）五男朗（同八、三生）六男剛（同一〇、五生）長女フミ（同一三、二生）二女昌子（同一五、一生）三女光子（昭三、二生）あり（郡山市細沼町四〇電四三六）

今泉一

萬興業㈱取締役、昭和製菓㈱監査役、川崎第百銀行㈱檢査部長
東京府士族
妻　英　明二四、一〇生、東京、岡部惣五郎二女、三輪田高女出身
男　一　明四四、一二生
女　千枝子　大三、一生
和子　大五、五生

當家は薩佐賀藩主鍋島侯爵代の家臣なり父勝平に至り同藩御用達馬具師の役を勤め入つて當家を興ぐ外國煙草輸入業を營み市會議員市參事會員區會議員等に擧げらる君は其長男にして明治十九年一月一日を以て生れ同三十五年家督を相續す同四十二年東京高等商業學校を卒業し第百銀行に入り計算課長を經て新宿支店長に進み現に川崎第百銀行檢査部長にして萬興業會社取締役並に昭和製菓會社監査役を兼ぬ家族は尙四女敬子（大九、一一生）二男徹（昭二、一〇生）三男勝彥（同六、一生）あり姉シナ（明一五、一〇生）は佐賀縣士族村岡嘉郎長男淳一に妹駒乃（同二九、三生、跡見女學校出身）は東京府士族日比翁助長男勝治に養姉タツ（同三、一一生）は工學博士高松豐吉に嫁し市淀橋區柏木三ノ三七電四谷三九九九）

參照＝高松豐吉の項

今泉政

川崎第百銀行㈱番町支店長
東京府士族
父　安之助　明元、五生、現戶主
妻　貞　明三三、二生、長崎、柴田鐵四郎妹
男　昭一　昭四、二生

君は東京府士族今泉安之助の二男にして明治二十六年三月二十九日を以て生る大正五年中央大學商科を卒業し川崎第百銀行に入り池袋支店長を經て現時同行番町支店長たり家族は尙長女喜代子（大一二、三生）の外兄政雄（明二四、一〇生）妹シヅ（同三四、九生）弟經（同三九、九生）あり妹安子（同三六、九生）は廣島縣人玖島親夫に嫁せり（東京市麴町區三番町七六）

今泉善夫

正五位、東京、東京府士族
孝　明二八、七生、東京、清水蕉兵衛
妻　東京物理學校講師

君は東京府士族今泉雄作の長男にして明治二十六年九月二十七日を以て生れ後家督を相續す大正七年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し同十年東京高等工業學校教授に任ぜられ昭和四年秋田鑛業專門學校教授に轉任現在東京物理學校講師の職に在り（東京市芝區新橋三ノ一二）

今枝源右衛門

柏源商店、米穀商
愛知縣在籍
男　藏義　明三五、一生
婦　藤子　明四一、二生、西浦道太郎孫
女　靜子　明三六、一一生
男　源一　明四〇、二生
男　鑑三郎　明四三、一二生

當家は養祖重直前田利家に仕へてより以來世々金澤藩の國老として一萬四千石を食み先代直邦に至る君は其長男にして明治三年七月二十一日を以て生れ同七年家督を相續し同三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる同二十六年農科大學林學乙科を卒業し農商務省に入り技手に任じ盛岡巢鶴各小林區署長石川縣勸業事

君は愛知縣人先代今枝源右衛門の長男にして元治元年八月十六日を以て生れ明治四十二年家督を相續し前名松次郎を改め襲名す柏源商店と稱し米穀商を營む家族は尙孫和義（昭五、五生、長男隆義長男）同幹治（同七、三生、同二男）ありA三九五B一二六（名古屋市東區千種野代田三電東一四二七）

今枝捨市

滿鮮貿易商
大阪府在籍
妻　くわ子　明四四、一生、愛知、加藤善八四女、清水高女出身

君は愛知縣人今枝庄兵衛の長男にして明治三年七月を以て生れ同三十二年家督を相續す滿鮮貿易商を營む母きぬ（弘化二、四生、愛知、谷川喜兵衛二女）養子治江（明三五、三生、大阪、鹿島伊助六女）は各分家し孫正一（同四三、一一生、離縁養子榮次郎長男）は分家母きぬの養子となり姉かき（慶應二、一〇生）は愛知縣人吉川久兵衛に嫁せりA二〇四八B三三四（大阪市西區立賣堀南通一ノ二四電新町二九八）

今枝直規

從三位勳四等、男爵、貴族院議員、
舊金澤藩國老
妻　淑　明八、七生、石川、士、長速篤長女
男　外二　明三四、九生、從五位、日本郵船會社横濱支店員、法學士
婿　文子　明四〇、四生、二男外二妻、子爵前田利弘姉
男　良三　明三六、一〇生、金澤放送局技手
婿　初枝　明四四、一生、三男良三妻、三島一夫妹
男　偉四郎　明三八、一生、逓信局技手、東京逓信局勸務、工學士
婦　藤子　明四五、五生、四男偉四郎妻、岡田悌藏妹

當家は養祖重直前田利家に仕へてより以來世々金澤藩の國老として一萬四千石を食み先代直邦に至る君は其長男にして明治三年七月二十一日を以て生れ同七年家督を相續し同三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる同二十六年農科大學林學乙科を卒業し農商務省に入り技手に任じ盛岡巢鶴各小林區署長石川縣勸業事

務嘱託石川地方森林會議員農商務省山林技師等に歴任し大正十四年以來貴族院議員に當選する事二回現に其任に在り公正會に所屬す長男直一(明三三、六生)弟益雄(同六、八生)は各分家し長女紋子(同二九、九生)は子爵大迫尚一叔父元雄に妹鈴(同五、四生)は石川縣士族森經貞に嫁せり(東京市淀橋區西大久保一ノ四一一 電四谷五二六〇)

参照‖子爵前田利弘、岡田悌蔵、大迫元雄の項

今岡賀雄

東京電氣會社員
東京府士族

母　なを　明一四、九生、東京、穀樂勇雄妹
妻　泰子　明三九、六生、海軍中將山路一善長女、聖心女子學院出身
男　純雄　大一四、一生

君は東京府士族今岡純一郎の長男にして明治三十三年六月を以て生れ昭和九年家督を相續す大正十三年東京帝國大學理學部物理學科を卒業し東京電氣會社に入り現在に至る電球事業視察の爲外遊す父純一郎は夙に東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し英國に留學す歸朝後遞信技師帝國鐵道廳技師高等海員審判官等に歴任し後實業界に投じ浦賀船渠會社長外各會社の重役たり蓋し工學博士の學位を受く家族は尚長女千壽子(大一五、一〇生)二女多壽子(昭六、三生、同二女)あり妹加壽子(明四五、六生)は大分縣人三浦忠夫に嫁せりA七三九二(東京市赤坂區青山南町五ノ四五電青山八〇九)

参照‖山路一善の項

今川音蔵

今川商店㊞代表取締役、大阪北土地㊞取締役、和歌山縣在籍

妻　たま　明三〇、二生、大阪、鹿海文助妹
男　正蔵　大一〇、三生

君は愛知縣人今川四郎右衛門の四男にして明治十八年五月十三日を以て生れ大正七年兄松三郎方より分れて一家を創立す現に前記各會社の重役たり家族は尚二男定藏(大一二、一二生)三男準蔵(同一四、五生)四男英蔵(同一三、八生)長女節子(昭三、五生)五男恭三(同五、三生)あり(和歌山市新通六ノ一四電五二四)

参照‖鹿海文助の項

今川覺神

妻　多一　從四位勳五等、前明治專門學校教授、石川縣在籍
男　正　明五、一生、石川、北方蒙長女
　　工　明二八、九生、福岡縣赤坂鐵藥所長、工學士
　　一　明三七、一一生、長男正裏、岐阜道野龍過四女、青森高女出身
婿　よふ　明三八、六生、實踐女學校專門部國文科助教授、實踐女學校專門部國文科出身
女　梅　明四〇、三生、實踐高女教諭、實踐女學校專門部英文科出身
女　安　明三、五生、慶應義塾大學在學
男　和　大三、一四生、慶應義塾大學在學

君は石川縣人今川賢榮の二男にして同一の兄なり萬延元年八月を以て生る明治二十年帝國大學理科大學物理學選科を卒業し一高を初め幾多公私學校の教授に任じ同四十年私立明治專門學校教授兼幹事となり大正十年文部省に移管さるゝや同校教授に任ぜられ昭和八年を辭して閑地にあり家族は尚亡兄拾榮妻ちよ(明元、四生、石川、多田現華蕊妹)甥尹(同二六、一二生、亡兄拾榮長男、現戸主)同妻紀子(同三七、一生、石川、八幡樊準蕊子)及其子女あり(福岡縣嘉穂郡庄内村)

今川治助

今川商店㊞取締役、有價證券賣買業、廣島縣在籍

妻子　正一　明三四、六生、長女好美六、廣島大石樂次郎長男
女　好美　明三五、一〇生、養子正治妻

君は廣島縣人先代治助の長男にして明治九年三月を以て生れ同四十一年家督を相續し前名福治郎を改め襲名す現時前記會社の重役たり弟宗三(明二二、三生)は廣島縣人今川トミの死跡を相續し養子喜久(同二八、一〇生、廣島、池本熊五郎孫)は大阪府人茨木甚之助に嫁せりA三九五(大阪市東區北濱二ノ六二電本局三五四)

参照‖今川宗三の項

今川新三郎

大阪株式取引所取引員
廣島縣在籍

妻　シカ　明三〇、三生、廣島、酒井元吉三女
男　芳郎　大九、三生

君は廣島縣人今川友三郎の四男にして明治二十二年九月二十日を以て生れ大正八年兄卯三郎方より分れて一家を創立す現時大阪株式取引所短期取引員たり家族は尚二男光弘(大一一、二生)三男武久(同一四、三生)長女愛子(同一五、一二生)ありA二五二六B六五七(大阪市東區北濱通二ノ二五電本局九四五)

今川宗三

今川、今川商店各㊞代表取締役、大阪株式取引所取引員、兵庫縣在籍

妻　信子　明二七、九生、廣島、加藤淳久長女
男　清　大一三、一〇生

君は廣島縣人今川治助の弟にして明治二十二年三月を以て生れ同四十一年先代トミの家督を相續す大阪株式取引所一般取引員にして前記各會社の重役たり家族は尚長女任子(大一一、三生)二男啓(昭三、二生)ありA一九七一B二八九(大阪市東區北濱二ノ六二電長本局二二九九)

参照‖今川治助の項

今川太郎

家主
大阪府在籍

母　ヒサエ　明二二、七生、和歌山、伊谷德次郎三女

君は大阪府人今川保太郎の長男にして明治四十二年十二月十二日を以て生れ大正十年家督を相續す家主たり家族は尚弟次郎(明四三、一二生)同正三郎(大元、九生)妹奇美(同三、一〇生)弟四郎(同五、一二生)妹文美(同一〇、四生)ありA三一六六(大阪市東區今橋二ノ一二)

今川唯市

ゴ式燒却爐㊞代表取締役
山口縣在籍

妻　マス　明六、四生、山口、同曾沼郷輔三女
男　義六　明三六、九生、經濟學士
男　周雄　明四三、二生、
男　素夫　明四五、一生
女　節子　大四、一〇生、自由學園在學

君は山口縣人今川和祐の長男にして明治元年十月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治二十七年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し現時ゴ式燒却爐會社代表取締役たり日本最初の長白山脈探檢者にして蓋に歐米比律賓ボルネオを巡遊し椰子麻等の栽培を營みたる事あり家族は尚弟元熊(明八、一〇生)同妻キヨ(同一九、一二生、山口、乾川他人二女)あり長女キク子(同二九、九生)は福岡縣士族今見昇に嫁せり(東京市澁谷區北谷町八電青一九三三)

参照‖今見昇の項

今川武一郎

佐賀百六銀行㊞取締役、豊南銀行㊞監査役、住友銀行㊞樟脳査役
京都府在籍

妻　ふい　明二四、二生、京都、松原續造妹
男　甲三　大六、一二生、府立高校在學

君は京都府人今川晋右衛門の二男にして明治十七年十一月を以て生れ昭和四年兄仙之助方より分れて一家を創立す現に前記各會社の重役たり家族は尚二男雅之(昭三、八生)長女巻子(昭六年生)あり(東京市麻布區笄町九四電青山一二七四)

今川淵

正五位勳四等、臺南州知事
福井縣士族

妻　森惠子　明二八、二生、東京、井手嘉妹
男　安雄　大六、七生

君は福井縣士族今川益太郎の四男にして明治十九年七月を以て生れ大正元年兄登の後を承け家督を相續す明治四十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し大正二年文官高等試驗に合格す翌三年臺灣總督府屬となり同年同府事務官同六年臺北廳事務官歴任同府事務官內務局地方課長等に歴任し昭和二年休職同三年臺灣總督府專賣局參事に任じ同四年官を退きしが同七年再び官に就き臺南州知事に任ぜられ現在に至る家族は尚二男政雄(大九、九生)三男耕治(同一一、九生)四男達治(同一四、三生)長女澄子(同一五、九生)二女マリ子(昭二、八生)あり(臺南市竹園町一丁目知事官舍電八)

今川安藏

乾物商
大阪府在籍

妻　マサ　明一七、六生、榮父駒吉長女
男　安太郎　明三七、八生
婦　ウヤ　明三五、八生、長男安太郎妻、大阪、今川利助妹
男　富三　大二、一一生

君は大阪府人鏮谷安平の長男にして明治九年八月を以て生れ後同府人今川駒吉の養子となり同四十二年分れて一家を創立す乾物商を營む家族は尚長女弘子(大一〇、三生)四男晴雄(昭二、四生)孫澄子(同四、三生、長男安太郎長女)同俊子(同五、九生、同二女)ありA六一〇一四B一九一(大阪市北區盡屋町一ノ二三電北七二九四)

今川義吉

今川印刷所、印刷業
大阪府士族

妻　ふし　明一一、一〇生、滋賀、伴清治郎外喜男重都、島崎重三妹
男　義次　明三四、一生
男　外喜男　明三八、一生、二男外喜男妻、京都、島崎重三妹
男　義次　明四一、五生
婿　重　明四一、五生

君は石川縣士族今川將一の庶子にして明治七年八月二十六日を以て生れ大正六年家督を相續す今川印刷所と稱し印刷業を營み夙に堅實と迅速とを以て好評あり家族は尚孫義雄(昭三、四生、二男外喜男長男)ありA六〇二B二〇二(大阪市東區南久太郎町一ノ五四電船場六八〇)

今給黎友衛

鹿兒島縣多額納稅者、坊泊製米㊞取締役、酒造業、鹿兒島縣士族

妻　トキ　明八、五生、鹿兒島、士、森幸次郎妹
男　正名　明三一、七生
男　哲男　明三三、三生
女　カネ　明四三、一一生
男　文藏　大元、一〇生
女　マキ　大三、一一生

君は鹿兒島縣士族今給黎甚助の長男にして明治六年九月を以て生れ同二十六年家督を相續す酒造業を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅九百九十圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尚孫弘子(昭五、一生、長男正名長男)あり長女トミ(明三五、六生)は鹿兒島縣人田實三良に二女フミ(同三七、五生)同三九、七生)は同縣人小原照雄に嫁し妹ツヤ(同四一、九生)は同縣人森八左衛門長男長武に同ス

ミエ(同二〇、五生)は同縣人久木田茂に嫁せり(鹿兒島縣川邊郡枕崎町小淵電一〇〇)

今北策之助

從三位勳三等、日本銀行㊞監事
東京府在籍

妻　げん　明二一、二生、兵庫、岸田市太郎三女
男　忠夫　明四五、二生
男　孝次　大二、八生

君は大阪府人今北眞三郎の長男にして明治十年六月を以て生れ同二十四年分れて一家を創立す同三十六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格大藏省に入り專賣局屬となり爾來臨時煙草製造準備局參事專賣局屬を經て同局事務官に任ぜられ次で專賣局參事大藏書記官主計局豫算決算課長名古屋廣島各稅務監督局長專賣局事業部長等に歴任し專賣局長官に任ぜられ後之を辭す現時日本銀行監事の職にあり家族は尚三男仁三(大五、一一生)四男義夫(同九、三生)ありA長女ツユ(明三九、一〇生)は岡山縣人水野正藏長男金雄に二女キク(同四二、一〇生)は新潟縣人早山與三郎長男洪二郎に嫁せりA九二一(東京市牛込區南榎町五七電牛込三〇三六)

今北俊比古

十五銀行㊞四野田支店長
鹿兒島縣士族

母　こま　文久三、一生、鹿兒島、內田精一郎母
妻　麗子　明三四、一生、熊本、小山道夫妹
男　昌宏　昭三、一〇生

君は鹿兒島縣士族今北保の長男にして明治二十一年八月三十日を以て生れ大正十四年家督を相續す同四年京都帝國大學法科大學英法科を卒業し翌年滿鐵銀行に入り同行の十五銀行に合併せらるゝや之に轉じ鹿兒島支店長代理兼合熊本各支店長を經て現に同行西野田支店長たり家族は尚長女匡子(大一五、三生)妹俊(明三五、一二生)あり(西宮市常磐町二六電西宮一九九七)

今小路季麿

住友銀行㊞川口支店長
大阪府在籍

妻　ハル　明二六、四生、神奈川、篠原義雄姉

男　英麿　大四、七生

君は鹿兒島縣士族原田忍の五男にして明治十九年十二月を以て生れ先代民尾の養子となり同四十年家督を相續す現時住友銀行川口支店長たり養に和歌山倉庫銀行常務取締役たりしことあり家族は尚三男行麿(大八、一二生)四男芳麿(同一四、一生)ありA一七一(大阪市住吉區天王寺町一九七一電天下茶屋三五九〇)

今里友次郎

長崎縣多額納税者、波佐見銀行㈱取頭、西州銀行㈱監査役、酒造業　長崎縣在籍

母　テツ　嘉永元、一一生、祖父安藏長女

妻　チエ　明一三、八生、長崎、吉田武一郎妹

男　久香　明三〇、二生

婿　喜美　明三六、一一生、長男久香妻、長崎、黒積新吉二女

男　廣記　明四〇、一一生

女　ツヤ　明四五、五生

男　照　大三、八生

君は長崎縣人今里和三の二男にして明治五年三月を以て生れ同三十年家督を相續す酒造業を營み傍ら前記銀行の重役にして現に長崎縣多額納税者に列し直接國税千二百五十圓を納む義に肥前陶磁器長崎油脂工業會社大村銀行紀元石鹸會社の各重役に擧げらる家族は尚七男長一(大五、一生)八男薫(同七、一生)九男富士夫(同九、一生)三女和子(同一二、二生)孫千鶴子(昭二、六生、長男久香長女)両悠紀子(同三、一二生、同二女)あり四男慎吉(明三九、二生)は奈良縣士族齊藤金一郎の養子となり妹タイ(同一九、六生)は熊本縣人鶴田勝平長男善吉に嫁し弟文夫(同二七、五生)同妻ケン(同三一、一生、長崎、吉井卯重二女)は其二子を伴ひ分家せり(長崎縣東彼杵郡上波佐見村宿郷一〇二五電二)

今澤喜代吉

今寄、洋服卸商　東京府在籍

妻　りん　明一二、一〇生、山梨、宮田幾右衛門二女

男　清藏　明三三、一〇生

婿　勝子　明三七、三生、長男清藏妻、千葉市川欽之助姪

男　英麿　大四、七生

君は山梨縣人今澤榮兵衛の二男にして明治九年十月を以て生れ同三十三年分れて一家を創立す今寄と稱し手廣く洋服卸商を營み知らゞ家族は尚孫喜代(昭二、一生、長男清藏長女)同節子(同三、四生、同二女)同喜美子(同五、一〇生、同三女)ありA八〇八B二八二(電渾花四九二一一)

今澤義三郎

香川縣參事會員、高松市會議員　香川縣在籍

母　タカ　安政三、五生、香川、士、山田耕作妹

君は香川縣人今澤平八の二男にして明治二十一年五月を以て生れ同三十四年家督を相續す現縣參事會員高松市會議員たり姉ナラ(明一二、七生)は其四男を伴ひ分家せり(高松市藤塚町一〇)

今澤政五郎

湯淺七左衛門商店㈱監査役　東京府在籍

妻　まさ　明二一、七生、杉下覺之丞三女

男　益太郎　明四五、七生

君は埼玉縣士族今澤勝憲の三男にして明治十一年十一月を以て生れ大正二年兄金藏方より分れて一家を創立す現に湯淺七左衛門商店監査役たり家族は尚二男勝次郎(大六、七生)四男行德(同一一、一生)二女延子(同一三、一二生)五男昭雄(昭四、九生)あり(東京市杉並區馬橋二ノ二四四電中野三五二七)

今清水乾三

雨羽銀行㈱取締役　山形縣士族

妻　はな　明一一、三生、山形、士、上山義秀二女

男　義男　明三八、七生、日本興業銀行員、早大商科出身

男　行雄　大三、五生

君は山形縣士族今荷水津茂里の三男にして明治三年二月を以て生れ同三十年雨羽銀行取締役たり長女梅子(明三四、一〇生)は山形縣人遠藤惟三郎弟清貢に二女まさ(同四四、五生)は同縣人長谷川吉藏四男吉郎に嫁せり(東京市小石川區白山御殿町一一〇電小石川四〇八六)

今城定政

從三位勳三等、子爵、貴族院議員　舊公卿家

妻　友子　明二二、一二生、養父定德長女

男　政典　大元、九生、從五位、學習院在學

女　誼子　明四〇、六生、大宮御所附女官、學習院出身

當家は權中納言中山親綱の二男右少將爲親の後なり爲親分家して中山冷泉と稱し後二代權中納言定淳に至り今城と改む七代を經て先代定德に至り明治十七年子爵を授けらる君其後を承く君實は侯爵中山輔親子爵錦織保親の兄にして明治十一年七月九日を以て生れ同二十五年先代定德の死跡を相續す同三十四年慶應義塾政治科を卒業し同四十四年以來貴族院議員に當選すること四回現に其任に在り研究會に屬す義に大正元年大喪使祭官仰付けらる家族は尚三男政英(大一〇、六生、學習院中等科在學)あり(東京市澁谷區千駄ヶ谷五ノ九九三電四谷二〇〇〇)

參照‖侯爵中山輔親、子爵錦織保親※侯爵菊亭公長※侯爵蜷川公勝※伯爵正親町公和※男爵渡邊修二の項

今城禎太郎

全國旅館組合聯合會相談役、東京旅館組合相談役、今城旅館、旅館業、東京府在籍

男　英一　明二九、五生、早大商科出身

婿　利子　明三八、一生、長男英一妻、神奈川、前島政之助妹、横須賀高女出身

君は新潟縣人今城傳左衛門の二男にして明治五年三月四日を以て生れ同三十九年家督を相續す今城旅館と稱し旅館業を營み推されて全國旅館組合聯合會相談役たり又義に神田區會議員に擧げらる家族は尚孫英男(大一〇、五生、長男英一長男)同明雄(大一五、六生、同二男)同晶子(昭四、四生、同長女)あり二男芳郎(明三八、二生)は分家し長女ノブ(明二六、一生、神田高女出身)は靜岡縣人三田正美弟富士瓦斯紡績會社青島工場技師長東京高工出身久太郎に二女喜代(同三三、一生、出身校同上)は新潟縣人鐘淵紡績會社員東京高工

由身竹内七治に三女ハル(同三六、一生、女子美術學校出身)は千葉縣士族上野朝太郎二男斌郎に四女節子(同四二、一生、麹町高女出身)は東京府人吉川鶴彦三男米澤高工出身時彦に五女キン(同四三、一〇生、出身校同上)は栃木縣人辯護士秋草愛二三男工學士勳に嫁せりA三六七B一六〇(東京市神田區錦町一ノ一電(神田一一一五)

參照‖吉川鶴彦の項

今關常次郎

從三位勳三等、農學博士　千葉縣在籍

妻　ミサホ　明一二、六生、下川富吉郎長女

君は千葉縣人今關友次郎の二男にして慶應三年十一月を以て生れ明治四十年明邦次郎より分れて一家を創立す同二十四年東京帝國大學農藝化學科を卒業し大分縣琴富中學校教諭を經て農商務省農事試驗場技師に任じ大正八年農學博士の學位を受く同十年東京高等蠶糸學校教授に轉じ昭和二年歐米各國に留學し華盛頓府に開催せる第一回國際土壤學會議に日本代表として出席し同三年歸朝同七年退官す(東京市豊島區駒込三ノ三六六電大塚四三五九)

今園國貞

從三位勳四等、男爵、貴族院議員　舊御歌所參候、日本大學教授

母　セイ　安政六、三生、大飯、士、高瀧小藤太二女

妻　ときち　明二五、一〇生、東京、岩倉定妹

男　國光　大一〇、九生

男　房子　大八、二生

當家は内大臣勳修寺光豊の支流宮内大輔芝山國典の二男國映の立つるところなり國映初め南都興福寺の僧となり同寺中賢聖院の住職たり明治元年勅命に依り復飾し愛上の格を賜ひ姓を今園と稱す同八年華族に列し同十七年男爵を授けらる君は國映の長男にして明治十五年七月二十日を以て生れ同二十六年慶爵す同四十五年東京帝國大學文科大學國文學科を卒業し現に日本大學教授御歌所參候にして貴族院議員に選ばれ公正會に屬す家族は尚三女登由子(大九、四生)二男國建(同一五、一生)あり妹文子(明二二、一生)は子爵竹内惟斌叔父茂に嫁妹千賀子(同三九、四生、男爵有馬正頼妹)は廣島縣人松岡治郎弟一衛に各嫁し弟俊忠(同二五、一二生、工學士)は男爵紀俊秀の養子となれりA一七六(東京市淀橋區上落合二ノ六七一電大塚二三二)

參照‖子爵竹内惟斌、男爵有馬正頼、男爵紀俊秀の項

今田庫吉

山陽、紡績㈱代表取締役、原綿染色業、廣島縣物産各㈱取締役　廣島縣在籍

祖母　ヒサ　萬延元、九生、廣島、坡谷半三郎二女

養母　サス　女九、五生、廣島、坡谷倉吉二女

妻　靜子　明三〇、四生、養父倉吉二女

君は靜岡縣人佐藤辰之助の二男にして明治二十五年十月二日を以て生れ後先代庫吉の養子となり昭和五年家督を相續し前名政三を改む夙に京都帝國大學經濟學部に學び現時山陽紡績會社長たる外前記各會社の重役たり家族は尚養妹保子(明四五、一生)あり同定子(同三九、一七、一生)は廣島縣人濱中延吉に同芳子(同三九、一二生)は同縣人原信嗣に嫁せり(廣島市、愛宕町一二八)

今田太一郎

兵庫縣多額納税者、兵庫縣在籍

母　むめ　文久二、一〇生、兵庫、横谷嘉右衛門三女

妻　はつ　明二三、六生、兵庫、平田太七郎二女

男　宗三郎　大元、一二生

君は兵庫縣人今田重三郎の長男にして明治十九年十二月十五日を以て生れ同四十四年家督を相續す現時家主たり直接國税一千六百八十九圓を納め縣下の多額納税者に列す家族は尚三女みよ子(大一二、一〇生)五男佐太男(同一五、六生)あり妹いち(同二六、一生)は兵庫縣人小林富之助に姉いし(同一四、一二生)は同縣人横谷阡陌に各嫁せり(神戸市海見區荒田町三ノ一三電濱川五一四)

今津明

夕刊大阪新聞社㈱監査役、今津化學研究所㈱代表社員、山口縣士族　養父　利馬

嘉永六、一二生

妻　ミサヲ　明一四、一二生、養父利馬長女

男　一郎　明四二、二生

婿　みつ　明四三、九生、岩井清七三女

男　二郎　明四四、四生

女　トシ子　大二、一二生

君は德島縣人花崎彦平の二男にして明治十七年十月十三日を以て生れ先代利馬の養子となり昭和二年家督を相續す先是明治四十四年京都帝國大學理工科大學純正化學科を卒業し後今津化學研究所を創設し今津蝋取粉其他の製造元として鳳れ傍ら前記會社の重役たり義に佛蘭西に留學し同國理學博士の學位を受く家族は尚三男三郎(大五、七生)養妹愛子(明三三、七生)あり(大阪市東淀川區三國本町三〇〇ノ一電吉北一四五)

參照‖岩井清七の項

今津茂

醫學博士、慶應義塾大學醫學部勤務、醫師、東京府在籍

妻　絹　明三五、一〇生、東京、富山傳之助長女

男　千輝　昭三、一〇生

君は埼玉縣人伊佐山源八の二男にして明治三十二年一月二十日を以て生れ大正十年先代タミの入夫となり家督を相續す大正十四年慶應義塾大學醫學部を卒業し現時同大學醫學部に勤務す家族は尚二男萬(昭八、三生)あり(東京市四谷區三光町四〇電四谷二四)

今中德藏

大阪府在籍、菓子商

母　豊三　明四四、一一生、三男豊三妻、大阪、今中久吉三女

婿　愛子　明三三、二生

女　千代子

君は兵庫縣人三木卯八の長男にして明治元年十月十三日を以て生れ先代伊八の養子となり大正四年家督を相續すつるや八轄と稱し菓子商を營む家族は尚孫光子(大一四、一生、二女千代子長女)同敏子(昭二、七生、三男豊藏長女)同國雄(同六、三生同長男)同暐(同八、一一生、同二男)ありA五四四(大阪市東區高麗橋四ノ一五電本局三五三)

今中良

大連商工會議所常議員、浪速町區長、大連ビルブローカー組取締役
小間物商、三重縣在籍
明三、八生、三重、今中仁兵衛二女

養母　とら
妻　いさ　明二〇、五生、三重、服部力二女
男　一正　明四四、二生
男　勝治　大三、九生

君は三重縣人藤森元章の三男にして明治十三年五月を以て生れ先代友吉の養子となり昭和四年家督を相續す初め横須賀佐世保舞鶴各鎮守府に勤務せしが後大連に於て小間物商を開業す現時商記會社の重役にして浪速町區長大連商工會議所常議員に擧げらる家族は尙三男良平(大九、八生)あり(大連市浪速町三)

今仲政雄

北海信託㈱社長、池田實業銀行㈱監査役、酒類商、大阪府在籍

母　タミ　明二三、一一生、祖父半造二女
妻　じゅう　衛門五女
女　章子　大三、一一生

君は大阪府人今仲政二郎の二男にして明治二十二年五月を以て生れ大正八年家督を相續す酒類商を營み傍ら前記銀行會社の重役たり家族は尙四女久子(大一二、四生)五女俊子(同一三、一二生)ありA七三三(大阪府豐能郡細河村木部新宅電池田三〇二)

今永駒吉

日鷲實業㈱取締役、今永商店代表社員、繊帶材料ゴム製品商
大阪府在籍

妻　スヨ　明一五、九生、大分、飯田藤夫姉
男　九一郎　明四三、九生
女　文子　明四一、一生
男　禮吉　大三、三生

君は大阪府人今永惣平の五男にして明治七年九月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す現時繊帶材料ゴム製品商を營み傍ら前記各會社の重役にして叢に三益興業會社の取締役たりし事あり家族に尙四女美代子(大九、八生)あり長女盛枝(明三五、一生)同夫六郎(明二七、三生、德島、坂東太郎弟)は其二男を伴ひ分家せりA一三一(大阪市東區鈴鐘町二ノ三二電東二〇三四)

今永幸生

大分縣士族

妻　たか　明一四、九生、醫學博士合馬愨姉
男　一　明三五、六生、九州帝國大學赤岩外科講師、醫學博士
男　明四四、一〇生、長男一妻、長崎醫科大學校長高山正雄二女
婿　みね　明四四、一生、東京帝大經濟學部在學
男　三津彦　明四二、七生、早大理工科在學
男　四方彦　大四、九生、實踐女子專門學校家政科在學
女　千枝

君は大分縣士族元宇佐八幡宮權大宮司從五位下今永宮依の長男にして明治六年三月十八日を以て生れ後家督を相續す同二十七年慶應義塾を卒業爾來父祖の業を繼ぐ直接國稅千五百二十四圓を納め現時村會議員學務委員第一次第二次家屋稅調査委員八幡信用組合長社會教育委員長の名譽職等に擧げられ讀書謠曲碁將棋に趣味を有す家族は尙孫宮子(昭七、三生、長男一長女)同宮福(同九、六生、同長男)あり二男又彦(明三七、六生、慶應醫大出身、醫學研究中)は醫學博士合馬愨の養子となれり(大分縣宇佐郡八幡村)

今成三策

新潟縣名額納稅者、栃尾鐵道㈱取締役、酒造業
新潟縣在籍

母　レン　明七、三生、新潟、今成宗七郎長女
妻　貞　明三七、三生、新潟、小林芳一二女

君は新潟縣人先代茂七郎の長男にして明治二十七年六月二十八日を以て生れ昭和四年家督を相續す現時酒造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅千七百四十圓を納む家族は尙長女アイ(大一五、九生)二女ヒサ(昭四、三生)あり(新潟縣古志郡栃尾町)

今西伊三郎

家主
大阪府在籍

父　重五郎　明一一、四生
母　セロ　明二二、二生、大阪、瀧山一郎姉

君は大阪府人今西しんの孫同才助の長男にして明治四十四年十二月二十三日を以て生れ大正八年祖母しんの跡を承けて家督を相續す現に家主として知らる家族は尙妹キク(大三、一〇生)ありA四一五(大阪市東區高麗橋壓四五)

今西儀兵衛

金屬鈕商
大阪府在籍

妻　はな　明一五、一生、大阪、山田喜一姉
男　良三　明三七、八生、同志社高等商業部出身
婿　貞子　明四五、一生、長男良三妻、大阪菅原嘉造三女、甲南高女出身
女　ミツ　明三九、六生、大阪府立夕陽丘高女出身
女　加壽子　明四二、五生、大阪府立夕陽丘高女出身

今西家は大阪土着の商家にして代々糸及花替原料商を營み先代儀兵衛に至る先代儀兵衛祖業を繼承せしも後之を廢し金屬鈕製造を創め時代の好尙に投じ當家今日の基礎を築けり君は其長男にして明治四年三月を以て生れ大正三年家督を相續し前名福太郎を改め襲名す曩に大阪板紙製造會社の重役たりしも現時之を辭し父業金屬鈕製造を營み知らる家族は尙三男孝一(大四、一生)四男儀造(同六、三生)あり長女キミ(明二五、一〇生)は大阪府人高池トクの養子となり弟英次(同一七、九生)同妻さい(同二七、六生、兵庫、本庄銀三郎姉)は分家せりA一三七八(大阪市南區玉屋町一七電南一三八九)
參照‖菅原嘉造の項

今西源太郎

小間物卸商
京都府在籍

母　ツル　明九、八生、京都、今西與左衛門二女
妻　イサ　明四二、一生、京都、吉村金吾五女

君は京都府人先代源太郎の長男にして明治三十九年八月二十七日を以て生れ昭和四年家督を相續し前名源治郎を改め襲名す小間物卸商を營む家族は尙妹ツヤ(大二、一二生)ありA三〇五(京都市下京區南鱗寺永觀堂町)

今西甚五郎

正四位勳三等功五級、陸軍中將
長崎縣在籍

明一七、三生、和歌山、馬淵近之丞長女
男　功夫　大三、四生
女　ちせ　明四二、八生

君は長崎縣人今西德太郎の長男にして明治四年十月を以て生れ大正十一年家督を相續す夙に陸軍士官學校を卒業し明治三十年陸軍砲兵少尉に任じ大正十五年陸軍中將に累進す其間陸軍省軍務局課員重砲兵第一聯隊長陸軍砲工學校教官野砲兵第六聯隊長重砲兵學校長砲兵靈部付陸軍技術會議々員等に歷補し明治四十三年歐洲に差遣せられ大正十五年豫備役となる家族は尙弟與一郎(明一七、七生)同妻ハツ子(同三四、六生、長崎、園田力妹)及其二子あり妹まき(同八、一生)は長崎縣人山川吉太郎に嫁せり(東京市杉並區荻窪四ノ九七電荻窪二二三四)

今西末吉

土木建築請負業
大阪府在籍

妻　トメ　慶應三、九生、奈良、安田壽隆長女
男　末吉　明二一、三生、現戸主
婿　タツ　明二五、一生、長男末吉妻、大阪石田吉次郎長女
男　留吉　明四一、九生
孫　壽雄　大三、九生、長男末吉長男
孫　トキ子　大六、八生、長男末吉長女

君は奈良縣人今西儀三郎の三男にして明治元年十二月十五日を以て生れ後家督を相續す土木建築請負業を營むA二八六五B七七六(大阪市住吉區北畠中一ノ六〇電戎五〇一五)

今西清治郎

白米商
京都府在籍

養父　清兵衛　明三、二生
養母　カメ　明治一〇、三生、祖父儀助長女
妻　マス　明三五、五生、養父清兵衛長女
男　儀一　大一四、一生

君は滋賀縣人梅村次三郎の三男にして明治二十三年十一月十五日を以て生れ大正十三年清兵衛の養子となり昭和五年先代祖父清次郎の跡を承け家督を相續し前名末治郎を改め襲名す白米商を營む家族は尙長女良枝(大二、二生)ありA三二七B一四三(京都市今出川通寺町西入電上八六四)

今西清兵衛

奈良縣多額納稅者、酒類醸造及奈良漬製造販賣元、奈良縣在籍

妻　ヒサ　明一三、八生、奈良、好川忠一妹
男　清三　明三六、五生
婿　幸　明三六、一二生、長男清三妻、大阪、猪狩金三郎五女
女　富久　明四一、九生、奈良女高師附屬實科卒
女　ふさ　大二、一生、奈良女高師附屬實科高女出身
女　タカ　大四、五生
女　テイ　大七、六生

今西家は先代清一の立つる所なり清一夙に酒類醸造の業を修得し清酒味淋燒酎等の醸造を始め又奈良漬の製造販賣に奬勵し當家今日の基を成せり實は其繼子にして明治十一年六月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名富太郎を改む家業を繼ぎ酒類醸造業を營み又奈良漬本舗として知られ奈良縣多額納稅者にして直接國稅千百七圓を納む家族は尙孫良(昭二、一一生、長男清三長女妹シツ(明一八、一一生)あり姉テイ(同四、二生)は奈良縣人好川忠一に同セイ(同一〇、一生)は同縣人奥田廣海に嫁し弟清次(同二七、一一生)は同縣人三四、四生、奈良、豊田七左衛門長女)と共に分家せり(奈良市福知院町二四電二五五)
參照‖好川忠一の項

今西善次郎

彌榮商事㈱取締役、鍵善本舗、菓子商、京都府在籍

妻　カツ　明九、四生、京都、鈴木竹次郎三女
男　善造　明三七、一一生
婿　福　明四二、一生、男善造妻、京都、本田喜七郎庶子

君は京都府人今西與三郎の長男にして明治六年四月を以て生れ同十四年家督を相續す鍵善本舗と稱し菓子商を營み傍ら彌榮商事會社代表取締役たり曩に同會社々長に擧げらる養子仲造(明一七、一生、亡長女ツイ夫、京都、平岡秀之助弟)は其二女を伴ひ分家し六女愛子(大三、一一生)は東京府人鈴木吉郎兵衛の養子となれりA六三八(京都市東山區祇園町北側二六四電祇園一八一八)

今西民造

製菓業
京都府在籍

妻　あい　明一四、一一生、亡夔父政助長女
男　政造　明三六、六生
婿　ツネ　明四一、二生、二男政造妻、京都林常二郎三女
男　義三　明四四、一二生
男　民治　明四四、三生

君は京都府人古川新太郎の三男にして明治九年十一月二十七日を以て生れ先代政助の養子となり大正六年家督を相續す製菓業を營む家族は尙凌造(昭二、一〇生、二男政造長男)同俊惠(同四、一〇生、同長女)あり長女たつ(明三三、三生)は分家せりA三四七(京都市下京區綾小路通鍛屋町西入ル電下二三二六)

今西保治

三菱電機會社技師、神戸製作所勤務、兵庫縣在籍

妻　峯子　明三八、四生、神奈川、秋田松二郎長女

君は福岡縣人内丸民平の四男にして明治二十七年三月を以て生れ今西林三郎の養子となり昭和二年榮兄與三郎方より分れて一家を創立す現時三菱電機會社技師にして神戸製作所工作課工程係たり義に今西商店取締役たりし事あり家族は尙長女雄子(大一二、一二生)ありA四〇九(兵庫縣武庫郡住吉村岸倉一〇九六電御影五〇六四)
參照‖今西與三郎の項

今西保知

從五位勳五等、御濠區裁判所監督判事彙支部判事、奈良縣在籍

妻　しも　明二五、七生、愛知、高取傳六長女

君は奈良縣人にして明治十四年三月二十六日を以て生る同三十八年關西大學を卒業し大正三年判檢事登用試驗に合格す直ちに司法官試補となり同五年判事に任ぜられ同七年臺灣總督府法院判官に轉じ臺中臺南各地方法院に在勤す同十年再び判事に任じ山口葛城高松各區

裁判所判事に歴任し現時御蔵區裁判所監督判事兼支部判事たり（岐阜縣平民郡萬町御蔵區裁判所内）

今西與三郎

東洋木材防腐㈱取締役會長、阪神電氣鐵道㈱專務取締役、阪神國道自動車、杉村倉庫、朝日海上火災保險各㈱取締役、大阪三品取引所㈱理事、大阪三品取引所大阪府在籍

妻　たね
夫　フミ
男　弘惠
妹　明治二、八生、養父林三郎長女
明治三、八生、養父林三郎長女
大六、一一生

今西家は先代林三郎より家名を揚ぐ林三郎夙に實業に志し南豫製絲會社を初め各種會社を創設し又大阪三品取引所長大阪商業會議所會頭衆議院議員等に擧げられ關西實業界の重鎮として知らる君其後を承く君實は大阪府人石井庄七の六男今西保治の妻兄にして明治二十年四月を以て生れ先代林三郎の養子となり大正十三年家督を相續す大阪高等商業學校卒業後更に京都帝國大學法科大學政治科に入り明治四十五年之を卒へ山下汽船會社に入り後大阪商船會社に轉ず現に東洋木材防腐會社取締役會長たる外前記諸會社の重役にして大阪三品取引所理事大阪貿易學校理事たり家族は尚二男享二（大八、六生）三男道三（同一四、一生）四男四郎（昭二、二生）長女章子（同五、二生）養妹屋壽子（明四二、九生）同夫直（同三二、七生、大阪、中村兵市四男）及其一子あり養妹トク（同三九、一生）同夫義男（同三一、四生、鳥取、川口千賀治弟）は其子女を伴ひ分家せり

A一三一〇〇（大阪市西區東田三番町二四電西一四二）

参照＝今西保治の項

今西與七郎

互福商會員
滋賀縣在籍
妻　照　明二一、六生、故海軍中將玉利親賢女、學習院女學部出身
男　英俊　明四二、一一生

君は滋賀縣大津市の人にして明治八年五月を以て生れ同十五年今西與兵衛の養子となり家督を相續す同三十一年東京高等商業學校を卒業し滋賀縣立商業學校教諭横濱正金銀行員東海生命保險相互會社取締役を經て日本パルプ三生製藍京三製作所各會社の重役に擧げられしも之を辭し現時互福商會員たり二男吉彦（明四四、三生、雙葉高女出身）二女清壽子（大四、三生、昭和肥料會社員、慶大出身）長女清壽子（同七、一〇生、同上在學）は分家せり（東京市赤坂區青山南町六ノ一二五電青山一五五五）

参照＝※柏木正文次古字田實の項

今西與兵衛

青北瓦斯石油、今與商店各㈱取締役、今與、小間物卸商
京都府在籍
元治元、一一生、京都、今西與三衛門長女
明二四、四生、京都、瀧川常七四女
男　信一　明四五、三生
男　厳二　大三、三生
女　静子　大五、八生

君は京都府人先代與兵衛の長男にして明治二十一年七月を以て生れ昭和四年家督を相續し前名儀三郎を改め襲名す今與と稱し小間物卸商を營み傍ら前記會社の重役たり嘗に比叡登山鐵道會社監査役に擧げらる家族は尚二女喜久子（大九、一一生）弟彌三郎（明三一、二生）三男國三（昭四、一生）妹三郎（明三、一生）ありA一二三（京都市下京區五條通高倉東入鹽竈町三六四電下一三七）

参照＝※稲垣爲三郎淡太川金七の項

今福淺吉

兵庫縣多額納稅者、醸造業、兵庫縣在籍
男　増藏　明三四、七生、長男増藏妻、和歌山、拼井銳次郎妹
婿　をいく　明三一、九生

君は兵庫縣人今福富吉の二男にして明治八年三月を以て生れ後分れて一家を創立す東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し陸軍庫縣多額納稅者に列し直接國稅二千四百六十五圓を納む家族は尚庶子孝良（大六、一生、生母、兵庫、奈良、油谷ヨネ）同清七（同一二、一一生、生母、兵庫、牧野やす）同よね（同一三、三生、生母、奈良、油谷タツエ）同敬江（同一五、一〇生、生母、同上）同久美（昭四、二生、生母、同上）同進陽（同七、一生、生母、同上）孫淺子（大一一、一〇生、長男増藏長女）同愛江（昭二、一生、同二女）同基悦（同五、一一生、同二男）長女あさの（明二八、五生）は德島縣人士佐半藏三男喜一郎に嫁せりA一九二一B一三九（神戸市林田區明治町二ノ五電兵庫五三八）

今淵正太郎

青森縣多額納稅者、今淵保正社㈱代表取締役、農業、青森縣士族
母　みや　明三三、八生、山形、士、鈴木誠作三女
妻　せつ

君は青森縣士族今淵正苗の長男にして明治二十一年九月を以て生れ昭和三年家督を相續す農業を營み現に今淵保正社長にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千九百四十七圓を納む家族は尚姉みよ（明一九、一〇生）同夫忠助（同一八、一一生、福島、板倉虎雄父、今淵保正社取締役）及其一子並に愛妹幸（同四二、五生、青森、田名部德蔵四女）あり叔父恒壽（同五、一〇生）は其妻子を伴ひ各分家し叔母かく（安政六、五生）は青森縣人田町惠男の家籍に入れり（八戸市鳥野部町）

今堀辰三郎

従七位勳六等、陸軍二等藥剤官、名古屋市會議長、東海製藥㈱專務取締役、愛知縣士族
男　恭一　明三九、一〇生
女　とき　明四一、二生
男　直彦　明四三、七生
女　はる　大元、一二生
女　まさ　大三、四生

君は愛知縣士族今堀立彦の庶子にして明治十年九月を以て生れ同三十六年家督を相續す夙に東京藥學院を卒業し現時藥劑師にして名古屋市會議長に擧げられ傍ら前記會社の重役たり兼に衆議院議員たりし事ありA一九五（名古屋市中區矢場町三ノ一八五電中一七八五）

男　晶一　大五、一〇生

君は京都府人今堀石松の三男にして明治二十三年二月十四日を以て生れ大正六年家督を相續す襲陶業を營む家族は尚二男賢二（大八、二生）四男清治（同一三、二生）長女貞子（同一五、一一生）五男寛造（昭三、九生）六男和男（同六、七生）二女八惠子（同七、一二生）三女直子（同九、五生）あり弟一藏（明二六、五生）同妻みの（同二八、四生、京都、高安捨松三女）は其一女を伴ひ分家し妹ヒテ（同三〇、三生）は京都府人田中庄兵衛長男順造に嫁せりA四〇七（京都市東山區大和大路五條下二丁目東入電祇園七三八）

今見昇

従五位勳六等、陸軍工兵少尉、樺太廳技師、農林部林業課長
福岡縣士族
妻　キクチ　明二九、九生、山口、今川唯市長女
男　律　大八、一一生

君は福岡縣士族前田實穂の二男にして明治二十年二月を以て生れ同三十年先代義勇の養子となり家督を相續す大正五年東北帝國大學農科大學林學科を卒業し同年朝鮮總督府營林廳技手南洋廳產業試驗場技師等に歴任し昭和五年樺太廳技師に任じ農林部林業課長たり嘗に南洋殖產會社技師として比律賓群島に三ケ年間在留せし事あり家族は尚長女一枝（大一一、一生）二女ノブ子（同一三、九生）三女和子（昭三、一二生）あり（樺太豊原郡豊原町樺太廳内電二一四九九・三三七〇）

参照＝今川唯市の項

今嶺秀貞

京都府多額納稅者、家主
京都府士族
母　ナヲ　安政六、七生、京都、田中重兵衛長女
妻　トク　明二四、五生、京都、栗田政次郎五女
養子　秀成　明四五、七生、弟秀直長男

君は京都府士族今嶺秀海の長男にして同秀直の兄なり明治十四年二月を以て生れ大正十年家督を相續す家主にして京都府多額納稅者に列し直接國稅四千四百七十四圓を納む家族は尚養姉マス（明八、七生、京都、田中周藏長女）あり弟秀直（同一七、一二生）同妻いと（同二四、五生、京都、大西寅吉妹）は其一女を伴ひ分家せり（京都市上京區河原町丸太町上ル電上二四二三）

参照＝今嶺秀直の項

今嶺秀直

家主
京都府在籍
妻　いと　明二四、五生、京都、大西長次郎四女
養子　藤太郎　明三四、七生、三重、紀平藤市三男

君は京都府人今嶺秀海の二男にして明治十七年十二月二十五日を以て生れ大正十三年兄秀貞方より分れて一家を創立す家主たり長男秀成（明四五、七生）は兄秀貞の養子となれりA五八八八（京都市上京區河原町丸太町上ル電上二四二三）

参照＝今嶺秀貞の項

今宮勝也

従四位勳四等、公證人
北海道在籍
妻　モト　明二二、七生、北海道、窪田平左衛門長女
男　勝　大三、一二生、早大在學
女　朝江　明四三、六生、實踐女學校高等師範部出身
女　容子　大二、一生、和歌山縣立粉河高女研究科出身
女　春枝　大六、一生、實踐女學校專門部家政科在學
女　義枝　大七、九生、和歌山縣立粉河高女在學

君は北海道士族今宮勝太郎の四男にして明治十一年八月を以て生れ同四十三年兄厚重方より分れて一家を創立す夙に東京法學院に學び同三十九年判檢事登用試驗に合格し同四十一年判事に任じ爾來函館區同地方裁判所判事鋼路地方裁判所鑑査判事兼秋田地方裁判所大曲支部々長に歴補し妙寺區裁判所判事を經て昭和九年大阪控訴院部長に補せられ同年之を辭し現時公證人たり家族は尚二男義勝（大九、七生）三男四郎（同一三、一一生）四男四郎（同一五、一一生）五女壽惠（昭三、一一生）あり（札幌市北一條西三ノ三電三九二〇）

今宮次郎兵衛

水野屋、材、木商地家主
東京府在籍
母　かめ　文久二、八生、今宮太郎兵衛長女
妻　あき　明二〇、一〇生、東京、山路喜三郎長女
男　太一　明四〇、一二生
婿　ユキ　明四三、八生、長男太一妻、東京荒井忠次郎妹
女　豊　明四二、一一生
女　可津子　明四五、一一生
女　千代子　大二、一二生

君は東京府人先代塚七の長男にして明治十五年十二月一日を以て生れ昭和二年家督を相續す水野屋と稱し材木商を營み又地家主として知らる妹芳（明四〇、九生）は東京府人阪田二三穂に嫁せりA八八五（東京市淀橋區角筈二ノ三三電四谷八九五）

今村明恒

従三位勳二等、理學博士、帝國學士院會員、震災豫防評議會評議員、兼幹事、地球物理研究會議會議員、地球物理部長、成城學園理事長
妻　ヨシ　明一二、七生、鹿兒島、士、上村慶介二女
男　文雄　明三三、三生
男　久　明三五、七生
女　サダ　明四三、二生
男　正治　大二、二生
女　カネ　大七、一二生

君は鹿兒島縣士族今村明清の三男同明光の兄にして明治三年六月を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す同二十七年帝國大學理科大學物理學科を卒業し陸軍士官學校教授東京帝國大學理科大學助教授を經て同三十八年理學博士の學位を授與され夫で東京帝國大學教授に任ぜられ理學部に勤務し昭和六年退官す現時成城學園理事長たる外前揭各職に在り帝國學士院會員に列し本邦地震學者昇の權威者を以て知らる大正十一年歐米に昭和二年同五年の二回に亘り歐洲に出張す家族は尚五男昇（大一四、一〇生）六女フキ（同九、一一生）あり三女ノリ（明四一、二生）は鐵道局技師山本利三郎に嫁せりA一一四（東京府北多摩郡砧村電砧三三五）

参照＝今村明光の項

今村明光 從六位、醫學博士、東京女子醫學專門學校教授、同附屬病院內科部長、日本內科學會評議員、東京府在籍

妻 ちかゑ 明治五、五生、陸軍々醫總監、平井政道長女

男 清 明四五、五生

君は鹿兒島縣士族今村明清の六男同明恒の弟にして明治十六年二月十九日を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明四十二年東京帝國大學醫科大學を卒業し曩に醫學博士の學位を授けらる現時東京女子醫學專門學校教授にして同校附屬病院內科部長を兼ね推されて日本內科學會評議員たり曾て東京帝國大學助教授山梨縣病院長たりしことあり家族は尙長女有美(大一四、二生)あり(東京市牛込區矢來町五六電牛込二三三八)

參照‖今村明恒、平井政道の項

今村荒男 從五位、醫學博士、大阪帝國大學教授、醫學部勤務、奈良縣在籍

妻 ハル 明三〇、四生、京都、石田英一郎女

男 勤 昭二、五生

女 文子 大五、八生

女 澄子 大八、九生

君は奈良縣人今村幸男同奇男の弟にして明治二十年十月を以て生る大正元年東京帝國大學醫科大學を卒業す現時大阪帝國大學教授にして醫學部勤務たり大正十一年醫學博士の學位を受く家族は尙三女和子(大一〇、四生)四女玲子(同一三、一二生)ありA一九〇(西宮市南鄕町五七電二〇八)

參照‖今村奇男、今村幸男宗武藤虎太淤山本淳二の項

今村完道 正五位勳四等、臺北帝國大學教授文政學部勤務、愛媛縣在籍

妻 チエ 明三〇、一生、長崎、柴原光彰女

男 達夫 大一〇、一生

女 泰子 大四、七生

君は愛媛縣人今村祐次の四男にして明治十七年十一月を以て生る同四十五年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し大學院に學ぶ大正四年日本大學講師となり爾來豐山大學東京農業大學國學院大學豫科各講師松山會社常務取締役にして日本レイヨン會社監査役に擧げらるA六一四六(西宮市森貝蓮毛七四六電西宮二三四一)

參照‖今村荒男、今村幸男淤武藤虎太淤山本淳二の項

今村恭太郎 從三位勳二等、專修大學監事、早稻田大學講師、東京府在籍

妻 美子 明一〇、五生、陸軍中將武內徹三男

君は東京府人故大審院判事今村信行の長男にして明治二年五月十日を以て生れ同四十二年家督を相續す同二十三年明治法律學校を卒業し同二十六年判檢事試驗に合格し判事に任じ爾來東京區裁判所同地方裁判所東京控訴院各判事及都長を經て大正二年神戶地方裁判所長に轉じ更に橫濱東京各地方裁判所長廣島控訴院長等に歷補す現時官途を辭し專修大學監事となり傍ら早稻田大學講師を兼ぬ妹トラ(明一一、七生)は陸軍中將武內徹に嫁し弟雄三(同九、二生)は東京府人松川六郎の養子となれり(東京市小石川區水道端町二ノ五一電大塚五〇六八)

今村金三 富士洋紙店(株)常務取締役

妻 フユ 明二八、一生

男 太郎 大八、一生

君は大分縣士族今村次央の三男にして現戶主富子の叔父なり明治十七年六月十八日を以て生る明治四十一年富士製紙株式會社に入り販賣部副長兼大阪出張所長たりしが現時株式會社富士洋紙店常務取締役たり家族は尙二男欽二(大九、八生)經當子(現戶主)あり(兵庫縣川邊郡立花村塚口九六六九電伊丹三二二〇)

今村奇男(クスワ) 大日本紡績(株)常務取締役、日本レイヨン(株)監査役、奈良縣在籍

妻 幾 明二三、一二生、海軍中將山田彥八女

君は奈良縣人現戶主幸男の弟にして今村荒男の兄なり明治十二年十一月十八日を以て生る同三十九年京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し現時大日本紡績會社常務取締役にして日本レイヨン會社監査役に擧げらるA六一四六(西宮市森貝蓮毛七四六電西宮二三四一)

參照‖今村荒男、今村幸男淤武藤虎太淤山本淳二の項

今村邦典 從四位勳五等、元朝鮮總督府道事務官、東京府士族

母 ヨネ 安政四、五生、中村孫一叔母

妻 嬉美子 明二九、四生、東京、矢野亮一長女、御茶の水高女出身

君は山口縣士族今村直心の三男にして明治十七年一月二十二日を以て生れ同三十八年家督を相續す同四十五年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し大正二年文官高等試驗に合格す同三年朝鮮總督府試補となり同五年同府道事務官に任じ爾來咸鏡北道第二部長同財務部長を經て同十二年朝鮮總督府秘關長に同十三年再び道事務官に任じ慶尙北道財務部長忠淸北道警察部長等に補せられしも後ち辭して現時閑地にあり家族は尙弟達(明一九、八生)あり(東京市牛込區南町九)

今村定治 從五位勳四等、遞信局事務官、仙臺遞信局保險課長、宮城縣士族

妻 起美 明二二、一生、埼玉、鹿島義富三女

男 晴男 明四二、二生

男 晴見 明四四、一生

君は宮城縣士族今村貞延の二男にして明治十年五月三十一日を以て生る同三十一年通信書記補となり通信書記通信屬を經て同三十七年軍事郵便課第四部主事として出征同三十九年凱旋し功に依り勳七等旭日章を賜ふ大正五年通信事務官補に任じ爾來遞信局事務官補名古屋遞信局保險課長遞信局副事務官遞信局事務官熊本遞信局保險課長等を歷任し昭和二年仙臺遞信局保險課長となり今日に至る同年米國に出張し英國を經由して同三年歸朝す家族は尙五男定男(大八、四生)六男正本(同一二、一生)七男敏(同一四、八生)八男猛夫(昭二、三生)兄貞敬(明三、一二生、現戶主)同妻たりよ(同六五生、宮城、高橋繁隆妹)及其一男一女あり(仙臺市光禪寺町六二電七七五)

今村幸男 住友信託(株)取締役、住友生命各(株)取締役、大阪北港(株)取締役、住友電線製造所、住友鋼所各(株)監査役、住友倉庫理事、奈良縣在籍

妻 トミ 明三七、二生

男 勤一 明四〇、一生

男 祥二 明四一、九生

男 申三 明四一、九生

當家は奈良縣生駒郡安堵村士着の舊家にして往時柳生藩に仕へたる典醫なり數代前より農に從事し先代勤三に至る勤三夙に實業界に入り讃岐鐵道奈良鐵道奈良縣農工銀行長谷鑛道各會社の創立に參與し郡山紡績會社長として功績あり又奈良縣再建に際して產を傾けて奔走盡力し最初の奈良縣會議長となり次で第一期奈良縣選出代議士に選ばれ國民黨の領袖として其の名を知らる君は其の長男にして今村奇男同荒男の兄なり明治七年十一月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直に住友銀行に入り累進し京都神戶米國紐育各支店長本店支配人常務取締役の外南記銀行會社の重役を兼ぬ長女幸(明三八、七生)は熊本縣人武藤虎太長男義雄に姉クマ(同四、六生)は奈良縣人莊司吉平長男邦太郎に妹ヨシ(同一〇、三生)は京都府人小野助次郎長男善太郎に同博子(同二三、八生、奈良高女出身)は大阪府人井上三郎に同銕子(同二七、五生、奈良高女出身)は醫學博士山本淳二に嫁し叔父萬三(女久三、三生)は奈良縣人本村長三郎に弟愷男(明三〇、六生)は元代議士中山藤次郎に各養子となり同和男(同一五、八生)は同縣人河合ミナの入夫となれりA四八九九(西宮市南鄕三五電西宮二八八)

參照‖今村荒男、今村奇男、武藤虎太、山本淳二の項

今村次吉 從四位勳四等、日露實業(株)顧問、大日本臨球協會々長、東京府在籍

妻 喜久子 明一八、一生、東京、士、加地吉彥妹、實踐高女出身

男 逸一 明四〇、二生、三菱銀行勤務、經濟學士

婦 登代子 片岡安二女、明四四、一生、御茶の水高女出身

女 孝子 明四四、一生、雙葉高女出身

女 龜美子 大二、一生

男 誠次 大三、一二生

當家は舊金澤藩の世臣なり君は故今村有隣の二男醫學博士今村新吉の弟にして明治十四年三月十五日を以て生れ叔父去三の跡を繼ぎ其家督を相續す同三十七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業大藏省に入り大藏書記官を經て海外駐劄財務官に任じ露實業界に入り日露實業會社亞細亞林業哈爾賓皮革大和釀造各會社の社長に擧げられ次で東京市財務局長に就任せしが後之を辭し現に日露實業會社顧問日本蹴球會長大日本體育協會理事たり運動に趣味を有す家族は尙三男省三(大六、二生)四女龜代子(同九、三生)五女當龜子(昭二、四生)あり長女貞子(明四一、一二生)は京都府人坂口芳久に嫁せりA四九五(東京市本鄕區駒込曙町一〇電大塚一九六)

參照‖今村新吉、加地吉彥の項

今村繁三 東洋綿布(株)取締役、汽車製造、熱帶產業各(株)取締役、第一生命保險(互)取締役、東京府在籍

妻 とし 明四二、八生

男 精一 明四八、一二生、男爵新田義美姉

女 靜子 明四四、三生、成蹊高女出身

女 登世 大二、四生、成蹊高女出身

女 眞子 大三、一〇生、成蹊高女出身

女 八重子 大六、七生、卒業

君は實業家今村清之助の二男にして明治十年一月二十三日を以て生れ同三十五年家督を相續す夙に東京高等師範學校附屬中學校を卒へて英國に遊び劍橋大學トリニチー・カレッヂの稱號を受く歸朝後實業界に志し現時前記各會社の重役たり曩に東京府多額納稅者に列す又曾て今村銀行頭取臺灣拓殖製茶會社取締役たりし事あり書畫に趣味を有す長女香代(明三七、一二生、成蹊高女出身)は東京府人櫻井小太郎二男經濟學士廣一に二女厚子(同三九、五生、出身校同上)は同府人赤司鷹一郎長男理學士嘉志和に三女重子(同四四、一生、長男進一妻、京都人今村奇男、武藤虎太、山本淳二の項

今村品太郎 今村乾燥機製作所(株)代表社員、各種乾燥裝置製作業、山口縣在籍

妻 喜代子 明三二、一一生、東京、三枝周吉四女

男 勝彥 昭二、一〇生

君は山口縣の出身にして京都高等蠶業學校別科を卒業後生繭乾燥裝置の製造に從事し今村式乾燥機を發明し合資會社今村商會を創業せり君は其の長男にして明治二十六年五月二十六日を以て生れ昭和八年十一月二十日家督を相續し前名義人を改め襲名す同年父の遺業を繼承之を合名會社今村乾燥機製作所と改稱し現に其の代表社員として各種乾燥裝置の製作に當る常に家業の發展機械の改善に努力し生繭乾燥裝置一般化學紡績釀造用原料等の乾燥機を完成す家族は尙長女久美子(大一四、二生)あり叔母ツル(慶應三、二生)は山口縣人川田平治郎に同シヅノ(明九、六生)は同縣人岡田三代吉に嫁せり(名古屋市西區東枇杷島町杉町一二電西三三〇六)

今村信吉 東京領子、東京寶塚劇場、甲子園ホテル、東橫乘合各(株)取締役、小松製作所(株)監査役、東京府在籍

妻 歲子 大三、一生

男 隆郎 大四、二生

女 和子 大四、二生

君は東京府人今村清之助の四男にして同繁三及井上周の弟なり明治十七年八月を以て生れ大正三年兄繁三方より分れて一家を創立す明治四十三年東京帝國大學法

科大學獨法科を卒業し直ちに三井銀行に入り大正九年一月同行を退く現時前記會社の重役にして養に東京商業貿易會社今村銀行等の重役を兼ぬ家族は尙二男知雄（大六、九生）あり（東京市澁谷區青葉町一五電青山二五一一）

參照＝井上周、今村繁三、堀越善重郎※男爵松井慶四郎※串田萬藏※櫻井小太郎※渡邊龍聖の項

今村信次郎

妻　時　正四位勳二等功五級、海軍中將、第三艦隊司令長官、東京府在籍

男　一郎　明四五、一生　明二四、二生、宮島信吉三女

女　靜子　大二、七生

君は舊米澤藩士今村瀧次郎の二男にして明治十三年五月を以て生れ大正二年男爵を正方より分れて一家を創立す明治三十五年海軍兵學校を卒業し同三十六年海軍少尉に任じ海軍大學校を卒業し大正十四年海軍少將昭和五年海軍中將に累進す其間海軍省副官海軍大臣祕書官獨英各國駐在軍令部參謀第一艦隊參謀新高艦長海軍大學校教官兼軍令部參謀海軍大學校教頭兼教官兼海軍技術本部技術會議々員目向艦長東京武官侍從武官等に歷任し昭和六年練習艦隊司令官となり現時第三艦隊司令長官たり（東京市大森區新井宿四ノ一〇〇六電大森三五〇二）

今村新吉

母　末　從三位勳二等、醫學博士、京都帝國大學醫學部教授、東京府在籍

妻　蟋美　明二一、七生、大阪、士、猪子止戈之助二女

男　新太郎　明四一、一生

女　壽子　大四、一生

當家は舊金澤藩譜代の重臣にして先代父有鱗夙に藩校に入り漢蘭英の語學を修め佛國公使館書記官カションに就き佛語を學ぶ後大學助教授に任じ歐洲に遊學し歸朝後外國語學校教諭東京大學佛語教導東京大學獨佛門教諭高等商業學校教諭第一高等學校教諭同教頭同校長に歷任從四位勳三等に敍せられ「佛國啓蒙」「佛蘭西文法」「外國々勢一覽」等の著多く佛語學者として知らる君は其長男にして同次吉の兄なり明治七年十一月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十年東京帝國大學醫科大學を卒業し更に大學院に學び同三十三精神病學研究の爲滿三ヶ年獨墺兩國に留學し歸朝後京都帝國大學醫科大學教授に任ぜられ今日に及ぶ同三十七年醫學博士の學位を授けらる同三十九年南洋パタビヤに差遣せられ大正五年歐米各國に出張して精神病學の蘊奧を極め歸國に同大學醫學部長たり昭和九年九月中華民國に出張を命ぜらる家族は尙四男有禧あり長女米（明三八、一二生）は愛知縣人金原庄治郎長男節三に嫁し三男達三（大七、八生）は東京府人工學博士三宅次郎の死跡を相續せりA八九九（京都市寺町通廣小路下ル電上一四五五）

參照＝今村次吉の項

今村宗太郎

母　ヒサ　朝日珈琲社（株）常任監査役、朝日ビルヂイング（株）監査役、京都府在籍

妻　愛子　安政五、三生、京都、高田太四郎長女

男　功　明一八、二生、奈良、士、淺野勇二女

女　貞子　大二、八生　大四、一生

君は京都府人今村宗七の長男にして明治十年五月を以て生れ同三十一年家督を相續す同三十六年專修大學理財科を卒業し現時朝日新聞社常任監査役にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ義に財團法人朝日新聞社會事業關係三男昭（大九、九生）四男實（同一三、六生）なり明治七年十一月を以て生れ先代イクの養子となり同十七年家督を相續す大阪堂島米穀取引所取引員たりA二五五三B七〇〇（大阪市北區堂島濱通一ノ九三電北七六二〇・三九〇九）

參照＝淡石崎哲市郎の項

今村八郎

妻　ゑい　繁盛金山（株）取締役、愛媛縣在籍

姉　そ　明一〇、一二生、大阪、松野實藏三女

養子　正信　明三八、二生、愛媛、高橋桂藏三男

君は愛媛縣人先代八郎の長男にして明治六年四月七日を以て生れ同二十七年家督を相續し前名爲三郎を改め業名すす現時繁盛金山會社取締役として知らる義に大阪商工會議所常議員大阪堂島米穀取引所常務理事に擧げられ又舟木鼓鐵公海漁業各會社の重役たりし事あり家族は尙叔母ヒデ（嘉永三、九生）あり姉ヒサ（慶應三、六生）は愛媛縣人村上機二郎に妹ナミ（明一二、三生）は香川縣人吉田重太郎に嫁せり（大阪市東區船越町二ノ六三）

今村久義

妻　いそ　日本ラヂオコーポレーション（株）社長、電氣器具商、東京府在籍　明二三、九生、山梨、北村爲十郎三女

男　久茂　大四、四生

君は山梨縣人今村儀市郎の三男にして明治二十三年十月二十一日を以て生れ同四十年分れて一家を創立す日本ラヂオコーポレーション會社々長にして電氣器具商を營む義に三共電機工業會社常務取締役たり家族は尙二男久明（大一〇、三生）二女健子（同一三、五生）三男久隆（同一五、一生）あり（東京市神田區仲猿樂町二二電九殿一六〇）

今村秀太郎

父　太平次　今村製菓（株）常務取締役、東京府在籍　明七、四生、現戸主

妻　豊　明三二、四生、東京、木村政吉長女

男　秀夫　大一一、一二生

君は熊本縣人今村太平次の長男にして明治三十年十二月を以て生る大正十年慶應義塾大學經濟學部を卒業し直ちに三井銀行に入り大正九年一月同行を退く現時前記會社の重役にして養に東京商業貿易會社今村銀行等の重役を兼ぬ家族は尙二男知雄（大六、九生）あり（東京市澁谷區青葉町一五電青山二五一一）

參照＝井上周、今村繁三、堀越善重郎※男爵松井慶四郎※串田萬藏※櫻井小太郎※渡邊龍聖の項

今村信次郎

妻　時　正四位勳二等功五級、海軍中將、第三艦隊司令長官、東京府在籍

男　一郎　明四五、一生　明二四、二生、宮島信吉三女

女　靜子　大二、七生

君は舊米澤藩士今村瀧次郎の二男にして明治十三年五月を以て生れ大正二年男爵を正方より分れて一家を創立す明治三十五年海軍兵學校を卒業し同三十六年海軍少尉に任じ海軍大學校を卒業し大正十四年海軍少將昭和五年海軍中將に累進す其間海軍省副官海軍大臣祕書官獨英各國駐在軍令部參謀第一艦隊參謀新高艦長海軍大學校教官兼軍令部參謀海軍大學校教頭兼教官兼海軍技術本部技術會議々員目向艦長東京武官侍從武官等に歷任し昭和六年練習艦隊司令官となり現時第三艦隊司令長官たり（東京市大森區新井宿四ノ一〇〇六電大森三五〇二）

今村新吉

母　末　從三位勳二等、醫學博士、京都帝國大學醫學部教授、東京府在籍

妻　蟋美　明二一、七生、大阪、士、猪子止戈之助二女

男　新太郎　明四一、一生

女　壽子　大四、一生

當家は舊金澤藩譜代の重臣にして先代父有鱗夙に藩校に入り漢蘭英の語學を修め佛國公使館書記官カションに就き佛語を學ぶ後大學助教授に任じ歐洲に遊學し歸朝後外國語學校教諭東京大學獨佛門教諭高等商業學校教諭第一高等學校教諭同教頭同校長に歷任從四位勳三等に敍せられ「佛國啓蒙」「佛蘭西文法」「外國々勢一覽」等の著多く佛語學者として知らる君は其長男にして同次吉の兄なり明治七年十一月を以て生れ先代イクの養子となり同十七年家督を相續す大阪堂島米穀取引所取引員たりA二五五三B七〇〇（大阪市北區堂島濱通一ノ九三電北七六二〇・三九〇九）

參照＝淡石崎哲市郎の項

今村八郎

妻　ゑい　繁盛金山（株）取締役、愛媛縣在籍

姉　そ　明一〇、一二生、大阪、松野實藏三男

養子　正信　明三八、二生、愛媛、高橋桂藏三男

君は愛媛縣人先代八郎の長男にして明治六年四月七日を以て生れ同二十七年家督を相續し前名爲三郎を改め業名す現時繁盛金山會社取締役として知らる義に大阪商工會議所常議員大阪堂島米穀取引所常務理事に擧げられ又舟木鼓鐵公海漁業各會社の重役たりし事あり家族は尙叔母ヒデ（嘉永三、九生）あり姉ヒサ（慶應三、六生）は愛媛縣人村上機二郎に妹ナミ（明一二、三生）は香川縣人吉田重太郎に嫁せり（大阪市東區船越町二ノ六三）

今村久義

妻　いそ　日本ラヂオコーポレーション（株）社長、電氣器具商、東京府在籍　明二三、九生、山梨、北村爲十郎三女

男　久茂　大四、四生

君は山梨縣人今村儀市郎の三男にして明治二十三年十月二十一日を以て生れ同四十年分れて一家を創立す日本ラヂオコーポレーション會社々長にして電氣器具商を營む義に三共電機工業會社常務取締役たり家族は尙二男久明（大一〇、三生）二女健子（同一三、五生）三男久隆（同一五、一生）あり（東京市神田區仲猿樂町二二電九殿一六〇）

今村秀太郎

父　太平次　今村製菓（株）常務取締役、東京府在籍　明七、四生、現戸主

妻　豊　明三二、四生、東京、木村政吉長女

男　秀夫　大一一、一二生

君は熊本縣人今村太平次の長男にして明治三十年十二月を以て生る大正十年慶應義塾大學經濟學部を卒業し

たりし事あり弟源作（明一七、一生）は分家せり（東京市芝區三田小山町二電三田七五五）

參照＝今村秀太郎の項

今村武志

母　みつ　從三位勳三等、樺太廳長官　宮城縣在籍　嘉永六、四生、宮城、大條一見四女

妻　助子　明二六、六生、子爵萩原員振姉

男　成和　大二、七生

男　正勝　大三、一〇生

女　れい子　大四、二生

君は宮城縣人今村常貞の長男にして明治十三年十一月を以て生れ同三十七年家督を相續す同四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し統監府囑託同屬を經て文官高等試驗に合格同四十二年理事廳副理事官に任じ爾來朝鮮總督府事務官慶尙南道京畿道各第二部長慶支部專賣課長財務局專賣課長同府專賣局事務官專賣局庶務課長同事務課長朝鮮總督府賣海道知事同府殖產局長同內務局長兼朝鮮總督府中樞院書記官長に歷任し昭和六年退官して內地にありしが同七年樺太廳長官に任ぜられ今日に至る家族は尙二女貞子（大九、一生）四女章子（同一一、三生）四男達（昭二、二生）五男忠哉（同四、七生）弟松次郎（明一八、七生）同妻コト（同二五、四生）北海道、大條熊太郎二女及弟貞吾（同二七、一生）同妻清子（同三八、九生、宮城、鈴木清助妹）及其二子あり妹まつよ（同二一、一生）同夫積壽（同一七、二生、宮城、士、藤倉良知弟）は其子女を伴ひ分家し弟幾三郎（同二三、二生）も亦分家し三女和子（大一〇、七生）は三重縣人住井辰男の養子となり姉むめよ（同一一、一生）は同縣人龜井益雄二男甲子藏に嫁せり（樺太豊原郡豊原町官舍電豊原二〇〇三）

參照＝子爵萩原員振、住井辰男※子爵河鰭實英※子爵三室戸敬光の項

今村忠四郎

妻　ツヤ　大阪堂島米穀取引所取引員　愛媛縣在籍　明二二、一二生、福岡、山崎靜雄妹

養子　久司　大一〇、三生、東京、恩地報採

君は愛媛縣人今村豊吉の三男にして明治七年十月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十年東京帝國大學醫科大學を卒業し更に大學院に學び同三十三精神病學研究の爲滿三ヶ年獨墺兩國に留學し歸朝後京都帝國大學醫科大學教授に任ぜられ今日に及ぶ同三十七年醫學博士の學位を授けらる同三十九年南洋パタビヤに差遣せられ大正五年歐米各國に出張して精神病學の蘊奧を極め歸國に同大學醫學部長たり昭和九年九月中華民國に出張を命ぜらる家族は尙四男有禧あり長女米（明三八、一二生）は愛知縣人金原庄治郎長男節三に嫁し三男達三（大七、八生）は東京府人工學博士三宅次郎の死跡を相續せりA八九九（京都市寺町通廣小路下ル電上一四五五）

參照＝今村次吉の項

今村宗太郎

母　ヒサ　朝日珈琲社（株）常任監査役、朝日ビルヂイング（株）監査役、京都府在籍　安政五、三生、京都、高田太四郎長女

男　功　明一八、二生、奈良、士、淺野勇二女

女　貞子　大二、八生　大四、一生

君は京都府人今村宗七の長男にして明治十年五月を以て生れ同三十一年家督を相續す同三十六年專修大學理財科を卒業し現時朝日新聞社常任監査役にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ義に財團法人朝日新聞社會事業關係三男昭（大九、九生）四男實（同一三、六生）なり明治七年十一月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十年東京帝國大學醫科大學を卒業し更に大學院に學び同三十三精神病學研究の爲滿三ヶ年獨墺兩國に留學し歸朝後京都帝國大學醫科大學教授に任ぜられ今日に及ぶ同三十七年醫學博士の學位を授けらる同三十九年南洋パタビヤに差遣せられ大正五年歐米各國に出張して精神病學の蘊奧を極め歸國に同大學醫學部長たり昭和九年九月中華民國に出張を命ぜらる家族は尙四男有禧あり長女米（明三八、一二生）は愛知縣人金原庄治郎長男節三に嫁し三男達三（大七、八生）は東京府人工學博士三宅次郎の死跡を相續せりA八九九（京都市寺町通廣小路下ル電上一四五五）

參照＝今村次吉の項

今村太平次

妻　トキ　今村製菓（株）社長、佐久間製菓（株）監査役、東京府在籍

男　秀太郎　明一五、一生、熊本、岡繁十妹

男　吉之助　明三〇、一二生

君は熊本縣人今村卯平の二男にして明治七年四月二十日を以て生れ同十七年家督を相續す現時今村製菓合資會社監査役たり義に推されて東京商工會議所議員芝區會議員に選ばれ日本寫眞工業會社取締役毛九三九ノ三電西宮一八一五）

今村宗太郎

母　ヒサ　朝日珈琲社（株）常任監査役、朝日ビルヂイング（株）監査役、京都府在籍　安政五、三生、京都、高田太四郎長女

男　功　明一八、二生、奈良、士、淺野勇二女

女　貞子　大二、八生　大四、一生

君は京都府人今村宗七の長男にして明治十年五月を以て生れ同三十一年家督を相續す同三十六年專修大學理財科を卒業し現時朝日新聞社常任監査役にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ義に財團法人朝日新聞社會事業關係三男昭（大九、九生）四男實（同一三、六生）なり明治七年十一月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十年東京帝國大學醫科大學を卒業し更に大學院に學び同三十三精神病學研究の爲滿三ヶ年獨墺兩國に留學し歸朝後京都帝國大學醫科大學教授に任ぜられ今日に及ぶ同三十七年醫學博士の學位を授けらる同三十九年南洋パタビヤに差遣せられ大正五年歐米各國に出張して精神病學の蘊奧を極め歸國に同大學醫學部長たり昭和九年九月中華民國に出張を命ぜらる家族は尙四男有禧あり長女米（明三八、一二生）は愛知縣人金原庄治郎長男節三に嫁し三男達三（大七、八生）は東京府人工學博士三宅次郎の死跡を相續せりA八九九（京都市寺町通廣小路下ル電上一四五五）

參照＝今村次吉の項

今村武志

母　みつ　從三位勳三等、樺太廳長官　宮城縣在籍　嘉永六、四生、宮城、大條一見四女

妻　助子　明二六、六生、子爵萩原員振姉

男　成和　大二、七生

男　正勝　大三、一〇生

女　れい子　大四、二生

君は宮城縣人今村常貞の長男にして明治十三年十一月を以て生れ同三十七年家督を相續す同四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し統監府囑託同屬を經て文官高等試驗に合格同四十二年理事廳副理事官に任じ爾來朝鮮總督府事務官慶尙南道京畿道各第二部長慶支部專賣課長財務局專賣課長同府專賣局事務官專賣局庶務課長同事務課長朝鮮總督府賣海道知事同府殖產局長同內務局長兼朝鮮總督府中樞院書記官長に歷任し昭和六年退官して內地にありしが同七年樺太廳長官に任ぜられ今日に至る家族は尙二女貞子（大九、一生）四女章子（同一一、三生）四男達（昭二、二生）五男忠哉（同四、七生）弟松次郎（明一八、七生）同妻コト（同二五、四生）北海道、大條熊太郎二女及弟貞吾（同二七、一生）同妻清子（同三八、九生、宮城、鈴木清助妹）及其二子あり妹まつよ（同二一、一生）同夫積壽（同一七、二生、宮城、士、藤倉良知弟）は其子女を伴ひ分家し弟幾三郎（同二三、二生）も亦分家し三女和子（大一〇、七生）は三重縣人住井辰男の養子となり姉むめよ（同一一、一生）は同縣人龜井益雄二男甲子藏に嫁せり（樺太豊原郡豊原町官舍電豊原二〇〇三）

參照＝子爵萩原員振、住井辰男※子爵河鰭實英※子爵三室戸敬光の項

今村忠四郎

妻　ツヤ　大阪堂島米穀取引所取引員　愛媛縣在籍　明二二、一二生、福岡、山崎靜雄妹

養子　久司　大一〇、三生、東京、恩地報採

君は愛媛縣人今村豊吉の三男にして明治七年十月を以

君は大阪府人妹背中次郎の長男にして明治二十九年十一月を以て生れ同四十四年家督を相續す現時福助足袋會社取締役たり家族は尙二男義彦（昭二、一生）三男光男（同五、一生）弟保藏（明四三、二生）あり同文次郎（同三三、一一生）は大阪府人野間松三郎に同善三郎（同四〇、八生）は同府人萬宇安次郎に各養子となり妹マキ（同三七、三生）は同府人野間市太郎養子富雄に叔母ナヲ（同六、三生）は同府人濱田駒次郎に嫁せりA四六七（堺市大濱南通り一一電一八六一）

入江嘉吉　姫路商工會議所議員、株式現物商　兵庫縣在籍

妻　やゑ　明一二、四生、兵庫、福井市松妹
男　眞太郎　明二四、三生

君は兵庫縣人入江晉次郎の長男にして慶應元年十二月を以て生れ明治十五年家督を相續す株式現物商を營み推されて姫路商工會議所議員たり二男昌二（明二七、八生）は兵庫縣人伊藤宮次郎に三男益三（同二九、九生）は同縣人濱野龜次郎に各養子となり長女てる（同三二、一生）は和歌山縣人法學士島本晉郎に二女愛（同三五、八生、縣立高女出身）は大阪府人三河彦祭弟忠彦に嫁し弟平藏（同九、二生）は分家せり（姫路市直養町三電三七）

參照＝入江眞太郎の項

入江海平　從四位勳四等、自動車投資㊟社長　滿蒙毛織百貨店㊟取締役　東京府在籍

妻　暢　明二六、三生、東京、小山善長女
男　久之　昭五、二生
女　永子　明四五、七生

君は福岡縣人入江良七の五男にして明治十四年一月一日を以て大正十二年兄鎭雄方より分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し朝鮮總督府書記官拓殖局書記官外務書記官關東廳事務官を歷任し後官を辭し現時自動車投資會社長たる外滿蒙毛織百貨店の取締役にして嚴に南滿洲鐵道理事鹽水港製糖會社社長昌光硝子東亞勸業滿蒙毛織山東鑛業各會社の重役たりし事あり家族は尙三女達子（大一〇、二生）ありA一六八（東京市澁谷區青葉町七電青山一二四六）

入江魁　從四位勳三等、帝國繊糸取締役、東滿洲人絹パルプ㊟取締役　東京府士族

母　ふさ　明二、四生、茨城、青木齋太二女
妻　エイ　明二九、七生、新潟、星野準一郎妹
男　光彌　大一二、二生

君は茨城縣士族入江保之助の長男萩原亘の兄にして明治六年家督を相續す同科大學法律學科を卒業し文官調査局事務官水產局事務官兼農商務書記官工務局事務官商工書記官齋林書記官等を經て食糧局經理課長工務局工業課長山林局林務課長山林局長及繊糸局長等に歷任し昭和八年退官す現時帝國繊糸東滿洲人絹パルプ各會社の取締役に擧げらる嚴に海外に出張すること二回に及ぶ弟亘（明二二、一〇生）も亦其妻富士子（同四三、四生、東京、北村銀平三女）を伴ひ分家し妹喜代子（同二六、七生、御茶の水高女出身）は大藏省專賣局經理部長河嶋重一に同節（同二九、五生）は大審院判事草野豹一郎に同時子は經濟學士海口守三に同濱子（同四一、一〇生、東京女學館出身）は神奈川縣人北村包直長男醫學博士熊本醫科大學助教授包彦に同桃子（同四四、七生）は法學士宇野末次郎に嫁せりA二七四（東京市澁谷區神泉一九電青山五二三）

參照＝河嶋重一、草野豹一郎、星野準一郎の項

入江勘二郎　魚問屋業　大阪府在籍

妻　マチ　明二〇、九生、大阪、大崎長三郎妹
姪　信　男　昭五、五生、大阪、入江松次郎四男

君は奈良縣人入江忠太郎の二男にして明治十五年九月を以て生れ後分れて一家を創立す魚問屋業を營む（大阪市此花區玉川町二ノ一四七電福島二一六）

入江金三郎　兼松商店㊟監査役　山形縣士族

妻　テウ　明八、九生、養父濤長女
養子　五郎　明四四、九生、東京、松永末數六男

君は山形縣士族松永晉平の三男にして明治七年三月を以て生れ先代濤の養子となり同三十九年家督を相續す同三十年大阪高等商業學校を卒業し現時兼松商店監査役たりA一三三（兵庫縣武庫郡住吉村兼松一〇三〇ノ一電御影二七〇五）

入江國博　地家主　大阪府在籍

繼母　寅　明一四、一〇生、岡山、石原鹿藏長女
妻　千代子　明三九、八生、大阪、山本治良吉二女
男　俊男　昭三、五生

君は大阪府人入江丈夫の六男にして明治三十三年一月五日を以て生れ先代伊助の養子となり大正十五年家督を相續す地家主たり家族は尙長女喜美子（大一五、一〇生）二男修（昭五、一生）三男進（同八、七生）ありA三二八五（大阪市東區中道唐居一五七ノ五電南六八八一）

入江護一　山口縣多額納稅者、石炭鑛業　山口縣士族

妻　ヨネ　明二二、一一生、山口、士、荒地政作妹
男　康夫　明四〇、九生
女　シゲ子　大二、三生

君は山口縣士族入江汀の長男にして明治十一年六月を以て生れ同四十年家督を相續す石炭鑛業を營み縣下の多額納稅者に列し直接國稅三千九十九圓を納む嚴に沖ノ山炭鑛會社監査役たり家族は尙姉ミナ（明八、六生）あり長女マサコ（同三五、三生）は山口縣人山田春一に嫁せり（字部市島一〇五〇電三一九）

參照＝滋賀地清介の項

入江孝次　西部瓦斯、九州瓦斯各㊟常務取締役、愛知縣在籍　明二一、一生、東京、稻垣久次郎長女

妻　嘉
男　猛夫　大四、三生
女　蘇子　大六、三生

君は滋賀縣人入江勘六の二男にして明治十八年一月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す現時西部瓦斯

九州瓦斯各會社常務取締役にして嚴に東邦瓦斯會社技師たりしことあり家族は尙三男淑夫（大八、五生）三女富美子（同九、八生）四男裕（同一三、八生）四女陳惠（昭四、八生）ありA九三九（福岡市濱町一ノ一電二三九〇）

入江孝次郎　神戸宅地經營、神戸土地各㊟取締役、材木商、兵庫縣在籍

妻　信夫　明三八、一生
男　政雄　明三九、七生
女　かね　明四二、四生、神戸高女出身

君は兵庫縣人入江勇藏の也男にして安政五年二月を以て生れ明治十九年家督を相續す幼にして材木問屋に奉公し後獨立して材木商を開業し非凡の商才を發揮して活躍するところあり漸次發展して今日の基を成せり現時前記會社の重役たり三女まさゑ（明三三、一一生）は兵庫縣人盛見寡吉の養子となり弟福藏（同六、一一生）同妻わさ（同一五、一一生、兵庫、柿本忠次郎妹）は其子女を伴ひ分家し妹よね（萬延元、八生）は兵庫縣人長谷川太三郎に嫁し同とすゑ（明三、六生）は同縣人矢頭晉春の祖母たりA四一九（神戸市兵庫區磯之町六八電㊟兵庫一五七五）

入江繁太郎　家主　京都府在籍

妻　晉翁　明二四、四生、京都、臼井玄橋長女
男　隆作　大六、三生
女　昭子　大四、三生

君は京都府人入江德三郎の長男にして明治十一年六月十二日を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十二年京都帝國大學工科大學製造化學科を卒業し家主にして資產家たり居常公共の事に意を致し貢獻するところ尠から𝍏家族は尙二男勞世（大七、一〇生）三女早苗（同一三、六生）四女澄子（昭二、一〇生）弟隆三（明三〇、一一生）同妻富貴（同三九、九生、岐阜、春日井佐五一長女）と其二男同二十雄（同三三、一生）同妻麗（同四三、一一生、京都、本田直三郎長女）と其二男あり妹チル（同二一、七生）は山口縣人福井安次郎に同壽（同二七、一二生）は兵庫縣人木村直義に嫁せりA五〇三（京都市上京區御前通下立賣下ル）

入江眞太郎　㊟取締役、辯護士、甲山乘合自動車㊟監査役、兵庫縣在籍

父　嘉吉　慶應元、一二生、現戸主
妻　智惠子　明三二、七生、和歌山、林龍太郎二女
男　眞一　大一二、三生

君は兵庫縣人入江嘉吉の長男にして明治二十四年三月を以て生る大正五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し辯護士を開業し傍ら京都帝國大學法學部及關西大學諸師を兼ね併せて前記會社の重役として知らる大正九年英米法研究の爲渡米し昭和三年法學博士の學位を受く家族は尙二女良子（昭二、一生）三男稔（同四、一二生）ありA一四〇三（大阪市北區堂島濱一ノ七四電北三八五五）

參照＝入江嘉吉、林龍太郎淡清瀨一郎の項

入江新次郎　文房具商　大阪府在籍

妻　ヨネ　明一九、五生、大阪、近藤直七三女
養子　政三　明四二、五生、大阪、近藤直七孫

君は大阪府人入江新兵衛の二男にして明治十三年二月二十六日を以て生れ同三十七年兄新兵衛方より分れて一家を創立す文房具商を營み同業者間に重きをなすA六二四B二〇九（大阪市東區南久寶寺町三ノ二三電船場一三七〇）

入江新兵衛　筆墨商　大阪府在籍

妻　爲　明一九、九生、大阪、高田與兵衛三女
養子　右三郎　明三五、一二生、長女奚代夫、兵庫、森田富太郎弟
女　美代　明三八、一二生、養子右三郎妻

君は大阪府人先代新兵衛の長男にして明治八年三月二十九日を以て生れ同三十五年家督を相續す筆墨商を營み同業者間屈指の老錦として知らる旅行に趣味を有す家族は尙孫寬子（昭四、五生、養子右三郎長女）あり弟新次郎（明一一、二生）同源藏（同二四、一生）同妻まき子（同二三、一生、大阪、松村丑松二女）は其二子を伴ひ各分家し妹とう（同二七、一〇生）は奈良縣人水野クミの養子となれりA八一七（大阪市西區新町通五ノ四電新町一一八二）

入江善七　呉服商　兵庫縣在籍

妻　道得　明三八、二生、奈良、牧浦忠次長女

君は兵庫縣人入江善太郎の三男にして明治三十四年三月二十三日を以て生れ昭和五年家督を相續す呉服商を營み堅實なる業績を以て名あり家族は尙長女一子（大一五、四生）二女美沙子（昭三、一〇生）弟善二郎（明四〇、一生）同妻吉子（大二、九生、廣島、五島俊吉二女）及其一男弟善一郎（明四二、一生）同德一（同四四、八生）同義雄（大三、一二生）ありA三七四B八一（尼崎市西本町五電二三五）

入江丈夫　南海運送㊟取締役、入江組、運送業、大阪府在籍　慶應三、九生、大阪、奥田伊助四女

妻　コト
男　義博　明三五、一一生、四男義博娶、東京、佐藤正良長女
郷　芳子
男　軍兒　明三五、二生
郷　清子　明四一、六生、六男軍兒妻、大阪、今川松太郎長女
女　嘉子　明三九、一一生
男　但　明四四、三生
男　朗　大二、九生

君は大阪府人入江歪兵衛の五男にして明治元年八月を以て生れ同十七年家督を相續し前名五八郎を改む夙に實業界に志し頻に業績を擧げるところあり入江組と稱し運送業を營み指揮經營に當り卓越せる手腕を發揮して運出を試み能く今日の大を成せり現に其傍ら南海運送會社の取締役に就任し同社經營の樞機に參與し圓熟せる手腕德望を稱せらる家族は尙孫溫子（昭四、三生、六男軍兒長女）あり五男國博（明三三、一生）は大阪府人入江伊助の養子となれりA二六〇（大阪市住吉區住吉町二六二電住吉二八四六）

入江爲守　從二位勳一等、子爵、皇太后宮太夫兼侍獄所長、宗秩寮審議官舊公卿家

妻　信子　明九、一二生、伯爵、柳原義光妹
男　爲常　明二七、一二生、正五位、理學士、陸軍技師、化學研究所員
婿　豊子　明三五、一一生、長男爲常妻、子爵京極高修妹
男　相政　明三八、六生、文學士、學習院教授

當家は冷泉家の支流櫻中納言藤原爲條の二男相尙の後なり相尙別に一家を立て入江と稱すれより十世を經て爲綱に至る君其後を享く君實は伯爵冷泉爲系の叔父にして明治元年四月を以て生れ先代爲綱の養子となり家督を繼ぎ同十七年子爵を授けらる同十九年より學習院に學び同三十年以來貴族院議員に當選すること三回に及べり養に東宮侍從長に任じ後侍從次長を經て現時皇太后宮太夫兼御歌所長にして宗秩寮審議官たり家族は尙孫朝子（昭三、四生、長男爲常長女）あり長女朝子（明三〇、一〇生、學習院女學部出身）は伯爵坊城俊良に二女邦子（同三四、六生、出身校同上）は子爵高木正得に嫁せり（東京市牛込區余丁町七八電四谷三〇五五）

參照‖伯爵坊城俊良、伯爵柳原義光、伯爵冷泉爲系子爵京極高修、子爵高木正得※伯爵吉井勇※子爵池田政時※子爵京極高量※子爵堤雄長※川口義久※京極俊次郎※中江龍二の項

入江道仙　陶磁器製造業　京都府在籍

妻　ヨネ　明五、八生、養父道仙二女
孫　瓊　大一〇、一一生、亡長男道之助長男
男　辰雄　明三七、一一生
婿　光子　明四三、一生、三男辰雄妻、京都宇野政市二女
男　春雄　明四三、一生

君は京都府人上田市右衛門の四男にして明治元年二月を以て生れ先代道仙の養子となり同二十六年家督を相續し商名辰之助を改め製名す陶磁器製造業を營む家族は尙孫孝（昭五、一一生、三男辰雄長男）同帝子（同七、一〇生、同長女）あり長女フク（明二〇、六生）は同府京都府人北井房次郎に二女タカ（同二二、九生）は同府人湯浅壽太郎に嫁し二男震藏（同二六、九生）は同府人淺見五郎助の養子となり四男節（同四〇、二生）は分家せりA六四九B九三（京都市東山五條橋東四ノ四四七電話閑二八四八）

參照‖北井房次郎、湯浅壽太郎の項

入江仁六郎　從四位勳二等功四級、陸軍中將　福岡縣在籍

妻　シヅヱ　明二二、二生、福岡、牧淺次郎長女
男　謙六郎　明四三、一一生
女　信子　明四五、五生

君は福岡縣人入江半三の二男にして明治十二年三月を以て生れ後南名重平を改む昭和二年兄光次郎方より分れて一家を創立す夙に陸軍士官學校を卒業し明治三十三年砲兵少尉に任ぜられ昭和六年陸軍中將に累進す其間參謀本部課長近衛野砲兵聯隊長騎戰重砲兵第二旅團長陸軍戰砲兵學校教育部長同校々長等に歷補し日露日獨戰役及西伯利亞出兵等に從軍す昭和八年砲兵監に補せられ同九年八月待命後仰付らる家族は尙二男二生）五男歌之介（同六、一二生）三女孝子（同一一、二生）あり長女貞子は砲兵大尉大藏一二三に嫁せり（東京市澁谷區代々木初臺四七三電四谷六八六〇）

入來重彥　臺灣鐵工所㊟取締役　鹿兒島縣士族

妻　ひで　明二二、八生、鹿兒島、越牟田喜一郎二女
男　重則　大四、七生、成城高校在學

君は鹿兒島縣士族入來定穀の長男にして明治十四年五月二十二日を以て生れ大正六年家督を相續す明治三十九年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し明治製糖北港製糖各會社に勤務し現時南記會社の重役たり家族は他三男重弘（大七、一一生）四男重剛（同一一、一二生）五男重雄（同一一、三生）六男重雄（昭四、三生）あり長女嘉（大二、二生）は鹿兒島縣士族宮之原重に嫁せり（東京市赤坂區青山北町六ノ三三電青山八三二）

入澤宗壽　正五位勳四等、文學博士、東京帝國大學教授、文學部勤務　鳥取縣在籍

妻　千草　明二六、九生、岡山、宮原亮太郎六女、津山高女出身
男　壽夫　大元、九生、東大文學部在學
女　伊都子　大三、一一生、實踐女子專門學校英文科在學
女　千賀子　大六、四生、女高師範附屬高女專攻科國語部在學

君は鳥取縣人にして明治十八年十二月二十三日を以て生る同四十四年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し神宮皇學館教授東京帝國大學助教授を經て昭和七年教授に任じ文學部に勤務し今日に至る其間同四年獨伊各國に出張を命ぜられ同年文學博士の學位を受く最近入志萬準治氏共著「哲學的人間學による教育の理論と實踐」の著書あり（東京市澁谷區田端六三〇電小石川八〇一五）

入澤達吉　正三位勳一等、醫學博士、東京帝國大學名譽教授、新潟縣士族

妻　常子　明一二、五生、子爵中牟田武信叔母、華族女學校出身
男　民政　明三二、一生、從六位、永代稱稅務署長、經濟學士
男　文明　明三五、二生、朝日新聞社員、法學士、文學士
男　和平　明三八、八生
男　博愛　明四四、四生、文學士
女　五十子　大三、二生、御茶の水高女出身

當家は代々新潟縣に住し庄屋を勤めたる家柄なり先代恭平夙に長崎に至り蘭人に就きて醫術を修め歸鄉後濱侯溝口家に召さる後功により贈位の榮を辱ふせり君は其長男にして明治七年家督を相續す同二十二年東京帝國大學醫科大學醫學科を卒業し翌年獨逸に留學し同二十八年東京帝國大學醫科大學助教授となり同三十年東京市養育院長並に駒込病院長を兼任す同三十二年醫學博士の學位を受け同三十五年教授に任じ爾來同大學に於て內科講座を擔當し大正十年同大學醫學部長に補し

後侍醫頭を兼任す同十三年大學教授を罷め侍醫頭專任となり翌年東京帝國大學名譽教授となる昭和二年親任官の待遇を賜はり同年侍醫頭を辭せり家族は尙孫敬吉（昭四、七生、長男民政長男）あり妹グン（明五、七生）は東京府人法學士天野喜之助に嫁せり（東京市杉並區西田町一ノ七四三電四谷二七）

參照‖子爵中牟田武信、男爵池田眞次郎※子爵安部信明※伊東忠太※小寺謙吉※佐藤久※中村清彥の項

入澤敏雄　正四位勳二等功四級、海軍中將　東京府士族

妻　たけ　明一三、一生、芙城、士、安島德基孫
女　千鶴子　明三五、七生

君は養米澤藩士入澤敏行の長男にして明治元年二月十一日を以て生れ同二十四年家督を相續す同二十一年海軍少機關士に任じ大正五年海軍中將に累進し六年豫備役に編入さる其間海軍省軍務局機關課員海軍々令部出仕艦島初瀨春日鹿島各機關長海軍機關學校教頭奥鎮守府機關長横須賀鎮守府機關長横須賀工廠造機部長等に歷補し軍艦八島及鹿島廻航委員として再度英國に出張し日清日露戰役に參加し功四級金鵄勳章を賜ふ大弓を趣味とす二女極子（明三七、一〇生、女子學習院出身）は東京府人岩田宙造長男永俊に嫁せり（東京市中野區本町通二ノ二一電中野二一八八）

入交太藏　高知商工會議所副會頭、高知縣多額納稅者、高知瓦斯、入交商店各㊟社長、土佐電氣、土佐バス、土佐倉庫各㊟取締役、石灰商　高知縣在籍

妻　母　龜　明八、四生、高知、入交太治平二女
男　庄　明三九、一一生、東京、橋本要長女

君は高知縣人入交榮治の二男にして明治二十九年八月を以て生れ大正九年家督を相續す石灰商を營み傍ら縣下の多額納稅者に列し高知商工會議所副會頭に推され前記各會社の重役たり家族は尙長女澄子（大一四、二生）二男太二郎（昭二、四生）二女喜美子（同四、三生）弟太兵衛（明三四、八生、慶大出身、三菱商事會社員）同妾貞子（同四〇、一〇生、高知、竹村直治二女）弟太三郎（同三六、一生）あり妹萬龜（同三二、八生）は高知縣人補本直美に嫁す（高知市廿代町七電四〇・一三〇）

入谷吉郎兵衛　村木商　大阪府在籍

妻　マツ　明一一、一一生、大阪、橋善兵衛二女
養子　初夫　明四三、二生、弟久太郎長男

君は大阪府人入谷吉兵衛の長男にして明治九年八月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名久吉を改め襲名す村木商を營む弟久太郎（明一二、一〇生）同妻ツネ（同二〇、六生、大阪、橋善兵衛妹）は其一男を伴ひ分家し妹八重（同三五、三生）も亦分家せりA七九一（大阪市大正區三軒家町二ノ五〇電櫻川一〇〇八）

入谷春彥　淺野セメント㊟機械課長　東京府士族

養母　まつ　萬延元、一〇生、三重、志賀大祐二女
妻　とし　明二一、六生、東京、小池惠吉妹
男　正也　明四二、一生
女　かや　明四〇、一〇生
男　信彥　大三、二生

君は三重縣士族中村寬夫の四男にして同清彥乙郎正次郎の弟なり明治十二年四月を以て生れ同年入谷正の養子となり昭和九年家督を相續す明治三十六年帝國大學機械工學科を卒業し直ちに淺野セメント會社に入り現に同社本店技術部機械課長たり家族は尙五男能彥（大五、七生）二女〻〻（同七、九生）六男清（同九、一二生）ありA四五三（東京市淀橋區西大久保一ノ三八九電四谷一〇七四）

參照‖乙部正次郎、小池惠吉、中村清彥の項

入谷深造　硝子壜製造業　東京府在籍

母　みよ　安政四、一二生、入谷利助長女
妻　やす　明一七、三生、埼玉、右山彥次郎長女
男　猪作　明四四、一〇生
女　もと　明四二、六生
女　壽美　大三、一生

君は東京府人先代廣吉の長男にして明治八年一月十五日を以て生れ大正三年家督を相續す現に硝子壜製造業を營む家族は尙弟嘉助（明一七、一生）同妻あき（同二八、一一生、東京、高木彌吉長女）及其三子弟信壽（同四一、二生）妹ハル（同二九、三生）あり弟豊吉（同三一、一二生）は東京府人岡本藤吉の養子となれりA三四一B一七八（東京市城東區鎭戸町三ノ二〇一電墨田二七五九）

入谷鉾之助　三重人造絹糸㊟常務取締役、長浦海岡土地㊟取締役、計理士　愛知縣在籍

妻　可子　明二五、五生、愛知、士、森田貴之二女
男　規一　明四四、一二生
男　彰郎　大五、五生
女　都子　大五、三生

君は愛知縣人入谷嘉一郎の四男にして池田正信の弟なり明治十五年六月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同四十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し養に名古屋市收入役たり事あり財務計理事務に從事し傍ら三重人造絹糸會社常務取締役の外前記の重役たり（名古屋市東區長塀町一ノ一五電東二六二三）

參照‖池田正信の項

入山久太郎　地主　東京府在籍

母　しけ　明二三、三生、東京、入山久八長女

君は東京府人入山彌太郎の長男にして明治四十二年九月十日を以て生れ昭和七年家督を相續す現時地主たり家族は尙妹きく（大三、一〇生）同すま子（同一五、三生）同さち子（昭四、一一生）ありA四五二（東京市荒川區日暮里町四ノ一七九）

入山權四郎　地主　東京府在籍

妻　はなゑ　明二〇、二生、岐阜、田中信太郎長女

男　權太郎　明三〇、九生
〃　埼玉、恩田利太郎三女
君は東京府人先代權四郎の長男にして明治六年一月二十七日を以て生れ同二十一年家督相續と共に前名四藏を改め襲名す地主たり家族は尙五男昭三(昭三、四生、孫廣平(大一四、三生、長男權太郎長男)同ひさ子(昭三、五生、同長女)及亡弟末吉の二子あり長女はる(明二六、二生)は東京府人入山善次郎に姉さた(同三、一二生)は同府人石川清吉養子石川菊次郎に嫁し三男勝五郎(同三六、一生)は分家し弟粂藏(同一一、八生)同妻ちよ(同一二、一〇生、東京、本田多吉養姪)同健藏(同一六、七生)同妻マキ(同二一、一〇生、東京、前田伊三郎二女)は其一子を同耕之助(同一九、九生)同妻つね(同二四、六生、岐阜、入山新太郎三女)は其三子を伴ひ各分家せりA四六三(東京市荒川區三河島町五ノ四二六)

入山正造　三味線絲製造業、糸物商
父　庄太郎　明元、二生、現戸主
妻　とみ　右衞門長女　大七、二生
男　庄一
君は京都府人入山庄太郎の長男にして明治二十四年二月を以て生れ糸物商にして傍ら三味線絲製造業を營む家族は尙二男信造(大九、四生)二女タミ(同一二、三生)三女弘子(昭二、四生)弟慶治郎(明三七、一〇生)妹ハル(同四二、二生)弟孝三郎(同四三、二生)ありA五五九(京都市下京區獻屋町萬壽寺下ル下鱗形町五三七電下一二六四)

入山時次郎　入山銀行㊞專務取締役
東京府在籍
明一三、一生、東京、森增吉長女
男　けい實　明四三、七生
女　俊子　大二、二生
君は愛知縣人入野ふさの男にして明治十二年六月五日を以て生れ先代しうの養子となり大正三年家督を相續す現時入山銀行の專務取締役に推さる家族は尙庶子留(大一一、三生)ありA五八五(東京市瀧野川區西ケ原町一〇三九電小石川三六二一)

色川俊二郎　三井㊞信託㊞副社長兼證券部長外國部長、茨城縣在籍
明二七、一一生、東京、荒木忠郎妹スミ
男　悦郎　大一二、一生
君は茨城縣人色川三郎兵衞の二男にして同三男の兄なり明治十六年九月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す同四十三年慶應義塾大學理財科を卒業し三井銀行に入り歐洲大戰中同行より歐米に出張四年間滯在し後三井信託會社創立に際し同社に轉じ現時同社副社長にして證券部長外國部長を兼ぬ家族は尙長女裕子(大六、七生)二女俊子(同一〇、三生)二男茂樹(同一三、三生)三女伸子(同一五、一生)三男昭三(昭三、一生)四男英雄(同四、七生)四女澪子(同七、八生)ありA二二七(東京市大森區新井宿二ノ一六七五電大森一〇三八)
參照＝色川三男※伊澤多喜男の項

色川宗吉　伏宗、鮮魚商並すし商
東京府在籍
慶應三、一一生、東京、荒木忠郎長女
母　かね　明三七、一生、東京、宮坂德三郎二女
妻　福子
男　勝也　昭五、一生
君は東京府人色川宗吉の二男にして明治三十三年五月二十八日を以て生れ昭和六年先代兄邦治の後を承け家督を相續す伏宗と稱し鮮魚並にすし商を營む家族は尙庶子留長女織江(昭八、七生)弟政吉(明三八、一一生)妹壽美(大三、三生)ありA四五二B一五二(東京市日本橋區本石町一ノ四ノ二電日本橋二八四四)

色川三男　正五位勳五等、內務省社會局技師
工場監督官、茨城縣在籍
明二七、一一生、東京、堀江巷一
妹、千代田高女出身
妻　美惠　大四、一〇生、自由學園高等科在學
女　朝子　大六、六生、府立第二高女在學
女　壽子
君は茨城縣人色川三郎兵衞の三男にして同後二郎の弟なり明治十九年六月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す同四十三年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し同四十四年鹿兒島高等農林學校講師となり朝鮮總督府中央試驗所技師農商務技師兼工場監督官に歷任し大正十一年內務省社會局技師となり現に工場監督官にして勞働部勤務たり同十二年ジュネーブに開催の第五回國際勞働總會政府代表隨員となり同十三年同上第六回政府代表顧問として同會議に列席す家族は尙三女富美子(大一四、七生)あり(東京市豐島區西巢鴨二ノ二五三六)
參照＝色川俊二郎、堀江巷一※伊澤多喜男※石森清兵衞の項

色部貢　從四位勳四等、朝鮮銀行㊞理事
東京府在籍
妻　房　明三二、二生、千葉、島田芳治妹晶　大八、二生
君は長野縣人色部祐二郎の三男にして明治十九年八月一日を以て生れ大正十五年兄郡七方より分れて一家を創立す同二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同三年大藏省理財局囑託となり後大藏事務官に任ぜられ銀行局に勤務し臺灣銀行朝鮮銀行各監理官となり商工書記官を兼任す昭和四年朝鮮銀行理事となり今日に至る家族は尙長女朋子(大一五、一二生)二女留子(昭三、六生)あり(東京市中野區打越町二七電中野四四八〇)

岩井宇一郎　從四位勳四等、前鐵道技師
東京府在籍
妻　たま　明二一、一〇生、東京、千葉直五郎叔母
女　嘉子　明四四、八生、府立第一高女出身
女　壽枝　大八、二生
君は埼玉縣人水村德太郎の三男にして明治十四年四月十七日を以て生れ同四十三年入りて親族岩井家を相續す同四十年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し直ちに帝國鐵道廳に奉職し次で鐵道院技師に任ぜられ關島上野各保線事務所技術掛主任鐵道局技師兩國新橋各保線事務所長東京鐵道局工務課保線掛長より仙臺鐵道局工務課長を經て昭和三年東京鐵道局保線課長に轉じ同四年歐米各國に出張を命ぜられ歸朝後鐵道技師になり明治十九年六月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す同四十四年鹿兒島高等農林學校講師となり朝鮮總督府中央試驗所技師農商務技師兼工場監督官に歷任し大正十一年內務省社會局技師となり現に工場監督官にして勞働部勤務たり同十二年ジュネーブに開催の第五回國際勞働總會政府代表隨員となり同十三年同上第六回政府代表顧問として同會議に列席す家族は尙三女富美子(大一四、七生)あり(東京市豐島區西巢鴨二ノ二五三六)
參照＝色川俊二郎、堀江巷一※伊澤多喜男※石森清兵衞の項

任ぜられ後退官して現時閑地に在りA七二三(東京市本郷區駒込西片町一〇電小石川一九四五)
參照＝千葉直五郎※千葉龜之助※廣部清一郎の項

岩井勝次郎　正六位勳四等、大阪商工會議所顧問、岩井商店、中央毛絲紡績、德山鐵板、日本橋梁、日本曹達工業、海上再保險、日本火災保險、大阪鐵板製造、關西各㊞取締役、大阪鐵板製造、關西ペイント、白金メリヤス各㊞相談役、岩井本店㊞代表社員
兵庫縣在籍
妻　エイ　明四、四生、大阪、岩井豐治養叔母
婦　俊子　明三三、一一生、亡長男英一郎妻貴族院議員中村純九郎二女
孫　英夫　大一〇、五生、亡長男英一郎二男
君は京都府人藤山源右衞門の二男にして文久三年四月十一日を以て生れ先代文平の養子となり明治二十三年家督を相續す幼にして大阪に出で輸入貿易業を見習ひ後岩井商店を經營し對外貿易の發展に伴ひ大に產を殖し屈指の貿易商として知られ大正五年綬褒章を賜はる又大阪鐵板會社を起し日本鐵板事業に貢獻する處渺なからず現時前記銀行會社の重役にして大阪商工會議所顧問に推さる家族は尙五男松三(大五、一二生)孫泰子(同一二、五生、亡長男英一郎長女)あり二女フミ(明二五、三生)は大阪府人岩井豐治先代文助の養子となり三女博子(同四一、八生、甲南高女出身)は三重縣人東畑謙三に四女英子(大二、一生、出身校同上)は山形縣人藤井德也に嫁し四男雄二郎(明三五、六生、英國劍橋大學出身)は分家せりA二二九五六(兵庫縣武庫郡御影町郡家堂之裏一六五電御影二〇一四)
參照＝岩井雄二郎、岩井豐治、中村純九郎の項

岩井喜一郎　攝津酒造㊞常務取締役
京都府在籍
慶應三、七生、京都、北川卯吉長女
母　ハナ　明二〇、九生、京都、鈴木治太郎二女
妻　イヲ　明四三、二生
男　喜彥　大五、八生
女　喜代子　大二、六生
男　孝　大八、二生
女　和子
君は京都府人岩井喜右衞門の長男にして明治十六年八月を以て生れ大正七年家督を相續す明治三十五年大阪高等工業學校釀造科を卒業し現時攝津酒造會社常務取締役たり家族は尙三男信夫(大一〇、七生)弟種一(明三六、一生)同妻澤子(同四〇八生、福岡、古澤直治郎)及其一子あり長女俊子(同四一、三生)は愛知縣人鈴木房章二男一夫に妹みち(同四一、三生)は鳥取縣人野田昌明に嫁せりA一二九(大阪市住吉區住吉町二八一電住吉二〇二一)

岩井喜太郎　蓙炭問屋業
東京府在籍
明一八、三生、埼玉、石田金兵衞二女
妻　つね
男　代臣　明三五、四生
はる　明三六、四生、二男代臣妻、埼玉金子勝司長女
婦　富士雄　明三七、七生
君は東京府人岩井金助の長男にして明治六年九月二十八日を以て生れ同二十五年祖父喜左衞門の後を承けて家督を相續す現に蓙炭問屋業を營む家族は尙五男繁行(大五、一〇生)孫男之(昭六、一生、二男代臣長男)同嘉子(同九、一生、同長女)勝榮一(大四、五生、弟與四郎長男)あり三女かね(明四一、六生)は東京府人渡邊桂松長男龍一に四女靜江(同四五、七生)は東京府人榎本一郎に嫁し二女きく(同三二、九生)同夫運吉(同二八、一一生、埼玉、小川忠次郎弟)は其の一子を伴ひ分家せりA四五一B一〇〇(東京市王子區袋町二ノ二一電浅羽二〇)

岩井源兵衞　岩井簞笥店㊞代表社員、岩井道具店、簞笥長、大阪府在籍
明三〇、九生、大阪、藤田貫次郎二女コト
妻
男　源一郎　大一一、六生
君は大阪府人松本與七の弟にして明治二十年十月を以て生れ先代源兵衞の養子となり大正三年家督を相續し前名與三郎を改む簞笥長と稱し道具店を營み傍ら岩井簞笥店代表社員たり家族は尙長女滿智子(大一三、九生)二男章(昭三、一生)二女廸子(同四、二生)あり叔母ひま(安政五、一一生)は分家し實母ハナ(嘉永三、一生)は大阪府人松本與七の養母たりA六一〇(大阪市南區八幡町三電南二四六八)

岩井三郎　岩井三郎探偵事務所、私立探偵業
東京府在籍
明一八、一〇生、山形、星野竹次郎二女
妻　ナカ　明二二、一生、外國語學校出身
男　貞夫　明三三、一一生、長男貞夫妻、東京、石川治平二女
男　卓也　明三四、一生、法學士
婦　貞子　明三三、八生、二男卓也妻、東京佐々木勝成長女
男　英夫　明四五、五生、慶應義塾在學
君は東京府人鈴木宗兵衞の二男にして慶應元年二月五日を以て生れ明治三十六年分れて岩井氏を再興す夙に警視廳に奉職すること年あり後官を辭し同二十八年始て民間探偵業を起して爾來實に四十年斯業の開祖たり家族は尙孫美惠(大一〇、三生、長男貞夫長女)同豊子(同一二、二生、同二女)同寧子(昭三、一生、同三女)同治子(大一四、三生、二男卓也長女)同榮子(同一五、八生、同二女)同欣也(昭三、六生、同長男)同巷子(同五、四生、同三女)ありA三一六(東京市麴町區紀尾井町三電九段二九三六「事務所」京橋區銀冶橋通槙町二ノ七電京橋一八一〇)

岩井七之助　地家主
東京府在籍
明七、一生
妻　花子　明二九、二生、東京、岩井文太郎妹きん
男　鏡一　大九、七生
君は東京府人岩井祐太郎の二男にして明治二十九年三月二十一日を以て生れ昭和七年家督を相續す地家主たり家族は尙弟正次(大二、三生)あり姉千代(明二一、六生)は東京府人渡邊正一郎の母にして弟健藏(同四〇、一〇生)は分家せりA四七一(東京市大森區新井宿四ノ一一五九電大森一一八一)
參照＝渡邊正一郎の項

岩井重太郎　日興證券㊞社長
東京府在籍
妻　たま　明一一、一〇生、東京、千葉直五郎叔母
女　嘉子　明四四、八生、府立第一高女出身
女　壽枝　大八、二生
君は埼玉縣人水村德太郎の三男にして明治十四年四月十七日を以て生れ同四十三年入りて親族岩井家を相續す同四十年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し直ちに帝國鐵道廳に奉職し次で鐵道院技師に任ぜられ關島上野各保線事務所技術掛主任鐵道局技師兩國新橋各保線事務所長東京鐵道局工務課保線掛長より仙臺鐵道局工務課長を經て昭和三年東京鐵道局保線課長に轉じ同四年歐米各國に出張を命ぜられ歸朝後鐵道技師に

妻　さめ　明九、一一生、愛知、小塚章彦三女
男　孝一郎　明三六、三生
男　隆次　明三八、一生、日本銀行國庫局勤務、法學士
男　健三　明四三、三生、東京商大在學
女　豊　明四五、一生、東京府立第三高女出身

男　欣五　大三、六生、東京府立第一中學出身

君は岩井長好の四男にして明治四年十一月十三日を以て生れ同三十年分れて一家を創立す夙に慶應義塾に學び米國に渡り貿易業に從事せしが歸朝後同三十年北濱銀行に入り貸付課長を經て神戸東京各支店長に歴任せしが同三十七年退職し後日本興業銀行に入り累進して理事に任じ帝國商業銀行取締役となり更に日本信託會社副社長たり事あり後日興證券會社々長に擧げられ今日に及ぶ盆栽に趣味を有す長女キヨ(明三三、六生)は東都府人三菱商事會社員服部一郎に二女ハル(同四〇、二生、東京府立第三高女出身)は同府人三雲勝次郎弟日本興業銀行員豊造に嫁せりA二五五五(東京市赤坂區青山北町六ノ五八電青山一二八一)

参照‖三雲勝次郎の項

岩井庄藏

辰巳屋、大阪株式取引所取引員
大阪府在籍
妻　モト　明一五、一生、大阪、松岡ナツ私生子
男　祇青　大六、一生

君は大阪府人岩井庄兵衛の三男にして明治十年四月を以て生れ兄庄平方より分れて一家を創立す現時辰巳屋と稱し大阪株式取引所短期取引員たり家族は尚庶子成光(大一五、七生、生母、京都、綿越フサエ)ありA一一五六四B一八九八(大阪市東區今橋一ノ一四電本局二四一七)

岩井祐文

正五位勳四等、遞信技師、管船局
肇總理局勤務、三重縣士族
母　まさ　文久三、七生、三重、松本重三郎姉
妻　ふさ　明三四、一二生、三重、久保茂太郎長女
男　文彦　大一二、三生

君は三重縣士族岩井常喜の長男にして明治二十四年十月十七日を以て生れ同四十五年家督を相續す大正四年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し同六年遞信局技師に任じ同十年遞信技手兼遞信技手となり同年職時船舶管理局技師兼遞信局海事部長崎出張所長を命ぜられ現時前記の職に在り同五年倫敦に於ける國際船舶滿載吃水線會議に於ける帝國委員を仰付けられ同年山口縣立高等商業學校教授に就任し同年朝鮮總督府醫院醫官兼京城醫學專門學校教授となり昭和二年前記官職に轉じ同九年京城帝國大學醫學部附屬醫院長に補せらるる爲に朝鮮總督府醫院醫官を兼任す大正十二年內科學研究の爲歐米に出張を命ぜらる家族は尚二男健二(大七、一生)長女京子(同一〇、七生)三男誠三(同一四、一〇生)あり養姉富子(明二六年生)は男爵小畑大太郎弟厳三郎に嫁せり(京城府吉野町二ノ一〇五電本局七九三)

参照‖男爵小畑大太郎の項

岩井清七

松下商店(株)專務取締役
大阪府在籍
妻　トキ　明一二、一二生、奈良、平井吉良司二女
聲子　感吾　明二九、一生、長女季子夫、大分優蒲賈次弟
女　季子　明三五、一〇生、養子感吾妻、今橋技藝學校出身

君は大阪府人松邑吉兵衛の三男にして明治九年九月を以て生れ同十九年先代吉太郎の養子となり家督を相續し後前名書を改む現時松下商店專務取締役たり家族は尚孫萬古登(大一三、一〇生、養子感吾長男)同澄男(昭四、二生)同健三(同六、七生、同三男)あり二女菊(明四〇、二生)は京都府人朝尾直也に三女みつ(同四三、九生)は山口縣人今津明長男一郎に四女滋子(大二、一一生)は大阪府人江口治郎に嫁せりA八二五(大阪市東區船越町二電東二〇六六)

参照‖今津明の項

岩井誠四郎

從四位勳三等、醫學博士、京城帝國大學教授、同醫學部附屬醫院長
東京府在籍
妻　一成　明三〇、一二生、養女禎三六女、三輪田高女出身
男　成五、四生

君は千葉縣人木內貞順の四男にして明治十九年十一月を以て生れ先代禎三の養子となり大正四年家督を相續す同元年九州帝國大學醫科大學醫學科を卒業し同大學助手となる同七年山口縣立高等商業學校教授に就任し醫學博士の學位を受く慶應義塾醫學部助教授に就任し醫學博士の學位を受く

岩井貞三

松阪市會議員、松阪合同運送(株)代表取締役、參急運(株)取締役、イワイ商會(資)代表社員、三重縣在籍
妻　こと　明三二、九生、先々代久五郎長女
男　勝　大六、一一生

君は三重縣人山內直吉の二男にして明治二十一年八月を以て生れ大正五年先代ことの入夫となり家督を相續す現時松阪合同運送會社代表取締役の外前記會社の重役にして三重縣運輸協會々長松阪市々會議員松阪商工會幹事として同地方實業界の重鎭たり養に伊勢農事會社取締役に就任せし事あり(松阪市日野七九三電三〇)

岩井豊治

國產電機(株)社長、岩井商店、白金莫大小製造所、木村徳兵衛商店、德山鐵板製造、大日本セルロイド、中央毛絲紡績、伊東硫曹、日本橋各(株)醫粉、日本曹達工業、西ペイント、岩井本店(資)無限責任社員
大阪府在籍
妻　フミ　明二五、三生、兵庫、岩井勝次郎二女
男　一郎　大二、七生

君は東京府人木村徳兵衛の二男にして明治二十三年十一月を以て生れ先代文助の養子となり大正元年家督を相續す明治四十四年東京高等商業學校を卒業し現時國產電機會社々長の外前記諸會社の重役たり家族は尚二男正治(大五、七生)三男周三(同七、一〇生)あり養姉シツ(明一一、八生)は大阪府人岩井梅太郎に養叔母エイ(同四、四生)は兵庫縣人岩井勝次郎に嫁せりA四一三一(大阪市東區南久太郎町四ノ二九電船場一九二七)

参照‖岩井勝次郎、木村徳兵衛※岩井雄二郎の項

岩井文太郎

東京市大森區會議員、火災保險代理業、東京府在籍
妻　よし　明三〇、一一生、東京、岩井祐太郎四女
男　市郎　大六、一生
女　梅子　明四五、七生

君は東京府人岩井文次郎の長男にして明治二十年九月十七日を以て生れ同三十四年家督を相續す火災保險代理業を營み總望家にして現に大森區會議員に擧げらる家族は尚二女とみ子(大九、一二生)三女秀子(同一二、五生)あり姉ふく(明一五、六生)は東京府人鈴木善吉に同ちく(同一八、八生)は同府人鈴木利三郎孫米太郎に妹花子(同二九、二生)は同府人若井七之助に嫁せりA一六一〇(東京市大森區新井宿四ノ一一四八電大森一〇九九)

岩井盛次

日本レース(株)專務取締役、岩井商店(株)代表取締役、京都府在籍
父　時次郎　安政三、九生
妻　つる　明二九、五生、北村留吉長女
男　常太郎　大八、七生

君は京都府人岩井時次郎の男にして明治二十四年三月二十二日を以て生る同四十二年京都第一商業學校を卒業し家業たる絹製品雜貨製造岩井商店を經營し大正十五年日本レース會社を創立し其專務取締役に就任し現在に至る養に日本產業協會より產業貿易上の功勞者として表彰を受く家族は尚長女菊(大一一、一一生、二女てい(同一五、八生)四男誠之助(昭三、九生)五男安之(同五、三生)三女敬(同七、四生)ありA二一一五(京都市左京區北白川小倉町五〇電上四八五〇)

岩井安治

資產家
東京府在籍
父　和三郎　慶應三、一生、現戸主
妻　信江　明三五、一〇生、東京、清水伊兵衛妹
男　和夫　大一三、八生

君は東京府人岩井和三郎の長男にして明治三十二年二月十八日を以て生る大正十三年早稻田大學政治經濟科を卒業す資產家たり養に產業組合中央金庫員にして又株式會社松屋鑑査役たりしことあり家族は尚二女弘子(昭二、九生)二男章(同六、六生)ありA一一三〇(東京市大森區新井宿四ノ一二九〇電大森二〇)

参照‖岩井和三郎の項

岩井雄二郎

岩井商店、白金莫大小製造所、中央毛絲紡績、日本橋業、德山鐵板製造、日本曹達工業、關西ペイント各(株)取締役、岩井本店(資)無限責任社員、兵庫縣在籍
妻　キミ　明四一、五生、大阪、生田耕一長女、大手前高女出身
男　靖　昭五、二生

君は兵庫縣人岩井勝次郎の四男にして明治三十五年六月を以て生れ昭和四年分れて一家を創立す現時岩井商店關西ペイント會社各取締役たる外前記諸會社の重役にして養に日本毛絲紡績會社重役たり大正九年より昭和元年迄英佛に遊學す家族は尚二男達(昭六、一一生)三男證(同八、八生)あり(兵庫縣武庫郡御影村高羽平三電御影五二一九)

参照‖岩井勝次郎※岩井豊治※高橋龍太郎の項

岩井與治兵衛

家主
大阪府在籍
妻　虎　明二二、二生、兵庫、德井德藏二女
男　壯一　明四五、三生
女　才子　大四、二生

君は大阪府人岩井與治兵衛の長男にして明治十五年二月十七日を以て生れ明治四十五年家督を相續す後前名を改め襲名す家主たり家族は尚二男久安(大八、一二生)三男清吉(同一〇、二生)二女敬子(昭三、四生)あり姉ヨネ(明四、五生)は大阪府人中出新兵衛に妹キミ(同二二、六生)は黑田延太郎に嫁し姉チヨ(同八、六生)は姉ヨネの養子となれりA四四七(大阪市北區堂山町一四六)

参照‖黑田延太郎の項

岩井和吉

莫大小卸商
大阪府在籍
妻　シナ　明二四、一一生、大阪、曾我勘兵衛長女
男　公平　明四二、一一生

君は佐賀縣人岩尾傘太郎の三男にして明治十二年七月を以て生れ大正八年勞新一方より分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尚長女節(大一一、六生)二女伴(同一四、一生)二男弘(昭二、六生)三女和(同四、八生)あり(佐賀縣西松浦郡有田町)

女　喜代子　明四四、一生

君は山口縣人岩井虎五郎の五男にして明治九年九月を以て生れ同三十四年一家を創立して莫大小卸商を營む現に大阪メリヤスタオル同業組合組長たり家族は尚七女康子(大一三、七生)八女悅子(昭四、三生)ありA一〇七(大阪市北區源藏町四ノ一電北二〇四九)

参照‖※小川讓一の項

岩井和三郎

入新井町信用組合理事、保險(株)代理店、東京府在籍
妻　うた　明一一、六生、東京、石森里吉三女
男　安治　明三二、二生

當家は鎌倉幕府時代より新井宿に土着せる舊家なり君は先代安兵衛の長男にして慶應三年一月を以て生れ明治三十六年家督を相續す保險代理業を營み入新井町信用組合理事にして養に同町議員同町長たりし事あり家族は尚三男實(大四、一生)あり長女はな(明二四、一二生)は愛媛縣人林業に二女ソノ(同二七、一〇生)は東京府人澤畠吉三に五女たけ子(同四一、一二生)は同府人横道寛に妹たま(同八、六生)は同府人中島寛之助に嫁し同りう(同一〇、六生)は同府人岩井孝次郎の未亡人にして弟民吉(同二、九生)は其一子を伴ひ千葉縣人曾根伊之助の家籍に入り妹のぶ(同六、三生)は同夫藤作(同四、一〇生、神奈川、磯部峰吉弟)と共に分家せりA二二五一(東京市大森區新井宿四ノ一二九〇電大森二〇)

参照‖岩井安治の項

岩尾卯一

岩尾(株)取締役、岩尾商店(株)監査役、岩尾(資)代表社員、佐賀縣在籍
妻　アサ　明二六、四生、佐賀、井平復次郎妹
男　熙　大一〇、五生

君は佐賀縣人岩尾傘太郎の三男にして明治十二年七月を以て生れ大正八年勞新一方より分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尚長女節(大一一、六生)二女伴(同一四、一生)二男弘(昭二、六生)三女和(同四、八生)あり(佐賀縣西松浦郡有田町)

岩尾慶一　岩尾㊫代表取締役　兵庫縣在籍
妻　うの　明一六、四生、兵庫、八田兵次郎藥妹
男　隆一　明四三、九生
男　健一　大二、一一生
君は兵庫縣人岩尾松平の長男にして明治十年十月を以て生れ同三十三年家督を相續す同三十年大阪高等商業學校を卒業し現時岩尾會社の重役たり家族は尙三男順一(大九、五生)長女千代子(同一二、八生)あり姉マサ(明八、八生)は佐賀縣人森忠藏に嫁し弟辰一(同一三、九生)同妻ゑつ(同二五、一〇生、兵庫、柏木太助長女)は其子女を伴ひ分家せりA六三〇(神戸市葺合區野崎通一ノ一五電葺合一〇三七)
參照‖八田兵次郎の項

岩尾健次郎　賣產家　大阪府士族
母　萃　摘　明七、三生、大阪、士、宇野親孝二女
君は大阪府士族先代義吉の長男にして明治四十年十二月三日を以て生れ同四十二年家督を相續す賣產家として知らる家族は尙姉眞幸(明二八、三生)同夫廉(同二〇、四生北海道、中村則貞二男)及其一子あり姉歌(同三二、八生)は富山縣人高松豐次郎長男良太郎に同五月(同三七、六生)は大阪府人吉田健次郎弟太三郎に嫁せりA三七〇(大阪市北區堂島上通三ノ一一)

岩尾昭太郎　大分縣多鶴納稅者、大分縣會副議長、日田町會議員、九州藥報社長、明六、二生、大分、岩尾嘉左衞門妹
妻　和里　政　明一九、二生
當家は日田町の舊家にして大友義鎮の子岩尾九郎左衞門の裔なり君は先代宗普の長男にして明治三年八月十四日を以て生れ同二十七年家督を相續す夙に欽英中學校に學び傍ら漢學獨逸語醫藥學を修む同三十二年官許を得て家傳日本丸を發賣し現在に及ぶ現に縣會副議長の他所得稅調査委員長營業稅審査委員勸勉貯蓄組合長大分縣藥事協會名譽會長等の諸職に關與す又縣下の多額納稅者にして直接國稅八百三十六圓を納む家族は尙孫昭重(大一〇、四生、長男重政長男)あり(大分縣日田郡日田町電一八)

岩尾德太郎　昭和レーヨン㊫常務取締役　大阪府在籍
男　一郎　明四二、三生
男　謙二　明四四、三、五生
男　舜二　明四四、八生
女　壽々子　大二、七生
君は愛媛縣人岩尾昌司の長男にして明治七年五月を以て生れ同二十二年家督を相續す若冠にて上京し故杉浦重剛の黨陶を受け同二十八年東京高等工業學校機械學科を卒業し大阪紡績會社に入りて技師となり同三十八年紡績業視察のため英國に滯留することと二年歸朝後工務部長となり大正三年同社の三重紡績會社と合併して東洋紡績會社と改稱するに及び副工務長となり取締役を經て當務取締役たりしも後之を辭し現時南揚昭和レーヨン會社常務取締役たり弟龜次郎(明一二、一〇生)は同妻智(同二六、一二生、岡山、大石肇姉)及其子女を伴ひ分家し妹ツルヨ(同一九、六生)は熊本縣人本田信太郎に嫁せりA七六二七(大阪市天王寺區榮ケ芝町一五電南四八九一)

岩尾敏德　前肥後銀行㊫取締役　東京府士族
妻　清　明一三、三生、東京、士、小島渚妹
孝　大四、六生、長野、江崎政吉二女
子　薬　君は東京府士族岩尾橋右衞門の三男にして明治六年八月を以て生れ後家督を相續す同二十八年早稲田大學文學科を卒業し蘭に肥後銀行常務取締役安田銀行長崎支店長長崎商業會議所特別議員たりし事あり(前橋市新明町四七)

岩岡新次郎　岩岡株式店、東京株式取引所取引員、東京府在籍
母　ケイ　明三、八生、東京、
妻　育　明三二、一二生、東京、井上鼎二女
郎五女　君は栃木縣人岩上幸太郎の長男にして明治二十八年五月を以て生れ大正十二年家督を相續す同八年東京高等商業學校を卒業し現時岩上商店社長たり家族は尙長女恂子(大一五、一生)二女淑子(昭四、一生)二男泰二(同五、一一生)の外弟幸英(明三八、一二生、慶應義君は東京府人先代新次郎の二男にして明治二十四年八月二十一日を以て生れ昭和五年家督を相續し同六年前名蔵を改め襲名す現時岩岡株式店を經營し東京株式取引所取引員たり家族は尙二女亥子(大一三、九生)三女昭子(昭二、八生)あり弟虎四郎(明三五、五生)同卯吉郎(同三六、八生)同龍治(同三七、一二生)は分家し妹富美(同四〇、四生)弟英七郎(同四四、一二生)は共に弟岩岡卯吉郎の家籍に入れりA一八〇三B四六四(東京市日本橋區坂本町四電雪雪場町三四七〇)

岩岡保作　正三位勳二等、工學博士、九州帝國大學名譽教授、長野縣在籍
妻　てい　明一二、八生、東京、士、長谷川泰姪
男　太郎　明四一、九生
女　道子　明三三、一〇生
男　次郎　明四二、九生
女　ハマ子　大四、六生
君は長野縣人岩間五郎左衞門の二男にして明治元年十月を以て生れ大正六年兄清作方より分れて一家を創立す明治二十六年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し大學院に入り分子形狀に關する專項を專攻す後機械製作學研究の爲獨米に留學し東京工業學校教授に任じ後九州帝國大學教授に轉ず昭和四年之を退き現に同大學名譽教授たり明治四十四年工學博士の學位を授けらる家族は尙三男順三(大一〇、六生)あり長女ます(明三〇、一〇生)は東京府人石川勝治に二女園子(同三二、七生)は三重縣人小林八百吉に四女末子(同三四、一二生)は山口縣人阿武京二郎に五女やす子(同三七、六生)は群馬縣人岡貞亮に嫁せり(福岡市村木町四一電四九一〇)

岩上幸　岩上商店㊫社長　神奈川縣在籍
妻　八重　明三五、六生、東京、遠藤精一妹
男　幸太郎　昭二、五生、東京、
君は栃木縣人岩上幸太郎の長男にして明治二十八年五月を以て生れ大正十二年家督を相續す同八年東京高等商業學校を卒業し現時岩上商店社長たり家族は尙長女恂子(大一五、一生)二女淑子(昭四、一生)二男泰二(同五、一一生)の外弟幸英(明三八、一二生、慶應義

塾出身)同幸之介(同四二、一生、早稲田大學經濟科出身)同幸治(同四四、四生、東北帝大在學)あり妹實(同三五、一生)は廣島縣人紙榮作次郎長男德市に嫁せりA二七七(横濱市中區元濱町四ノ二五電本局三九四七)

岩上保　賣產家　東京府在籍
君は東京府人森下良三の庶子にして大正八年二月二十八日を以て生れ後ち廢せいの家籍に入り家督を相續す賣產家たりA三五五(東京市麻布區櫻田町三八)

岩上藤之助　尾張屋、玩具商　東京府在籍
養子　林藏　明一二、五生、長女うめ夫、茨城安藤政吉弟
女　うめ　明二一、四生、養子林藏妻
孫　よね　大七、一生、養子林藏養子、茨城安藤政藏孫
君は東京府人岩上忠八の長男にして文久三年十月十八日を以て生れ明治二十五年家督を相續す尾張屋と稱し玩具商を營み獨自の藥寮を展開し同藥者間に重きをなすA一一三一B二三〇(東京市京橋區京橋三ノ六電京橋一五七〇)

岩上夫美雄　正六位、陸軍砲兵少尉、岡山縣書記官、警察部長、東京府在籍
母　ぬい　明元、七生、群馬、大塚源十郎妹
妻　圖和　明四一、三生、千葉、久保田專藏女
男　嘉夫　昭五、四生
當家は先代照雄より顯る照雄夙に明治法律學校を卒業し辯護士を開業法曹界に手腕を揮ふこと十數年後實業界に奮鬪し諸種會社の重役たり君は其長男にして明治三十一年四月を以て生れ昭和九年家督を相續す大正十年文官高等試驗に合格し翌十一年東京帝國大學法學部英法科を卒業直ちに內務屬となり爾來山梨縣理事官地方事務官地方警視警視警視內務事務官地方事務官大阪府工場監督官等に任補し昭和六年奈良縣書記官警察部長となり現時前記の職に在り家族は尙長女和代(昭七、八生)妹八重子(明四三、三生)あり弟義雄(同三三、六生、藤倉電線會社技師東京高工出身)は同妻ハツ子(同三七、三生、神奈川、高橋久五郎妹、小田原高女出身)及其子女を伴ひ分家し妹登喜(同三五、二生、日本女大出身)は東京府技師松本常太郎に嫁せり(岡山市弓之町官舍)

岩川克輝　正四位勳二等、醫學博士、新潟醫科大學教授、青森縣在籍
母　ひさ　安政六、一二生、青森、木村長助二女
妻　ハル　明一九、三生、新潟、大塚益郎六女、跡見女學校出身
男　克信　大四、二生
女　アツ　大七、八生
君は青森縣人岩川常之進の長男にして明治十三年十一月を以て生れ同四十三年家督を相續す同三十九年東京帝國大學醫科大學を卒業し同四十五年醫學博士の學位を受け大正元年新潟醫學專門學校教授同附屬病院小兒科醫長に任じ同八年小兒科學研究の爲米英佛瑞獨各國に留學歸朝後新潟醫科大學教授に任ぜられ現時其任に在り家族は尙二男重雄(大五、九生)二女和子(同九、八生)三女サチ(同一四、九生)弟民人(明二五、一生)あり妹ちよ(同一七、三生)は栃木縣人永澤健一郎に同じん(同二九、九生)は青森縣人小川與吉郎に嫁し弟誠(同二〇、六生)は分家せり(新潟市南濱通二ノ五一二電六一五)

岩城市太郎　藥品商　東京府在籍
妻　よふ　明五、一一生、東京、石河盛信長女
男　市太郎　明二三、一一生
婿　マツ　明二八、二生、長男市太郎妻、東京、野村半四郎妹
君は東京府人岩城市右衞門の二男にして慶應二年六月を以て生れ後兄兼吉の跡を承けて家督を相續す藥品商を營む家族は尙男謙太郎(大八、一一生)あり五女ツ(明四四、五生)は神奈川縣人坂本耕五郎養子元雄に嫁せりA九五七B三六〇(東京市日本橋區本町四ノ一電日本橋八六五)

岩城俊藏　東播合同銀行㊫監査役、地主　兵庫縣在籍
妻　フミ　明三二、六生、兵庫、阿江勳長女
男　康雄　大一二、七生
女　いせ　大五、一生
君は兵庫縣人岩城健次の長男にして明治二十六年九月を以て生れ大正九年家督を相續す同三年早稲田大學專門部法律科を卒業し地主にして現時東播合同銀行監査役たり又村會議員學務委員等地方公職を帶ぶ家族は尙二女タカ(大一〇、一生)あり(兵庫縣加東郡下東條村小田一八〇一)
參照‖※今井悅太郎※小笹耕作の項

岩城純一　日本電池㊫常務取締役　石川縣士族
母　王幾　元治元、五生、石川、士、谷本嘉衞長女
妻　しつ　明二七、五生、石川、宮本幸太郎長女
男　良次郎　大一一、九生
女　純江　大八、五生
君は石川縣士族岩城良太郎の長男にして明治十八年一月を以て生れ大正十一年家督を相續す明治四十年東京高等商範學校に學び次で大正三年京都帝國大學理科大學化學科を卒業す現時日本電池會社常務取締役たり家族は尙三男重三(昭二、五生)弟元也(明二八、六生)同妻ふみ(同三七、七生、石川、松村銅一妹)及其二男弟道也(同三〇、一生)同秀也(同三四、三生)及其一女妹重子(同三八、七生)ありA九〇三(京都市左京區下鴨北園町二三電上二三三)

岩城準太郎　從四位勳三等、奈良女子高等師範學校教授、富山縣在籍
妻　八重　明一九、五生、東京、寺田章明三女
男　隆利　明四三、七生
女　佐保子　大八、一生
君は富山縣人岩城平二の長男にして明治十一年三月を以て生れ大正九年家督を相續す明治三十五年東京帝國大學文科大學を卒業し三重縣立第一中學校教諭第四高等學校教授に歷任し現時奈良女子高等師範學校教授たり著述に「明治文學史」「明治大正の國文學」「國文學の諸相」等あり家族は尙三女南都子(大一〇、五生)弟隆三郎(明三一、九生)妹スミエ(同三四、九生)弟健雄(同

三九、九生）妹トシヨ（同四二、一二生）あり弟平之助（同一六、七生）同妻孝子（同三七、一一生、長崎、中島鐵男三女）は其二子を伴ひ分家せり（奈良市法蓮町一三一五）

岩城隆德

正四位、子爵、貴族院議員、日東印刷、森川鐵業各㊟取締役、東洋女子商科醫學專門學校理事長
翼羽後龜田藩

妻　フミ　明二九、三生、神奈川、相川文五郎長女、東京女學館出身
男　隆宣　大六、一生、學習院高等科在學
女　順子　大八、八生、女子學習院高等科在學

當家は上總介平高望の孫鎮守府將軍繁盛の後なり再傳して則道に至り岩城と稱し世々磐城の平城に在り二十二世を經て貞隆の時關ケ原役後羽州龜田二萬石に改封せらる後十二代隆邦に至り明治十七年子爵を授けらる。

君實は故青山幸宜の五男にして當主幸直の弟なり明治二十三年六月八日を以て生れ同四十四年先代隆邦の死跡を相續し前名幸德を改め襲爵す大正三年東京帝國大學理科大學植物學科を卒業し大學院に入り更に同經濟學部に學べり大正五年帝室林野局技手に任じ疑に外務政務次官に擧げらる同十四年以來貴族院議員に當選する事二回にして研究會に屬し傍ら前記會社の重役たり

家族は尙二男隆明（大七、七生）二女いと（同一二、七生）三男隆清（同一四、六生）四男隆和（昭二、七生）五男隆行（同三、三生）あり養姉美都子（明四、六生）は秋田縣士族後藤善二に養姪長子（同三七、七生、養兄隆長庶子）は京都府人潮木辰巳長男辰夫に嫁し養兄隆長（同一〇、四生）は分家し大叔母なみ（嘉永六、八生）は東京府士族宮田爲之の繼母たりA一一五（東京市豊島區長崎南町一ノ一八七三ノ三電大塚二一六〇）

參照＝子爵青山幸直、相川文五郎※赤羽雄一※淺田甚右衛門※大住喜右衛門※細川源三郎の項

岩切英三

鹿兒島縣士族
明一六、一二生、鹿兒島、吉田雄吉妹

妻　ユキ　明四二、五生
男　武則
男　盛行

君は鹿兒島縣士族岩切盛信の長男にして明治八年八月（同一六、七生）同妻孝子（同三七、一一生、長崎、中島鐵男三女）は其二子を伴ひ分家せり（奈良市法蓮町一三一五）

岩城隆德

正四位、子爵、貴族院議員、日東印刷、森川鐵業各㊟取締役、東洋女子商科醫學專門學校理事長
翼羽後龜田藩

妻　フミ　明二九、三生、神奈川、相川文五郎長女、東京女學館出身
男　隆宣　大六、一生、學習院高等科在學
女　順子　大八、八生、女子學習院高等科在學

當家は上總介平高望の孫鎮守府將軍繁盛の後なり再傳して則道に至り岩城と稱し世々磐城の平城に在り二十二世を經て貞隆の時關ケ原役後羽州龜田二萬石に改封せらる後十二代隆邦に至り明治十七年子爵を授けらる。

君實は故青山幸宜の五男にして當主幸直の弟なり明治二十三年六月八日を以て生れ同四十四年先代隆邦の死跡を相續し前名幸德を改め襲爵す大正三年東京帝國大學理科大學植物學科を卒業し大學院に入り更に同經濟學部に學べり大正五年帝室林野局技手に任じ疑に外務政務次官に擧げらる同十四年以來貴族院議員に當選する事二回にして研究會に屬し傍ら前記會社の重役たり

家族は尙二男隆明（大七、七生）二女いと（同一二、七生）三男隆清（同一四、六生）四男隆和（昭二、七生）五男隆行（同三、三生）あり養姉美都子（明四、六生）は秋田縣士族後藤善二に養姪長子（同三七、七生、養兄隆長庶子）は京都府人潮木辰巳長男辰夫に嫁し養兄隆長（同一〇、四生）は分家し大叔母なみ（嘉永六、八生）は東京府士族宮田爲之の繼母たりA一一五（東京市豊島區長崎南町一ノ一八七三ノ三電大塚二一六〇）

參照＝子爵青山幸直、相川文五郎※赤羽雄一※淺田甚右衛門※大住喜右衛門※細川源三郎の項

岩切英三

鹿兒島縣士族
明一六、一二生、鹿兒島、吉田雄吉妹

妻　ユキ　明四二、五生
男　武則
男　盛行　明四四、一一生

君は鹿兒島縣士族岩切盛信の長男にして明治八年八月を以て生れ同二十一年家督を相續す夙に鹿兒島縣師範學校を卒業し師範學校講導小學校長視學等を經て大正七年福德生命保險會社に入社し祕書役九州支部長福岡支店長本社營業課長大阪支店等を經て大正十三年現職に轉じ今日に至る尙文部省社會教育會理事を囑託せられ社會教育事業の爲め力を盡しつゝあり家族は尙四男俊雄（大六、一生）二女綾子（同一一、一生）あり（東京市世田谷區代田二ノ七一八電松濤三一三）

岩切重雄

正五位勳三等、衆議院議員（神奈川縣選出）、東京府士族
翼三〇、二生、鹿兒島、沖一誠長女

妻　千賀子　大七、三生
男　重一　大五、三生
女　日見　大五、三生

君は鹿兒島縣士族岩切仲二の長男にして明治二十一年一月二十八日を以て生れ大正八年家督を相續す同三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し鳥取縣警視鹿兒島市助役大藏大臣祕書官商工參與官商工政務次官等に歷任し齋藤內閣挂冠に際し退官す大正九年以來衆議院議員に當選すること四回立憲民政黨の所屬にして南畫に趣味を有し五山と號す家族は尙二女朋子（大九、一生）三女紺子（同一四、八生）二男龍雄（昭三、九生）あり（東京市麻布區霞町一九電青山八二七〇）

岩切章太郎

宮崎商工會議所常議員、宮崎農工銀行、日向中央銀行各㊟取締役
宮崎縣在籍

母　ヒサ　明九、五生、宮崎、清水八郎左衛門三女
妻　タメ　明三二、一生、宮崎、後藤嘉太郎二女
男　省一郎　大八、一二生

君は宮崎縣人岩切與平の長男にして明治二十六年五月を以て生れ大正六年家督を相續す同九年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時前記各銀行の取締役たり

家族は尙長女郁（大一〇、六生）妹ミヤ（明四二、一〇生）弟芳郎（大三女道（昭三、四生）妹恒（同六、五生）あり同アヤ（明二八、九生）二、八生）妹恒（同六、五生）あり同アヤ（明二八、九生）は福島縣人押見仁に同フミ（同三一、七生）は京都府人小室德太郎に同醇（同四〇、三生）は宮崎縣人荒川潤に嫁せり（宮崎市中村町三ノ三電一二三）

參照＝押見仁、後藤嘉太郎※日高治吉の項

岩國石藏

從五位勳五等、衆議院議員、福岡高等學校教授
母　興代治　文久二、一生
　　あい　慶應二、一生、鈴木安平長女
男　興忠雄　大五、一二生

君は愛知縣人岩國興代治の長男にして明治十六年四月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し青森縣弘前中學校長野縣大町中學校熊本縣鹿本中學校各教諭熊本御船中學校長を經て大正十二年福岡高等學校教授に任じ今日に至る（福岡市西新町沙入二六〇四ノ三電二八七〇）

岩國律

家主
大阪府在籍

養子　嘉量　昭三、三生、養弟愛次長男

君は大阪府人岩國久右衛門の二女にして明治三十二年六月を以て生れ大正十五年夫久右衛門の後を承け家督を相續す家主たり家族は尙妹靜（明三四、六生）同夫愛次（同三三、七生、兵庫、中村卯三郎六男）と其一子あり A一〇四四（大阪市東淀川區豐崎東通二ノ七六）

岩國半治郎

酒商
京都府在籍

母　ハル　明四、六生、京都、山本龜之助長女

君は京都府人岩國源七の長男にして明治十四年十一月二十八日を以て生れ昭和三年家督を相續す酒商を營む家族は尙妹靜子（明四二、三生）あり弟精一（同三三、五生）は分家し妹貞（同三五、六生）は京都府人太田字一に嫁せり（京都市東山區六波羅興門通東入電祇園九七二）

岩倉具榮

正四位、公爵、貴族院議員
舊公卿家

祖母　久子　文久二、一〇生、伯爵澤宣武大叔母
妻　良子　明四四、七生、伯爵藤堂高紹長女
　　女子學習院高等科出身
男　具忠　昭八、九生

當家は村上天皇第七皇子具平親王の第一子右大臣源師房の後裔にして師房二十世の孫具堯初めて岩倉と稱し十三世を經て具視に至る具視は維新の元勳邦家の柱石にして正一位太政大臣を贈らる養子具綱を經て嫡男具定に至り明治十七年父の勳功に依り公爵を授けられ主獵官學習院長爵位局長樞密顧問官宮內大臣に歷任す君は具定の孫先代具張の長男にして明治三十七年二月八日を以て生れ大正三年家督を相續し襲爵す

君は故右大臣贈太政大臣岩倉具視の孫にして故從一位勳一等宮中顧問官岩倉具綱の二男公爵岩倉具榮の再從兄子爵岩倉具明男爵岩倉道俱の甥なり明治十三年五月二日を以て生れ同十六年分籍して一家を創立し祖父具視の勳功に依り特旨を以て華族に列し同十七年男爵を授けらる家族は尙長女郁（大一〇、六生）妹ミヤ（明四二、一〇生）弟芳郎（大三女道（昭三、四生）妹恒（同六、五生）あり同アヤ（明二八、九生）二、八生）妹恒（同六、五生）あり同アヤ（明二八、九生）は福島縣人押見仁に同フミ（同三一、七生）は京都府人小室德太郎に同醇（同四〇、三生）は宮崎縣人荒川潤に嫁せり（宮崎市中村町三ノ三電一二三）

參照＝押見仁、後藤嘉太郎※日高治吉の項

岩國石藏

從五位勳五等、衆議院議員、福岡高等學校教授
母　興代治　文久二、一生
　　あい　慶應二、一生、鈴木安平長女
男　興忠雄　大五、一二生

君は愛知縣人岩國興代治の長男にして明治十六年四月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し青森縣弘前中學校長野縣大町中學校熊本縣鹿本中學校各教諭熊本御船中學校長を經て大正十二年福岡高等學校教授に任じ今日に至る（福岡市西新町沙入二六〇四ノ三電二八七〇）

岩國律

家主
大阪府在籍

養子　嘉量　昭三、三生、養弟愛次長男

君は大阪府人岩國久右衛門の二女にして明治三十二年六月を以て生れ大正十五年夫久右衛門の後を承け家督を相續す家主たり家族は尙妹靜（明三四、六生）同夫愛次（同三三、七生、兵庫、中村卯三郎六男）と其一子あり A一〇四四（大阪市東淀川區豐崎東通二ノ七六）

岩國半治郎

酒商
京都府在籍

母　ハル　明四、六生、京都、山本龜之助長女

君は京都府人岩國源七の長男にして明治十四年十一月二十八日を以て生れ昭和三年家督を相續す酒商を營む家族は尙妹靜子（明四二、三生）あり弟精一（同三三、五生）は分家し妹貞（同三五、六生）は京都府人太田字一に嫁せり（京都市東山區六波羅興門通東入電祇園九七二）

岩倉具德

從三位、男爵
岩倉公爵家分家

妻　敬子　明二〇、一生、子爵戸澤正巳叔母
　　女子學習院出身
男　具清　明四〇、四生、從五位
男　具邦　明四一、一一生、立川飛行隊勤務
女　和子　明四三、三生、雙葉高女出身
男　具仲　明四四、一二生、東京農大出身
女　寛美子　大元、一二生、女子學習院出身
女　邦子　大四、一二生、女子學習院出身

當家は贈太政大臣岩倉具視の三男具經の建つるところなり具經戊辰の役に東山道鎭撫副總督となり奥羽平定の偉勳を奏し功を以て新に一家をなさしめ堂上の列に加へらる後英米露に留學し宮中顧問官に任ぜられ明治十七年男爵を授けらる君はその長男にして公爵岩倉具榮の再從兄男爵岩倉具德の從弟男爵岩倉道俱の甥に當る明治十三年六月七日を以て生れ同二十三年家督を相續し鳩爵被仰付同二十四年父具經の勳功に依り特に子爵に陞さる同三十四年學習院高等科を卒業東京帝國大學法科大學政治學科に學び三井物產會社倫敦支店に勤務せしも後之を辭し同四十三年歸朝後博愛生命保險會社取締役に就任同社が萬歲生命保險會社に合併するに及び辭任し現時閑地にあり趣味として狩獵謠曲を好む

長女明子（明三八、一二生、女子學習院出身）は山口縣人工學士坂本美夫に二女治子（同四一、八生、出身校同上）は工學博士曾禰達藏二男農學士修に妹八子子（同一七、五生、出身校同上）は男爵中島久萬吉に嫁し弟具重（同二二、四生）は男爵鮫島家を襲ぎ同具廣（同一六、一生）同妻延（同二一、九生、高知、五藤正形長女）は其一子を伴ひ分家し同具光（同一九、九生）も亦分家し東京府士族岩下清周長女花子（明二四、一生）を娶る（東京市澁谷區大和田町七四電青山一四八四）

參照＝公爵岩倉具榮、男爵岩倉道俱、男爵鮫島具重、男爵中島久萬吉、伯爵前田利男、男爵岩倉具德、岩倉具光、曾禰達藏※公爵山縣有朋※侯爵西鄕從德※伯爵戸田氏共※子爵內藤信利※子爵森清※男爵鳥津齊觀※男爵武井守成※男爵中島久萬吉※曾禰達藏

岩倉具德

從三位、男爵
岩倉公爵家分家

妻　敬子　明二〇、一生、子爵戸澤正巳叔母
　　女子學習院出身
男　具清　明四〇、四生、從五位
男　具邦　明四一、一一生、立川飛行隊勤務
女　和子　明四三、三生、雙葉高女出身
男　具仲　明四四、一二生、東京農大出身
女　寛美子　大元、一二生、女子學習院出身
女　邦子　大四、一二生、女子學習院出身

當家は贈太政大臣岩倉具視の三男具經の建つるところなり具經戊辰の役に東山道鎭撫副總督となり奥羽平定の偉勳を奏し功を以て新に一家をなさしめ堂上の列に加へらる後英米露に留學し宮中顧問官に任ぜられ明治十七年男爵を授けらる君はその長男にして公爵岩倉具榮の再從兄男爵岩倉具德の從弟男爵岩倉道俱の甥に當る明治十三年六月七日を以て生れ同二十三年家督を相續し鳩爵被仰付同二十四年父具經の勳功に依り特に子爵に陞さる同三十四年學習院高等科を卒業東京帝國大學法科大學政治學科に學び三井物產會社倫敦支店に勤務せしも後之を辭し同四十三年歸朝後博愛生命保險會社取締役に就任同社が萬歲生命保險會社に合併するに及び辭任し現時閑地にあり趣味として狩獵謠曲を好む

長女明子（明三八、一二生、女子學習院出身）は山口縣人工學士坂本美夫に二女治子（同四一、八生、出身校同上）は工學博士曾禰達藏二男農學士修に妹八子子（同一七、五生、出身校同上）は男爵中島久萬吉に嫁し弟具重（同二二、四生）は男爵鮫島家を襲ぎ同具廣（同一六、一生）同妻延（同二一、九生、高知、五藤正形長女）は其一子を伴ひ分家し同具光（同一九、九生）も亦分家し東京府士族岩下清周長女花子（明二四、一生）を娶る（東京市澁谷區大和田町七四電青山一四八四）

參照＝公爵岩倉具榮、男爵岩倉道俱、男爵鮫島具重、男爵中島久萬吉、伯爵前田利男、男爵岩倉具德、岩倉具光、曾禰達藏※公爵山縣有朋※侯爵西鄕從德※伯爵戸田氏共※子爵內藤信利※子爵森清※男爵鳥津齊觀※男爵武井守成※男爵中島久萬吉※曾禰達藏

岩倉具榮

正四位、公爵、貴族院議員
舊公卿家

祖母　久子　文久二、一〇生、伯爵澤宣武大叔母
妻　良子　明四四、七生、伯爵藤堂高紹長女
　　女子學習院高等科出身
男　具忠　昭八、九生

當家は村上天皇第七皇子具平親王の第一子右大臣源師房の後裔にして師房二十世の孫具堯初めて岩倉と稱し十三世を經て具視に至る具視は維新の元勳邦家の柱石にして正一位太政大臣を贈らる養子具綱を經て嫡男具定に至り明治十七年父の勳功に依り公爵を授けられ主獵官學習院長爵位局長樞密顧問官宮內大臣に歷任す君は具定の孫先代具張の長男にして明治三十七年二月八日を以て生れ大正三年家督を相續し襲爵す

君は故右大臣贈太政大臣岩倉具視の孫にして故從一位勳一等宮中顧問官岩倉具綱の二男公爵岩倉具榮の再從兄子爵岩倉具明男爵岩倉道俱の甥なり明治十三年五月二日を以て生れ同十六年分籍して一家を創立し祖父具視の勳功に依り特旨を以て華族に列し同十七年男爵を授けらる家族は尙長女郁（大一〇、六生）妹ミヤ（明四二、一〇生）弟芳郎（大三女道（昭三、四生）妹恒（同六、五生）あり同アヤ（明二八、九生）二、八生）妹恒（同六、五生）あり同アヤ（明二八、九生）は福島縣人押見仁に同フミ（同三一、七生）は京都府人小室德太郎に同醇（同四〇、三生）は宮崎縣人荒川潤に嫁せり（宮崎市中村町三ノ三電一二三）

參照＝押見仁、後藤嘉太郎※日高治吉の項

岩國石藏

從五位勳五等、衆議院議員、福岡高等學校教授
母　興代治　文久二、一生
　　あい　慶應二、一生、鈴木安平長女
男　興忠雄　大五、一二生

君は愛知縣人岩國興代治の長男にして明治十六年四月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し青森縣弘前中學校長野縣大町中學校熊本縣鹿本中學校各教諭熊本御船中學校長を經て大正十二年福岡高等學校教授に任じ今日に至る（福岡市西新町沙入二六〇四ノ三電二八七〇）

岩國律

家主
大阪府在籍

養子　嘉量　昭三、三生、養弟愛次長男

君は大阪府人岩國久右衛門の二女にして明治三十二年六月を以て生れ大正十五年夫久右衛門の後を承け家督を相續す家主たり家族は尙妹靜（明三四、六生）同夫愛次（同三三、七生、兵庫、中村卯三郎六男）と其一子あり A一〇四四（大阪市東淀川區豐崎東通二ノ七六）

岩國半治郎

酒商
京都府在籍

母　ハル　明四、六生、京都、山本龜之助長女

君は京都府人岩國源七の長男にして明治十四年十一月二十八日を以て生れ昭和三年家督を相續す酒商を營む家族は尙妹靜子（明四二、三生）あり弟精一（同三三、五生）は分家し妹貞（同三五、六生）は京都府人太田字一に嫁せり（京都市東山區六波羅興門通東入電祇園九七二）

岩倉具明

從三位、子爵
岩倉公爵家分家

妻　知子　明二〇、二生、伯爵前田利男養叔母、女子學習院出身
男　具正　明三八、一生、從五位、宮內省大臣官房祕書課勤務、文學士

侯爵西鄕從德妹）は共に分家し弟具方（同四一、一生）

叔父具幸（同一二、八生）同具高（同一三、六生）同具良（同三二、一二生）も各分家し同具顯（同一七、九生）も亦分家して東京府人江間俊一長女光子（同三二、二生）を娶り妹初子（同四二、一〇生、女子學習院出身）は侯爵西鄕從德の養子となり子爵松平直德三男直顯に嫁し伯爵周子（同九、八生）は故東伏見宮依仁親王妃嚴下とならせられ妹雅子（同四四、四生）は大阪府人田中德祿に叔母豐子（同一三、一一生）は侯爵西鄕從德に同花子（同三〇、一生）は男爵武井守成に大叔母孝尾子（同六、八生）は男爵南岩倉具威に大々叔母極子（安政四、一一生）は伯爵戸田氏共に嫁し同寬子（元治元、三生）は子爵森清の母にして同季子（同三〇、一〇生）は男爵鳥津齊觀の叔母米子（明一八、一一生）は子爵水野忠誠の各母たり子爵岩倉具明男爵岩倉具德男爵岩倉道俱は皆當家の支流なり（東京市澁谷區鉢山町一〇電青山三九六〇）

參照＝東伏見宮家、侯爵西鄕從德、伯爵澤宣武、伯爵戸田氏共、伯爵藤堂高紹、子爵岩倉具明、子爵松平直顯、子爵水野忠欽、子爵森清、男爵岩倉具德、男爵岩倉道俱、男爵鳥津齊觀、男爵武井守成、男爵南岩倉具威※侯爵西鄕吉壽※子爵森清※子爵米津政賢※男爵鳥津齊觀※男爵武井守成※男爵中島久萬吉の項

岩倉具光

正四位、公爵、貴族院議員
舊公卿家

祖母　文久二、一〇生、伯爵澤宣武大叔母
妻　良子　明四四、七生、伯爵藤堂高紹長女
　　女子學習院高等科出身
男　具忠　昭八、九生

當家は村上天皇第七皇子具平親王の第一子右大臣源師房の後裔にして師房二十世の孫具堯初めて岩倉と稱し十三世を經て具視に至る具視は維新の元勳邦家の柱石にして正一位太政大臣を贈らる養子具綱を經て嫡男具定に至り明治十七年父の勳功に依り公爵を授けられ主獵官學習院長爵位局長樞密顧問官宮內大臣に歷任す君は具定の孫先代具張の長男にして明治三十七年二月八日を以て生れ大正三年家督を相續し襲爵す

君は故右大臣贈太政大臣岩倉具視の孫にして故從一位勳一等宮中顧問官岩倉具綱の二男公爵岩倉具榮の再從兄子爵岩倉具明男爵岩倉道俱の甥なり明治十三年五月二日を以て生れ同十六年分籍して一家を創立し祖父具視の勳功に依り特旨を以て華族に列し同十七年男爵を授けらる家族は尙長女郁（大一〇、六生）妹ミヤ（明四二、一〇生）弟芳郎（大三女道（昭三、四生）妹恒（同六、五生）あり同アヤ（明二八、九生）二、八生）妹恒（同六、五生）あり同アヤ（明二八、九生）は福島縣人押見仁に同フミ（同三一、七生）は京都府人小室德太郎に同醇（同四〇、三生）は宮崎縣人荒川潤に嫁せり（宮崎市中村町三ノ三電一二三）

參照＝押見仁、後藤嘉太郎※日高治吉の項

岩國石藏

從五位勳五等、衆議院議員、福岡高等學校教授
母　興代治　文久二、一生
　　あい　慶應二、一生、鈴木安平長女
男　興忠雄　大五、一二生

君は愛知縣人岩國興代治の長男にして明治十六年四月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し青森縣弘前中學校長野縣大町中學校熊本縣鹿本中學校各教諭熊本御船中學校長を經て大正十二年福岡高等學校教授に任じ今日に至る（福岡市西新町沙入二六〇四ノ三電二八七〇）

岩國律

家主
大阪府在籍

養子　嘉量　昭三、三生、養弟愛次長男

君は大阪府人岩國久右衛門の二女にして明治三十二年六月を以て生れ大正十五年夫久右衛門の後を承け家督を相續す家主たり家族は尙妹靜（明三四、六生）同夫愛次（同三三、七生、兵庫、中村卯三郎六男）と其一子あり A一〇四四（大阪市東淀川區豐崎東通二ノ七六）

岩國半治郎

酒商
京都府在籍

母　ハル　明四、六生、京都、山本龜之助長女

君は京都府人岩國源七の長男にして明治十四年十一月二十八日を以て生れ昭和三年家督を相續す酒商を營む家族は尙妹靜子（明四二、三生）あり弟精一（同三三、五生）は分家し妹貞（同三五、六生）は京都府人太田字一に嫁せり（京都市東山區六波羅興門通東入電祇園九七二）

岩倉具明

從三位、子爵
岩倉公爵家分家

妻　知子　明二〇、二生、伯爵前田利男養叔母、女子學習院出身
男　具正　明三八、一生、從五位、宮內省大臣官房祕書課勤務、文學士

舉げらる後歐米を巡遊し滯在二年にして歸朝し爾來實業界に投じ現に前掲諸會社の重役として知らるA二三二四(大阪府豐能郡中豐島村曾根二八四電岡町四三四)

參照‖子爵岩倉具明、男爵岩倉道俱、男爵鮫島具重男爵中島久萬吉※曾禰達藏の項

岩倉道俱

妻　裕

男　泰俱　明一九、五生、男爵澤宣一養姉明四五、一生、從五位、東北帝大在學

君は贈太政大臣岩倉具視の四男にして公爵岩倉具榮の大叔父男爵岩倉具德子爵岩倉具明岩倉具光男爵鮫島具重の叔父なり明治十四年五月二十九日を以て生れ同二十九年分れて一家を創立し父具視の勳功に依り特旨を以て華族に列し男爵を授けらる學習院を經て東京帝國大學文科大學に學び後歐米に遊ぶ明治四十四年以來貴族院議員に當選する事四回現に其任に在り米穀統制調査會委員に推さる傍ら前記諸會社の重役にして靄鶴生命保險會社取締役たり弓術に精しく遊獵を好む家族は尙二男貞俱(大八、一〇生、學習院中等科在學)三男守(同一一、六生)あり長女嘉子(明三九、八生、女子學習院出身)は東京府人杉村虎一長男月男に二女直子(同四〇、九生、田身校同上)は同府人雜波經一に嫁せり(東京市中丸區市谷仲ノ町二四電話牛込二四八〇)

參照‖公爵岩倉具榮、子爵岩倉具明、男爵岩倉具德男爵鮫島具重、男爵澤宣一、岩倉具光※侯爵西郷從徳※伯爵戸田氏共※子爵森清※男爵島津齊觀※男爵武井守成※男爵中御門經民※男爵南岩倉具威の項

岩越孝三

旅館食料品商　廣島縣在籍

養母　ノブ　明五、八生

妻　越子　明四〇、二生、養父武兵衛女

男　平陸　大一三、一二生

當家は元越後の藩士にして祖先平助廣島に移り大曾祖父仙造に至り故ありて町人となり御藏前御用及御材木場の主役人を勤む先代武兵衛幼にして孤となり明治二十二年奥市に來り旅館食料品商を營み精勤以て今日の礎をなし縣下の多額納稅者に列す君實は廣島縣人三好惟孝の三男にして明治三十年九月を以て生れ先代武兵衛の養子となり昭和五年家督を相續す旅館食料品商を營む家族は尙二男米助(大一五、一一生)あり養姉トク(明一七、六生、廣島、川瀨喜代作長女)は廣島縣人島山恒吉母チカの養子となり同王治(同二一、五生)は宮城縣人高橋十三郎に嫁せり(廣島縣吳市本通六ノ六ノ一電四八)

岩越恒一

妻　貞

君は大阪府人岩越直右衛門の長男にして明治十一年十二月を以て生れ大正九年家督を相續す明治三十四年陸軍士官學校卒業し同年陸軍中將に陞り工兵隊に任じ累進して昭和七年陸軍中將に陞り工軍工兵少尉に任ぜらる其間參謀本部課長電信第二聯隊長佐世保要塞司令官陸軍通信學校長陸軍工兵學校長陸軍砲工學長等に歷補す(東京市杉並區高圓寺七ノ一〇一〇電四谷二〇六一)

岩佐光治

從四位勳二等功四級、陸軍中將、工兵監、大阪府在籍

男　昌信　明一九、五生、和歌山、士、矢野

妻　房枝　大一〇、一一生

君は兵庫縣人岩佐由平の四男にして明治二十六年九月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す蒲鉾商を營む家族は尙長女精子(大一〇、七生)二女美津子(同一三、八生)あり(神戸市神戸區元町三ノ二六五)

岩佐重一

從四位勳三等、京城高等商業學校長、福井縣士族

妻　ユウ子　明一六、一生

男　治夫　大七、四生

君は福井縣人三宅重信の長男にして明治九年九月を以て生れ先代喜十太の養子となり大正十四年家督を相續す明治三十九年早稻田大學文科大學國文學科を卒業し海軍四十四年東京帝國大學文科大學國文學科を卒業し海軍兵學校教官に任ぜられ爾來松本高等學校教授を經て大正十三年朝鮮總督府視學官兼同府編修官に任じ學務局編纂課長となりしも昭和三年京城高等商業學校長に轉じ今日に至る(京城府西小門町官舍電光化門八八二)

岩佐新

正四位、男爵　東京府華族

妻　ふじ　明九、三生、子爵本野盛一叔母

養子　公直　明二〇、一二生、長女富貴子夫、子爵園池公致叔父、正位勳六等宮內事務官、山階宮附、法學士

女　富貴子　明三〇、二生、養子公直妻、御茶の水高女出身

當家は累代福井藩の典醫にして先代純に至りて家名を揚ぐ純醫術を佐藤舜海に學び夙に侍醫に任じ一等侍醫宮中顧問官となり明治四十年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は純の長男にして慶應元年四月を以て生れ明治四十五年襲爵被仰付初め大學豫備門に入り後獨逸に留學し內科醫を專攻しドクトル・メヂチーネの學位を得歸朝後告成堂病院を經營す大正七年貴族院議員に選ばれしも後之を辭し現時閑地に在り家族は尙孫博(大六、六生、養子公直長男)同正(同九、三生、同二男)同潔(同一一、一生、同三男)同萬里子(同一四、二生、同長女)あり二女淑子(明三三、三生)は廣兒島縣人千田貞雄に三女貞子(同三五、一一生)は東京府人山路良三三男法學士鎭夫に四女萬喜(同三八、二生、女子學習院出身)は長野縣人佐藤武雄に五女順(同四〇、九生、出身校同上)は東京府人中西清郎に六女幸子(同四二、一一生、出身校同上)は同府人安田善四郎長男補男に嫁し男五郎(同二八、八生、亡弟登編太五男)は分家せり(東京市麴町區一番町一三電九段四〇六)

參照‖子爵園池公致、子爵本野盛一、中西清郎、安田補男、山路鎭夫※伯爵室町公藤※男爵北大路實信※角田不二男の項

岩佐太三郎

家主　兵庫縣在籍

母　せい　嘉永二、八生、兵庫、前川庄平長女

妻　とら　明五、一〇生、兵庫、五左衛門二女

男　梅太郎　明三一、一二生

婦　ための　明三四、七生、長男梅太郎妻、兵庫、川崎易三郎二女

男　太良二　明三四、七生

婦　晴子　明四〇、四生、二男太良二妻、兵庫、藤原貞二長女

男　三郎　明四〇、一生

男　榮治　明四五、三生

君は兵庫縣人岩佐梅藏の長男にして慶應二年八月二十五日を以て生れ明治二十六年家督を相續す家族は尙勝美(大九、一二生、長男梅太郎長男)同滝博(同一三、一一生、同三男)同富美子(昭四、七生、同長女)妹ゆう(明八、九生)あり二女セイ(同四一、一二生)は兵庫縣人岡本庄太郎に妹しよ(同三、一生)は同縣人志水利吉に嫁し弟庄三郎(同一三、一〇生)は同妻はな(同一八、三生、兵庫、三浦產太郎妹)と共に分家せり(神戸市湊東區菊水町一ノ六三)

岩佐武次郎

撫久、海魚卸商　大阪府在籍

妻　ヨシ　明一九、七生、兵庫、川西ナラ二女

男　敬三　明四二、二生、長女とよ夫、兵庫

養子　利貞　長岡榮次郎弟　大一〇、二生

女　とよ　大二、一二生、養子利貞妻

女　ふさ　大五、二生

君は大阪府人岩佐佐兵衛の五男にして明治十年六月十五日を以て生れ先代久衛の養子となり同三十八年家督を相續す撫久と稱し海魚卸商を營む家族は尙三女喜代子(大二一、八生)あり(大阪市西區本田町三ノ三七電西四三六三)

岩佐珪藏

共立、東亞興業各※取締役、日本興業銀行※監査役

妻　ナミ　明一三、六生、子爵稅所篤滿大叔母

養子　凱實　明三九、二生、養子道夫、東京、島田五郎二男、安田銀行員、法學士

養子　道　明四〇、一生、養子凱實妻、分家弟珪平二女、女子學習院出身

君は愛知縣士族岩作愛馬の長男にして慶應二年二月五日を以て生れ明治十六年帝國大學法科大學政治學科を卒業し帝大藏省及日本銀行に職を奉じ東洋拓殖會社日本興業銀行各理事を經て現に前記銀行會社の重役たり家族は尙孫海藏(昭四、一生、藤原貞二長女)同泰藏(同七、七生、同二男)同妻ダン藏(同一七、七生、菁野泰治長女)は其二男一女を伴ひ分家し同歡二(同一四、九生、醫學士)も亦其二子と共に分家し妹チヨノ(同一七、一一生)は愛媛縣人谷口保太に同ヒサエ(同二四、三生)は同縣人仙波重慶に嫁せり A二七一(東京市赤坂區青山南町六ノ八五電青山一八三三)

參照‖子爵稅所篤滿※松井敬造の項

岩佐篤一

三十八銀行※御影支店長　兵庫縣在籍

妻　とら　明一三、三生、養父藤介長女

男　信篤　明四〇、三生

君は兵庫縣人井上鎭五郎の四男にして明治十三年九月二十二日を以て生れ同三十四年先代藤介の養子となり大正十三年甥正雄方より分れて一家を創立す現時三十八銀行御影支店長たり養に同行兵庫支店長に擧げらる家族は尙二男健三(大六、五生)あり A七一七(神戸市神戸區中山手通七ノ五三〇電元町三九八七)

岩佐虎若

千代田火災保險※大阪支店長　嘉永四、三生、三重、士、清水中三重縣士族

母　ふさ　明二二、一二生、富山、室田四郎一郎長女

妻　つき　平長女　大元、一二生

男　寛　大八、二生

女　瞻子　大五、一一生

女　康子　大五、一一生

君は三重縣士族岩佐富太郎の長男にして明治五年九月を以て生れ後家督を相續す同三十二年明治大學を卒業し千代田火災保險會社に入り名古屋支店長を經て現時同社大阪支店長たり家族は尙三女勝子(大一一、六生)同二男敏夫(同一三、二生)あり A二三六(大阪府豐能郡豐中町南蕗木電岡町五一二)

岩佐守三

岩佐病院長、醫師　香川縣在籍

妻　松惠　明三六、六生、大阪、藤村一二三女

君は香川縣人奥村喜十郎の三男にして明治二十三年四月を以て生れ先代タツの養子となり大正十一年家督を相續す先是同五年大阪醫科大學を卒業す醫師にして岩佐病院長たり(大阪市住吉區天下茶屋三ノ六)

岩佐祿郎

正五位勳二等功五級、陸軍少將、朝鮮憲兵隊司令官、新潟縣在籍　明一五、五生、新潟、細貝鐵太郎長女

妻　キヨ　昭二、九生

男　憲治　大五、五生

女　龍子　君は新潟縣人岩佐彦十郎の六男にして明治十二年四月を以て生れ大正十一年兄麟太方より分れて一家を創立す夙に陸軍士官學校を卒業し明治三十七年騎兵少尉に任じ大正元年憲兵科に轉じ爾來累進して昭和六年陸軍少將に陞る其間日露戰役に出征し憲兵副官大阪憲兵隊長を歷補し昭和四年東京憲兵隊長に轉じ同六年朝鮮憲兵隊司令官に補せらる家族は尙六女喜美子(大九、一生)あり長女松子は生家岩佐家を繼ぎ一男二女あり二女綠(明四二、九生)は埼玉縣人臺灣嘉義中學校配屬步兵大尉戸根木龜之助に嫁せり(京城府倭城臺電本一六)

岩崎榮造

尾道商工會議所議員、尾道船渠船舶所※取締役、務取締役、尾道鐵道※取締役、回漕業、廣島縣便鐵道

父　乙吉　慶應二、八生、祖父彌助長女

母　ツヤ　明二六、六生、香川、吉田增太郎女

妻　ハン　昭三、五生

男　圭作　大八、九生

女　久惠　君は廣島縣人岩崎乙吉の長男にして明治二十年八月を以て生れ大正十三年家督を相續す現時前記各會社の重役にして推されて尾道商工會議所議員たり家族は尙三女勝子(大一一、六生)四女淑子(同一四、一二生)あり弟三郎(明三〇、二生)同妻ヨシコ(同三八、六生、林原賴次郎長女)は其二子を伴ひ分家せり(尾道市土堂町丙六二四電一八)

岩崎嘉七　染料商　京都府在籍
父　德藏　安政六、七生
妻　きよの　明二四、八生、岡山、三船金之助長女
男　重一　明四一、一〇生
女　はな　明四三、一一生
君は京都府人岩崎德藏の長男にして明治十二年九月二十日を以て生れ大正十一年家督を相續す染料商たり妹なつ（明三一、八生）は綱井縣人池田文次に嫁せりA一一七〇B二四八（京都市中京區二條通室町西入電上四二五一）

岩崎革也　須知銀行㈱取締役　京都府在籍
男　平造　明二四、五生、現戸主、早大出身
婦　和藤　井齋爾二女、岡山縣立高女出身
君は京都府人岩崎藤三郎の長男にして明治二年十二月を以て生れ家督を相續し同四十四年退隱す現時須知銀行取締役にして須知町長たり家族は尙孫兆民（大五、一二生、長男平造長男）同淑子（同九、一二生、同長女）同長（同一一、五生、同三男）あり（京都府船井郡須知町須知小字本町二八）

岩崎龜次郎　茨城縣多額納稅者、錢屋米穀㈱社長、岩崎醬油㈱取締役、岩崎清七商店、古河倉庫㈱監査役、古河運送各役、古河町商工會長、茨城縣在籍
妻　アイ　明三、七生、栃木、橋本歡次郎長女
明三一、三生、養子喜代夫、茨城
發子　晃二郎　長島銀行㈱專務取締役、拓大出身
養子　喜代　明三二、一二生、養子晃二郎妻、兄清七長女、山脇高女高等科出身
君は栃木縣人岩崎清七の弟にして同清一郎の叔父なり慶應三年八月を以て生れ明治十八年分れて一家を創立す錢屋と稱し米穀商を營みしも大正九年營業を株式組織に改め現時其社長たる外前掲各會社の重役にして古河町商工會長を兼ね直接國稅六百四十七圓を納め縣下の多額納稅者に列し明治二十四年以來連續古河米穀商組合長たり家族は尙孫清（大一一、一〇生、養子晃二郎長男）同昌子（昭二、八生、同長女）同直代（同八、七生、同二女）あり（茨城縣猿島郡古河町電三）
參照＝岩崎清七宗岩崎清一郎の項

岩崎寛　氣仙水力電氣㈱取締役　岩手縣在籍
妻　キヨミ　明一四、四生、宮城、後藤民治郎長女
男　仁壽　明四三、四生、慶大法學部在學
君は岩手縣人岩崎龜治の長男にして明治七年一月を以て生れ大正二年家督を相續す明治二十八年慶應義塾を卒業し現時氣仙水力電氣會社取締役にして義に三陸鐵電會社取締役たり家族は尙二男壽夫（大五、七生、慶大法學部在學）長女スミヨ（同九、一生）二女レイ（同一三、七生）あり（岩手縣氣仙郡高田町）

岩崎魏三郎　天狗屋精米店、自米商　東京府在籍
妻　つね　明二六、五生、東京、矢作定吉二女
男　久也　昭三、一生
女　聽子　大四、一一生
君は東京府人岩崎傳次郎の三男にして明治二十六年一月二十二日を以て生れ昭和三年兄清五郎方より分れて一家を創立す天狗屋精米店と稱し白米商を營む家族は尙二女有子（昭五、一二生）ありA三六市本所區太平町二ノ四ノ七電墨田三〇〇八）
參照＝島村英三の項

岩崎吉次　家主　大阪府在籍
安政六、一二生、大阪、長田長藏長女
妻　英子　明四五、一生、大阪、島村英三二女
君は大阪府人岩崎長吉の長男にして明治十一年十一月を以て生れ大正七年家督を相續す家主たり家族は尙弟吉三（大三、三生）あり姉初子（明三七、七生）は大阪府人木原友二に嫁せりA三一二七（大阪市北區中野町三ノ一三）
參照＝島村英三の項

岩崎久平　岩崎敷物店　大阪府在籍
養母　まさ　安政五、三生、滋賀、堀部門次二女
妻　ふさを　明一四、五生、岐阜、三和永岳長女
養子　芳造　明四二、一〇生、滋賀、野村善七五男
君は滋賀縣人野村善七の弟にして明治九年二月を以て生れ先代久平の養子となり大正十四年家督を相續し前名晉次郎を改め襲名す父榮を繼ぎ敷物商を營む家族に尙養妹美代（大三、一生）ありA二七六六B三〇八（大阪市東區博勞町四ノ一五電船場七七二）

岩崎清　共成冷機工業㈱社長、不二塗料㈱取締役、東京府士族
父　盛文　弘化二、五生
妻　りう　明一四、七生、東京、雨宮昇三二女
男　明　明三七、一生
婦　英子　明四二、三生、長男明妻、宮城、石川京吉長女
男　勝成　大二、五生
女　尙子　大五、五生
女　和子　大七、五生
君は東京府士族岩崎盛文の二男にして明治十年二月を以て生れ大正八年家督を相續す明治三十五年東京帝國大學工科大學機械學科を卒業し現時共成冷機工業會社長たる外前記會社の重役にして養に荒川製作所取締役たり妻あり家族は尙孫洋（昭八、一生、長男明長男）あり二男毅（明三八、一二生）は分家し三男俊郎（明三九、一二生）は宮城縣人高平英三郎弟春雄に五男正直（大四、四生）は埼玉縣人橋本定治弟正平に弟清五（明二四、六生）は東京府人天宮りうに各養子となり弟清六（同二六、四生）は神奈川縣人藤田クスの入夫となり長女幸子（同四二、一二生）は神奈川縣人田口古文治養子正夫に二女節（同四五、六生）は宮城縣人吉岡珪介に妹まつよ（同三〇、五生）は東京府人小澤鐵太郎に嫁せり（東京市豐島區堀之內町一四一電大塚一三〇八）

岩崎清行　貴族院議員、宮崎縣多額納稅者、農業、宮崎縣士族

母　イチ　文久三、八生、宮崎、士、塙田藤左衛門長女
妻　峯子　明二八、二生、鹿兒島、川上親俊姉
女　幸子　大四、二生
女　悅子　大五、五生
澄子　大七、三生
君は宮崎縣士族岩崎泰藏の長男にして明治十八年二月を以て生れ同三十七年家督を相續す大正三年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し農業を營み直接國稅九百二十一圓を納め縣下の多額納稅者に列し又同縣會議員に擧げられ兼に同縣參事會員球磨川電氣會社取締役たり家族は尙四女輝子（大九、六生）五女惇子（同一二、五生、姉ヨシノ（明一五、九生）あり妹チエ（同二〇、二生）は宮崎縣士族鬼田幸左衛門二男幸藏に嫁せり（東京市四谷區新宿一ノ三四東京ホテル內電四谷四五六六）

岩崎小四郎　正四位勳二等功五級、醫學博士、陸軍々醫總監、東京府士族
妻　つね　明二〇、七生、東京、清水竹次郎妹
男　太郎　明四四、三生、東大醫學部在學
女　ちゑ　明四一、一生、跡見女學校出身
君は東京府士族岩崎保三の二男にして明治十年三月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學醫科大學醫學科を卒業し同年陸軍二等軍醫に任じ昭和三年軍醫總監に累進す其間明治四十二年大學院に入學外科學研究同四十四年獨逸國駐在員となり大正三年歸朝後近衛歩兵第一聯隊附陸軍軍醫學校教官陸軍技術本部御用掛東京第一衛戍病院長等に補せられ關東軍軍醫部長に轉じ昭和三年豫備役となる大正六年醫學博士の學位を受く家族は尙二男義夫（大四、四生）三男重雄（同一〇、三生）二女光子（同一一、一一生）三女久子（昭二、四生）ありA三三七（東京市澁谷區千駄谷五ノ八六九電四谷三三十七）

岩崎小彌太　從三位勳二等、男爵、東京府多額納稅者、三菱㈱社長、横濱正金銀行、三菱信託、三菱鑛業、東京海上火災保險各㈱取締役、東京府士族
妻　孝　明二一、七生、男爵島津庄之助妹

當家は先代彌之助より顯る彌之助は舊高知藩士にして兄彌太郎を輔けて海運業を創め三菱會社を興し巨產を擁して道鑛業土地銀行造船等の諸事業を經營し巨產を擁して三井と併稱せられ明治二十九年華族に列し男爵を授けらる又貴族院議員日本銀行總裁となる君は彌之助の長男にして男爵岩崎久彌の從弟岩崎彦彌太同隆彌同恒彌の再從兄に當り明治十二年八月三日を以て生れ同四十一年襲爵被仰付同三十二年第一高等學校を卒業して英國に留學し歸朝後父の遺業を繼承し大正六年三菱合資會社の組織を變更して其社長となり傍ら前記銀行會社の重役として三菱王國の事業を總攬す東京府多納額稅者たり家族は尙亡弟俊彌妻八穗（明二三、八生、東京士、盧高朗六女）及其三女弟輝彌（同二二、六生、子安農園主、農學士）同妻須美（同二九、一〇生、東京、櫻井房記二女）及其二男二女あり姉繁子（同八、八生）は東京府人松方正作に嫁せりA二四七四二〇（東京市麻布區鳥居坂町二電赤坂八八〇・八八一）
參照＝男爵岩崎久彌、東京府士族、男爵島津忠彥、岩崎隆彌、岩崎彦彌太、松方正作宗伯爵恒彌、岩崎輝彌、岩崎彦彌太同隆彌同恒彌
伯爵加藤厚太郎宗男爵幹原章郎宗男爵島津忠丸宗男爵島津忠正宗岩崎廉彌の項

岩崎幸治郎　正五位勳三等、衆議院議員（大阪府選出）辯護士、大阪府在籍
妻　いく　明一三、一〇生、兵庫、關野源三郎妹
君は大阪府人岩崎宗治郎の弟にして明治七年四月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す明治三十一年辯護士試驗に合格し次で英佛留學又獨逸ライプチッヒ大學を卒業し同大學より法學博士の學位を受く歸朝後辯護士を開業し關西大學講師たりしが後橫濱地方裁判所東京控訴院各判事拓殖局總裁祕書官等に歷任し司法參與官に任ぜらる後官を辭し再び辯護士となる大正四年以來衆議院議員に當選する事五回にして現に其任にあり立憲政友會に屬すA二〇〇（東京市目黑區中目黑一ノ八二〇電高輪五八〇四）
參照＝關野源三郎の項

岩崎次三郎　近興商店、岩崎商店各㈱代表取締役、岩崎㈱代表社員、東京府在籍

妻　はな　明一六、九生、埼玉、池內由太郎長女
男　德太郎　明四二、二生、慶大經濟學部出身
女　久子　大元、一生、跡見女學校出身
女　國子　大三、一生、三輪田高女出身
女　アキ　大七、九生
君は埼玉縣人岩崎次郎吉の二男にして同新吉の兄なり明治十四年一月を以て生れ同四十二年家督を相續す現時前記諸會社の重役たり家族は尙六女ヒロ（大一二、二生）あり長女千代（明四〇、五生）は東京府人若林龜之助弟利德に二女時（同四三、五生、三輪田高女出身）は同府人小松宇兵衛に妹みね（同一六、一生）も亦同府人野崎豐吉に嫁せり（東京市麻布區本村町一四四電高輪七五七五）
參照＝岩崎新吉の項

岩崎治郎吉　靴屋、酒造業　神奈川在籍
祖母　キヨ　文久元、一生、神奈川、岩崎治郎妹
養母　タヨ　明七、三生、神奈川、岩崎幸太郎女
妻　糸子　明三五、九生、神奈川、田中八十吉三女
男　治一　昭二、七生
君は神奈川縣人岩崎幸太郎の四男にして明治三十年五月を以て生れ先代治郎吉の養子となり昭和二年家督を相續し前名高次を改め襲名す酒造業を營む傍に日本レール會社取締役たり事あり家族は尙長女幸子（大一四、一生）養妹迫子（同五、二生）ありA一三九七（神奈川縣橫樹郡高津町溝ノ口四八六電溝ノ口二七）

岩崎盾夫　日本蓄音器商會㈱取締役兼川崎工場長、京都府士族
妻　晴　明二〇、二生、東京、山內堤雲四女
男　信彥　明四二、一一生、大阪住友合資會社員、法學士
君は子爵川村景敏の弟にして明治十八年三月を以て生れ先代彥松の養子となり同四十四年家督を相續す同四十一年京都帝國大學工科大學を卒業し現時日本蓄音器商會取締役兼川崎工場長たり再從兄佐兵衛（明一七、七生）は奈良縣士族山田善子の入夫となりA五九三（東京市目黑區下目黑四ノ九九三電高輪四五三〇）

岩崎準次郎　正五位勳五等、營林局技師、秋田營林局計畫課長、岩手縣在籍
安政四、四生、岩手、小笠原德松
母　ヨシ　長女
妻　トメ　明三二、二生、岩手、久慈政爲三女
男　正明　昭三、一二生
女　アイ　大七、九生
君は岩手縣人岩崎賢次郎の長男にして明治十六年十一月を以て生れ同二十七年家督を相續す同四十五年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し福來林務技手山林技手農商務技師に歷任大正十三年營林局技師に任じ秋田營林局計畫課長に補せられ今日に至る家族は尙弟敬吉（明三〇、三生）同妻トミ（同三五、一二生、岩手、阪本友次郎二女）及其子女弟啓（同三七、四生）姉サン（同一〇、一二）生あり妹タカ（同二一、一二生）は岩手縣人八角喜代治長男喜兵衛に嫁し弟佐吉（同二四、九生）は同縣人府金シエの入夫となり亡伯父孫七妻モヨ（嘉永五、一二生）は分家せり（秋田市營林局計畫課內）

岩崎新吉　岩崎商店殖代表取締役、糸商
東京府在籍
妻　てる　明二三、一〇生、東京、矢野龜太郎二女
男　秀吉　大三、二生
君は東京府人岩崎次郎吉の三男にして同次三郎の弟なり明治十八年六月を以て生れ昭和三年兄次三郎方より分れて一家を創立す糸商を營み現に岩崎商店代表取締役たり家族は尙三男治吉（大五、一生）四男康吉（同六、九生）五男源吉（同九、七生）六男幸吉（同一一、三生）七男信吉（同一二、七生）ありA六〇五（東京市芝區高輪臺町二電高輪一三六七）
參照＝岩崎次三郎の項

岩崎清一郎　南洋貿易、岩崎醬油、日本味噌、岩崎清七商店、日本シトロエン自動車販賣、葵商事、國光レーヨン各殖取締役、東京米穀商品取引所取員、栃木縣在籍
父　清七　元治元、一二生、現戸主
妻　かね　明四〇、一生、愛知、中尾十郎長女

君は栃木縣人岩崎清七の長男同龜次郎の甥なり明治二十九年四月を以て生る大正七年慶應義塾大學法科を卒業し後米國ハーバード大學に學ぶ現時東京米穀商品取引所取引員にして傍ら前記諸會社の重役たりA九一七（東京市小石川區小日向臺町二ノ八電大塚六三三一）
參照＝岩崎清七、岩崎龜次郎の項

岩崎清次郎　家主　大阪府在籍
妻　とみ　明二一、一二生、大阪、中野太右衛門二女
男　泰治　明四四、二生
女　愛　大元、一〇生
君は大阪府人岩崎利兵衛の弟にして明治十五年四月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す家族は尙二男晁（大五、五生）
君は栃木縣人岩崎清七商店、岩崎醬油、國光レーヨン、磐城セメント各殖社長、東京アルカリ工業殖代表取締役、東京精米、東京火災保險、東京瓦斯副產、日清紡績、安部幸商店各殖監査役、栃木縣在籍
男　清一郎　明二九、四生、慶應義塾法科出身米國ハーバード大學修業
妻　千代　明四〇、一生、長男清一郎妻、愛知、中尾十郎長女
君は栃木縣人先代清七の長男にして明治十六年十一月を以て生れ明治十六年家督を相續し前名清吉を改め襲名す米穀肥料商並に醬油釀造業を營み實業界の重鎭にして現時岩崎清七商店社長の外前記各會社の重役として東洋火災保險、大多喜天然瓦斯殖取締役、川崎造船所殖監査役、東京府士族
男　三郎　明二〇、五生、東京、東條九一郎婿　角之助　明三八、四生、三菱商事會社員、慶大出身
君は栃木縣人先代清七の長男にして元治元年十二月を以て生れ明治十六年家督を相續し前名清吉を改め襲名す米穀肥料商並に醬油釀造業を營み實業界の重鎭にして現時岩崎清七商店社長の外前記各會社の重役として十九年四月を以て生る大正七年慶應義塾大學に學ぶ現時東京米穀商品取引所取引員にして傍ら前記諸會社の重役たりA九一七（東京市小石川區小日向臺町二ノ八電大塚六三三一）
參照＝岩崎清七、岩崎龜次郎の項

岩崎清七　栃木縣所議員、多額納稅者、東京商工會議所議員、七尾セメント、日本坦塲、岩崎醬油、國光レーヨン、磐城セメント各殖社長、東京アルカリ工業殖代表取締役、東京精米、東京火災保險、東京瓦斯副產、日清紡績、安部幸商店各殖監査役、栃木縣在籍
妻　千代　明六、三生、埼玉、原繁長女
男　清一郎　明二九、四生、慶應義塾法科出身米國ハーバード大學修業
婿　かね　明四〇、一生、長男清一郎妻、愛知、中尾十郎長女
男　角之助　明三六、二生、川崎第百銀行員、早大出身
男　三郎　明三八、四生、三菱商事會社員、慶大出身
君は栃木縣人先代清七の長男にして元治元年十二月を以て生れ明治十六年家督を相續し前名清吉を改め襲名す明治二十九年十一月二日を以て生る大正十年東京帝國大學工科大學造兵學科を卒業し現時前記各會社の監査役たり家族は尙長女由美子（昭三、九生）二女登茂子（同五、一〇生）ありA二一五〇（東京市本郷區駒込上富士前町一〇〇電大塚五九六〇）
參照＝男爵岩崎小彌太、男爵岩崎久彌、池田成彬、岩崎輝彌、岩崎彥彌太、岩崎康彌

岩崎宗逸　家主　大阪府在籍
養祖母　サク　文久元、一二生、大阪、岩崎佐兵衛二女
養母　ハナ　明一七、四生、大阪、山田彌太郎二女
妻　芳子　明三七、七生、大阪、岩崎常吉養女
男　茂雄　大一〇、三生
君は奈良縣人城慈樂造の二男にして明治二十七年十二月を以て生れ大正九年先代岩崎芳子の入夫となり家督を相續す家族は尙二男善雄（大一二、一〇生）三男行男（同一五、一〇生）長女英子（昭四、三生）ありA五七四（大阪市北區東野田一ノ五九「別宅」兵庫縣武庫郡精道村三條電芦屋七四六）

岩崎隆彌　三菱製紙、東山農事各殖監査役
東京府華族
父　久彌　慶應元、八生、現戸主
妻　敏　明三八、一生、東京、池田成彬長女、雙葉高女出身
男　東一　昭八、九生
君は男爵岩崎久彌の二男にして岩崎彥彌太の弟同恒彌の兄同康彌の甥男爵岩崎小彌太岩崎輝彌の再從弟なり明治二十九年十一月二日を以て生る大正十年東京帝國大學工科大學造兵學科を卒業し現時前記各會社の監査役たり家族は尙長女由美子（昭三、九生）二女登茂子（同五、一〇生）ありA二一五〇（東京市本郷區駒込上富士前町一〇〇電大塚五九六〇）
參照＝男爵岩崎小彌太、男爵岩崎久彌、池田成彬、岩崎輝彌、岩崎彥彌太、岩崎康彌

知られる栃木縣多額納稅者にして又東京商工會議所議員たり蠶に同副會頭に推さる二女君代（明四一、三生、雙葉高女出身）は故陸軍大將秋山好古長男信好に嫁し妹トク（同四、一生）は同夫爲三郎（慶應元、一生、埼玉、大越榮一郎弟）及其子女と共に弟龜次郎（同三、八生）は其妻と共に各分家し長女喜代（同三二、一二生）は前記龜次郎の養子となれり（東京市小石川區小日向臺町二ノ八電大塚六三三一）
參照＝岩崎龜次郎、岩崎清一郎※綱野豐次郎の項

伯爵加藤厚太郎※伯爵甘露寺受長※男爵幣原喜重郎※澁田省三※澤田廉三※本間利輝の項

岩崎忠兵衛　金融業
東京府在籍
男　忠次　大一三、四生
女　愛子　大二、二生
女　よし枝　大八、三生
君は埼玉縣人岩崎與平の二男にして明治十五年十二月を以て生れ同三十三年兄長吉方より分れて一家を創立す金融業を營む家族は尙孫智惠子（大一四、七生、亡長男武文長女）庶子忠勝（同一五、一二生、生母、東京、高垣美津穩）同忠夫（昭三、一一生、生母同上）同忠國（同五、一〇生、生母同上）あり弟清五郎（明二五、一一生）は分家し妹はや（同二一、一二生）は東京府人澤田正吉長男彥左衛門に同モン（同二八、六生）は同府人寺尾藏吉長男善太郎に嫁せりA五九五B二〇四（東京市本郷區駒込動坂町三二九）

岩崎恒雄　山十醬油釀造元、味噌醬油釀造業
東京府在籍
慶應三、二生、千葉、田中玄蕃長女
母　延枝　明二四、四生、工學博士原田鎭治女、學習院女學部出身
當家の祖は遠く甲斐源氏新羅三郎義光の後裔紀州岩崎城主岩崎九郎信基八世の孫九郎左衛門に發し寶永五年數命下總國銚子港に出で釀造業を創め爾來三百有餘年故子葉縣多額納稅者先代重次郎（九代）に至る重次郎夙に慶應義塾政治科を卒業し味噌醬油釀造業を營み傍ら巴里院東洋工業社中野商店等各種會社の重役に擧げらる君は其長男にして大正二年九月を以て生れ昭和六年家督を相續す祖業を繼ぎ山十醬油釀造元として廣く知らる趣味に音樂繪畫あり家族は尙弟久雄（大一三、九生）あり姉順子（明四二、一〇生、聖心女子學院出身）は愛知縣人近藤友右衛門三男米三に嫁せり（東京市赤坂區青山南町六ノ一三五電靑山一九八一）
參照＝近藤友右衛門※內田安右衛門※平野平兵衛※渡邊嘉一の項

岩崎恒二郎　東洋火災保險殖取締役、川崎造船所殖監査役、大多喜天然瓦斯殖相談役、東京府士族
妻　タミ　明二〇、五生、東京、東條九一郎姉
男　登喜雄　明三八、一一生
婿　千鶴子　明四三、六生、愛媛、梅戸緯長女
君は東京府士族岩崎守正の二男にして明治四年十月を以て生れ昭和六年四月前戸主武一郎の後を承け家督を相續す同三十年東京高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役にして蠶に帝國海上火災保險安田ビルディング太平洋火災保險各會社の重役たりしことあり家族は尙亡兄武一郎妻三芳（明一六、七生、石川、士、坪內直一長女）あり長女久子（同三六、三生）は神奈川縣人高橋木村福藏に二女春子（同三六、三生）は東京府人高橋幸三郎に嫁せりA二三五三（東京市日本橋區濱町三ノ一電馬濱花四一六八）

岩崎恒哉　八戸合同運送殖社長
靜岡縣在籍
妻　きく　明二一、一生、東京、清水孝雄叔母
男　賢太郎　昭三、二生
君は靜岡縣人高橋新太郎の二男にして明治十三年十一月を以て生れ同三十五年先代かねの入夫となり家督を相續す現時八戸合同運送會社長たり家族は尙長女富子（大一〇、一一生）あり（八戸市八幡町一七）

岩崎恒彌　東京海上火災保險會社員
東京府華族
父　久彌　慶應元、八生、現戸主
妻　勝代　明三七、二生、東京、清河純一長女、府立第三高女出身
君は男爵岩崎久彌の三男にして岩崎彥彌太同隆彌の弟康彌の甥男爵岩崎小彌太岩崎輝彌の再從弟なり明治三十一年五月を以て生る大正九年東京高等商業學校を卒業し現に東京海上火災保險會社員たりA二一〇七（東京市本郷區駒込上富士前町一〇〇電大塚六二五一）
參照＝男爵岩崎小彌太、男爵岩崎久彌、岩崎隆彌、岩崎輝彌、岩崎彥彌太、清河純一※伯爵加藤厚太郎※伯爵甘露寺受長※男爵幣原喜重郎※澤田廉三の項

岩崎輝彌　農場主
東京府華族
妻　須美　明二九、一〇生、東京、櫻井房記二女
男　毅太郎　大九、四生
女　妙子　大五、三生
女　光子　大七、一生
君は男爵現戸主岩崎小彌太の弟にして男爵岩崎久彌の從弟岩崎彥彌太同恒彌同恒彌の再從兄に當り明治二十年六月十八日を以て生る東京帝國大學農科大學實科の出身にして橫濱市神奈川區西寺尾町及東京府北多摩郡立川町に農園を經營す家族は尙二男英二郎（大一一、四生）ありA二一七八八（東京市澁谷區代々木本町八〇八電馬四谷五七一）
參照＝男爵岩崎小彌太、男爵岩崎久彌、岩崎隆彌、岩崎恒彌、岩崎彥彌太※岩崎康彌※櫻井錠二※藤村朗の項

岩崎留次郎　金融業
東京府在籍
母　りう　萬延元、三生、東京、吉岡定治郎妹
妻　はな　明三五、四生、東京、町田伊勢治長女
男　和夫　昭四、三生
君は東京府人岩崎豐次郎の五男にして明治三十三年十二月を以て生れ大正十年家督を相續す金融業を營む家族は尙二男正次（昭五、一一生）ありA五四〇（東京市城東區大島町七ノ六〇六電本所五四二九）

岩崎豐治　從七位勳六等、陸軍二等軍醫、岩崎皮花科醫院、醫師、大阪府士族
妻　雪子　明二二、八生、大阪、岡田岩藏養女
男　浩　明四五、七生、日大醫學科在學
男　汀　大三、七生、羽衣高女出身、堂ビル女學院在學
女　功　大六、二生、大手前高女高等科在學
君は大阪府士族岩崎勘治の長男にして明治十五年一月を以て生る夙に陸軍二等軍醫たりしも退官して現時岩

崎皮花科醫院を經營し醫師たり「皮膚科學概論」を著述す弟修(明二七、五生)は分家し妹道楚(同一九、一二生)は大阪府人飯島三郎長男三次に同勘子(同二三、一二生)は同府人木田喜逸郎弟定太郎に同靜子(同二五、八生)は同府人西村勝太郎に嫁せりA二三七九(大阪市西區本田町通二ノ一五電西三一五四)

参照＝西村勝太郎の項

岩崎寅作

東京府在籍　日本皮革㈱監査役

妻　き　く　明三六、六生

男　猶介　明四四、二生、長男猶介妻、東京

婦　富美惠　明四一、九生

男　巖　大三、四生

女　竹之助　大六、一〇生

嘉代子

君は大分縣人岩崎鶴藏の長男にして明治四年十一月十二日を以て生れ同十五年伯父暫六方より分れて一家を創立す同三十一年東京高等商業學校を卒業し兼に日本皮革會社取締役たりしも現時同社監査役たり家族は尙三女靜江(大一〇、八生)あり二男猶逸(明三八、一二生)は東京府人山本しげの奬子となり長女千壽子(同四四、三生)は東京府人橋本重男に嫁せりA五〇八(東京市足立區千住宮元町四一電足立三〇二六)

岩崎彦亮

岩崎本店、酒類商　東京府在籍

母　秀　明一一、一〇生

妻　千代　女　明四一、七生、東京、木下利吉長

君は東京府人岩崎藤一郎の長男にして明治三十六年三月を以て生れ大正十三年家督を相續す岩崎本店と稱し酒類商を手堅く營む家族は尙叔母茂(明一九、二生)同龍女(同二五、四生)あり叔父茂兵衛(同一九、二生)同妻いと(同一六、三生)は其二男二女を伴ひ叔母いと(同一六、三生は各分家せりA六七四(東京市四谷區南伊賀町七〇電四谷三〇一一)

岩崎彦彌太

正五位、三菱㈱副社長、三菱銀行各㈱取締役、三菱重工業㈱取締役、東京府華族

父　久彌　慶應元、八生、現戸主

妻　操子　明四二、一生、男爵佐竹義利妹

男　寛彌　昭五、七生

君は男爵岩崎久彌の長男にして岩崎隆彌同恒彌の兄同康彌の甥男爵岩崎小彌太岩崎輝彌の再從弟なり明治二十八年九月十五日を以て生る學習院を經て大正九年東京帝國大學文學部社會學科を卒業し大學院に入る同十一年社會學研究並に實業界視察の爲め英國に留學し同十五年三月歸朝す爾來三菱合資會社副社長にして傍ら三菱銀行三菱重工業會社取締役たり家族は尙長女勢津子(昭三、二生)二女昭子(同四、三生)三女美智子(同七、八生)ありA一〇四〇九一(東京市本郷區龍岡町七電小石川七一三七)

参照＝男爵岩崎小彌太、男爵岩崎久彌、男爵佐竹義彌、岩崎隆彌、岩崎恒彌、岩崎輝彌、岩崎康彌、男爵伯爵加藤厚太郎※伯爵甘露寺受長※男爵幣原喜重郎※澤田廉三の項

岩崎久彌

正三位勳一等、男爵、東京府多額納稅者、三菱銀行㈱取締役、三菱貿出資社員、東京府華族

妻　寧子　明七、五生、子爵保科正昭姉

男　彌太郎　明二八、九生

男　隆彌　明二九、一一生

男　恒彌　明三一、五生

當家は先代彌太郎より顯る彌太郎は舊高知藩士にして豪宕濶達夙に海運業を創め後三菱會社を起し弟彌之助と共に拮据經營巨萬の財を積み富裕天下に冠たり君は其長男にして男爵岩崎小彌太岩崎輝彌の從兄同康彌の兄なり慶應元年八月を以て生れ明治十八年家督を相續し同二十九年父彌太郎の勳功に依り華族に列し男爵を授けらるる夙に米國に留學しペンシルベニア大學の業を了ふ歸朝後三菱合資會社長の職に在る事多年大正六年社長を辭し單に其社員となり現時三菱銀行取締役にして東京府多額納稅者に列す長女美喜(明三四、九生)は公使官參事官澤田廉三に二女澄子(同三六、一生、九段精華高女出身)は伯爵甘露寺受長弟經濟學士方房に三女綾子(同四一、七生、出身校同上)は東京府人福澤時太郎弟堅次姉春路(元治元、二生)は故內閣總理大臣伯爵加藤高明に妹富子(明九、九生)は千葉縣人早尾惇實に同雅子(同一四、一二生)は男爵幣原喜重郎に嫁し羹弟故豊彌弟康彌同正彌は孰も分家せりA三一七三一二(東京市本郷區湯島切通町一電下谷二五六・一九二七・二一〇九)

参照＝伯爵甘露寺受長、子爵保科正昭、男爵岩崎小彌太、男爵幣原喜重郎、岩崎隆彌、岩崎恒彌、岩崎輝彌、岩崎彦彌太、岩崎康彌、澤田廉三の項

岩崎萬吉

肥料商、地主　東京府在籍

妻　タケ　明三一、八生、東京、福室鄉次叔母

男　賢吉　明三一、八生、共立土地建物、共同商事㈱取締役

婦　はる　明四二、二生、長男賢吉妻、東京高山治助養子

君は東京府下長崎町の素封家岩崎家の出なり慶應三年十一月を以て生れ明治二年分れて一家を創立す組業を承けて肥料商を營み傍ら地主たり兼に共立土地建物會社を主宰す家族は尙孫惠一(昭三、一生、長男賢吉長男)同惠美子(同八、七生、同長女)あり長女はな(明二八、五生)は東京府人野谷正次郎に嫁し二女さく(同三〇、一生)は分家せりA三三八〇(東京市豊島區長崎南町三ノ四二〇五電大塚一四四七・落合長崎四六)

参照＝野谷正次郎、福室鄉次の項

岩崎明三郎

東海製綱、大黑屋各㈱取締役　愛知縣在籍

母　みね　慶應元、五生、愛知、牛田清一郎二女

妻　りゆ　明三一、一二生、愛知、渡坂伊太郎二女、名古屋淑德高女出身

男　孝雄　昭四、一〇生

君は愛知縣人岩崎茂三郎の三男にして明治二十九年二月を以て生れ昭和六年家督を相續す現時前記各會社の重役たり同家族は尙長女千枝子(昭二、八生)二女美津子(同六、四生)あり姉りう(明二一、三生)は愛知縣人鈴木勘五郎に嫁し妹とき(同三四、七生)は分家せり(愛知縣幡豆郡西尾町本町電話一〇〇)

岩崎康彌

東京毛布㈱取締役　東京府在籍

妻　とし　明二二、一二生、醫學博士松山陽太郎妹、東京女學館出身

男　精一郎　明四〇、五生、三菱銀行員、經濟學士

男　久米次郎　明四三、二生、三菱信託會社員、法學士

女　和歌子　大三、一生、九段精華高女出身

女　壽々子　大六、八生、九段精華高女出身

君は男爵岩崎久彌の弟にして岩崎彦彌太同隆彌同恒彌の叔父に當る明治十五年七月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す英米各國に遊び現時東京毛布會社取締役たり園藝乘馬に趣味あり家族は尙三男直三郎(大八、一〇生、東京府立高校在學)四男友四郎(同一一、八生)あり長女和子(明四一、四生、東京女高師專攻科出身)は愛媛縣人三菱神戸造船所技師工學士林和雄に二女喜代子(同四四、一一生、御茶の水高女出身)は東京府人工學博士武田恭作二男安田信託會社員瀬に嫁せりA一六二(東京市小石川區金富町四二電小石川一三八九)

参照＝男爵岩崎久彌、岩崎隆彌、岩崎恒彌、岩崎彦彌太、松山陽太郎※伯爵甘露寺受長※男爵岩崎小彌太※岩崎輝彌※佐藤得四郎※澤田廉三※田中二郎の項

岩崎行高

正五位勳五等、農學博士、鹿兒島高等農林學校教授、鹿兒島縣在籍

元治元、一〇生、大阪、本多中助妹

妻　甲子　明二五、一生、長崎、滋賀莊三郎長女

男　寛間太　大六、三生

君は東京府人岩崎行親の長男にして明治十八年一月を以て生れ昭和三年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し朝鮮總督府勸業模範場技手兼農林學校教授同鹿兒島高等農林學校教授となり大正十年佛獨米伊各國に留學し歸朝後引續き同校に勤務す昭和四年農學博士の學位を授けらる家族は尙二男松之助(大八、七生)長女キヨ(昭四、八生)姉豊江(明一六、二生)弟行信(同三九、一二生)あり同行義(同三二、二生)同妻クサチヨ(同二六、一二生、鹿兒島磯脇淺助妹)は共に分家せり(鹿兒島縣鹿兒島郡中郡宇村)

岩崎利兵衛

陸軍歩兵中尉、岩崎商美㈱社長、上海製油、日本石鹸各㈱監査役、砂糖商、大阪府在籍

妻　キヌ　明三一、二生、大阪、淺岡治郎兵衛從妹

男　豊一　明四〇、二生、松山高校出身

女　裕　大元、一〇生、梅花高女出身

當家は先代利兵衛紀州より大阪に出で砂糖商を營み今日の大を成す君は其長男にして同清次郎の兄なり明治十三年十月を以て生れ同三十一年家督を相續し前名松一を改め襲名す夙に大阪市立商業學校を卒業し家業砂糖商を繼營し傍ら前記會社の重役たり兼に軍籍に在り日露戰役に出征陸軍歩兵中尉に任ぜらる家族は尙姉なほ(明一一、四生)あり長女雅子(同四一、一生、市岡高女出身)は同府人益田喜之助長男喜代治に二女六(同四二、二生、泉尾高女出身)は同府人利見又吉郎長男又一郎に嫁し二男利夫(同四四、六生)及弟清次郎(同一五、四生)同重吉(同二〇、一〇生)は各分家せりA三六〇〇(大阪市西區江戸堀南三ノ一九電土佐堀二三六八)

参照＝岩崎清次郎の項

岩崎林三郎

地主　東京府在籍

妻　あい　明一二、八生、東京、小宮作兵衛四女

男　寛一郎　明三二、三生

婦　モト　明三七、三生、長男寛一郎妻、東京、島村作次郎長女

女　とは　大四、五生

君は東京府人岩崎七郎右衛門の二男にして明治七年三月を以て生れ同二十九年祖父磯吉の後を承け家督を相續す地主たりA五三六(東京市向島區吾嬬町東八ノ六三電墨田六一三)

岩澤潔

從四位勳五等、前臺灣總督府交通局技師、東京府士族

父　光耀　嘉永四、九生

母　かね　慶應元、七生、東京、草野源次郎養子

妻　イ　明二七、三生、栃木、谷信敬四女

女　道　大五、一生

君は東京府士族岩澤光耀の長男にして明治二十年五月十三日を以て生る同四十四年東京帝國大學工科大學機械學科を卒業大正三年臺灣總督府鐵道部技師兼阿里山作業所技師に任じ同督林局技師を經て同交通局技師鐵道部運輸課長に補せられ今日に及ぶ家族は尙弟勇(明二八年生)同妻龍子(同三七、五生、東京、廣吉國次郎長女)及其子弟力(同三四、二生)同勳(同三八、七生)あり同隆(同二四、八生)は同妻登喜子(同三二、二生、林とく女)を伴ひ分家せり(東京市世田谷區下北澤町三ノ一〇〇四)

岩澤彰二郎

從五位勳五等、判事、宮城控訴院判事、秋田縣在籍

妻　セツ　明三五、六生、北海道、久保久治妹

男　信一郎　大一五、一〇生

君は秋田縣人岩澤晃郎の二男にして明治二十三年三月を以て生る大正四年東京帝國大學法科大學を卒業し遞信局書記となり同七年判事に任じ仙臺高等法院判官兼臺北地方法院判官東京控訴院判事根室區裁判所判事兼釧路地方裁判所根室支部判事札幌地方裁判所判事に歷補し札幌控訴院判事を經て現に宮城控訴院判事たり嚢に英米獨墺各國に出張を命ぜらる家族は尙二男禮次郎(昭四四、四生)兄晟一郎(明一六、一〇生、現戸主)同妻ヨシ(同二五、一一生、秋田、千葉勝太郎妹)及其一女弟航四郎(同三四、二生)及其一女弟慶五郎(同四〇、七生)あり同威三郎(同二九、七生)は分家し妹チツ(同三七、五生)は秋田縣人菅原永治郎長男新助に嫁せり(仙臺市北二番丁六四)

岩澤忠恭

從五位勳五等、內務技師、土木局勤務、廣島縣在籍

妻　ミツ　明二九、八生、廣島、東祿穂長女

女　仁子　大正六、九生、廣島女出身

女　聰子　大八、四生、東洋高女在學

君は廣島縣人にして明治二十五年六月を以て生る大正七年東京都帝國大學工科大學土木學科を卒業內務技手に任じ同八年大分縣に勤務爾來同縣土木技師同縣技師等に歷任同十年內務技師となり土木局第一技術課に勤務現在に及ぶ其間臨時震災救護事務局事務官被仰付昭和

四年歐米各國(出張同七年臨時土木鑑査委員を命ぜらる(東京市小石川區原町一一三)

岩澤福松　開南瓦專務取締役
東京府在籍
妻　わか　明一七、七生、茨城、滝川勇四郎姪
女　初枝　大六、三生
君は神奈川縣人岩澤豊次郎の二男にして明治七年六月を以て生れ先代彌吉の養子となり同十八年家督を相續す現時前記會社の重役たり(東京市麻布區富士見町四三電高輪一九六九)

岩澤丙吉　正五位勳四等、陸軍歩兵、陸軍士官學校教授部教授、靜岡縣、在籍
妻　やそ　明八、六生、靜岡、津田董樂妹
君は靜岡縣人岩澤平六の長男にして文久三年八月を以て生れ明治三十六年家督を相續し後前名平吉を改む夙に露國官立ヴホウナヤアカデミヤを卒業し大正七年陸軍教授に任じ爾來中央幼年砲工士官各學校附を歴補し現時前記の職に在り長女三千代(明二八、一二生)は群馬縣野縣人鹽川伊四郎に二女うた(同三一、六生)は大分縣人石井祐齊養子浩次に妹まさ(同八、九生)は靜岡縣人城所德次郎養子常藏に嫁し弟十二(同二三、一生)は分家せり(東京市牛込區若松町一〇二)
参照‖石井祐齊の項

岩下家一　従二位、子爵
神奈川縣華族
安政五、七生、鹿兒島、士、東郷四郎兵衛長女
母　類　明一八、一生、東京、犬塚信太郎妹
妻　きぬ
女　浩子　大四、三生
女　澄榮　大六、一二生
當家は先代方平より顯る方平は舊鹿兒島藩士にして夙に國事に奔走し慶應三年歐洲に航し歸朝後參與に任じ爾來大阪府判事京都府權知事元老院議官等に歴任し明治二十年勳功に依り華族に列し子爵を授けらる君は其孫にして父を長十郎と云ふ明治十二年十月を以て生れ同三十三年家督を相續し襲爵被仰付同三十八年東京高等商業學校を卒業し渡歐してホテル事業を研究し爾來斯業に従事す家族は尚四女菊江(大一二、一〇生)あり姉豊(明九、四生)は鹿兒島縣士族田中盛秀に嫁せり(神奈川縣三浦郡逗子町逗子一〇五三電三二五)

岩下庄之助　相模屋、質業
東京府在籍
妻　ぎん　明元、一生、東京、岩下富三郎養子
養子　孝吉　明三三、一生、神奈川、帛輪彌市四男
婦　タマコ　明三一、一〇生、養子孝吉妻、神奈川、田村理平三女
孫　久江　大七、三生、養子孝吉長女
君は東京府人金子濱次郎の二男にして安政六年九月を以て生れ明治二十二年東京府人前戸主岩下庄之助の養子となり家督を相續し前名吉五郎を改め襲名す相模屋と稱し質業を營む家族は尚孫喜久代(昭三、一〇生、養子孝吉二女)ありA四五二B一〇五(東京市品川區南品川二ノ三六電高輪四三九八)

岩下壯一　資產家
東京府在籍
母　ゆが　慶應二、三生、長野、磯津榮久四女
君は靜岡縣士族岩下清周の長男なり清周夙に商業講習所を出で後三井家に入り專ら銀行事務に携はり次で南滿鐵道會社理事督口水道電氣大阪電氣軌道各會社長及其他諸會社の重役に擧げられ實業界に重きをなし大阪市より推されて衆議院議員に當選す君は明治二十二年九月を以て生れ同四十五年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し昭和三年家督を相續す資產家たり養兄清倉具明弟具光に同雅(同二五、一一生)は分家し妹花(同二四、一生)は子爵岩本庄太郎三男三郎に嫁せりA七〇八(東京市四谷區東信濃町一六電四谷六一八七)
参照‖岩倉具光の項

岩下利勝　從五位勳四等功七級、判事、米澤區裁判所監督判事兼山形地方裁判所米澤支部々長、長野縣在籍
妻　元代　明一四、一四生、長野、金森寧濟二女、九段和洋裁縫學校出身
養子　武三郎　大六、八生
君は長野縣人にして明治十二年四月十一日を以て生る同四十五年明治大學法科を卒業し大正五年辯護士試驗に合格す同六年判檢事登用試驗に及第し司法官試補となり同八年判事に任ぜられ東京地方石巻區青森地方新庄大曲各區裁判所判事大館區裁判所豫督判事兼秋田地方裁判所大館支部々長等に歴任現時米澤區裁判所豫督判事兼山形地方裁判所米澤支部々長たり家族は尚養女あり(米澤市米澤區裁判所官舍)

岩下保太郎　從五位勳三等功五級、海軍大佐、軍令部部員、大分縣士族
明三一、八生、東京、海軍大將山屋他人長女、女子學習院出身
妻　ハツ　大九、一生、府立高校尋常科在學
男　芳郎　大六、五生、府立第八高女在學
女　春子
君は大分縣人窪田當太郎の三男にして明治二十年六月を以て生れ先代サタの養子となり同三十年家督を相續す同四十二年海軍兵學校を卒業翌四十三年海軍少尉に任じ昭和四年海軍大佐に累進す其間海軍大學校を卒業し在米大使館附武官輔佐官軍令部參謀第一艦隊參謀兼聯合艦隊參謀軍令部出仕等に歴補し後海軍省人事局第一課長神通艦長軍令部課長等を經て現時軍令部々員にして英國に出張中なり家族は尚二女美喜子(大一一、三生)二男秀男(同一五、一〇生)三女登美子(昭六、一〇生)あり(東京市世田谷區玉川奥澤町二ノ五三五電田園調布四二八)
参照‖山屋他人※芝義太郎の項

岩下龍太郎　正五位勳四等、地方技師、福井縣内務部勤務、福井縣工業試驗場長群馬縣在籍
妻　コマ　明八、三生、栃木、關口嘉七郎妹
男　才一郎　明三二、六生
婦　千代江　明三八、一生、長男才一郎妻、長野、石曾根八郎二女
男　壽　明四三、三生
女　ひな子　大五、一〇生
君は群馬縣人岩下才助の長男にして明治四年二月を以て生れ大正十二年家督を相續す明治二十九年東京高等工業學校染織科を卒業し桐生織物學校教諭となり富山縣技師を經て現時福井縣技師にして地方商工技師工業試驗場長たり家族は尚孫奎一(昭四、九生、長男才一郎長男)あり長女初(明四〇、三生)は福井縣人蘆井剛士に嫁せり(福井市福井縣廳内務部内)

岩島辰之助　萬伸社、新聞販賣圖書出版鉱雜貨化粧品製造販賣業、大阪府在籍
妻　フサ　明一二、九生、大阪、野口市兵衛二女
男　太郎　明三五、五生
養子　友一　明三四、九生、二女花重夫、廣島高阪孝雄弟
女　花重　明四〇、六生、養子友一妻
女　繰子　明四三、一二生
女　タヱ　大二、四生
君は大阪府人岩島庄次郎の四男にして明治七年一月十五日を以て生れ大正三年兄政吉方より分れて一家を創立す萬伸社と稱し新聞販賣圖書出版鉱雜貨化粧品製造販賣業を營む家族は尚四男更郎(大四、四生)孫達(昭七、三生、養子友一長男)同完治(同八、九生、同二男)あり三男三郎(明四二、三生)は兵庫縣人魯野うたの養子となれりA五二七(大阪市北區堂島上三ノ三電北二一八)

岩住良治　從三位勳二等、農學博士、東京帝國大學教授兼林技師畜產試驗場技師、宮城縣在籍
妻　ふぢ　明一六、一生、岐阜、上北省三姉
男　襄　大一一、一二生
養子　園　明二六、九生、長女ゑん夫、宮城岩井正弟
女　ゑん　明三五、六生、養子園妻
君は宮城縣人岩住玄作の長男にして明治八年一月を以て生れ同三十八年家督を相續す同三十三年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し同三十五年東京帝國大學農科大學助教授に任ぜられ翌三十六年畜產學研究の爲英獨兩國に留學す歸朝後同四十年盛岡高等農林學校教授となり同四十四年東京帝國大學教授に轉じ今日に至り尚農林技師畜產試驗場技師を兼ぬ蓋に東京帝國大學農學部長にして大正二年農學博士の學位を授けらる家族は尚養子愛子(大九、一二生、宮城、千葉繁三女)孫仙子(同一二、七生、養子園長女)同寛子(昭二、七生、同三女)同泰子(同四、一一生、同四女)あり(東京市豊島區巣鴨六ノ一四七〇電大塚二一七四)

岩瀨英一郎　三井銀行㊫紐育支店長
神奈川縣在籍
妻　貞子　明三五、七生、東京、谷八遠蔵
君は神奈川縣人岩瀨與之助の三男にして明治二十七年九月を以て生れ昭和三年兄忠家方より分れて一家を創立す大正七年慶應大學理財科を卒業し三井銀行に入り同行紐育支店次長を經て昭和九年三月同支店長に就任し現在に至る家族は尚長女百合子(大一四、四生)二女京子(同一五、八生)あり紐育市ブロードヱー街六一三井銀行支店内)

岩瀨榮太郎　榮屋百貨店、雜貨商
東京府在籍
妻　シマ　明一五、四生、東京、小山稻五郎三女
男　逸一　明三七、四生
婦　きぬ　明三八、一二生、長男逸一妻、三重、川合鐵三郎長女
男　春雄　明四三、一〇生
女　美和子　明二八、一二生
シヅ　明二八、九生
君は東京府人先代岩瀨鎌吉の長男にして明治八年五月三日を以て生れ大正十四年家督を相續す榮屋百貨店と稱し雜貨商を營む家族は尚五女篤子(大六、一一生)五男巖(同九、一生)孫喜代子(昭九、五生、長男逸一長女)あり三女壽々子は東京府人和歌藤和喜三に嫁せり(東京市澁谷區上通三ノ九電青山二〇五七)

岩瀨喜作　正五位勳五等、北海道帝國大學豫科教授、千葉縣在籍
妻母　きの　安政五、二生、千葉、磯野市右衛門長女
妻　左和　明二八、三生、先々代小平長女
男　善彦　大七、二生
君は千葉縣人佐藤半次の四男にして明治二十年四月を以て生れ大正四年先代左和の入夫となり家督を相續す明治四十四年東京高等師範學校數學專修科を卒業し千葉縣大多喜中學校教諭となりしも東北帝國大學理科大學數學科に入り大正五年卒業し福岡縣修猷館中學校教諭を經て北海道帝國大學豫科教授に行ぜられ以て今日に至る家族は尚長女美代(大九、七生)二男和夫(同一三、八生)二女房(昭二、九生)あり(札幌市北大通東七ノ一二)

岩瀨義一　從四位勳四等、辯護士
茨城縣在籍
母　しの　安政元、一〇生、岩瀨道長女
妻　ともゑ　明二〇、九生、長野、士、片岡宣德二女、東京音樂學校出身
男　主一　明三三、三生、宮內省內匠寮勤務、早大出身
婦　三枝　明四一、八生、長男主一妻、茨城木村茂三女、家政學院出身
男　以一　明三四、一二生、慶大出身
女　よし　大二、三生
女　千代　大四、二生
君は茨城縣人岩瀨市郎右衛門の二男にして明治八年七月を以て生れ同三十八年家督を相續す同三十二年明治法律學校を卒業し同三十五年判檢事登用試驗に合格直に司法官試補となり同三十八年判事に任じ爾來山形地方同區仙臺區同地方古川支部盛岡地方秋田地方宇都宮地方栃木支部各裁判所豫審判事前橋地方裁判所高崎支部々長高崎區裁判所豫督判事濱松區裁判所豫督判事兼靜岡地方裁判所濱松支部々長等に歴補し昭和七年大審院判事に任ぜられしも後之を辭し辯護士を開業す長女とし(明四一、一〇生)は茨城縣人高田五兵衛に二女はる(同四四、三生)は同縣人稻葉源一郎二男信之に嫁し三男弘安(大一三、三生)は長野縣人片岡かねの養子となり弟祐一(明二二、一生)は茨城縣人田口みゑの入夫となり同好一(同一七、一生)同妻ふみ(同二一、九生、茨城、横手信太郎二女)は其一男一女を伴ひ弟庄右衛門(同一四、一生)同亮一(同三一、六生)は各分家せりA一四七(茨城縣新治郡土浦町七二電五六)
参照‖稻葉源一郎の項

岩瀨啓造　彰化銀行㊫取締役、臺中輕鐵㊫監查役、佐賀縣士族
男　嘉義夫　明四五、四生
女　ヨネ　大四、六生

男　二郎　大二、八生

君は佐賀縣人吉瀬吉辰の長男にして明治九年五月を以て生れ大正十二年家督を相續す夙に大阪關西法律學校大阪實業學館に學び明治三十三年浪速銀行に入り書記となり臺灣銀行書記を經て大正二年彰化銀行に入り取締役兼主事を經て同十三年取締役兼助役となる現時同行取締役にして臺中輕鐵會社監査役を兼ぬ嘗に臺中市協議會員に擧げらる謡曲ゴルフを趣味とす家族は尙三男啓（大六、九生）あり四女ハル（同一一、一生）は佐賀縣人吉田森竹の養子となれり（臺中市大正町一ノ一電三一〇）

岩瀬銕五郎

鈴鐵商店、材木商
東京府在籍

妻　す　ゑ　明一六、一〇生、鳳間嘉市二女
男　芳太郎　明三六、五生
婦　チ　ヨ　明三八、二生、長男芳太郎妻、東京、野村岩次郎三女
女　トシ　明四四、九生
女　君　子　大二、九生
女　富美子　大七、一〇生

君は東京府人岩瀬謙吉の三男にして明治十三年五月二十二日を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す鈴鐵商店と稱し材木商を營む家族は尙男正三（大五、四生）五男武（同一一、八生）六女貞子（同一五、七生）孫照子（同一四、二生、長男芳太郎長女）同蓉子（昭二、一一生、同二女）同慶一（同六、一生、同長男）あり二女喜久（明三七、九生）は東京府人宮城善之助に嫁せりA七六六B八七（東京市淀谷區大和田一電青山二〇一二）

岩瀬德三郎

日本曹達工業㈱專務取締役、德山鹽共益㈱取締役、千葉縣在籍山
妻　つ　ね　明二七、一生、東京、菅沼凉太郎長女
男　德　郎　大五、一一生
女　和　子　大七、四生

君は千葉縣人岩瀬利右衛門の三男にして同爲吉の弟なり明治二十年八月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す同三年九州帝國大學工科大學應用化學科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙二男義郎（大九、四生）二女幹子（同一五、七生）三男秀郎（昭八、一生）あり A三七六八（山口縣都濃郡德山町電一〇四）

岩瀬德藏

大瀧炭礦㈱社長、大倉鑛業㈱專務取締役、北樺太鑛業、入山採炭、長崎縣在籍
茂尻炭礦各㈱取締役、長崎縣在籍
養母　モ　ト　安政元、三生、長崎、山下右一郎二女
妻　カ　ネ　明一九、九生、長崎、松浦建二三女
男　信　彌　大六、一生

君は埼玉縣人孫谷順次郎の三男にして明治八年一月を以て生れ先代彌四郎の養子となり大正三年家督を相續す明治三十三年東京帝國大學工科大學採鑛冶金學科を卒業し現時大瀧炭礦會社長たる外前記各會社の重役たり長女ケイ（明三七、五生）は大阪府人九里正藏に嫁せりA一三七二（東京市赤坂區榎坂町五電赤坂一九二〇）

岩瀬虎吉

巴バー總本店、飲食店、酒商
東京府在籍
妻　い　し　明二三、四生、千葉、服部伊勢松二女
女　喜　久　大四、九生
女　喜　代　大六、一〇生
女　壽　々　大八、一二生

君は千葉縣人岩瀬定吉の三男にして明治二十一年八月一日を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す巴バー總本店と稱し飲食店及酒商を營む家族は尙五女喜ぬ（大一一、三生）六女きん子（同一二、八生）七女喜美子（同一五、三生）あり（東京市本所區江東橋三ノ三ノ二）

岩瀬亮

衆議院議員（千葉縣選出）、㈱森興業、日本沃度㈱取締役、日本加里工業㈱各㈱監査役
千葉縣在籍
養父　定　吉　慶應三、五生、現戸主
養母　志　米　明五、八生、千葉、齋藤松郎長女
妻　み　ち　明三七、一二生、養父定吉二女

君は千葉縣人森蘆昶の第以て生れ昭和二年現戸主定吉の養子となる夙に東京殖民貿易語學校を卒業しマレー半島トレンガ王國に於て煉瓦製造業を營み歸朝後機織工業會社に入り其專務取締役に擧げられ其他機織製靴ブリマス各會社重役に就任し現時前記諸會社の重役たり鄕里千葉縣第三區より推されて衆議院議員に當選し立憲政友會に屬し議員團議會同盟會議に列席し歐米各國を視察す養叔涉つや（明一二、一二生）は千葉縣人岩瀬長三郎長男長吉に養從叔母ヤス（同二〇、三生、養大叔母ヨシ長女）は同縣人渡邊藤治郎に嫁し養從兄房之助（同二九、六生）は同縣人平野熊藏の養子となれりA二二九（東京市王子區稻付町二ノ三一電大塚四一八五）

參照＝養蘆昶の項

岩瀬　憐

賣產家
東京府在籍
文化一三、八生、富山、三門久藏
妹　ヌ　イ　安政四、一生、東京、河村長兵衛三女
母　キ　ン

君は東京府人岩瀬市兵衛の長男にして明治十七年十一月十四日を以て生れ同四十年家督を相續す賣產家たり姉ハル（明一〇、三生）は其養子貫太郎（同四三、二生、富山、松本庄太郎八男）を伴ひ分家し妹ツネ（同二一、一生）は東京府人松本氏を再興せり（奈川縣中郡大磯町大磯一七八〇）

岩田市兵衛

京都府多額納稅者、岩田商店㊟代表社員、蒲團商、京都府在籍
母　さ　と　安政三、九生、京都、清水富治郎二女
妻　マ　ス　明二三、五生、京都、杉本儀助妹
男　市之助　明四五、二生
婿　美　淳　大四、一二生
女　トミ　大六、一〇生
女　トヨ　大八、一生

君は京都府人先代市兵衛の長男にして明治十六年一月を以て生れ大正十三年家督相續と共に襲名して前名文次郎を改む蒲團商を營み傍ら岩田商店代表社員たり直接國稅二千八百二十七圓を納め京都府多額納稅者に列す家族は尙四男卓三（大一二、三生）あり三男忠三（同一一、一生）は絲家清水家を再興せり（京都市中京區小川通三條下ル電本局四四五）

岩田　岩松

京都揮發油販賣所㊟代表社員、揮發油商、京都府在籍
妻　とみゑ　明一三、二生、兵庫、長谷五藏二女
男　誠　一　明三六、六生
婦　定　江　明三八、一二生、京都、武田延藏二女

君は京都府人岩田長左衛門の五男にして明治八年十月十八日を以て生れ同三十九年兄安次郎方より分れて一家を創立す揮發油商を營み京都揮發油販賣所代表社員たり家族は尙二女壽榮子（大一〇、一一生）孫淳子（昭四、三生、長男誠一長女）同裕子（同七、一一生、同二女）同典子（同九、一生、同三女）あり二男實（明四〇、一生）三男金治郎（同四三、一生）四男富次郎（同四五、四生）は各分家せりA六三九（京都市中京區御幸町通御池下ル電本局六二〇八）

岩田　英二

岩田商事會社員
大阪府在籍
妻　芳　子　大二、二生、愛知、松岡嘉右衛門四女

君は大阪府人岩田正一の三男同正次郎の弟にして明治三十九年八月を以て生れ昭和七年分れて一家を創立す同五年京都帝國大學經濟學部を卒業し現に岩田商事會社員たり家族は尙長女忠子（昭八、八生）ありA五六五（大阪市西成區玉出木通一ノ五電天下茶屋二一三九）

參照＝岩田正次郎の項

岩田龜之助

家主
大阪府在籍
妻　勝　子　明三八、一生、大阪、志木田佐兵衛三女
男　平　一　大一三、八生

君は大阪府人岩田定次郎の長男にして明治二十九年十二月を以て生れ先代トミの養子となり同四十一年家督を相續す家主たり家族は尙長女幸子（大一五、一〇生）二女優智子（昭三、一〇生）あり父定次郎（明三、一二生、大阪、岩田平兵衛三女）は各分家し姉ヨネ（明二四、一一生）は大阪府人中西藤兵衛に妹ハツ（同三二、三生）は和歌山縣人角田芳太郎長男榮一に嫁し同ヨシ（同三五、二生）弟清一（同四〇、四生）は共に前記分家養母トミの養子となれりA六四五（大阪市北區大工町四二）

參照＝角田芳太郎、中西藤兵衛の項

岩田　勘一

母　は　り　明一五、三生、吉田榮助二女

愛知縣多額納稅者、佛壇製造業
愛知縣在籍

君は愛知縣人岩田由太郎の長男にして明治三十二年五月十日を以て生れ大正九年家督を相續す佛壇製造業を營み直接國稅二千七十八圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙妹鉦子（明四一、一生）同き み子（同四三、三生、長男誠一長女）同裕子（同三四、九生）は愛知縣人栗田茂兵衛長男茂に嫁せり（名古屋市東區七同町五ノ二電東二三七七）

參照＝栗田茂兵衛の項

岩田金之助

岩友商店、帝國毛糸紡績㈱常務取締役、東京府在籍
妻　ひ　さ　明二五、二生、大阪、服部兵助四女
男　敏　男　大五、八生、成城高校在學
女　初　子　明四三、四生、跡見高女出身
女　八重子　明四五、七生、三輪田高女出身
女　きぬ子　大七、一〇生、愛葉高女在學

當家は元愛知縣の出にして代々綿糸業を營みたる家柄なり君は東京府人岩田由次郎の弟同眞一の弟同周治郎同爲三郎の兄なり明治十七年二月十日を以て生る現時岩友商店帝國毛糸紡績會社の各常務取締役たり觀劇野球等に趣味を有す家族は尙二男秀雄（大九、一〇生）三男正雄（同一〇、一二生）あり A一六九二（東京市麻布區仲ノ町二四電赤坂四六六）

參照＝岩田周治郎、岩田眞一、岩田爲三郎、岩田友右衛門の項

岩田　欽也

三井鑛山會社員
東京府在籍

當家の先代謙三郎は夙に三井鑛山會社に入り三池炭鑛に勤務すること二十餘年同社取締役に進み後ち北海曹達紳岡水電釜山鑛山大源鑛業各會社の重役たり君は其三男にして明治四十一年四月二十五日を以て生れ昭和七年家督を相續す同年東京商科大學を卒業し現時三井鑛山會社員たり家族は尙弟吉人（明四三、一生）同勝吾（同四四、一一生）妹三喜（大四、一生）同百世（同六、一〇生）あり兄藤樹（明二四、一一生）は千葉縣人堀江敏太郎長女ていの婿養子となり姉マサ（同二七、八生）は石川縣人三井物產會社員西澤喜一郎に同喜代（同三四、九生）は東京府人大倉喜三郎長男梅吉に同和香（同四〇、一生、愛葉高女出身）は長崎縣人正木テル長男廣文に嫁せりA二二四（東京市牛込區矢來町七五電牛込四七三）

岩田　熊吉

八百國、菓子商
東京府在籍
養母　と　く　明六、二生、岐阜、曾根東馬姪
妻　か　め　明三三、九生、東京、岩田國次郎長女
女　あ　さ　大四、七生
女　た　か　大六、六生

君は埼玉縣人島田彌三郎の三男にして明治十九年九月四日を以て生れ大正二年前戸主岩田國次郎の養子となり同八年家督を相續す八百國と稱し菓子商を營む家族は尙長男萬吉（大一〇、七生）三女多喜子（昭三、一生）三男光昭（同五、四生）あり（東京市板橋區板橋五ノ八八七電板橋一六三）

岩田鉦太郎

岩田兄弟商會㊟取締役
大阪府在籍
父　與三郎　明四、六生、現戸主
妻　ヒ　ロ　明三二、一一生、大阪、植田勝次郎三女
長一郎　大九、五生

君は埼玉縣人岩田彌三郎の長男同米次郎の甥同信成の養兄にして明治二十八年二月を以て生る夙に慶應義塾に學び現時父を扶け家業に從事し岩田兄弟商會取締役たり琵琶に趣味を有す家族は尙長女民江（大一一、一生）二男衛二郎（同一二、一二生）三女士七子（同一四、一一生）三男仁士男（昭二、一二生）四男巳八來（同四、八生）あり（大阪市住吉區天王寺町二五五〇電天王寺一五二）

參照＝岩田信成、岩田與三郎、岩田米次郎の項

岩田　源一

岩新商店、呉服卸商
愛知縣在籍

繼母　みさを　明九、一生、岐阜、淺井源導妹
妻　こと　明三五、九生、愛知、淺野新右衛門二女
男　巖　大八、一〇生

君は愛知縣人岩田源次郎の長男にして明治二十九年二月五日を以て生れ大正五年家督を相續す岩新商店と稱し吳服卸商を營む家族は尙長女綾子(大一〇、七生)二女きぬ子(同一一、一一生)三女ふみ子(同一三、六生)四女房子(同一五、二生)弟源三(明四二、九生)あり妹まさを(同三六、六生)は愛知縣人田島伊藏長男健太郎に嫁せりA九五四(名古屋市西區御幸本町五ノ一三電本局一八八)

岩田源之助

妻　きみえ　明二四、六生、愛知、横井伊左衛門長女
男　勉　明四二、九生

君は愛知縣人岩田源三郎の二男にして明治十七年十一月を以て生れ大正四年家督を相續す岩田商會と稱し自轉車製造販賣業を營み傍ら愛知自轉車製造會社取締役たり家族は尙二女千枝子(大一〇、三生)二男徹夫(同一三、九生)ありA八九九B二五六(名古屋市西區傳馬町二ノ九電本局一〇三一)

岩田五郎左衛門

岩田土地㈱代表社員　兵庫縣在籍
男　正二郎　明二七、五生
婿　ヒデ　明三二、四生、二男正二郎妻、大阪、樫原新輔二女、私田高女出身
男　哲四郎　明三七、六生、青山學院高等學部文科出身
婿　重　明四二、一生、四男哲四郎妻、大阪、吉崎善三郎六女

君は兵庫縣人岩田秋平の長男にして慶應三年三月を以て岩田土地合名會社代表社員たり家族は尙孫小世子(大一〇、八生、二男正二郎長女)同小紀子(同一二、八生、同二女)同光茂(同一五、七生、同長男)あり長女千賀(明二九、三生)は大阪府人八木竹太郎長男新作に妹ふく(同一一、一〇生)は同府人北畠忠四郎長男健作に嫁し三男永三郎(同三二、一二生)は兵庫縣人岩田慶吉の死跡を相續し妹とく(同六、四生)は分家せりA五三五(兵庫縣川邊郡川西町)
參照＝吉崎善三郎※芝田大吉の項

岩田幸美

妻　ミチ　三井銀行㈱調査課長
男　幸彰　明二七、六生、山口、故陸軍軍醫監渡邊泰蔵三女、廣島縣立高女出身
女　富美子　大八、三生、府立第三高女在學

君は武藏七黨の頭樂丹黨の總家にして祖父は德川本家舊藩の旗本たり君は先代元埼玉縣書記官幸永の長男にして明治十八年十月を以て生れ同二十一年家督を相續す東京開成中學校及第四高等學校を經て同四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直に三井銀行に入り累進して昭和六年十二月本店調査課長に擧げられ今日に及ぶ紫雲郎と號し俳句に趣味を有し俳誌「ホトトギス」に於ける一流の作家として著聞す家族は尙二女秀子(大一四、五生)ありA一二〇〇(東京市淀谷區原宿二ノ一七〇ノ一四電青山八〇八〇)

岩田三史

父　武三郎　醫學博士、川口市長、埼玉縣多額納稅者、帝國女子醫學專門學校教授、埼玉縣在籍
母　いよ　慶應二、五生、埼玉、農業
長女　豐　明三六、九生、石川、永井三郎姉
妻　俊　大一一、四生

君は埼玉縣人岩田武三郎の長男にして明治二十三年十二月三日を以て生れ大正十五年家督を相續す同八年九州帝國大學醫科大學細菌學科を卒業し直に同大學副手となり後順天堂醫院に勤務す昭和二年醫學博士の學位を授けらる現時川口市長にして帝國女子醫學專門學校教授たり埼玉縣多額納稅者にして直接國稅二千九百七十圓を納め義に貴族院多額納稅議員に推さる昭和七年紺綬褒章を下賜せらる家族は尙二男健(大一三、一生)長女淑子(昭三、八生)あり弟四朗(明二六、一〇生、法學士)は埼玉縣人永濱長次郎の養子となれり(川口市川口町三四八八電二三)

岩田三平

妻　ふん　北海道土木建築㈱取締役、三上㈱監査役、埼玉縣在籍
養子　六郎　明一〇、二生、北海道、高山政子養母
養子　桃代　明二三、一二生、父忠平五男
婿　ひで　明三〇、五生、養子六郎妻、群馬田島武平四女
養子　大七、九生、東京、士、小梁貞雄長女

君は埼玉縣人岩田忠平の三男にして明治七年五月を以て生れ大正五年兄忠一郎方より分れて一家を創立す現に前記諸會社の重役たり藝に皇國銀行小橋商品倉庫日本セメント工業等各會社の取締役たりしことあり家族は尙長女ふさ(大一〇、一一生)孫三策(同七、三生、養子六郎長男)同德子(同一〇、九生、同長女)同操子(同一二、一〇生、同二女)同十四雄(同一四、六生、同三男)同忠司(昭二、一一生、同四男)同和子(同四、一〇生、同三女)あり養子テイ(明三一、二生、神奈川、石塚榮次郎長女)は東京府士族小梁貞雄長男又一に嫁し弟七郎(同二六、六生)は兵庫縣人林田琴の入夫となれりA一〇二五(小樽市富岡町一ノ三「店鋪」東京市品川區上大崎一ノ七九〇電高輪六六〇六)

岩田三朗

妻　らく　燃料商　愛知縣在籍
子　昭九、六生
男　愛作　明三四、九生、愛知、岩田こう養

君は愛知縣人山田茂十郎の三男にして明治二十三年一月を以て生れ大正十一年先代らくの入夫となり家督を相續す燃料商を營む家族は尙長女勢子(大一四、二生)四女啓子(昭五、一〇生)あり(名古屋市中區下二見町七電南三五九二)

岩田周治郎

男　義雄　大三、九生
女　幸子　大五、八生
女　敏子　大五、八生

君は大阪府人岩田友右衛門同眞一同金之助の弟にして

同爲三郎の兄なり明治二十一年八月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す岩友商店常務取締役兼大阪支店主任にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は尙三男實(大一三、三生)四男恒夫(同一五、一生)ありA二一九二(大阪市天王寺區上ノ宮二四電南一八七八)
參照＝岩田金之助、岩田眞一、岩田爲三郎、岩田友右衛門※島津和平治の項

岩田惇一

父　靖一　養蠶家　愛知縣士族
母　イワ　嘉永三、四生、岩田卯三郎長女
妻　まさ　明二五、五生、岐阜、青木武雄妹
男　卓一郎　大七、一〇生
女　宣子　大五、五生、神戸女學院出身
女　祐子　大八、一〇生、駒澤高女在學

君は山口縣人相川吉五郎の長男にして明治十八年二月を以て生れ同四十年母方岩田氏の家督を相續す同四十三年慶應義塾大學政治科を卒業し直に三井銀行に入り大正六年同行より歐米出張を命ぜられ翌年歸朝す爾來大阪東京小樽等各支店勤務を經て神戸支店次長崎支店長等に歷任し現時同行參事たり藝に一年志願兵として軍務に服し陸軍歩兵少尉に任じ正八位に敍せらる家族は尙三女暎子(大一〇、一〇生)四女楊子(同一三、二生)三男啓二郎(同一五、四生)あり(東京市澁谷區八幡通一ノ一九電青山六七八五)
參照＝※後藤元之助の項

岩田順一

父　イワ　正八位、陸軍歩兵少尉、三井銀行㈱參事、廣島縣在籍
妻　まさ　明二五、五生、岐阜、青木武雄妹
男　卓一郎　大七、一〇生
女　宣子　大五、五生、神戸女學院出身
女　祐子　大八、一〇生、駒澤高女在學

君は愛知縣士族岩田靖一の庶子にして明治三十八年八月を以て生る資產家たり家族は尙姉淑子(明三六、一一生)妹敏子(同四三、一生)同保子(大八、一生)ありA二八二五(名古屋市南區東町夜寥四電南五三八八)

岩田眞一

父　正次郎　明二八、八生

君は愛知縣人島津彥八の四男にして萬延元年五月二十八日を以て生れ後岩田惣三郎の養子となり明治四十四年分れて一家を創立す岩友商店常務取締役兼大阪支店主任にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は其養父惣三郎同千代三郎田代金之助の養男英二の兄なり明治二十八年八月十一日を以て生る大正五年大阪高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙二男泰次郎(大一〇、一二生)長女美智子(同一二、三生)二女照子(同一四、七生)四男實三郎(同一五、二生)弟源三郎(同四、一〇生)七男德之助(昭三、一一生)六男政之助(同四、一〇生)七男修一(同七、五生)ありA一五八八(大阪府豐能郡池田町六四一電池田二二五)
參照＝岩田英二、岩田正一、岩田宗次郎、岩田宗太郎、岩田千代三郎、木下金藏、田代金之助※岩田保太郎※岸本信太郎※永井利兵衛の項

岩田正一

妻　きみを　帝國毛絲紡績、岩友商店各㈱社長
男　喜之助　明四二、四生　東京瀛洋汽船、島津商店各㈱取締役
男　眞次　大二、三生
女　光子　大五、五生
男　昇三　大八、一〇生

君は大阪府人岩田惣三郎の二男にして同宗太郎の叔父同正一の養弟田代金之助岩田千代三郎の兄岩田正次郎の養叔父なり明治二十年七月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す現時前記銀行各會社の重役たり家族は

岩田正次郎

父　正一　萬延元、五生、現戸主
妻　政子　明三二、九生、大阪、木下金藏妹
男　正太郎　大九、一〇生

君は大阪府人岩田正一の二男にして同宗次郎同千代三郎田代金之助の養男同英二の兄なり明治二十八年八月十一日を以て生る大正五年大阪高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙二男泰次郎(大一〇、一二生)長女美智子(同一二、三生)二女照子(同一四、七生)四男實三郎(同一五、二生)弟源三郎(同四、一〇生)七男德之助(昭三、一一生)六男政之助(同四、一〇生)七男修一(同七、五生)ありA一五八八(大阪府豐能郡池田町六四一電池田二二五)
參照＝岩田英二、岩田正一、岩田宗次郎、岩田千代三郎、木下金藏、田代金之助※岩田保太郎※岸本信太郎※永井利兵衛の項

岩田眞一

妻　きみを　帝國毛絲紡績、岩友商店各㈱社長
男　喜之助　明四二、四生　東京瀛洋汽船、島津商店各㈱取締役
男　眞次　大二、三生
女　光子　大五、五生
男　昇三　大八、一〇生

君は大阪府人岩田惣三郎の三男にして同宗太郎の叔父同正一の養弟田代金之助岩田千代三郎の兄岩田正次郎の養叔父なり明治二十年七月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す現時前記銀行各會社の重役たり家族は

岩田正次郎

父　正一　正八位、陸軍三等主計、陸軍㈱取締役、大阪府在籍
妻　政子　明三二、九生、大阪、木下金藏妹
男　正太郎　大九、一〇生

君は大阪府人岩田正一の二男にして同宗次郎同千代三郎田代金之助の養男同英二の兄なり明治二十八年八月十一日を以て生る大正五年大阪高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙二男泰次郎(大一〇、一二生)長女美智子(同一二、三生)二女照子(同一四、七生)四男實三郎(同一五、二生)弟源三郎(同四、一〇生)七男德之助(昭三、一一生)六男政之助(同四、一〇生)七男修一(同七、五生)ありA一五八八(大阪府豐能郡池田町六四一電池田二二五)
參照＝岩田英二、岩田正一、岩田宗次郎、岩田千代三郎、木下金藏、田代金之助※岩田保太郎※岸本信太郎※永井利兵衛の項

岩田助次郎

妻　この　家主　大阪府在籍
女　コイサ　明二一、七生、大阪、藤原七郎兵衛長女

君は大阪府人岩田岩右衛門の長男にして明治十六年四月を以て生れ大正十二年家督を相續す家主たり家族は尙三女芳(大一二、二生)四女節(同一五、一一生)弟平吉(明三一、四生)あり同富三(同三三、一一生)はA九二〇(大阪市住吉區濱口町一四電住吉二八六二)

岩田仙太郎

妻　きよう　晩成處、出版業　東京府在籍

君は岐阜縣人岩田重兵衛の三男にして文久二年十一月を以て生れ明治十五年先代りわの養子となり直に家督を相續す同四十一年出版業を創業し晩成處と稱して奮闘以て今日の基礎を築けりA八三〇B一五二(東京市下谷區上野櫻木町二電下谷五七三九)

君は愛知縣人岩田友右衛門の弟岩田金之助同周治郎同爲三郎の兄なり明治十二年三月二十五日を以て生れ同二十八年先代くわの養子となり家督を相續す現時岩友商店社長の外前記各會社の重役たり家族は尙六男信雄(大一四、八生)ありA五八一七(東京市赤坂區青山南町一ノ五五電青山二三四六)
參照＝岩田金之助、岩田周治郎、岩田爲三郎、岩田友右衛門、島津和平治の項

岩田助次郎

妻　この　家主　大阪府在籍
女　コイサ　明二一、七生、大阪、藤原七郎兵衛長女

君は大阪府人岩田岩右衛門の長男にして明治十六年四月を以て生れ大正十二年家督を相續す家主たり家族は尙三女芳(大一二、二生)四女節(同一五、一一生)弟平吉(明三一、四生)あり同富三(同三三、一一生)はA九二〇(大阪市住吉區濱口町一四電住吉二八六二)

岩田宗次郎

妻　多可　尾州銀行、岩田商事、甲子興業各㈱取締役、日本レイヨン、長崎紡績、大日本紡績、東毛紡績各㈱監査役、大阪府在籍
男　善太郎　明二六、一一生、岐阜、堀喜三郎四女
女　美代　大八、三生
男　大四、四生

君は大阪府人岩田惣三郎の三男にして同宗太郎の叔父同正一の養弟田代金之助岩田千代三郎の兄岩田正次郎の養叔父なり明治二十年七月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す現時前記銀行各會社の重役たり家族は

尙二男謙次郎（大一〇、三生）二女多惠（同一三、一〇生）三男淳三郎（同一五、一〇生）三女登貴（昭四、八生）ありA一二八九五（大阪市天王寺區上本町一〇ノ一一電天王寺二二二）

参照＝岩田正一、岩田正次郎、岩田宗太郎、岩田千代三郎、田代金之助※岩田常右衛門※岩田保太郎※日比野芳太郎の項

岩田宗太郎

岩田商事、甲子興業各㈱取締役、尾州銀行㈱監査役、大阪府在籍

母　つる㐂　明一七、一〇生、愛知、住田光太郎三女

妻　貞　明四二、一二生、大阪、宮崎彌三郎三女、甲南高女出身

男　宗之助　昭六、八生

君は大阪府人故尾州銀行頭取岩田松之助の長男にして同保太郎の再從弟に當り明治三十四年四月七日を以て生れ昭和八年祖父惣三郎の跡を享け家督を相續す松之助夙に出で兄常右衛門と協力して綿糸商を營み剿苦經營遂に市内有數の綿絲問屋となり銀行會社を主宰す君その後を繼承し現時前記尾州銀行を初め各會社の重役たり家族は尙弟勝之助（明四〇、七生）妹ヨウ（同四三、四生）弟德之助（同四五、五生）妹いと（大三、四生）弟惣一郎（同五、一二生）妹梅尾（同九、三生）あり養伯父正一（萬延元、五生、愛知、島津彥八四男）は其子女と共に叔父宗次郎（明二〇、七生）は亦分家し叔母つね（同一二、一生）は愛知縣人岩田悅次郎に嫁し叔父金之助（同二七、一生）は大阪府人田代豐の養子となれり（兵庫縣武庫郡精道村鷹屋樋口新田電蘆屋二〇〇九）

参照＝岩田正一、岩田宗次郎、岩田千代三郎、岩田常右衛門、岩田保太郎※日比野芳太郎の項

岩田辰五郎

入丸商店㈱取締役、東京株式取引所取引員、東京府在籍

妻　むら　明三二、八生、內外編物會社員、

男　春一　明九、四生、靜岡、加藤品太郎妹慶大經濟學部出身

婦　頼子　明四一、三生、長男春一妻、神奈川、志村豐作長女

男　久二　明三八、一生、入丸商店社員、慶大經濟學部出身

男　健三　明四一、二生、錦華紡績會社員、慶大經濟學部出身

女　宮子　大元、九生、山脇高女出身

女　静子　大八、九生、山脇高女在學

君は神奈川縣人岩田倉吉の二男にして明治七年一月三日を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す東京株式取引所一般取引員にして入丸商店取締役たり家族は尙孫澄子（昭五、八生、長男春一長女）同壽子（同七、二生、同二女）あり三女幾子（明四三、四生、山脇高女出身）は靜岡縣人佐藤暦治郎長男遙に嫁し四男慶三郎（大五、一生）は東京府人村上貿二の養子となれりA一五二七（東京市大森區山王一ノ二五七六電大森二二六）

参照＝佐藤暦治郎の項

岩田達夫

大阪府在籍

義母　雅樂　明元、四生、大阪、森本重兵衛長女

妻　千代子　明三三、二生、東京、士、高橋爲三郎孫

男　貞雄　大一一、七生

君は長野縣士族波多野敬の六男同精一同貞夫の弟にして明治十九年一月を以て生れ先代貞幹の養子となり大正十年家督を相續す明治四十一年早稻田大學商科を卒業し川崎銀行に入り富澤町支店長となる昭和二年第百銀行と合併して川崎第百銀行となるや日本橋支店長に擧げられ現時同行千葉支店長たり家族は尙長女貞子（大一〇、三生）二男達二郎（同一四、五生）三男幹雄（昭二、四生）あり（千葉市川崎第百銀行支店內）

参照＝波多野貞夫、波多野精一の項

岩田爲三郎

岩友商店㈱常務取締役、帝國毛絲紡績㈱取締役、東京府在籍

妻　とと　明三二、一生、愛知、鈴木彌兵衛長女

男　榮一　大六、七生

君は愛知縣人岩田友右衛門同眞一同金之助同周治郎の弟にして明治二十四年四月十五日を以て生れ後分れて一家を創立す岩友商店當務取締役の外帝國毛絲紡績會社重役たり家族は尙長女糸子（大九、九生）二女千代子（同一四、四生）三女和子（昭二、一一生）ありA六〇一（東京市麻布區新龍土町六電青山五一七九）

参照＝岩田金之助、岩田眞一、岩田友右衛門※鳥津和平治の項

岩田爲三郎

莫大小商大阪府在籍

妻　きよう　明二四、七生、大阪、奥田勘次郎長女

男　義雄　明四四、一〇生

君は愛知縣人岩田國三郎の長男にして明治十三年八月十五日を以て生れ大正十四年家督を相續す莫大小商を營む家族は尙三女貞子（大一二、八生）四女和子（昭二、三生）五女房子（同六、三生）妹かねよ（明二二、七生）あり長女君子（同四二、六生）は他に嫁し弟爲助（同三一、二生）は分家せりA六三二一B三二一（大阪市南區安堂寺橋通二ノ四六電船場四九二）

岩田千代三郎

岩田商事、甲子興業各㈱監査役

大阪府在籍

母　雅樂　明四五、一生、生母、岐阜、多賀わき

庶子　一男　大五、四生、生母、大阪、松川ヨシエ

庶子　ギン子　昭三、二生、生母、大阪、松川ヨシエ

庶子　富子　大阪府人岩田惣三郎の四男にして同宗次郎の弟同正一の養弟田代金之助の兄岩田宗太郎の叔父同正次郎の養叔父なり明治二十二年七月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す同六年京都高等蠶業學校を卒業し現時岩田商事會社及甲子興業會社監査役たりA一一三三（大阪市住吉區田邊西四ノ一二電平野五四一）

参照＝岩田正一、岩田正次郎、岩田宗太郎、田代金之助※岩田常右衛門※岩田保太郎※日比野芳太郎の項

岩田宙造

法學博士、貴族院議員、日本產業住友信託、共保生命保險、東京サルヴェージ火災保險、東洋海上火災保險各㈱監査役、辯護士、東京府在籍

養母　イチ　明一四、三生、養父金藏養子、北海道、岩田金右衛門妹

妻　ヤエ

男　永俊　明三三、一生、岩山商店㈱取締役

婦　楓子　明三七、一〇生、長男永俊妻、東京、入澤敏雄二女

男　健次郎　明三五、七生、法學士

婦　幸　明四二、四生、二男健次郎妻、樞密顧問官阪本彰之助三女

君は山口縣人櫨山喜七の弟にして明治八年四月七日を以て生れ先代金藏の養子となり同三十五年家督を相續す先是同三十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し辯護士を開業し大正五年法學博士の學位を授けらる暨に東京第一辯護士會會長に推れしことあり現時前記各會社の重役にして宮內省及日本郵船東京海上保險三菱銀行日本勸業銀行等各會社顧問法政審議會民法改正委員會小作制度調査會委員たり昭和六年貴族院議員に勅選せらる園碁は初段に近き技倆を有すA一五八二四（東京市赤坂區青山高樹町一二ノ一六號電青山四〇三）

参照＝阪本彰之助※伊達翁記の項

岩田繼清

岩田、岩田兄弟工場各㈱代表社員、農機具製造業、東京府士族

母　つる　萬延元、九生、富山、士、利田傳吉妹

妻　肇　明一九、六生、岐阜、水谷彌右衛門二女

男　繼英　明三九、一生、岩田兄弟工場社員、工學士

婦　レイ　明四二、九生、新潟、川崎厚太郎姉

女　富美子　明四四、三生、跡見女學校出身

女　壽子　大二、一一生、九段精華高女出身

君は東京府士族岩田繼忠の長男にして明治十二年五月二十三日を以て生れ同三十六年家督を相續す夙に金物業を營み兄弟一致事業に精進し大正元年脇穀機を發明し農業機械の製造を開始し同五年岩田式脇扱機を發明爾來順調に發展昭和二年合資會社岩田兄弟工場を同三年岩田合資會社を設立し其の代表社員たり家族は尙弟春雄（明三四、二生、岩田兄弟工場岩田合資會社有限責任社員）同妻千代子（同四〇、六生、秋田、細谷徹之助長女）あり弟兵四郎（同一六、三生、岩田兄弟工場岩田合資會社各無限責任社員）同妻チヨ（同二三、二生、鳳凰、風間猪之吉三女）は其の子女を伴ひ分家し妹ふさ（同一九、一生）は東京府人泉田松次郎に嫁し叔母ちか（同元、四生）は富山縣人岩田良吉の家婿に入れりA一七〇七（東京市神田區鎧住町五電下谷三六二九）

参照＝岩田常右衛門

岩田常右衛門

岩田商店㈱社長、尾州銀行、實綿㈱取締役、東洋セメント工業㈱監査役、大阪三品取引所取引員、綿絲布商、愛知縣在籍

妻　むら　明五、一生、愛母つう長女、岐阜、岩田保太郎叔母

養子　さた子　大元、九生、養弟三郎長女

君は愛知縣人岩田又四郎の二男にして明治元年六月を以て生れ先代つねの後を承け家督を相續し爾名金三郎を改む綿絲布商を營み傍ら大阪三品取引所取引員に二、一一生、岐阜、高島善吉二女）は分家し養妹つね（嘉永二、一一生、岐阜、宇野元（明二三、八生、內外編物會社員、慶大經濟學部出身）

参照＝岩田保太郎※岩田千代三郎※田代金之助※日比野芳太郎の項

岩田友右衛門

岩友商店㈱取締役、帝國毛絲紡績㈱取締役、東京府在籍

妻　せい　明二三、二生、愛知、太田藤吉二女

君は愛知縣人先代友右衛門の長男同金之助の二男にして明治九年十一月十五日を以て生れ同三十年家督を相續し前名友市を改め襲名す綿絲布商を營み現時鳥津商店取締役たり家族は尙弟逸吉（明二八、六生）同妻ふさ（同三二、二生、愛知、村井治兵衛妹）及其二男三女あり妹かな（同一五、三生）は愛知縣人鳥津和平治に同きみを（同二〇、一生）は東京府人神木多美藏に嫁し弟眞一（同二二、三生）同周治郎（同二一、八生）同爲三郎（同二四、一生）は東京市麻布區新堀町四電高輪五九七一）

参照＝岩田金之助、岩田周治郎、岩田眞一、岩田爲三郎、鳥津和平治、村井治兵衛の項

岩田友次郎

醬油釀造業、東京府在籍

妻　長　明三三、五生、養父友次郎長女

男　辰三　昭三、三生

君は長野縣士族岩田吉定の長男にして明治九年一月を以て生れ大正元年家督を相續す明治三十二年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し大阪市技師に任じ更に同理事を經て土木部長となりしが後之を辭し現時關西商工學校專務理事たり妹安代（明一三、九生）は長野縣士族平山泰兄萃に嫁し從弟則成（同二三、六生、亡伯母てつ三男）は神奈川縣人井上則次の家婿に入れり（大阪市住吉區天王寺町三二五三電天王寺一九）

参照＝平山泰の項

岩田信成

岩田兄弟商會㈱取締役、機械工具輸出入商、大阪府在籍

妻　つた　明三〇、一一生、兵庫、岩田與三郎長女
男　錄士郎　昭二、六生
女　康榮　大六、一〇生

君は大阪府人中島清兵衛の四男にして岩田米次郎の養甥同鉦太郎の養弟なり明治二十五年十月を以て生れ大正六年先代つたの入夫となり家督を相續す機械工具輸出入商を營み現に岩田兄弟商會取締役たり家族は尙三女澄江(大一二、四生)あり二女良子(同八、三生)は其外親父岩田與三郎の養子となれり(大阪市西區立賣堀北通七ノ一三電話町五二九)

參照‖岩田鉦太郎、岩田與三郎、岩田米次郎の項

岩田博藏

從四位勳三等、山口高等學校長
山口縣士族

妻　ウメ　明一〇、一生、山口、士、境半三
姉　芳　明三六、三生
男　忠夫　明四四、一〇生

君は山口縣士族紀藤宗介の二男同閑之介の弟にして明治六年三月を以て生れ後先代九祐の養子となり同二十八年家督を相續す同三十六年東京帝國大學文科大學英文學科を卒業し爾來山口縣立萩中學校教諭愛媛縣立西條同松山山口縣立萩各中學校長等に歷任し昭和四年山口高等學校長となり今日に至る同三年歐米を漫遊す家族は尙四男松夫(大四、三生)五男孝夫(同六、六生)あり長女豐子(明三二、五生)は山口縣人藤本閑作長男政郎に嫁し二女美代子(同四二、二生)は同縣人小野士良長男慶三に嫁し二男貞夫(同四〇、一二生)は分家せり(山口市後河原電三七八)

參照‖紀藤閑之介、藤本閑作の項

岩田秀太郎

島根縣多額納稅者、農業
島根縣在籍

妻　ユキ　明八、一一生、島根、永井重兵衛妹
男　正俊　明三〇、四生
婦　保子　明三七、三生、長男正俊妻、兵庫宇野實藏三女
女　通子　明三三、一一生
女　保子　明四二、八生

君は島根縣人岩田源右衛門の長男にして明治五年九月を以て生れ同二十二年家督を相續す農を業とし資產家として知られ縣下の多額納稅者にして直接國稅千十六圓を納む蔓に山陰銀行常務取締役に擧げらる家族は尙孫蕊子(大一二、三生、長男正俊長女)同叡子(同一四、一二生、同二女)同禮子(昭三、一一生、同三女)叔母カネ(慶應三、一一生)あり三女稔子(明三七、七生)は鳥取縣人德永長藏長男長に嫁せり(島根縣能義郡荒島村)

岩田武七

男　正作　大三、一一生
女　つた　明四四、九生

君は愛知縣人先代武七の長男にして明治十七年六月を以て生れ大正四年家督相續と共に前名正次郎を改め襲名す靴鞄商を營み傍ら亞細亞製靴飛鞆川温泉土地犬山瓦斯各會社の取締役たる外岩田商店の代表社員にして愛知縣多額納稅者たり家族は尙二男孝七(大五、二生)三男誠三(同七、一一生)あり A 八〇二〇(名古屋市中區南鍛冶屋町一ノ四電中二〇三二)

愛知縣多額納稅者、犬山瓦斯、亞細亞製靴、飛鞆川温泉土地各會社取締役、岩田商店代表社員、皮革商、愛知縣在籍

岩田平次郎

東京市品川區會議員、煙草商
東京府在籍

妻　ふみ　明一四、六生、東京、谷田勝五郎長女
男　孝一　明四一、五生
婦　フク　大二、二生、二男孝一妻、東京、森安之助三女
男　惠夫　大三、九生

君は愛知縣人大野善次郎の二男にして明治二十四年十五日を以て生れ先代イツの養子となり同年家督を相續す煙草商を營み現時品川區會議員に推さる家族は尙五男敬平(大六、五生)四女マス子(同九、一一生)五女智惠子(同一五、三生)孫安弘(昭八、七生、二男孝一長男)あり養母イツ(弘化三、一生、愛知、大野甚平二女)は三男勝雄(明四四、六生)と共に分家し二女以津枝(同四二、八生)は愛知縣人日淺住男に嫁せり(東京市品川區大井立會町四二六電高輪四三四)

岩田武七

愛知縣人岩田一の長男にして明治三十五年十一月を以て生れ昭和八年家督を相續す大正十五年東京帝國大學法學部英法科を卒業し判事に任じ東京區裁判所兼同地方裁判所判事たり父一は東京帝國大學醫科大學の出身にして大學院に學び陸軍二等軍醫となり大正二年陸軍々醫總監に累進す其間陸軍々醫學校教官近衞師團軍醫部長東京第一衞戍病院長關東軍々醫部長第一師團軍醫部長軍醫學校長等に歷補し醫學博士の學位を受く家族は尙妹榮子(大三、六生、御茶の水高女出身)あり妹長子(明三七、一生)は陸軍三等軍醫正醫學博士小林俊三に同富士子(同四〇、七生)は岡山縣人醫學博士荒木直躬に同好子(同四二、四生)は埼玉縣人法學士河田義郎に嫁せり(東京市淀橋區柏木三ノ四三六電四谷一二八〇)

參照‖子爵大島久忠男爵細川一之助※大島義脩※黑井悌次郎※細川源三郎※細川源二郎※山口誠太郎の項

岩田孫介

繪具製造業
京都府在籍

母　ツネ　明三、三生、京都、岩田半兵衛長女
妻　齡子　明三八、一〇生、京都、竹內一雄妹
男　桂一　昭八、二生

君は京都府人岩田幸七の二男にして明治三十四年十一月を以て生れ大正十四年家督を相續す繪具製造業を營む家族は尙長女幸枝(昭四、五生)二女侑久子(同六、七生)弟得三(明四一、五生)同年之助(同四四、四生)あり妹ひさ子(同三八、一〇生)は分家せり A 八五七B七七一(京都市東山區大和大路四條下ル二丁目龜井町五五電話園一八〇四)

岩田誠

從六位、判事、東京區裁判所兼同地方裁判所判事、愛知縣在籍

母　妙子　明一七、一〇生、子爵大島久忠姉
妻　純子　明四三、一二生、男爵細川一之助妹

君は愛知縣人岩田一の長男にして明治三十五年十一月を以て生れ昭和八年家督を相續す大正十五年東京帝國大學法學部英法科を卒業し判事に任じ東京區裁判所兼同地方裁判所判事たり父一は東京帝國大學醫科大學の出身にして大學院に學び陸軍二等軍醫となり大正二年陸軍々醫總監に累進す其間陸軍々醫學校教官近衞師團軍醫部長東京第一衞戍病院長關東軍々醫部長第一師團軍醫部長軍醫學校長等に歷補し醫學博士の學位を受く家族は尙妹榮子(大三、六生、御茶の水高女出身)あり妹長子(明三七、一生)は陸軍三等軍醫正醫學博士小林俊三に同富士子(同四〇、七生)は岡山縣人醫學博士荒木直躬に同好子(同四二、四生)は埼玉縣人法學士河田義郎に嫁せり(東京市淀橋區柏木三ノ四三六電四谷

岩田又兵衞

家主
大阪府在籍

女　春子　明三一、三生

君は大阪府人岩田佐十郎の長男にして明治十五年四月を以て生れ同二十七年家督を相續し前名三を改む家主たり家族は尙姉ユサ(明一二、七生)あり父佐十郎(安政元、四生)は分家し妹シホ(明一七、四生)は大阪府人泉八郎に嫁せり A 一二二四(大阪市淺速區西濱南一ノ五八電話櫻川一一七五)

岩田萬吉

糊製造業
大阪府在籍

妻　ふじ　明一八、二生、兵庫、井上清市叔母
男　市太郎　明四一、七生
婦　みの榮　大二、一〇生、長男市太郎妻、大阪、田中條太郎六女

君は兵庫縣人岩田文藏の二男にして明治十五年五月一日を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す糊製造業を營む家族は尙三男順三(大九、九生)孫芳子(昭八、七生、長男市太郎長女)あり長女ハツエ(明四三、二生)は大阪府人墨川清三郎長男清一郎に嫁せり A 四八七(大阪市北區北野堂山町四八電北五七九三)

岩田彌太郎

正五位勳五等、判事、大阪區裁判所判事、兵庫縣在籍
萬延元、五生、香川、生田良吉二女

母　タケ　明四三、一生
男　英男　明二一、二生、大阪、藤原友吉四女
婦　小フジ　明二八、一二生、大阪、十川兵之助六女
妻　勝子　大六、一二生
男　常藏　大阪三品取引所取引員
大阪府在籍

君は大阪府人岩田松之助の長男にして明治十五年十一月を以て生れ同四十四年家督を相續す同三十七年日本大學法律科を卒業外務省貴族院鐵道省等に奉職し後判檢事登用試驗及辯護士試驗に合格し大正五年判事に任ず爾來神戶地方兼同區宇陀區兼奈良地方明石神戶各區高知地方德島區監督兼同地方各裁判所判事に歷補し昭和九年四月大阪區裁判所判事に補せられ現時前記の職に在り家族は尙三男彌三男(大一〇、二生)あり(兵庫縣武庫郡御影町勝田)

岩田保太郎

繼母　小フジ　女　嘉代　大八、六生

當家は元愛知縣中島郡奥町の舊家として知らる祖父常右衞門初めて大阪に來り綿絲商を營め父保太郎其の業を繼ぎ更に大阪三品取引所仲買人及び棉花商をも兼ね昭和五年家督を相續し前名金藏を改め襲名す義に大阪市立大阪高等商業學校を卒業し大正四年父に從ひ支那及英領印度へ棉花の視察に赴く昭和五年父の業を承け現時大阪三品取引所綿絲部棉花部人絹部取引員たり家族は尙二女幸江(大一一、七生)三男金治郎(昭二、三生)四女多喜江(同三、六生)二男勝治(同六、一生)四男喜治(同七、一〇生)弟銀藏(明二九、二生、大阪市立大阪高商出身)同妻まさを(同三五、一一生、愛知渡邊正右衞門姪孫)及其子女妹ふさ(大七、九生)同あさ(同九、一二生)同ゑつ(同一一、二生)同みよ(同一四、一〇生)あり祖母つう(嘉永二、一一生、岐阜、高橋善吉妹)は叔母むら(明五、一一生)同夫常右衞門(同元、六生、愛知、岩田又四郎二男)叔父常治郎(同一三、一一生)叔母つね(同二三、三生)を伴ひ姉ひさ(同三、二生、清水谷高女出身)は同夫豐吉(同一八、一一生、岐阜、高島善吉二男)と共に共二男一女を伴ひ妹よね(同三四、七生、梅田高女出身)は同夫映(同三一、九生、岐阜、長藤松太郎弟)と共に各分家し叔父惣三郎(天保一四、三生)も亦分家し其孫宗太郎當主にして妹きみ(明三一、三生、梅田高女出身)は大阪府人日比野芳太郎の養子となれり A 一五一B二九四(大阪市東區北久太郎町二ノ一八電船場五五二)

參照‖岩田宗太郎、岩田常右衞門、日比野芳太郎※岩田千代三郎※岩田宗次郎※岩田正一※岩田正次郎※岩田信成※田代金之助※不破善三郎の項

岩田與三郎

柳江鉦太郎
男　明一三、入藥、大阪府在籍
妻　明二八、九生、大阪、中村市平二女
養子　良子　大八、三生、大阪、岩田信成二女

君は大阪府人岩田與兵衞の長男にして明治四年六月四日を以て生れ同三十八年家督を相續す夙に諸工藥用の機械材料及び電氣機械類の直輸入商を營み漸次發展して大正七年營業を株式組織に改め岩田兄弟商會と稱し現に同社監査役たり曾て造園造林を目的とせる合資會社岩田三明園を經營せり長女つた(明三〇、一一生)は分家し大阪府人中島信成を夫に迎へ弟米次郎(同九、二生)も亦分家せり A 三〇二八(大阪市住吉區天王寺町二五五〇電天王寺一五三)

參照‖岩田鉦太郎、岩田信成、岩田米次郎の項

岩田芳之助

名古屋商工會議所議員、扇田、玩具雜貨卸商、愛知縣在籍

妻　惠夫　大九、七生
男　正　明二三、一一生、養父由藏長女

君は東京府人北岡善兵衞の庶子男にして明治二十四年八月八日を以て生れ大正二年先代みねの養子となり同九年家督を相續す扇田と稱し玩具雜貨卸商を營み推されて名古屋商工會議所議員たり家族は尙四女玉子(大六、七生)二男雅夫(同一二、二生)三男明(同一三、九生)四男芳(昭二、一生)あり長女つね子(明四一、一〇生)は愛知縣人鈴木政吉三男二三雄に嫁せり A 八四六(名古屋市西區御幸本町八ノ一五電本局一〇八六)

參照‖鈴木政吉の項

岩田米次郎

妻　發　明二二、三生、大阪、士、山本戊女
男　浩太郎　明四〇、一生、關大經濟學部出身
　　玄三郎　明四四、九生、大阪商大出身
女　美代子　大三、三生、夕陽丘高女出身

岩田家の先代與兵衞は藤井宗兵衞の二男にして入りて當家を繼ぎ組藥麻苧商に從事し後ランプ賣藥足袋等を商ひ遂に岩田家の基礎を築く君は先代與兵衞の二男にして同與三郎の弟同鉦太郎の叔父同信成の養叔父なり明治九年二月を以て生れ同三十三年分れて一家を創立す同二十六年大阪高等商業學校に學び現時岩田兄弟商會社長及び瓦斯管販賣會社取締役たる外前記會社の重役を兼ね圍碁に趣味を有す家族は尙男謹四郎(大五、一二生)五男誠五郎(同一二、二生)あり A 八〇一〇(大阪市住吉區天王寺町二〇三四電天王寺一三四一)

參照‖岩田鉦太郎、岩田信成、岩田與三郎の項

岩田龍輔　正五位勳五等、判事、高崎區裁判所監督判事兼前橋地方裁判所高崎支部々長、山口縣在籍
妻　タカ　明一七、九生、東京、岩崎堅次郎長女
男　龍一　大元、八生
女　道子　大四、一生
女　信子　大六、一一生
君は山口縣人岩田文學の長男にして明治十二年十二月を以て生れ同二十九年家督を相續す同三十八年法政大學專門部法律科を卒業し東京市下谷區役所書記となり大正二年判檢事登用試驗及辯護士試驗に合格し判事に任じ水戸靜岡甲府各地方下妻松本飯田各區裁判所判事に歷補し昭和五年甲府裁判所部長を經て現時前記の官職に在り家族は尙二男龍彦(大八、五生)三男精(同一〇、五生)四男大(同一三、二生)五男實(昭二、三生)亡弟虎一妻キヌ(同三一、六生、山口、森田謙藏姪)及其二男一女あり(高崎市宮元町高崎區裁判所內)

岩田鎌三　弘益商會、東京株式取引所取引員
妻　はる　東京府在籍
男　榮　明八、六生、東京、宅見房雄姉
養子　勝藏　明四四、一二生
男　榮　明二二、八生、岐阜、岩田甚八長男
婿　よし子　明三一、八生、養子勝藏妻、長野伊藤勝長衛長女
君は岐阜縣人岩田勘三郎の長男にして明治元年十月十三日を以て生れ先代榮吉の養子となり同二十一年家督を相續す弘益商會を經營し東京株式取引所短期實物取引員たり家族は尙鶴夫(大九、四生、養子勝藏長男)同整二(同一〇、九生、同二男)同法子(同一四、一生、同長女)同鄰三(昭三、一〇生、同三男)同幸子(同五、六生、同二女)同篤子(同七、四生、同三女)同鎮夫(同八、九生、同四男)ありA二五八六B六六九(東京市日本橋區江戸橋一ノ七ノ七電日本橋八九六)

岩田鏐二　家主　愛知縣在籍
妻　とも　明一六、二生、養父關三郎三女
男　整太郎　明四三、二生、名古屋高商出身
君は愛知縣人成田信善の弟にして明治八年八月六日を以て生れ同四十三年先代關三郎の養子となり大正九年家督を相續す家主たり家族は尙四男嘉久(大七、三生)二女多賀子(同一二、四生)ありA五五二〇B二五〇〇(名古屋市中區飴屋町五二電南三八五一)

岩立治郎吉　千住製氷㈱取締役、富士革皮㈱監査役、東京府在籍
妻　ミサヲ　明三八、三生、德島、乾政信三女
養子　一郎　明三六、一二生、千葉、坂卷治右衛門孫
女　綾子　大四、三生
女　照代　大五、一〇生
女　澄江　大八、七生
君は千葉縣人坂卷治右衛門の三男にして明治十三年五月二十日を以て生れ先代治郎吉の養子となり大正二年家督を相續し前名淳を改め襲名す現時前記各會社の重役たり長女柳枝(明四五、三生)は東京府人佳吉忠次郎長男忠義に二女富美(大二、七生)は同府人小原政吉五男省吾郎に嫁せりA一七五七(東京市淺草區馬道町六ノ三電淺草三〇八)

岩楯林造　朝鮮皮革㈱取締役
東京府在籍
養子　鉦三　明一一、一二生、東京、西田德三郎㊁代表社員
婿　まつ　明二二、一一生、養子鉦三妻、東京、大西八五郎四女
君は東京府人岩楯政吉の二男にして安政三年二月十五日を以て生れ明治十六年分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時前記會社の重役たり孫婿(明四二、一二生、養子鉦三長女)は神奈川縣人山川種次郎に嫁せりA一八七(東京市中野區昭和通二ノ三四電中野三八六一)
參照‖※黑田辰五郎※深澤長太郎の項

岩垂梅四郎　大六共同㈱監査役、東京府在籍
妻　捷子　明四〇、一生、男僧出羽重芳妹
君は東京府士族岩垂邦彥の四男にして同亨の養弟同好德同邦雄同捨三の實弟同平八の兄なり明治三十二年十一月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す現に大

六共同會社監査役たり(東京市麻布區飯倉片町二九電赤坂一五五四)
參照‖男僧出羽重芳、岩垂邦雄、岩垂邦彥、岩垂捨三、岩垂亨、岩垂平八、岩垂好德※寺垣猪三※丹羽綱吉の項

岩垂邦雄　大六共同㈱取締役、住友㈱線製造所社員、東京府在籍
妻　純子　明四〇、九生、東京、鈴木紋次郎長女
男　邦昭　昭二、八生
君は東京府士族岩垂邦彥の二男にして同亨の養弟同好德の實弟同捨三同梅四郎同平八の兄なり明治三十年六月六日を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す同年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し住友銀行に入社後住友電線製造所に轉じ現時經理課勤務たる外大六共同株式會社取締役を兼ぬ家族は尙ほ二男純二(昭、四八生)三男正雄(昭六、九生)ありA九六五(兵庫縣武庫郡精道村廣屋穗塚九八一)
參照‖岩垂梅四郎、岩垂邦彥、岩垂捨三、岩垂亨、岩垂平八、岩垂好德、鈴木紋次郎※喜田村朝治の項

岩垂邦彥　東京電氣㈱取締役
東京府士族
妻　コムメ　明五、二生、三重、西村重三郎三女
男　好德　明二九、三生
君は福岡縣士族喜田村脩藏の二男にして安政四年八月を以て生れ先代茂の養子となり明治十二年家督を相續す同十五年工部大學校電氣科を卒業し大阪電氣會社に入り技師長に進む同三十二年辭して日本電氣會社を創立し米國ウエスターン・エレクトリック・カムパニーと共同して漸次業務を擴張し自ら專務取締役となり今日の大を成すに至る昭和四年同社を辭し現時東京電氣取締役にして電氣工業界の重鎭として知らる二男邦雄(明三〇、六生、法學士)三男捨三(同三一、八生、工學士、法學士)四男梅四郎(同三二、一一生)五男平八(同三九、五生)は各分家し長女直子(同二五、九生)は醫學博士喜田村朝治に三女園子(同三五、三生、東京女學館出身)は奈良縣人十倉晉次に嫁し二女裕子(同二七、

七生)は其夫亨(同二一、六生)と共に分家せりA二六五一(神奈川縣鎌倉郡鎌倉町長谷六四六電五三六)
參照‖岩垂梅四郎、岩垂邦雄、岩垂捨三、岩垂亨、岩垂平八、岩垂好德、喜田村朝治※大井伊太郎の項

岩垂捨三　日本車輛製造㈱取締役支配人兼購買會計各課長、東京府在籍、大六共同㈱監査役
妻　愛　明三九、一〇生、東京、天野泰一姉
男　邦一　大一五、八生
君は東京府士族岩垂邦彥の三男同亨の養弟同好德同邦雄の實弟同梅四郎同平八の兄にして明治三十一年八月を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す東京帝國大學工學部法學部經濟學部を各卒業し三井物產會社に入り機械部員たりしも現時前記各會社の重役たりA一六四〇(名古屋市南區熱田東町夜寒二〇電南五三〇七)
參照‖天野泰一、岩垂梅四郎、岩垂邦雄、岩垂邦彥、岩垂亨、岩垂平八、岩垂好德※喜田村朝治の項

岩垂亨　萬有製藥㈱專務取締役
東京府在籍
妻　裕　明二七、七生、養父邦彥二女
男　孝一　大四、四生
女　邦子　大六、四生
女　民子　大七、一〇生
君は三重縣人宇田作太郎の二男にして明治二十一年六月三日を以て生れ大正三年岩垂邦彥の養子となり分家して一家を創立す同好德同邦雄同捨三同梅四郎同平八は君の養弟なり同二年東京帝國大學理科大學化學科を出で大學院に入る現時萬有製藥會社專務取締役たり家族は尙二男英二(大一〇、三生)ありA五一二二(東京市芝區白金臺町一ノ一四電高輪七七七七)
參照‖岩垂梅四郎、岩垂邦雄、岩垂捨三、岩垂平八、岩垂好德※木谷周藏※喜田村朝治の項

岩垂平八　北斗電球㈱社員
東京府在籍
妻　ツヤ　明四四、四生、東京、天野泰一姉
男　和貞　昭七、一一生
君は東京府士族岩垂邦彥の五男同亨の養弟同好德同邦雄同捨三同梅四郎の實弟にして明治三十九年五月十七日を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す昭和七年慶應義塾大學經濟學部を卒業し現時北斗電球會社員たりA八八六(東京市麻布區西町二三電高輪一〇九五)
參照‖岩垂梅四郎、岩垂邦雄、岩垂邦彥、岩垂捨三、岩垂亨、岩垂好德※喜田村朝治の項

岩垂好德　正八位、陸軍騎兵少尉、大六共同㈱取締役、日本電氣㈱取締役兼工務部副部長、萬有製藥㈱取締役、東京府士族
父　邦彥　安政四、八生、現戶主
妻　幸子　明四一、一生、子曾毛利元良妹
君は東京府士族岩垂邦彥の長男にして同亨の養弟同邦雄同梅四郎同捨三同平八の兄なり明治二十九年三月二十四日を以て生る大正十年東都帝國大學工學部電氣工學科を卒業し一年志願兵となり陸隊後米國に航しシカゴ市ウエスタン・エレクトリック・カムパニーに勤務し實地研究を積みて歸朝し現時大六共同會社專務取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙長女綾子(同四、六生あり)A四七三七(東京市麻布區富士見町二六電高輪四三一三)
參照‖子曾毛利元良、岩垂捨三、岩垂亨、岩垂梅四郎、岩垂邦雄、岩垂平八※男曾鶴殿家勝※喜田村朝治の項

岩津甚助　昭和保全、名古屋計量器製作所各㈱取締役、岩津殖產㈱尙陽館各代表社員、愛知縣在籍
妻　くら　明一〇、七生、養父甚助二女
養子　良次　大一三、一生、長女あき長男
女　あさ　明三二、二生
君は愛知縣人中島功蓋の男にして明治十年五月を以て生れ先代甚助の養子となり同三十四年家督を相續し前名彥三郎を改め襲名す現時前記各會社の重役たり二男啓二(明三七、七生)は愛知縣人岩津知造の養子となれり(名古屋市東區田代町夜池上六五ノ一電東二五五〇)

岩月直彥　鹿兒島縣多額納稅者、薩摩製絲㈱取締役、鹿兒島縣是蠶種㈱監査役、農業、鹿兒島縣士族
男　高明　明二六、三生
婿　チヨ　明三一、一〇生、長男高明妻、鹿兒島、菊地幹五女
男　周明　明三五、一〇生
君は鹿兒島縣士族岩切義德の養父にして慶應二年六月を以て生れ先代佐美の養子となり明治二十四年家督を相續す農に從事し現時前記各會社の重役にして鹿兒島縣多額納稅者に列し直接國稅二千百三十七圓を納む曾て鹿兒島縣會議員貴族院議員等に擧げらる家族は尙孫申式(大九、一生、長男高明長)男同申次(同九、一一生)同二男あり長女不二枝(明二八、一一生)は鹿兒島縣士族堀之內正巳に四女光(同四一、一生)は同縣人濱田靖孝に嫁せり(鹿兒島縣薩摩郡川內町)

岩付寅之助　正五位勳四等、理學博士、廣島文理科大學教授兼廣島高等師範學校教授、新潟縣士族
母　カル　安政二、八生、新潟、小竹節三二女
妻　フミ　明三二、三生、新潟、解良利貞六女
男　昱夫　昭三、一一生
君は新潟縣士族岩付持淵の二男にして明治二十七年一月を以て生る大正七年東北帝國大學理科大學數學科を卒業し山口高等學校教授に任ぜられ同十五年英國に留學す昭和四年理學博士の學位を授けられ同年廣島文理科大學教授兼廣島高等師範學校教授に轉じ今日に至る家族は尙長女壽美子(大一〇、七生)二女英子(同一四、一一生)亡兄環(夭草(明一九、一生、鹿兒島、川井田徹姉)明俊夭(同四二、一生、亡兄環長男、現戶主)及其姉妹の外養姉テイ(同一七、一生、神奈川、來栖信一妹)あり(廣島市廣島文理科大學內)
參照‖※來栖三郎の項

岩坪熊次郎　岩田商會㈱社長、京都圓病院主、金融業、京都府在籍
妻　スエ　明一四、二生、京都、笹木辰之助妹
君は愛知縣人成田信善の弟にして明治八年八月六日を以て生れ同四十三年先代關三郎の養子となり大正九年家督を相續す家主たり家族は尙四男嘉久(大七、三生)二女多賀子(同一二、四生)ありA五五二〇B二五〇〇(名古屋市中區飴屋町五二電南三八五一)

岩立治郎吉　千住製氷㈱取締役、富士革皮㈱監査役、東京府在籍
妻　ミサヲ　明三八、三生、德島、乾政信三女
養子　一郎　明三六、一二生、千葉、坂卷治右衛門孫
女　綾子　大四、三生
女　照代　大五、一〇生
女　澄江　大八、七生
君は千葉縣人坂卷治右衛門の三男にして明治十三年五月二十日を以て生れ先代治郎吉の養子となり大正二年家督を相續し前名淳を改め襲名す現時前記各會社の重役たり長女柳枝(明四五、三生)は東京府人佳吉忠次郎長男忠義に二女富美(大二、七生)は同府人小原政吉五男省吾郎に嫁せりA一七五七(東京市淺草區馬道町六ノ三電淺草三〇八)

岩楯林造　朝鮮皮革㈱取締役
東京府在籍
養子　鉦三　明一一、一二生、東京、西田德三郎㊁代表社員
婿　まつ　明二二、一一生、養子鉦三妻、東京、大西八五郎四女
君は東京府人岩楯政吉の二男にして安政三年二月十五日を以て生れ明治十六年分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時前記會社の重役たり孫婿(明四二、一二生、養子鉦三長女)は神奈川縣人山川種次郎に嫁せりA一八七(東京市中野區昭和通二ノ三四電中野三八六一)
參照‖※黑田辰五郎※深澤長太郎の項

岩垂梅四郎　大六共同㈱監査役、東京府在籍
妻　捷子　明四〇、一生、男僧出羽重芳妹
君は東京府士族岩垂邦彥の四男にして同亨の養弟同好德同邦雄同捨三の實弟同平八の兄なり明治三十二年十一月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す現に大六共同會社監査役たり(東京市麻布區飯倉片町二九電赤坂一五五四)
參照‖男僧出羽重芳、岩垂邦雄、岩垂邦彥、岩垂捨三、岩垂亨、岩垂平八、岩垂好德※寺垣猪三※丹羽綱吉の項

岩垂邦雄　大六共同㈱取締役、住友㈱線製造所社員、東京府在籍
妻　純子　明四〇、九生、東京、鈴木紋次郎長女
男　邦昭　昭二、八生
君は東京府士族岩垂邦彥の二男にして同亨の養弟同好德の實弟同捨三同梅四郎同平八の兄なり明治三十年六月六日を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す同年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し住友銀行に入社後住友電線製造所に轉じ現時經理課勤務たる外大六共同株式會社取締役を兼ぬ家族は尙ほ二男純二(昭、四八生)三男正雄(昭六、九生)ありA九六五(兵庫縣武庫郡精道村廣屋穗塚九八一)
參照‖岩垂梅四郎、岩垂邦彥、岩垂捨三、岩垂亨、岩垂平八、岩垂好德、鈴木紋次郎※喜田村朝治の項

岩垂邦彥　東京電氣㈱取締役
東京府士族
妻　コムメ　明五、二生、三重、西村重三郎三女
男　好德　明二九、三生
君は福岡縣士族喜田村脩藏の二男にして安政四年八月を以て生れ先代茂の養子となり明治十二年家督を相續す同十五年工部大學校電氣科を卒業し大阪電氣會社に入り技師長に進む同三十二年辭して日本電氣會社を創立し米國ウエスターン・エレクトリック・カムパニーと共同して漸次業務を擴張し自ら專務取締役となり今日の大を成すに至る昭和四年同社を辭し現時東京電氣取締役にして電氣工業界の重鎭として知らる二男邦雄(明三〇、六生、法學士)三男捨三(同三一、八生、工學士、法學士)四男梅四郎(同三二、一一生)五男平八(同三九、五生)は各分家し長女直子(同二五、九生)は醫學博士喜田村朝治に三女園子(同三五、三生、東京女學館出身)は奈良縣人十倉晉次に嫁し二女裕子(同二七、

男　眞次郎　明三一、一一生
　　明三四、二生、長男眞次郎妻、長
　　瀧　藥師寺鈔織姉
婿
女　フサ　同四二、四生
男　正治　明四三、一〇生

君は大阪府人中村利兵衛の三男にして明治七年九月を以て生れ京都府人岩坪五兵衛の養子となり同三十三年分れて一家を創立す同二十七年大阪高等商業學校を卒業し金融業を營み現時岩田商會社長京都關病院主たり家族は尙孫保江(大一二、一生、長男眞次郎長女)同紹夫(同一四、一一生、同長男)同徹(昭三、四生、同二男)あり長女定(明三四、三生)は京都府人近藤興宗治郎弟喜三郎に嫁し二男貞造(同三七、六生)は大阪府人中村タマの養子となれりA三四六一(京都市東山區今熊野劍宮町三三電話圖二五三二)

參照＝近藤興宗治郎※藤井佐兵衛の項

岩坪五兵衛

金銀箔粉金屏風商
京都府在籍

妻　加壽枝　大八、三生
男　慶直　大二、一一生
女　萬喜子　大四、七生
女　芳子

君は京都府人先代五兵衛の二男にして明治二十六年十月を以て生れ大正元年家督を相續し前名永三郎を改め襲名す金銀箔粉金屏風商を營み義に岩坪五兵衛商店代表社員たり家族は尙二男俊雄(大一二、一生)庶子利助(同一〇、一二生、生母、京都、大久保フク)あり姉やす(明一二、四生)同夫熊次郎(同七、九生、大阪、中村利助弟)は其子を伴ひ分家し同じした(同一五、一〇生)は京都府人寺村助右衛門に妹コト(同二九、一二生)は奈良縣人國俊吉に同トク(同三三、八生)は京都府人米田實次に嫁し妹とも(同一九、三生)は同府人岩坪勇次郎の養子となれり(京都市下京區松原通高倉西本灯籠町二四電下六四〇)

參照＝寺村助右衛門の項

岩坪時藏

正五位勳四等、地方技師、群馬縣內務部勤務、京都府在籍

妻　ぶむ　明一四、三生、京都、木戸憲三郎妹、私立明治女學校出身
男　善樹　明四五、六生
女　愛子　明四〇、七生、群馬縣立澁川高等女學校教諭、津田英學塾本科出身
　　悅子　明四三、四生、東京女大出身

君は京都府人岩坪長三郎の二男にして明治十一年九月十日を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す同三十三年東京蠶業講習所本科を卒業し山形縣北村山郡農業學校教諭となり獨來獨往宮崎岐阜各縣農業技師長野縣技師に歷任し大正十三年群馬縣技師となり現に地方技師にして群馬縣內務部に勤務し同縣蠶業試驗場長たり家族は尙二男美實(大四、二生)あり(前橋市群馬縣蠶業試驗場內)

岩手嘉雄

正五位勳四等、特命全權公使、コロンビヤ國駐劄、東京府士族

妻　靜子　明三六、一生、東京、高田太郎姉
男　信雄　九段精華高女出身
　　大一二、七生

君は東京府士族岩手厚雄の長男にして明治二十一年三月を以て生れ同二十二年家督を相續す大正二年東京高等商業學校專攻部領事科を卒業し外交官及領事官試驗に合格同三年領事官補次で外交官補に任ぜられ米國に在勤し獨逸公使館三等書記官兼領事外務事務官領事總領事外務書記官交書課長兼翻譯課長在カナダ公使館一等書記官總領事ホノルル在勤大使館參事官伊國在勤等を歷任し昭和九年八月特命全權公使に任じコロンビヤ國駐劄仰付けらる家族は尙二男逸雄(大一三、一一生)長女一子(同一五、五生)二女文子(昭二、一一生)あり(在コロンビヤ國日本公使館內)

岩出喜市

寶石商
大阪府在籍

妻　ユキ　明二四、三生、大阪、島繁太郎妹
男　秀一　大八、一生
女　夫子　大五、四生

君は大阪府人島秀三郎の庶子にして明治十三年六月二十日を以て生れ同府人岩出傳吉の養子となり同四十一年家督を相續す寶石商を營む家族は尙二女喜代子(大一二、四生)三女照子(昭三、九生)あり弟金次郎(明二、三生、鹿兒島縣士族八木原緒之に姪ヤエ(同三一、三生、兄男榮一長男)同節子(同九、四生、同長女)あり三女喜代(明二九、五生)は東京府人高成田忠右衛門に四女みつ(同三二、一生)は靜岡縣人池田與三郎二男三郎に妹しま(同五、一一生)は東京府人青木儀三郎に嫁せりA八五六B二五六(東京市日本橋區横山町一ノ一一電浪花一一五三)

岩永小次郎

東邦電力㈱久留米支店長
長崎縣在籍

妻　コト　明二五、三生、熊本、西橋龜松長女
男　訓光　明四五、五生、合同電氣會社員、慶應義塾大學出身
　　敏子　大四、五生、女子大學在學

君は長崎縣人岩永傳の長男にして明治二十一年二月を以て生れ昭和元年家督を相續す明治四十年長崎縣立島原中學校を卒業し後大阪電燈會社に入社し京都電氣佐世保電氣九州電燈各會社勤務を經て東邦電力會社に轉じ現に同社久留米支店長たり家族は尙二男安人(大一四、五生)三男圭正(昭六、一生)の外一女あり(久留米市日吉町電七七七)

岩永祝三

住友銀行㈱博多支店長
長崎縣士族

妻　かつ　明四六、一〇生、東京、中島作藏三女
男　俊彦　明四二、三生、工學士
女　光枝　明四四、二生、尙絅高女出身
男　英俊　大三、一一生、福岡縣立高女出身
　　薰　大元、八生、福岡縣立農學校出身

君は長崎縣士族岩永前親の四男にして明治十六年四月を以て生る同四十年早稻田大學商科を卒業し住友銀行に入り若松支店支配人熊本支店長等を經て現時博多支店長たり家族は尙三男信英(大六、四生)三女澤惠子(同九、六生)亡兄前正妻シマ(明二、一二生、長崎、峰幾太郎妹)同長男却一(同一八、二生、現戶主)の外其妻子弟妹及び兄精一郎(同二、七生)同妻ヨウ(同一〇、五生、長崎、士、大串精遠長女)及其子女あり兄三四郎(同五、一一生)は長崎縣士族中濱正八の養子となり姉タキは長崎縣士族奈良正英に嫁ヒカ(同九、六生)は同縣士族岩永前親の次男榮一(明三一、一生、東京、松原忠兵衛長女)同節子(同九、四生、同長女)あり三女喜代(明二九、五生)は東京府人高成田忠右衛門に四女みつ(同三二、一生)は靜岡縣人池田與三郎二男三郎に妹しま(同五、一一生)は東京府人青木儀三郎に嫁せりA八五六B二五六(東京市日本橋區横山町一ノ一一電浪花一一五三)

岩出惣兵衛

岩出商店、海陸物產肥料商
東京府在籍

男　健一　明三七、一一生

當家は代々岩出屋と稱し海陸物產肥料商を營み九代の祖惣兵衛に至り大に家產を振興し先代惣兵衛に至る先惣兵衛祖業を繼承し傍ら東京商業會議所副會頭第二十銀行取締役等一生奇保險相互會社取締役等に擧げらる君は埼玉縣人山崎甚の二男同嘉七の弟にして明治五年九月十五日を以て生れ同二十七年先代惣兵衛の養子となり同四十二年家督を相續し前名由次郎を改め襲名し十一代目の當主たり一意祖業たる海陸物產肥料商を經營し今日に及ぶ趣味として謠曲あり長女啓(明二九、六生)御茶の水高女出身)は神奈川縣人岩出增太郎に四女隆(同三三、一一生、出身校同上)は宮城縣人熱海彥弟龜藤郎に五女英(同三六、三生、雙葉高女出身)は東京府人佐々木興一弟勝四郎に六女絹(同四二、七生、九段精華高女出身)は同府人菅田繁四男元朝に嫁し養弟俊三(明八、七生)は分家し二女雅(同三〇、八生、御茶の水高女出身)は養祖父の實家山田家を再興し東京府人菅田正次を迎へりA一五〇〇〇B二五六(東京市澁谷區青葉町一四電青山五九四三「營業所」深川區佐賀町二ノ四ノ一電本所二三〇六九二)

參照＝熱海彥、岩出健一、岩出俊三、佐々木興一、增田增太郎、山崎嘉七の項

岩出常三郎

文部省專門部卸商
東京府在籍

妻　はる　天保元、一一生、東京、松原忠兵衛長女
　　みき　明五、一二生、東京商大出身
男　榮一　明四一、二生、東京商大出身
　　靜子　明四三、九生、長男榮一妻、東京櫻井大二郎二女
婿
男　豊造　明四二、一一生、慶大經濟學部在學

君は東京府人先代常三郎の長男にして慶應三年六月二十四日を以て生れ後家督を相續し前名權次郎を改め襲名す文部省卸商を營む家族は尙孫輝一(昭七、四生、長男)同節子(同九、四生、同長女)あり三女喜代(明二九、五生)は東京府人高成田忠右衛門に四女みつ(同三二、一生)は靜岡縣人池田與三郎二男三郎に妹しま(同五、一一生)は東京府人青木儀三郎に嫁せりA八五六B二五六(東京市日本橋區横山町一ノ一一電浪花一一五三)

岩永裕吉

新聞聯合社專務理事
東京府士族

妻　鈴　明二一、一生、鹿兒島、士、田中良妹、女子學習院出身
男　信吉　大五、七生
女　華子　大七、二生
女　照子

君は故長與專齋の四男男爵長與立吉の叔父同又郎の弟にして明治十六年九月十三日を以て生れ先代省一の養子となり大正二年家督を相續す先代省一は夙に實業界に入り日本郵船會社專務取締役となる君は明治四十二年京都帝國大學法學部英法科を卒業し滿鐵及鐵道省に奉職し後國際通信社に入り其專務取締役となる大正十五年日本新聞聯合社の創立と共に其專務理事に擧げられ現時新聞聯合社專務理事たり家族は尙四女友子(大九、九生)あり長女愛子(同三、一生)は南滿洲鐵道會社員秋吉勝廣に嫁せりA四〇二八(東京市品川區上大崎四ノ二三二電高輪一七二一)

參照＝男爵長與立吉、田中良、長與又郎※犬養健※齋藤博※平山次郎※松方巖の項

岩永裕吉

新聞聯合社專務理事
東京府士族

妻　鈴　明二一、一生、鹿兒島、士、田中良妹、女子學習院出身
男　信吉　明四四、七生
女　華子
女　照子

君は故長與專齋の四男男爵長與立吉の叔父同又郎の弟にして明治十六年九月十三日を以て生れ先代省一の養子となり大正二年家督を相續す先代省一は夙に實業界に入り日本郵船會社專務取締役となる君は明治四十二年京都帝國大學法學部英法科を卒業し滿鐵及鐵道省に奉職し後國際通信社に入り其專務取締役となる大正十五年日本新聞聯合社の創立と共に其專務理事に擧げられ現時新聞聯合社專務理事たり家族は尙四女友子(大九、九生)あり長女愛子(同三、一生)は南滿洲鐵道會社員秋吉勝廣に嫁せりA四〇二八(東京市品川區上大崎四ノ二三二電高輪一七二一)

參照＝男爵長與立吉、田中良、長與又郎※犬養健※齋藤博※平山次郎※松方巖の項

岩波喜代登

正六位、栃木縣女子師範學校長兼栃木縣立宇都宮第二高等女學校長
長野縣在籍

妻　ヨシ　明一六、七生、北海道、赤石三次郎二女

君は長野縣人にして明治二十五年八月を以て生る大正五年東京高等師範學校數物化學科を卒業し熊本縣第二師範學校長野縣松本中學校京都府桃山高等女學校京都府女子師範學校各教諭を經て大正十五年京都府視學となり昭和三年京都府初代視學官に任ぜらる同七年三月現職に轉じ今日に至る著書に「私どもの數學」「メートル法講話」あり家族は尙妻ゆり長男正昭長女一子二女ノリ子二男泰喜あり(宇都宮市戶祭町栃木縣女子師範學校內)

岩波茂雄

岩波書店、出版業
東京府在籍

妻　ヨシ　明一一、二生、
　　明三三、七生、明大商學部出身
男　德三　明四二、九生、長男憲三妻、東京三枝代三郎八女、東京女學館出身
婿
男　重郎　明四一、一二生、明大商學部出身
男　康治　明四三、一〇生、明大商學部出身
男　勇夫　明四五、五生、東大經濟學部在學

岩出家は古くより江戶に住し岩出屋と號して代々海產物肥料商を營める舊家なり君は埼玉縣下の豪農久米家の出なり當主嘉祿叔父渡邊六藏の弟須藤恭平の兄に當り明治八年七月二十四日を以て生れ同三十二年先代岩出惣兵衛の養子となり同年別れて一家を創立す夙に神田共立學校を經て高等中學校に學び業半にして實業界に入る現に日本橋區小網町一丁目に營業所を有し諸油問屋業を營み市內一流の店舗にして現時久米同族會社取締役たり家族は尙ほ六男豊彥(大五、二生)七男貞夫(同八、三生)あり二女貞(明三八、五生、御茶の水高女出身)は東京府人武智直道長男法學士勝に三女君(同四〇、二生、出身校同上)は神奈川縣人箕田長三郎長男長敏に嫁せり(東京市神田區駿河臺一ノ七ノ一電神田一八〇八)

參照＝岩出惣兵衛、久米嘉祿、須藤恭平、三枝代三郎、武智直道、箕田長三郎、渡邊六藏※淺田甚右衛門※熱海彥※三枝彥雄※增田增太郎※

岩出惣兵衛

第一銀行員
東京府在籍

妻　ヨシ　明五、九生、現戶主
　　スミコ　明四二、六生、廣島、三谷一二長女
父　惣兵衛

君は埼玉縣人岩出惣兵衛の長男にして明治三十七年十一月八日を以て生る昭和四年慶應義塾大學經濟學部を卒業し現時第一銀行員たりA一四三九(東京市澁谷區青葉町一四電青山五九四三)

參照＝岩出惣兵衛、三谷一二の項

岩出惣三

久米同族㈱取締役、醬油問屋業
東京府在籍

妻　鐸　明一二、一生、養父惣兵衛二女
　　御茶の水高女出身
男　德三　明四二、九生、長男德三妻、東京三枝代三郎八女、東京女學館出身
婿
男　絹子
男　重郎　明四一、一二生、明大商學部出身
男　康治　明四三、一〇生、明大商學部出身
男　勇夫　明四五、五生、東大經濟學部在學

岩出家は古くより江戶に住し岩出屋と號して代々海產物肥料商を營める舊家なり君は埼玉縣下の豪農久米家の出なり當主嘉祿叔父渡邊六藏の弟須藤恭平の兄に當り明治八年七月二十四日を以て生れ同三十二年先代岩出惣兵衛の養子となり同年別れて一家を創立す夙に神田共立學校を經て高等中學校に學び業半にして實業界に入る現に日本橋區小網町一丁目に營業所を有し諸油問屋業を營み市內一流の店舗にして現時久米同族會社取締役たり家族は尙ほ六男豊彥(大五、二生)七男貞夫(同八、三生)あり二女貞(明三八、五生、御茶の水高女出身)は東京府人武智直道長男法學士勝に三女君(同四〇、二生、出身校同上)は神奈川縣人箕田長三郎長男長敏に嫁せり(東京市神田區駿河臺一ノ七ノ一電神田一八〇八)

參照＝岩出惣兵衛、久米嘉祿、須藤恭平、三枝代三郎、武智直道、箕田長三郎、渡邊六藏※淺田甚右衛門※熱海彥※三枝彥雄※增田增太郎※

男　雄一郎　大五、一〇生
女　美登利　大三、四生

君は東京府人岩波義質の長男にして明治十四年八月二十七日を以て生れ同二十九年家督を相續す東京帝國大學文科大學選科出身にして書籍出版業を營み岩波書店の名を以て知らる家族は尙二男雄二郎(大八、六生)四女未(同一〇、一〇生)あり長女百合(明四一、八生)は長野縣人小平忠佐二男吉男に二女小百合(同四四、八生)は東京府人小林勇に嫁せりA二二二五B六四六(東京市神田區一ツ橋通三電九段一八七)

岩波武信

妻　京　明二三、二生、山口、士、樺太幹雄妹
男　輝俊　大一一、一生

君は長野縣人岩波武左衛門の二男にして明治十五年六月十九日を以て生れ大正十二年兄泰雄方より分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學法科大科獨法科を卒業し夙に宮內省に入り帝室林野管理局事務官帝室會計審査官を經て大正十二年宮內事務官に任ぜられ同十三年宮內書記官を昭和五年には式部官を執も兼任し宗秩寮庶務課長兼宗親課長たりしが昭和八年宮內書記官兼務を免じ大臣官房大膳課長兼宗秩寮宗親課長を命ぜられ今日に至る家族は尙長女靜子(大九、九生)ありA一二八(東京市四谷區本村町三三ノ二九號電四谷一五五七)

岩波伯太

極東商事㈱專務取締役
長野縣在籍
妻　文子　明二四、七生、長野、武居逸二郎長女
男　尙義　大七、一二生
女　ふき子　明四五、三生

君は長野縣人先代虎作の長男にして明治十七年二月二日を以て生れ大正七年家督を相續す現に前記會社の重役たり家族は尙二女智子(大一〇、八生)三男尙久(同(一二、一二生)あり弟富一郎(明二七、二生)同妻美代(同三四、七生、長野、市川多萬吉長女)は其四子を弟寛(同二九、八生)同妻光子(同三四、三生、長野、武居文妹)は其三子を伴ひ各分家し妹らく子(同二四、八生)は長野縣人片倉銀太郎に同むつ子(同三二、七生)は長野縣人高松正信に嫁せりA九五六(東京市淀橋區柏木二ノ四七一電四谷一三五六)

參照‖片倉銀太郎の項

岩波六郎

極東鍊乳㈱取締役兼技師長、東京外國語學校講師、兵庫縣士族
妻　しつ　明一八、七生、養父當景長女、北海道高女出身
男　常道　明四二、二生、慶大經濟學部在學
男　常男　大三、一〇生、第二高校在學

岩波家は舊但馬國出石藩主仙石家の家臣なり君は北海道人佐藤元永の二男にして明治八年十月を以て生れ先代常景の養子となり大正三年家督を相續す明治三十四年東京帝國大學農科大學畜産學科を卒業し農商務省技師たりしが大正七年極東煉乳會社取締役技師長に就任現在に及ぶ傍ら東京外國語學校講師たり盆栽園藝に趣味を有す長女英(明三八、二生)は京都府人久保立次に二女治子(同四四、一生)は山脇圭吉長男工學士眞橋に嫁せりA五四一(東京市淀橋區戸塚町三ノ一六七電牛込三〇六)

參照‖山脇圭吉の項

岩浪邦男

正五位勳五等、商工技師、工務局勤務、千葉縣在籍
妻　きよ　明一一、五生、千葉、小原謹一郎女
男　淳一郎　明二八、八生、養父祐治長女
　　大七、二生

君は千葉縣人鎌田助次の三男にして明治二十二年九月を以て生れ大正六年岩浪祐治の養子となる同七年京都帝國大學工科大學機械工學科を卒業す國勢院技師農商務技師を經て同十四年商工技師に任じ現時工務局內中央度量衡檢定所に勤務す家族は尙二男溥(大一〇、一生)四男敏夫(同一三、一二生)あり(東京市淀橋區西大久保三ノ九一)

岩西利恒

醫學博士、岩西眼科醫院、醫師
大阪府在籍
妻　澄子　明二八、五生、京都、吉井素雄妹
男　利治　大六、七生

岩西家は古くより奈良縣初瀨町に住し代々漢法醫を業とし解毒丸の本舗として知られたりしが先代利平に至り大阪に移住す君は其長男にして明治十八年九月四日を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十二年大阪高等醫學校眼科を卒業し約一ケ年間故水尾博士の助手として母校に研究を續け同四十三年釜山公立病院に眼科部長として赴任す在職三年にして是を辭し歸阪後大正二年獨立開業して岩西眼科醫院と稱す爾來業況順調に今日の發展を見るに至る養に醫學博士の學位を受く寫眞撮影に趣味を有す家族は尙長女初子(大九、一一生)二男利倫(同一五、一一生)二女季子(明四、八生)あり姉たま(明一〇、八生)は大阪府人北井龜太郎に同興志枝(同一二、四生)は同府人板倉捨良に妹マサエ(同二二、一生)は神奈川縣人片山海治郎弟菊治郎に同治(同二五、一生)は大阪府人藤井源十に同桐枝(同二八、七生)は同府人松永德藏弟良之助に嫁せり(大阪市西區南堀江町一ノ一九電櫻川二八八〇)

岩根岩太郎

湖北銀行㈱取締役、丸二人造テグス㈱監査役、滋賀縣在籍
妻　ひさ　明二八、九生、滋賀、藤田甚左衛門長女
男　常男　大三、一〇生、第二高校在學

君は滋賀縣人岩根半次郎の長男にして明治二十年八月を以て生れ大正十年家督を相續す現時湖北銀行取締役及び丸二人造テグス會社監査役たり家族は尙弟幸三郎(明二七、九生)同妻てる(同四二、七生、滋賀、醫學士)同妻い忠三郎長女)及弟恒吉(同三五、四生、滋賀、木村つ子(同四四、一生、三重、士、渡邊悅次郎長女)ありA三三七〇(滋賀縣伊香郡木之本町三二七電四五)

岩根友愛

從四位勳四等、陸軍歩兵少尉、前大阪高等工業學校教授
京都府在籍
妻　マキ　明二〇、一生、京都、古川三郎姉
男　精一　明四一、二生
女　千代子　大五、一一生

君は長野縣士族岩根友治の二男にして明治七年十二月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同二十八年東京高等工業學校機械科を卒業し大阪工業學校助教授となり機械工學研究の爲英獨に留學同三十八年グラスゴー大學機械科を卒業す歸に大阪高等工業學校教授に任ぜられ又大阪帝國大學工學部講師を囑託せらる家族は尙四男逵雄(大八、一〇生)ありA三九一(京都市左京區岡崎東天王町八四電上一六〇六)

參照‖古川三郎※竹上藤治郎※古川源三郎の項

岩野稔

從五位勳六等、判事、名古屋區裁判所判事、長崎縣在籍
妻　ツル　明二七、一生
男　正　大一〇、八生

君は長崎縣人にして明治二十五年四月十一日を以て生れ大正十五年家督を相續す同五年京都帝國大學法科大學法律學科を卒業し後辯護士となり米國コロムビア大學に學び同九年其業を卒へて歸朝す同十年判事に任じ爾來熊本地方横濱地方札幌地方各裁判所判事釧路地方裁判所判事同都長等を經て現時名古屋區裁判所判事たり家族は尙二男直(大一三、一生)三男尙(昭二、九生)あり長女文子(大七、八生)は金崎家の養子となれり(名古屋市東區新出來町一ノ三一電東六〇六五)

岩橋清助

桐材商板問屋業
大阪府在籍
妻　イソエ　明二八、一二生、大阪、橋本綾清孫
男　清太郎　大五、一一生

君は大阪府人先代清助の長男にして明治十七年九月二十一日を以て生れ大正四年家督を相續し同五年前名種次郎を改め襲名す桐材商板問屋業を營む家族は尙二男清雄(大八、六生)三男清文(同一一、一生)五男恒一郎(同一五、二生)三女千代(昭四、一一生)六男寅雄(同七、二生)ありA五〇三(大阪市南區横堀町七ノ一五電船場一三四六)

岩橋大六

養蚕家
京都府在籍
妻　フミ　明四〇、八生、東京、安井氏女
　　榮子　大一二、一生

君は和歌山縣人岩橋三造の長男にして明治七年六月を以て生れ同二十三年分れて一家を創立す同二十九年東京高等商業學校を卒業し住友銀行本店に入社中之島支店長たりしが後之を辭し鐘ケ淵紡績會社京都取引係主任となり昭和二年歐洲に派遣せらる同四年退社し現時閑地に在り養に鐘見同族會社取締役たりし事あり(東京市渋谷區南平臺町四六電青山五〇七二)

岩橋留楠

紀陽染工㈱取締役
和歌山縣在籍
妻　まさ　明九、七生、和歌山、小松原治三郎二女
男　益太郎　明三〇、一二生
　　梅　明四〇、長男益太郎妻、京都、望月慶三姪
婦　秀吉　明三六、一生
男　清次郎　明四三、七生
男　政夫　大二、九生
女　キミ子　明四〇、二生
女　潤子　大八、七生

君は和歌山縣人岩橋吉太夫の三男にして同喜十郎の兄なり明治六年七月を以て生れ同三十五年兄庄助方より分れて一家を創立す現時紀陽染工會社の取締役にして養に湯淺炭礦會社の重役を兼ぬ家族は尙六男弘(大五、一二生)五女愛(同一四、一〇生)孫貴(昭二、八生、長男益太郎長男)同美知代(同四、八生、同長女)あり長女千代乃(明三二、四生)は分家し二女しん(同三四、一生)は宮崎縣人川野傳吉弟武雄に嫁せり(和歌山市三番町五)

參照‖望月慶三の項

岩原識三

南國產業㈱取締役會長、日本無線電信、足利紡績各㈱社長、小野田セメント製造、鶴見臨港鐵道、芝浦製作所、東京電氣、東京瓦斯、國際電話、千代田信託、京濱運河、臺灣製糖各㈱取締役、大社宮島線道㈱監査役、三越㈱相談役、日本放送協會會長、日本工業倶樂部理事
石川縣士族

君は石川縣士族岩原孝興の長男にして文久三年十月を以て生れ明治二十六年家督を相續す現に南國產業會社取締役會長たる外前記諸會社の重役にして日本放送協會々長日本工業倶樂部理事の職に在り養に三井物產會社常務取締役王子製紙會社取締役たりし事あり妹あい(明五、五生)は工學博士松本均兄故宮中顧問官松本源太郎に嫁せりA七六五六(東京市芝區葺手町二三電芝一三一五)

參照‖松本均の項

岩原鹿太郎

四國水電㈱取締役、高知瓦斯㈱支配人、高知縣在籍
妻　壽賀　明一五、一一生、高知、永野文開長女
男　享　明三四、二生、大阪高等工業學校出身
男　朗　明三九、九生、長男享妻、高知、杉本孝次郎二女、高知縣第一高女出身
婦
男　光榮　明三九、一生、同志社高等商業部出身
男　文男　明四一、五生

君は高知縣人岩原鐵馬の長男にして明治九年二月を以て生れ大正六年家督を相續す養に土佐製氷會社支配人たりしも現時四國水電會社取締役高知瓦斯會社支配人たり家族は尙孫美代(昭二、四生、長男享長女)あり二男盛(明三六、九生)は分家し弟盛惠(同一八、一生)同妻千代(同二八、二生、高知、西尾保長女)も亦其一男と共に分家せり(高知市新町五)

岩原拓

正五位勳五等、醫學博士、文部省學校衛生官、大臣官房體育課長、體育研究所長、東京府士族
母　のぶ　明二八、五生、福岡、阿曾山幸吉二女
妻　スミ　明二八、五生、福岡、米林儀作妹
女　崇子　大八、一一生

君は東京府士族岩原恒三の長男にして明治二十一年三月を以て生れ同四十三年家督を相續す大正三年九州帝國大學醫科大學を卒業し母校の助手となり神奈川縣技師文部省學校衛生官學校衛生調査會幹事體育運動審議會幹事等に歷任し昭和三年獨米に留學す歸朝後文部省

學校衛生官衆體育研究所技師に任じ現時前記の職にあり農に醫學博士の學位を授けらる家族は尙二女文子（大一〇、一二生）あり妹磯（明二二、一二生）は新潟縣人池田政夫に同易（同二八、一〇生）は山口縣人安間定次に同滿（同三一、四生）は廣島縣人菅喬一弟貫三に同廣（同三七、一〇生）は愛媛縣士族內藤健行弟和行に嫁し弟午雄（同二四、二生）は分家せりA三五九（東京市四谷區新堀江町三電四谷四四二六）

岩淵彰郎

妻　キミ
男　康郎
女　靜子

正五位勳五等、檢事、東京控訴院檢事、栃木縣在籍明二九、八生、栃木、鈴木長壽妹宇都宮高女及山脇高女家政科出身大一五、一生、山脇高女同家政科各出身

君は栃木縣人岩淵太郎平の三男にして明治十七年二月を以て生る同四十四年東京帝國大學法科大學を卒業し大正二年檢事に任じ樹來名古屋地方同區金澤區同地方東京區同地方各裁判所檢事富山地方裁判所檢事金澤地方裁判所檢事等に歷補し昭和四年新潟地方裁判所檢事兼同區裁判所檢事となり轉じて現時前記の職に在り家族は尙三女澄子（大一二、二生）二男芳天（昭四、五生）の外兄二次郎（明五、一生、現戸主）同妻クニノ（同九一二生、栃木、湯澤率次長女）及其子女あり二女彰子（大九、四生）は栃木縣人鈴木長壽の養子となれり（東京市淀橋區西大久保二ノ二六五）

岩淵勉

妻　リウ
男　彥一郎
女　ひな

津輕鐵道株式會社常務取締役
青森縣士族
明二二、一二生、青森、士、丸瀧雄一郎叔母
大四、一生
高等科出身

君は青森縣士族岩淵惟一の二男にして明治二十一年二月を以て生れ同四十三年家督を相續す現時津輕鐵道會社常務取締役たり義に陸奥鐵道會社常務取締役及び弘前電燈會社取締役たりし事あり家族は尙弟磯一（明二六、一生）同妻ヨシコ（同三一、一二生、山口、吉田一作妹）及其子女あり兄欽二（同一六、三生）は其妻うめ（同一八、二生、神奈川、德永與兵衛庶子）を伴ひ分家し長女規（同四五、三生）は青森縣人玉田忠太郎に嫁せり（弘前市若黨町）

參照＝丸瀨雄一郎の項

岩淵平介

妻　ツネ子
男　醇一
男　正元

從四位勳四等、東京高等蠶絲學校教授、岩手縣在籍
明二二、三生、岩手、添田壽治長女
明四二、三生
大元、八生

君は岩手縣人岩淵駿藏の長男にして明治十二年一月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十三年東京蠶業講習所本科を卒業し同三十五年東京高等蠶絲學校教授に任じ今日に至る姉ミキ（明三、一〇生）同夫喜平（元治元、九生、岩手、皆川兵太郎三男）は其子女を伴ひ分家し妹ミサホ（明一六、一〇生）は岩手縣人瀧澤清助三男清四郎に嫁せりA一〇五（東京市瀧野川區西ヶ原町一一七四東京蠶絲學校官舍）

岩邊季貴

妻　フサ
婦　千代
男　恒夫

從四位勳二等功四級、海軍中將
熊本縣在籍
慶應元、三生、熊本、士、岩本重郎二女
明三、一〇生、熊本、士、春木マサ長女
明四一、六生、亡長男國夫妻、愛知、大森仙太郎二女
明四二、八生、日本製鋼所員、慶大出身

君は熊本縣人岩邊積章の二男にして明治五年二月を以て生れ先代知言の養子となり同四十三年家督を相續す夙に海軍機關學校を卒業し海軍機關少尉に任じ海軍中將に累進す其間長く海軍機關長横須賀鎮守府機關長に歷補し大正十三年各艦隊機關長横須賀鎮守府機關長に歷補し大正十三年穆備役仰付けらる長女敏子（明三六、一〇生）は横須賀市公卿町人文學士清水義雄に二男正夫（同四〇、一〇生）は岐阜縣士族春木マサの養子となれり（横須賀市公卿町二八一八電一七二四）

岩間勘助

父　桂次郎

名古屋米穀取引所取引員
愛知縣在籍
安政三、一一生、現戸主

妻　よしと
男　藤一
姉　明二三、一生、愛知、石原ひさ子
明四二、四生

君は愛知縣人岩間桂次郎の長男にして明治十六年一月を以て生る現時名古屋米穀取引所取引員たりA二三四B一二二（名古屋市中區米濱町三電南三七二一）

岩間是雄

母　えん
妻　ちよ
男　裕夫
女　まち
女　千枝

盛業銀行株式會社頭取、甲府電力、大森銀行、富倉釀造、帝國電氣各株式會社取締役、山梨縣在籍
嘉永四、一二生、山梨、河內四郎伯母
明一九、一一生、山梨、新津隆一義妹
大一〇、七生
大元、一二生
大七、九生

君は山梨縣人岩間審是の長男にして明治十二年八月を以て生れ同三十五年家督を相續す同年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し直ちに甲府電力株式會社主任社技術者として就任勤續し昭和七年退職と同時に同取締役に擧げらる外に盛業銀行頭取大森銀行富倉釀造帝國電氣會社等の重役たり妹孝（明一五、五生）は同縣人大森慶次郎に嫁せりA一〇四九（山梨縣東八代郡英村電石和七六）

岩間秀

父　元二郎
母　茂登
妻　ハル
男　英太郎

臺灣銀行株式會社東京支店副支配人
東京府士族
安政六、五生、現戸主
安政六、三生、東京、奈良橋良休二女
明三〇、二生、愛媛、矢野義二郎妹
大一〇、四生

君は東京府士族岩間元二郎の長男にして明治二十一年九月十八日を以て生る大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し直に臺灣銀行に入り現時同行東京支店副支配人たり家族は尙二女比佐子（大一四、一生）二男啓次郎（昭四、二生）弟廉夫（大一一、二生）養妹伸子（同三、一生、東京、國本雪女）あり弟秀二（明二四、一生）養姉喜知（同一五、六生、東京、渡勝次郎長女）は各分家し妹多榮子（同二八、八生）は埼玉縣人宮城保之助二男實に嫁し弟誠（同三〇、八生）は東京府人新井イマの養子となり同俊夫（同三二、一二生）は絕家奈良橋氏を再興せりA一三一（東京市豐島區駒込三ノ三九〇）

岩間昌生

父　榮次郎
妻　まさ
男　太郎
女　ひな

大隈鐵工所株式會社監査役、名古屋市民信用組合專務理事、愛知縣士族
嘉永五、三生
明九、一〇生、岐阜、土本高吉長女、東京女高師出身
明三六、七生、農學士
明四四、三生、愛知縣立第一高女高等科出身

君は愛知縣士族岩間榮次郎の長男にして明治九年十月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十一年東京高等商業學校を卒業し名古屋市立商業學校教諭となり轉じて愛知銀行に入り岡崎支店長營業部次長調査部長總務部長たりしも之を辭し現時大隈鐵工所監査役にして名古屋市民信用組合專務理事たり二男武雄（明三七、九生、廣島文理科大學講師、文學士）は父の生家山中家の後を襲ひ弟三郎（同二七、四生）は分家せりA三〇三（名古屋市西區比米町二電西一四五五）

岩間六郎

從七位勳六等、陸軍騎兵中尉
東京府在籍
明二九、六生、愛知、澤井鐵次郎長女、名古屋女子商業出身
大一三、九生
明四二、七生、三重、青山新十郎孫

君は愛知縣人岩間四郎兵衛の二男にして明治九年七月を以て生れ大正六年家督を相續す夙に生命保險業に從事し眞宗生命保險會社に勤務し明治三十五年農商務省保險課に勤め外國保險會社の供託金實施を立案し翌年千代田生命保險相互會社の創業事務に從ひ同三十九年帝國生命保險會社に入り獨收課長となり翌年故島津忠亮に迎へられて國光生命保險相互會社取締役兼支配人に就任し次で專務取締役に擧げられ同社創業より經營の一切を擔當し大いに其名を揚げたるも後之を辭し現時閑地に在り「保險漫錄」「國民經書」「通俗生命保險數理」「女子保險の研究」「昔がたり」等の著あり義に日露戰役に際し陸軍騎兵將校として從軍勳六等に敍せらる

岩松玄十

妻　ツナ
男　愼太郎
女　二、六生

從四位勳三等、司法省行刑局長
東京府在籍
明二二、六生、佐賀、伊丹誠一三女

君は佐賀縣人岩松繁義の六男にして明治十四年二月を以て生れ同四十四年兄繁篤方より分れて一家を創立し同四十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し司法官試補となり同四十三年判事に任じ同年檢事に轉じ東京長野千葉各區同地方裁判所檢事に補し臺灣總督府法院檢察官横濱地方裁判所檢事正に補し臺灣總督府法院檢事正東京控訴院檢事を經て同九年七月司法省行刑局長に任ぜらる大正十五年歐米各國へ出張す家族は尙二男悌二郎（大五、五生）ありA一二七（東京市淀橋區十二社二六一電四谷六五〇五）

參照＝※稻川興一の項

岩松經麿

妻　さは
男　榮

正五位勳四等、海軍機關少佐
高等海員審判官兼運信技師
管船局勤務、東京府在籍
明一八、七生、東京、太田澄發子
大一三、九生
明四二、七生、三重、青山新十郎孫

君は東京府人岩松六郎の三男にして明治十五年四月九日を以て生れ大正三年兄榮經方より分れて一家を創立し同年海軍機關學校機關科を卒業し日本郵船會社を經て同四年商船學校機關科を卒業し日本郵船會社に入り同四十七年機關長免狀を受領し川丸東興丸各機關長となる大正八年遞信局技師兼海員審判所審判官兼遞信技師に任ぜらる同年海員審判所審判官兼遞信技師に任じ翌年官に任じ翌年で高等海員審判所審判官兼遞信技師に任ぜられ管船局に勤務し現在に至る（東京市世田谷區羽根木町一六六一電松濤七二一）

參照＝※寺井弘の項

岩松義雄

妻　榮

正五位勳三等、陸軍少將、歩兵第二十一旅團長、愛知縣士族
愛知、士、小田秀滿長女、名古屋市立高女出身

女　義子
女　喜久榮

東京女高師在學
府立第五高女在學

君は愛知縣人にして明治十九年五月三日を以て生る同三十八年陸軍士官學校を卒業し陸軍歩兵少尉に任じ昭和九年陸軍少將に累進す其間參謀本部々員臺灣歩兵第二聯隊長第五師團參謀長參謀本部課長に歷補し昭和九年三月歩兵第二十一旅團長に補せられ現在に及ぶ（山口市八幡馬場電二六九）

岩見富藏

妻　輝子
女　桂

金融業
東京府在籍
明三八、三生、東京、小原藤七二女
昭五、七生

君は東京府人中澤忠藏の三男にして明治二十一年三月を以て生れ明治三十六年先代兄良之助の死後遺産相續人となり家督を繼ぐ資產家として名あり金融業を營む家族は尙二女崇（昭八、二生）ありA五四〇B二五六（東京市東京橋區銀座六ノ五ノ一）

岩滿重

繼母　トメ
妻　チエ
姉　榮妹

從四位勳六等、臺灣總督府囑託、大連市滿鐵總督府物產紹介所長
鹿兒島縣士族
明七、一二生、鹿兒島、河俣祐之助姉
明二九、三生、鹿兒島、北郷七次

君は鹿兒島縣士族岩滿藤太の長男にして明治二十二年十二月を以て生れ大正十年家督を相續す同四年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文官高等試驗に合格同五年臺灣總督府屬となり爾來臺北廳阿緱廳各事務官を經て殖産局事官に任じ新竹州內務部地方課長兼殖産局殖務課長となり次で臺南州內務部地方課長に轉じ中央研究所事務官總督府事務官に歷任し臺中州內務部長を經て昭和五年內務局勤務となり同年歐米各國に出張を命ぜられ同六年歸朝と同時に臺北州內務部長に任じ同七年四月退官す同九年臺灣總督府囑託となり大連市臺灣總督府物產紹介所長を命ぜらる家族は尙妹タヲ（明四三、九生）同トヨ（大二、一生）弟達巳（同六、七生）あり（大連市浪速町臺灣總督府物產紹介所內、留守宅、東京市目黑區柿ノ木坂町四五八）

岩村榮次郎

妻　富美
養子　豐
女　艷子

明三一、九生、長女艷子夫、東京保利展直叔父
明四三、九生、養子豐妻

君は佐賀縣人岩村理一郎の弟にして明治十七年七月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同三十八年大阪高等工業學校應用化學科を卒業し現時東邦瓦斯證券會社代表取締役にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙養子美知子（大一三、一二生、福岡、白水辰四郎二女）ありA二八六二八（東京市大森區山王一ノ二八五〇）電大森二九四四）

參照＝平賀義美※井原小太郎※大森研造の項

岩村清一

妻　美須代
男　一
女　美代

明三一、一一生、佐賀、高木八尺姨妹
大九、一一生
大六、一一生

君は佐賀縣人舊元老院議官貴族院議員錦鶏間祗候岩村定高の五男にして明治二十二年九月十四日を以て生れ先代母岩村ちよと共に分家し大正四年家督を相續す明治四十二年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍大佐に累進す其の間大正十年海軍大學校を卒業し檢閲逐艦長海軍省副官兼大臣祕書官英國在勤大使館附武官補佐官軍令部參謀第一遣外艦隊司令部附同參謀軍令部出仕兼海軍省出仕矢矧阿武隈各艦長等に歷補し現時海軍省副官たり義に倫敦海軍會議帝國全權委員團員被仰付又日獨戰役上海事變等に從軍す家族は尙二女八重子（大一二、四生）三男江三（昭四、二生）あり二男昭二（同二、四生）は東京府人高木祐吉の養子となれり（東京市麹町區霞ヶ關二ノ一官舍）

參照＝高木八尺、高木祐吉の項

岩村盛逸

安田銀行㊟青森支店長
兵庫縣在籍

岩村俊武

妻　雪子
婦　マルゲリット
婦　雪枝

正四位勳一等功三級、海軍中將
東京府在籍
明一二、一生、伯爵香川櫻男妹
明三二、七生、亡長男英武妻、羅馬尼國人ジャンヴアシレスコ長女
明三九、一生、亡二男和雄妻、神奈川、橋正治二女

君は男爵岩村一木及岩村通世の兄にして慶應二年八月を以て生れ大正二年分れて一家を創立し前名岡次郎を改む明治二十年海軍兵學校を卒業し同二十二年海軍少尉に任じ大正六年海軍中將に累進す其間豫備艦隊參謀吾妻千歳香取各艦長朝鮮總督附武官青島要港部司令官練習艦隊司令官大湊要港部司令官海軍將官會議々員等に歷補し昭和二年後備役被仰付（東京府北多摩郡小金井村小金井二二三二ノ一）

參照＝伯爵香川櫻男、男爵岩村一木、岩村通世※子爵山井兼武※男爵伊賀氏英※男爵岩村博※丘淺次郎※林讓治の項

岩村一木

養母　サト
妻　芳子
男　和俊
養子　猶子

明治二二、九生、大阪、長谷川愈助二女
大四、九生

君は兵庫縣人岩村五郎兵衛の長男にして明治十五年一月を以て生れ大正四年家督を相續す明治四十三年百三十銀行に入り同行八軒屋支店次長となり後安田銀行に轉じ同行人事課次長保管課長山形支店長等を經て現時同行青森支店長たり家族は尙三男三郎（大七、一一生）女惠美子（同一一、一〇生）五男秀也（昭四、二生）あり（青森市安田銀行支店內電三一七）

參照＝※石川秀之助の項

岩村博

妻　ケイ
男　英郎

明二二、九生、大阪、長谷川愈助二女
大四、九生

君は兵庫縣人岩村五郎兵衛の長男にして明治十五年一月を以て生れ大正四年家督を相續す明治四十三年百三十銀行に入り同行八軒屋支店次長となり後安田銀行に轉じ同行人事課次長保管課長山形支店長等を經て現時同行青森支店長たり家族は尙三男三郎（大七、一一生）女惠美子（同一一、一〇生）五男秀也（昭四、二生）あり（青森市安田銀行支店內電三一七）

參照＝※石川秀之助の項

岩村榮次郎

妻　富美
養子　豐
女　艷子

明三一、九生、長女艷子夫、東京保利展直叔父
明四三、九生、養子豐妻

君は佐賀縣人岩村理一郎の弟にして明治十七年七月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同三十八年大阪高等工業學校應用化學科を卒業し現時東邦瓦斯證券會社代表取締役にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙養子美知子（大一三、一二生、福岡、白水辰四郎二女）ありA二八六二八（東京市大森區山王一ノ二八五〇）電大森二九四四）

參照＝平賀義美※井原小太郎※大森研造の項

岩村清一

妻　美須代
男　一
女　美代

明三一、一一生、佐賀、高木八尺姨妹
大九、一一生
大六、一一生

君は佐賀縣人舊元老院議官貴族院議員錦鶏間祗候岩村定高の五男にして明治二十二年九月十四日を以て生れ先代母岩村ちよと共に分家し大正四年家督を相續す明治四十二年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍大佐に累進す其の間大正十年海軍大學校を卒業し檢閲逐艦長海軍省副官兼大臣祕書官英國在勤大使館附武官補佐官軍令部參謀第一遣外艦隊司令部附同參謀軍令部出仕兼海軍省出仕矢矧阿武隈各艦長等に歷補し現時海軍省副官たり義に倫敦海軍會議帝國全權委員團員被仰付又日獨戰役上海事變等に從軍す家族は尙二女八重子（大一二、四生）三男江三（昭四、二生）あり二男昭二（同二、四生）は東京府人高木祐吉の養子となれり（東京市麹町區霞ヶ關二ノ一官舍）

參照＝高木八尺、高木祐吉の項

岩村盛逸

安田銀行㊟青森支店長
兵庫縣在籍

岩村俊武

妻　雪子
婦　マルゲリット
婦　雪枝

正四位勳一等功三級、海軍中將
東京府在籍
明一二、一生、伯爵香川櫻男妹
明三二、七生、亡長男英武妻、羅馬尼國人ジャンヴアシレスコ長女
明三九、一生、亡二男和雄妻、神奈川、橋正治二女

君は男爵岩村一木及岩村通世の兄にして慶應二年八月を以て生れ大正二年分れて一家を創立し前名岡次郎を改む明治二十年海軍兵學校を卒業し同二十二年海軍少尉に任じ大正六年海軍中將に累進す其間豫備艦隊參謀吾妻千歳香取各艦長朝鮮總督附武官青島要港部司令官練習艦隊司令官大湊要港部司令官海軍將官會議々員等に歷補し昭和二年後備役被仰付（東京府北多摩郡小金井村小金井二二三二ノ一）

參照＝伯爵香川櫻男、男爵岩村一木、岩村通世※子爵山井兼武※男爵伊賀氏英※男爵岩村博※丘淺次郎※林讓治の項

岩村一木

養母　サト
妻　芳子
男　和俊
養子　猶子

明一二、一生、東京、三宅猶之丞二女、女子學習院出身
昭三、一一生
大六、三生、兄通世長女

從四位、男爵、貴族院議員、燐酸肥料工業組合常務理事
東京府華族

當家は先々代通俊より家名を揚ぐ通俊は舊高知藩國老伊賀氏の家臣岩村英俊の長男にして維新の際國事に盡瘁し然佐賀鹿兒島各縣令會計檢査院長沖繩縣令恩給局長北海道廳長官元老院議官農商務次官同大臣宮中顧問官貴族院議員御料局長等に歷任明治二十九年華族に列し男爵を授けらる先代八作其後を承ぐ君は通俊の八男にして岩村俊武同通世の弟林讓治の從弟男爵岩村博の再從兄なり明治二十七年十月十九日を以て生れ兄八作の養子となり大正十三年家督を相續し襲爵す同六年東京農業大學を卒業し現時燐酸肥料工業組合常務理事にして貴族院議員たり石狩に農場を經營す家族は尙長女作子（大一〇、九生）二女本子（同一四、八生）二男芳俊（昭六、二生、兄通世二女）あり姉つき（明七、一〇生）は理學博士丘淺次郎に嫁し同キタ（同二一、五生）は男爵伊賀氏英の母たりA三〇〇（東京市杉並區荻窪一ノ一三六電荻窪二一二〇）

參照＝男爵伊賀氏英、男爵岩村博、岩村俊武、岩村通世、丘淺次郎、林讓治の項

岩村博

母　乙猪
妻　慶應二、九生、高知、士、眞田庵二女

當家は先々代高俊より顯る高俊は舊高知藩士岩村英俊の三男にして維新の際國事に奔走し後佐賀愛媛各縣權令愛媛縣令內務大書記官石川愛知縣同廣島各縣知事に歷任し明治二十九年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる先代透は其嫡男にして東京美術學校教授たり君は透の二男にして男爵岩村一木業議院議員林讓治の再從弟なり明治三十九年三月一日を生て以れ大正六年襲爵被仰付農園を經營す家族は尙姉俊（明二八、一一生、東京普樂學校出身）弟龍男（大三、四生）叔父仙彌（明二六、六生、高知縣立中村高女出身）弟龍男（大三、四生）叔父仙彌（明二六、六生、貝島合名會社員、法學士）同妻美須子（同三八、五生、山口、士、池田健熊長女）及其一男一女あり姉桔梗（同三一、一〇生、女子學習院出身）は高知縣人工學士廣島電氣會社技師岡添柳吉に叔母かつ（同一二、四生）は工學博士那波光雄に同テル（同一五、七生）は石川縣士族今村次七に同さが（同二七、八生）は東京府士族工學士白石多士良に同クニ（同二三、七生）は同府人

文學士今井政吉に同ミツ（同二五、二生）は高知縣士族北代眞幸に嫁し叔父圓（同七、四生、工學士）は分家し同金三郎（同一七、四生、醫學博士）は醫學博士平井毓太郎に同金城（工學士）は高知縣士族眞田庵に同健造（同二一、六生、工學士）は福岡縣士族竹腰虎太郎に叔母千代（同二九、九生）は同縣人貝島太助に各養子となれり（高知縣幡多郡宿毛町）

參照＝男爵岩村一木、白石多士良、竹腰健造、那波光雄、林讓治、平井金三郎※岩村俊武※岩村通世の項

岩村通世

妻　八重
男　道正

從四位勳三等、檢事、東京地方裁判所檢事正、東京府在籍
明二六、一〇生、三宅猶之丞長女
大二、一一生

君は故男爵岩村通俊の五男にして岩村俊武の弟男爵岩村一木の兄に當る明治十六年八月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す明治四十三年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し司法官試補を經て檢事に任じ司法省參事官兼書官に歷任し尋で檢事兼司法書記官となり其間東京區檢同地方各裁判所檢事大臣官房祕書課長東京地方裁判所檢事等に歷補し東京控訴院檢事名古屋地方裁判所檢事正を經て現時東京地方裁判所檢事たり義に歐米に出張を命ぜられる家族は尙二男竹俊（大一〇、四生）三男敏通（同一三、一生）四男保通（昭二、七生）あり長女猶子（大六、三生）二女澄子（同八、二生）は弟一木の養子となれり（東京市麹町區西日比谷一官舍電話麹町四二〇六）

參照＝男爵岩村一木、岩村俊武※男爵伊賀氏英※男爵岩村博※丘淺次郎※林讓治の項

岩村流芳

父　大九郎
妻　イト

正五位勳四等、判事、大阪控訴院部長、熊本縣在籍
嘉永四、九生、現戸主
明一八、一生、熊本、野田耕藏妹

君は熊本縣人岩村大九郎の長男にして明治十三年十一月を以て生る同四十一年京都帝國大學法科大學を卒業し同四十三年判事に任じ爾來京都區大阪區同地方堺區各裁判所判事大阪控訴院判事等に歷補し大阪地方裁判所部長を經て現時大阪控訴院部長たり家族は尙弟豐喜（明二二、九生、大阪、長谷川愈助二女）

岩村榮次郎

妻　富美
養子　豐
女　艷子

明三一、九生、長女艷子夫、東京保利展直叔父
明四三、九生、養子豐妻

君は佐賀縣人岩村理一郎の弟にして明治十七年七月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同三十八年大阪高等工業學校應用化學科を卒業し現時東邦瓦斯證券會社代表取締役にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙養子美知子（大一三、一二生、福岡、白水辰四郎二女）ありA二八六二八（東京市大森區山王一ノ二八五〇）電大森二九四四）

參照＝平賀義美※井原小太郎※大森研造の項

岩村清一

妻　美須代
男　一
女　美代

明三一、一一生、佐賀、高木八尺姨妹
大九、一一生
大六、一一生

君は佐賀縣人舊元老院議官貴族院議員錦鶏間祗候岩村定高の五男にして明治二十二年九月十四日を以て生れ先代母岩村ちよと共に分家し大正四年家督を相續す明治四十二年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍大佐に累進す其の間大正十年海軍大學校を卒業し檢閲逐艦長海軍省副官兼大臣祕書官英國在勤大使館附武官補佐官軍令部參謀第一遣外艦隊司令部附同參謀軍令部出仕兼海軍省出仕矢矧阿武隈各艦長等に歷補し現時海軍省副官たり義に倫敦海軍會議帝國全權委員團員被仰付又日獨戰役上海事變等に從軍す家族は尙二女八重子（大一二、四生）三男江三（昭四、二生）あり二男昭二（同二、四生）は東京府人高木祐吉の養子となれり（東京市麹町區霞ヶ關二ノ一官舍）

參照＝高木八尺、高木祐吉の項

岩村盛逸

安田銀行㊟青森支店長
兵庫縣在籍

岩村俊武

妻　雪子
婦　マルゲリット
婦　雪枝

正四位勳一等功三級、海軍中將
東京府在籍
明一二、一生、伯爵香川櫻男妹
明三二、七生、亡長男英武妻、羅馬尼國人ジャンヴアシレスコ長女
明三九、一生、亡二男和雄妻、神奈川、橋正治二女

君は男爵岩村一木及岩村通世の兄にして慶應二年八月を以て生れ大正二年分れて一家を創立し前名岡次郎を改む明治二十年海軍兵學校を卒業し同二十二年海軍少尉に任じ大正六年海軍中將に累進す其間豫備艦隊參謀吾妻千歳香取各艦長朝鮮總督附武官青島要港部司令官練習艦隊司令官大湊要港部司令官海軍將官會議々員等に歷補し昭和二年後備役被仰付（東京府北多摩郡小金井村小金井二二三二ノ一）

參照＝伯爵香川櫻男、男爵岩村一木、岩村通世※子爵山井兼武※男爵伊賀氏英※男爵岩村博※丘淺次郎※林讓治の項

岩村一木

養母　サト
妻　芳子
男　和俊
養子　猶子

明一二、一生、東京、三宅猶之丞二女、女子學習院出身
昭三、一一生
大六、三生、兄通世長女

從四位、男爵、貴族院議員、燐酸肥料工業組合常務理事
東京府華族

當家は先々代通俊より家名を揚ぐ通俊は舊高知藩國老伊賀氏の家臣岩村英俊の長男にして維新の際國事に盡瘁し然佐賀鹿兒島各縣令會計檢査院長沖繩縣令恩給局長北海道廳長官元老院議官農商務次官同大臣宮中顧問官貴族院議員御料局長等に歷任明治二十九年華族に列し男爵を授けらる先代八作其後を承ぐ君は通俊の八男にして岩村俊武同通世の弟林讓治の從弟男爵岩村博の再從兄なり明治二十七年十月十九日を以て生れ兄八作の養子となり大正十三年家督を相續し襲爵す同六年東京農業大學を卒業し現時燐酸肥料工業組合常務理事にして貴族院議員たり石狩に農場を經營す家族は尙長女作子（大一〇、九生）二女本子（同一四、八生）二男芳俊（昭六、二生、兄通世二女）あり姉つき（明七、一〇生）は理學博士丘淺次郎に嫁し同キタ（同二一、五生）は男爵伊賀氏英の母たりA三〇〇（東京市杉並區荻窪一ノ一三六電荻窪二一二〇）

參照＝男爵伊賀氏英、男爵岩村博、岩村俊武、岩村通世、丘淺次郎、林讓治の項

岩村博

母　乙猪
妻　慶應二、九生、高知、士、眞田庵二女

當家は先々代高俊より顯る高俊は舊高知藩士岩村英俊の三男にして維新の際國事に奔走し後佐賀愛媛各縣權令愛媛縣令內務大書記官石川愛知縣同廣島各縣知事に歷任し明治二十九年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる先代透は其嫡男にして東京美術學校教授たり君は透の二男にして男爵岩村一木業議院議員林讓治の再從弟なり明治三十九年三月一日を生て以れ大正六年襲爵被仰付農園を經營す家族は尙姉俊（明二八、一一生、東京普樂學校出身）弟龍男（大三、四生）叔父仙彌（明二六、六生、貝島合名會社員、法學士）同妻美須子（同三八、五生、山口、士、池田健熊長女）及其一男一女あり姉桔梗（同三一、一〇生、女子學習院出身）は高知縣人工學士廣島電氣會社技師岡添柳吉に叔母かつ（同一二、四生）は工學博士那波光雄に同テル（同一五、七生）は石川縣士族今村次七に同さが（同二七、八生）は東京府士族工學士白石多士良に同クニ（同二三、七生）は同府人

岩元善藏

妻　フチ
男　修一
男　修三
女　ヒロ
女　千枝

鹿兒島商工會議所副會頭、山形屋呉服店㊟專務取締役、第百四十七銀行、鹿兒島電氣各㊟取締役、鹿兒島商㊟弘銀行、鹿兒島朝日新聞社各㊟監査役、鹿兒島縣在籍
明一八、六生、鹿兒島、相良安之助妹
明三九、三生、大丸社員、慶大出身
明四一、一生、大分高商出身
明四五、一生、東京女子家政學院出身
大六、四生

君は鹿兒島縣人岩元善兵衛の三男同男次郎の弟にして明治五年六月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す現時前記銀行會社の重役にして鹿兒島商工會議所副會頭たり家族は尙四男信藏（大八、七生）五女美代子（同一二、一生）あり（鹿兒島市清水町三八電一二三五）

參照＝岩元勇次郎※藤武喜助の項

岩元　禎

母　エイ

從四位勳四等、鹿兒島市長
東京府士族
嘉永四、一生、鹿兒島、士、喜入昌之助二女

君は鹿兒島縣士族元基の長男にして明治二年五月を以て生れ同二十八年家督を相續す同二十七年帝國大學文科大學哲學科を卒業し現に第一高等學校講師にして獨逸語學界の一權威たり家族は尙弟禎（明一二、七生）同妻芳（同二七、七生、鹿兒島、佐々木茂平五女）及其子女あり弟祚（同一七、九生）は亡兄淺江祥の死跡を繼げり（東京市澁谷區原宿二ノ一九七）

參照＝岩元禎の項

岩元勇次郎

妻　アイ
男　德藏
婦　サチ
女　ヤス
女　トシ

山形屋呉服店㊟常務取締役、鹿兒島貯蓄銀行㊟監査役
明九、一一生、鹿兒島、岩元貞太郎妹
明三二、七生
明三九、一〇生、長男德藏妻、鹿兒島、橋元友記長女
明四〇、一〇生
明四三、七生

女　ア　キ　大二、一〇生

君は鹿兒島縣人岩元善兵衛の二男にして明治三年五月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す現時山形屋奥服店常務取締役の外商記錄行の重役たり家族は尙孫瑞枝(明三、六生、長男德藏長女)同伝子(同五、四生、同二女)あり長女ツネ(明二八、九生)は鹿兒島縣人岩元榮之助に二女ユキ(同三〇、一一生)は同縣人竹内論輔長男誠治に三女ヒサ(同三七、二生)は同縣人永田利之に嫁し弟善藏(同五、六生)は分家せりA二九〇(鹿兒島市平之町四三電101)

參照‖岩元善藏の項

岩本勝治

大阪海上火災保險會社員
兵庫縣在籍

母　みよ　明三二、二生、兵庫、姫井清次郎二女

妻　さわ　明三七、一二生、大阪、由利岩藏二女

男　敏男　大一五、二生

君は兵庫縣人先代岩本駒吉の長男にして明治三十三年一月二十六日を以て生れ大正六年家督を相續す現時大阪海上火災保險會社員たり家族は尙二男治久(昭三、一生)あり妹サタ(明三七、九生)は兵庫縣人藤村豐太郎に妹とみ子(同三五、九生)は兵庫縣人三浦廣夫に嫁せりA三四六(神戸濱東區橘通九二電元町七九二)

參照‖藤村豐太郎の項

岩本兼吉

岩本樓、旅館兼割烹業
神奈川縣士族

妻　ハナ　明一四、一〇生、神奈川、山本庄太郎二女

男　亮一郎　明三六、一〇生、法學士

婦　ふさ　明四〇、一〇生、長男亮一郎妻、松谷正太郎四女、御茶の水高女出身

男　二郎　明四〇、三生、早大在學

男　亮三郎　明四二、七生

男　四郎　明四三、一一生

男　五郎　大元、一二生、中央大學經濟學部在學

男　六郎　大三、一〇生

岩本家は薩上州館林城主間宮越前守の後裔なり代々江之島に住し岩本院と稱し僧院にして江之島神社の別當を兼ねる幕府より士分としての待遇と一種の特權とを與へられし家柄なり君は神奈川縣人間宮亮登の二男にして明治十四年一月を以て生れ先代タケの養子となり同三十五年家督を相續す幼にして横濱の金屬商に勤務し當家の養子となるに及び旅館兼割烹業を經營し專心業務に盡瘁して今日の產を成し岩本樓と稱し普く世に知らるゝに至る營に縣下の多額納稅者たり事あり家族は尙七男七郎(大六、六生)八男亮八郎(同八、二生)九男亮九郎(同一二、一生)ありA一五四四B四九〇(神奈川縣鎌倉郡江之島營片瀨九)

岩本久兵衛

岩國屋、荒物諸用紙文具商
和歌山縣在籍

妻　ツギ　明一五、一生、和歌山、石橋長七長女

男　貞太郎　明三一、八生

婦　みね　明三五、八生、長男貞太郎妻、和歌山、北野新八二女

男　豊二郎　明三七、五生

君は和歌山縣人先代久兵衛の長男にして明治五年八月を以て生れ同二十九年家督を相續し前名常吉を改め襲名す岩國屋と稱し荒物諸用紙文具商を營む義に日高銀行取締役たり家族は尙孫節代(大一一、一一生、長男貞太郎長女)同喜久一(昭五、二生同長男)同昌子(同一女)あり(和歌山縣日高郡御坊町電四八)

岩本銀次郎

自米商
東京府在籍

妻　ゆき　明二五、一〇生、東京、米倉兼吉長女

男　銀之助　大六、四生

君は東京府人岩本倉藏の二男にして明治二十一年七月三十一日を以て生れ昭和二年前戸主弟賢藏の跡を承け家督を相續す白米商を營む家族は尙長女和氣子(大一〇、三生)二女順子(同一二、五生)二男良次郎(同一四、九生)三男謙三(昭二、一二生)三女愛子(同六、一一生)あり弟武男(明三〇、六生)は同妻朝子(同三五、一一生、大阪、川口熊三郎長女)及其一子を伴ひ分家せりA四五〇B一九九(東京市牛込區市谷谷町二三電四谷三五五一)

岩本啓治

正五位勳五等、横濱高等商業學校教授、三重縣在籍

妻　しな　明二七、一〇生、三重、士、岩脇林之丞二女

男　治郎　大七、九生

女　千鶴　大四、一二生

君は愛知縣士族下方員忠の孫にして明治十九年八月を以て生れ同二十六年先代彌十郎の養子となり家督を相續す同四十四年東京高等商業學校專攻部保險科を卒業し直ちに三重縣立四日市商業學校教諭となり次で山口神戸各高等商業學校教授に歷任し大正十二年歐米に留學す歸朝後横濱高等商業學校教授に任ぜられ現在に至る著書に「中等商業大意」あり家族は尙三男龍平(大八、一一生)三女英(同一一、八生)四女芳(同一五、三生)あり(横濱市磯子區芝生町三ノ二七七)

岩本周平

正四位勳二等、東京帝國大學教授
航空研究所飛行機部主任
東京府在籍

妻　もと　明一二、一一生、東京、士、明石竹作妹

君は東京府人岩本三二の二男にして明治十四年八月二十六日を以て生れ同四十五年兄米太郎の家を創立す同三十七年東京帝國大學理科大學實驗物理學科を卒業し清國湖南省遊學豫備學堂教習となり任期滿了歸朝後同四十二年陸軍技師に任ぜられ航空機の設計製造に從事し其間歐洲に差遣せらるゝ二回大正十四年東京帝國大學教授に任ぜられ又航空研究所飛行機部主任として今日に至るA一一二(東京市淀橋區西大久保一ノ三八七)

岩本俊郷

從五位勳六等、前北海道廳學務部長、兵庫縣士族
現戸主

父　壽雄　安政六、一一生、現戸主

母　とよ　明元、三生、兵庫、士、深町繁雄姉

妻　ツル　明二九、一二生、佐賀、關經雄養子

男　康雄　大一一、七生

君は兵庫縣士族岩本壽雄の長男にして明治十七年十二月を以て生る大正元年東京帝國大學法律學科を卒業し文官高等試驗に合格す直に官途に就き群馬縣屬となり爾來同縣佐波郡長同縣理事香川廣島各縣理事官を經て大正十四年新潟縣書記官に轉じ同縣學務部長に補せらる昭和三年樺太廳警察部長となり同四年八月北海道廳學務部長に轉じ後之を辭す家族は尙三男輝雄(大一四、五生)長女若葉(昭三、四生)あり妹ゆう(明二五、八生)は群馬縣人仁平貞六に嫁せり(東京市淀橋區下落合二ノ五七九)

岩本正吉

奈良市會議員、大和毎日新聞社長
金綿輸長營業部長、奈良縣在籍

妻　俊子　明四三、一生、奈良、魚野長太郎長女

當家は奈良市の舊家にして祖父の代より生魚問屋米穀問屋を營み大和相撲總元締たりしも後骨董商に轉業家運漸く衰退に傾く君は先代コタキの長男にして明治七年十二月を以て生れ同十九年家督を相續し後前名庄吉を改む夙に家運の挽回に努め活版文選工より身を起し同三十六年新聞記者となり大阪時事奈良支局長等を經て大正十二年大和毎日新聞社を創立し現に其社長に就任す義に推されて奈良市會議員に當選すること三回現に其任にあり又都市計劃地方委員たり其他公共事業に參與し貢獻する所多し(奈良市小西町紀寺町三〇電八五〇)

岩本庄吉

靜岡商工會議所議員、靜岡縣多額納稅者、漆器商、靜岡縣在籍

母　あさ　安政元、七生、神奈川、小澤元次郎養母

妻　むめ　明一八、二生、靜岡、村松安兵衛長女

男　麟太郎　明三六、一生

婦　郁　明三七、八生、長男麟太郎妻、愛知、久留島政治長女

男　秀雄　明四四、六生

女　はな　大六、五生

君は靜岡縣人先代庄吉の長男にして明治十五年十一月を以て生れ大正八年家督を相續し商名市造を改め襲名す漆器商を營み直接國稅二千九百三十六圓を納め縣下の多額納稅者に列し推されて靜岡商工會議所議員たり家族は尙三男良雄(大八、一二生)四男千太郎(同一〇、二一生)五男京一(同一二、九生)三女みつ(同一五、二生)孫輝雄(同一五、四生、長男麟太郎長男)同佳(昭三、一生、同長女)同晴雄(同四、一一生、同二男)あり(靜岡市茶町電四五)

參照‖久留島政治の項

岩本善子

家主
大阪府在籍

母　てる　明一五、二生、京都、漁農九右衛門姉

君は大阪府人岩本榮之助の長女にして大正四年八月二十二日を以て生れ同五年家督を相續す家主たり家族は尙妹道子(大六、一生)ありA六四六(大阪市南區安堂寺橋通二ノ一一電船場九一五)

參照‖遠藤九右衛門

岩本忠

從五位、技師、農業部第一科長兼中央試驗所
所宇治農事試驗支所長
東京府士族

養父　熊雄　明四、三生、現戸主

養母　すゝ　明一三、一一生、靜岡、士、大田安宅長女

妻　英　明三四、一二生、北海道、東海林長治孫

男　達雄　大一二、一一生

君は東京府士族岩本正一郎の二男にして明治二十二年八月を以て生れ兄熊雄の養子となる大正四年東北帝國大學農科大學農學科を卒業し樺太廳技手を經て同技師に進み昭和四年中央試驗所技師に任ぜられ現時同所農業部第一科長兼宇治農事試驗支所長たり家族は尙長女啓子(大一一、一生)二男忠雄(同一五、七生)三男剛雄(昭三、一生)あり姉竹(明一二、一生)は靜岡縣人大石小太郎に同男(同一五、一生)は東京府士族矢野石太郎に養妹愛(同三六、一生、兄熊雄長女)は麗井縣人匡王ちさと五男豐學士藤に同貞子(同三九、二生、同二女)は京都府人工學士奥田昌信に同寿(同四二、一生、同三女)は東京府士族矢野三郎に嫁せり(樺太豊原郡豊北村中央試驗所內)

岩本房吉

大阪府多額納稅者、大阪株式取引所取引員、大阪府在籍

妻　さん　明九、七生、兵庫、小倉六太郎二女

男　信一郎　明三八、二生

女　好江　大三、一〇生

女　清子　大七、七生

君は大阪府人岩本源三郎の弟にして慶應三年八月を以て生れ明治二十九年分れて一家を創立す夙に從兄岩本榮之助商店に勤務し後獨立して有價證券賣買業を營み現に大阪株式取引所一般取引員にして大阪府多額納稅者に列す家族は尙二男良(大一一、三生)あり長女美惠(明三三、一二生)同夫七郎(同二九、三生、和歌山、岩本源吉七男)は其一女を伴ひ分家し二女すみ(同四一、三生)は大阪府人有田晋松長男治夫に嫁せりA三七〇七五B五〇四五(大阪市東區北濱二ノ七九電堂本局二四四)

岩本武助

正五位、陸軍二等主計、衆議院議員、奈良縣選出、奈良縣多額納稅者、大同銀行、北山索道、吉野川上自動車、南和電氣鐵道各取締役
林業、奈良縣在籍

妻　きく　明二八、一〇生、長女加壽夫、奈良、岩本昇弟

養子　軍司　明四一、一〇生、養子軍司妻

女　加壽　明四一、一〇生、養子軍司妻

君は奈良縣人岩本善太郎の長男にして明治十五年十二月を以て生れ同二十一年家督を相續す同三十八年立命館大學を卒業し林業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして直接國稅五百九十四圓を納め縣下の多額納稅者に列す衆議院議員に當選すること三回現に其任に在り昭和七年齊藤內閣成るや擧げられて司法參與官に任ぜられ同九年七月內閣の總辭職と共に挂冠す家族は尙庶子恭二(大一五、一生、生母、奈良、田中さと)孫亨代美(同一五、九生、養子軍司長女)同助幸(昭四、六生、同長女)あり弟貞助(明二〇、一〇生)は分家し叔母かや(同六、一二生)は奈良縣人奥田與四郎に嫁せり(奈良縣吉野郡上北山村)

參照‖奥田與四郎の項

岩本房吉

大阪府多額納稅者、大阪株式取引所取引員、大阪府在籍

妻　さん　明九、七生、兵庫、小倉六太郎二女

男　信一郎　明三八、二生

女　好江　大三、一〇生

女　清子　大七、七生

君は大阪府人岩本源三郎の弟にして慶應三年八月を以て生れ明治二十九年分れて一家を創立す夙に從兄岩本榮之助商店に勤務し後獨立して有價證券賣買業を營み現に大阪株式取引所一般取引員にして大阪府多額納稅者に列す家族は尙二男良(大一一、三生)あり長女美惠(明三三、一二生)同夫七郎(同二九、三生、和歌山、岩本源吉七男)は其一女を伴ひ分家し二女すみ(同四一、三生)は大阪府人有田晋松長男治夫に嫁せりA三七〇七五B五〇四五(大阪市東區北濱二ノ七九電堂本局二四四)

參照＝有田晉松の項

岩本勇次郎　從五位勳五等、明治大學教授、岩本法律事務所、辯護士

妻　ひろ　明二一、一生、東京、士、齋藤利貞從妹

男　勇一　大二、三生

女　靜江　明四一、九生、東京女學館出身

治枝　明四二、一二生、東京女學館出身

女　正代　明四五、一生

女　美千代　大四、六生

君は愛媛縣人先代新の長男にして明治十三年八月を以て生れ同二十八年家督を相續す同三十八年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し東京區裁判所同地方裁判所各判事同部長東京控訴院判事同部長大審院判事等に歷任し現時辯護士を開業し傍ら明治大學教授にして兼に早稻田大學中央大學各講師たり事ありA二八五（東京市麹町區元園町一ノ五一電九段二八八三）

岩本義德　從四位勳四等、前營繕管財局技師

妻　ミチエ　明一七、七生、京都、士、本郷貞彦長女

男　義一　大一〇、一〇生、京都二商在學

女　惠美　大六、五生、成安女學院出身

君は奈良縣人岩本交吉の長男にして明治二十七年十月二十二日を以て生れ後家督を相續す大正四年京都市に移り土地經營業を創め傍ら前記各會社の重役たり義に府會及市會議員に擧げられ昭和六年京都府會議員に再選同八年同市會議員に三度當選し何れも參事會員に推され又同市商工會議所議員に擧げらるA一九七B一二〇（京都市中京區高倉通錦小路北入電本局一六五八、四五六三）

岩本龍三　從四位勳四等、前營繕管財局技師

妻　ミチエ　明一七、七生、京都、士、本郷貞彦長女

男　治彦　大三、一二生

女　久子　大七、二生

君は愛知縣士族岩本治永の二男にして明治十一年十一月を以て生る同三十九年京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し同四十年專賣局技師に任ぜられ爾來京都製造所機械課長京都材料係長及板橋製作所長等を經て昭和九年營繕管財局技師に轉ず勅任官を以て待遇せられしも辭して現時開地に在り先是大正十一年歐米各國へ出張を命ぜらる家族は尙四女光子（大一〇、八生）三男正彦（同一四、一二生）兄虎彦（明六、一一生、現戸主）同妻さだ（同一四、一二生）愛知、士、福澤重一妹及其子女あり長女好子（同四四、一生）は淺井郁太郎長男元に嫁せり（東京市豐島區雜司ヶ谷町六ノ八六七電牛込三〇四八）

岩谷二郎　朝鮮專賣取締役、朝鮮火藥鉄砲、朝鮮煙草興業各㊟專務取締役、朝鮮土地信託㊟監査役、三林公司㊟取締役、東京府在籍

妻　靜　明三〇、二生、大阪、村田順次二女

男　壽滿子　大五、五生

女　滿　大六、八生

君は東京府人岩谷右衛の弟にして明治十八年十月十六日を以て生れ大正二年分れて一家を創立す現時朝鮮煙草興業會社專務取締役たる外前記諸會社の重役たり家族は尙二男正二（大一二、二生）三女清子（同一五、七生）同三郎（同一六、一〇生）四女禮子（昭四、二生）五女佳子（同六、三生）（京城府大和町）

岩谷松藏　昭和電貿易、大日本製酒各㊟取締役、大日本化學工業㊟監査役、東京府在籍

妻　まつ　明二五、八生、群馬、小野里善吉三女

男　松一　大一一、二生

女　廣子　明四三、四生

女　美子　大四、五生

女　大七、八生

君は東京府人岩谷松平の二男にして明治十五年四月二十九日を以て生る父松平は夙に鹿兒島縣より出で煙草店を閉き天狗煙草の名天下に高し後實業界に入り幾多の銀行會社に關係せり君は大正八年家督を相續し牧畜業を營み傍ら前記諸會社の重役たり家族は尙七女元子（大一〇、一生）八女光子（同一二、五生）九女甲子（同一三、一一生）同吉之助（同四三、一〇生）同宗谷（同二六、一〇生）同五十一郎（大二、一生）同五十二（同三、七生）あり二女多佳子（明四四、四生）は福島縣人湯川廣長男溫に妹梅子（同一九、一生）は東京府士族川村桃吾に嫁し同春子（大七、三生）は福岡縣人白水眞太郎の養子となり兄鷹藏（慶應三、四生）同妻加壽（明五、四生）兵庫、吉田龜之助長女）は其子女を伴ひ弟竹次（同二三、二生）同妻はな（同二五、一二生、東京、堀むめ養子）及其子女弟吉藏（同一六、一一生）同妻秒（同二六、三生、廣島、瀨田又一郎二女）は其一子を伴ひ各分家し弟卯之助（同三六、七生）も亦分家せり（東京市濱谷區伊達町八五）

參照＝川村桃吾の項

岩山直介　第一銀行員　鹿兒島縣在籍

妻　澁子　明三一、三生、子爵伊集院彗知長女

男　靜雄　大八、一生

君は鹿兒島縣人岩山新兵衛の三男にして明治十四年十一月を以て生れ同二十九年兄信吉の跡を承け家督を相續す同四十年慶應義塾大學部理財科を卒業し古河銀行に入り取締役兼調査部長に就任し現時第一銀行員たり家族は尙三男康男（大九、一〇生）四男達彦（同一四、一生）五男朝彦（昭三、二生）あり姪シズ（明二六、一生、亡兄信吉長女）は山形縣人富樫喜久治弟金藏に同ハナ（同二七、五生、同二女）は東京府杉村彦太郎に嫁し同ノブ（同二九、三生、同三女）は鹿兒島縣士族有川矢八郎の養子となれり（東京市大森區山王二ノ一七八五電大森二四八三）

參照＝子爵伊集院彗知※子爵本庄彗則※伊集院彗高の項

岩山孫介　岩山商店、自動車用品卸商　山口縣在籍

妻　マツヨ　明二八、一〇生、山口、士、岡崎三二女

男　良雄　大六、四生

女　敬子　大四、五生

君は山口縣人岩山儀三郎の二男にして明治十四年九月を以て生れ大正十二年家督を相續す岩山商店と稱し自動車用品卸商を營む家族は尙二男三郎（大九、一〇生）二女幸子（昭二、九生）三女千惠子（同五、四生）ありA二六五九B五六五（大阪市西區靱南通三ノ五電四土佐堀一四七）

岩脇孫八　農業　富山縣在籍

妻　治　明二一、一生、富山、竹內啓三二女

男　宇一郎　大四、六生

女　千代　明四一、九生

女　和子　明四三、一生

君は富山縣人岩脇孫八の長男にして明治十六年十二月を以て昭和二年家督を相續し前名仁一を改め襲名す家族は尙三女一子（大九、一生）五女澄子（同一二、一一生）あり妹里（明二〇、一二生）は同縣人富田芳太郎二男茂正に同なを（同二四、一生）は同縣人荒木善五郎二男榮三郎に同かね（同二六、一〇生）は同縣人永守廣次郎長男作郎に同雪（同三二、二生）は前記竹內啓三長男遼三に嫁せり（富山縣射水郡牧野村電新湊二七）

磐瀨雄一　從三位勳二等、醫學博士、東京帝國大學教授、醫學部勤務、宮內省御用掛、東京府在籍

妻　しん　明一八、一生、東京、花岡止郎妹御茶の水高女出身

男　太郎　明三九、五生、經濟學士

婦　文子　明四五、三生、長男太郎妻、東京濱口吉右衛門長女、聖心女學院出身

女　榮子　大二、八生、雙葉高女出身

女　己代子　大七、一生

當家は舊勢州桑名藩に仕へ代々玄策と稱し江戶詰の奥醫なり君は先代玄策の長男にして明治八年十月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十三年東京帝國大學醫科大學を卒業す同三十九年獨逸に留學し同四十四年醫學博士の學位を受く其間岡山醫學專門學校教授東京帝國大學醫科大學助教授を經て大正三年同教授に昇り產科婦人科主任を命ぜられ宮內省御用掛被仰付閥藝に趣味を有す家族は尙二男次郎（大一〇、八生）あり長女玉枝（明三六、七生、御茶の水高女出身）は東京府士族鈴木雄輔に嫁し弟純（同一〇、五生、東京美術學校出身）同三郎（同一六、一〇生、外國語學校出身）は各分家せり（東京市本郷區湯島新花町五電小石川三九九四）

參照＝濱口吉右衛門※侯爵毓峨實勝※濱口正一※濱口鱗藏の項

巖又兵衛　正七位勳七等、大阪大手郵便局長　噴泉浴場㊟社長、足袋商　大阪府在籍

妻　ひろ　明一一、一生、大阪、井上淺次郎四女

男　榮一　明三五、四生

婦　英子　明三九、五生、長男榮一妻、大阪高安道成三女

男　又三郎　明四一、一生

君は大阪府人先代又兵衛の長男にして明治二年一月十日を以て生る同二十六年家督を相續し前名榮次郎を改め襲名す現時兄袋商を營み傍ら大阪大手郵便局長にして噴泉浴場社長を兼ぬ家族は尙孫俊一（昭四、一〇生、女鷹枝（明三四、二生）は兵庫縣人松田操に姉とせ（元長男榮一長男）同由紀子（同七、八生、同長女）あり長治元二生）は大阪府人高藤に嫁せりA一一五五（大阪市東區清水谷西之町三六五ノ二電東八五三）

參照＝高安道成※松田操※高安六郎の項

巖本善治　坪井活力素商會、小笠原產業、東京バウリスタ各㊟代表取締役、大和セロファン㊟監査役、東京府士族

男　莊民　明二四、一二生、米國大使館書記官、早大政經科出身

婦　マグリイト　明二四、一生、長男莊民妻、米國、メリー・メグルーダ長女、東京女子大學教授

君は舊出石藩士井上藤兵衛の二男にして文久三年六月十五日を以て生れ先代範治の養子となり明治十六年家督を相續す女子教育界の恩人にして養に明治女學校（明治十八年創立、明治四十二年閉校）を創立し或は女學雜誌を發行して名聲を博せり後移植民事業に轉じ明治植民合資會社代表社員たりしことあり現時前掲會社の重役たり家族は尙孫メーリー・エステル（大一五、一生、長男莊民長女）あり義弟捷治（明一四、三生、日本國際現代文藝社經營）同妻せん（同二一、八生、岐阜、小出熊藏妹）及其子女は分家し長女清子（同二三、九生、實踐女學校教授）は北海道人早稻田大學教授ドクトル中野登美雄に二女民子（同二七、八生）は愛知縣人東京高等學校教授文學士松浦嘉一に嫁せり（東京市豐島區西巢鴨町三ノ六六〇電大塚二五九一）

祝島男　正五位勳四等、札幌遞信局長　東京府士族

妻　通子　明三五、五生、島根、中井謹夫姉

君は舊藩士阿比留淳藏の二男にして明治二十年八月四日を以て生れ同藩士祝卷の養子となり大正十年家督を相續す同三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來通信事務官補遞信副事務官逓信事務官兼遞信省參事官兼地方海員審判官航空局事務官遞信事務官航空局書記官兼遞信官等を經て昭和七年郵務局外國郵便課長に任じ現時札幌遞信局長たり先是昭和元年航空事業研究の爲英佛獨米各國に留學を命ぜられ同四年ポーランド第二回國際航空私法會議に帝國委員顧問として出席す同六年ジュネーブ一般軍縮會議に參列の全權委員隨員仰付けられ同八年ヴッタヲに於ける萬國郵便聯合大會議準備員會委員として參列仰付けられる家族は尙長女澄子（大九、三生）あり（札幌市大通西二丁目札幌遞信局內）

尹甲炳　正四位勳二等、朝鮮總督府中樞院參議、農業、平安北道在籍

妻　崔順卿　明二四、一〇生、崔宮熙女

男　詩重　明一八、五生、早大出身

君は平安北道義州郡義州面人尹相和の男にして文久三年八月を以て生る幼より儒を學び明治二十七年內務府主事となり其の後宮內府主事農商衙門參議農桑局長定山郡守等に歷任し後退職す同三十八年五月日露戰役北進隊に從軍し爾來平壤理院檢事給書監丞太僕司長侍從を經て同四十年咸鏡北道觀察使に任ぜられ同四十三年平安北道參與官大正十年慶尙北道參與官となり同十二年江原道知事に進み同十三年十二月總督府中樞院參議に進み同十三年十二月總督府中樞院參議

（勅任待遇）を命ぜられ今日に至る農具の研究改良に趣味を有し揖上籾摺機及揚水機の實用新案特許を得義に商業視察のため中華民國に出張せし事あり家族は尚長女順子（昭四、五生）あり（京城府鐘路六ノ一一五）

尹　暉　炳　東一銀行㊟取締役兼本店支配人
京畿道在籍

君は京城府親水洞の出身にして明治二十四年四月を以て生る夙に善隣商業學校を卒業し東京に留學して大正四年東京高等商業學校を卒業す後普成法律商業學校講師慶一銀行取締役兼支配人南昌社監査役を經て現時前記銀行の重役たり趣味に撞球音樂あり（京城府瑞麟洞一一七電光化門一九八三）

尹　星　漢　江原道評議會員、巨津漁業組合理事、杆城金融組合監事
江原道在籍

妻　朴淑人　明一一、一生
男　香龍　明三八、九生
男　香鳳　明三八、九生
男　香鶴　明四三、八生、泰川公立農業學校出身

君は江原道高城郡人尹行珪の長男にして明治十四年十一月を以て生れ大正八年家督を相續す幼より漢文を修め後數學測量術等を修業し法學及語學を研究し同三十年より家業に從事せり同三十七年杆城郷校學議を命ぜられ同四十三年杆城私立水城學校會計員となり大正八年朝鮮總督府郡書記に任ぜられ翌年改制と共に郡屬に就任し後退職す養苗及造林業を經營し義に杆城面協議會員高城郡學校評議會員杆城郡學校評議員たりし事あり現時江原道評議員に擧げられ杆城金融組合監事巨津漁業組合理事を兼ぬ讀書音樂に趣味を有す家族は尚四男重根（大一二、六生）あり長男香龍の妻は魚錫雲の四女二男香鳳の妻は金弘奎の三女三男香鶴の妻は李鍾益の妹なり（江原道高城郡杆城面上里三六一）

尹　相　鶴　正六位勳六等、朝鮮總督府咸鏡南道北青郡守、忠淸南道在籍

君は忠淸南道牙山郡鹽崎面芝峴里の出身にして明治二十年五月を以て生る同三十七年より儒を學び同三十九年京城私立中橋義塾學校日語算術科翌年京城私立淸風學校測量科同四十四年京城官立師範學校速成科を何れも卒業す同年昌寧公立普通學校訓導となり大正三年咸鏡南道書記に轉じ同十年咸鏡南道屬翌年咸鏡南道長津郡守同十二年洪原郡守翌年十二月安邊郡守に歷任し昭和五年同德源郡守に任ぜられ次で北青郡守に轉じ今日に至る（咸鏡南道北青郡廳内）

尹　泰　彬　從五位勳五等、朝鮮總督府道事務官、忠淸南道内務部長
京畿道在籍

君は京城府鑄昌洞の出身にして明治十九年九月十五日を以て生る同三十六年官立日語學校を卒業外國語學校副教官となり官立高等小學校日語教授に轉じ同四十三年朝鮮總督府屬員となり爾來同府道書記同府道理事官京畿道内務部勸業課長同産業課長等に歷補し昭和五年同府道事務官に任じ咸鏡南道財務部長を經て同七年忠淸南道内務部長となり今日に至る（大田郡大田邑忠淸南道廳内）

尹　致　旺　ゼブランス聯合醫學專門學校産婦人科教授、京畿道在籍

妻　李慕姙　明二六、八生、忠北、李熙直女
善　善　昭七、三生

君は明治二十八年二月舊韓國陸軍副將軍部大臣尹雄烈の二男として生れ大正二年渡英同十四年グラスゴー大學醫科大學を卒業後更に昭和二年蕊研究を重ね同年十一月歸國セブランス聯合醫學專門學校産婦人科助教授に任ぜられ同五年再び渡英エヂンバラ大學醫學部産婦人科教室ヂョンストン教授の下に於て具さに研讃を遂げ後歸國して同七年十一月同校教授に任じ現時其職に在り家族は尚二男薫善（昭九、六生）あり長女善姬（大元、八生）は京城府人申豪植に嫁せり（京城府和泉町一九五電光化門一六二五）

尹　德　榮　正三位、子爵、朝鮮總督府中樞院顧問

君は明治七年二月を以て生る夙に學を修め同二十八年祕書監右祕書郎となり同二十九年内閣總理大臣祕書官を經て後奉常院校書兼殖産部參書官中樞院三等議官同二等議官兼祕書院丞等に歷任し同三十一年農商工部參書官に任ぜられ次で太僕司長内部地方局長法務局長宮内府特進官に歷任し同三十四年京畿道觀察使に就任地方牧民の重任につきしが翌年鑄道副總裁となりて中央官廳に復し其後議政府參贊平理院裁判長皇后宮大夫等に擧げられ同四十四年李王職贊侍に任ぜられ大正四年同掌侍司長たりしが同十四年七月總督府中樞院顧問となり今日に至る（京城府王仁洞四七電光化門局八〇・九六六）

印　東　昌　綱　原田積善會主事、評議員
東京府在籍

妻　益　子　明一六、一〇生、東京、印東玄得長女
弘　玄　明四一、六生、東京文理大在學

印東家は紀州新宮藩士にして先代玄得は明治九年大學東校第一期を卒へ明治中期の刀圭界に名あり君は國學者佐々木弘綱の二男文學博士同信綱の弟にして明治十年九月三十日を以て生れ先代益子の入夫となり同三十二年家督を相續す幼より父の薫陶を受け夙に國語傳習所に學び歌道を弘綱及兄信綱より享く同三十二年竹柏會の創立以來同人として盡力し傍ら書道を研究すること多年日本歌人協會の會員に推薦せられ泰東書道院の役員たり大正九年七月財團法人原田積善會の創設せらるゝや入りて主事に擧げられ今日に至る㊟一二〇（東京市本郷區駒込西片町一〇電小石川四七一八）

參照‖佐佐木信綱の項

ウ之部

右近權左衛門
妻　政　子　明二八、三生、石川、時國甫太郎二女、金澤第一高女出身
男　保太郎　大三、六生
女　富久子　大四、一二生

君は福井縣人先代權左衛門の長男にして同福次郎の弟同和作の養弟なり明治二十二年十一月を以て生れ大正五年家督を繼ぎ前名義太郎を改め襲名す同三年慶應義塾理財科を卒業し紙業を繼ぎ海運業を營み現時右近商事日本海上保險日海興業各會社の重役にして福井縣多額納稅者に列し直接國稅二萬八千八百十三圓を納む義に群山電業朝鮮電氣各會社の重役を兼ぬ家族は尚二男保雄（大六、一〇生）三男義三（同一〇、八生）四男隆雄（同一四、一〇生）五男義昭（昭五、七生）二女昭子（同七、二生）あり妹スエ（明二六、三生）は栃木縣人植竹龍三郎に嫁せり（大阪市西區西長堀北通五ノ一四電新町三九九）

參照‖右近福次郎、右近和作、植竹龍三郎※男爵本多政樹※内田敏雄※西田孫左衛門※八木又右衛門の項

右近福次郎　朝鮮電氣、日本海上保險各㊟專務取締役、元山水力電氣、右近商事朝鮮水力電氣各㊟取締役、大阪瓦斯水素、和歌山紡織、日海興業各㊟監査役、兵庫縣在籍
妻　と　き　明二三、八生、岐阜、小寺敬一姉
男　德太郎　大二、九生、慶大在學
女　信　子　明四四、一生、甲南高女出身

君は福井縣人右近權左衛門の兄同和作の養弟にして明治十六年十月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す夙に慶應義塾に學び實業界に入り現時日本海上保險會社專務取締役の外前記本家右近家關係諸會社の重役を兼ぬ家族は尚二男恭次郎（大五、五生、縣立神戸一中出身）三男禮三郎（同七、三生、同上在學）あり㊟二九七三（兵庫縣武庫郡住吉村室ノ内二四五電御影三五八六）

參照‖右近權左衛門、右近和作、小寺敬一の項

右近又雄　勳八等、滿洲化學工業㊟常務取締役、佐賀縣在籍
妻　たま　明一二、一一生、養父權左衛門長女
男　隆太郎　明三九、一一生
女　和子　明四二、九生
男　芳夫　明四四、一一生
男　秀夫　大二、六生
女　茂子　大七、三生

君は福井縣人八十島五郎右衛門の弟にして右近權左衛門同福次郎の養兄なり明治九年三月を以て生れ右近家の養子となり大正五年分れて一家を創立す明治三十四年早稻田大學英語政治科を卒業し現時日本海上保險會社副社長の外前記各會社の重役たり家族は尚六男郁夫（大一〇、一生）あり㊟二五五六（兵庫縣武庫郡住吉村六二五電御影三二一三）

參照‖右近權左衛門、右近福次郎、八十島五郎右衛門の項

宇井五郎吉　宇井組㊟社長、土木請負業
和歌山縣在籍

右近和作　日本海上保險㊟副社長、日海興業㊟常務取締役、右近商事㊟取締役
兵庫縣在籍
妻　た　ま　明一二、一一生、養父權左衛門長女
男　隆太郎　明三九、一一生
女　和子　明四二、九生
男　芳夫　明四四、一一生
男　秀夫　大二、六生
女　茂子　大七、三生

君は福井縣人八十島五郎右衛門の弟にして右近權左衛門同福次郎の養兄なり明治九年三月を以て生れ右近家の養子となり大正五年分れて一家を創立す明治三十四年早稻田大學英語政治科を卒業し現時日本海上保險會社副社長の外前記各會社の重役たり家族は尚六男郁夫（大一〇、一生）あり㊟二五五六（兵庫縣武庫郡住吉村六二五電御影三二一三）

參照‖右近權左衛門、右近福次郎、八十島五郎右衛門の項

宇井善太郎　十一屋商店㊟常務取締役
東京府在籍
妻　ま　す　明二〇、三生、千葉、鈴木藤藏三女

君は東京府人宇井源吉の長男にして明治十九年二月を以て生れ同三十一年家督を相續す現時十一屋商店常務取締役たり（東京市赤坂區仲ノ町二二）

宇井孝三　北海道採炭㊟社長、有隣生命保險㊟常務取締役、帝都電鐵㊟取締役
千葉縣在籍
妻　く　ら　明二一、一〇生、千葉、飯倉清右衛門長女
男　滋　大五、九生、立教中學在學
女　千　鳥　明四四、二生、女出身
男　天　哉　大三、七生
女　ときわ　大七、一生、和歌山縣立田邊高女出身

君は和歌山縣人宇井峰吉の二男にして明治十九年十一月を以て生れ大正八年家督を相續す土木請負業を營み宇井組社長たり家族は尚三男龍（大九、三生）五男正（同一三、一一生）七男達（昭三、六生）弟留吉（明二八、三生）あり長女みとり（同四〇、一〇生）は和歌山縣人中村俊一に妹きく（同三一、五生）は同縣人後藤茂治に同五月（同三四、一生）は同縣人前地正次に嫁せりA四五〇（東京市深川區門前仲町二ノ一一電本所五五七）

宇井孝三
妻　と　く　安政三、八生、和歌山、中戸爲右衛門妹
妻　ふ　さ　明一九、一一生、和歌山、前地嘉太郎妹
男　豊　明四四、二生
女　千　鳥　明四二、六生、和歌山縣立田邊高女出身
男　天　哉　大三、七生
女　ときわ　大七、一生、和歌山縣立田邊高女出身

君は和歌山縣人宇井峰吉の二男にして明治十九年十一月を以て生れ大正八年家督を相續す土木請負業を營み宇井組社長たり家族は尚三男龍（大九、三生）五男正（同一三、一一生）七男達（昭三、六生）弟留吉（明二八、三生）あり長女みとり（同四〇、一〇生）は和歌山縣人中村俊一に妹きく（同三一、五生）は同縣人後藤茂治に同五月（同三四、一生）は同縣人前地正次に嫁せりA四五〇（東京市深川區門前仲町二ノ一一電本所五五七）

宇井善太郎　十一屋商店㊟常務取締役
東京府在籍
妻　ま　す　明二〇、三生、千葉、鈴木藤藏三女

君は東京府人宇井源吉の長男にして明治十九年二月を以て生れ同三十一年家督を相續す現時十一屋商店常務取締役たり（東京市赤坂區仲ノ町二二）

宇垣一成　從二位勳一等功四級、陸軍大將、前官禮遇、朝鮮總督、岡山縣在籍
妻　貞子　明二一、九生、愛媛、小原芳次郎長女
男　一雄　大四、九生
女　秀子　大三、一生
女　光子　大六、五生
君は岡山縣人宇垣十七八の弟にして明治元年六月二十一日を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す同二十四年陸軍歩兵少尉に任じ大正十四年陸軍大將に累進す其間陸軍大學校を卒業し參謀本部々員獨國駐在武官陸軍省軍事課長歩兵第六聯隊長參謀本部第一部長同總務部長陸軍歩兵學校長陸軍大學校長東宮御學問所評議員第十師團長教育總監部本部長陸軍次官軍事參議官等に歴補す大正十三年清浦内閣成立するに方り陸軍大臣に親任せられ加藤若槻兩内閣共に引續き同大臣に重任せらる議に歐米及支那に派遣せられし事あり昭和二年第二次軍縮會議帝國全權として齋藤朝鮮總督出席の役を受け朝鮮總督代理となり同四年陸軍大臣に親任せられ同六年辭任特に前官の禮遇を賜はり軍事參議官に補せられ同年六月獨備役となり同時に朝鮮總督に親任せられ今日に至る又還暦國皇帝陛下よりグランクロアのレレフアンのブラン勳章を贈與せらる家族は尚四女芳子、大九、一生）五女信子（同一三、二生）あり長女美子（同元、九生）は東京府士族矢野義弓長男義男に嫁せり
參照‖矢野義弓の項（京城府倭城臺町電本局一〇〇〇）

宇川進　醫學博士、醫師
妻　久惠　明二九、九生、香川、淡河善三三女
男　和彦　大一〇、一一生
君は香川縣人宇川利邦の六男にして明治二十五年三月を以て生れ昭和四年分れて一家を創立す大正五年大阪醫科大學を卒業し醫を開業し今日に至る義に醫學博士の學位を授けらる家族は尚長女いそ子（大一三、五生）四男逸逸（昭五、七生）五男豊（同七、八生）ありA四二五（大阪市港區九條中通二ノ九八電西一二〇三）

宇木幸吉　大同電力㈱取締役、大同土地興業㈱監査役、東京府在籍
君は佐賀縣士族後備陸軍騎監學博士宇木碩太郎の弟にして明治九年二月を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す同年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し三井銀行に入り若松廣島各支店長並に本店參事を歴任し現時大同電力會社常務取締役及大同土地興業會社盛壮役たり家族は尚三女松子（大一四、一〇生）ありA一四八二（東京市芝區白金三光町二五七電高輪九七二）
參照‖江藤林太郎※江藤得三の項

宇佐川濟　帝國倉庫運輸㈱專務取締役、東京府士族
妻　さた　明二〇、五生、靜岡、江藤林太郎妹
男　福雄　大五、五生、府立第六高女出身
女　壽美子　大七、九生
君は佐賀縣士族後備陸軍騎監學博士宇木碩太郎の弟にして明治九年二月を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す同年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し三井銀行に入り若松廣島各支店長並に本店參事を歴任し現時大同電力會社常務取締役及大同土地興業會社盛壮役たり家族は尚三女松子（大一四、一〇生）ありA一四八二（東京市芝區白金三光町二五七電高輪九七二）
參照‖江藤林太郎※江藤得三の項

宇佐川知義　從四位勳二等功四級、海軍少將、東京府在籍
父　知彦　安政五、五生、熊本、高橋清三郎三男、現戸主
母　モン　万延元、二生、祖父知則長女
男　知忠　大三、一二生
當家の先代熊本縣人宇佐川知則は横井小楠の門下にして事に藩政五、五生、熊本、高橋清三郎三男、現戸主

男　俊弘　昭五、一〇生

君は東京府人宇佐美米吉の長男にして明治二十九年十一月を以て生れ大正九年家督を相續す貿商を營む家族は尙長女玉枝（大一三、一生）二女京子（同一五、八生）三女和惠（昭三、七生）弟時子（明四一、三生）弟廣直（同四四、八生）あり妹照子（同三五、九生）は東京府人長島豬之助長男力太郎に嫁し母テウ（同三、一生、東京、清水藤吉妹）は同府人宇佐美清子の隱居跡を相續せりA三二三（東京市豐島區雜司ヶ谷町二ノ四五二電牛込四八二四）

宇佐美秀吉

茨城縣多額納稅者
茨城縣在籍

母　とよ　明一一、一生、茨城、赤津誠市郎長女
妻　はつ　明三二、六生、磯原酒造㈱監査役
男　泰壽　明三七、四生、長男泰壽妻、茨城鰹漁宗之介三女
嬶　千代　明三四、五生
男　祐　明三六、一生、二男祐妻、茨城、山縣隆四女
嬶　つね
男　三郎　明三六、五生
嬶　マツ　明三五、二生、三男三郎妻、福島御代治助妹
男　五郎　大三、三生
女　きく　大六、九生

君は茨城縣人宇佐美克三の長男にして明治九年三月を以て生れ明和四年家督を相續す資產家にして直接國稅六百九圓を納め茨城縣多額納稅者に列す曩に茨城無煙炭鑛會社の重役たり家族は尙孫子（大一三、二生、長男泰壽長女）同正昭（昭二、四生、同長男）同達也（同四一〇生、同二男）同公則（大一五、一一生、二男祐長男）同和男（昭四、五生、同二男）同千鶴子（大一四、三生、三男三郎長女）同哲郎（昭三、二生、同長男）あり四男四郎（明三八、一生）は茨城縣人小室四松に弟吉雄（同一七、一一生）は同縣人山縣吉司に叔父卯太郎（慶應三、四生）は同縣人神永倉太郎に各養子となれり（茨城縣多賀郡犀川村）

宇佐美政衛

マル宇本店、材木商
東京府在籍

妻　さく　明二五、六生、千葉、小川保藏妹

君は千葉縣人宇佐美壽治郎の二男にして明治二十三年五月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す同年材木商を開業し今日に至る家族は尙一子ありA一五二〇B三〇二（東京市深川區大和町二電本所三六六三）

參照＝小川保藏の項

宇治光治

片倉生命保險㈱常任監査役
長野縣在籍

男　光春　明三四、四生
嬶　浦　河野通瑞長女
男　二郎　明四〇、六生

君は長野縣人宇治政雄の二男にして明治十年一月を以て生れ同二十四年家督を相續す現時前記會社の重役たり事あり家族は尙孫光昭（昭二、二生、長男光春長男）同和代（同三、六生、同長女）同禮（同五、五生、同二女）あり長女喜久（同七、三生）は同縣士族松原榮弟亥之助に嫁せり（長野縣上伊那郡小野村）

宇治長三郎

洋品商
東京府在籍

妻　堯代　明二六、三生、和歌山、湯淺知堯四女
男　順一郎　大八、九生
女　文子　大二、三生

君は和歌山縣人宇治榮助の三男にして明治十八年一月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す洋品商を營む家族は尙二女澄子（大一一、二一生）三男良之助（同一四、七生）四男恒明（昭三、九生）ありA四五九B一二六（東京市京橋區京橋一ノ七電銀京橋六〇二五。四三九二）

宇治元吉

京都富士館經營主
兵庫縣在籍

妻　せん　明九、四生、兵庫、尾鷲市松長女
養子　貞二　明四一、八生、兵庫、北地安吉二男

君は兵庫縣人宇治熊助の二男にして明治十八年一月を以て生れ同二十三年家督を相續す京都富士館を經營すA五九九（神戸市兵庫區江川町二五電兵庫五五三）

宇治川良太

日本擬革㈱專務取締役
北海道士族

繼母　キク
妻　キク　明二三、四生、東京、士、加藤行造妹、女子學院高等部出身
男　昇　大一五、八生
女　美子　大二、一一生、女子學院出身

當家先代伊三郎は大和國十津川の人夙に北海道に移住し開墾に依り產を成す君はその長男にして明治十六年六月を以て生れ大正十二年家督を相續す先是明治四十一年早稻田大學政治經濟科を卒業し第三銀行に入り次で帝國製麻會社に轉ず大正九年是を辭し日本擬革會社を設立し其常務取締役となり現に同社專務取締役たり家族は尙二女美代（大一〇、三生、聖心女子學院在學）三女富子（同一一、一一生）四女良子（同一三、一一生）四男忠（昭三、一〇生）あり弟治（明二五、七生）同妻敏子（同三一、一〇生、奈良、士、千葉斷一妹）は其一男二女を伴ひ弟龍夫（同三〇、八生）同妻カヲリ（同二八、一二生、北海道、佐藤惣太四女）は其二男一女を伴ひ各分家せりA一八八（東京市瀧野川區上中里町一〇〇電王子一七四）

參照＝千葉斷一※下總傳平※廣岡助五郎の項

宇治田福正

和歌山縣多額納稅者
和歌山縣在籍

妻　たか　明九、三生、和歌山、中山甚吉妹
男　增次郎　明二八、二生
嬶　延　明三一、三生、長男增次郎妻、和歌山、野田豐二女
男　尙敬　明四三、二生
男　悅也　明四五、五生

君は和歌縣人宇治田六左衛門の二男にして明治六年八月を以て生れ同二十七年家督を相續す素封家にして和歌山縣多額納稅者に列し直接國稅五千二百四十五圓を納む家族は尙孫增藏（大七、三生、長男增次郎長男）同美代（同一〇、三生、同長女）同ちゑ（同一二、一〇生、同二女）あり二男嗣時（明三二、八生）は同妻キヨ（同三五、四生、和歌山、野田豐三女）を伴ひ分家し姉榮（同二三、一〇生）も亦分家せり（和歌山市杉ノ馬場一ノ五）

宇宿勇輔

王子製紙㈱豐原工場長
鹿兒島縣士族

妻　品子　明二四、八生、門馬豐次妹
男　行久　靜岡高校在學

君は鹿兒島縣士族現戸主直記の弟にして明治十六年十一月を以て生る夙に專修學校經濟科を修めカブトビール武藏電氣鐵道各會社に勤務し大正四年富士製紙會社に入りて金山工場長及池田工場長に歷任す昭和七年日本人絹パルプ會社に轉じ翌八年合同に依り王子製紙會社豐原工場長となり現在に至る家族は尙二男二女あり（東京市四谷區西信濃町一〇電四谷六六六四「任地」樺太豐原郡豐原町電三一四一）

宇田貫一郎

大日本アスファルト工業㈱社長、
再製樟腦㈱監査役、高知縣在籍

母　喜代江　明元、一二生、高知、弘內金太二女
妻　惠　明二五、四生、大阪、篤士貞寃妹

君は高知縣人宇田馬之助の長男にして明治二十二年一月を以て生れ同三十六年家督を相續す現時大日本アスファルト工業會社々長にして前記會社の重役を兼ぬ曩に上海取引所取締役たりし事あり家族は尙長女ゆか子（昭二、七生）妹富衛（明二六、四生）あり姉春江（同一九、八生）は分家し妹梅喜（同三〇、二生）は高知縣人北川猪四馬に嫁せりA四二四（大阪市天王寺區島ヶ辻二五電天王寺三八一一）

宇田龜代滿

日本紙業㈱監査役
高知縣在籍

男　俊雄　明三八、四生、同志社大學出身
嬶　ハナ子　明四〇、八生、長男俊雄妻、同志社高女出身
男　昌　大二、二生、東大經濟學部在學
女　惠美子　大四、一一生、津田英學塾在學

君は高知縣人宇田佐平の長男にして明治十七年十二月を以て生れ大正二年家督を相續す現に日本紙業會社監査役にして曩に土佐紙會社監査役たりし事あり家族は尙孫明子（昭九、三生、長男俊雄長女）あり長女滿子（明四〇、六生）は東京府人三宅忠治に嫁せりA一三七九（東京市杉並區阿佐ヶ谷五ノ一二電荻窪二六三一）

宇田吉一

從五位勳六等、專賣局參事
和歌山縣在籍

榮父　利一　明一四、一一生、現戸主
榮母　とみ　明一二、三生
妻　友子　明三六、一〇生
男　正規　大九、三生

君は和歌山人にして明治二十九年六月を以て生れ宇田利一の養子となる大正十年東京帝國大學法學部英法科を卒業し同十一年專賣局副參事となり秦野郡山岡山東京各地方專賣局事務課長に歷補し昭和六年專賣局參事に任じ高崎地方專賣局長を經て同八年福岡地方專賣局長に轉じ同九年米國に出張を命ぜられ目下役地に在り家族は尙長女冬喜子（大一〇、四生）二男正英（同一一、六生）二女芳子（昭元、三生）三女陽子（同七、二生）四女博子（同九、一二生）ありA一四〇（「留守宅」和歌山縣那賀郡田中村）

宇田甚次郎

水呑織物㈱代表取締役
廣島縣在籍

妻　ヒサヨ　明二九、一〇生、廣島、宇田亮太郎妹
男　明人　大一〇、一一生

君は廣島縣人宇田鶴吉の二男にして明治二十五年七月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す現時水呑織物會社代表取締役たり家族は尙長女政江（大九、三生）二男弘（同一二、七生）あり養子シゲ（明四一、八生、廣島、宇田源次郎三女）は廣島縣人三谷巖に嫁せり（廣島縣沼隈郡水呑村電一二）

宇田種吉

家主
兵庫縣在籍

母　しげ　文久二、五生、兵庫、美田照三姉二女
男　貞夫　明二一、七生、兵庫、向井茂兵衛
妻　きみ　明六、二生、

君は兵庫縣人宇田善左衛門の二男にして明治十七年一月を以て生れ後家督を相續す家主にして資產家たり家族は尙二女昌子（大一〇、一生）三男久夫（同一五、一生）あり長女千代（明三九、一一生）は兵庫縣人宇田岩吉の養子となり妹はる（同一九、二生）は分家せりA一四八〇（神戸市須磨區離宮西一ノ二電須磨一〇〇八）

宇田吉一

從五位勳六等、專賣局參事
和歌山縣在籍

養父　利一　明一四、一一生、現戸主
養母　とみ　明一二、三生
妻　友子　明三六、一〇生
男　正規　大九、三生

君は和歌山人にして明治二十九年六月を以て生れ宇田利一の養子となる大正十年東京帝國大學法學部英法科を卒業し同十一年專賣局副參事となり秦野郡山岡山東京各地方專賣局事務課長に歷補し昭和六年專賣局參事に任じ高崎地方專賣局長を經て同八年福岡地方專賣局長に轉じ同九年米國に出張を命ぜられ目下役地に在り家族は尙長女冬喜子（大一〇、四生）二男正英（同一一、六生）二女芳子（昭元、三生）三女陽子（同七、二生）四女博子（同九、一二生）ありA一四〇（「留守宅」和歌山縣那賀郡田中村）

宇田友四郎

妻　榮
養子　耕一　明三七、一〇生、大阪、大田義二弟、滿鐵社員、法學士
嬶　澄子　明三九、四生、養子耕一妻、高知山脇眞澄長女、高知第一高女出身
女　喜代　大四、五生、高知第一高女出身
女　嘉代　大七、六生

君は高知縣人宇田長藏の二男にして萬延元年三月を以て生れ明治七年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者に列し推されて高知商工會議所顧問たり曩に愛媛議員貴族院議員に選ばれ高知商工會議所會頭日本港灣協會日本產業協會各評議員高知都市計畫委員等に擧げられし事あり家族は尙孫耕也（昭二、二生、養子耕一長男）ありA二七六一（高知市鷹匠町電七〇〇）

高知商工會議所顧問、高知縣多額納稅者、白洋汽船、土佐電氣各㈱社長、高陽銀行、大東漁業、十佐東都電氣、合同電氣各㈱取締役
高知縣在籍

宇田成和

帝國人造絹絲㈱監査役
廣島縣在籍

妻　スマ　明三二、一〇生、東京、大柴四郎五女
男　成尙　大八、九生

君は廣島縣人宇田成一の長男にして明治二十五年五月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し臺灣銀行に入り東京支店支配人に進み現時前記會社の重役たり家族は尙長女和子（大一一、一生）二女英子（同一四、八生）ありA三九四（兵庫縣武庫郡魚崎町横屋內田電御影四〇六五）

宇田尙

日東印刷㈱社長、東海興業㈱取締役、東洋女子商科醫學專門學校理事長兼校長、東京府在籍

妻　愛　明一六、三生、千葉、庄司和三郎妹、日本女大出身
女　房　大三、七生、日本女大在學

女　富　大五、六生、日本女大在學

君は子直宇田廉平の四男にして明治十四年十二月を以て生れ先代叔父義房の養子となり大正七年家督を相續す明治四十五年中央大學を首席にて卒業し北白川宮家に奉仕すること三ケ年後實業界に投じ爾來東海興業會社長日本印刷會社取締役等に就任し現時前記各會社の重役にして東洋女子齒科醫學專門學校理事長兼校長に擧げらるる蠧に先考子直先生曉年棲遲の地栃木縣上都賀郡永野村に盤澗學寮を建設し夏季大學の校舍として開放すA七九一（東京市本郷區湯島天神町一ノ一〇三電下谷四一一四）

宇田川一郎

父　龍五郎　明九、五生、現戸主
妻　喜久　明四〇、八生、東京、相川常松長女
男　陰信　昭五、四生

君は東京府人宇田川龍五郎の長男にして明治三十五年十二月を以て生る昭和三年慶應義塾大學經濟學部を卒業し現時東京横濱電鐵會社員たり資產家を以て知らる家族は尙長女知子（昭八、五生）ありA一四三〇（東京市世田谷區三宿町一八電世田谷二〇三〇）

參照‖宇田川龍五郎※根本東次の項

宇田川市良右衛門

農業　東京府在籍

男　市郎　明三二、一二生
婿　よし　明三四、四生、二男市郎妻、東京、鈴木清太郎六女
女　美代　明四二、三生
男　博　大二、一一生
女　はる　大四、一生

君は東京府人先代市良右衛門の長男にして明治六年四月八日を以て生れ明治二十七年家督を相續し前名常次良を改め襲名す農業を營む家族は尙孫啓子（大一一、一一生、二男市郎長女、同作次（同一四、二生、同長男）同良造（昭三、七生、同二男）同邦雄（同八、一〇生同三男）あり三男重三郎（明三七、七生）はA三二三（東京市品川區大井森下町四〇七一電大森三四九三）

宇田川銀之助

資產家　東京府在籍

妻　すゞ　慶應二、一二生、養父金藏長女
男　弘平　明三三、一二生
婿　クラ　明三三、四生、三男弘平妻、東京稲室米藏二女
男　錄三　明三六、六生、四男錄三妻、東京
孫　榮子　明三九、一一生
婿　篠彌三郎　明四一、八生
女　ふく　明三九、一一生
男　八三　明四一、八生

君は東京府人稲室麟左衛門の三男にして父久三年五月十四日を以て生れ先代金藏の養子となり明治二十九年家督を相續す資產家にして養に共立土地建物會社の取締役たり家族は尙孫弘子（大一二、一一生、三男弘平妻、同長男）同正信（同七、四生、四男錄三二女）同一郎（同八、一一生、同長男）あり長女やす（明二三、五生）同夫忠一（同二二、一〇生、稲井、前澤忠右衛門、三男）は其子女を伴ひ分家し四女とし（同三五、九生）は東京府人稲室鑄太郎弟金作に嫁せり（東京市神田區同朋町一〇電下谷六三二一）

參照‖稲室米藏、稲室鑄太郎の項

宇田川倉吉

宇田川運送店※取締役　東京府在籍

母　はつ　明二〇、一生、東京、稲田林松三女

君は東京府人先代倉吉の長男にして明治四十五年三月を以て生れ昭和五年家督を相續し前名甲子雄を改め襲名す明治十五年創業の家業運送業を繼承し現時是を株式組織に改め同社取締役たり家族は尙弟豊治（大一五、一一生）同富久（昭四、九生）妹道子（大五、一〇生）同五九（東京市王子區王子町五四一電小石川六五四王子二〇一〇）

宇田川啓輔

東京市會議員、東京運河土地※取締役、櫻田機械製作所※監査役、地主、東京府在籍

養母　しの　嘉永六、四生、東京、宇田川權四郎長女
妻　いち　明一二、一〇生、東京、杉浦金太郎長女
養子　芳子　大四、七生、東京、杉浦金太郎長女

君は埼玉縣人赤沼與三郎の二男にして明治七年六月を以て生れ先代安太郎の養子となり同四十四年家督を相續す地主にして現時前記各會社の重役に擧げられ東京市會議員に選ばるA二七六（東京市城東區南砂町七ノ三九一電本所三七六一）

宇田川庄右衛門

地主　東京府在籍

祖母　タカ　慶應二、四生、東京、井口國藏妹
母　マサ　明二五、一生、東京、篠宮五郎左衛門二女

君は東京府人宇田川金一の二男先代治郎吉の孫にして大正六年五月二十五日を以て生れ昭和六年家督を相續す地主たり家族は尙姉英子（大二、一二生）妹義子（同九、二生）同信子（同一二、一生）同光江（同一五、五生）あり叔母治子（明四一、五生）は同府人中田幾太郎長男正義に嫁せりA六八五（東京市杉並區荻窪四ノ二二〇）

宇田川太郎吉

地主　東京府在籍

妻　よね　明九、四生、東京、宇田川庄太郎妹
養子　はな　明二五、二生、亡養子源之助妻、東京、宮銀太郎妹
孫　繁男　明四三、一二生、亡養子源之助長男
孫妻　タケ　大二、一二生、孫繁男妻、東京、黑川米吉四女
孫　八重子　大八、一〇生、亡養子源之助長女

君は東京府人宇田川金次郎の長男にして明治八年一月七日を以て生れ同四十五年家督を相續す地主たり家族は尙孫つや子（大一三、一〇生、亡養子源之助二女）同照夫（昭五、一生、同三男）同千代子（同七、二生、同三女）曾孫太一（同九、二生、孫繁男長男）あり孫太喜男（大五、九生、亡養子源之助二男）は東京府人今井よねの養子となり叔父近之助（安政三、八生）同妻きん（元治元、四生、東京、中島米藏長女）は其子女を伴ひ分家し從妹のぶ（明一九、一〇生、叔父近之助長女）は東京府人齋藤外藏養子茂平に嫁せりA四九五（東京市城

區大島町二ノ七八六）

宇田川忠次郎

地主　東京府在籍

母　かね　文久元、三生、東京、荒井卯之助姉
妻　壽美　明三五、一一生、東京、大田啓藏長女

君は東京府人宇田川彦太郎の長男にして明治二十七年七月十二日を以て生れ大正七年家督を相續す地主たり家族は尙長女美津子（大一〇、八生）二女操（同一二、三生）三女久枝（昭三、一生）あり姉みち（明一九、一生）は東京府人齋田清吉に妹ふく（同三〇、一生）は同府人清水鋌三に同しま（同三四、五生）は同府人米山久次郎に嫁し弟銀藏（同三九、一生）は分家せりA五二三（東京市世田谷區羽根木町一七一二）

參照‖齋田清吉、清水鋌三の項

宇田川照次

地主　東京府在籍

祖父　權藏　嘉永六、九生
母　コウ　衛門二女　明一四、一一生、神奈川、原勘右

君は東京府人宇田川清三良の二男にして大正元年十月を以て生れ昭和四年家督を相續す地主たり家族は尙姉鶴子（明四二、五生、戸板女學校出身）妹光子（大五、一生）弟浪直（同八、五生）同順作（同一二、一生）あり叔母いち（明一二、七生）は東京府人宇田川市郎衛門に同やゑ（同一五、七生）は同府人小木久次郎に同しつ（同一九、二生）は同府人宇田川倉吉に（同しの）同三二、一生）は同府人高石芳太郎長男吉太郎に嫁し叔父彌三郎（同二五、五生）は分家せりA一六四〇（東京市品川區大井瀧王子町四四一七電大森四八二）

宇田川傳五郎

淀橋區會議員、地主　東京府在籍

母　てう　安政四、五生、東京、熊澤清右衛門孫
妻　キヌ　明二〇、七生、東京、宇田川金次郎妹
男　文一　明四三、一〇生
女　はな　大八、四生

君は東京府人宇田川當三郎の長男にして明治十五年四月を以て生れ大正十年家督を相續す地主たり家族は尙長女まき（明四〇、九生）は東京府人木村文次郎長男德太郎に二女ふで（大二、七生）は滋賀縣人寺田安太郎長男保之助に嫁せり（東京市淀橋區下落合三ノ一七九二電落合長崎五五）

宇田川傳三郎

地主　東京府在籍

母　キヨ　明九、八生、東京、中村倉太郎三女
妻　不二伊　明四〇、一〇生、長野、赤羽喜一長女、小諸高女出身
男　昭三　昭四、三生

君は東京府人宇田川半太郎の二男にして明治三十二年十二月を以て生れ昭和五年家督を相續す地主たり家族は尙二男和義（昭七、三生）同孝吉（大二、一二生）同清吉（明三三、一二生）は東京府人岸恒次郎長男竹次郎に嫁せり△二二八一（東京市淀橋區上落合二ノ六六六電大塚四七六）

宇田川トリ

地主　東京府在籍

養子　德藏　大八、一生、東京、宇田川寅吉庶子
私生子ツヤ　明四三、二生
私生子キヨ　大四、五生

君は東京府人宇田川芳太郎の長女にして明治二十年十二月を以て生れ大正十年家督を相續す地主たり家族は尙私生子スヱ子（大一一、七生）叔父寅吉（明一七、五生）及其一子あり妹とめ（同三六、四生）は分家し同たけ（同三九、四生）は新潟縣人猪股事迪に嫁せりA七六六（東京市澁谷區幡ヶ谷笹塚町一〇三二）

宇田川德左衛門

豊島屋、酒類商　東京府在籍

妻　るい　明一四、一二生、東京、田中良三姉
婿　かめ　明二二、二生、亡二男濱吉妻、古野四方吉長女
孫　德衛　大六、二生、亡二男濱吉二男
女　みつ　明三八、二生
男　多一　明四〇、五生
婿　くによ　明四〇、一二生、七男多一妻、東京、鈴木房次郎妹
女　とき　大三、二生
孫　初枝　大三、八生、二男濱吉長女

君は東京府人宇田川濱次郎の二男にして嘉永三年九月を以て生れ後家督を相續す豊島屋と稱し酒類商を營む家族は尙孫耀雄（大九、九生、二男濱吉三男）同榮（同一五、七生、同三女）同智子（昭四、一二生、七男多一長女）あり三男榮道（明二二、一二生）六男清一（同三五、二生）は各分家し四男浩（同二五、八生）も亦同妻カメ（同二九、九生、東京、鰐島惣太郎二女）及其一子を伴ひ分家し二女つね（同一六、五生）は東京府人鷲澤忠雄に三女や〻（同二〇、九生）は同府人尾形直吉に五女まさ（同四二、九生）は長野縣人今村强三に嫁せり（東京市淀橋區下落合一ノ五二三電大塚三六二三）

參照‖尾形直吉、田中良三の項

宇田川德太郎

薪炭商　東京府在籍

母　ユキ　元治元、三生、東京、富田銀次郎妹
妻　えい　明二三、九生、東京、廣田階次郎妹
男　喜好　明四四、一生
女　千代子　大三、三生

君は東京府人宇田川友吉の長男にして明治二十一年二月を以て生れ同三十八年家督を相續し薪炭商を營む家族は尙四女とり子（大一〇、二生）五女末子（同一四、三生）三男義雄（昭三、三生）ありA六四五（東京市世田谷區三宿町二六電世田谷二〇五四）

宇田川友幸

質商　東京府在籍

妻　はま　明二七、四生、東京、加藤鄧太郎妹
男　幸太郎　昭六、四生

君は東京府人宇田川伊太郎の六男にして明治二十年五月を以て生れ大正四年分れて一家を創立し質商を營むA四〇〇B二〇四（東京市澁谷區下通三ノ一六電高輪五一三九）

宇田川彦太郎
地主　東京府在籍
妻　そて　明一七、七生、埼玉、星野長五郎二女
男　豊太郎　明四四、三生
　　鐵五郎　大二、一〇生
君は東京府人宇田川鐵五郎の長男にして明治十一年四月を以て生れ大正元年家督を相續す地主たり家族は尚弟角次郎（明二六、一生）同妻ぎん（同二九、一一生、東京、碇谷藤吉姉）及其五子あり長女ふく（同四〇、四生）は千葉縣人山崎林治郎弟信夫に嫁し弟恒五郎（同二九、二生）は同妻米（同三五、二生、東京、久保田桑四郎二女）及其二子と共に分家せりA六九一（東京市向島區吾嬬町西七ノ六六）

宇田川政吉
帝都興業、武藏野館各㈱取締役、山三商店、薪炭商、東京府在籍
慶應二、四生、東京、永井バル養子
妻　とよ　明一四、九生、東京、長谷川金藏長女
養子　直治　明三一、一〇生、二女德子夫、栃木、植竹虎太弟
　　女　德子　明三九、一二生、養子直治妻
君は東京府人宇田川寅吉の長男にして明治十三年二月を以て生れ大正九年家督を相續す山三商店と稱し薪炭商を營み傍ら前記各會社の重役たり孫昌俊（大一五、三生、養子直治長男）同和俊（昭四、七生、同二男）同雅代（同六、二生、同長女）ありA一三〇九（東京市淀橋區角筈一ノ一電四谷五五二）
參照＝※上野毋之助の項

宇田川與三郎
地主　東京府在籍
父　小三郎　文久三、七生、東京、宇田川源兵衛長男
妻　シズ　明三一、六生、東京、神田傳右衛門四女
男　象義　大八、二生
君は東京府人宇田川小三郎の二男にして明治二十六年七月を以て生れ大正十五年家督を相續す同十三年東京帝國大學醫學部を卒業し目下同大學にて研究中なり地主たり家族は尚弟關太郎（明三六、六生）あり幸吉（同四三、一一生）同正吉（大二、五生）あり弟末吉（明三八、一一生）養妹澄江（明三六、一生）同静（同三七、一〇生）同一〇生）は分家せりA三一七（東京市澁谷區幡ヶ谷笹塚町一〇三四）

宇田川龍五郎
自米商　東京府在籍
妻　キン　明一三、一生、養父鐵次郎長女
　　一郎　明三五、一二生
君は東京府人梅原八右衛門の二男にして明治九年五月を以て生れ先代鐵次郎の養子となり同四十五年家督を相續す自米商を營む家族は尚養妹タキ（明二七、五生）あり同ス、（同一七、二生）は東京府人根本東次に嫁せりA七三七（東京市世田谷區三宿町一八電世田谷三一〇三〇）
參照＝宇田川一郎、根本東次の項

宇田川禮三
三井銀行員、地主　東京府在籍
明一三、五生、東京、當麻三左衛門妹
男　喜一　明三四、六生、養父喜重長女
　　富　昭二、四生
君は埼玉縣人田中四一郎の三男にして明治三十二年二月を以て生れ先代喜重の養子となり大正十五年家督を相續す同十三年東京帝國大學經濟學部を卒業し直に三井銀行に入り現に同行考査課に勤務す地主たり家族は尚長女芳江（大一四、一一生）二男軍則（昭四、六生）あり妹うた（明三六、七生）は分家せりA一八八四（東京市城東區大島町二ノ一五七電本所三二五九）
參照＝田中四一郎、※田中彌兵衛の項

宇津權右衛門
栃木縣多額納稅者、商店㈱取締役、宇津救命丸本舗、藥種商、栃木縣在籍
養父　廉藏　明一一、三生
養母　まさ　明一〇、七生、埼玉、高鹿正夫伯母
妻　澄　明三二、三生、養父廉藏長女
　　廣　大一〇、一一生
君は栃木縣人小倉喜一の弟にして明治三十年三月を以て生れ先代廉藏の養子となり昭和三年家督を相續し前名蕉を改め襲名す賣藥商を營み宇津救命丸本舗として知られ直接國稅千八百二十圓を納め栃木縣多額納稅者たり家族は尚長女重子（大一二、九生）二男誠（同一四、一一生）養妹澄江（明三六、一生）同静（同三七、一〇生）九段精華高女出身）同夫順平（同三七、一二生、岩手、佐々木保五郎二男）及其二子あり養伯母スイ（同九、三生）は茨城縣人田邊利兵衛に養叔母タマ（同一三、一二生）は栃木縣人津久井新一郎養子保に嫁せり（東京市麹町區飯田町一ノ七電九段五七三「店舗」日本橋區本町三ノ一二電思遺花一五七）
參照＝小倉喜一の項

宇津木信夫
資産家　東京府士族
男、現戸主、明三八、一生、熊本、本田甚藏二男
養子　千代彦　明四四、一生、養子千代彦妻、分家長男武夫二女
　　婦　文子
君は東京府士族宇津木貞夫の長男にして安政二年六月九日を以て生れ明治十五年家督を相續す資産家にして蘭に大日本圖書會社監査役たり事あり家族は尚孫昌夫（昭六、六生、養子千代彦長男）同恒夫（同八、八生、同二男）妹なみ（安政六、一一生）あり長男武夫（明一二、一〇生）は其妻利子（同一九、一〇生、東京、日置兵一三女）と共に分家し叔母かず（安政元、四生）も亦分家し妹しげ（明六、一一生）は其養子となり孫静子（同四一、二生、分家長男武夫長女）は東京府人宇津木顯夫に嫁せりA七二八（東京市牛込區二十騎町三五電牛込一六〇九）

宇都野研
宇都野病院長、醫師　東京府在籍
母　ちた　安政元、六生、愛知、杉村倫造姉
妻　澄　明一三、一生、醫學博士田村昌姉、閨秀畫家、東京女高師出身
男　龍一　明四一、六生、北大醫學部在學
　　鈴　明四五、五生、御茶の水高女出身
女　廣　大一〇、一生
當家は古くより愛知縣額田郡本宿村に住し代々醫を業とし先代戈に至る君はその長男にして明治十年十一月を以て生れ大正五年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學醫科大學を卒業し同大學小兒科教室に勤務し大正六年以來宇都野病院を經營し其院長たり短歌研究に趣味あり同人雜誌「白樫」を發行す家族は尚二男紀（大

五二生）三男弦（同九、一二生）四女笑（同一二、一二生）あり長女百合（明四三、七生、御茶の水高女出身）は山梨縣人山縣英吉長男宇都野病院副院長醫學士汎に嫁し叔母きい（安政五、一生）は東京府人八代常夫の繼母たりA一〇六八（東京市本郷區駒込東片町三三電小石川四九六二）
參照＝八代常夫、※越川道三の項

宇都宮宇作
醫療機械並計量器商　大阪府在籍
妻　好江　明二七、九生、兵庫、杉岡藤右衛門妹
男　宏　大一三、一〇生
君は愛媛縣人宇都宮實松の弟にして明治十五年十月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す醫療器械及計量器商を營む家族は尚長女光（昭二、六生）ありA二四五〇B三五八（大阪市東區淡路町一ノ一七電本局八六四）

宇都宮季綱
正五位勳五等、帝林局技師、熊本帝林局造林課長、鹿兒島縣在籍
妻　ヤス　明二九、七生、鹿兒島、大田敏彦妹
男　實　昭四、四生
　　經子　大七、七生
　　榮　大八、一二生
女
君は鹿兒島縣人宇都宮休次郎の長男にして明治十七年四月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し同年林務技手に任ぜられ爾來廣島大林區署鳳山小林區署長山林技師熊本大林區署人吉小林區署長帝林局技師高知大阪青森の各帝林局營林課長等に歷任し昭和四年前記現職に轉ず家族は尚三女久（大一一、四生）四女富子（同一三、三生）五女孝子（同一五、九生、弟四郎（明二七、七生）あり（熊本市西坪井町一〇八電一五四八）

宇都宮壯十郎
むつみ屋、東宇興業各㈱取締役　愛媛縣在籍
母　タヅ　嘉永六、三生、愛媛、阿部與七郎長女
妻　アイ　明一三、五生、愛媛、矢野豫一郎三女
　　榮子　明三五、一一生、養子濱子夫、三重、松田六太郎二男、東宇興業㈱取締役
　　治郎兵衛
君は愛媛縣人宇都宮壯十郎の二男にして明治十年二月を以て生れ同二十二年兄秀雄方より分れて一家を創立す妙香寺住職にして現時東京博美會社代表取締役たり家族は尚庶子鐵彦（大一四、一〇生、生母、東京、岡田ハナ）ありA一五三四（横濱市中區北方町六三九電本局三四四九）

宇都宮政市
下野電氣鐵道㈱社長、昭和土地專務取締役、王子環狀乘合自動車日光登山鐵道、王子電氣軌道各㈱取締役、筑波鐵道、王子鐵道、東武鐵道各㈱監査役、愛媛縣在籍
妻　滿壽美　明三七、三生、愛媛、廉田一姉、松山高女出身
　　寿　明三八、一二生、昭和土地會社員法學士
　　子　大二、七生、長男孝妻、愛媛、田中研吾妹、宇和島高女出身
男　信　明一三、五生、愛媛、矢野豫一郎長女
君は愛媛縣人宇都宮壯十郎の長男にして明治十年二月を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十四年日本法律學校を卒業し辯護士となり大正三年筑波鐵道會社監査役に舉げられ爾來諸會社に關係し現時下野電氣鐵道會社の重役たり養に下谷區會議員東京市會議員等に推さる讀書に趣味を有すA四五三五（東京市下谷區谷中清水町一九電下谷四五三四）

宇塚善司
大日本乳製品㈱常務取締役、明治商店㈱取締役、栃木縣在籍
妻　美智　明二五、六生、愛知、今井謙長女
女　照子　大九、八生
　　吉　大三、一二生
　　幸子　大六、二生
　　和子　大八、二生
君は栃木縣人宇塚善四郎の長男にして明治十七年六月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す現時大日本乳製品會社常務取締役明治商店取締役たり家族は尚二男二郎（大一二、二生）四女美代子（同一三、六生）あり（本邸＝札幌市南十條西六ノ四一五電四三〇一「別邸」東京市澁谷區千駄ヶ谷五ノ四四九）

宇都宮日綱
東京博美會社代表取締役、妙香寺住職、僧侶、東京府在籍
妻　たけ　明八、五生、東京、齋藤いね二女
　　庶子　朝彦　明四四、三生、生母、吉田きむ
君は東京府人宇都宮源太郎の三男にして明治五年三月を以て生れ同二十二年兄秀雄方より分れて一家を創立す妙香寺住職にして現時東京博美會社代表取締役たり家族は尚庶子鐵彦（大一四、一〇生、生母、東京、岡田ハナ）ありA一五三四（横濱市中區北方町六三九電本局三四四九）

宇土兵藏
從四位勳三等功五級、海軍主計少將、博多灣鐵道汽船㈱監査役、長崎縣在籍
明一七、一生、東京、士、佐野直義長女
　　雄　明三八、八生
君は長崎縣人宇土佐十郎の次男にして明治五年二月を以て生れ昭和四年兄豊太郎方より分れて一家を創立す明治二十七年專修大學理財科を卒業し海軍少主計に任じ同主計少將に累進す其間海軍經理學校教官兼監事海軍省經理局第二課長海軍採炭所長佐世保海軍經理部長兼佐世保鎮守府主計長等に歷補し後豫備役に編入せらるる蘭に經理學校甲種學生優等卒業の際恩賜時計を拜受し日露戰役の功に依り功五級金鵄勳章を賜はる現時博多灣鐵道汽船會社監査役湯江信用組合長たりA一〇〇（長崎縣南高來郡湯江村）
參照＝※香月清司、※藤田利英の項

宇野新
樂山堂病院㈱出資社員　東京府在籍
母　いし　文久三、九生、靜岡、河邊喜右衛門二女
妻　幾久　明二七、一〇生、靜岡、士、大井嘉久次郎長女
男　立　大五、一生

女　春枝　大六、四生
女　裕子　大八、四生

宇野家は代々豆州三島町に住し醫を業とせり先代朗夙に東京大學を卒業し後歐米に學び明治二十四年醫學博士の學位を受け東京帝國大學醫科大學教授に任じ同大學附屬醫院長を兼ね日清戰役に際し戰地に差遣せらる後樂山堂病院を設立し其院長たり君は其の長男にして明治十四年八月を以て生れ昭和三年家督を相續す現時同病院出資社員たり趣味として謡曲を好む家族は尚二男榮三(大一二、三生)弟五郎(明二九、二生)同六郎(同三〇、二生、慶應義塾出身)同七郎(同三五、一〇生、出身校同上)同八郎(同三八、五生)妹伸子(同四一、一生、九段精華高女出身)あり弟俊夫(同二一、一〇生、樂山堂病院副院長、醫學士)同妻千代(同三四、四生、文學博士上田萬年長女)は其の一女を伴ひ分家し同孝(同二二、九生、東京歯科醫學士同四四)同二六、四生)も亦分家し妹よし子(同一九、一〇生)同夫功一(同一三、一生、德島、崎下右一郎弟、醫學士)も亦其の子女と共に分家し同綾子(同三三、五生)は法學士矢島正昭に同田鶴(同三七、三生、御茶の水高女出身)は理學士小田茂雄に嫁せり(A八四四(東京市大森區池上本町三三三電大森三七四八。池上七)

参照＝上田萬年の項

宇野榮助

大阪農工銀行員
大阪府在籍

祖母　廣安政五、一生、大阪、松下豊太郎妹
母　クミ　明九、九生、大阪、瀬川末造妹
妻　フミ　明三七、九生、大阪、曾根又右衛門長女
男　史郎　大一四、五生

君は大阪府人先代榮助の長男にして明治三十三年二月十三日を以て生れ大正十一年家督を相續し前名健市を改め襲名す現に大阪農工銀行員たり家族は尚二男憲治(昭二、一生)四男行信(同七、一〇生)弟義雄(明四二、六生)同妻富美子(同四四、六生、大阪、濱田稔妹)同博(同四四、一二生)あり弟秀雄(同三七、八生)は兵庫縣人戸田貫の養子となり當主たりA四一九(大阪市天王寺區上汐町一ノ六電南九五四)

参照＝戸田秀雄の項

宇野儀左衛門

若狭三方郵便局長、三方銀行㊟頭取、福井縣在籍

妻　しん　明一〇、一生、福井、西岡正令五女
男　義夫　明三三、一一生
婦　さく　明三九、五生、長男義夫妻、福井士、藤田忠行四女
男　正　明三六、二生
男　寅三　大三、八生

君は福井縣人先代儀左衛門の長男にして明治五年九月を以て生れ同十一年家督を相續し前名十太郎を改め襲名す現時三方郵便局長にして藩に三方合同運送會社長たり事あり家族は尚孫博之(昭一、二生、長男義夫長男)同勝太(同四、八生、同二男)あり

宇野儀左衛門

若狭三方郵便局長、三方銀行㊟頭取、福井縣在籍

妻　しん　明一〇、一生、福井、西岡正令五女
男　義夫　明三三、一一生
婦　さく　明三九、五生、長男義夫妻、福井士、藤田忠行四女
男　正　明三六、二生
男　寅三　大三、八生

君は福井縣人先代儀左衛門の長男にして明治五年九月を以て生れ同三十四年家督を相續し前名十太郎を改め襲名す現時三方郵便局長にして藩に三方合同運送會社長たり事あり家族は尚孫博之(昭一、二生、長男義夫長男)同勝太(同四、八生、同二男)あり養母とわ(安政五、一生、福井、古澤清五郎三女)弟泰造(明二五、五生)は共に福井縣人古澤熊吉の家籍に入り三女千代子(同四二、六生)は安田銀行員無越正一に妹とわ(同一二、四生)は福井縣人小堀定次郎に嫁せり(福井縣三方郡八村)

宇野久之介

福島誠壹㊟代表取締役、安田銀行㊟福島支店長、茨城縣在籍

妻　ミサヲ　明二七、九生、福岡、宮原雄藏二女
男　孟　大一〇、八生
女　光子　大八、一生

君は茨城縣士族宇野彌兵衛の五男にして明治二十一年創立す同四十一年安田銀行に入り釜山松江各支店長に歴任し現に同行福島支店長にして兼ねて福島誠壹會社重役たり家族は尚二女久江(昭二、七生)三男哲夫(同四、八生)あり(福島市佐倉町電三〇)

宇野繼五郎

武藏屋、荒物問屋業
東京府在籍

養母　よし　安政二、六生、東京、河野新右衛門二女
妻　いそ　明一〇、一生、養父小三郎長女
男　良太郎　明四三、五生

君は東京府人矢萩千代吉の弟にして明治九年十一月を以て生れ先代小三郎の養子となり大正八年家督を相續す武藏屋と號し荒物問屋業を營むA五二〇B七四(東京市神田區須田町一ノ三二電神田二七七)

宇野源三郎

大阪管見社主、家主
大阪府在籍

妻　アサ　大阪、三田虎吉養子
男　賢次　明四〇、一〇生
女　豊子　大六、六生

君は大阪府人宇野芳兵衛の三男にして明治二年一月八日を以て生れ同十一年家督を相續す同二十五年明治法律學校を卒業し爾來倉庫業を營み現に大阪管見社主にして又家主として知られる藩に大阪鐵業會社重役たり事あり家族は尚四男庄三(大四、六生)四女京子(大一一、二生)五男佐(昭二、五生)六男茂(同四、一〇生)孫仁也(大一三、一生、亡長男清長男)ありA五七五(大阪市西區松島町一ノ三九電西七七〇)

宇野源太郎

化粧品石鹸問屋業
岡山縣在籍

父　壽一　安政五、三生、現戸主
妻　やゑ　明三一、一〇生、兵庫、的場麻吉孫
男　章　大一二、一〇生

君は岡山縣人宇野壽一の長男にして明治二十二年十月三十日を以て生る大正十四年中央大學を卒業し化粧品石鹸問屋業を營む家族は尚長女節子(大一五、一生)二男泰生(昭二、七生)三男隆助(同四、五生)あり(大阪市東區南久寶寺町三ノ五電船場一八〇三)

宇野甚太郎

第一銀行㊟檢査役、檢査部副部長
東京府在籍

繼母　ぬい　元治元、一〇生、東京、士、秋山錦三女
妻　信　明二七、九生、東京、安藤寛三郎長女

君は東京府人宇野甚五郎の長男にして明治十七年七月を以て生れ明治四十三年家督を相續す現時第一銀行檢査役にして檢査部副部長たり藩に同行檢査部第一掛長室町吳服橋各支店支配人等に歴任す家族は尚長女久遥子(大一五、三生)ありA八三四(東京市下谷區上野櫻

木町三九電下谷七五七二)

宇野善造

青森縣多額納稅者、第五十九銀行㊟監査役、酒造業、青森縣在籍

女　いま　明二一、一〇生、亡養子房次郎妻
孫　善次郎　明四〇、一生、亡養子房次郎二男
孫妻　タケ　明四一、四生、孫善次郎妻、青森中村龜吉三女
孫　みち　明四四、二生、亡養子房次郎二女
孫　まさ　大三、一二生、亡養子房次郎三女
孫　貞　大七、一二生、亡養子房次郎四女

君は青森縣人植田平吉の二男にして宇野勇作同要三郎の養兄なり元治元年五月を以て生れ宇野清左衛門の養子となり明治三十四年分れて一家を創立す酒造業を營み傍ら第五十九銀行監査役にして直接國稅八百三十一圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尚孫房造(大一〇、七生、亡養子房次郎四男)同俱(同一三、五生、同六女)同勇三(同一四、一二生、同五男)同房(昭五、一生、同七女)曾孫俊(同四、七生、孫善次郎長女)あり三女あき(明二五、八生)は青森縣人佐藤清十郎長男清一郎に嫁せり(青森縣南津輕郡黑石町)

参照＝宇野勇作、宇野要三郎楽坂上五郎兵衛の項

宇野次四郎

中越銀行㊟監査役
富山縣在籍

萬延元、一〇生、富山、大谷次郎作妹
妻　幾久　明二〇、一一生、野村茜二郎長女
男　盡太郎　明三八、三生
婦　よし　明四一、一一生、三男盡太郎妻、富山、神田七次郎三女
女　あや　大二、六生

君は富山縣人先代次四郎の長男にして明治十一年十二月を以て生れ大正八年家督を相續し前名幸太郎を改め襲名す現時中越銀行監査役にして藩に米倉銀行取締役たりしことあり家族は尚六男敏雄(大五、四生)七男達雄(同七、一一生)二女昌(同一〇、四生)四女壽美(同一四、一二生)孫慶一(昭四、六生、三男盡太郎長男)弟直次郎(明二五、四生)あり姉たみ(同一〇、一生)は富山縣人中島源助に嫁せり(富山縣東礪波郡井波町電一六八)

参照＝神田七次郎、中島源助の項

宇野哲人

正四位勳二等、文學博士、東京帝國大學教授㊟東京文理科大學教授
文學部務、熊本縣士族

妻　ひで　明一七、四生、東京、士、三宅正信長女
男　精一　明四三、一二生
男　良二　大三、一一生

君は熊本縣士族宇野東風の弟にして明治八年十一月を以て生る同三十三年東京高等師範學校教授に任ぜられ同三十八年東京帝國大學文科大學漢學科を卒業し同三十六年東京帝國大學文科大學助教授となり大正八年同教授に進み同年文學博士の學位を受く曾て清國及國に留學し現時東京帝國大學教授兼東京文理科大學教授たり「儒學史」「支那哲學史講話」外數種の著書あり家族は尚三男達人(大六、四生)四男義方(同八、一一生)五男健吾(同一一、八生)三女妙子(同一三、一〇生)兄東風(安政六、一一生、現戸主)同妻ノブ(明二、二生、熊本、士、中村正一姉)及其子女あり兄正魁(慶應二、四生)は東京府士族服部正澄に同彌一(明二、一〇生)は熊本縣士族愛甲義貫に各養子となり長女澄子(同三九、三生、跡見女學校出身)は臺北帝國大學教授桑田六郎に二女綾子(大元、八生、府立第二高女出身)は理學士篠原健一に姪ヨシ(同二九、八生、兄東風長女)は熊本縣士族中山政雄に同絢子(同四〇、三生、同二女)は同縣人杉谷正図に嫁せりA三五九(東京市小石川區高田老松町一一電牛込五〇〇六)

宇野藤吉

泉醬油㊟取締役
大阪府在籍

妻　ひさ　明二、七生、大阪、宇野庄蓄計二女
男　龜三郎　明三四、七生
婦　房子　明四一、九生、三男龜三郎妻、和歌山、前田璋妹
男　美也　明四三、二生

君は大阪府人鳥井伊平の弟にして明治元年十月を以て生れ先代德右衛門の養子となり同二十九年養弟忠夫の跡を承け家督を相續す現時前記各會社の重役にして藩に三隅村長山口縣會議員同縣參事會員たりし事あり家族は尚養妹ヒサ(明一六、五生、養弟忠夫(同二七、一生)あり養妹クリ(同一九、二生)は山口縣人三上勇

宇野秀吉

桃中軒㊟代表取締役
靜岡縣士族

妻　いさゑ　明二〇、五生、岐阜、大野元四郎長女
男　修二　明四三、九生
男　三郎　大元、九生
女　好枝　大五、一一生

君は大阪府人河合義秀の四男にして明治十八年十一月を以て生れ先代なをの養子となり同四十一年家督を相續す同四十四年早稲田大學專門部政治科を卒業し現時桃中軒代表取締役にして藩に名取商會取締役たりし事あり家族は尚六男紳七郎(大九、一生)あり(沼津市下香貫二七七四電二四四)

宇野正雄

日清製粉㊟鶴見工場長
愛知縣在籍

妻　きく　明二六、一一生、愛知、中根與七五女
男　康雄　大一三、九生
女　千惠子　大八、一生

君は愛知縣人宇野精一郎の二男にして明治十七年十二月を以て生れ大正七年兄專一郎方より分れて一家を創立す同二年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し日清製粉會社技師となり大正八年社命により製粉業視察のため歐米各國を漫遊し翌年歸朝す現時同社鶴見工場長たりA三四〇(東京市澁谷區元廣尾町一電青山三五二六)

宇野政輔

安東製氷㊟代表取締役、伊佐奈商會㊟取締役、山口縣在籍

妻　サト　明一四、一生、養父德右衛門二女
男　德兄　明三二、七生
女　マサ子　明四四、二生
女　禮子　大四、一生
　　澤　大八、八生

君は山口縣人宇野武政の長男にして明治六年五月を以て生れ先代德右衛門の養子となり同二十九年養弟忠夫の跡を承け家督を相續す現時前記各會社の重役にして藩に三隅村長山口縣會議員同縣參事會員たりし事あり家族は尚養妹ヒサ(明一六、五生、養弟忠夫(同二七、一生)あり養妹クリ(同一九、二生)は山口縣人三上勇

晋に同スミ（同二二、一二生）は同縣士族河野友太長男利長に嫁せり（山口縣大津郡三隅村）

宇野政行　熊本縣在籍

妻　シツメ　明一〇、九生、妻母キヨ二女
男　親寛　明四二、一一生
男　正治　大元、一一生
女　チイ　大五、五生

君は熊本縣人清田幸作の二男にして明治九年十二月を以て生れ先代キヨの婿子となり同四十一年家督を相續す少壯教育界に在る事約十年間三十九年九月九州日々新聞社に入り政治記者となり專ら言論に雄を執り大正八年編輯部長に進み同十五年六月外遊の途に就き昭和二年一月歸朝同六月顧社長となり主筆を兼ね同五年二月社長に就任し今日に至る家族は尙三男正男（大八、八生）あり（熊本市京町二ノ二一〇電二二一〇）

宇野又兵衛　藥種商　大阪府在籍

男　元男　大元、一〇生
女　房江　大四、一〇生

君は大阪府人先々代又兵衛の三男にして明治四年二月十日を以て生れ同三十二年亡兄又兵衛の後を承け家督を相續し前名豊三郎を改め襲名す藥種商を營む家族は尙二男豊三（大七、一一生）亡兄又兵衛妻ゆき（明二、六生、大阪、奥山駒治郎姉）弟新次郎（明一〇、一〇生）同妻千代（同一七、五生、大阪、金川善兵衛妹）及其四男一女あり A六九〇B一五三（大阪市東區德井町二ノ一〇二電東五四）

宇野勇作　貴族院議員、青森縣多額納稅者、第五十九銀行頭取、尾上銀行取締役、青森貯蓄銀行、三戸專務取締役、弘南鐵道取締役、農業　青森縣在籍

妻　やゑ　明九、一〇生、青森、高橋理右衛門長女
男　清一郎　明二四、一〇生
男　清吾　明三〇、一二生、長男清一郎妻、
婦　たけ　青森、松木秀輔妹
男　清六　明四五、一生
孫　きく　大六、九生、長男清一郎長女

君は青森縣人宇野清左衛門の長男にして同要三郎の兄同薄造の養弟に當り明治四年二月を以て生れ大正十五年家督を相續す農業を營み前記各銀行會社の重役にして青森縣多額納稅者に列し直接國稅三千四十五圓を納む昭和七年貴族院議員に互選せらる家族は尙孫良作（大八、四生、長男清一郎長男）同エツ（同一〇、三生同二女）同ムツ（同一三、一〇生、同三女）同テル（昭二七生、同四女）同サチ（同四、一一生、同五女）あり 長女きよ（明二八、一一生）は同縣人坂上五郎兵衛長男良助に嫁せり（青森縣南津輕郡六郷村）

參照＝宇野善造、宇野要三郎、坂上五郎兵衛の項

宇野要三郎　從四位、勲三等、判事、東京地方裁判所長、青森縣在籍

妻　ともゑ　明二〇、四生、海軍中將柿村永孚二女、頌榮高女出身
男　俊郎　明四三、四生、東大文學部在學
男　秀郎　大二、一二生、東大工學部在學

君は青森縣人現戸主勇作の弟にして明治三十七年京都帝國大學を卒業し同年大正十二年大審院に入る同三十九年に判事に任じ爾來神戸地方同區各裁判所判事大津浦和各地方裁判所判事東京地方裁判所部長同控訴院判事東京控訴院判事を歷補し昭和四年横濱地方裁判所長大審院判事等に歷補し現時前記の職に在り大正十二年勲六に出張を命ぜらる長女ハル（明四〇、六生、府立第三高女出身）は奈良縣人中井將一に嫁せ A二〇五（東京市澁谷區桑迫二ノ一三電青山七六〇）

參照＝宇野善造、宇野勇作、宗坂上五郎兵衛の項

宇野義助　鐵工業　東京府在籍

父　竹次郎　慶應二、一生
母　たよ　明二女、大阪、北川平左衛門二女
妻　光子　明三六、三生、東京、森田高助長女
男　庫太　昭六、六生

君は東京府人先代竹次郎の長男にして明治二十三年三月十九日を以て生れ昭和六年家督を相續す鐵工業を營み資產家なり同薄造の養弟に當り明治四年二月を以て生れ大正十五年家督を相續す農業を營み前記各銀行會社の重役にして青森縣多額納稅者に列し直接國稅三千四十五圓を納む昭和七年貴族院議員に互選せらる家族は尙孫良作（大八、四生、長男清一郎長男）同エツ（同一〇、三生同二女）同ムツ（同一三、一〇生、同三女）同テル（昭二七生、同四女）同サチ（同四、一一生、同五女）あり 長女きよ（明二八、一一生）は同縣人坂上五郎兵衛長男良助に嫁せり（青森縣南津輕郡六郷村）

參照＝宇野善造、宇野要三郎、坂上五郎兵衛の項

宇野要三郎　從四位、勲三等、判事、東京地方裁判所長、青森縣在籍

妻　ともゑ　明二〇、四生、頌榮高女出身
男　俊郎　明四三、四生、東大文學部在學
男　秀郎　大二、一二生、東大工學部在學

君は青森縣人現戸主勇作の弟にして明治十七年京都帝國大學を卒業し同年大正十二年大審院に入る同三十九年に判事に任じ爾來神戸地方同區各裁判所判事東京地方裁判所部長同控訴院判事東京控訴院判事を歷補し昭和四年横濱地方裁判所長大審院判事等に歷補し現時前記の職に在り大正十二年勲六に出張を命ぜらる長女ハル（明四〇、六生、府立第三高女出身）は奈良縣人中井將一に嫁せ A二〇五（東京市澁谷區桑迫二ノ一三電青山七六〇）

參照＝宇野善造、宇野勇作、宗坂上五郎兵衛の項

宇野和一郎　大日本窯業、日本蓬業、井原織物所、山陽麻量衡各株取締役　岡山縣在籍

妻　里　慶應二、一生、岡山、江口熊次郎長女
男　淳一　明二二、七生
婦　市野　明二七、一〇生、長男淳一妻、岡山、秋山辨吉長女
男　弘藏　明三〇、一生、東北帝大助教授、經濟學士
婦　マリヤ　明三六、三生、二男弘藏妻、大阪高野岩三郎長女
孫　富美　大六、一生、長男淳一長女

君は岡山縣人宇野順藏の長男にして元治元年四月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙孫一郎（大七、一二生、長男淳一長男）同博二（同一〇、七生、同二男）同學三（昭四、一二生、同三男）同義郎（大一四、一生、二男弘藏長男）同都子（昭二、三生、岡山、小川鑑治郎二女）は弟晉吉（明一二、六生、岡山、石井守一二男）も亦共に分家し妹近（慶應三、三生）は岡山縣人宇野太三郎に同照（明七、二生）は同縣人大森金次郎に嫁せり（大阪市倉敷三九六電七三）

參照＝高野岩三郎の項

宇野澤辰次　宇野澤組鐵工所、ポンプ製造業　東京府士族

妻　三枝　明三五、六生、東京、野口保與三女
男　一郎　明一九、一生、東京、大築義妹
男　一生　明四四、八生
女　喬子　大三、五生

君は東京府士族宇野澤辰雄の長男にして明治三十一年一月を以て生れ大正八年家督を相續すポンプ製造業を營み宇野澤組鐵工所を經營す家族は尙祖順平（明三八、一生）あり同秀大（同三三、五生）は叔父宇野澤重治の死跡を相續し妹多美（同三五、四生）は廣島縣人田和芳二郎三男敬爾に嫁せり A九八七B三〇八（東京市澁谷區山下町六二電高輪五八七五）

宇美常吉　羽大醬油、鶴本醬油、鬼本醬油株監査役、金融業　福岡縣士族

妻　チトセ　明一九、二生、大分、成清信愛叔母
男　善之助　明四〇、一生
男　貫一　明四二、二生
女　節子　明四四、八生
女　喬子　大三、五生

君は福岡縣士族宇美善右衛門の二男にして明治十年十月を以て生れ同四十一年家督を相續す金融業を營み傍ら前記各會社の重役にして養に宇佐見銀行成清貯金銀行各重役たり事あり家族は尙三男常彦（大六、九生、四男博彦（同一二、五生）五女慶子（昭二、二生）弟喜久雄（明二二、三生）あり（福岡縣八女郡邊春村電五）

參照＝成清信愛の項

宇山繁　正七位勲六等、陸軍一等軍醫、同愛社常務理事、小兒科宇山醫院長　醫師　東京府在籍

繼母　茂登　嘉永五、一生、東京、早川清六長女
妻　のぶ　明一七、一一生、東京、大築義妹
男　旭　明三九、六生
男　松雄　明四一、一二生
女　道　明四五、二生

宇山家は清和源氏の裔なる房州里見家の岐れなり數代前江戸に居を移し代々醫を業とせり君は宗家宇山道朝の二男にして明治五年五月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同年千葉醫學專門學校を卒業し一年志願兵となり三等軍醫に任ぜらる日露戰爭起るや第一師團に屬し滿韓各地に從軍し二等軍醫に進み戰後一等軍醫に昇進し勳六等に敍せらる明治二十九年以來現地に開業し小兒科宇山醫院と稱し傍ら社團法人同愛社管務理事として社會事業に從事す養に京橋ビルディング中央生命保險各會社取締役にして神田區名譽職を以て待遇せらる和歌漢詩謠曲に趣味あり長女錠（明三一、二生、府立第一高女出身）は東京府人佐々木庄司に二女花（同三六、四生、御茶の水高女出身）は千葉縣人岩淵俊造孫駿一に嫁し三男高嶺（同三五、二生 は分家せり A四四六（東京市神田區佐久間町四ノ二二電下谷一三一三）

宇留野勝彌　醫學博士、山形市立病院濟生館小兒科醫長、醫師、山形縣士族

妻　サダ　明三八、三生、山形、鈴木喜七郎長女
男　勝敏　大一二、一一生

君は山形縣士族宇留野藤吉の長男にして明治二十七年七月を以て生れ昭和八年家督を相續す大正十年東京帝國大學醫學部を卒業し昭和二年醫學博士の學位を授けらる養に縣立廣島病院小兒科部長にして廣島兒童愛護會を主宰し現時山形市立病院濟生館小兒科醫長たり家族は尙長女ふじ子（大一四、二生）二女博子（昭二、一一生）二男勝水（同五、七生、妹いく（明四三、九生）弟勝正（大四、一生、妹ミツ（同六、一生）あり 姉すみ（明二四、五生）は山形縣人半田六三郎に妹はる（同三一、三生）は同縣人進藤佐吉弟佐五右衛門に同タカ（同三九、五生）は同縣人眞田一郎に同たけ（同四一、八生）は同縣人竹田吉郎に嫁せり（山形市香澄町電七七四）

宇和川武夫　東洋製鐵株支配人　東京府士族

繼母　ヒサ　慶應二、六生、愛媛、菅良明長女
妻　イマ　明一九、三生、愛媛、高橋正次郎三女
男　廣　明三九、六生
婦　ヨシエ　明三九、一〇生、長男廣妻、北海道、佐藤申吉三女
男　透　明四四、二生
女　綠　大四、四生

君は愛媛縣士族宇和川匡義の長男にして明治十四年二月二十日を以て生れ同二十九年家督を相續す現時東洋製鐵會社支配人たり家族は尙四男眞（大七、一二生、孫發子（昭六、六生、長男廣長女）の外弟正夫（明二一、九生、砲兵中佐）同妻幸（同二八、一二生、愛媛、白石信盛長女）及其一男二女弟匡夫（同二七、九生、歩兵大尉 同妻ユリ（同三七、八生、香川、久保金七四女）及其二男あり A一五七（東京市芝區白金三光町四五一電高輪二二五七）

卯尾田毅太郎　新湊町長、富山縣參事會員、越中鐵道株取締役、新湊商業株監査役　富山縣在籍

父　兵次郎　明六、一〇生、現戸主
妻　まつい　明三五、五生、富山、水野莊次郎三女
男　欣一　昭五、一生

君は富山縣人卯尾田兵次郎の長男渡邊八三郎の甥にして明治二十七年四月を以て生る大正七年早稻田大學商科を卒業し現時新湊町長富山縣參事會員の任に在る外前記諸會社重役たり養に新湊商工會長に擧げらる家業は尙長女文枝（大一一、三生）三女扶佐子（昭二、六生）あり（富山縣射水郡新湊町電三二四）

參照＝卯尾田兵次郎、渡邊八三郎の項

卯尾田兵次郎　新湊銀行株常務取締役　富山縣在籍

妻　やい　明一〇、三生、富山、大井清平長女
男　毅太郎　明二七、四生

君は富山縣人渡邊八三郎の弟にして明治六年十月を以

君は東京府人先代竹次郎の長男にして明治二十三年三月十九日を以て生れ昭和六年家督を相續す鐵工業を營み資產家なり同薄造の養弟に當り明治四年二月を以て生れ大正十五年家督を相續す農業を營み前記各銀行會社の重役にして青森縣多額納稅者に列し直接國稅三千四十五圓を納む昭和七年貴族院議員に互選せらる家族は尙孫良作（大八、四生、長男清一郎長男）同エツ（同一〇、三生同二女）同ムツ（同一三、一〇生、同三女）同テル（昭二七生、同四女）同サチ（同四、一一生、同五女）あり 長女きよ（明二八、一一生）は同縣人坂上五郎兵衛長男良助に嫁せり（青森縣南津輕郡六郷村）

參照＝宇野善造、宇野要三郎、坂上五郎兵衛の項

宇野亮一　岸和田銀行、岸和田貯蓄銀行各株頭取、泉陽紡織、和泉紡績各株社長、大阪府在籍

母　ヌイ　安政二、五生、大阪、原文平伯母
妻　フミ　明二〇、一二生、大阪、原文平妹
養子　保雄　明三七、六生、長女チヨ夫、奈良谷甚太郎弟
女　チヨ　明四一、四生、養子保雄妻

君は大阪府人宇野四一郎の二男にして明治十二年八月を以て生れ大正四年家督を相續す現時岸和田銀行頭取たる外前記各銀行會社の重役たり家族は尙孫良（昭四一生、養子保雄長女）あり（岸和田市五軒屋町三四八電一一六）

參照＝紫中辰之助の項

宇野亮一　岸和田銀行、岸和田貯蓄銀行各株頭取、泉陽紡織、和泉紡績各株社長、大阪府在籍

母　ヌイ　安政二、五生、大阪、原文平伯母
妻　フミ　明二〇、一二生、大阪、原文平妹
養子　保雄　明三七、六生、長女チヨ夫、奈良谷甚太郎弟
女　チヨ　明四一、四生、養子保雄妻

君は大阪府人宇野四一郎の二男にして明治十二年八月を以て生れ大正四年家督を相續す現時岸和田銀行頭取たる外前記各銀行會社の重役たり家族は尙孫良（昭四一生、養子保雄長女）あり（岸和田市五軒屋町三四八電一一六）

參照＝紫中辰之助の項

て生れ先代きいの養子となり同二十三年家督を相續し前名鶴次郎を改む現時新湊銀行常務取締役たり（富山縣射水郡新湊町電三二四）

参照＝卯尾田穀太郎、渡邊八三郎の項

卯田　淺治郎

滋賀縣士族　興業土地株式會社專務取締役

母　りと　安政四、九生、滋賀、奥村久次郎長女

妻　ふさ　明二九、九生、滋賀、佐藤龍藏妹

養子　淳一　大一三、六生

君は滋賀縣人卯田傳吉の長男にして明治二十一年三月を以て生れ大正十年家督を相續す同二年立命館大學を卒業し現時舞子土地會社專務取締役にして蘆に天野合名會社顧問蘆谷商店監査役を兼ぬ弟宇之助（明二三、一二生）同妻はる（同二九、一生、滋賀、山元金吉長女）は其子女を伴ひ分家せり（兵庫縣明石郡垂水町舞子）

卯之木晋一郎

四國水力電氣株式會社支配人　千葉縣在籍

妻　つる　明二七、一二生、香川、眞鍋茂吉五女、東京女高師出身

男　十三　大一三、一〇生

君は千葉縣人河崎辰太郎の長男にして明治十一年二月を以て生れ先代彌右衛門の養子となり同二十四年家督を相續す夙に慶應義塾に學び時事新報社に入り次で大阪時事新報社に轉じ後實業界に投じ伊豫鐵道電氣會社監査役を經て現時四國水力電氣會社支配人たり家族は尙長女和子（大一二、一生）二男敬介（同一五、二生）あり養姉きち（萬延元、五生）は二子を伴ひ東京府人高仲熊造に嫁し養妹はる（明二四、四生）は分家せり（香川縣仲多度郡多度津町電長一三七）

有働　政行

有働木材株式會社代表社員、有働法律事務所、辯護士、法學士　熊本縣在籍

母　トメ　文久二、五生、熊本、堤善三郎三女

君は熊本縣人有働倉次の五男にして明治三十八年三月一日を以て生る二十歳にして笈を負ひ上京苦學力行し昭和六年日本大學法文學部法律學科を卒業し同五年高等試驗司法科に合格し辯護士となり民事法學の研究に專心し現在に及ぶ性格豪快にして誠實常に明朗東都少壯在野法曹界の逸材たり趣味廣く「巡禮紀行」「誰が殺した？」の著あり家族は尙兄政記（明二三、一一生、現戸主、日本製鐵會社員）同齊（同二八、同二八、二生、有働木材會社代表社員）同芳喜（同三二、三生、有働木材會社代表社員）同繁記（同三四、一〇生、有働木材會社代表社員）あり姉トモエ（同二六、七生）は福岡縣人佐藤台賢に嫁せり（東京市四谷區右京町四二電四谷七一四五）

有働　良夫

正三位勳二等、農學博士、全國米穀販賣購買組合聯合會會長、產業組合中央會理事、帝國農會特別議員、熊本縣在籍

妻　ハツエ　明一六、一二生、工學博士中原淳藏長女

明三二、一生、長女良夫、兵庫、明本繁太郎四男、農學博士、盛岡高等農林學校教授

養子　繁三　明三六、六生、養子繁三妻、御茶の水高女出身

女　良　明一六、一二生、同二男）あり三

君は舊熊本藩士贈從五位有働宗龍の長男にして明治九年三月を以て生れ同二十三年家督を相續す同三十三年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し農商務技手生絲檢査所技師農商務技師蠶業講習所技師等を經て農務局產業課長代理農政課長代理等を經て農務局耕地課長となり帝國議會に政府委員たること二回に及ぶ昭和八年官を辭し現時全國米穀販賣購買組合聯合會會長の外前記の職にあり蘆に農事調査の爲韓國に出張又產業組合及農政視察の爲歐米に渡り大正五年貿易事情調査の爲滿洲及新西蘭（蘆遣せらる同八年產業組合に關する論文を提出して農學博士の學位を受く著書に「土地改良論」「日本產業組合詳說」「農業法制經濟教科書」「耕地整理と土地改良」等あり家族は尙孫龍夫（大一四、九生、孫子繁三長男）同英夫（昭二、一二生、同二男）あり三女明（明四〇、七生、御茶の水高女出身）は千葉縣人日本銀行員法學士江澤省三に嫁せり A五四八（東京市本郷區駒込曙町三〇電大塚一三五）

参照＝巡小島伊左美の項

烏賀陽　然良

正四位勳二等、法學博士、京都帝國大學教授、法學部勤務、京都商工會議所顧問、京都府在籍

妻　たつ　明一五、一生、京都、福田吉十郎二女

男　恒正　明三四、一生、横濱正金銀行羅府分店在勤

婦　貞子　明三八、六生、長男恒正妻、愛媛小田清一姉

男　良彦　明三九、七生、伯國珈琲鑑定人

婦　ミサヲ　明四二、一一生、二男良彦妻、愛媛、田中伸一二女

男　重德　明四一、一〇生、三和銀行員

男　忠純　大三、六生、伯國アニューマス農場勤務

君は京都府人烏賀陽然岡の長男にして明治九年六月を以て生れ同十七年家督を相續す同三十六年京都帝國大學法科大學を卒業し神戸高等商業學校教授に任じ同四十二年獨佛各國に留學し歸朝後大正八年法學博士の學位を授與され京都帝國大學教授に任ぜられ神戸高等商業學校教授を兼任す現時京都帝國大學教授にして法學部に勤務し推されて京都商工會議所顧問たり趣味としては蒜道の研究あり家族は尙五男英彰（大五、八生）七男博嗣（同八、一二生）八男和之（同一一、四生）孫昭子（同一五、三生、長男恒正長女）同燿子（昭五、一生、同二女）あり長女幸子（明三六、二生）は德島縣人濱田潔夫に嫁し六男豊（大七、一〇生）は京都府人寺田喜三郎の養子となれり A九〇七（京都市左京區吉田神樂岡町八電上六四三）

菟田　茂丸（イカシマロ）

正五位勳四等、神宮少宮司　三重縣在籍

妻　マサ　明一六、八生、福岡、士、佐々川庸二女

男　俊彦　明四四、八生、官幣大社筑岡神社主典、國學院大學出身

女　文子　大一一、三生、宇治山田高女出身

君は福岡縣人菟田千秋の二男にして明治五年一月嘉岡縣々社高倉神社々家に於て生れ大正四年兄芝芽男方より分れて一家を創立す明治三十三年國學院大學を卒業し同三十八年官幣大社氷川神社禰宜に任ぜられ後國幣中社寒川神社國幣小社沼名前神社等の宮司を經て大正七年宗警大社櫪原神宮々司仰付けられ昭和六年神宮少宮司に任じ臨時神宮施設調査會委員を命ぜられ今日に至る讀書蒔刺書畫養蘭等に趣味を有す家族は尙二男彌彦（大八、三生）四女歌子（同一〇、一二生）五女久子（同一五、九生）あり長女雛子（明三七、一生、奈良縣立櫻井高女出身）は奈良縣人倉西信三弟陸軍技師工學士正嗣に二女豊子（同四一、一二生、奈良縣立高田高女出身）は兵庫縣人北岡俊一弟日本信託會社員經濟學士嘉保に嫁せり（宇治山田市神宮司廳官舍電山田六六二一）

鵜飼　喜太郎

古鐵商　大阪府在籍

養子　宅治　明三二、三生、長女楢子夫、岐阜三輪忠三郎長男

女　楢子　明三五、一生、養子宅治妻

養子　マサ子　大四、一生、大阪、村田伊三郎二女

君は大阪府人先代喜太郎の長男にして明治五年七月を以て生れ同二十八年家督を相續し前名宗二を改め襲名す古鐵商を營む家族は尙孫初子（大一四、六生、養子宅治長女）あり姉美津（明二、一一生）は大阪府人田村房吉に妹寸惠（同一二、八生）は同府人柏井太三郎に嫁し弟伊之助（同八、二生）は分家せり A三八四B七四（大阪市南區谷町筋七ノ一五電南一六七四）

鵜飼　賢一

提四位勳三等、飛島組株式會社取締役兼技師長、愛知縣在籍

妻　マサエ　明一六、二生、大阪、佐竹正森三女

男　正直　明四〇、七生、東京高校出身

男　照彦　大三、一〇生

女　美子代　大六、六生、府立第六高女在學

君は愛知縣人鵜飼直次郎の長男にして中林孝三の兄なり明治六年十二月を以て生れ明治三十八年家督を相續す同三十二年東京帝國大學工科大學科を卒業し北海道廳鐵道技師九州鐵道管理局工務課保線係長神戸鐵道局大阪保線事務所長門司鐵道局工務課長名古屋市都市計畫部長名古屋市土木部長大宮電氣鐵道建設部長等に歷任し現時飛島組取締役兼技師長たり家族は尙三男寛（大一〇、五生）あり長女春々子（明三三、一〇生、門司高女出身）は和歌山縣人阿曾沼均に二女綾子（同三六、二生、久留米高女出身）は前記均弟弘に三女貴美子（同四五、一生、樟蔭高女出身）は廣島縣人長尾光地に妹文（同二六、一一生）は愛知縣人澤井元之に嫁し弟魏藏（同一四、一一生）同妻しん（同一九、八生、愛知、中村嘉市二女）は其一子を伴ひ分家せり A二三九（東京市大森區田園調布二ノ八三八電田園調布四六一）

参照＝阿曾沼均の項

鵜飼　重雄

玉川電氣鐵道株式會社常務取締役、南國產業、目黒玉川電氣鐵道各株式會社取締役、東京府在籍

妻　ちよ　明二四、一生、兵庫、堀豊彦長女

女　よし　大元、一一生

女　くに　大四、一二生

君は東京府人鵜飼玲吉の長男にして明治十五年九月を以て生れ同三十四年家督を相續す同四十一年慶應義塾大學理財科を卒業し玉川電氣鐵道會社取締役兼支配人を經て現に同社常務取締役に舉げられ傍ら前記各會社の重役を兼ぬ A一七一〇（東京市芝區高輪北町四八電高輪五五八〇）

参照＝巡西野嘉右衛門の項

鵜飼　鉦太郎

履物商　愛知縣在籍

母　たけ　明九、一生、愛知、明壁吉治二女

君は愛知縣人先代市藏の長男にして明治三十九年十月を以て生れ昭和九年家督を相續す履物商を營む（名古屋市西區傳馬町一ノ一五電本局八九三）

鵜飼　宗平

三井物產株式會社造船部長　愛知縣在籍

母　ゆう　嘉永五、二生、愛知、山田惣九郎長女

妻　德惠　明二五、二生、東京、青沼佑長女

男　宗和　大八、七生

君は愛知縣人鵜飼勇助の四男にして明治十五年五月を以て生れ同四十一年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し大正六年三井物產會社に入り造船部技術員同部部長を經て現時同社造船部長たり家族は尙二男宗武（大一〇、五生）三男宗文（同一二、一〇生）四男宗正（同一四、一〇生）五男宗義（昭三、四生）亡兄金三郎妻いさ（明一二、一生、愛知、士、菱田齊二女）及其一子亡兄勇妻はる（同二一、一生、愛知、高山きぬ私生子）及其二子あり兄貼弐（同一二、五生）は愛知縣人伊藤一郎の家籍に入り弟餞（同二〇、九生）は分家せり（岡山縣兒島郡日比町電五三）

参照＝巡櫨村衛平の項

鵜澤　宇八

勳三等、衆議院議員（千葉縣選出）鵜澤同漕店株式會社代表取締役、滿洲製粉、道、越中島木材倉庫、海運業並漁業、東洋捕鯨各株式會社取締役、千葉縣在籍

妻　まさ　明六、三生、千葉、八木重四郎長女

男　辰雄　明二五、一〇生

婦　みよし　明三一、六生、二男辰雄妻、岩手楊瀛小吉郎長女

婦　しち　明二五、八生、亡長男剛明妻、千葉、根本大助長女

孫　く　大元、九生、亡長男剛明長女

孫　良　大六、五生、亡長男剛明二女

孫　晴　大八、八生、二男辰雄長女

君は千葉縣人鵜澤彌右衛門の長男にして慶應三年五月を以て生れ明治二十五年家督を相續す夙に東京專門學校慶應義塾等に學ぶ蘆に千葉縣會議員房總三鑛社長等に擧げられ大正十四年貴族院議員に互選せらる又衆議院議員に當選する事七回に及び現に立憲民政黨に屬し傍ら前記各會社の重役にして傍ら三重縣古和浦に鰤大敷漁業を經營し又樟太に於て同漕業を營む歐洲戰爭中米蘭を視察す昭和五年十二月紺綬褒章を賜はる家族は尙孫己一郎（大六、一二生、同二女）同秀子（同一三、七生、同三女）あり弟大助（明四、一二生）は千葉縣人根本千郎長衛の養子となれり（東京市大森區堤方町九〇三電池上四六千葉縣香取郡栗源町）

鵜澤　德明

勳三等、法學博士、貴族院議員、明治大學教授、明治中學校々長、大東文化學院教授、辯護士　千葉縣在籍

妻　以知　明一四、六生、神奈川、今井宗三郎四女、横濱フエリス女學校出身
男　晋　明四一、七生、同政治學科在學、東大法學部、出身
女　總子　明四、一生、女子學習院出身
女　明　大二、一生、女子學習院出身
大四、八生、女子學習院出身

君は千葉縣人鵜澤巳之松の長男にして明治五年八月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同三十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し直に辯護士となる現に明治大學教授明治中學校長大東文化學院教授の職にあり嘗に立教學校青山學院慶應義塾大學各講師及明治大學理事大東文化協會理事東京割烹學校理事長第一東京辯護士會長たりし事あり同四十一年法學博士の學位を受け同年以來衆議院議員に當選する事六回曾て立憲政友會總務たり昭和三年貴族院議員に勅選せられ交友倶樂部に所屬す家族は尚三男昌和（大七、一一生）あり長女重子（明三四、一生、御茶の水高女出身）は東京府多額納稅者梅岡平七に二女千惠子（同三七、一〇生）雙葉高女出身）は佐賀縣人成富信敬二男辯護士法學士信夫に嫁せりA一二五七（東京市澁谷區千駄ヶ谷二ノ四五六）電青山四七〇

參照＝梅岡平七、成富信夫の項

鵜澤武三郎

妻　ふみ　虎武、魚商
女　東京府在籍
明一九、八生、千葉、酒井武治長
養子　俊郎　明四五、一生、千葉、鵜澤一郎二男

君は千葉縣人鵜澤一郎の弟にして明治十七年五月九日を以て生れ昭和三年分れて一家を創立す虎武と稱し魚商を營むA五九七七B一〇二（東京市京橋區入船町一ノ一一）電京橋五四七九）

鵜塚彥兵衛

妻　よし　東京亞鉛鑛金㈱社長、三枝㈱取締役、東京府在籍
妹　明一五、六生、東京、三枝久兵衛
明三五、一一生、富士興業會社
男　源次郎　員、慶大經濟學部出身
明四二、三生、長男源次郎妻、東京、福田甚五兵衛三女
婦　園

鵜殿武

妻　實　長崎縣多額納稅者、西海銀行㈱取締役、農業、長崎縣在籍
女　明三〇、二生、長崎、岩永岩男四女
男　淺行　大一〇、五生
女　スミヨ　大八、一生

君は長崎縣人鵜殿幾太郎の三男にして明治二十六年十月を以て生れ大正三年家督を相續す農を業とし傍ら前記銀行の重役に擧げられ縣下の多額納稅者にして直接國稅千八圓を納む家族は尚二女亨子（大一二、一二生）二男秀也（同一四、一〇生）三男武和（昭二、一一生）四男巖（同五、一一生）妹タキ（明二八、六生）あり同喜多（同三二、一〇生）は長崎縣人林佐源次に嫁せり（長崎縣南高來郡土黑村）

參照＝※清水作兵衛の項

鵜瀞新五

妻　清乃　明二七、一〇生、福岡、野田俊藏二女、女子美校出身
男　良三郎　明三七、二生、早大理工學部電氣工學科出身
男　祐三郎　明四〇、一生、早稻田大學商學部出身
男　四郎　明四四、一生、早稻田大學專門部在學
女　まさ　出身大二、三生、九段精華高等女學校出身
男　五郎　大三、五生、北海道帝國大學農學部在學

君は東京府人森岡平右衛門同文三郎の弟同三郎の叔父なり明治十一年二月十四日を以て生れ鵜塚家に入り後家督を相續す夙に兄平右衛門を扶け森岡本店の業務を襲替せしが現時東京亞鉛鑛金會社社長三枝會社取締役たり嘗に富倉銀行鑑査役に就任せしことあり圍碁將棋麻雀に趣味を有す二女周子（明三九、一〇生、精華高女出身）は東京府人堀江半兵衛に四女志津（同四三、一生、出身校同上）は同府人神野正雄に嫁せりA五一四（東京市牛込區市谷加賀町二ノ一六電牛込三七三九）

參照＝神野正雄、三枝久兵衛、福田甚五兵衛、森岡平右衛門、※三谷ていさ三郎、森岡文三郎、森岡勝太郎の項

※渡邊

鵜原梅次郎

妻　タカ　明二一、三生、大阪、田中光次郎二女
女　洋治　大七、三生
君は兵庫縣人上島勘太郎の弟にして明治十七年二月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す弘得社と稱し精肉料理業を營むA三三一B一六二（大阪市北區曾根崎新地二ノ四四電北一二八三）

上島英親

醫師
妻　しな　大阪府在籍
男　博朋　明二六、一生、兵庫、前田しづ子姉
明三四、八生
明三七、一一生、二男博朋妻、奈良、巽良眞長女
婦　三千濃
女　廸子　明三六、八生、日本赤十字社病院勤務、東京女醫專出身
女　米子　明四三、二生、天王寺高女出身
女　秀子　大二、一生、梅花高女出身

君は鳥取縣士族上島英知の長男にして明治八年十一月を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十三年より伏見宮文秀女王殿下奉仕被仰付續いて拜診を命ぜらる大正五年醫師免狀の下附を受け同十四年有功賞昭和二年東京大震災の際赤十字社に對する功績に依り紺綬褒章を賜はる家族は尚五女美津子（大一〇、七生）六女敏子（同一三、二生）七女久子（同一五、二生）八女獨生（昭二、一〇生）三男英里（同四、一二生）九女誠（同八、三生）孫英眞（同三、一二生、二男博朋長男）同桂子（同五、一一生、同長女）あり妹とも（明一二、一生）は大阪府人具桝市太郎に嫁せりA一九九四（大阪市西區南堀江下通一ノ八電櫻川四四九一）

上島芳太郎

羅紗綿布及洋服商
大阪府在籍
養父　末吉　慶應三、九生、奈良、上島新次郎二男
養母　クニ　明七、三生、奈良、糸岡菊松妹
妻　愛子　明三七、一一生、奈良、糸岡菊松三女
男　良博　大一四、二生

君は奈良縣人上島晉吉の二男にして明治三十一年七月二十七日を以て生れ昭和五年先代養父末吉の後を承け

二ノ六）

上尾庄兵衛

京都府多額納稅者、藥劑師、製藥業、京都府在籍
男　庄次郎　明四二、九生
女　美子　大元、一二生

君は滋賀縣人平中五郎兵衛の四男にして明治七年二月を以て生れ先代庄兵衛の養子となり同三十六年家督を相續し前名竹治郎を改め藥名すり同二十七年京都藥學校を卒業し藥劑師にして製藥業を營み京都府多額納稅者に列す家族は尚三男竹三郎（大五、一生）ありA五六四〇B二九四（京都市中京區柳馬場六角下ル井筒屋町四〇七電本局五四五）

上神駒吉

呉服卸商
大阪府在籍
妻　たか　明一九、五生、大阪、吉田亮之輔姉
男　源太郎　明三一、二生
婦　ふさえ　明四〇、一二生、長男源太郎妻、兵庫、上神鹿太郎五女
男　武雄　明四〇、九生

君は兵庫縣人上神源右衛門の四男にして明治八年十一月を以て生れ同三十年兄鹿太郎方より分れて一家を創立す呉服商を營む家族は尚孫雄二郎（昭三、七生、長男源太郎長男）あり三男喜一（明三七、一一生）同妻てる（同四二、八生、奈良、五味原堅治長女）は其二子を伴ひ分家せりA三一三四B六五九（大阪市東區本町四ノ二九ノ一電本町五四七）

上川勘次郎

名古屋紡績㈱常務取締役
滋賀縣在籍
父　勘三郎　安政六、五生、現戸主
繼母　つる　慶應二、四生、滋賀、陌間周吉姉
妻　たみ　明二八、二生、滋賀、清水直三妹
男　敏夫　大一〇、一生
女　房枝　大七、四生

君は滋賀縣人上川勘三郎の長男にして明治二十年七月を以て生る現時名古屋紡績會社常務取締役たり家族は尚二女照子（昭四、一生）弟岩吉（明二八、二生）同妻琴（同三六、八生、滋賀、横山與二郎長女）及其子女弟秀吉（同三〇、一〇生）同妻タツ（同三七、三生、滋賀、山本惣左衛門妹）及其一女弟常次郎（同三六、六生）あり妹もよ（同二六、六生）は滋賀縣人上川太治郎に嫁せりA九七七（名古屋市中區松ヶ枝町一ノ四電中二六九五）

上川連子

資產家
大阪府在籍
母　ちやう　明一二、一一生、三重、青末松長女

君は大阪府人上川久三郎の二女にして大正七年三月二十三日を以て生れ昭和七年家督を相續す資產家として知らるA九九三（大阪市西區立賣堀北町三ノ二三電新町一〇九七）

上河源右衛門

京都府多額納稅者、絹物商、家主
京都府在籍
男　源吉郎　大一二、六生

君は奈良縣人島田平右衛門の二男にして明治三十三年二月を以て生れ先代とみの養子となり大正三年家督を相續し前名平二を改め絹物商を營み家主にして直接國稅千五百九十一圓を納め京都府多額納稅者たり家族は尚二男房之助（大一三、一二生）長女和子（同一五、九生）三男敎彥（昭三、八生）あり（京都市中京區室町通今出川上ル電西陣二七六〇）

參照＝島田平右衛門の項

上島清藏

青島電氣㈱取締役、古河電氣工業㈱參事、外國課長、三重縣在籍
妻　芳枝　明三〇、三生、茨城、菊地清長女
男　緒一　大一一、三生、慶應義塾普通部在學
女　美枝子　大八、四生、聖心女子學院在學

君は三重縣人上島龜松の二男にして明治十八年十月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す古河合名會社上海支店長中華電氣製作所專務取締役を經て現時古河電氣工業會社參事外國課長たり家族は尚二男興二（大一二、九生）三男敬三（同一五、一生）ありA四七六（東京市大森區田園調布三ノ一一五電田園調布二）

參照＝菊地清、※戸澤正保の項

上島歲末

弘得社、精肉料理業
大阪府在籍
妻　タカ　明二一、三生、大阪、田中光次郎二女
男　洋治　大七、三生

君は兵庫縣人上島勘太郎の弟にして明治十七年二月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す弘得社と稱し精肉料理業を營むA三三一B一六二（大阪市北區曾根崎新地二ノ四四電北一二八三）

上島芳太郎

養父　末吉　明七、三生、奈良、糸岡菊松妹
養母　クニ　明三七、一一生、奈良、糸岡菊松三女
妻　愛子　大一四、二生
男　良博

君は奈良縣人上島晉吉の二男にして明治三十一年七月二十七日を以て生れ昭和五年先代養父末吉の後を承け

家督を相續す羅紗綿布及洋服商を營む家族は尙長女壽子(大一一、三生)二男勳(昭三、七生)ありA一八七B一三七(大阪市東區谷町二ノ三電東六〇九〇)

上杉勝昭　子爵　舊米澤藩士族

當家は米澤藩主上杉彈正大弼綱憲の四男駿河守勝周の後なり勝周兄吉憲より新田一萬石を分與せられ別に一家をなす夫より五代を經て勝賢に至り明治十七年子爵を授けらる先代勝憲宗家伯爵上杉憲章の弟を以て入りて當家を繼ぐ君其後を繼ぐ君實は伯爵上杉憲章の四男にして公爵慶司信輔の甥なり大正七年十二月十日を以て生れ叔父勝憲の死跡を相續し昭和四年十二月襲爵被仰付前名昭雄を改む家族は尙先代勝憲樂母喜武(萬延元、二生、東京、城戸高博五女)同勝憲妻幸子(明二八、八生、子爵板倉勝朝先代勝憲再從妹、女子學習院出身)あり(東京市四谷區傳馬町一ノ五四)

參照＝公爵慶司信輔、伯爵上杉憲章、子爵板倉勝朝※伯爵龜井玆常※子爵大給近孝※子爵高辻宜麿※子爵安部信明※子爵細川立興※子爵松平直幹※男爵細川水力電氣※男爵林權助※男爵池田勝吉※男爵林權助※野崎丹變太郎の項

上杉菅治　安田銀行㈱名古屋支店長　大阪府在籍

妻　ヨネ　明一九、七生、兵庫、士、濱田愛郎姪
男　欽治　明四二、一二生

君は兵庫縣人上杉吉太郎の二男にして明治十五年十一月を以て生れ大正五年兄松太郎方より別れて一家を創立す安田銀行大阪本町支店長を經て昭和六年名古屋支店長に轉じ今日に至るA一〇〇(名古屋市東區橦木町二ノ七電東三〇四九)

參照＝上杉松太郎の項

上杉憲章　從三位、伯爵　舊米澤藩

妻　タカコ　明二〇、一〇生、男爵近藤滋彌妹
男　隆憲　大六、二生

當家は勸修寺內大臣藤原高藤の末裔なり高藤より十世重房に至り初めて上杉と稱す後十一世憲政に至り北條氏庸の爲に亡され越後に奔り長尾彈正少弼景虎に投ず景虎依て上杉氏を冒す即ち輝虎入道謙信なり嗣子中納言景勝豐臣氏に從ひ會津百二十萬石を領し五大老に列す關ヶ原の役石田三成に黨し米澤三十萬石に移さる後世更に十五萬石に減封せられ十一世を經て先代茂憲に至り明治十七年伯爵を授けらる茂憲夙に英國に留學し沖繩縣令元老院議官貴族院議員等に歷任す君は其三男にして子爵松平忠壽の從兄なり明治九年十一月を以て生れ大正八年襲爵す東京外國語學校に學び更に英國劍橋大學に留學す歸に宮內省御用掛たり四男昭雄(大七、一二生)は弟子爵上杉勝憲の死跡を相續し勝昭と改名し弟朝憲(明二八、四生)は弟子爵上杉勝給近孝の養嗣子となり近憲と改名し長女敬子(同四二、二生、女子學習院出身)は男爵眞田幸治弟幸尙に妹憲子(同一二、六生)は男爵池田勝吉に同重(同一二、七生)は子爵松平直幹に同久(同二一、三生)は伯爵龜井玆常に同直(同二六、六生)は故法學博士左右田喜一郎に同大(同三〇、七生、御茶の水高女出身)は男爵林權助嗣子安に叔母千鶴子(同一〇、六生)は子爵細川立興に嫁し叔父龜雄(同一三、六生)は分家せり(東京市品川區大井山中町四一九一電高輪二〇)

參照＝伯爵龜井玆常、伯爵眞田幸治、子爵上杉勝昭、子爵大給近孝、子爵高辻宜麿、子爵細川立興、子爵松平直幹、男爵池田勝吉、男爵林權助※侯爵大久保利武※近藤滋彌、男爵林權助※侯爵大久保利武※橋本敬之※濱口擔の項

上杉松太郎　鬼怒川水力電氣㈱取締役、上杉㊟代表社員　大阪府在籍

母　ふん　嘉永六、九生、兵庫、正垣小七郎二女
妻　アイ　明一四、八生、大阪、津田平兵衛二女
養子　彌一　明三一、一二生、兵庫、栗田太郎吉三男
婿　榮　明三五、三生、養子彌一妻、大阪津田平兵衛養子

君は兵庫縣人上杉吉太郎の長男にして明治九年五月を以て生れ同二十六年家督を相續す現時鬼怒川水力電氣會社取締役并に上杉合名會社代表社員たり家族は尙孫高幹(大一四、八生、養子彌一長男)同直子(昭二、八生、同長女)同昌秀(同六、五生、同次男)あり妹ゆう(明一一、三生)は兵庫縣人鯉住爲吉長男儀一に同はつ(同一三、一〇生)は同縣人小野山勘市に同しか(同二〇、一〇生)は東京府人服部眞彥に嫁し弟菅治(同一五、一一生)は分家せりA五八〇(大阪市住吉區明明通二ノ七三電天下茶屋二四五四)

參照＝上杉菅治の項

上杉彌一郎　地主　廣島縣在籍

妻　春枝　明二六、五生、廣島、枝廣祥馗三女
男　泰彥　昭五、四生

君は廣島縣人上杉茂八郎の三男にして明治十六年十二月を以て生る同四十一年慶應義塾大學政治科を卒業し同年時事新報經濟部記者大阪時事新報經濟部主任同編輯局主幹兼政治部主任同編輯局長を經て同社取締役に就任す曾て經濟學研究及經濟事情調査の爲米獨兩國南亞聯邦に出張す地主として知らる家族は尙長女章子(昭三、九生)及亡兄惣三郎長男一夫(明三六、一二生、現戶主)あり兄光次郎(文久三、一生)は大阪府人尾崎カジの養子となり姉ヒサ(同元、一一生)は廣島縣人岡田吉顯に嫁し母カツ(天保一二、九生、廣島佐藤博右衛門二女)は分家せり(大阪府豐能郡箕面村櫻井三六三)

上杉利右衛門　戊辰土地㈱取締役、多聞酒造㈱監査役、兵庫縣在籍

妻　てい　明四三、九生、養父利右衛門長女
女　愛子　大二、九生
女　千鶴子　大五、七生
女　壽代　大五、七生

君は兵庫縣人杜上長次郎の三男にして明治十七年七月を以て生れ後先代利右衛門の養子となり大正七年家督を相續し前名輝三を改め襲名す夙に武庫銀行に入り本庄支店長本店總務部長を經て同行取締役兼蘆屋支店長となり傍ら八馬汽船會社取締役たりしことあり現時前記各會社重役たり家族は尙四女貞喜子(大一四、一〇生)三男卓也(昭四、一生)ありA三五〇(西宮市久保町一四電五一六)

上住卯一　住吉商會㈱專務取締役、加賀商店支配人、大阪府在籍

妻　アイ　明三〇、一〇生、大阪、池田彌兵衛四女
男　欽治　明四二、一二生
女　俊子　大七、六生
女　康子　大九、九生

君は兵庫縣人上住宇八の二男にして明治二十六年十一月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す現時加賀商店支配人並住吉商會專務取締役たり家族は尙三女敦子(大一五、二生)二男泰(昭四、三生)三男升(同六、七生)四女武子(同九、一生)あり(大阪市西成區有樂町三一電天下茶屋二二五四)

上田晃　平岡村長、灘酒造㈱社長、大日本人造肥料會社兵庫縣總代理店、地主、兵庫縣在籍

父　幸次郎　天保一三、八生
妻　よし　明二一、一〇生、兵庫、藤井六兵衛五女
養子　誠一郎　明四一年生、長女千惠子夫、兵庫沖鹽、秋治四男、大日本人造肥料會社長、法學士
女　千惠子　明四四、七生、養子誠一郎妻、神戶親和高女出身
女　操子　大五、五生、神戶親和高女出身
女　康子　大八、五生、神戶親和高女在學

君は兵庫縣人上田幸次郎の長男にして明治十八年二月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十六年神戶高等商業學校を卒業し地主貸家業肥料卸商を營み灘酒造會社長にして平岡村長に推さる姉とい(明八、一一生)同夫房次郎(同三、一二生、兵庫、石生岩之助長男)及妹はつゑ(同二〇、八生、神戶高女出身)同夫信太郎(同一八、九生、兵庫、藤原藤助二男)は各其子女を伴ひ分家し妹ときみ(同二九、一一生、姬路高女出身)同夫親光(同二五、三生、香川、鹽井八郎三男、大阪醫大出身)も亦分家し妹ゆき子(同三五、五生、神戶高女出身は)兵庫縣人萩野武夫に嫁せりA一〇一二B五七(兵庫縣加古郡平岡村電加古川二七二)

參照＝萩野武夫の項

上田淺次郎　魚庄、料理業　兵庫縣在籍

妻　せい　明一五、二生、兵庫、三宅信次郎妹
男　正雄　明三六、一二生
婿　みよ子　明四一、三生、二男正雄妻、兵庫灘內千塚三女
孫　進郎　明四四、九生
女　淺子　大三、三生

君は兵庫縣人石村つるの長男にして明治九年十二月を以て生れ先代吉次郎の養子となり同二十二年家督を相續す魚庄と稱し料理業を營む家族は尙孫洋(昭四、二生)二男正雄長男)あり二女はな(明三九、二生)は兵庫縣人平尾重一に養妹すゑ(同二三、九生、森伊八郎三女)は同縣人西山鐵藏に嫁せりA四四三B一六二(神戶市神戶區下山手通五ノ二九電元町九九七)

參照＝平尾重一の項

上田榮治郎　兵庫縣多額納稅者、家主　兵庫縣在籍

婿　しづ　明二八、二生、亡長男榮三妻、兵庫、三宅鶴太郎二女
孫　浩義　大三、一二生、亡長男榮三長男
孫　仁雄　明三〇、一〇生
婿　貞　明三八、三生、二男仁雄妻、兵庫三宅鶴太郎四女
男　朝夫　明三五、九生
孫　英子　明三八、一生
女　千代　大八、一二生、亡長男榮三長女

君は兵庫縣人丹家元全の三男にして元治元年四月を以て生れ先代榮治郎の養子となり明治三十七年家督を相續し前名加茂吉を改め襲名す家族は尙孫洋(大五、五生、亡長男榮三二男)同仁治(同一三、六生、唯(昭四、一一生、同三男)あり二女しん(明二八、一生)は京都府人大井傳治郎に三女千代(同三八、一生)は兵庫縣人島田やの養子一治に嫁せり(神戶市湊區平野湊山町三四二電湊川四二〇七)

參照＝島田やの※滑川秀平※堀野久造の項

上田要　大阪株式取引所取引員、ピルブローカー業、兵庫縣在籍

妻　ライ　明三五、三生、兵庫、河津律造三女
男　元彥　昭六、三生
男　範代　明三五、三生、兵庫、河津律造三女
男　彥太郎　明三四、八生、慶大理財科出身
男　隆一　明四二、一一生

君は京都府人蘆田勘兵衛の二男にして明治八年八月を以て生れ先代彥兵衛の養子となり同三十七年家督を相續す砂糖乾物商を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙三男茂(大七、一一生)あり養父彥兵衛(弘化元、一生)は養母むめ(嘉永五、四生、京都、士、桐村半六長女)と共に分家し長女しづえ(明三六、八生は京都府人坂部秀夫長男俊夫に二女滋子(同三八、一一生)は同府人西村隆雄に嫁せり(京都府天田郡福知山町電話二七〇・三九)

上田龜治郎　京都商工會議所議員、綿布扇子輸出商、京都府在籍

妻　ライ　明二二、五生、京都、安森政次郎三女
男　誠一　大六、五生
女　壽子　大二、七生

君は京都府人先代龜治郎の長男にして明治十年十一月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名龜三郎を改め襲名す綿布扇子輸出商を營み推されて京都商工會議所議員たり家族は尙二女道子(大九、一一生)あり妹サク(明二二、一二生)は京都府人中村治作に同タミ(同二七、五生)は同府人森菊太郎養子民雄に嫁し弟信太郎(同一九、六生)は同府人中井シントの入夫となれりA四六四B七四(京都市下京區佛光寺新町東入ル電下

一四八三)

上田勘兵衛

上田勘商店㈱代表取締役、上田勘兵衛商店㈱代表社員、呉服織物商京都府在籍

妻　たね　明一七、三生、滋賀、清水藤三郎姉

男　勘一　明三九、一一生、市立第一商業出身

女　きぬ　大元、一一生、府立第二高女専攻科出身

女　恵美　大七、九生、京都高女在學

當家は代々京都に住し津之國屋と稱し質商を營める舊家なり君は先代勘兵衛の二男にして上田芳三郎同正之助の兄に當り明治九年九月を以て生れ同三十六年家督を相續し前名豊三郎を改め製名す呉服織物商を營み現時前記各會社の重役たり家族は尚二男陳三(大五、四生)あり妹しげ(明一四、一二生)は京都府人久保田庄左衛門に同サト(同二一、三生)は大阪府人養田嘉三に嫁せりA二九〇(京都市下京區不明門通松原南入ル吉水町四六五電園下三〇八)

参照‖上田正之助、上田芳三郎、久保田庄左衛門、養田嘉三の項

上田喜三郎

建築請負業　京都府在籍

母　とも　嘉永二、一〇生、京都、木村庄蔵長女

妻　はつ　明一七、一二生、京都、遠光留次郎長女

男　喜一　明三七、八生

婦　雪子　明四四、一二生、長男喜一妻、滋賀、前田勘三郎四女

男　豊次郎　明四〇、一一生

君は京都府人木村ともの長男にして明治十年三月十一日を以て生れ同十二年先々代上田清七の養子となり後同三十四年妹する恵の跡を承けて家督を相續す建築請負業を營む家族は尚孫喜久男(明一七、一生)は京都府人谷口利市郎に嫁せりA九八九五(京都市下京區西木屋町松原下ル電下二五二九)

上田喜代治

養父　熊之助　萬延元、三生、現戸主

妻　よしゑ　明三五、一二生、三重、鈴木長九郎六女

男　茂生　大一〇、四生

君は三重縣人上田辰之助の長男にして明治二十五年九月を以て生れ同三十四年伯父熊之助の養子となる酒類商を營み直接國税六百四十一圓を納め三重縣多額納税者に列す曩に大同銀行取締役たりし事あり家族は尚二男博巳(大一三、一〇生)あり(三重縣北牟婁郡木本町電二一)三女尹久子(昭二、一二生)三男節夫(同五、四生)あり(三重縣北牟婁郡木本町電二一)

参照‖上田熊之助、鈴木長九郎※奥川吉三郎の項

上田熊之助

三重縣多額納税者、酒類商　三重縣在籍

妻　のぶ　明二五、九生

君は徳島縣人坂東加賀治の二男にして萬延元年三月四日を以て生れ先代熊太郎の養子となり明治十七年家督を相續す漁業並酒類商を營み三重縣多額納税者に列し直接國税七百八圓を納む家族は尚娘みち子(明二四、六生)同静代(同三六、一生)あり養子きく(同一一、一〇生、三重、坂東清次郎姉)同夫直蔵(同九、一生、三重寡多歌吉二男)は其子女を伴ひ分家せり(三重縣北牟婁郡木本町電二一)

参照‖上田喜代治の項

上田喜三郎

帝國製鎖㈱社長、金融業　大阪府在籍

妻　ツマエ　明一七、一二生、和歌山、砂中龜蔵妹

男　喜太郎　明三〇、七生

婦　静恵　明二八、三生、長男喜太郎妻、奈良、福塚草苗姉

君は大阪府人上田喜平の長男にして明治九年一月を以て生れ同四十四年家督を相續す金融業を營み傍ら帝國製鎖會社長たり家族は尚孫喜久子(大七、四生、長男喜太郎長女)同博子(同一四、一生、同二女)あり二男慶次郎(明三三、八生)は分家し妹ヤエ(同一八、七生)は同夫桐太郎(同一一、三生、奈良、木下榮吉三男)と共に分家し長女花子(同三五、一〇生)は和歌山縣士族大林增次郎長男敏夫に嫁せりA三九四〇(堺市東濱町五二〇電四四二)

参照‖上田慶次郎の項

上田菊次郎

家主　大阪府在籍

妻　トキ　明五、六生、京都、關川壽兵衛姪

男　定次郎　明四〇、四生

君は大阪府人上田定七の長男にして明治四十一年七月を以て生れ後家督を相續す家主として知らる(西宮市森具)

参照‖關川善兵衛の項

上田金兵衛

和歌山縣多額納税者、山林業　和歌山縣在籍

妻　ソネ　明九、一〇生、和歌山、士、湯森好助四女

孫　堅一郎　大一五、一生、亡長男基次郎長男

男　芳次郎　明三一、一二生

婦　照　明三五、一〇生、二男芳次郎妻、大阪、上田吉蔵三女

女　倍枝　明四〇、一二生

女　貞子　明四五、三生

男　八郎　大三、八生

君は和歌山縣人先代金兵衛の長男にして明治元年十一月を以て生れ同三十五年家督を相續す山林業を營み直接國税千五百九十四圓を納め和歌山縣多額納税者に列す曩に日高紡織南海紙業各會社の重役たり三男順吉(明四二、一二生)は和歌山縣人士族湯森桑太郎の養子となり長女俊子(同三五、五生)は兵庫縣人谷楚心に二女節代(同三七、一一生)は同縣人增田隆祐五男牧に妹ふじ(同四、四生)は大阪府人上田吉蔵に同とよ(同一二、一生)は兵庫縣人津村德蔵長男唯之助に嫁せり(和歌山縣日高郡御坊町電園二二)

上田楠太郎

大阪堂島米穀取引所取引員　大阪府在籍

男　龍一郎　大五、一二生

女　保子　明四五、五生

君は大阪府人池田忠七の三男にして明治十八年十二月を以て生れ同四十年絶家上田氏を再興す現時大阪堂島米穀取引所清算部正米部取引員たり養子セサ(明三七、五生、大阪、松下嘉三妹)は分家せりA二九七四B五九一(大阪市北區堂島濱通一ノ三七電北六六一)

上田國太郎

上田組、土木建築請負業　大阪府在籍

母　とよ　明一八、四生、兵庫、戎井宗七五女

君は大阪府人先代國太郎の長男にして明治四十一年七月を以て生れ昭和五年家督を相續し前名國一を改め襲名す上田組と稱し土木建築請負業を營む家族は尚弟三郎(明四四、二生)妹政枝(大二、七生)同とし子(同四、八生)同サヨ子(同七、七生)弟耕藏(同九、九生)同五郎

(同一二、五生)同喜八郎(同一五、一生)あり(A一〇八一B三〇八(大阪市西成區松原通二ノ二三電戎一七七九)

上田熊次郎

高砂商店㈱社長、打殉土地㈱取締役、大阪府在籍

妻　ウタ　明一四、一一生、新潟、宮下コト長女

男　光一郎　明三七、五生、慶大出身

婦　貞子　明四二、九生、長男光一郎妻、佐賀、大塚精一二女

女　仲子　大六、五生、臺北第一高女出身

女　益子　大七、九生、臺北第一高女在學

女　貞子　大八、一一生、静修高女在學

君は大阪府人上田清七の二男にして明治七年三月を以て生れ先代綱介の養子となり同三十二年家督を相續す現時高砂商店社長の外前記會社の重役たり家族は尚四男義平(大五、一生、臺北高校在學)孫昌吾(昭八、一生、長男光一郎長男)あり二女静子(明三六、四生)は東京府人岡崎文雄に二女稲子(同四二、一〇生、臺北第一高女出身)は三重縣人堀内伴之助に五女久子(大二、四生、臺北第一高女出身)は山口縣士族松野率に嫁し二男東平(明三九、一〇生、東京農大出身)は分家し三男勝平(同四〇、一生、明大出身)は分家養祖母ヒサの死跡を相續せり(臺北市本町二ノ二六電三〇四四)

上田熊之助

三重縣多額納税者、漁業並酒類商　三重縣在籍

妻　安敬六、一〇生、三重、三宅小平次三女

養子　喜代治　明二五、九生

君は徳島縣人坂東加賀治の二男にして萬延元年三月四日を以て生れ先代熊太郎の養子となり明治十七年家督を相續す漁業並酒類商を營み三重縣多額納税者に列し直接國税七百八圓を納む家族は尚娘みち子(明二四、六生)同静代(同三六、一生)あり養子きく(同一一、一〇生、三重、坂東清次郎姉)同夫直蔵(同九、一生、三重寡多歌吉二男)は其子女を伴ひ分家せり(三重縣北牟婁郡木本町電二一)

参照‖上田喜代治の項

上田慶次郎

上田産業㈱代表取締役　大阪府在籍

妻　房榮　明三四、一〇生、大阪、平野和助四女

男　慶一　大一一、七生

君は大阪府人上田傳三郎の二男にして明治三十三年八月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す現時上田產業會社代表取締役たり(大阪市住吉區天王寺町六一四四)

参照‖上田傳三郎の項

上田謙吉

酒造業　愛媛縣在籍

妻　フクノ　明一三、六生、愛媛、別宮武雄長女

男　一郎　明二六、一生、愛媛、城甲乙吉二女

君は愛媛縣人先代謙吉の二男にして明治二十一年三月を以て生れ大正十四年家督を相續し前名幸衛を改め襲名す明治四十四年長崎高等商業學校を卒業し酒造業を營む曩に愛媛鐵道伊豫長濱銀行大洲酒造各銀行會社の重役たりし事あり家族は尚二男二郎(大五、三生)長女敏子(同九、二生)二女光子(同一一、一生)三男功三(同一三、六生)三女省江(昭三、六生)弟巻(明三五、六生)同正(同四四、一生)あり妹廉子(同三〇、五生)は分家し弟美矩(同三二、八生)は愛媛縣人西山官彌の養子となれり(愛媛縣喜多郡白滝村電園津二)

参照‖西山官彌の項

上田源三郎

上田鐵業㈱社長、日本農藥、日華產業、東滿洲人絹パルプ各㈱取締役、大阪商事、大滿洲忽布蔘酒各㈱監査役、上田本店々主　兵庫縣在籍

妻　ミキ　明二二、一一生、福島正吉妹

男　成一郎　明四三、二生、野村證券會社員、法學士

婦　千恵子　明四五、一二生、長男成一郎妻、熊本、士、林市蔵三女

女　薛子　大四、五生

君は大阪府人先代源三郎の長男にして明治十二年八月を以て生れ先代喜久代の養子となり同三十三年家督を相續し前名源次郎を改め襲名す同三十六年慶應義塾大學部理財學科を卒業し爾來鐵山業に從事し現に上田鐵業會社取締役社長たる傍ら前記各會社に關係し特に大阪商事會社は創業以來十六年間社長の職にありしが最近之を辭し監査役となれり家族は尚二女秋子(大一三、九生)ありA二九九一(兵庫縣武庫郡御影町城ノ前一四四〇電御影二五三三)

参照‖林市蔵の項

上田こゑ

乾物商　大阪府在籍

男　善之助　明二四、一生

君は大阪府人上田嘉助の長女にして明治五年一月十七日を以て生れ明治十四年家督を相續す乾物商を營むA五五一(大阪市北區濱川町六〇電北二九四二)

上田光曦

愛媛五位勳六等、豊原中學校長兼教諭、大分縣在籍

妻　榮枝　明二六、三生、大分、溝口喜十郎二女、ランバス女學院出身

男　靖人　大五、三生

君は大分縣人にして明治十九年十二月二十一日を以て生る同四十三年東京高等師範學校本科博物科を卒業し同年鹿兒島縣立第二高等女學校教諭に任じ次で大分縣師範學校教諭附屬小學校主事愛媛縣視學官和島高等女學校長兼教諭大洲中學校長兼教諭等に歴任昭和二年樺太豊原中學校長兼豊原中學校長兼教諭に補せられ現時前記の官職專任たり博物館評議員史蹟名勝天然記念物調査委員を囑託せらる樺太領有の先驅者「西久保少佐」の著書あり俳句に趣味を有す家族は尚二男光隆(大七、四生)あり(樺太豊原郡豊原町電二七六七)

上田孝吉

衆議院議員(大阪府選出)、大阪市會議員、藝石鐵道㈱代表取締役、大南土地㈱取締役、大タク急配社㈱監査役、辯護士、石川縣士族

妻　信子　明二五、七生、東京、大垣淦三女

男　和夫　大五、五生

君は石川縣人扇能長平の二男にして明治十九年九月を以て生れ先代喜久代の養子となり同三十三年家督を相

續す大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業す辯護士にして傍ら前記各會社の重役たり昭和五年衆議院議員に當選更に同七年再選し立憲政友會所屬たり疊に大阪市會副議長に擧げられ現時同議員たり家族は尙長女多喜子(大一〇、九生)二女民子(同一三、一二生)あり(A一九七(大阪市北區曾根崎上一ノ三二電北二五八九)

上田孝次郎 上田唐木店資代表社員、銅器唐木細工製作卸商、大阪府在籍

妻　チエ　明一四、四生、大阪、辻浦小三郎長女

男　幸太郎　明四四〇、七生、大阪商大在學

男　孝雄　明四四、六生、大阪商大在學

君は大阪府人上田德兵衛の弟にして明治八年九月を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す銅器唐木細工製作卸商を營む家族は尙三男幸男(大五、七生、大阪大倉商業學校在學)四男耕造(同九、八生)ありA七〇八(大阪市北區天神橋筋一ノ四二電北五一七〇)

參照＝上田德兵衛の項

上田厚吉 上一、東京株式取引所取引員、東京米穀商品取引所取引員、東京府在籍

母　知多　安政五、四生、新潟、小山貞藏長女

妻　たつ　明二五、一一生、東京、石井次郎吉二女

男　吉兵衛　明四四、一生

女　ちか　大四、四生

上田家は先代興三吉夙に洋服商を營みて產を積み後株式賣買業に轉じ其名を知らる君は其の長男にして上田辰卯の兄なり明治二十一年八月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治三十九年大倉高等商業學校を卒業し父の遺業を繼ぎ上一と稱し現時東京株式取引所一般短期賣物取引員並に東京米穀商品取引所第二部人絹部取引員たりA一二六一七B一一六〇(東京市日本橋區江戸橋一ノ三ノ一電日本橋二五七六)

參照＝上田辰卯の項

上田剛 從五位勳六等、京都府女子師範學校長、京都府立桃山高等女學校長大分縣在籍

妻　武子　明二五年生、大分、陸軍歩兵大佐上田孝臣長女、土佐高女出身

男　出　大元年生、習士官見習士官

君は大分縣人上田貫三郎の四男にして明治十九年七月を以て生れ同四十一年東京高等師範學校國語漢文科を卒業し爾來鹿兒島縣立加治木中學校廣島縣立廣島高等女學校熊本縣女子師範學校愛知縣立第一高等女學校各教諭名古屋市視學鹿兒島縣女子師範學校長並同縣立第二高等女學校長等に歷任し現時京都府女子師範學校長並同府立桃山高等女學校長たり(京都市伏見區深草町墨染一〇)

上田佐助 土木建築請負業、東京府在籍

養父　勇次郎　文久三、九生、東京、中村吉右衛門三男

男　正雄　大三、四生

君は埼玉縣人沖山藤吉の弟にして明治十七年十月を以て生れ先代勇次郎の養子となり大正十三年家督を相續す土木建築請負業を營む家族は尙三男丈男(大一二、一二生)ありA八八六B三三四(東京市神田區美土代町二ノ七電麹町神田一六三〇・三二五五)

上田作治郎 上田㊞取締役、京都府在籍

妻　マサ　明六、七生、京都、熊谷英美姉

養子　菊郎　明三六、一一生、亡養子サダ子夫京都、乘水新太郎六男

君は京都府人上田清藏の三男にして明治元年二月を以て生れ同二十八年先代リウの後を承けて家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は尙孫能富子(昭七、一〇生)は同妻よね(同四、六生、京都上田太三郎三女)及其一男一女を伴ひ養子マス(明一九、一一生、京都、上田清兵衛長女)は同夫安次郎(同一二、一〇生、京都、井上文右衛門弟)と共に各分家し姪タメ(同一〇、三生、兄清次郎長女)は京都府右衛門に嫁せりA二〇六(京都市下京區室町松原南入電下四一)

參照＝※子爵藤井行德※古川藤三郎の項

上田定七 家主、大阪府在籍

妻　千賀　明二三、三生、大阪、柳田定治二女

男　健三　大四、一一生

庶子　定治郎　明四二、二生、生母、大阪、青木屋壽

君は大阪府人先代上田定七の長男にして明治十四年十一月十四日を以て生れ同三十四年家督を相續し前名定市を改め襲名す家主として知らるA三二五(大阪市西區北通一ノ三三電新町二六六)

上田重平 地主、兵庫縣在籍

祖母　ゆう　文久三、一生、兵庫、岩井茂兵衛長女

母　とめ　明一八、一二生、兵庫、安國幸右衛門二女

君は兵庫縣人先代仁左衛門の長男にして明治四十三年二月二日を以て生れ昭和四年家督を相續す地主たり家族は尙弟義信(大元、九生)同耕三(同四、一生)同伍郎(同一一、八生)妹長代(同七、一〇生)ありA四〇三(神戸市灘區岩屋町二六八)

上田駿一郎 從四位勳四等、女子學習院教授、敎務課長、滋賀縣在籍

妻　ハル　明二〇、四生、東京、入澤重曆妹

男　涼一　大一三、四生

女　杉枝　大八、一一生

君は滋賀縣人上田涼湖の長男にして明治六年七月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十三年東京帝國大學文科大學佛文學科を卒業し後米國に渡航歸朝後韓國學部編輯官京城高等普通學校敎諭兼朝鮮總督府編輯官朝鮮總督府視學官等に歷任し大正十年佛語及佛語敎授法研究の爲め佛英米獨佛國に留學し同十二年歸朝し大阪外國語學校敎授となり昭和五年女子學習院敎授に任ぜられ現に敎務課長たり家族は尙二女京(大一〇、四生)あり(東京府北多摩郡砧村喜多見成城北五九八電砧四三六)

上田正之助 上田勘商店㊞取締役、保險代理業、京都府在籍

妻　千惠　明三一、一〇生、京都、大橋千之助長女

男　陽一　大九、一〇生

君は京都府人上田嘉三の四男同芳三郎の兄にして明治二十三年十一月を以て生れ大正八年兄勘兵衛方より分れて一家を創立す保險代理業を營み前記會社の重役たり家族は尙二男孝次(大一三、八生)三男達彥(同一五、九生)四男博造(昭五、六生)ありA四七四(京都市下京區不明門通五條下ル上平野町四九電下六〇二四)

參照＝上田勘兵衛、上田芳三郎※養田嘉三の項

上田庄吉 製綿業、奈良縣在籍

母　シケ　安政六、一生、祖父庄七長女

妻　エイ　明二一、三生、奈良、村尾政治郎五女

男　庄太郎　明四〇、一二生

女　ヤス　明四三、二生

君は故奈良縣多類納設者上田庄五郎の長男にして明治十五年七月を以て生れ昭和四年家督を相續す製綿業を營む妹コト(明一八、九生、弟由藏(同二〇、一生)同泰助(同二九、七生)は各分家し甥芳太郎(同三八、一二生、妹コト私生子)は前記由藏の養子となり叔母マス(同一一、三生)は奈良縣人村尾政治郎長男茂一郎に嫁せり(奈良縣生駒郡郡山町)

上田丈吉 前角丸商會㊞取締役、埼玉縣在籍

妻　シゲノ　明一九、四生、東京、春木正文姉

男　昊　明三九、一二生、第一書房勤務、文學士

女　龍野　大五、一生、日本女大附屬高女在學

男　正　大二、一生、國學院大學在學

君は埼玉縣人上田忠七の二男にして明治四年七月を以て生れ先代榮次郎の養子となり同十七年家督を相續す義に角丸商會取締役たりしことあり能耳と號し和歌俳句に趣味を有す家族は尙三男昂(大七、一一生、立敎中學在學)三女みどり(同一〇、五生)四男力(同一四、一一生)あり(東京市本郷區駒込曙町一〇電巢鴨大塚五二三六)

上田甚五郎 練物商、京都府在籍

妻　ヤエ　明一一、七生、京都、士、廣庭祐之二女

庶子　重吉　大二、四生、生母、京都、三木クラ

庶子　すゑ　明四四、二生、生母、京都、三木クラ

君は京都府人上田甚助の長男にして明治八年十二月二十八日を以て生れ同十六年家督を相續す練物商を營む妹エン(同二六、六生)は京都府人池田千代蔀子辨次郎に嫁し同ミチ(同一一、六生)は其子女を伴ひ分家し弟甚三郎(同二二、一一生)は京都府人西川勘松の養子となれりA四〇五B九五(京都市中京區西洞院通竹屋町下ル電上三四六六)

參照＝西川甚三郎、根來與助の項

上田甚之助 地家主、大阪府在籍

妻　いく　明三七、一生、大阪、田宮鹿太郎妹

君は大阪府人奥田甚作の三男にして明治二十八年四月を以て生れ大正二年上田コトの養子となり後家督を相續す地家主たり趣味として謠曲書畫あり家族は尙二女蕗(昭三、三生)三女道子(同四、一〇生)四女政子(同六、一生)五女和子(同七、七生)六女富子(同八、一二生)ありA四八三五(大阪市北區澤上江町二ノ四八電東三三五〇)

上田水力 南滿洲鐵道㊞參事、鐵路總局經理處會計課長兼豫算係主任、大分縣在籍

妻　けい　明三一、八生、三重、日沖慶次郎二女

男　森生　大一五、八生

君は大分縣人上田乙吾の二男にして明治二十七年十一月三日を以て生れ先代キウの養子となり同三十五年家督を相續す大正五年神戸高等商業學校を卒業し南滿洲鐵道會社に入り現時前記の職にあり家族は尙長女紅子(大九、一一生)二男京二(昭四、三生)三女建子(同六、一二生)あり(大連市東公園滿鐵々路總局內)

上田助治郎 上田西號、硝子商、奈良縣在籍

養母　いゑ　明一〇、八生、奈良、池北忠作伯母

妻　愛　明三六、一一生、養母いゑ長女

男　一夫　大一三、一〇生

君は奈良縣人吉井秀吉の二男にして明治三十年十月を以て生れ大正十二年先代愛の入夫となり家督を相續す上田西號と稱し硝子商を營む家族は尙二男照弘(昭元、一二生)長女惠美子(同四、六生)養妹スマ(明四一、七生)同夫忠次郎(同三五、二生、奈良、岩本忠七三男)ありA七九五B三〇八(大阪市西區北堀江町四ノ一六電新町二五五三)

上田清次郎 家主、大阪府在籍

妻　セイ　明一〇、三生、大阪、平井文太郎長女

養子　彌之末　明三一、二生、養子ウメ夫、大阪平井平吉弟

養子　ウメ　明二六、一生、養子彌之末妻、大阪、平井富松三女

君は大阪府人上田太兵衛の二男にして明治五年十月を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す家主たりA五三四(大阪市住吉區住吉町一六八)

上田清助 大日電線會社員、大阪府在籍

妻　ヨシエ　明三八、四生、奈良、光田市之助妹

男　喬一　昭三、四生

君は大阪府人上田清次郎の二男にして明治三十三年八月二十四日を以て生れ同四十一年家督を相續す現時大日電線會社員たり家族は尙長女道子(大一三、一生)二女トシ子(同一五、二生)三女篤子(昭六、三生)ありA三一四(西宮市安井町一七電一六九四)

上田精一 從五位、醫師、東京府在籍

妻　この　明一八、一一生、山梨、高澄貞世姉、女子英學塾出身

男　朝一　大一五、二生

君は東京府士族上田正鳳の二男諸葛三雄の兄にして明治十四年一月を以て生れ大正十年兄仁方より分れて一家を創立す第一高等學校を經て明治四十三年京都帝國大學福岡醫科大學醫學科を卒業し日本橋京橋兩區に於て約十ケ年間醫を開業す大正十二年九月臨時東京市醫員を命ぜらる翌年二月朝鮮總督府道慈惠醫院醫官兼同練習所技師に任ぜられ咸鏡北道羅南慈惠醫院長を拜命す後朝鮮總督府道立醫院醫官となり全羅南道立光州醫院に勤務し退官後再び醫を開業す家族は尚庶子登代一(大八、一二生、生母、神奈川、白井カヨ)あり(朝鮮全羅南道光州旭町九二)

參照＝諸葛三雄の項

上田碩三

日本電報通信社常務取締役兼通信部長日本放送協會理事熊本縣在籍

母　ツヤ　嘉永六、一一生、熊本、毎木彌左衛門二女

男　碩哉　大一〇、一生

女　美江　大六、一〇生

君は熊本縣人上田眞九郎の長男にして明治十九年二月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十二年東京高等商業學校を卒業し現時日本電報通信社常務取締役兼通信部長にして又推されて日本放送協會理事たり家族は尚二女澄子(大一二、九生)弟素一(明二二、三生)同妻イト(同二〇、一二生、熊本、宮崎孫七妹)及其子女亡叔父謙三妻サヲ(同一二、四生、長崎、吉田三太夫姉)あり(東京市品川區大井庚塚町四七九三電大森一一六〇)

上田仙太郎

家主　大阪府在籍

繼母　ケン　安政四、四生、大阪、高橋作右衛門二女

妻　ツネ　明一〇、一〇生、大阪、北村仁藏姉

養子　格二　明三八、五生、五女キヨコ夫、大阪、中村彌三郎二男

女　キヨコ　明四四、一二生、養子格二妻

君は大阪府人上田小兵衛の長男にして明治七年五月七日を以て生れ大正三年家督を相續す家主たり家族は尚孫智清(昭八、三生、養子格二長男)あり妹セイ(明三〇、一生)は大阪府人田中源之助に嫁せりA六五五(大阪市東淀川區木川西之町一ノ一二電北六六七一)

上田仙太郎

從四位勳三等、大使館參事官、ソヴイエット聯邦在勤、熊本縣在籍

妻子　ヨシ　明三九、一生、熊本、牧野喜久太郎四女

君は熊本縣士族牧野嘉善の二男にして明治元年一月を以て生れ先代儀乃の養子となり同二十年家督を相續す同二十七年獨逸學協會學校を出で同三十六年露國聖彼得堡帝國大學法科を卒業し外務通譯生として獨墨各國に在勤す爾來公使館一等通譯官大使館一等書記官に歷任し多年露國に在勤す大正十一年公使館一等書記官となり波蘭國瑞典國ベルシャ國等に在勤し現時大使館參事官にしてソヴイエット聯邦日本大使館內「留守宅」(東京市品川區大井金子町六二八七)

上田太郎

從三位勳二等功四級、陸軍中將、岐阜縣在籍

母　ぢう　嘉永五、六生、岐阜、上田莊左衛門長女

妻　みつ　明一五、八生、岐阜、士、淺井俊貞五女

男　一郎　明三四、一生、臺灣總督府交通局員、工學士

姉　千鶴子　明四〇、一二生、長男一郎妻、廣島、中丸光次孫

男　五郎　明三五、九生、九段坂病院醫員、日本醫大出身

男　十郎　明四一、一生、醫學士

男　勝彥　明四五、三生、五高理科在學

女　香代子　大三、八生、縣立大垣高女出身

君は岐阜縣人上田半右衛門の長男にして明治元年十月を以て生れ同四十二年家督を相續す同二十六年陸軍少尉に任じ大正十年陸軍中將に累進す其間參謀本部總務部副官造東守備軍關東都督府陸軍部員大本營兵站總監部第四師團參謀第十三師團參謀歩兵第七十二聯隊長第十三師團長歩兵第十一旅團長第五師團留守隊司令官第十九師團長に歷補し大正十三年豫備役に編入せらる日清日露の兩戰役及西比利亞事件に參加す家族は尚四女政子(大九、二生)五女小夜子(同一二、六生)孫稔(昭四、八生長男一郎長男)あり長女美代子(明三七、九生)は長野縣人海軍造船中佐工學士矢ケ崎正經に嫁し二女千代子(同四三、一生)は山口縣人工學士前田茂に嫁せりA一八〇(大垣市新馬場町)

上田武夫

從六位、兵庫縣多額納稅者、地主、兵庫縣在籍

妻　せつ　明一〇、九生、養父八左衛門長女

君は神戸市の舊家高濱治介の二男にして明治五年四月を以て生れ後先代八左衛門の養子となり同四十年家督を相續す夙に東京帝國大學工科大學學び大分縣立竹田中學校岡山縣立高梁中學校兵庫縣立神戸商業學校各教諭を歷任教育界に在る事三十年昭和二年六月退職す養に神戸區會議員に推され現に兵庫縣方面委員神戸衛生組合長にして又直接國稅千八百五十五圓を納め縣下の多額納稅者に列し地主たり讀書に趣味を有すA二〇一七(神戸市神戸區北野町三ノ五二電葺合三六二五)

上田辰卯

日本高級鐵製造所㈱、東京株式取引所取引員、東京米穀商品取引所取引員、東京、東京府在籍

妻　登久　明三二、一一生、東京、近田三郎三女

男　鈴夫　大一〇、二生

君は東京府人上田與三吉の二男にして同厚吉の弟なり明治二十四年九月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す先是明治四十三年大倉商業學校を卒業し父を輔けて株式賣買業に從事し現時東京株式取引所一般短期實物取引員東京米穀商品取引所取引員にして前記會社の社員たり家族は尚二男雅明(大一三、七生)ありA一四一九〇B一二三六(東京市日本橋區南茅場町一ノ一六電茅場町一七一六)

參照＝上田厚吉※近田歲太郎の項

上田辰三

上田工務店、土木建築請負業、東京府在籍

養父　善吉　明元、二生

妻　しつ　明三〇、一一生、京都、西川傳四郎長女

男　弘善　大一〇、一生

君は京都府人伊佐彌三郎の二男にして明治二十五年十二月を以て生れ先代善吉の養子となり大正十四年家督を相續す同八年京都帝國大學工學部土木工學科を卒業し上田工務店と稱し土木建築請負業を營む家族は尚二男敏夫(大一一、九生)三男昭(昭二、五生)四男清(同六、二生)伯母ユキ(元治元、八生)あり(A三〇二B一六八(京都市東山區新門前大和大路東入二丁目中之町二四四電祇園二二六四)

上田辰之助

正五位勳四等、東京商科大學教授、從同附屬商學專門部教授、東京府在籍

母　なよ　明元、一二生

妻　アヤノ　明三七、六生、東京、加藤幹實三女

君は東京府人上田芳藏の二男にして明治二十五年二月を以て生れ昭和五年家督を相續す大正三年東京高等商業學校本科を同五年同校專攻部貿易科を卒業し同六年東京高等商業學校教授に任じ米英佛各國に留學を命ぜられ同九年東京商科大學附屬商學專門部教授に轉じ現に東京商科大學教授兼同附屬商學專門部教授たりベンシルヴエニア大學より哲學博士を授けられ又佛國文化に貢獻せる功勞により佛國オフィシエーダカデミー勳章を贈らる(東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺六三一電吉祥寺四三一)

上田保

雜貨商　大阪府在籍

母　コギク　明七、三生、和歌山、小松彌一郎二女

妻　貞子　明三九、五生、和歌山、有地光之助長女

男　明　昭四、九生

君は和歌山縣人上田熊吉の長男にして明治三十五年二月二十四日を以て生れ大正十四年家督を相續す同十五年神戸高等商業學校を卒業し雜貨商を營む家族は尚長女房子(昭三、一生)あり姉惠次(明三〇、七生)は和歌山縣人新田林次叔父已之助に妹綠(同三七、一二生)は北海道人酒井京吉二男良に嫁せりA八八七B三〇三(大阪市港區九條通一ノ五一電西二二二三)

上田保

土佐電氣㈱專務取締役、四國水電㈱取締役、高知瓦斯、高知ベス各㈱取締役、高知縣在籍

母　春　弘化四、三生、高知、上田壽作二女

男　秋夫　明三二、一生

妻　宗三郎　明三七、九生、空子信子夫、大阪、田中鶴次郎二男、大阪商大出身

婿　幸子　明四二、四生、養子宗三郎妻、生母、大阪、裏野テル、府立阿倍野高女出身

君は高知縣人上田伊八の長男にして慶應三年二月を以て生れ明治三十二年家督を相續す同二十一年慶應義塾別科を卒業し現時前記諸會社の重役にして養に高知商業會議所議員に擧げらる家族は尚孫みよ子(昭三、五生、長男秋夫長女)同なほ子(同四、一一生、同二女)あり庶子正(大七、三生、生母、高知、山岡芳)は高知縣人渡邊ヒデの家督を相續せり(高知市西唐人町四三三)

上田忠三郎

大阪土地建物㈱社長、阪堺電鐵㈱取締役、大阪府在籍

妻　フサ　明八、一生、大阪、永山好祐養母

養子　宗三郎　明三七、九生、空子信子夫、大阪、田中鶴次郎二男、大阪商大出身

君は和歌山縣人上田熊吉の長男にして明治三十五年二月二十四日を以て生れ大正十四年家督を相續す同十五年神戸高等商業學校を卒業し雜貨商を營む家族は尚長女房子(昭三、一生)あり姉惠次(明三〇、七生)は和歌山縣人新田林次叔父已之助に妹綠(同三七、一二生)は北海道人酒井京吉二男良に嫁せりA八八七B三〇三(大阪市港區九條通一ノ五一電西二二二三)

上田長右衛門

住吉屋、針商　東京府在籍

男　滿治　明四一、一〇生

女　ヌヽ子　明四四、三生

女　リウ子　大元、八生

君は東京府人先代長右衛門の二男にして明治十二年三月十二日を以て生れ同十五年家督を相續し前名新三郎を改め襲名す住吉屋と稱し針商を營む家族は尚四女千代子(大一一、一一生)あり長女しん子(明三八、一一生)は東京府人鈴木孝に嫁せりA二九五B一七〇(東京市日本橋區大傳馬町一ノ三ノ二電浪花六一一〇)

上田常記

大理石工業㈱代表取締役、奈良縣在籍

妻　ナラヲ　明元、一一生、養父忠右衛門二女

男　健三　明三二、五生

婿　たまを　明三七、三生、長男健三妻、奈良植田正一姉

君は和歌山縣人片山九兵衛の二男にして明治三年十月を以て生れ先代トモの養子となり同三十五年家督を相續す現時大理石工業會社代表取締役たり家族は尚孫琅子(大一五、一生、長男健三長女)同隆一(昭三、三生、同長男)同昌良(同四、四生、同二男)同俶子(同五、八生、同二女)あり長女シカ(明二八、三生)は分家し二男信次(同三三、二生)は大阪府人小松原市兵衛養子豐次郎の養子となれり(大阪市港區高尾町一ノ一七)

上田常記

播直タルク製粉㈱監査役、岩手縣士族

妻　トキ　明一一、一生、茨城、石川穗長二女

男　常隆　明三三、七生、大阪毎日新聞社名古屋出張員、法學士

婿　フミ　明四一、九生、日澤清道長女

女　ヒサ　明四三、一一生

男　實　大元、一二生

女　フミ　大四、三生

君は岩手縣士族上田常明の長男にして明治四年六月を以て生れ同二十二年家督を相續す同二十七年東京高等商業學校附屬主計學校を卒業し帝國商業銀行大阪支店長を經て藤田銀行に入り常務取締役に推され後萩銀行防長銀行各取締役たりし事あり現時前記會社の重役たり家族は尚五男猛夫(大六、二生)孫治子(昭三、一生、長男常隆長女)あり二男貫(明三五、七生)は故政友會總裁原敬の養子となり姉サメ(萬延元、七生)は岩手縣人坂本喜八に嫁せりA一五二(大阪府豐能郡池田町

室十番町電池田五六)
參照＝原賞の項

上田常吉　正五位勳四等、京城帝國大學教授醫學部勤務、東京府在籍
妻　てる　明一、四生、京都、高見岩藏長女、大阪府立夕陽丘高女出身
君は大阪府人上田丑之助の三男にして明治二十年七月を以て生れ大正三年兄由太郎方より分れて一家を創立す同五年東京帝國大學醫科大學醫學科を卒業し翌六年同大學副手次で助手となり同八年第國大學教授を經て同十五年京城帝國大學教授に任じ今日に至る同十二年解剖組織學研究の爲英獨米各國に留學す家族は尙長女則子(昭二、一生)二女康子(同五、一二生)三女朝子(同七、七生)あり(京城府東崇洞一ノ一大學官舎)

上田貞次郎　正四位勳二等、法學博士、東京商科大學教授兼同附屬商學專門部教授、東京府在籍
妻　てい　明一、五、八生、東京、向笠岩之丞長女
男　正一　明四三、二生
男　良二　明四四、一〇生
男　信三　大二、七生
君は東京府士族上田章の二男にして明治十二年五月を以て生れ同三十八年兄歓太郎方より分れて一家を創立す明治三十五年東京高等商業學校專攻部を卒業し商業經濟學研究の爲英獨に商業學財政學研究の爲英國に留學し歸朝後東京高等商業學校教授に任ぜられ大正八年法學博士の學位を受く昭和三年壽府に開催されし國際經濟會議に帝國委員として出席す現時東京商科大學教授兼同附屬商學專門部教授たり昭和八年アメリカカナダへ出張を命ぜらる家族は尙男男五(大七、四生)あり(東京市中野區桃園町九電中野三三七七)

上田貞治郎　上田寫眞機店(名)代表社員、藥劑師、寫眞材料輸入商、大阪府在籍
妻　タネ　明二七、一生、上田寫眞機店(名)出資社員
男　貞一

婦　とみ　明二七、七生、長男貞一妻、東京中村重之助二女
女　安子　明三九、四生
君は大阪府人上田文齋の二男にして同松次郎の養兄に當り萬延元年八月を以て生れ明治十三年家督を相續す藥劑師にして寫眞材料商を營み大正十五年營業を合名組織に改め現に其の代表社員にして專ら輸入販賣に當る家族は尙孫貞三(大一二、一生、長男貞一長男)同愛子(昭二、六生、同長女)同榮三(同四、一二生、同三男)あり二男順三(明二九、八生)三男信之助(同三、四生)は各分家せり(大阪市泉北郡濱寺町船毛七二〇電濱寺二六二)

參照＝上田松次郎の項

上田貞藏　從四位勳四等、前臺灣總督府臺中地方法院長、鳥取縣在籍
妻　ます　明一六、四生、鳥取、盤田茂市養子
君は鳥取縣人上田脇治郎の長男にして明治九年十二月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名曉造を改む夙に中央大學を卒業し明治四十一年判檢事登用試驗に合格す同四十四年判事に任ぜられ大正二年檢事に轉じ同六年臺灣總督府法院判官となり臺北臺南各地方法院判官嘉義支部々長臺南地方法院部長臺北地方法院新竹支部判官及臺中地方法院長に歷補し昭和八年退職現時閑地に在り家族は尙姉すが(明七、一生)あり父脇治郎(弘化四、六生、鳥取、國本茂八郎二男)母るい(安政三、一生、組父茂平治長女)は妹スマ子(明三九、五生)を伴ひ分家せり(鳥取縣八頭郡河原町)

上田輝雄　工學博士、早稲田大學教授、理工學部勤務、滋賀縣士族
妻　清子　明三四、一二生、東京、浦山助太郎三女
男　重朋　大一一、一生、府立一中在學
君は滋賀縣士族上田勝定の四男にして明治二十八年一月十三日を以て生る大正六年早稲田大學理工學部電氣工學科を卒業し芝浦製作所に勤務し同十三年早稲田大學助教授に任命せらる昭和四年電氣機構成學說なる論文を提出して工學博士の學位を授けられ同年同大學教授に陞り今日に至る父同年スカムザナビヤに開催の萬國電氣工藝委員會議及世界動力會議に日本代表として出席す同八年金龍山淺草寺本堂の電氣照明を設計し又早稲田大學戸塚野球場夜間照明設備の設計をなす學會協會等の役員に擧げらるゝ事多くスポーツに趣味を有し現に同大學體育會體操部長たり家族は尙二男利博(大一三、一生)三男宰雄(同一五、六生)四男忠雄(昭三、九生)あり(東京市小石川區上富坂町四〇電小石川六二四〇)

參照＝浦山助太郎の項

上田藤介　地主、大阪府在籍
父　模三郎　明二〇、八生、現戸主
繼母　フサエ　明三二、七生、大阪、稻治實太郎二女
君は大阪府人上田模三郎の長男にして大正六年五月を以て生る地主たり家族は尙妹喜代子(大一三、六生)弟徹(昭五、一生)妹友子(同七、七生)大叔母トミ(慶應元、三生)ありA三〇二(大阪市此花區上福島北二ノ五七)

上田德兵衛　唐木細工商、大阪府在籍
妻　さと　明五、二生、大阪、山岡兵助妹
男　福太郎　明二六、四生
婦　ちよ　明三二、一〇生、長男福太郎妻、兵庫、泉勇之介長女
男　保次郎　明二八、九生
男　德一　明四四、七生
君は大阪府人先代德兵衛の長男にして明治元年五月を以て生れ同十七年家督を相續し前名卯之松を改め襲名す唐木細工商を營む家族は尙孫敏夫(大一三、一〇生、長男福太郎長男)同美津子(同一五、三生、同二女)同達三(昭三、七生、同二男)あり三男宗三郎(明三三、六生)弟孝次郎(同八、九生)同德藏(同一六、九生)は各分家し同宗助(同一二、一二生)は大阪府人山中よねの入夫となり長女マサエ(同三〇、一〇生)は同府人竹内久七五男吉藏に三女千代(同四〇、五生)は同府人村瀨傳兵衛二男圭に妹とみ(同五、二生)は同府人榮田榮次郎に嫁せり(大阪市東區鳥町二ノ六三電東

參照＝上田孝次郎の項

上田篤次郎　正五位勳五等、海軍諜報機關中尉、東京高等商業學校教授兼選信局技師、地方海員審判所審判官、和歌山縣在籍
妻　文子　明三三、八生、岡山、江見馬太郎二女、神戸女學院大學部出身
男　克也　大八、七生、東京高校在學
君は和歌山縣人上田又次郎の二男にして明治二十年六月三十日を以て生れ大正六年分れて一家を創立す明治四十五年商船學校機關科を卒業し大正三年遞信局技手に同五年商船學校教授に任ぜらる同十四年東京高等商船學校教授兼選信局技師となり現に其任にあり地方海員審判所審判官たり同十五年英獨に留學を命ぜらる家族は尙二男亮爾(大一二、一二生)三男尙明(昭七、三生)四男誠嗣(同八、一二)あり(東京市小石川區水道端町一ノ七二)

上田彦次郎　熊本縣多額納稅者、酒造業、熊本縣在籍
妻　トヨ　明三六、三生、熊本、山本三十郎長女
男　甫　昭二、一〇生
君は熊本縣人先代彦次郎の二男にして明治三十二年八月三日を以て生れ大正十年家督を相續し前名源吾を改め襲名す酒造業を營み直接國稅一千二百七十五圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙長女昌子(大一二、二生)二女淑子(同一四、一〇生)二男昭(昭四、一二生)の外弟二穂(明四五、七生)あり織毋アキ(同五、一〇生、熊本、柳永作長女)は分家せり(熊本市南千反畑町)

上田百治　絹綿蒲團商、京都府在籍
妻　キヌ　明二一、八生、京都、櫛橋米吉二女
男　榮太郎　明四一、三生
女　芳枝　大元、九生
女　民江　大八、一一生
君は京都府人上田雅藏の長男にして明治十六年五月十八日を以て生れ大正四年家督を相續す絹綿蒲團商を營む家族は尙三男忠男(大一〇、一一生)四男正夫(同一四、七生)四女隆子(昭四、九生)あり長女千代子(明四二、九生)は京都府人水口繁三に嫁せり(京都市上京區惟屋町通り千本東入ル電本局三〇八八)

上田弘教　第四銀行整取締役、東京支店在勤、新潟縣在籍
妻　ケイ　明一一、九生、新潟、鈴木長八四女
男　榮作　大三、三生
君は新潟縣人上田磐雄の二男にして明治七年一月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す夙に新潟商業學校を卒業し同二十八年第四銀行に入り取締役兼支配人に進み現に同行取締役として東京支店に在勤す家族は尙三女芳江(大一〇、三生)ありA七五六(東京市本郷區駒込四片町一〇電小石川六〇三)

上田政次郎　貿商、大阪府在籍
妻　ナカ　明一〇、一〇生、奈良、往西栄藏四女
男　多三郎　明三二、一一生
婦　サト　明三〇、二生、長男多三郎妻、奈良、森田丹藏長女
君は奈良縣人上田多七の長男にして明治六年八月を以て生れ同四十四年家督を相續す貿商を營む家族は尙孫博(大九、一生、長男多三郎長男)同鹿(同一四、一生、同三男)同澄(同一三、四生、養子光秀長男)あり三男義秋(明四一、一一生)は大阪府人辻本平藏姉エトの養子となり庶子政次(大一〇、一〇生、生母、愛知、瀧下たけ)も亦同府人大庭ひさの養子となれりA一四七九B二一七(大阪市北區池田町一八八電堀川八六七)

上田松次郎　上田松活動寫眞機店、寫眞機商、大阪府在籍
妻　ミネ　明一八、三生、大阪、上田貞治郎妹
男　歓一　明四〇、一〇生
男　靖治　明四二、三生、大阪藥專出身
女　千惠子　明四四、九生、ウイルミナ高女出身
女　千鶴子　大二、一一生、羽衣高女出身
君は大阪府人山口儀兵衛の四男上田貞治郎の養弟にして明治十六年九月二十一日を以て生れ同三十九年同府人上田文齋の養子となり翌年家督を相續す上田松活動寫眞機店と稱し寫眞機商を營む家族は尙三男榮三(大七、一一生)ありA一七九B一二六(大阪市南區安堂寺橋通三ノ三〇電船場一三五四)

參照＝上田貞治郎の項

上田萬次郎　佐藤貞吾商店員、兵庫縣在籍
妻　直　明二、五生、兵庫、安藤莊三郎九女
養母　せつ　明三四、九生、養父萬次郎長女
男　つる　大一二、七生
君は兵庫縣人久保平兵衛の二男にして明治二十九年三月二十九日を以て生れ先代萬次郎の養子となり大正十四年家督相續と共に前名二郎を改め襲名す佐藤貞吾商店員たり(西宮市宮西町七三)

上田萬年　正三位勳一等、文學博士、東京帝國大學名譽教授、帝國學士院會員、東京府士族
妻　壽　明八、一〇生、東京、村上楢朝長女、村上富士太郎叔母
男　喜　明三〇、二生、慶大文學部出身
婦　文子　明三九、五生、長男壽妻、佐賀、白井鐵治長女
上田家は舊名古屋藩主德川家の世臣にして數代前分家して一家を創立し江戸定府となりて代々大久保町に住したり君は先代虎之丞の長男にして慶應三年一月を以て生れ後家督を相續す明治二十一年帝國大學文科大學和文科を卒業し獨逸及佛蘭西に留學し同三十三年文學博士の學位を受く文部省專門學務局長兼同省參與官外國語學校長心得東京帝國大學文科大學教授同學長同部

長神宮皇學館長等に歴任す昭和二年辭任し帝國學士院會員たり東京帝國大學名譽教授の稱號を授けられ養に國學院大學長に推さる父大正十五年貴族院議員に當選し長女千代(明三四、四生、御茶の水高女出身)は東京府人宇野新弟醫學士俊夫に二女富美(同三八、一〇生、謡曲家、筆名、文子)は東京日々新聞調査課長法學士圓地與四松に嫁せり(東京市小石川區駕籠町一六一電**大塚九二一**)

參照‖宇野新、村上富士太郎の項

上田萬平

妻　幸代　明二五、七生、鹿兒島、押川期吉長女

男　元彦　明四四、五生

男　享吉　大二、二生

女　健子　大八、一生

君は熊本縣人上田稻穂の長男にして明治十三年十月を以て生れ先代松彦の養子となり大正十一年家督を相續す先是明治三十九年東京帝國大學法科大學を卒業し同年文官高等試驗に合格同四十年北海道廳事務官に任じ擢來香川縣事務官農商務參事官同書記官醫師縣京都府大阪府各內務部長岐阜宮城各縣知事等に歴任し後貴族界に投じ現時朝鮮總督府の重役たり藝に歌舞を漫遊す家族は尚四女和子(大九、一二生)五女暢子(同一二、一生)あり(熊本市大江町九品寺電**一〇七七**)

正四位勳三等、熊本電氣、球磨川電氣、九州電力、熊本保今各㊖社長、鹿兒島電氣㊖取締役、上田陶店㊖代表社員、熊本縣在籍

上田巳之吉

妻　こと　明五、七生、三重、木谷半四郎二女

庶子　茂　明二五、七生、生母、三重、中村よね

婦　トキ　明二六、一〇生、庶子茂妻、三重高橋勇次郎二女

孫　あい子　大六、七生、庶子茂長女

君は三重縣人上田幸三郎の二男にして明治二年八月を以て生れ大正十年家督を相續す現に勢州毎日新聞社長兼營業部長たり家族は尚孫稔(大八、一一生、庶子茂長男)同保(同一、七生、同二男)同千代子(同一四、一一生、同二女)同せつ(昭三、二生、同三女)あり妹

勢州毎日新聞社營業部長三重縣在籍

サメ(明二〇、八生)は大阪府人川上市太郎に姪カヨ(同三六、一〇生、上田卯之松庶子)は奈良縣人山鳥岡菊治郎に嫁せり(四日市市濱田一九六四)

上田稔

母　シム　明一一、八生、子爵三浦矢一伯母

妻　春子　明三八、二生、伯爵坊城俊良妹

男　智　昭二、二生

正五位勳六等、男爵、陸軍工兵大尉、德島縣華族

當家　先々代有澤より家名を揚ぐ有澤は齊德島藩士にして明治五年陸軍大尉に任じ累進して陸軍大將に陞る其間第五師團參謀長西部都督參謀長陸軍大學校長步兵第二十二旅團長教育總監參謀長第五第七近衛各師團長臺灣朝鮮各軍司令官等に歴補し日清日露の役に功あり功二級に叙し同四十年華族に列し男爵を授けらる先代兵吉其後を承ぐ兵吉は德島縣人杉崎秦太郎の弟にして有澤の養子となり大正十年襲爵す明治二十五年陸軍步兵少尉に任じ大正六年陸軍少將に累進す其間侍從武官第四十四聯隊長第十七師團參謀長步兵第二十四旅團長等に歴補し豫備役編入後貴族院議員に舉げらる君は其長男にして明治三十年八月二十日を以て生れ昭和六年九月家督を相續し襲爵す陸軍士官學校卒業後大正七年十二月陸軍工兵少尉に任じ同十一年三月同中尉に昭和二年七月同大尉に陞り現に陸軍士官學校教官たり家族は尚二男藏(昭三、一二生)長女淵美子(同五、三生)弟勝(明四〇、五生)あり第茂(大二、八生)は宗實杉崎家を繼げりA一一四(東京市澁谷區千駄ヶ谷四ノ八二三電**四谷二四九**)

參照‖伯爵坊城俊良、子爵三浦矢一※侯爵中御門經恭※子爵長谷信道※子爵八條隆正※坊城俊實※男爵本田不二麿※井上角五郎の項

上田實

妻　とめ　明三七、七生

男　孝　明三七、七生、長男保孝妻、大阪宮北仁長衛二女

婦　エツ

君は德島縣人上田實の三男にして明治十四年四月を以て生れ先代保長衛の養子となり大正七年家督を相續す明治三十五年第五高等學校醫學部藥學科を卒業し藥劑師にして傍ら前記會社の重役を兼ね推されて兵庫縣藥劑師會長兵庫縣會議長神戸市會議員たり養に兵庫縣會市部會議長神戸市參事會員たりし事あり長女靜子(明三五、一一生)は九州帝國大學助教授和栗明に嫁し弟正實(同三〇、四生)は分家せりA三一八(神戸市兵庫區水木町一ノ二二電**湊川八〇六**)

(※印は姻族關係)

妻　松枝　明二四、四生、東京、鍾雪年二女

男　元重　大元、一〇生、從五位

女　武子　大三、五生

女　幸子　大六、七生

當家は上田主水重安の後なり重安初め丹羽氏に屬し後淺野幸長に仕へ其客老たり宗古と號し茶を嗜み上田流の一派を起せりそれより世々同藩の國老として祿一萬七千石を食み先々代讓翁に至る讓翁維新の際藩主を輔け國事に盡瘁して功あり長男鱸次郎其後を繼ぎ明治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は鱸次郎の四男にして明治十六年五月九日を以て生れ同四十年襲爵被仰付早稻田大學に學ぶ家族は尚三女茂子(大九、九生)四女民尾(同一一、一一生)二男溫廣(同一四生)五女貞子(昭二、五生)六女末子(同四、三生)あり妹雅子(明二三、一〇生)は東京府士族勝興信一郎に嫁せり(廣島市三篠町柿木二三九電**一五二四**)

參照‖※澁岡長彦の項

上田宗重

妻　康　明二七、三生、東京、士、上田源次妹

正五位勳三等、海軍少將、海軍機關學校長、東京府士族

君は東京府士族篠原重正の四男にして明治十七年八月を以て生れ先代すすの養子となり大正七年家督を相續す明治三十八年海軍機關學校を卒業し海軍少機關士に任じ昭和四年海軍少將に累進す其間海軍水雷學校海軍工機學校海軍大學校等を卒業し海軍機關學校教官兼監事海軍教育本部々員伊勢艦裝員海軍機關學校教官海軍大學校教官海軍省人事局員横須賀鎮守府附海軍々令部出仕兼海軍省出仕海軍機關學校生徒科長佐世保鎮守府機關長海軍大學校教官兼海軍艦政本部技術會議々員等に歴補し海軍技術研究所科學研究部長兼海軍技術會議議員海軍燃料廠長を經て昭和九年前記現職に補せらるA一四二(京都府加佐郡中舞鶴町海軍官舍甲特一號、

參照‖※杉原美代太郎の項

上田村次郎

妻　歌子　明三五、一二生、愛知、土方良平長女

三越㊖社員、本店勤務

愛媛縣在籍

君は愛媛縣人上田牛次郎の二男にして明治十五年七月五日を以て生れ大正十一年兄實三郎方より分れて一家を創立す明治三十九年東京外國語學校佛語科を卒業し同四十年三井物產會社に入社し大正七年名古屋支店雜貨部主任を經て昭和二年東京本店金物部第二部主任に轉じ同六年株式會社三越に入り翌七年札幌支店長に就任し同九年八月東京本店勤務となり今日に及ぶ(東京市日本橋區室町一ノ七三越內)

上田元治郎

母　いし　明一八、八生、滋賀、岡村政次郎姉

妻　たか　明四〇、一一生、京都市立第一商業學校出身

妹　嘉永六、三生、滋賀、奥村德次郎姉

男　武　大三、七生

男　健治郎　明四二、五生、長男健治郎妻、京都、野上清次郎三女、家政女學校出身

婦　ひさ

君は滋賀縣人上田岩吉の長男にして明治十三年四月を以て生れ同四十五年家督を相續す父祖以來の薪炭問屋業を營み創業以來七十餘年現に大津薪炭問屋組合長前記會社の社長にして大津市會議員たり傍ら前記會社の重役たり家族は尚三男能弘(大八、四生)四女綾子(同九、八生)五女美代子(同一三、六生)六女清子(同一五、一生)あり長女千代子(明三六、三生)は分家し二女千鶴子(同四〇、三生)は大阪府人上田隆一に嫁せりA一三三〇(東京市四谷區霞ヶ丘町一七電**青山七五三〇**)

上田寧

妻　ウタ　明四二、三生

男　昭　明三二、二生、山陽中央水電會社員、中大商科出身

婦　綾子　明三八、九生、長男昭妻、兵庫、廣瀨常行二女

男　敦　明三五、八生、三和銀行員、慶大經濟學部出身

婦　鈴　明四三、八生、二男敦妻、兵庫、山口竹治郎長女

女　美代子　明四〇、三生、大手前高女出身

男　健　明四三、一生、慶大法學部在學

女　富美子　大七、二生

君は兵庫縣人武田三衛の二男にして明治十三年九月を以て生れ先代彌兵衛の養子となり同三十八年家督相續と共に前名信次郎を改め襲名す同三十三年大阪高等商業學校を卒業し大阪商船會社に入りし日露の役に出征す爾來家業米穀問屋業を營み傍ら前記各會社の重役たり養に大阪市より推されて衆議院議員に當選す家族は尚三男能弘(大八、四生)四女綾子(同九、八生)五女美代子(同一三、六生)六女清子(同一五、一生)あり長女千代子(明三六、三生)は分家し二女千鶴子(同四〇、三生)は大阪府人上田隆一に嫁せりA一三三〇(東京市四谷區霞ヶ丘町一七電**青山七五三〇**)

(※印は姻族關係)

男　保貴　明四二、一二生

女　種子　大元、九生

女　健子　大三、九生

君は兵庫縣人岡田實三郎の三男にして明治十四年四月を以て生れ先代保長衛の養子となり大正七年家督を相續す明治三十五年第五高等學校醫學部藥學科を卒業し藥劑師にして傍ら前記會社の重役を兼ね推されて兵庫縣藥劑師會長兵庫縣會議長神戸市會議員たり養に兵庫縣會市部會議長神戸市參事會員たりし事あり長女靜子(明三五、一一生)は九州帝國大學助教授和栗明に嫁し弟正實(同三〇、四生)は分家せりA三一八(神戸市兵庫區水木町一ノ二二電**湊川八〇六**)

上田穣

母　タケヲ　明三三、二生、德島、近藤藤三郎女、縣立德島高女出身

妻　テルエ　大八、六生、京都府立一中在學

男　正康　君は德島縣人上田慶藏の長男にして明治二十五年二月を以て生る大正五年東京帝國大學理科大學星學科を卒業し臨時緯度觀測所技師となり後京都帝國大學助教授を經て現時同大學教授たり養に昭和四年理學博士の學位を授けられ夫で米伊獨各國に留學す又同九年南洋群島に出張せり家族は尚弟鐵馬(明二七、九生)同妻操(同三六、四生、德島、杭田清一四女)及其子女弟昌雄(同三〇、二生、陸軍步兵少佐、參謀本部附、ペルシヤ駐在)同妻初(同三八、一一生、德島、增谷和三郎妹)及其一子弟彰(同三三、六生、九州帝大醫學部講師)同妻綾子(同三八、四生、德島、村上淳三郎三女)及其一子あり(京都市左京區吉田本町一二電**上六一八七**)

上田宗雄

母　タネヨ　從三位、男爵、舊廣島藩國老

妻　安政二、一二生、京都、士、堀川師克姉

上田寧二

妻　歌子　明三五、一二生、愛知、土方良平長女

陸軍二等主計、東京商船學校、日本石油㊖業、日本倉庫㊖業、東京拓殖㊖取締役、東京米穀㊖取締役、東京米穀㊖代行㊖取締役、東京機械工作所㊖監査役、大阪府在籍

從七位勳四等、陸軍二等主計、東京米穀㊖商品取引所㊖理事、南洋護謨㊖業、日本倉庫㊖代表社員、東京米穀㊖取締役、東京機械工作所㊖監査役、大阪府在籍

君は大分縣人上田洋の弟にして明治六年二月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す現時浪速瓦斯會社長たる外前記各會社の重役たり家族は尚孫敬一(昭四、五生、長男昭長男)ありA七一一四(兵庫縣川邊郡長尾村中筋庚申塚三ノ三電**寶塚四四五**)

參照‖山口竹治郎※伊藤萬治郎の項

上田彌兵衛

從七位勳四等、陸軍二等主計、東京米穀㊖商品取引所㊖理事、南洋護謨㊖業、日本倉庫㊖代表社員、東京米穀㊖取締役、東京機械工作所㊖監査役、大阪府在籍

君は滋賀縣人上田岩吉の長男にして明治十三年四月を以て生れ同四十五年家督を相續す父祖以來の薪炭問屋業を營み創業以來七十餘年現に大津薪炭問屋組合長前記會社の社長にして大津市會議員大津商工會議所副會頭の公職に在り家族は尚孫富美子(昭八、六生、長女ミツエ(明三八、九生)は滋賀縣人松永誠一に二女節子(同四三、六生)は同縣人村井武助に同正雄に妹せい(同二二、一〇生)は同縣人堀江淳に嫁し弟文次郎(同一五、六生)は其一子を伴ひ分家せり(**大津市中保町二電一七〇**)

參照‖山口竹治郎※伊藤萬治郎の項

上田寧二

妻　ウタ　明四二、三生

君は兵庫縣人武田三衛の二男にして明治十三年九月を以て生れ先代彌兵衛の養子となり同三十八年家督相續と共に前名信次郎を改め襲名す同三十三年大阪高等商業學校を卒業し大阪商船會社に入りし日露の役に出征す爾來家業米穀問屋業を營み傍ら前記各會社の重役たり養に大阪市より推されて衆議院議員に當選す家族は尚三男能弘(大八、四生)四女綾子(同九、八生)五女美代子(同一三、六生)六女清子(同一五、一生)あり長女千代子(明三六、三生)は分家し二女千鶴子(同四〇、三生)は大阪府人上田隆一に嫁せりA一三三〇(東京市四谷區霞ヶ丘町一七電**青山七五三〇**)

(※印は姻族關係)

妻　ミチ　明四、一〇生、養父少藏長女
男　源太郎　明二六、一生、慶大理財科出身
婿　ナミ子　明三四、一生、長男源太郎妻、東京、吉富藤一姉
保　明三九、一生
君は山口縣士族吉富簡一の二男同寅太の弟にして明治三年八月を以て生れ上田少藏の養子となり同二十三年家督を相續す農業を營み現に山口縣多額納稅者にして直接國稅千九百六十三圓を納め素封家として知らる家族は尙孫公一(大一〇、一生、長男源太郎長男)あり二男光二郎(明二八、四生、經濟學士)同妻キク(同三七九生、山口、上原乙治長女)は共に分家し四男敏雄(同三三、七生、慶大出身)も亦分家し長女コト(同二一、五生)は山口縣人上田實長男襄に嫁せり(山口縣吉敷郡大道村電二)
參照‖吉富寅太の項

上田祐二

繪具商　京都府在籍
養母　テイ　明一四、四生、京都、柳榮三郎養子
君は京都府人梅澤卯三郎の二男にして明治四十年八月三十一日を以て生れ同四十四年先代萬次郎の養子となり昭和七年家督を相續す繪具商を營む養姉はつ(明三六、一〇生、亡養兄嘉四郎妻、京都、井上直三郎長女)は其二子を伴ひ分家し養叔父喜三郎(同九、六生、養父萬次郎弟)は京都府人水谷しずの養子となり養叔母フサ(同一三、三生、同妹)は同府人井上文兵衛四男直三郎に嫁せり(京都市二條通新町西入電本局五六八)

上田與兵衛

京都府多額納稅者、太物商　京都府在籍
妻　ツネ　明四、七生、京都、木村市郎兵衛二女
男　清二　明四三、九生
男　正五　大三、五生
君は京都府人先代與兵衛の長男にして慶應三年五月を以て生れ明治二十七年家督を相續し前名龜次郎を改め襲名す太物商を營み京都府多額納稅者に列す長女みね(明二六、一二生)は其夫獨愈八(同一九、三生、滋賀、服部彌吉二男)と共に三女コウ(同三六、一生)は其夫武次(同三一、九生、京都、中川徒太郎二男)と共に各分家し六女たか(同四一、九生)も亦分家せりA一五二六B一六一(京都市下京區五條御幸町西入電下三〇三)

上田芳三郎

上田勘商店㈱取締役、上田林業㈱役、京都府在籍
妻　千賀　明二九、一生、京都、田中萬之助妹
男　榮一　大七、一〇生
君は京都府人上田勘兵衛同正之助の弟にして明治十八年四月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す明治四十二年慶應義塾理財科を卒業し現時上田勘商店取締役にして上田林業會社鑛査役を兼ぬ家族は尙二男恭造(大一〇、一〇生)長女千代子(同一五、五生)ありA一三八二(京都市下京區高倉通五條下ル堺町二二電下六〇二三)
參照‖上田勘兵衛、上田正之助、田中萬之助※久保田庄左衛門※養田喜三の項

上田義二

正八位、兵庫縣㈱取締役、兵庫縣會議員、岩見銀行
妻　みどり　明二四、九生、兵庫、山崎善八郎三女
男　勝信　大四、六生
女　美代　明四五、二生
女　米　大八、一生
君は兵庫縣人上田信二の長男にして明治十八年六月を以て生れ大正七年家督を相續す先是明治三十七年專修大學理財科を卒業し現時岩見銀行頭取にして兵庫縣會議員に推さる家族は尙二男八三(大一〇、四生)四女民(同一二、五生)弟義信(明三五、三生)妹つな(同二九、一〇生)及其二男一女あり三女惠美(大一二、五生)は兵庫縣人山崎善五の養子となり妹てい(明二一、四生)は同縣人上谷續弟粂造に同かつ(同二四、四生)は同縣人沖彌新三郎に嫁せり(兵庫縣揖保郡龍田村電龍二一)
參照‖沖彌新三郎の項

上田利一

奉天商工會議所副會頭、奉天聲園㈱取締役、綿布雜貨貿易商
妻　ミツ　明二三、五生、大阪、黑井忠右衛門姉
男　芳郎　大二、三生
女　須磨子　大三、一〇生
君は大阪府人上田利兵衛の長男にして明治二十年十二月を以て生れ同四十年家督を相續す同年綿布雜貨貿易商を開業し爾來一意對支貿易に從事し今日に至る現時前記會社の重役にして推されて奉天商工會議所副會頭たり家族は尙二男健次郎(大六、四生)あり母ひて(文久三、六生、大阪、川崎潮平三女)弟良三(明三三、二生)は共に同府人上田愛の家籍に入り姉みね(同一五、八生)は大阪府人大篠彥三郎に同ぬい(同一八、一一生)は同府人川上利助弟五三郎に嫁せり(奉天小北門大街電三一六二)
參照‖川上利助の項

上武槌之助

家主　大阪府在籍
妻　ふさ　明一五、五生、大阪、岡根辰次郎妹
男　幸太郎　明三六、一二生
婦　光子　明三八、一二生、長男幸太郎妻、藍崎萬吉二女
女　ハル　明三九、三生
女　フク子　大元、一〇生、第一手藝學校出身
女　八重子　大四、一生、明治高女出身
君は大阪府人上武佐助の三男にして明治八年三月を以て生れ同二十四年兄元三郎の後を承けて家督を續す家主たり家族は尙三男秀雄(大六、一生)あり二女雪江(明四二、一生、夕陽丘高女出身)は竹中保永に嫁せり(大阪市浪速區元町一ノ七四九電戎一九三六)

上館市太郎

勳七等、岩手縣會議員　岩手縣在籍
妻　トキ　明一一、八生、岩手、上館善作二女
男　純三　大二、一〇生
女　妙　大八、九生
孫　アヤ　大六、一二生、亡二女ウメ長女
君は岩手縣人上館龜吉の長男にして明治五年六月を以て生れ同四十年家督を相續す現時岩手縣會議員にして

囊に東北鐵道會社重役たりし事あり三女ナミ(明三八、六生)は岩手縣人八重樫李助に四女トミ(同四三、一二生)は同縣人佐々木綱一に嫁せり(岩手縣下閉伊郡小川村)

上塚司

正五位、衆議院議員(熊本縣選出)　熊本縣士族
妻　鈴　明二九、三生、宮城、陸軍少將第三十九旅團長勝尾信彥妹
男　昭　大五、三生
君は熊本縣士族上塚秀輝の六男にして明治二十三年五月を以て生る夙に神戸高等商業學校を卒業し南滿洲鐵道會社に入り在職中外務農商務兩省の囑託に滿蒙古中南部支那佛領印度を巡察す大正九年以來衆議院議員に當選すること三回同十二年丁抹に於ける萬國議員會議に出席し歐米諸國を巡遊す後農商務大臣祕書官商工大臣祕書官中央新聞社理事大藏大臣祕書官等に歷任し又日本高等拓殖學校を創立し昭和五年二月外務省より南米アマゾン流域植民地々域劃定並に調査を命ぜられ同年六月出發南米アルゼンチン及ブラジル南部諸州を視察し同年九月アマゾン流域に入り潛在四ヶ月地域劃定を爲しアマゾニア產業研究所を設立秘歐洲に渡り獨西佛英和蘭伊露等の各地を遊歷し昭和六年三月歸朝す同年大藏大臣祕書官に任ぜられ同七年衆議院議員に當選し大藏參與官に任じ祕書官事務取扱を兼任し同九年七月辭任す現時日本高等拓殖學校長兼アマゾン產業研究所長たり「楊子江を中心として」「農村の國丁抹土產」「是清翁一代記」等の著書あり家族は尙兄秀勝(慶應二、五生、現戶主)同妻マツ(明七、一一生、熊本、士、保田萬喜姪)及其一男廣島縣地方課長萬及法學士弘あり兄光雄(同八、一生)同妻マス(同二〇、九生、熊本、三好龍興姉)は其子女を伴ひ分家し母シゲコ(嘉永五、四生、熊本、士、高田ミナ三女)兄於兎熊(明一〇二生)姉トヨ(同一五、三生)は共に其家籍に入り妹コズエ(同二七、一一生)は熊本縣人義秀彥長男宗晉に嫁し養姉ムツ(同一五、五生、熊本、士、上塚豈二女)は同縣士族上塚直熊の養子となれりA四三四(東京市麻布區笄町一五五電青山六〇〇七)
參照‖勝尾信彥※伯爵佐久間俊一の項

上殿利三郎

地家主　大阪府在籍
妻　コウ　明二一、一二生、大阪、青山太郎兵衛三女
女　和子　明四三、八生
君は大阪府人上殿利助の二男にして同利八の弟なり明治十一年七月五日を以て生れ同四十年分れて一家を創立す地家主たりA四六八(大阪市天王寺區勝山町一ノ二三九電天王寺九七一)
參照‖上殿利八の項

上殿利八

地家主　大阪府在籍
妻　アサ　明一一、二生、大阪、青山太郎兵衛二女
男　修三　明三四、四生
婦　セン　明三七、八生、長男修三妻、大阪津田長兵衛門孫
男　利男　明四〇、四生
男　孝夫　明四二、一二生
男　勝見　大二、一一生
君は大阪府人上殿利助の長男同利三郎の兄にして明治六年十一月を以て生れ同四十年家督を相續す地家主たり家族は尙孫純代(昭三、二生、長男修三長女)姉フシ(慶應三、九生)ありA一五九四(大阪市天王寺區勝山町一ノ二三九電天王寺九七一)
參照‖上殿利三郎の項

上西克巳

養產家　兵庫縣在籍
妻　リン　安政三、九生、兵庫、內海作次郎妹
男　宗之　昭二、八生
君は兵庫縣人上西宗次郎の長男にして明治二十七年十月を以て生れ同三十八年家督を相續す大正八年京都帝國大學經濟學部を卒業し日本銀行京都支店に勤務せしも後之を辭す養產家たり家族は尙長女素(昭五、四生)二女雅(同八、一生)あり妹ひら(明三四、五生)は鳥取縣人金田武治に嫁せりA一八〇〇(京都市左京區聖護院東町電上一二一五)
參照‖中西龜太郎※鈴木懿太郎の項

上西威

エルレイボルド㈱取締役、建材社團代表社員、東京府在籍
妻　はま　明二七、七生、東京、阿部鐵之助長女
男　敏夫　大五、一生
女　惠　大二、一一生
君は兵庫縣人上西圭三の長男にして明治十六年九月三日を以て生れ同二十一年家督を相續す現時前記各會社の重役たり父圭三(安政四、五生)妹秋子(明三五、一二生)共に分家せりA二二四(東京市赤坂區表町四ノ六電青山四五三四)

上西勝

第一屋、昭和酒類各㈱代表取締役、太平洋水產㈱取締役、兵庫縣在籍
妻　ゑい　嘉永三、八生、兵庫、馬場五兵衛長女
母　コト　明一四、二生、兵庫、藤田繁太郎養子
男　彌三郎　明三九、八生
女　正子　明四〇、一〇生
男　和夫　明四二、二生
男　醇造　明四五、五生
庶子　健一　明三一、一二生、生母、兵庫、長阪よね
君は兵庫縣人上西彌兵衛の長男にして明治八年三月を以て生れ同一九年家督を相續す幼時より酒造業山邑太左衛門方に入り勤續二十餘年推されて山邑酒造會社取締役に擧げられしが後之を辭し現時前揭各會社の重役たり家族は尙四男鐵太郎(大六、一〇生)五男良一(同八、八生)あり妹もと(明一二、三生)は兵庫縣人西井久藏に嫁し弟豐明(同一五、四生)は同妻ゑ(同二二、一生、兵庫、植田友吉妹)と共に其一子を伴ひ分家し叔母じう(文久三、四生)も亦分家せりA七一八(兵庫縣武庫郡魚崎町川西三五九電御影二六七七)

上野有芳

正四位勳三等、帝室林野局技師兼宮內技師、東京府在籍
妻　茂登枝　明二四、二生、三重、五井清哉長女

君は栃木縣人上野留造の二男にして明治六年三月を以て生れ昭和二年朔靡一郎方より分れて一家を創立す明治三十四年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し翌年同大學理工科大學助教授に任ぜらる同三十九年御料局技師兼内苑局技師に轉じ帝室林野管理局土木課長同工務課長等に歷補し現時前記の官職に在り家族は尙養子ゆり子(大二一、五生、三重、五井清哉孫)ありA一七一(東京市大森區田園調布四ノ一九二ノ五電田園調布二〇九)

上野魁春

母　トモ　従四位勳三等、判事、仙臺區裁判所監督判事、東北帝國大學講師
妻　ハナ　青森縣士族
女　正秋　萬延元、三生、青森、士、渡邊知太郎長女
男　明二〇、二生、愛媛、河野隆性長女

君は青森縣士族上野葆眞の長男にして明治十年八月を以て生れ同三十三年家督を相續す同三十六年京都帝國大學法科大學法律科を卒業し同三十八年判事に任じ爾來秋田地方大津地方同區神戸區同地方各裁判所判事大阪控訴院判事大阪區同地方奈良區東京區同地方各裁判所判事宮城控訴院判事等に歷補し昭和三年前記現職に轉じ傍ら東北帝國大學講師たり家族は尙二男春雄(大四、三生)あり長女滋子(明四一、一生)は新潟縣人荒井菊治三男虎雄に妹セツ(同一八、一生)は青森縣人井河德藩に嗣イク(同二六、二生)は同縣士族川井正省二男舜吉に嗣イク(同三〇、二生)は東京府人福澤健一に嫁ぜり(仙臺市米ケ袋中丁三一)

上野貫三郎

養母　ヨシ　京都府多額納稅者、日昭ライト工業、ミカド商會各藍取締役、伏木製氷冷藏庫藍監査役、上野製作所、理化學器械標本製作業
妻　春子　京都府在籍
男　明六、九生、大阪、尾崎友七長女
女　明三五、一生、京都、吉川虎吉長男
　　貴德　昭七、六生
　　和子　大五、一生

君は大阪府人朝越富藏の長男にして明治二十二年十一月を以て生れ先代興吉の養子となり大正十二年家督を相續す夙に大阪高等商業學校を卒業し合資會社上野製作所を主宰し理化學器械標本製作業を營み傍ら前記各會社の重役にして三重縣下に上野臨海研究所を設立す京都府多額納稅者に列し直接國稅二千五十七圓を納む囑託を受けフイリツピン群島に出張す家族は尙二女博子(明四、一生)あり養弟興一(明三八、一生)は分家せり(京都市東山區松原大和大路東三丁目興善町一四〇電祇園三二五)

上野キヌ

家主　京都府在籍
養子　英太郎　明三五、一生、養子タカ夫、京都新井權次郎長男
　　タカ　明三七、七生、養子英太郎妻、京都、梅原嘉吉二女

君は京都府人神原德右衛門の三女にして明治十四年十月十日を以て生れ同四十二年先代德右衛門の養子となり同四十五年家督を相續す家族は尙孫英隆生、同長女)あり(京都市下京區西高瀨川筋五條下ル電本局六二四八)

上野喜左衛門

母　かね　貴族院議員、鹿兒島縣多額納稅者延岡瓦斯、藤田組各藍代表取締役日本水電藍取締役、電支配人、西薩電氣藍取締役、鹿兒島郵船、宮崎瓦斯、鹿兒島朝日新聞社各藍監査役、鹿兒島縣生糸同業組合各藍組長、鹿兒島縣在籍
妻　玉枝　明一〇、一生、鹿兒島、新原傳藏長女
男　喜一郎　明四二、一生、廣島、岡田龜之助三女

君は鹿兒島縣人先代喜左衛門の長男にして明治三十四年八月を以て生れ大正十年家督を相續し襲名して前名次郎七を改む昭和二年東京商科大學を卒業し現時前記諸會社の重役にして鹿兒島縣多額納稅者に列し直接國稅二千五百六十五圓を納む昭和七年貴族院議員に互選せらる家族は尙次郎吉(明四〇、九生)同四男(同四、一一生)三、四生)同齋男(大二一、七生)妹絹子(同五、五生)弟

同四十一年碩學博士の學位を受く大正六年取締役に擧げられ同十四年轉じて監査役となり現時同社顧問並に東京藥學專門學校理事並校長たり又東京帝國大學醫學部講師たりしことあり長女きぬ(明三二、一二生、東京府立第三高女出身)は愛知縣人井伊吉次郎長男日本勸業銀行秋田支店長法學士鉦太郎に二女あや(同三五、一三、出身校同上)は石川縣人井上茂長男營繕管財局技師工學士一之に三女紀(同三七、二生、山脇高女出身)は山形縣人相良守一長男東京帝國大學助教授文學士守峰に嫁し四女博(同四〇、三生、出身校同上)は同夫宰三(同二九、一生、故海軍々醫總監石黑宇宙治三男、東京工業試驗所技師理學士)と共に分家せりA八三八(東京市麻布區笄町一六電青山六三三八)

參照‖井伊鉦太郎の項

上野金之助

母　てる　地家主　東京府在籍
妻　春江　元治元、三生、東京、廣都清兵衛長女
男　明三六、八生、埼玉、須田幸一郎
女　二女

君は東京府人先代金兵衛の二男にして明治三十一年一月三十日を以て生れ昭和二年家督を相續す地家主たり家族は尙弟英次郎(明三八、一〇生)同妻敏子(大二、一生、東京、上野金三郎二女)ありA九九五(東京市小石川區關口臺町一三電牛込二六五八)

上野邦教

家主　大阪府在籍
妻　ルイ　明一三、一二生、香川、佐々木照永三女
男　勝敬　明三九、一一生
養子　三良　明三五、九生、二女タネ子夫、大阪、山上國三郎三男
女　タネ子　明四二、二生
　　道夫　明四四、二生
男　義雄　大四、一二生
女　豐子　大二、三生
　　寡代子　大六、八生

君は大阪府人上野勝治郎の長男にして明治八年九月二十三日を以て生れ同三十八年家督を相續す家主にして現に本庄方面委員常務たり家族は尙孫英子(昭五、五生、養子三良長女(同邦男(同八、九生、同長男)妹ウサ(明一二、七生)あり同シヅ(同二一、三生)は兵庫縣人福島健藏弟政治に嫁せり(大阪市東淀川區本庄川崎町一ノ二四電北六一二六)

上野啓純

妻　ます子　櫪華少僧都、親鸞寺住職、道教授、京都府在籍
養子　秀員　明三〇、七生、長野、淺田藤一郎三男
　　庄司　明二、九、一生、奈良、亀井秀雄二男、正八位、豫備陸軍歩兵少尉
　　幸三郎　明三五、四生、養子秀員妻、東京三女、千代田高女出身
　　ゆき子　明四〇、一〇生、東京、住司幸三郎四女、京都市立第一高女出身

君は滋賀縣の郷士上野彌吉の四男にして明治三年十月を以て生れ先代卯一郎の養子となり同三十八年家督を相續す現に觀音寺住職にして傍ら蝸牛庵と稱し華道を教授し雜誌「道」を主宰す曩に京都六角堂法類總代華道家元池ノ坊總華督に推され退職後京都市立堀川高等女學校同市立專修商工學校生花教授を囑託さる家族は尙孫純子(大九、四生、養子秀員長女)ありA六七二(京都市左京區吉田神樂岡町八電上一四三四)

上野景治

妻　ハエ　熊本縣士族
男　景規　明二九、一〇生、熊本、田中鐵二郎妹
　　大七、三生

君は熊本縣士族上野景之の長男にして明治十八年十二月を以て生れ後家督を相續す藥種商を營み熊本商工會議所副會頭に推さる家族は尙二男景平(大九、二生)長女晶子(同一三、三生)あり妹歌(明四〇、一生)は熊本縣人片岡貞喜二男武定に嫁せり(熊本市上通町三八電三〇五九)

參照‖片岡貞喜の項

上野重信

妻　ツタ　栃木縣多額納稅者、久下田銀行取締役、農業、栃木縣在籍
　　明三二、四生、栃木、上野彌一郎三女

君は栃木縣人上野貞治の長男にして明治二十九年十月を以て生れ昭和三年家督を相續す現時久下田銀行取締役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千百九十九圓を納む家族は尙二男信夫(大一三、七生)三男昭夫(昭二、一生)四男貞一(同五、五生)叔父信四郎(元治元、一二生)同妻チエ(明一三、一一生、栃木、上野八木吉三女)あり叔母フヂ(同四、一一生)は栃木縣人上野幸雄長男彌吉に嫁せり(栃木縣芳賀郡長沼村)

上野繁

妻　まさ子　正五位勳五等、陸軍歩兵、陸軍砲工學校教官、東京中學、東京實業各校長、東京府在籍
　　繼母　やま　慶應元、一〇生、神奈川、士、赤井信邊妹
　　養子　貞　明二四、八生、東京、脇田榮三郎二女
　　妻　猛　大二、二生
男　靜　大六、二生
女

君は東京府人上野清の二男同道輔の兄にして明治十六年十一月を以て生れ大正三年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學理科大學數學科を卒業し陸軍教授に任ぜられ現時陸軍砲工學校教官にして東京中學校長東京實業學校長を兼務す家族は尙二男英吉(大八、一〇生)三男周三(同一〇、八生)四男享吉(同一四、九生)五男五郎(昭三、四生)三女節(同八、一一生)弟春雄(明三五、三生)同妻美津(同四〇、五生、愛知、櫻井旭妹)及其一女あり長女朝(大四、一生)は東京府人桑木嚴翼長男信一に妹いく(同二一、一生)は同府人市川孝亮弟三郎に嫁し弟新一(同二七、一生)は分家せりA二〇一(東京市杉並區高圓寺四六一六電中野四五三四)

參照‖上野道輔、桑木嚴翼の項

上野順一

父　松次郎　萬延元、三生、現戸主
妻　まさ　明二四、五生、茨城、武藤久兵衛妹

男　重弘　大一一、四生

君は栃木縣人上野貞治の長男にして明治二十九年十月を以て生れ昭和三年家督を相續す組織農を營み現時久下田銀行取締役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千百九十九圓を納む家族は尙二男信夫(大一三、七生)三男昭夫(昭二、一生)四男貞一(同五、五生)叔父信四郎(元治元、一二生)同妻チエ(明一三、一一生、栃木、上野八木吉三女)あり叔母フヂ(同四、一一生)は栃木縣人上野幸雄長男彌吉に嫁せり(栃木縣芳賀郡長沼村)

上野繁

正五位勳五等、陸軍歩兵、陸軍砲工學校教官、東京中學、東京實業各校長、東京府在籍
　　繼母　やま　慶應元、一〇生、神奈川、士、赤井信邊妹
　　妻　貞　明二四、八生、東京、脇田榮三郎二女
男　猛　大二、二生
　　靜　大六、二生
女

君は東京府人上野清の二男同道輔の兄にして明治十六年十一月を以て生れ大正三年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學理科大學數學科を卒業し陸軍教授に任ぜられ現時陸軍砲工學校教官にして東京中學校長東京實業學校長を兼務す家族は尙二男英吉(大八、一〇生)三男周三(同一〇、八生)四男享吉(同一四、九生)五男五郎(昭三、四生)三女節(同八、一一生)弟春雄(明三五、三生)同妻美津(同四〇、五生、愛知、櫻井旭妹)及其一女あり長女朝(大四、一生)は東京府人桑木嚴翼長男信一に妹いく(同二一、一生)は同府人市川孝亮弟三郎に嫁し弟新一(同二七、一生)は分家せりA二〇一(東京市杉並區高圓寺四六一六電中野四五三四)

參照‖上野道輔、桑木嚴翼の項

上野順一

父　松次郎　萬延元、三生、現戸主
妻　まさ　明二四、五生、茨城、武藤久兵衛妹
　　睦男(同八、一一生)あり姉キヱ(明三一、一〇生)は鹿兒島縣人廣田利吉長男誉紀に嫁し弟次郎吉(同三八、三生)は同縣人上野ヤエの養子となれり(鹿兒島市長田町五三電一〇七七)

上野吉二郎

妻　きく　京濱電力藍取締役、神奈川縣在籍
　　慶應三、一一生、東京、高橋祐之助五女
　　養子　芳三郎　明二九、二生、東京、大崎多一郎弟
　　嫡　英子　明三五、九生、養子芳三郎妻、東京、倉知銕吉二女

君は栃木縣人上野新右衛門の長男にして安政六年二月を以て生れ明治二十八年分れて一家を創立し前名吉次郎を改む曩に横濱共同電燈會社支配人横濱電氣會社常務取締役同社々長東京電燈會社取締役等を經て現時前記會社の重役に擧げらる家族は尙孫俊一、大一四、一生、養子芳三郎長男)同松子(昭二、一生、同長女)あり長女岸(明三二、三生、フエーリス女學校出身)は東京府人工學士金森次郎に二女梅(同三六、一生、出身校同上)は宮城縣人早川種三に養子喜代(同二六、三生、東京、大崎常吉長女)は高知縣人小野五郎に同國(同二七、一〇生、同二女)は石川縣人宇野宗二に嫁し二男虎四郎(同三五、一生、立大商科出身)は栃木縣人上野ユキの養子となれりA四二九(横濱市中區柏葉一一六電本局二五五五)

參照‖倉知銕吉の項

上野金太郎

妻　フミ　藥學博士、東京藥學專門學校理事、東京府士族
　　正孫　明一八、五生、大分、阿南惟一孫
　　養子　大一一、一生、愛知、井伊吉次郎

上野家は代々一橋家に仕へたる士分にして祖父潭次郎は勘定方に勤務せり君は先代鉦三郎の三男にして慶應二年十月九日を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十四年東京帝國大學醫科大學藥學科を卒業し直に日本麥酒會社に入りて技師となり同三十九年技師長に進み

君は栃木縣人上野松次郎の長男にして明治二十年八月を以て生る油屋と稱し肥料商を營み傍ら現時前記銀行會社の重役栃木縣農會長にして推されて宇都宮商工會議所會頭たり直接國稅千三百圓を納め栃木縣多額納稅者に列す(宇都宮市本郷町三電局二〇〇番)

參照＝上野松次郎※田村新藏※倉田勝次郎※渡邊勘左衛門の項

上野清一郎　大阪株式取引所取引員　大阪府在籍

母　ベン　明五、五生、京都、松井恒七二女

君は大阪府人上野茂三郎の長男にして明治三十五年三月十日を以て生れ大正四年家督を相續す昭和三年慶應義塾大學法學部を卒業し初め大阪三品取引所一部二部人組部取引員たりしも昭和八年轉じて大阪株式取引所取引員となり今日に至る姉濱(明三一、一一生)は長崎縣人大野虎六郎二男辯護士法學士靜磨に嫁きぬ(同三八、五生)は大阪府人東洋紡績會社員濱谷敬二に嫁し弟繁三(同三六、八生、早大出身)は分家せりA四八〇〇B五六〇(大阪市東區北濱二ノ二六一電本局一〇〇四三)

參照＝大野靜磨※濱谷敬二※上野繁三の項

上野清右衛門　茨城縣多額納稅者、貿商　茨城縣在籍

妻　とよ　明一一、一二生、川上正右衛門長女

男　恒彌　明三六、六生

男　芳郎　明三九、六生

男　英男　明四二、九生

女　文代　大八、七生

君は茨城縣人野口恭助の二男にして明治八年五月二十日を以て生れ先代清右衛門の養子となり大正五年家督を相續し前名芳次郎を改め襲名す貿商を營み直接國稅七百十四圓を納め茨城縣多額納稅者たり長女新子(明三二、六生)は他に嫁せり(水戸市大字上市電二六五)

上野清作　上野製糖所(資)無限責任社員、砂糖商、大阪府在籍

妻　タツ　明二五、一二生、東京、折田清松妹

男　好清　大一一、一〇生

女　みねを　大二、二生

女　きよ　大四、一生

君は大阪府人上野清六の二男にして明治二十一年一月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す砂糖商を營み現に合資會社上野製糖所無限責任社員にして義に大阪製糖取引所取引員たりし事あり家族は尙二男守良(大一四、三生)四女和代(昭三、九生)ありA七三二六(大阪市西區南堀江二番丁三六電局櫻川一四八五)

上野精一　朝日新聞社(株)社長、朝日ビルディング(株)取締役、大阪府在籍

妻　むめ子　明二四、一生、子爵九鬼隆輝妹

男　淳一　明四二、一一生、京大經濟學部出身、同大學院在學

女　正子　大二、五生、神戸女學院在學

君は大阪府人上野理一の長男にして明治十五年十一月を以て生れ大正九年家督を相續す先代理一は夙に村山龍平を扶けて朝日新聞社を起し朝日新聞合資會社代表社員大阪朝日新聞社長等に擧げらる君は明治四十年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し直ちに入りて日本勸業銀行に勤務せしが同四十三年朝日新聞社に轉じ東京朝日新聞社營業部長に就任し國來朝日新聞社取締役同專務取締役同取締役會長等を經て昭和八年十一月同社々長に擧げられ傍ら朝日ビルデング取締役たり先是大正十二年各國新聞界の情勢視察の爲歐米を巡遊し次で昭和二年國際聯盟の主催に係る世界新聞專門家會議に日本代表として列席せり竹山と號し俳句及古美術に趣味を有し又スポーツを愛好す妹春子(明二〇、四生)は大阪府人富子正夫に同千代子(同三〇、七生)は同府人平瀨愛雄弟三雄に嫁せりA一五三九一(大阪市東區平野町一ノ五電本一三九)

參照＝子爵九鬼隆輝、平瀨愛雄※長谷川義市郎※福井菊三郎※松方幸次郎の項

上野節夫　正位勳四等、地方技師、岩手縣內務部土木課長、熊本縣士族

父　又十　安政六、八生、現戸主

母　ステ　明一七、八生、熊本、甲斐時平長女

妻　ロク　明二六、一生、福岡、伊藤龍吉妹

男　餘人　大一一、九生

女　道子　大五、一生

女　幸子　大八、一二生

君は熊本縣人上野又十の長男にして明治十七年十一月を以て生る同四十三年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し北海道廳技師兵庫縣技師長崎千葉廣島各縣內務部土木課長を經て現時岩手縣內務部土木課長たり短歌謠曲游泳術等に趣味を有し「古今情歌集」の著あり家族は尙二男眞澄(大一五、七生)弟鼎象(明三一、一生)同妻カヱ(同三九、五生、熊本、城譲藏二女)及其一男妹蕗(大三、二生)弟辰三(同五、三生)あり妹奏葉(明二四、七生)は熊本縣人松岡信夫に嫁し弟義夫(同二一、六生)は同縣人木村テツの入夫となれり(盛岡市縣內務部內)

上野太郎　資產家　長崎縣在籍

母　トク　明二、六生、祖父彌平長女

君は熊本縣人上野利兵衛の長男にして明治十九年十月を以て生れ大正五年家督を相續す砂糖商を營む家族は尙五女久子(大一一、一一生)六女留子(同一四、一一生)弟治良(明三三、八生)同妻アヤ(同三七、六生、福岡、緒方繁次郎長女)妹光代(同四〇、一生)同芳江(同四三、三生)あり同キサヨ(同三一、四生)は福岡縣人井手三郎に嫁し四女利子(大一一、一一生)は同縣人赤司イネヨに弟茂三(明二六、七生)は東京府人細谷參喜に各養子となれり(久留米市三本松町電局三〇七「店舗」一六八三)

上野孝男　旭光社、電氣器具商　東京府在籍

妻　ふく　明二二、三生、東京、渡邊鶴吉二女

男　篤朗　明四四、七生、東京帝大在學

男　實朗　大二、七生

君は東京府人上野篤三の庶子にして明治十八年二月二十日を以て生れ昭和五年家督を相續す旭光社と稱し電氣器具商を營む家族は尙三男麟兒(大四、一〇生)長女不二枝(同一四、四生)あり弟將男(明二一、三生)同歲夫(同二八、二生)は各分家し同三男(同二五、二生)は大阪府士族壬生玄蔓に同四郎(同二六、九生)は東京府人川上賢三先代正右衛門に妹壽滿子(同三六、三生)は神奈川縣人青木清七に各養子となり同雄枝(同三一、四生)は東京府人石川安太養子重男に嫁せりA七二七(東京市芝區濱松町三ノ三ノ一〇電芝二〇一九)

上野忠貞　正五位勳五等、臺灣總督府技師、殖產局山林課勳務、山形縣士族

母　はる　明元、一生、山形、士、登坂忠精女

妻　まつ　明三三、一生、山形、士、上村伊久馬三女

男　朗　大九、一二生

君は舊米澤藩士上野運次郎の二男にして明治二十三年四月を以て生る大正五年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し直に臺灣總督府に入り同技手を經て大正七年同技師に任ぜられ爾來殖產局附屬林業試驗場殖產局林務課林野整理課各勤務營林所臺中出張所長同嘉義出張所長等に歷任現時殖產局山林課勤務たり家族は尙二男恒雄(大一一、一生)長女悉子(同一四、一生)二女照子(昭二、三生)三男三郎(同五、八生)亡兄肇妻とう(明一七、七生、山形、安部興右衛門妹)弟薩(大五、六生、亡兄肇長男、現戸主)及其姉妹あり妹ひで(明三〇、一生)は山形縣人中村榮一弟忠二に嫁せり(臺北市千歲町二ノ一七電三四七二)

上野長平　德島商工會議所副會頭、德島縣多額納稅者、德島縣在籍、德島縣信用組合長、金融業

妻　モト　明二二、一生、德島、士、鎌村興三郎四女、愛國婦人會德島縣評議員、芙蓉婦人會長

男　敏雄　明四一、三生

女　佳代　大五、二生

男　泰治郎　大三、一〇生

女　秀　大七、八生

君は德島縣人山田淺藏の三男にして明治十七年九月を以て生れ先代長平の養子となり大正四年家督を襲ぎ直接國稅四百七十九圓を納め德島縣多額納稅者に列す現時推されて德島商工會議所副會頭德島縣多額納稅者たり家族は尙四男謙二郎(大九、一〇生)三女陽子(明一八、一〇生、德島、士、德島市二軒屋町)

上野道故　從四位勳三等、醫學博士、新潟醫科大學教授、新潟縣在籍

妻　ノブ　明二五、七生、新潟、見邊善左衛門三女

男　道隆　大四、六生

女　芳枝　明四三、二生

女　雪　大六、一〇生

君は新潟縣人井上曠了の二男にして同福胤の兄なり明治十二年十一月を以て生れ先代恒齋の養子となり大正九年家督を相續す明治三十九年京都帝國大學醫科大學を卒業し大正二年南滿鐵道會社大連醫院產科婦人科部長となり同六年歐米各國に留學す同七年醫學博士の學位を受く同十年新潟醫學專門學校教授に任ぜられ同十一年現職に至る家族は尙二男義顯(大八、七生)三女紀久(同一〇、二生)三男誠(同一二、四生)五男昇(同四、三生)あり(新潟市東堀前二番町電二〇一二)

參照＝井上福胤の項

上野豐藏　醫學化學工業所(名)代表社員　東京府在籍

妻　ヒロ　明一七、一〇生、石川、龜井市次郎長女

男　俊夫　明四五、九生

女　美代子　明四五、一生

女　喜美子　大六、九生

君は石川縣人堂上幸太郎の二男として明治十年六月を以て生れ先代みすの養子となり大正九年家督を相續す

現時藤井化學工業所代表社員たり家族は尙二男達夫(大九、四生)四女滿津子(同一二、一生)五女昭子(昭二、一二生)ありA五〇七(東京市淺谷區千駄ヶ谷一ノ五六二電青山四一五九)

上野虎太郎　上野製糖所(資)代表社員、砂糖商　福岡縣在籍

繼母　トク　延子　明二、七生、福岡、赤司常次郎妹

君は福岡縣人上野利兵衛の長男にして明治十九年十月を以て生れ大正五年家督を相續す砂糖商を營む家族は尙五女久子(大一一、一一生)六女留子(同一四、一一生)弟治良(明三三、八生)同妻アヤ(同三七、六生、福岡、緒方繁次郎長女)妹光代(同四〇、一生)同芳江(同四三、三生)あり同キサヨ(同三一、四生)は福岡縣人井手三郎に嫁し四女利子(大一一、一一生)は同縣人赤司イネヨに弟茂三(明二六、七生)は東京府人細谷參喜に各養子となれり(久留米市三本松町電局三〇七「店舗」一六八三)

上野直記　從五位勳五等、鏡城高等普通學校長兼教諭、福島縣士族

母　シユン　安政三、九生、高木一長女

妻　ヤス　明一八、四生、福島、士、大熊廣筠長女

男　直道　大二、一二生

女　フジ　明四三、一生

女　キヨ　明四四、九生

君は福島縣人上野彥作の長男にして明治十一年九月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十八年東京高等師範學校地歷專修科を卒業し同年靜岡縣立沼津中學校教諭となり爾來平壤公立高等女學校長兼教諭鎭南浦公立高等女學校長等に歷任し元山高等女學校長を經て現時鏡城高等普通學校長兼教諭たり家族は尙二男直明(大一〇、三生)あり亡弟直妻敬江(明三一、九生、福島、野村八助四女)は其子女を伴ひ分家し男廣(大八、四生、亡弟直長男)は福島縣人野村八助の養子となり妹クニ(明二六、四生)は福島縣人添島忠雄に長女靜(同四一、一生)は靜岡縣人幡鎌芳三郎に嫁せり(朝鮮咸鏡北道鏡城高等普通學校內)

上野直吉 麻布鋼索鐵道㈱專務取締役
母 たか 茨城縣在籍 弘化二、八生、茨城、飯田忠義姉
妻 春代 明一九、八生、岡山、柳原文夫養母

君は茨城縣人町井作之介の二男にして明治十年六月を以て生れ同三十一年廣家上野家を再興す現時前記會社の重役にして曩に大阪乗合自動車會社取締役を兼ねたりA一八四(兵庫縣武庫郡鳴尾村鳴尾電西宮一三七八)

上野直昭 正五位、京城帝國大學教授兼九州帝國大學教授、法文學部勤務 神奈川縣士族
妻 ひさ 明二六、一〇生、田中元三郎三女
女 マリ子 大七、三生、京城第一高女在學

君は神奈川縣士族にして明治十五年十一月十一日を以て生る同四十一年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し更に大學院に學ぶ同四十四年同大學文科大學副手となり大正九年東京女子大學教師に轉じ爾來東京高等師範學校學習院各講師日本女子大學教授を經て京城帝國大學豫科講師を囑託せられ同十五年同大學教授に任じ昭和七年九州帝國大學教授を兼任法文學部に勤務し現在に至る曩に大正十三年美學及美術史研究の爲獨伊佛及米國に出張し昭和四年再び歐米へ派遣せらる「ドフトエフスキイ短篇集」の譯著あり家族は尙二女アキ子(大一一、九生)あり(京城府倭城臺三號官舍)

上野久守 福岡縣多額納稅者、草野銀行經營、常務取締役、連藉自動車㈱取締役、農業、福岡縣在籍
母 アイ 慶應元、六生、福岡、山田勘右衛門二女
妻 フサコ 明三五、三生、福岡、桑野久太郎姪
男 寛二 昭四、一生

君は福岡縣人上野寛藏の長男にして明治二十六年二月を以て生れ大正十三年家督を相續す農業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして福岡縣多額納稅者に列し直接國稅千三百十九圓を納む家族は尙長女寛子(大一三、八生)二女慶子(同一五、五生)あり弟久道(明三五、五生)同妻英子(同四〇、五生、福岡、堀內熊次郎長女)は共に福岡縣人上野芳太郎の養子となれり(福岡縣三井郡草野町電三)

上野兵松 上野兵松商店㈱代表取締役、上野㈱代表社員、硝子商、東京府在籍
妹 慶應元、八生、上野兵松商店㈱監査役
弘化二、八生、茨城、飯田忠義姉
明一九、八生、東京、白井瀧太郎
母 明一九、八生、岡山、柳原文夫養母

君は茨城縣人竹政能吉の弟にして明治十一年八月四日を以て生れ先代兵松の養子となり大正三年家督を相續し前名要之助を改め襲名す硝子商を營み現に上野兵松商店代表取締役上野合資會社代表社員たり家族は尙七代(同一四、一生)あり長女君子(明四一、八生)は茨城縣人竹政能治に嫁せりA三二六(東京市神田區鍛冶町二ノ一〇ノ二電神田二六三)

上野福三郎 窯業肥料販賣㈱取締役、三菱商事㈱大阪支店長、京都府在籍
妻 鐵子 明三〇、七生、佐賀、古賀與一二女、成美高女出身
男 福三 大一四、五生

君は京都府人上野新七の二男にして明治二十年一月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す明治四十二年神戸高等商業學校を卒業し直ちに三菱商事會社に入り門司支店東京本社倫敦支店詰の後小樽及び紐育支店長を經て大正十五年同社雜貨部長に轉じ其後一時會計部長の職にありしが昭和四年八月現職大阪支店長に就任す尙同年七月計理士の登錄を申請し許可さる家族は尙二男裕也(大一五、一一生)長女節子(昭二、A五〇七(兵庫縣武庫郡住吉村雨ノ神九二電御影四三〇三)

上野博正 日本水電、帝本野製氷各㈱取締役、鹿兒島縣在籍
妻 ユリ 明二八、一二生、鹿兒島、有馬祐太郎長女
男 博文 大六、三生

君は鹿兒島縣人高味齊兵衛の二男にして明治十五年六月を以て生れ先代ヒモの養子となり大正四年家督を相續す現時前掲各會社の重役たり家族は尙長女幸子(大一二、三生)三男正俊(同一五、七生)三女久子(昭二、一一生)四女萬知(同四、三生)あり(鹿兒島縣薩摩郡樋之城村)

上野房之助 栃木縣多額納稅者、吳服商 栃木縣在籍
養子 小七 明一九、七生、栃木、植竹虎太叔父、下野製紙㈱監査役
姪 まつ 明二五、一生、養子小七妻、東京岩月清次郎姉
孫 道太郎 大三、一〇生、養子小七長男、東京商大在學
孫 都 大六、九生、養子小七二女

君は茨城縣人奥井久助の弟にして大津順三郎の叔父なり文久元年一月を以て生れ明治二十三年先代カネの入夫となり家督を相續す古くより吳服商を營み栃木縣多額納稅者に列す家族は尙孫綾子(大九、二生、養子小七三女)同千代(同一三、一生、同四女)同修二郎(昭二、二生、同二男)あり妻弟貞一(明一〇、一二生)同妻まつ(同二五、七生、埼玉、渡邊勘左衛門養妹)は共に分家せりA一〇五九B三六六(宇都宮市本郷町四二電二一二八)
参照‖大津順三郎、渡邊勘左衛門※宇田川政吉※大鵬武右衛門の項

上野正雄 從三位勳四等、伯爵、海軍中佐、多摩副長、北白川宮家御一門
妻 恵以子 明二七、一生、伯爵伊達興宗叔母
男 正泰 大七、八生
女 順子 大六、三生

君は故北白川宮能久親王の男にして北白川宮永久王及竹田宮恒德王の叔父侯爵小松輝久の弟なり明治二十三年七月十六日を以て生れ同三十年臣籍に降下し上野の家姓を賜ひ華族に列し伯爵を授けらる同四十年海軍兵學校を卒業して海軍少尉に任じ累進して海軍中佐に陞る現に巡洋艦多摩副長たり家族は尙二男龍雄(大一〇、七生)三男忠雄(同一二、六生)二女悅子(同一五、一生)四男久雄(昭二、一〇生)あり(東京市澁谷區常盤松町

一〇〇電青山三六三四)
参照‖北白川宮家、竹田宮家、侯爵小松輝久、伯爵伊達興宗宗伯爵酒井忠克※伯爵堀田正恒※子爵相馬雲胤※子爵松井慶治※男爵伊達宗雄の項

上野正隆 長野縣多額納稅者、上野組本店、土木建築請負セメント業、長野縣在籍
養母 マス 明六、一一生、新潟、流石新藏妹
妻 清子 明三八、二生、新潟、流石シサ孫

君は愛知縣人大西庄次郎の五男にして明治三十四年一月二十九日を以て生れ明和五年先代正隆の養子となり同七年家督を相續し前名茂を改め襲名す上野組本店と稱し手廣く土木建築請負並にセメント業を營み直接國稅千五百五十一圓を納め長野縣多額納稅者たり家族は尙長女祐子(昭七、九生)あり(長野市南長野南石堂町電一四六)

上野松次郎 栃木縣多額納稅者、下野製紙㈱監査役、肥料商、栃木縣在籍
妻 タミ 慶應三、四生、養父松次郎長女
男 順一 明二〇、八生
男 三郎 慶大理財科出身

君は千葉縣人鵜月庄藏の二男にして萬延元年三月を以て生れ先代松次郎の養子となり明治二十二年家督を相續し前名豊次郎を改め襲名す油屋と稱し肥料商を營み傍ら夙に實業界に入り前記會社の重役にして直接國稅千三百二十二圓を納め栃木縣多額納稅者に列す曩に宇都宮商業會議所會頭に擧げられ又衆議院議員に當選す家族は尙孫敏夫(大一五、三生、三男三郎二男)あり長女シゲ(明三二、一生、三輪田高女出身)は埼玉縣人田村新藏長男章四郎に二女靜子(同三九、六生、宇都宮高女出身)は茨城縣人植田竹四郎に養妹なを(同三、四生)は埼玉縣人渡邊勘左衛門に三女陳子(同四二、七生、跡見女學校出身)は埼玉縣多額納稅者儘田勝次郎長男東一郎に嫁し弟房吉(同二、一二生)は同妻カメ(同九、四生、栃木篠原彌兵衛妹)と共に妹クマ(同五、二生)は同夫文吉(同二、四生、千葉、鵜月庄次郎弟)と共に養子米七(同一二、八生、栃木、駒場源八二男)は同妻はん(同一六、九生、茨城、中村寗郎三女)と共に各其子女を伴ひ分家し叔父貞一(同二〇、一二生)も亦分家し二男誠次(同二四、八生)は前記弟房吉の養子となれり(宇都宮市本郷町三電電二〇〇三・二六五〇)
参照‖上野順一、田村新藏、儘田勝次郎、渡邊勘左衛門の項

上野道輔 從四位勳三等、法學博士、東京帝國大學教授、經濟學部勤務 東京府在籍
妻 和 明三一、一一生、東京、士、宮本仲二女

君は東京府人現戸主上野繁の弟にして明治二十一年十一月を以て生る同四十五年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し大正二年英獨米各國に留學を命ぜらる歸朝後東京帝國大學法科大學助教授に任じ大正八年同教授に任ぜられ今日に至る同年法學博士の學位を受く家族は尙長女康子(大一四、一〇生)ありA一九七(東京市中野區氷川町二一)
参照‖上野繁、宮本仲※關口蕃樹の項

上野基三 衆議院議員(栃木縣選出)、辯護士 栃木縣在籍
妻 祿 明三四、二生、東京、太田彌太郎六女
男 仁 昭三、六生

君は栃木縣人上野大太郎の三男にして明治二十三年十一月を以て生る大正五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し第一生命保險會社員及野州電氣會社專務取締役となり後辯護士を開業し今日に及ぶ其間栃木縣會議員に選ばる昭和五年及同七年郷黨より推されて衆議院議員に當選すること二回に及ぶ立憲政友會所屬たり家族は尙長女智子(大一四、一生)兄雄次郎(明二〇、八生、同妻トシ(同三一、七生、茨城、毛利與三郎長女)弟敦四郎(同二九、五生)妹キク(同三一、一〇生)及其一女甥順一(同四四、六生、亡兄角太郎長男、現戸主)及其弟妹叔父六郎(同七、二生)あり(宇都宮市四條町一三三六)

上野彌一郎 株式賣業 兵庫縣在籍
父 鐵藏 明元、七生、現戸主
母 きぬ 明六、二生、祖父清七長女
妻 きぬゑ 明三三、三生、兵庫、岸本德三郎二女

君は兵庫縣人上野鐵藏の長男にして明治三十一年一月を以て生る株式賣買業を營む家族は尙長女壽子(大一二、一生の外弟淳(明四〇、一〇生)妹末子(同四二、一〇生)あり姉つね(同二八、八生)妹てい(同三二、四生)は各分家し同やすゑ(同三六、五生)も亦同夫勇作(同三三、八生、兵庫、嘉藤勇太郎二男)及其一子と共に分家せりA一六六七B一〇〇(神戸市林田區笠松通六ノ四八電三宮三一六三)

上野山重太夫 銑子鑄油、九州保全、九州水力電氣、九州送電、木村實業、日革紡績、帝國毛糸紡績各㈱監査役 東京府在籍
妻 トセ 明一二、一二生、大分、士、奥山六三郎妹
男 重太郎 明三六、一生、東京鐵道局川崎發電所技手、工學士
男 重夫 大二、八生

君は北海道人石戸德之助の兄にして明治四年七月を以て生れ先代たくの養子となり同三十三年家督を相續し前名友吉を改む同三十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙三男陽一(大五、五生)あり長女チセ(明三八、二生、實踐女學校出身)は廣島縣人矢野久二郎養子外務省事務官法學士征記に嫁せりA一〇一四(東京市澁谷區八幡通一ノ三四電青山一八九七)

上埜安太郎 從四位勳二等、前富山市長 富山縣在籍
妻 つた 慶應三、一二生、富山、伊藤仁兵衛妹
男 安次 明一六、七生、黑部鐵道、箱根登山鐵道、加越鐵道各㈱監査役、慶大理財科出身
婦 壽榮 明二二、七生、長男安次妻、福井岸本利三郎姉

孫　みさを　明四三、三生、長男安次長女
孫　敏子　大三、一生、長男安次二女

君は富山縣人上楚次平の長男にして慶應元年十二月を以て生れ明治十九年家督を相續す養蠶業を營み縣下の大地主にして同二十年初めて富山縣會議員に當選し爾來同縣議員同議長等に擧げらる尋で「北陸公論」を創刊し其社長となり更に越中新報社東洋漁業會社ろせつたホテル等の經營に當り又勸業土木教育等に力を致し業績見るべきものあり曾て高岡市長に就任し又富山縣より推されて衆議院議員に當選すること前後十回に及び立憲政友會の長老として司法省勅任參事官鐵道政務次官等に任ぜられ後富山市長たりしも現時閑地に在り家族は尙孫安郎（大八、二生、長男安次二男）同安子（同一〇、三生、同三女）同和子（昭三、六生、同四女）あり二男俊郎（明一九、八生）は分家し庶子良子（同三七、一〇生、生母、福井、岸本房）は富山縣人林要誓長男要雲に妹しう（同一二、七生）は同縣人澁谷六兵衛に嫁し弟藤作（同元、二生）は同縣人石野昌作の家籍に入れり（高岡市中川八五四電九五〇）

上畠益三郎

男　勝夫　明三七、一二生
女　寛美子　明三九、三生

君は兵庫縣人上畠又兵衛の二男にして同五一郎の兄なり明治六年一月を以て生れ同二十六年分れて一家を創立す同二十四年法政大學を卒業し檢事に任じ爾來德島大阪各地方裁判所檢事に補せられ後官を罷めて辯護士を開業し傍ら現時日本信託銀行取締役大江ビルディング監査役たり曩に大阪商工會議所議員大阪株式取引所理事長等に擧げられ大正九年衆議院議員に選ばる二男道夫（明四一、三生）は分家せり A六三五（大阪市西區江戸堀北通一ノ一七電土佐堀一八八五）
參照＝上畠五一郎の項

日本信託銀行株式會社取締役、大江ビルディング株式會社監査役、辯護士、大阪府在籍

上畠五一郎

妻　ハツ子　明一七、六生、奈良、木下忠作養

旭ベンベルグ絹絲株式會社取締役、大阪府在籍

男　貞　明四一、五生
女　文子　大五、九生
女　千枝子　大八、九生

君は大阪府人上畠又兵衛の五男にして元衆議院議員上畠益三郎の弟なり明治十五年十二月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同年京都帝國大學理工科大學化學科を卒業し南滿洲鐵道會社に入り次いで橋津製油會社に轉じ數回歐米各國に出張す後旭絹織會社に入り專務取締役に進み現時旭ベンベルグ絹絲會社取締役たり運動に趣味を有す家族は尙四女千紗子（同一五、九生）あり A三四一五（兵庫縣武庫郡精道村芦屋山ノ下一三三電芦屋三四六三）
參照＝上畠益三郎の項

安曇共同製絲株式會社監査役、鐵道株式會社監査役、長野縣在籍、製絲業

上原一二郎

繼母　なか　嘉永六、一二生、長野、士、澁江古次妹
妻　安子　明三五、三生、長野、倉科喬三妹
男　卓郎　大一五、二生

君は長野縣人上原一二郎の三男にして明治四十四年八月を以て生れ大正十一年兄良平の後を承け家督を相續し前名健二を改む製絲業を營み傍ら前記各會社の重役たり叔父義一郎（安政六、三生）は其子女を伴ひ分家し姉ちう（明七、三生）は長野縣人福島幸重の母たり（長野縣北安曇郡池田町電一五）
參照＝福島幸重の項

上原一郎

養子　豊　明四〇、留三男、京城醫大研究中
女　恭子　明四三、三生、富山縣立高女出身
女　光子　明四四、一生、實踐女學校出身
和子　大六、八生、實踐女學校在學

君は大分縣人上原周策の長男にして明治十三年四月十五日を以て生れ同三十四年家督を相續す同四十年京都帝國大學醫科大學を卒業し翌四十一年朝鮮咸鏡北道清津理事廳囑託醫となり爾來青島守備軍民政部醫官樺太

正五位勳六等、樺太廳醫院醫長、醫師、大分縣在籍、大分、三重野家多賀出身、大分大研究中

廳醫院醫務囑託同醫官等に歷任し大正十五年樺太廳醫院醫長に任じ眞岡醫院長に補せられ現在に至る弟三郎（明二二、四生）同妻ミチ（同二六、九生、大分、物集高見五女）は其子女と共に兵庫縣人上原晋策の家籍に入り同五郎（同二五、一一生）は佐賀縣人江頭閑の入夫となれり（樺太廳眞岡郡眞岡醫院內）

上原海老四郎

妻　爲　明一八、一〇生、滋賀、坂江吉右衛門妹
養子　一三　明三二、二生、父四良太夫三男、神戸高商出身
婿　しげ　明三六、三生、養子一三妻、滋賀猪田岩藏長女、京都女子高等專門學校出身

君は滋賀縣人山本太郎吉長男庄太良に同てつ（同二三、四六生）は右山本庄太良弟松太郎に嫁せり（大津市阪本町電一二五四）
參照＝猪田岩藏※小畑源之助の項

大津商工會議所常議員、滋賀縣多額納稅者、近江信託株式會社常務取締役、滋賀銀行株式會社取締役、滋賀縣在籍

上原嘉一郎

妻　とみ
妹　明七、一一生、長野、土橋千代治
男　嘉一　明三一、一二生
婿　靜子　明三九、四生、長男嘉一妻、東京中村弘二郎姉

東京氣材料商、東京府在籍

男　辰治　明三七、六生
女　せい　明四〇、二生
女　登喜子　明四二、一〇生

君は東京府人上原嘉助の長男にして元治元年十月を以て生れ後家督を相續す電氣材料商を營む家族は尙孫一男（昭四、一〇生、長男嘉一長男）あり長女寛美（明二九、一生）は東京府人上原龍之助長男鉚太郎に妹よね（同三、一生）は同府人東條金兵衛二男建二郎に嫁せり A五二八（東京市京橋區八軒町四ノ一電京橋一〇四八）
參照＝中村弘二郎の項

上原嘉右衛門

妻　リヤウ　明一九、三生、大阪、橋元之助四女
男　嘉一　明四四、一一生

君は大阪府人先代嘉右衛門の長男にして明治十八年六月七日を以て生れ同三十九年家督を相續し前名嘉一を改め襲名す地主たり A三四三（大阪市旭區北清水町九九一）

地主、大阪府在籍

上原吉之助

妻　ジュン　明四四、一一生
男　要　大三、三生
女　靜江　大三、三生

君は長野縣人先代吉之助の長男にして明治二十年九月を以て生れ大正十四年家督を相續し前名要太郎を改め襲名す麗屋醬油店と稱し醬油商を營み傍ら更埴銀行取締役にし長野縣多額納稅者に列し直接國稅五百九十二圓を納む家族は尙二男清（大五、五生）三男吉久（同八、八生）四男邦夫（同一〇、一一生）二女和惠（同一三、五生）五男久也（同一五、一二生）六男茂人（昭四、六生）あり（長野縣上高井郡須坂町電二九）

長野縣多額納稅者、更埴銀行株式會社取締役、麗屋醬油店、醬油商、長野縣在籍

上原久太郎

妻　八重子　明三〇、一生、京都、岡崎貞之助妹

米穀商、大阪府在籍

男　美作　大一一、一一生

君は德島縣人川井節次郎の二男にして明治二十四年九月を以て生れ先代美之八の養子となり大正八年家督を相續す米穀商を營む家族は尙二男勇作（昭四、六）あり A六六五（大阪市西區新町南通四ノ一八電新町二八〇七）

上原敬次

男　梓　大二、七生

君は東京府人上原安兵衛の二男にして明治二十二年二月を以て生れ同三十八年家督を相續す大正三年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し現時林學博士東京市囑託、造園設計東京市囑託たり曩に林學博士の學位を授けられ東京高等造園學校長たり家族は尙三女澄（大九、一生）三男桂（同一一、八生）四女浮（同一一、一生）あり（東京府北多摩郡三鷹村新川一〇六三）

林學博士、東京市囑託、造園設計業、東京府在籍

上原堅次

母　ハン　明一二、一一生、新潟、具谷現吉
妻　冬喜子　明三七、一一生、新潟、樋口良助女
四女

君は新潟縣人上原有三の二男にして明治三十三年十月を以て生れ大正十二年家督を相續す現時商記各會社の重役たり家族は尙妹ユキ（明四〇、一二生）弟廉三（同四二、九生）同悌三（同四三、一一生）同虎雄（同三、四生）同寛八郎（同五、五生）あり姉セツ（明二八、九生）同夫威三（同一九、八生、新潟、會津友次郎二男）は其子女を伴ひ姉フン（同三〇、八生）は同夫清磨（同二九、四生、新潟、清水謙吾弟）と共に各分家し妹フサ（同三五、一〇生）は長野縣人田中庚平に同貞（同三七、二生）は奈良縣人奥村靖彦に嫁せり（新潟市旭町通二番町電一一四六）
參照＝※中山政司の項

昭和企業株式會社代表取締役、新潟電氣株式會社取締役、大沼電燈、新潟電氣各株式會社代表取締役、中野組（株式會社）代表社員、名古屋勃織各株式會社監査役、新潟縣在籍

上原才一郎

男　正文　明三七、一〇生、經濟學士
女　千秋　明四〇、一生、工學士
男　光世　明四二、三生、府立第二高女出身
男　行雄　明四五、一生、浦和高校在學

君は長野縣人上原七左衛門の長男にして慶應二年二月を以て生れ明治二十四年分れて一家を創立す光風館と稱して出版業を營み傍ら前記會社の重役にして東京書籍商組合長に擧げられ直接國稅四千六百六圓を納め東京府多額納稅者たり書畫骨董將棋圍碁に趣味を有す長女みね（明三〇、二生）は東京府人四海滿壽の養子となり神奈川縣人出版業善波民藏を入夫に迎へ三女春江（同三四、一生、三輪田高女出身）は山梨縣人東京高等學校教諭文學士小池藤五郎に四女芳枝（同三五、一二生）は長野縣人醫學博士吉澤五郎に嫁せり（東京市豐島區巢鴨七ノ一八三四電大塚二三三八「店舗」神田區通神保町六電神田三〇八七）

東京府多額納稅者、日本書籍經營、光風館書店、東京書籍商組合長、出版業、東京府在籍

上原鹿造

男　四郎　明三八、八生
男　勇夫　明四五、五生

君は高知縣人にして明治二十四年十月十日を以て生る高知商業學校專檢及第一高等學校を經て大正八年東京帝國大學法學部獨法科を卒業翌年文官高等試驗に合格同十年都市計畫地方委員會書記兼內務屬に任じ同十一年茨城縣警視地方警視茨城縣保安課長次で地方事務官鳥取縣學務課長農商課長栃木縣庶務課長愛知縣工場課長等を經て昭和七年埼玉縣書記官に任じ學務部長に補せられ今日に至る曩に大正十五年南支那に於ける產業狀態調査の爲上海方面に出張を命ぜらる寫眞乘馬音樂野球庭球スキー等に趣味を有す家族は尙長女春美子（大一一、八生）三女喜久子（昭四、一〇生）あり（浦和市縣廳官舍電二六八）

京成電氣軌道、ボルネオ護謨各株式會社取締役、成田鐵道、南洋護謨、日本建築紙各株式會社監査役、早稲田大學監事、辯護士、東京府士族

上原參良

妻　晴子　明三五、六生
男　孝雄　大一三、七生

君は高知縣人にして明治二十四年十月十日を以て生る高知商業學校專檢及第一高等學校を經て大正八年東京帝國大學法學部獨法科を卒業翌年文官高等試驗に合格同十年都市計畫地方委員會書記兼內務屬に任じ同十一年茨城縣警視地方警視茨城縣保安課長次で地方事務官鳥取縣學務課長農商課長栃木縣庶務課長愛知縣工場課長等を經て昭和七年埼玉縣書記官に任じ學務部長に補せられ今日に至る曩に大正十五年南支那に於ける產業狀態調査の爲上海方面に出張を命ぜらる寫眞乘馬音樂野球庭球スキー等に趣味を有す家族は尙長女春美子（大一一、八生）三女喜久子（昭四、一〇生）あり（浦和市縣廳官舍電二六八）

從五位勳六等、埼玉縣書記官、學務部長、高知縣在籍

君は大分縣士族上原平馬の四男にして慶應元年十二月十三日を以て生れ明治三十一年上原家を再興す同二十五年東京專門學校を卒業し同年辯護士となり爾來日本辯護士協會理事東京辯護士會副會長等に就任し辯護士界に於て頭角を抽んで又衆議院議員に當選す現時辯護士にして傍ら京成電氣軌道會社取締役の重役たりA二三四六（東京市小石川區諏訪町一六電小石川二八五）

上原七之助

妻　愛　正五位、子爵、宮崎縣華族、明三八、八生、故貴族院議員中村是公五女、御茶の水高女出身

男　尚作　大一五、三生

當家は先代勇作より家名を揚ぐ勇作は舊都城邑主島津家の家臣龍岡權山の二男にして入りて上原家を繼ぐ明治十二年陸軍工兵少尉に任じ同十四年佛國に留學を命ぜられ累進して大正四年陸軍大將に陞る其間陸軍士官學校教官陸軍參謀本部第五部長陸軍教育總監部工兵監第七第三各師團長等に歷補し第二次西園寺内閣に列し陸軍大臣に就任せらるる後教育總監參謀總長軍事參議官等の要職に就く日清の役第一軍參謀として功四級を賜ひ日露の役第四軍參謀長として殊勳あり功二級に叙し明治四十年華族に列し男爵を授けらる大正十年多年の勳功に依り子爵に陞され元帥府に列せらる君は勇作の長男にして明治三十一年十二月二十七日を以て生れ昭和八年家督を相續し爵位を襲ぐ大正十四年東京帝國大學經濟學部經濟學科を卒業す家族は尚長女淳子（昭三、七生）第男次郎（明三三、六生、大阪商船會社員、經濟學士）同妻靜子（同三九、一一生、福岡、梶原磯長二女）及其一女あり姉愛子（同二九、一一生、學習院女學部出身）は貴族院議員大塚惟精に妹尚子（同三六、一一生、出身校同上）は大阪府人大林義雄に同じく子（同同一、一二生、出身校同上）は靜岡縣人小澤凱夫に嫁せり（東京市品川區大井鹿島町二九八二電高輪三二四〇）

參照‖大塚惟精、大林義雄※富井周の項

上原周太郎

石炭商　新潟縣在籍

妻　マキ　明一〇、一生、新潟、上原藤藏長女

男　德二郎　明三三、一〇生

嬶　ハマ　明三七、三生、長男德二郎妻、新潟、池上春五郎三女

男　正良　明四〇、一生

男　武美　明四三、八生

君は新潟縣人齊藤榮七の二男にして明治七年九月を以て生れ父代ヤイの養子となり同三十九年家督を相續し石炭商を營む傍に新潟商工會議所議員に擧げられ明治三三年家族は尚五男敏夫（大七、同綾子（同四、一生、同長女）あり二女ハル（明三六、五生）は山梨縣人望月彬之に嫁し養弟次平（明二二、三生、新潟、小島治良二男）は分家せり（新潟市上大川前通一一の一八八五電二三）

上原庄治郎

甲府商工會議所副會頭、有信銀行㈱常務取締役、甲府電力㈱監査役　山梨縣在籍

君は山梨縣人上原勇七の二男にして明治六年四月を以て生れ同十年分れて一家を創立す現時有信銀行常務取締役甲府電力會社監査役たり昭知八年甲府商工會議所副會頭に擧げらる（甲府市愛宕町電二八六二）

上原種吉

繪具商　大阪府在籍

妻　貞子　明一三、七生、大阪、梅本善次郎姉

養母　アイ　明四一、一〇生、養父種吉庶子、生母、久津見ヒデ

男　英男　昭六、七生

君は和歌山縣人玉田壽範の弟にして明治三十四年十月を以て生れ大阪府多額納稅者先代種吉の養子となり昭和八年家督を相續し前名壽敏を改め繪具商を營み同業者間に知らるる家族は尚長女幸子（昭二、二生）二女男子（同三、一〇生、養父種吉庶子、生母大阪河合さと）は大阪府人伊藤イサ子（同同一、一二生、出身校同上）は靜岡縣人小澤凱夫に嫁せり（東京市品川區大井鹿島町二九八二電高輪三二四〇）

參照‖大塚惟精、大林義雄※富井周の項

上原徳太郎

拂屋、酒類商　東京府在籍

妻　クラ　明一二、五生、神奈川、山崎秀藏二女

男　清太郎　明三六、一〇生

嬶　ヒサ　明四三、八生、長男清太郎妻、神奈川、加藤内藏之助四女

男　正二　大二、五生

君は東京府人上原清五郎の三男にして明治八年三月二十一日を以て生れ同三十八年家督を相續す同十二年父の創業になる酒類商を繼承し拂屋と稱す家族は尚孫瓊枝（昭五、七生、長男清太郎長女）同智（同七、六生、同長男）ありA四九一（東京市京橋區木挽町四ノ一電東橋五六五五）

上原平太郎

從三位勳二等功四級、陸軍中將、衆議院議員（香川縣選出）　香川縣在籍

父　秀次郎　嘉永五、七生、現戸主

母　フサ　嘉永六、六生、香川、三原春次長女

妻　さだ　明一八、二生、東京、士、駒澤保定二女

男　二郎　明四五、二生

男　康男　大三、一生

女　照子　大五、五生

女　靜子　大七、四生

君は香川縣人上原秀次郎の長男にして明治五年十一月を以て生る同二十九年陸軍士官學校を卒業し琴で陸軍歩兵少尉に任じ大正十五年陸軍中將に累進し昭和五年豫備役仰付けらる其間陸軍大學校を卒業し參謀本部員陸軍大學校教官第四師團參謀歩兵第六十二聯隊長第十一師團參謀長陸軍航空本部附所澤陸軍飛行學校長第二十師團長等に歷補し清國事變並に日露の役に從軍せり爵に瑞洲及清國に出張を命ぜらる昭和七年推されて衆議院議員に當選し現に其任に在り立憲政友會に屬す家族は尚四男國男（大九、一〇生）五男淳男（同一一、四生）あり妹ヒサ（明九、一一生）は大阪府人坂上友吉に嫁し同モト（同一六、一生）は香川縣人廣瀨竹藏養子瀧次に嫁し弟直吉（同二二、八生）同妻マツエ（同二三、七生）は其子女を伴ひ分家せりA二二〇（東京市世田谷區北澤三ノ九二三電松濤二七五）

上原正禮

安田銀行㈱保管課長兼營業部長附　鳥取縣士族

父　熊鐵　文久元、一二生

母　はつ　文久三、六生、鳥取、岸田熊太郎長女

妻　きの　明二〇、九生、鳥取、木村彰姪

男　正義　大三、一生

君は鳥取縣士族上原熊鐵の長男にして同正道の兄なり明治十六年五月を以て生れ昭和五年家督を相續す明治三十四年安田銀行に入り漸次累進して同行足利支店長となり現に同行保管課長兼營業部長附たりA一九六（東京市小石川區大塚坂下町一一一二）

參照‖上原正道の項

上原正道

明治生命保險㈱名古屋支店長　鳥取縣士族

妻　梅子　明三一、四生、東京、俣野景憲四女、跡見女學校出身

男　一郎　大五、一一生、慶大在學

女　道子　大七、五生、名古屋金城女學校在學

君は鳥取縣士族上原熊鐵の二男同正禮の弟にして明治十九年五月七日を以て生れ後分れて一家を創立す同四十五年慶應義塾理財科を卒業同年直に明治生命保險會社に入社し爾來長崎京城各支店大阪支店副長を經て大正十二年神戸支店長となり次で札幌支店長を經て昭和六年名古屋支店長に轉じ今日に至る旅行讀書古陶器の蒐集等に趣味を有し「北海道樺太見聞記」の著あり家族は尚二男英吉（大一二、五生）二女貴美子（同一三、九生）三女昭子（昭二、二生）三男有信（同六、五生）四女康子（同九、三生）ありA一五一（名古屋市東區外堀町二ノ四電東四五九）

參照‖上原正禮の項

上原政兵衛

毛皮貿易商　東京府在籍

妻　ゆき　明二五、九生、上原富藏三女

男　利男　明四五、一生

女　芳子　大二、八生

君は廣島縣人松島瀧右衛門の四男にして明治二十一年四月を以て生れ同四十三年先代ゆきの入夫となり家督を相續す毛皮貿易商を營むA一一六七B二〇四（東京市淺草區吉野町一ノ一六電淺草七五）

上原三雄

瀧澤倉庫會社員　東京府在籍

母　ナミ　慶應二、一生、東京、林新兵衛姉

妻　富久子　明四二、二生、東京、千秋謙治長女

男　豊三　昭七、一二生

當家先代豊吉は東京府人にして米穀商瀧澤商店に勤務三十餘年に及び同店支配人に擧げらる君はその三男にして明治三十五年四月九日を以て生れ大正十二年家督を相續す現時瀧澤倉庫會社員たり姉益子（明二一、一生、女子學習院出身）は東京貯蓄銀行取締役佐々木興一に同信子（同二六、一〇生、出身校同上）は廣東總領事法學士川鍋茂に同愛子（同三一、一生、出身校同上）は横濱正金銀行員法學士青木都之輔に同利（同三三、五生、出身校同上）は和歌山縣人貴志二郎弟南滿洲鐵道會社員醫學士二一郎に妹壽惠子（同四〇、一生、出身校同上高等科）は山口縣人東乙彦養子鐵道省技師工學士義胤に同康子（同四二、八生、御茶の水高女出身）は愛媛縣人小川新太郎弟英次郎に嫁せりA三八六（東京市麻布區谷町五四電赤坂二八〇）

參照‖青木都之輔、川越茂、佐々木興一、東乙彦の項

上原種美

正四位勳三等、三重高等農林學校長、東京府在籍　明三一、一生、愛知、澤田富次郎三女

妻　かゑ

君は山梨縣人上原種因の二男にして明治十八年一月を以て生れ大正八年兄魯平方より分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學農學科を卒業し農商務省囑託となり次で文部屬文部省書記官文部事務官同實業學務局農業教育課長等に歷任し其間東京高等師範學校教授を兼ね大正十年三重高等農林學校長兼文部事務官に任じ現時同校長たり昭和三年海外出張を命ぜられ約一箇年間北米南米及歐洲諸國の農業教育狀態を視察し同年十二月歸朝す家族は長女美和子（大一三、一生）二女茂子（昭六、一〇生）あり（津市上濱町電九五五）

上原轍三郎

從四位勳四等、北海道帝國大學教授、附屬圖書館長、廣島縣在籍

妻　發　明二八、一二生、北海道、長屋平太郎長女

君は廣島縣人上原來助の三男にして明治十六年八月を以て生る同四十五年東北帝國大學農學科大學農學科を卒業し大正三年同大學助教授同七年北海道帝國大學農科大學教授に任じ昭和九年一月同大學附屬圖書館長に補せられ今日に至る大正十三年英伊獨米各國に留學を命ぜらる家族は尚兄號司（明二、一一生、現戸主）同妻ツヅム（同一一、一一生、栗柄俊藏長女）及其子女あり姪朝子（同三〇、一〇生、兄號司長女）は廣島縣人尾首儀平に同ノブ（同三四、九生、同二女）は同縣人大村勝二に嫁せり（札幌市南十八條西八丁目五九九電四七二〇）

上原徳一

太陽社㈱社長、鹽釜瓦斯、新發田瓦斯、武州瓦斯、新尾鐵道各㈱取締役、三條瓦斯㈱監査役、瓦斯器具商、鼎　東京府在籍

妻　文子　明二九、一〇生、東京、久米貞近妹

男　襄治　大六、二生、立大在學

女　榮　大八、一生、佛英和高女在學

君は長野縣人上原金十の長男にして明治二十年七月二十五日を以て生れ大正十一年家督を相續す夙に渡米日

米貿易に從事し大正七年歸朝太陽社と稱し瓦斯器具商を營み昭和七年二月組織を株式會社に變更其社長たる外前記各會社の重役にして昭和三年三月アメリカを振出に世界各地を漫遊す家族は尚二男德三（大一三、一生）二女德子（同一四、六生）三女照子（昭二、一生）四女淑子（同四、一生）ありA五〇四（東京市神田區田代町四雲下谷六〇六二）

上原周太郎

石炭商　新潟縣在籍

妻　マキ　明一〇、一生、新潟、上原藤藏長女

男　德二郎　明三三、一〇生

嬶　ハマ　明三七、三生、長男德二郎妻、新潟、池上春五郎三女

男　正良　明四〇、一生

男　武美　明四三、八生

君は新潟縣人齊藤榮七の二男にして明治七年九月を以て生れ父代ヤイの養子となり同三十九年家督を相續し石炭商を營む傍に新潟商工會議所議員に擧げられ明治三三年家族は尚五男敏夫（大七、同綾子（同四、一生、同長女）あり二女ハル（明三六、五生）は山梨縣人望月彬之に嫁し養弟次平（明二二、三生、新潟、小島治良二男）は分家せり（新潟市上大川前通一一の一八八五電二三）

上原庄治郎

甲府商工會議所副會頭、有信銀行㈱常務取締役、甲府電力㈱監査役　山梨縣在籍

君は山梨縣人上原勇七の二男にして明治六年四月を以て生れ同十年分れて一家を創立す現時有信銀行常務取締役甲府電力會社監査役たり昭知八年甲府商工會議所副會頭に擧げらる（甲府市愛宕町電二八六二）

上原種吉

繪具商　大阪府在籍

妻　貞子　明一三、七生、大阪、梅本善次郎姉

養母　アイ　明四一、一〇生、養父種吉庶子、生母、久津見ヒデ

男　英男　昭六、七生

君は和歌山縣人玉田壽範の弟にして明治三十四年十月を以て生れ大阪府多額納稅者先代種吉の養子となり昭和八年家督を相續し前名壽敏を改め繪具商を營み同業者間に知らるる家族は尚長女幸子（昭二、二生）二女男子（同三、一〇生、養父種吉庶子、生母大阪河合さと）は大阪府人伊藤イサ子（同同一、一二生、出身校同上）は靜岡縣人小澤凱夫に嫁せり（東京市品川區大井鹿島町二九八二電高輪三二四〇）

參照‖大塚惟精、大林義雄※富井周の項

上原徳太郎

拂屋、酒類商　東京府在籍

妻　クラ　明一二、五生、神奈川、山崎秀藏二女

男　清太郎　明三六、一〇生

嬶　ヒサ　明四三、八生、長男清太郎妻、神奈川、加藤内藏之助四女

男　正二　大二、五生

君は東京府人上原清五郎の三男にして明治八年三月二十一日を以て生れ同三十八年家督を相續す同十二年父の創業になる酒類商を繼承し拂屋と稱す家族は尚孫瓊枝（昭五、七生、長男清太郎長女）同智（同七、六生、同長男）ありA四九一（東京市京橋區木挽町四ノ一電東橋五六五五）

上原平太郎

從三位勳二等功四級、陸軍中將、衆議院議員（香川縣選出）　香川縣在籍

父　秀次郎　嘉永五、七生、現戸主

母　フサ　嘉永六、六生、香川、三原春次長女

妻　さだ　明一八、二生、東京、士、駒澤保定二女

男　二郎　明四五、二生

男　康男　大三、一生

女　照子　大五、五生

女　靜子　大七、四生

君は香川縣人上原秀次郎の長男にして明治五年十一月を以て生る同二十九年陸軍士官學校を卒業し琴で陸軍歩兵少尉に任じ大正十五年陸軍中將に累進し昭和五年豫備役仰付けらる其間陸軍大學校を卒業し參謀本部員陸軍大學校教官第四師團參謀歩兵第六十二聯隊長第十一師團參謀長陸軍航空本部附所澤陸軍飛行學校長第二十師團長等に歷補し清國事變並に日露の役に從軍せり爵に瑞洲及清國に出張を命ぜらる昭和七年推されて衆議院議員に當選し現に其任に在り立憲政友會に屬す家族は尚四男國男（大九、一〇生）五男淳男（同一一、四生）あり妹ヒサ（明九、一一生）は大阪府人坂上友吉に嫁し同モト（同一六、一生）は香川縣人廣瀨竹藏養子瀧次に嫁し弟直吉（同二二、八生）同妻マツエ（同二三、七生）は其子女を伴ひ分家せりA二二〇（東京市世田谷區北澤三ノ九二三電松濤二七五）

上原正禮

安田銀行㈱保管課長兼營業部長附　鳥取縣士族

父　熊鐵　文久元、一二生

母　はつ　文久三、六生、鳥取、岸田熊太郎長女

妻　きの　明二〇、九生、鳥取、木村彰姪

男　正義　大三、一生

君は鳥取縣士族上原熊鐵の長男にして同正道の兄なり明治十六年五月を以て生れ昭和五年家督を相續す明治三十四年安田銀行に入り漸次累進して同行足利支店長となり現に同行保管課長兼營業部長附たりA一九六（東京市小石川區大塚坂下町一一一二）

參照‖上原正道の項

上原正道

明治生命保險㈱名古屋支店長　鳥取縣士族

妻　梅子　明三一、四生、東京、俣野景憲四女、跡見女學校出身

男　一郎　大五、一一生、慶大在學

女　道子　大七、五生、名古屋金城女學校在學

君は鳥取縣士族上原熊鐵の二男同正禮の弟にして明治十九年五月七日を以て生れ後分れて一家を創立す同四十五年慶應義塾理財科を卒業同年直に明治生命保險會社に入社し爾來長崎京城各支店大阪支店副長を經て大正十二年神戸支店長となり次で札幌支店長を經て昭和六年名古屋支店長に轉じ今日に至る旅行讀書古陶器の蒐集等に趣味を有し「北海道樺太見聞記」の著あり家族は尚二男英吉（大一二、五生）二女貴美子（同一三、九生）三女昭子（昭二、二生）三男有信（同六、五生）四女康子（同九、三生）ありA一五一（名古屋市東區外堀町二ノ四電東四五九）

參照‖上原正禮の項

上原政兵衛

毛皮貿易商　東京府在籍

妻　ゆき　明二五、九生、上原富藏三女

男　利男　明四五、一生

女　芳子　大二、八生

君は廣島縣人松島瀧右衛門の四男にして明治二十一年四月を以て生れ同四十三年先代ゆきの入夫となり家督を相續す毛皮貿易商を營むA一一六七B二〇四（東京市淺草區吉野町一ノ一六電淺草七五）

上原三雄

瀧澤倉庫會社員　東京府在籍

母　ナミ　慶應二、一生、東京、林新兵衛姉

妻　富久子　明四二、二生、東京、千秋謙治長女

男　豊三　昭七、一二生

當家先代豊吉は東京府人にして米穀商瀧澤商店に勤務三十餘年に及び同店支配人に擧げらる君はその三男にして明治三十五年四月九日を以て生れ大正十二年家督を相續す現時瀧澤倉庫會社員たり姉益子（明二一、一生、女子學習院出身）は東京貯蓄銀行取締役佐々木興一に同信子（同二六、一〇生、出身校同上）は廣東總領事法學士川鍋茂に同愛子（同三一、一生、出身校同上）は横濱正金銀行員法學士青木都之輔に同利（同三三、五生、出身校同上）は和歌山縣人貴志二郎弟南滿洲鐵道會社員醫學士二一郎に妹壽惠子（同四〇、一生、出身校同上高等科）は山口縣人東乙彦養子鐵道省技師工學士義胤に同康子（同四二、八生、御茶の水高女出身）は愛媛縣人小川新太郎弟英次郎に嫁せりA三八六（東京市麻布區谷町五四電赤坂二八〇）

參照‖青木都之輔、川越茂、佐々木興一、東乙彦の項

上間助啓

沖縄縣多額納稅者、金融業　沖縄縣在籍

妻　マウシ　明一六、八生、沖縄、大嶺助彦母

養子　助藏　昭五、四生、沖縄、上間助浩二男

君は沖縄縣人上間助太郎の三男にして慶應三年一月三日を以て生れ明治三十八年戸主上間松元方より分れて一家を創立す金融業を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅百五十四圓を納む（那覇市久米町二ノ五七）

上松泰造

妻　よね　明一〇、四生、養父治郎一庶子
養子　道子　大七、六生、岐阜、上松隆偲二女

君は岐阜縣人關谷與藏治の三男にして明治元年九月十七日を以て生れ上松長郎一の養子となり同三十八年家督を相續す夙に岐阜縣師範學校を卒業し東京法學院に學ぶ農業を營み傍ら現時前記銀行會社の重役にして縣下の多額納稅者　列し直接國稅三千八百五十圓を納む義に岐阜縣農會長に擧げられ又貴族院議員に互選せらること二回現に其任にあり大正三四年事件の功により勳四等に敍せらる長女通（明二七、八生は岐阜縣人上松隆偲に二女榮（同三〇、一生）は賞勳局總裁下條康麿に四女紹（同三五、一生）は兵庫縣人中島保之介に五女峰（同三六、一〇生）は岐阜縣人關谷貞夫に嫁し養叔母あい（文久二、四生）は岐阜縣人渡邊甚吉の組母にして養叔父乙也（明九、二生）は愛知縣人村瀨つまの入夫となれり（岐阜縣稻葉郡鶴島村鶴八）

參照‖下條康麿、中島保之助、渡邊甚吉の項

上道正治

醫師　大阪府在籍
母　ウノ　明二〇、八生、三重、村山爲三郎
妻　操　明二五、八生、三重、村山爲三郎
男　菊夫　大一一、九生

上道家は代々大阪に住し油製造業を營み舊家を以て知られたる家柄なり先々代庄治郎祖業を歷し土地家屋に投資し巨利を占む君は先代菊治の長男にして明治二十五年六月二十六日を以て生れ昭和八年家督を相續す醫師たり家族は尙長女正子（大一二、八生）三女文子（同一四、一一生）五男知三（昭六、八生）弟清一（同二九、七生）同妻喬子（同三五、七生、京都、宮城與兵衛長女）及其二子弟直夫（同三七、六生）同妻智子（同四四、三生、大阪、關場茂樹長女）及其一子ありA一四七五（大阪市北區岩井町二ノ二二五電堀川二五八）

上村英一

妻　マツ　穗妹、明三一、二生、熊本、士、齋藤增
男　一郎　昭二、九生　縣立熊本高女出身

君は明治三十年九月を以て生れ昭和二年家督を相續す大正十年東京帝國大學農學部農學科を卒業し長野縣栃木縣各產業技師を經て同十五年農林技師に任じ昭和四年地方技師となり靜岡縣內務部耕地課長を命ぜられ現在に至る乘馬水泳に趣味を有す家族は尙長女公子（昭六、三生）あり（長崎市夫婦川町四〇電五七九）

上村勝爾

妻　トシ　陸軍砲兵中將、盛岡高等農林學校長、岩手縣士族
妹　明一八、一生、長崎、野中素一
男　秀勝　大二、八生

君は石川縣士族上村要次郎の長男陸軍中將同次兄の兄にして明治九年九月を以て生れ同三十六年家督を相續す同三十四年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し更に大學院に入り森林利用學を專攻す義に奈良縣立農林學校教諭在任中日露戰役に從軍す同三十九年盛岡高等農林學校教授となり昭和六年同校長に任ぜらる大正三年森林生產學研究の爲歐米に留學し同十五年林學博士の學位を授けらる著書に「森林利用學」「樹木百話」等あり家族は尙三男武（大六、一〇生）四男正（同一三、七生）あり長女華子（明四〇、一〇生）は茨城縣人阿久井喜三郎に二女房子（同四三、二生）は岩手縣人醫學士工藤祐三に三女靜子（同四四、三生）は岩手縣人農學士武田邇平に嫁せり（盛岡市上田盛岡高等農林學校官舍電四二六）

參照‖上村友兄の項

上村英一

妻　マツ　穗妹、明三一、二生、熊本、士、齋藤增
男　一郎　昭二、九生　縣立熊本高女出身

君は明治三十年九月を以て生れ昭和二年家督を相續す大正十年東京帝國大學農學部農學科を卒業し長野縣栃木縣各產業技師を經て同十五年農林技師に任じ昭和四年地方技師となり靜岡縣內務部耕地課長を命ぜられ現在に至る乘馬水泳に趣味を有す家族は尙長女公子（昭六、三生）あり（長崎市夫婦川町四〇電五七九）

上村勝爾

妻　トシ　陸軍砲兵中將、盛岡高等農林學校長、岩手縣士族
妹　明一八、一生、長崎、野中素一
男　秀勝　大二、八生

君は石川縣士族上村要次郎の長男陸軍中將同次兄の兄にして明治九年九月を以て生れ同三十六年家督を相續す同三十四年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し更に大學院に入り森林利用學を專攻す義に奈良縣立農林學校教諭在任中日露戰役に從軍す同三十九年盛岡高等農林學校教授となり昭和六年同校長に任ぜらる大正三年森林生產學研究の爲歐米に留學し同十五年林學博士の學位を授けらる著書に「森林利用學」「樹木百話」等あり家族は尙三男武（大六、一〇生）四男正（同一三、七生）あり長女華子（明四〇、一〇生）は茨城縣人阿久井喜三郎に二女房子（同四三、二生）は岩手縣人醫學士工藤祐三に三女靜子（同四四、三生）は岩手縣人農學士武田邇平に嫁せり（盛岡市上田盛岡高等農林學校官舍電四二六）

參照‖上村友兄の項

上村喜代

家主　京都府在籍
母　ヨネ　明七、二生、大阪、池田三十郎三女

君は京都府人上村常治郎の孫にして大正八年十二月を以て生れ昭和三年家督を相續す家主たり家族は尙妹つい（大一一、七生）伯母里（明二六、六生）及其二子ありA六九〇七（京都市東山區東山通町原上ル）

上村久太郎

妻　晴江　丹久商店㊟代表社員、酒類商、京都、藤川市左衛門長女
男　正夫　大元、九生、丹久商店㊟代表社員

君は京都府人上村岩次郎の長男にして明治二十二年六月を以て生れ同三十九年家督を相續す丹久と稱し酒類商を營み傍ら上村土地建物合名會社を經營す現時東山區家屋稅調査員に擧げらる家族は尙二女良江（大一二、三生）あり妹マサ（明一八、二生）は京都府人橋本治左衛門長男治三郎に嫁せりA一〇九〇（京都市東山區東山通松原上ル玉水町七九電話圓一九八四）

上村九兵衛

妻　たつ　日本クロス工業㊟取締役、上九商店㊟代表社員、京都府在籍、肩掛絹物商
男　一四、八生、京都、吉川太郎兵衛四女
養子　三男　明三三、一〇生、長女萬夫、奈良荻田穣弟
女　萬　明三七、三生、養子二三男妻
女　き　く　明四一、一〇生
女　富　大三、一生
女　ヒサ　大四、八生
女　ソノ　大七、九生

君は京都府人上村九兵衛の二男にして明治十三年七月を以て生れ先代與三郎の養子となり同十六年家督を相續し前名萬次郎を改め襲名す上九商店の代表社員にして肩掛絹物商を營み傍ら日本クロス工業會社取締役たり義に新舞鶴橋倉庫會社監査役たりし事あり家族は尙孫文子（昭二、一二生、養子二三男長女）同亨子（同二女）あり四女ふく（明四四、七生）は京都府人山中貞三に嫁せり（八一五二（京都市上京區今出川通大宮西入元北小路町一六〇電西陣二四七）

上村幸治郎

越中屋、生絲商　京都府在籍
男　幸吉　明四四、一〇生

君は京都府人棚橋米吉の三男にして明治十三年十月を以て生れ先代アイの養子となり同二十年家督を相續す生絲商を營み越中屋と稱す長女秀（明三六、三生）は京都府人西垣保に嫁せりA七一四（京都市上京區一條通淨福寺東入南新町在家町三三一電西陣一二四六）

上村壽三郎

熊本縣多額納稅者、雜貨商　熊本縣在籍
養母　マジュ　安政三、五生、熊本、佐々木賢明長女
妻　貞　明三二、九生、熊本、飯田良藏長女
男　榮一　昭三、一〇生

君は熊本縣人木村市次郎の三男にして明治九年十二月を以て生れ先代源吾の養子となり大正十三年家督を相續す雜貨商を營み熊本縣多額納稅者にして直接國稅八百三十二圓を納む養妹ハツ（明一五、一生）同キジュ（同四〇、二生）は各分家し同フミ（同二九、三生）同夫龜吉（同二〇、七生、亡父市次郎四男）も亦其二子を伴ひ分家せり（熊本市本山町電一二六一）

上村重太郎

養產家　新潟縣在籍
妻　マス　文久二、三生、新潟、高橋芳謙妹
養子　清三郎　明二六、八生、養子ノフ夫、新潟尾身晉治郎四男
養子　ノフ　明二六、一生、養子清三郎妻、亡兄善太郎三女
女　ツネ　明三七、六生
孫　ミネ　大七、六生、養子清三郎長女

君は新潟縣人上村彥吉の五男にして明治三年八月を以て生れ同三十八年家督を相續す養產家にして蠶に十日町銀行專務取締役たり家族は尙孫重行（大九、二生、養子清三郎二男）同キヨ（同一一、四生、同二女）同重夫（同一五、二生、同三男）同重美（昭四、九生、同四男）

上村長兵衛

日東蓄音器㊟監査役、藥品貿易商　大阪府在籍
妻　フク　慶應元、四生、養父長兵衛長女
養子　重平　明二四、三生、二女千代夫、兵庫倉橋房之助三男
女　千代　明三一、五生、養子重平妻
婿　ツネ　明一七、三生、亡長男平太郎妻、兵庫、浴田爲三郎妹

君は大阪府人河邊吉郎の三男にして文久元年十二月を以て生れ先代長兵衛の養子となり明治十九年家督を相續し前名吉三郎を改め襲名す藥品貿易商を營み傍ら現時日東蓄音器會社監査役にして義に大日本製藥會社々長たり事あり家族は尙孫芳子（大九、一生、養子重平長女）あり妻ヒサ（明一九、五生）は大阪府人森與三郎に養妹サク（同五、一〇生）は同府人錦源兵衛に嫁し三女勝子（同三七、五生）は分家せりA二四七五B五一七（大阪市東區道修町三ノ一八電本局三四八・一六五〇）

上村友兄

從四位勳二等功五級、陸軍中將、東京灣要塞司令官、石川縣在籍
妻　薫　明二九、六生、京都、杉山德太郎三女
男　外茂男　大九、一〇生
女　英子　明四三、七生
女　喜久子　大七、八生
君は石川縣人林學博士上村勝爾の弟にして明治十三年九月十八日を以て生れ分れて一家を創立す同三十五年陸軍士官學校を卒業し工兵少尉に任じ昭和八年陸軍中將に累進す其間陸軍工兵學校教育部長同學校長等に歷補し現時東京灣要塞司令官たり家族は尙三女富子（大一四、四生）四女豊子（昭三、一〇生）あり（神奈川縣三浦郡浦賀町）

參照‖上村勝爾の項

上村眞澄

今津發電㊟取締役　福岡縣士族
妻　イト　明二六、九生、福岡、貝原良介妹
男　眞清　大一一、三生

あり妹トシ（明一五、六生）は新潟縣人澤澤雄平太甥劍三に嫁せり（新潟縣中魚沼郡水澤村）

上村友兄

從四位勳二等功五級、陸軍中將、東京灣要塞司令官、石川縣在籍
妻　薫　明二九、六生、京都、杉山德太郎三女
男　外茂男　大九、一〇生
女　英子　明四三、七生
女　喜久子　大七、八生
君は石川縣人林學博士上村勝爾の弟にして明治十三年九月十八日を以て生れ分れて一家を創立す同三十五年陸軍士官學校を卒業し工兵少尉に任じ昭和八年陸軍中將に累進す其間陸軍工兵學校教育部長同學校長等に歷補し現時東京灣要塞司令官たり家族は尙三女富子（大一四、四生）四女豊子（昭三、一〇生）あり（神奈川縣三浦郡浦賀町）

參照‖上村勝爾の項

上村眞澄

今津發電㊟取締役　福岡縣士族
妻　イト　明二六、九生、福岡、貝原良介妹
男　眞清　大一一、三生

上村李左衛門

豊橋電氣、渥美電鐵各㊟取締役　愛知縣在籍
妻　きわ　文久三、三生、愛知、伊藤益太郎妹
婿　しを　明二四、六生、亡長男武太郎妻、愛知、竹味惣右衛門妹
孫　千一郎　明四五、一生、亡長男武太郎長男
男　悌三　明三七、七生
婿　千佐　明四五、三生、五男悌三妻、愛知伊藤右二長女
孫　かや　大四、一〇生、亡長男武太郎長女

君は愛知縣人上村李八の長男にして文久三年五月を以て生れ慶應三年家督を相續す現時豊橋電氣會社取締役たる外前記會社の重役たり曾て福江銀行田原商工銀行の重役たりし事あり家族は尙孫善三（大七、七生、亡長男武太郎三男）同けい子（同一〇、七生、同二女）同元治（同一三、二生、同四男）同翠（昭五、六生、五男悌三長女）あり長女きみ（明一五、一生）は愛知縣人坂口

卯吉弟亮に三女きつ（同二四、一二生）は同縣人田澤錄二弟秋作に嫁し二女せつ（同一九、一〇生）は同縣人伊藤かいの養子となれり（愛知縣海部郡福江町電二八）

上村盛治　尼崎市會議員　兵庫縣在籍

母　タカ　慶應三、一〇生、大阪、泉吉次郎姉

妻　ひさ　明二二、一一生、兵庫、岡田善藏長女

男　一雄　明四二、一二生

君は兵庫縣人上村文三郎の二男にして明治十八年五月を以て生れ大正二年家督を相續す夙に明治大學法律科を卒業し大阪新報社員たりしが大正二年家業を繼ぎ農業に從事す爾來兵庫縣會議員同郡郡會議長尼崎市會議員同參事會員同議長等に當選し大正十一年尼崎市長に擧げられ昭和五年辭任す現時尼崎市會議員たり家族は尙三男三雄（大七、三生）四男文治（同一〇、一〇生）三女英子（昭二、一生）あり姉こう（明九、四生）は大阪府人田邊良太郎に妹しづゑ（同三五、一〇生）は兵庫縣人中島博通に嫁せり（尼崎市東灘波村九〇七電五〇五）

參照‖泉吉次郎の項

上村彌太郎　島根縣多額納稅者、工業　島根縣在籍

父　万之助　文久三、六生、現戸主

妻　ツネ　明二六、二生、島根、高麗伊三郎三女

養子　英男　明四〇、一生、三女久子夫、島根安都慶次郎四男

女　久子　大四、八生、養子英男妻

君は島根縣人上村萬之助の長男にして明治十七年一月六日を以て生る工業を營み直接國稅五百九十五圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙孫桂一郎（昭八、一生、養子英男長男）あり（松江市御手船場町五六一）

上村靖　從五位勳六等、高知縣書記官、學務部長、北海道士族

妻　テイ　明二八、四生

男　正男　大八、一生

君は北海道士族にして明治二十五年五月十七日を以て生る大正八年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業同年警視廳警部に任じ樹來青森縣警視に任じ樹來青森縣警部長同年沖縄縣書記官學務部長同九年二月高知縣書記官學務部長に補せらる家族は尙長女淑子（大一四、一二生）あり（高知縣學務部長官舍電一八一一）

上村良助　正四位勳二等、陸軍中將　東京府在籍

妻　繁　明二一、六生、伊藤蓋五郎九女

男　健太郎　明四一、七生

女　和子　大八、一生

君は兵庫縣人上村久長衛の三男にして明治十一年四月を以て生れ同四十三年兄弘方より分れて一家を創立す夙に陸軍士官學校を卒業し同三十二年陸軍砲兵少尉に昭和四年豫備役仰付らる其間歐洲大戰前後を通じ約六ケ年間主として獨逸に派遣せられ次で陸軍省軍務局砲兵課長野戰重砲兵第三旅團長陸軍技術會議々員等に歷補せる現時大日本除蟲粉會社々長にして前記會社の重役を兼ねユーゴースラヴィア國名譽領事たり家族は尙孫滿智子（昭三、二生、三男英夫長女）同英哉（同五、二生、同長男）あり長男英之助（明二二、九生）は本家上山勘太郎の養子となり襲名し姉てい（寡永四、四生）は和歌山縣人玉置傳三郎の母にして妹ひさ（慶應三、五生）は同縣人御前喜八郎に嫁せり（和歌山縣有田郡保田村電黑箕島二五）

參照‖上山市郎兵衛の項

上山市郎兵衛

母　のぶ　慶應二、二生、和歌山、宮本八郎右衛門三女

妻　ユキ　明二八、一生、和歌山、石橋八九郎妹

男　春樹　大一二、二生

上山家は古くより紀州保田村に土着せる地主にして數代前より庄屋役を勤めたる家柄なり君は先代市郎兵衛年家督を相續し前名市三郎を改め襲名す組業を繼き農業を營み傍ら上山殖產會社を創立し現に其の代表取締役にして前記諸會社の重役を兼ね直接國稅九百二十七圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙二女玲子（昭二、九生）あり（大阪市東區大原町一一六五電青山七七八〇）

上山英一郎　ユーゴースラヴィア國名譽領事、大日本除蟲粉殖社長、共同信託取締役、和歌山縣在籍

文久二、一二生、和歌山、上山市郎兵衛養叔母

妻　ゆき　明二六、三生

男　英三　明三二、一一生

男　英夫　明四〇、二生、三男英夫妻、和歌山、山口孫七長女

君は和歌山縣人上山長八の四男にして文久二年八月を以て生れ先代彌兵衛の養子となり明治十一年家督を相續し前名秀之助を改む本邦に於て始めて除蟲菊を移殖し年額一千萬圓の輸出國たらしめ藍綬褒章を下賜せらる現時大日本除蟲粉會社々長にして前記會社の重役を兼ねユーゴースラヴィア國名譽領事たり家族は尙孫滿智子（昭三、二生、三男英夫長女）同英哉（同五、二生、同長男）あり長男英之助（明二二、九生）は本家上山勘太郎の養子となり襲名し姉てい（寡永四、四生）は和歌山縣人玉置傳三郎の母にして妹ひさ（慶應三、五生）は同縣人御前喜八郎に嫁せり（和歌山縣有田郡保田村電黑箕島一四五）

參照‖石橋八九郎、上山英一郎、上山靜治、山口孫七※石橋三郎の項

上山靜治　貴產家　和歌山縣在籍

母　うた　明一八、二生、和歌山、上山市郎兵衛姉

當家の先代靜藏は夙に大阪高等商業學校を卒業し獨立して除蟲菊製造を起し傍ら銅業界に入り內外除蟲菊上山殖產大正商事各會社重役並に大阪砂糖取引所理事等に擧げられ其名顯る君は其長男にして大正九年七月を以て生れ後家督を相續す貴產家たり家族は尙姉俊子（明三八、一一生、樺蔭高女出身）同晴子（同四四、一生、田島校同上）あり A二〇〇〇〇B五〇〇（大阪市天王寺區東高津北之町二六電南二五一一）

參照‖上山市郎兵衛の項上山英一郎※山口孫七の項

上山正文　砂糖麥粉商、地主　大阪府在籍

妻　キクエ　明三七、九生、養父仙松長女

君は大阪府人井上稔穩の五男にして明治三十四年一月七日を以て生れ昭和四年先代仙松の養子となり同七年家督を相續す砂糖麥粉商を營み地主たり家族は尙長女綾子（昭四、七生）あり A三七二（大阪府豐能郡池田町電池田八七〇）

上山與作　印刷業並諸寸原料商　兵庫縣在籍

妻　あさ　明一〇、九生、養父常三郎長女

男　政治　明三三、一一生、法學士

嫁　きぬ　明四〇、一生、長男政治妻、大阪逢阪彌妹、夕陽丘高女出身

男　巖　明三八、四生、慶大出身

男　茂　明四〇、七生、慶大出身

女　千代　明四一、八生、神戸女學院高等部出身

女　靜子　明四四、四生、神戸市立第二高女出身

女　時子　大五、八生

君は靜岡縣人石川源三郎の二男にして明治六年五月を以て生れ兵庫縣人上山常三郎の養子となり同三十二年分れて一家を創立す夙に大阪に出で貿易商岩井勝三郎商店に入り勤續十七年に及ぶ後獨立して印刷業を創め拮据經營よく今日の基を爲し現時併せて燐寸原料商を營む趣味として謠曲を嗜む家族は尙五男慶一（大四、一生）孫夫佐子（昭三、二生、長男政治長女）同元一（同四、七生、同長男）あり A一二八四（神戸市兵庫區大開通一ノ五一電湊川二一六六）

參照‖逢阪彌の項

上山良吉　森村同族㈱取締役　兵庫縣十族

妻　サト　明六、三生、長女、山口、士、尾崎宗達男　道雄　明三六、一〇生、三菱銀行員、慶大經濟學部出身

嫁　靜江　明四五、一生、長男道雄妻、東京山內岳造長女

君は兵庫縣士族上山道碩の長男にして慶應二年十一月を以て生れ明治六年家督を相續す同二十五年慶應義塾を卒業し現時森村同族會社取締役たり曩に京王電氣軌道會社監査役たりし事あり A一一一一（東京市牛込區市谷砂土原町三の八電牛込二五五四）

參照‖遂有川鷹一の項

植垣彌一郎　明治商店㈱常務取締役、明治製菓山陽煉乳各㈱取締役、京都府在籍

妻　よね　明一七、五生、京都、下田三喜藏長女

君は京都府人中江磯次郎の三男にして同利郎の兄なり明治十八年六月を以て生れ先代チエの養子となり大正十年家督を相續す嘗て小樽石油商會を支配し明治四十一年小樽の荷馬車五千頭の合同統一を企てたることあり同四十二年明治製糖會社に入り現時其傍系たる明治商店常務取締役の外前記各會社の重役にして曩に歐米に製糖製菓製乳の諸事業視察の爲渡航す長女太刀子（明四四、六生）は京都府人明治製菓會社員早大出身松本帝弘に嫁せり A四七三（東京市中野區桃園六電中野三三三七）

參照‖中江利郎の項

植木金松　山口玄洞商店㈱常務取締役、山口商店㈱取締役、大阪府在籍

妻　とよ　明一五、一二、滋賀、補井喜三郎長女

男　英三　明三五、三生、電氣協會電氣計器大阪試驗所員

女　とし　明四〇、七生、樺蔭高女出身

男　錬之助　明四四、一一生、關西學院高等商業部出身

君は三重縣人植木市兵衛の長男にして明治五年九月を以て生れ同三十四年兄由松方より分れて一家を創立す夙に山口玄洞家に勤め累進して現時山口玄洞商店常務取締役山口商店取締役たり A四九二四（大阪市天王寺區松ケ鼻町一電天王寺四六五一）

上山勘太郎

大阪商工會議所常議員、ユーゴースラヴィア國名譽領事、大日本除蟲粉、大日本藥業、共同電氣、各㈱取締役、南海水力電氣代表取締役、白濱溫泉土地倶樂部、岸和田紡績、瓦斯產業各㈱監査役、大阪ベルカン近東輸出組合理事長、天產物輸出商、和歌山縣在籍

妻　キミ　明三一、一〇生、和歌山、御前綱一妹

君は和歌山縣人上山英一郎の長男同英三の兄にして明治二十二年九月を以て生れ先代勘太郎の養子となり同四十一年當家十五代の家督を相續し前名英之助を改め襲名す天產物輸出商を營み現時ユーゴースラヴィア國名譽領事にして大日本除蟲粉會社代表取締役たる外前記各會社の重役を兼ぬ又選ばれて大阪商工會議所常議員たり著書に「歐米漫畫」あり家族は尙長女綾子（大一三、一〇生）二女富美子（昭三、四生）あり叔母たつ（慶應元、一一生）は和歌山縣人御前綱一先代利平次に嫁せり A六九三三（大阪市西區土佐堀通三ノ二九電土佐堀六二六）

參照‖上山英一郎、上山英三、御前綱一の項

上山靜治　貴產家　和歌山縣在籍

母　うた　明一八、二生、和歌山、上山市郎兵衛姉

當家の先代靜藏は夙に大阪高等商業學校を卒業し獨立して除蟲菊製造を起し傍ら銅業界に入り內外除蟲菊上山殖產大正商事各會社重役並に大阪砂糖取引所理事等に擧げられ其名顯る君は其長男にして大正九年七月を以て生れ後家督を相續す貴產家たり家族は尙姉俊子（明三八、一一生、樺蔭高女出身）同晴子（同四四、一生、田島校同上）あり A二〇〇〇〇B五〇〇（大阪市天王寺區東高津北之町二六電南二五一一）

參照‖上山市郎兵衛の項上山英一郎※山口孫七の項

上山正文　砂糖麥粉商、地主　大阪府在籍

妻　キクエ　明三七、九生、養父仙松長女

君は大阪府人井上稔穩の五男にして明治三十四年一月七日を以て生れ昭和四年先代仙松の養子となり同七年家督を相續す砂糖麥粉商を營み地主たり家族は尙長女綾子（昭四、七生）あり A三七二（大阪府豐能郡池田町電池田八七〇）

上山與作　印刷業並諸寸原料商　兵庫縣在籍

妻　あさ　明一〇、九生、養父常三郎長女

男　政治　明三三、一一生、法學士

嫁　きぬ　明四〇、一生、長男政治妻、大阪逢阪彌妹、夕陽丘高女出身

男　巖　明三八、四生、慶大出身

男　茂　明四〇、七生、慶大出身

女　千代　明四一、八生、神戸女學院高等部出身

女　靜子　明四四、四生、神戸市立第二高女出身

女　時子　大五、八生

君は靜岡縣人石川源三郎の二男にして明治六年五月を以て生れ兵庫縣人上山常三郎の養子となり同三十二年分れて一家を創立す夙に大阪に出で貿易商岩井勝三郎商店に入り勤續十七年に及ぶ後獨立して印刷業を創め拮据經營よく今日の基を爲し現時併せて燐寸原料商を營む趣味として謠曲を嗜む家族は尙五男慶一（大四、一生）孫夫佐子（昭三、二生、長男政治長女）同元一（同四、七生、同長男）あり A一二八四（神戸市兵庫區大開通一ノ五一電湊川二一六六）

參照‖逢阪彌の項

上山良吉　森村同族㈱取締役　兵庫縣十族

妻　サト　明六、三生、長女、山口、士、尾崎宗達男　道雄　明三六、一〇生、三菱銀行員、慶大經濟學部出身

嫁　靜江　明四五、一生、長男道雄妻、東京山內岳造長女

君は兵庫縣士族上山道碩の長男にして慶應二年十一月を以て生れ明治六年家督を相續す同二十五年慶應義塾を卒業し現時森村同族會社取締役たり曩に京王電氣軌道會社監査役たりし事あり A一一一一（東京市牛込區市谷砂土原町三の八電牛込二五五四）

參照‖遂有川鷹一の項

植垣彌一郎　明治商店㈱常務取締役、明治製菓山陽煉乳各㈱取締役、京都府在籍

妻　よね　明一七、五生、京都、下田三喜藏長女

君は京都府人中江磯次郎の三男にして同利郎の兄なり明治十八年六月を以て生れ先代チエの養子となり大正十年家督を相續す嘗て小樽石油商會を支配し明治四十一年小樽の荷馬車五千頭の合同統一を企てたることあり同四十二年明治製糖會社に入り現時其傍系たる明治商店常務取締役の外前記各會社の重役にして曩に歐米に製糖製菓製乳の諸事業視察の爲渡航す長女太刀子（明四四、六生）は京都府人明治製菓會社員早大出身松本帝弘に嫁せり A四七三（東京市中野區桃園六電中野三三三七）

參照‖中江利郎の項

植木金松　山口玄洞商店㈱常務取締役、山口商店㈱取締役、大阪府在籍

妻　とよ　明一五、一二、滋賀、補井喜三郎長女

男　英三　明三五、三生、電氣協會電氣計器大阪試驗所員

女　とし　明四〇、七生、樺蔭高女出身

男　錬之助　明四四、一一生、關西學院高等商業部出身

君は三重縣人植木市兵衛の長男にして明治五年九月を以て生れ同三十四年兄由松方より分れて一家を創立す夙に山口玄洞家に勤め累進して現時山口玄洞商店常務取締役山口商店取締役たり A四九二四（大阪市天王寺區松ケ鼻町一電天王寺四六五一）

植木憲吉

日本蠟鑛組共同販賣、日本合同工船各種事務取締役、日本製罐、共同漁業、共同水產、東洋毛絲、南米水產各種取締役、日本毛皮貿易、東洋毛皮、三共水產各種監査役

妻　憲美子　明二五、四生、京都、平和三郎二女

男　太郎　大四、一一生

女　あや子　大七、一生

君は兵庫縣人植木致一の二男にして明治十九年八月を以て生れ大正四年兄靖夫方より分れて一家を創立す明治四十一年水產講習所漁撈科を卒業し現時前記諸會社の重役たり家族は尙二男次郎（大八、七生）二女ふさ（同一〇、二生）三女雪子（同一二、八生）三男三郎（同一四、九生）四女佳子（昭三、一一生）ありA三八七六（東京市牛込區新小川町三ノ一七電牛込四六五二）

植木瀧藏

東京市牛込區會議員、製本業　東京府在籍

妻　ノブ　明一〇、一一生、東京、船山與兵衛二女

男　政次郎　明三八、一生

女　キヨ　明三四、二生

男　勇次郎　明四〇、九生

君は東京府人河原源五郎の二男にして明治四年一月を以て生れ先代新吉の養子となり同十七年家督を相續す製本業を營み現時牛込區會議員たり（東京市牛込區水道町三八電牛込三二二七）

植木長治

從四位勳四等、前札幌市電氣局長　東京府在籍

男　久　明四二、三生

女　恒子　大六、六生

君は新潟縣人植木利七の三男にして明治七年四月二十日を以て生れ同四十年朔寓久司方より分れて一家を創立す夙に京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し北海道鐵道技師鐵道技師運輸課長等に歷補し歐米各國出張を命ぜられ歸朝後鐵道監察官に任ぜられ後退官札幌市電氣局長たりしも現時之を辭し陶地に在り家族は尙六女英子（大一一、四生）あり長女千枝子（明四一、一一生）は北海道人佐々木武尙に嫁し二男茂（大二、二生）は分家せり（東京市芝區汐溜町一ノ一）

植木弘次郎

家主　大阪府在籍

妻　睨　明二七、二生、大阪、日垣太郎市二女

男　弘孝　大六、六生

女　延子　大八、二生

君は大阪府人先代治郎兵衛の二男にして明治二十六年七月二十一日を以て生れ昭和四年家督を相續す家主たり家族は尙二女文枝（大一〇、一生）五女美代子（同四、六生）妹千代（明三一、一二生）四女治子（昭三、六生）五女美代子（同四、六生）妹千代（明三一、一二生）あり同碧枝（同二九、二生）は大阪府人早川德次郎養子鹿之輔に嫁せりA九〇四（大阪市西區靱中通一ノ四ノ一電土佐堀一四一〇）

參照＝早川德次郎の項

植木秀幹

正五位勳四等、農學博士、朝鮮總督府水原高等農林學校教授、兼朝鮮總督府技師同林業試驗所技師

妻　ユキヱ　明二一、五生、愛媛、加藤良三二女

男　秀樹　明四三、一〇生

男　正秀　大二、五生

君は愛媛縣士族植木秀村の二男にして明治十五年七月を以て生れ同十六年家督を相續す同三十七年東京帝國大學農科大學林學實科を卒業後米國ハーバード大學に生物學を專攻しマスター・オブ・オレストリーの學位を得て歸朝昭和三年農學博士の學位を受く明治三十七年宮城縣立農學校教諭に任じ次で韓國政府に聘せられ林業技師農林學校教授兼林業技師を歷任し後同校の朝鮮總督府水原高等農林學校に昇格すると共に同校教授に陞任し生徒監を兼ね更に朝鮮總督府技師及同林業試驗所技師を兼任今日に至る著述多し家族は尙二男行秀（大四、一一生）四男芳秀（同七、四生）長女千枝子（同一四、五生）五男博秀（昭四、一〇生）あり姉サヨヱ（明八、一〇生）は同郡人菅村金松に三女サワ（同三六、二生）一、一〇生）は同縣人森恒彥に三女タカ（同三八、七生）は同縣人石川滿に嫁し四男保一（同三二、四生）は同縣人植木平等農林學校官會）

植木房太郎

三井物產會社員　東京府在籍

妻　イト　明二九、六生、東京、垣內德三郎二女

男　啓太　大一〇、九生

君は東京府人植木留吉の長男にして明治二十一年十一月を以て生れ同四十三年叔父清吉方より分れて一家を創立す同四十四年東京高等商業學校を卒業し三井物產會社に入り本店計算課臺南支店詰バタビヤ出張員首席スーラバヤ支店長代理庶務係主任奪谷出張員首席を經て昭和二年奪谷出張所長となり現時本店勤務たり家族は尙二男晉作（大一三、三生）長女百合子（同一四、九生）あり（東京市大森區田園調布二ノ八四六電田園調布七六九）

植木又藏

口之津鐵道社取締役、材木商　長崎縣在籍

妻　タイ　明四、三生、長崎、荒木銀平四女

男　信一　明二六、八生、長崎、石川勘二郎二女

男　要次郎　明三三、一一生、長男信一妻、長崎、石川勘二郎二女

婿　松齡　明二九、二生

婿　クニ　明三四、七生、二男要次郎妻、長崎、松藤恒彥妹

男　武夫　明四〇、一〇生

女　敏子　大元、九生

君は長崎縣人南佐八郎の四男にして慶應元年四月を以て生れ植木平三郎の養子となり明治三十四年分れて一家を創立す材木商を營み傍ら口之津鐵道會社取締役たり家族は尙孫俊夫（大八、一一生、長男信一長男）同郁（同一一、二生、同長女）同男（同一四、一〇生、同二男）同直（昭五、七生、同二女）同キク（大一〇五生、二男要次郎長女）同英治（同一五、一生、同二男）同禾桂子（昭三、五生、同三女）ありA三男貞雄（明三〇、三生）は長崎縣人森クニの入夫となり長女キミ（同三四一〇生）は同縣人菅村金松に三女サワ（同三六、二生）は同縣人松藤恒彥に三女タカ（同三八、七生）は同縣人石川滿に嫁せり（朝鮮水原高等農林學校官會）

三郎に孫幹（大一二、七生、二男要次郎二女）は同縣人農部勇治に各養子となり五男益雄（明三三、四生）は分家せり（長崎縣南高來郡口之津町電口九）

植木萬里

モーターボート商會、東京鐵工所各種社長、ダイカスト資社長　東京府在籍

妻　きぬ　明一四、三生、東京、原胤昭二女

男　勝治　明四三、一二生

女　博子　大二、五生、日ノ出高女出身

男　和平　大三、八生、

君は舊高崎藩士植木先の二男にして明治四年十二月十六日を以て生れ大正二年兄雄飛方より分れて一家を創立す明治學院を卒業し米國機械輸入業ホーン株式會社創始を司り十二年間勤續し辭して池貝鐵工所販賣掛主任として中興に任じ二ケ年半整理成りて辭しアンドリウス・エンド・ジョージ合名會社支配人となり再興勤續十四年間大正十三年退職し現に前記諸會社の社長たり昭和五年歐米を巡遊す閑暇に趣味あり家族は尙四男繁（大六、二生）あり二女妙子（明三五、六生、高輪淑女學校出身）は鈴木和一に三女綾（同三七、二生、出身校同上）は東京府人大木雄一に五女幸（同四二、一〇生）は同府人安田信託會社員山本鶴雄に嫁せりA二九五（東京市芝區高輪南町四四電高輪四四八）

植木元太郎

島原鐵道社長　長崎縣在籍

妻　弩根　明一六、七生

姪子　武子　大三、一生、長崎、小林美根二女

君は長崎縣人植木直平の長男にして安政四年八月を以て生れ明治七年家督を相續す夙に實業界に入り現時島原鐵道會社長にして雲仙之津鐵道溫泉輕便鐵道各會社長長崎縣農工銀行取締役等を兼ぬ長女ミツヨ（明一三、一〇生）は靜岡縣人梁田文次郎長男代作に妹ヨシ（同二、五生）は長崎縣人松本幾太郎に嫁し二男美根（同一九、二生）は同縣人小林武次郎の養子となり妹サダ（萬延元、一一生）同夫猛丸（明三、六生、長崎、陸部徵雲弟）は共に分家せり（長崎縣南高來郡多比良村電一七）

植木米藏

城東土地株式會社長　兵庫縣在籍

妻　チエ　明八、四生、大阪、草壁ハツ妹

男　種雄　明四五、四生

君は兵庫縣人植木金之助の弟にして明治七年十二月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す夙に實業界に入り現に城東土地會社長たり養に日本製紙城崎温泉土地建物日本無軌條電車帝國蠶業山陽紡績大阪天王寺土地有馬雲泉土地大阪郊外住宅各會社重役たり家族は尙長女ツヤ（明二七、五生、大阪、草壁ハツ女）は滋賀縣士族磯野昇に嫁せりA二〇二（兵庫縣武庫郡精道村芦屋西新田四五八電芦屋二〇三〇）

植田榮助

香住銀行社頭取　兵庫縣在籍

養母　しも　嘉永六、一生、

妻　いそ　明七、三生、養父泰助長女

養子　四郎　明二七、七生、長女千代夫、兄五郎兵衛四男

女　千代　明三一、八生、養子四郎妻

君は兵庫縣人山田五郎兵衛の弟にして明治八年十月を以て生れ先代泰助の養子となり大正五年家督を相續し前名杢之助を改め養父の舊名を襲ぶ現時香住銀行頭取にして養に推されて香住町長及其他地方名譽職に擧げらる家族は尙兵次郎（大九、三生、養子四郎長女）同勝子（昭三、四生、同二女）ありA二女登美（明三四、二生）は兵庫縣人矢野武夫に繼子愛（同一七、五生）は同縣人別所美雄に嫁し養弟吉三（同二一、七生、兵庫、北村瀧二弟）は分家せりA三〇〇B四七（兵庫縣城崎郡香住町電一八）

植田一馬

家主　兵庫縣在籍

母　ひさ　明二、一二生、兵庫、左近三郎吉姉

妻　好子　明三三、五生、大阪、堀川治妹

男　理一　大九、四生

君は兵庫縣人植田一郎の二男にして明治二十八年三月十四日を以て生れ大正十五年家督を相續す同十四年大阪外國語學校別科英語科を卒業し家主たり家族は尙長女陽子（大一〇、一一生）二男三郎（同一二、八生）ありA三四五（東京市芝區高輪南町四四電高輪四四八）

植田榮三郎

從四位勳三等、檢事、岡山地方裁判所檢事正、香川縣在籍

妻　イク　明一二、九生、醫學博士山川章太郎姉

男　秀夫　明三九、二生、檢事、法學士

女　淑子　明四四、七生、御茶の水高女專攻科出身

君は香川縣人植田平太郎の二男にして明治十年九月を以て生れ大正八年家督を相續す明治三十七年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し同三十九年檢事に任じ爾來大阪區同地方神戸地方敍同區小倉區長崎區兼同地方兼福江區長崎地方兼同區各裁判所檢事長崎控訴院檢事神戸區兼同地方大阪區各裁判所檢事東京少年審判所長叔父利三（明一五、二生）は分家せりA四六七（神戸市葺合區八雲町二ノ一一電葺合四一三）

植田喜太郎

動七等、功七級、輪各種社長、植田同族、東灘運送、灘酸炭種取締役、淡路葡萄酒醸造監査役、植田寶代表社員、兵庫縣在籍

妻　みさ　明一九、九生、兵庫、植田卯吉長女

男　俊夫　明四四、一一生、農學士

女　節子　明四二、一二生、甲南高女出身

女　員枝　大三、三生

女　明子　大七、七生

當家は先代捨松分家して一家を創立し農業の傍ら米穀の委託販賣を營みたるに始まる君は其長男にして明治十一年二月を以て生れ同四十年家督を相續す夙に家業に出精せしが後實業界に入り現時前揭諸會社の重役たり養に兵庫縣會議員に選ばれし事あり家族は尙二男博己（大八、九生）あり長女靜子（明三九、一一生、甲南高女出身）は兵庫縣人正木肆郎に妹せい（同二一、一一生）は同縣人山口よね長男昇造に同いし（同二八、一二生）は同縣人丹家元正に嫁し弟榮太郎（同一六、一二生）は同縣人山口寬治郎姉まさの入夫となり同基太郎（同二四、八生）は同縣人藥師寺ナミの養子となれりA三四二（兵庫縣武庫郡住吉村宮西六二八電御影二二一九）

參照＝※植田治三郎※植田留吉の項

山口地方裁判所檢事正鹿兒島地方裁判所檢事正福島地方裁判所檢事正等に歷補し現時前記の職に在り家族は尙二男俊夫(大五、一〇生)弟克己(明二六、八生)同妻米(同三一、一一生、香川、森崎爲雄三女)及其一子亡弟倉九の子女あり(岡山市局之町官舍電二二〇四)

參照‖山川章太郎の項

植田景三

東京瓦斯㈱囑託、醫師
東京府在籍

妻　きよ　明二一、五生、茨城、中村熊次郎二女
男　泰藏　大八、六生
女　一枝　明四四、一〇生
女　俊江　大三、八生
女　三枝　大六、五生

君は茨城縣人植田吉之助の長男にして明治十四年十月を以て生れ先代祖父太一郎の跡を承け同四十二年家督を相續す先是同三十四年千葉醫學專門學校を卒業し現時東京瓦斯會社囑託醫たり家族は尙四女明江(昭三、七生)あり母はな(安政六、七生、亡祖父太一郎長女)は茨城縣人植田孝四郎の家籍に入れりA三九二(東京市城東區南砂町二ノ七二五電本所三三二二)

植田健次郎

資產家
大阪府在籍

母　ふさ　明六、三生、兵庫、大橋宗八妹
妻　葉　明三六、七生、大阪、松本元一二女
男　一彌　昭三、一二生

君は大阪府人植田彌太郎の二男にして明治三十一年六月を以て生れ昭和二年家督を相續す大正十年大阪高等商業學校を卒業し資產家として知らる義に大阪堂島米穀取引所清算部取引員たりしことあり家族は尙弟藤三(明三七、一〇生)ありA五六八(大阪市北區眞砂町二八電北九八〇)

植田謙吉

正四位勳一等
朝鮮軍司令官、大阪府士族

君は大阪府士族植田謙八の二男にして明治八年三月八日を以て生る夙に陸軍士官學校を卒業し同三十二年騎兵少尉に任じ昭和三年駐軍中將に累進す其間騎兵監部部員陸軍省軍務局課員參謀本部附陸軍航空部附軍馬補充部附同本部長支那駐屯軍司令官第九師團長參謀本部附等に歷補し次で參謀次長の重職に就き昭和九年八月朝鮮軍司令官に任ぜらる同七年二月上海事變に金澤師團の將兵を率ゐて出征し皇軍の威力を示して偉勳を樹て同年四月上海煙彈事件の危機に遭ひ左脚に重傷を負ふ家族は兄瞭吉(明五、一〇生、現戸主)同妻ヒサエ(同一二、一生、滋賀、士、門野安太郎長女)及其子女あり甥宗夫(同三五、五生、兄瞭吉長男)は外祖父安太郎の死跡を相續し弟三吉(同一一、一〇生)は昭和九年八月朝鮮軍司令官に任ぜらる同七年二月上海事變に金澤師團の將兵を率ゐて出征し皇軍の威力を示して偉勳を樹て同年四月上海煙彈事件の危機に遭ひ左脚に重傷を負ふ家族は兄瞭吉(明五、一〇生、現戸主)同妻ヒサエ(同一二、一生、滋賀、士、門野安太郎長女)及其子女あり甥宗夫(同三五、五生、兄瞭吉長男)は外祖父安太郎の死跡を相續し弟三吉(同一一、一〇生)は大阪府人南村政太郎に嗣直成(同四二、一二生、兄瞭吉三男)は滋賀縣人田部安憲に各養子となれりA一四五(東京市澁谷區千駄ヶ谷一ノ五六五電青山一〇二二)

植田貢三

河道屋、麵類商
京都府在籍

妻　たみ　明一四、六生、岐阜、山田桂治母
男　大五、一〇生、生母、京都、篠田サガ
女　幸子　大二、二生
女　治夫　大四、六生

君は兵庫縣人廣本傳平の妹にして明治十四年二月二十日を以て生れ昭和八年廢家植田氏を再興す船具商を營む人四三二(神戸市兵庫區磯之町一九電兵庫二二八五)

植田治三郎

保險代理業
兵庫縣在籍

妻　イク　明二〇、三生、滋賀、弘世助太郎妹
男　寛治夫　明四三、一〇生
男　治　大二、二生
女　幸子　大四、六生

君は兵庫縣人植田卯吉の二男同留吉の甥にして明治十六年十二月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す保險代理業を營む義に本植田保全會社長たり事あり家族は尙四男謙三(大一〇、七生)五男昭治(昭二、九生)二女典子(生年月同上)ありA六一〇(兵庫縣武庫郡住吉村垣添一〇一ノ一電御影三七六八)

參照‖植田留吉、弘世助太郎※植田喜太郎※膳末次郎※川添孝藏※弘世正二郎の項

植田さと

船具商
兵庫縣在籍

君は兵庫縣人廣本傳平の妹にして明治十四年二月二十日を以て生れ昭和八年廢家植田氏を再興す船具商を營む人四三二(神戸市兵庫區磯之町一九電兵庫二二八五)

植田治郎左衛門

醬油釀造業
兵庫縣在籍

妻　紀與乃　明三三、七生、兵庫、土肥勇次郎姉
男　吉彥　大一四、一生

君は兵庫縣人植田五郎吉の長男にして明治二十八年六月八日を以て生れ昭和五年家督を相續す大正十年大阪高等工業學校釀造科を卒業し醬油釀造業を營む家族は尙長女美智子(昭二、八生)二男猛(同四、八生)妹たつ(明三九、二生)弟芳雄(同四四、二生)あり姉さよ(同二六、一生)は兵庫縣人植田米次郎に妹やく(同三二、一〇生)は同縣人植田敬治に嫁せりA三八三(神戸市葺合區割塚通七ノ一電葺合一二五一)

參照‖植田米次郎の項

植田新之助

廣島縣多額納稅者、吳銀行㈱取締役、吳服商、廣島縣在籍

母　ソネ　嘉永六、四生、廣島、村瀨忠五郎長女
妻　チヨノ　明一二、一〇生、廣島、渡邊隆達長女
男　守之助　明三九、一生
婦　篤子　明四二、一生、長男守之助妻、岡山、廣井宇平三女
男　仁之助　明四三、八生
男　英之助　大三、三生

君は廣島縣人植田佐右衛門の長男にして明治六年七月を以て生れ同三十七年家督を相續す吳服商を營み傍ら吳銀行取締役にして同縣多額納稅者に列し直接國稅二千八百五十圓を納む弟鶴松(明一〇、八生)同妻りき(同一五、八生、廣島、木原佐一妹)は共に分家し同祖一(同一三、一一生)同唯一(同一九、一生)も亦各分家し妹チヨ(同二二、一二生)は廣島縣人谷耕喜に嫁せり(吳市城山町三三電一二)

參照‖淺多川一治の項

植田誠一

丸常、植田回漕店、回漕業
兵庫縣在籍

妻　フクエ　明三五、七生、兵庫、柴田熊吉四女
男　恭一　大一四、一生

君は兵庫縣人植田松太郎の長男にして明治三十二年二月を以て生れ昭和四年家督を相續す丸常植田回漕店と稱し回漕業を營む家族は尙長女和(昭三、一生)二女淑(同四、一〇生)弟博識(明三六、九生)妹光(同四一、七生)ありA七四九(大阪市北區菅原町九八電北五六三六「店舗」南區鰻谷仲之町六七電南一三八三)

植田爲造

昌榮堂印刷所㈱社長、日本印刷村料㈱取締役、日本出版㈱監査役
大阪府在籍

妻　マス　明八、六生、京都、藤井繁太郎妹
男　輝太郎　明四二、九生
男　爲次郎　明四四、一〇生
女　美子　大二、六生

君は大阪府人植田伊兵衛の長男にして明治八年十月を以て生れ同三十七年家督を相續す夙に商業學校を卒業し住友銀行員アルカリ會社員たりしが同四十五年獨立印刷業を營み後之を株式組織に改め昌榮堂印刷所と稱し現時其社長として傍ら前記各會社の重役たりA三三〇(大阪市住吉區阿倍野筋三ノ一三電天王寺二〇三八)

植田忠平

北陸赫業㈱代表取締役、倉庫精練㈱鑒査役、砂糖麥粉洋菓子商
石川縣在籍

妻　清榮　明一五、一〇生、石川、由雄元太郎妹
男　忠彌　明三六、三生
婦　ミサ　明三七、八生、長男忠彌妻、富山堀貴七孫
男　賢三　明四四、一〇生
女　佐多子　大元、一一生

君は石川縣士族矢能武清の婿父にして明治九年六月を以て生れ先代忠平の養子となり同四十四年家督を相續し前名彥太郎を改め襲名す砂糖麥粉洋菓子商を營み傍ら前記各會社の重役にして兼に森永製品北陸販賣會社專務取締役米谷銀行加納銀行森永相互保證小松電氣各會社取締役たり事あり家族は尙五男知彥(大七、五生)七男正治(同一一、六生)孫忠和(昭四、一〇生、長男忠彌長男)あり長女美代子(明四一、一二生)同夫耕造(同二四、一一生、石川、三宅伊右衛門弟)は共に分家し二男忠雄(同三八、六生)も亦分家し二女喜美子(同三三、一一生)は石川縣人平澤重太郎に三女譽枝子(同四〇、五生)は同縣人平澤喜六に四女壽美子(同四三、七生)は同縣人小倉周六に嫁せり(金澤市尾張町七八電二二〇)

植田留吉

植田同族㈱社長、植田寅代表社員
兵庫縣在籍

妻　たけ　明一二、二生、兵庫、岩田友松妹
男　庄吉　明三三、一生
婦　シツ　明三六、七生、長男庄吉妻、大阪米谷政治郎三女
婦　さき　明四五、五生

君は兵庫縣人植田卯吉の弟同治三郎の叔父にして明治七年七月を以て生れ同十一年分れて一家を創立す現時植田同族會社々長にして植田合資會社代表社員たり家族は尙孫庄次(大一一、一一生、長男庄吉長男)同久子(昭三、三生、同長女)あり二男三藏(明三四、九生)は同妻秀子(同三八、一一生、兵庫、村井宗一郎二女)と共に分家し長女きく(同三七、一生)は兵庫縣人植田武治に嫁せり二女花(同四〇、一〇生)は同縣人植田武治に嫁せりA三九六(兵庫縣武庫郡住吉村山田一三三電御影二八三八)

參照‖植田治三郎※植田喜太郎の項

植田豐橘

正四位勳三等、工學博士、元商工省陶磁器試驗所長、大阪府在籍

妻　とり　明六、一二生、千葉、君塚庄太郎妹
男　賢三　明三三、一一生、正六位、長崎醫科大學附屬藥學專門部教授、藥學士
婦　高三　明三九、三生、長男高三妻、京都西山敎充三女
婦　策　明三六、三生、日本板硝子會社技師、工學士
男　正雄

君は島根縣人植田元吉郎の長男にして明治三十二年六月を以て生れ昭和四年家督を相續す大正十三年早稻田大學法學部英法科を卒業し農業を營み縣下の多額納稅者に列し直接國稅千三十三圓を納む趣味として旅行讀書を好む家族は尙長女惠美子(昭二、八生)二女純子(同七、六生)妹米子(大三、九生)弟篤實(同六、二生)

婦　智惠子　明四四、九生、二男正雄妻、兵庫
男　茂　明四三、六生、日大工學部出身

君は大阪府人植田昌作の四男にして萬延元年五月を以て生れ明治八年家督を相續す同十五年東京大學理學部を卒業し農商務省一等屬同一等技手東京工藝學校教授に歷任し同二十七年官を罷め北海道セメント大阪アルカリ各會社に勤務し尋で三菱製紙所支配人に擧げらる後京都市陶磁器試驗場長に就任し大正八年農商務省陶磁器試驗所技師に任ぜられ同所長となり現時閑地に在り命に依り米國及歐洲各國に出張し同八年工學博士の學位を授けらる家族は尙孫登子(昭四、一〇生、長男高三二女)同佳子(同六、一〇生、同三女)同公雄(同八、八生、二男正雄長男)あり二女ふみ(明二八、三生)は長崎縣士族佐藤英夫に嫁せり(東京市牛込區喜久井町二一)

植田虎太郎

前坪田醬油㈱取締役
兵庫縣在籍

妻　まさ　明二五、三生、兵庫、木村喜兵衛妹
男　泰輔　大一四、六生
女　良子　大元、一一生
女　和佐子　大八、一一生

君は兵庫縣人植田房太郎の長男にして明治二十三年三月を以て生れ大正十一年家督を相續す壽に坪田醬油池田屋各會社取締役にして縣下の多額納稅者に列す家族は尙四女多津子(大一〇、六生)五女擴子(同一二、一〇生)あり(姫路市北條口電二五二)

植田元確

島根縣多額納稅者、農業
島根縣在籍

母　紀伊　明一一、一生、島根、星野後造妹
妻　クニ　明三八、七生、島根、三島祥造妹
男　吉彥　大一四、一生

君は島根縣人植田元吉郎の長男にして明治三十二年六月を以て生れ昭和四年家督を相續す大正十三年早稻田大學法學部英法科を卒業し農業を營み縣下の多額納稅者に列し直接國稅千三十三圓を納む趣味として旅行讀書を好む家族は尙長女惠美子(昭二、八生)二女純子(同七、六生)妹米子(大三、九生)弟篤實(同六、二生)

あり妹ヒサ子（明三六、一一生）は島根縣人熊谷三左衛門に同キク子（同三八、一一生）は同縣人品川吉計に同トヨ子（同四一、八生）は同縣人星野茂右衛門に嫁せり（島根縣簸川郡出東村雲平田二二四）

植田米次郎　地主　兵庫縣在籍

父　政太郎　安政六、二生、現戸主
母　かつ　慶應二、八生、兵庫、澤井嘉兵衛長女
妻　さよ　明二六、一生、兵庫、植田次郎左衛門姉
男　桑弘　大二、一二生
女　弘子　大五、八生

君は兵庫縣人植田政太郎の長男にして明治十九年七月を以て生る地主たり弟貞之輔（明二〇、一二生）は兵庫縣人石田ますゑに叔父分之介（同四、五生）は大阪府人高谷たまに各入夫となり弟敬治（同三一、一一生）は同妻やく（同三二、一〇生、兵庫、植田五郎吉二女）及其一子と共に分家し叔父縫治郎（同九、六生）は兵庫縣人高谷すゑの養子となりA七三五（神戸市葺合區宮本通六ノ五七七）

植竹熊次郎　東野鐵道、帝國造林各㊟社長、竹商業㊟代表取締役、栃木縣農工銀行、那須商業銀行各㊟取締役、木材商、栃木縣在籍

母　マツ　安政二、三生、栃木、君島五郎從姉
妻　テツ　明一三、八生、栃木、猪股槌之助養子
陽介　大四、一二生、弟喜四郎長男

君は栃木縣人植竹三右衛門の長男同龍三郎の兄にして明治十年三月を以て生れ家督を相續す木材商を營み傍ら現時前記各銀行會社の重役たり義に下野中央銀行下野木材會社等の重役を兼ぬ二女トク（明三四、一生）は東京府人伴野清に妹マサ（同一九、九生）は栃木縣人島田雄三郎長男男一郎に同カネ（同二三、九生）は同縣人村上秀四郎長男登喜に嫁し三女ミツ（同三八、七生）同夫春彦（同三一、二生、東京、藤井實弟）は其子女を伴ひ弟喜四郎（同一七、一生）同妻富美（同三二、一生）は其子女と共に同清六（同二二五生）は同縣人品川吉計に同トヨ子（同四一、八生）は同縣人星野茂右衛門に嫁せり（島根縣簸川郡出東村雲平田二二四）

植竹龍三郎　朝鮮瓦礫、帝國商業各㊟社長、光登山鐵道㊟代表取締役、植竹商業、海馬島漁業拓殖各㊟取締役、栃木縣在籍

妻　スエ　明二六、三生、福井、右近權左衛門妹
男　大八、一〇生
女　仁　大二、二生
勝　大三、一一生
泰

君は栃木縣人植竹熊次郎の弟にして明治十三年八月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す同年東京高等商業學校專攻部を卒業し實業界に入り現時前記各會社の重役として知られ養に栃木縣より推され衆議院議員に當選す家族は尚三男誠郎（大一一、七生）四男重郎（同一四、一一生）あり（宇都宮市塙田町三七七）

參照‖右近權左衛門、植竹熊次郎※伴野清の項

植月愛明　正五位勳四等、判事、大審院判事　奈良縣在籍

妻　秀　明二〇、一〇生、大阪、井上清介長女
女　花子　明四三、一生、市立大阪高女出身

君は奈良縣人醫師植月三折の二男にして明治十三年三月一日を以て生る同三十八年京都帝國大學獨法科を卒業し直に司法官試補となり同四十年判事に任じ爾來横濱地方東京區同地方名古屋地方同區大阪區各裁判所判事大阪控訴院判事等に歷補し昭和二年神戸地方裁判所部長より大阪控訴院部長に轉じ現時大審院判事たり圍碁に趣味を有す家族は尚甥重雄（明四二、四生、亡兄直太郎長男現戸主）あり長女美智子（同四一、九生、市立大阪高女出身）は山口縣人三井益太郎二男農學士綱雄に嫁靜子（同三八、一一生、同縣人山川泰助に嫁せり（東京市赤坂區青山南町五ノ五）

植竹龍三郎　朝鮮瓦礫、帝國商業各㊟社長、光登山鐵道㊟代表取締役、植竹商業、海馬島漁業拓殖各㊟取締役、栃木縣在籍

妻　スエ　明二六、三生、福井、右近權左衛門妹
男　大八、一〇生
女　仁　大二、二生
泰　大三、一一生

君は栃木縣人植竹熊次郎の弟にして明治十三年八月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す同年東京高等商業學校專攻部を卒業し實業界に入り現時前記各會社の重役として知られ養に栃木縣より推され衆議院議員に當選す家族は尚三男誠郎（大一一、七生）四男重郎（同一四、一一生）あり（宇都宮市塙田町三七七）

參照‖右近權左衛門、植竹熊次郎※伴野清の項

妻　サノ　明三一、一〇生、福島、佐渡幸左衛門長女
男　健一　大九、九生

君は福島縣人植松傳の長男にして明治二十七年四月を以て生る地主にして福島縣多額納稅者に列し直接國稅八百九十一圓を納め傍ら中ノ澤温泉會社取締役たり家族は尙二男健二（大一二、八生）長女幸子（同一四、九生）二女千枝子（昭四、九生）弟健（明三六、六生）同淳（同三九、一一生）妹チヨ（同四三、八生）弟靖（大四、一〇生）あり妹マサ（明三三、八生）は福島縣人淺羽茂通四男茂興に嫁妹貞子（同三六、一生、福島、鈴木秀吾長女）は同縣人森川悌喬に叔母ツネ（同二七、四生）は同縣人五十嵐清に嫁せり（福島縣大沼郡本郷町）

植松雅道

從三位勳五等、子爵
舊公卿家

妻　こてる　明二〇、六生、兵庫、印部所一長女
男　雅俊　明四三、六生、從五位
女　信子　明四一、五生
女　正子　大元、八生

當家は權大納言千種有能の末子參議雅永の後なり雅永別に一家を成し植松と稱す夫より九代を經て雅平に至り明治十七年子爵を授けらる君は雅平の二男にして明治十年十月二十三日を以て生れ大正四年襲爵す曩に殿掌に任じ宮內省主殿寮出張所長心得式部官等を歷任せり家族は二男雅英（大七、四生）あり姉多賀子（明七、六生）は宮崎縣士族伊東駒千代に妹禮子（同一七、四生）は大阪府人司城通敏に叔母ヒサ（慶應二、一二生）は同府人毛利正道に同朝子（明八、八生）は滋賀縣人近松脫丸に同芳子（同一三、一〇生）は京都府人蘇野卓雪叔父友彥に嫁し弟雅尙（同一五、五生）同雅尹（同二二、三生）は各分家し叔父雅行（同一〇、八生）は東京府人田中平藏の養子となれり（京都市上京區出雲路內河原町四一ノ三電西七二六）

參照＝※賀集寬二の項

植松巳之助

帝國製絲㈱取締役兼八尾工場長、日本カタン絲㈱監査役
東京府在籍

妻　英　明二五、一〇生、東京、大塚藤作妹
男　鐵吉　明四二、五生、帝國製絲會社員、慶大出身
男　永吉　明四五、二生、慶大在學

君は京都府人植松常助の長男にして明治十四年十月を以て生れ同十九年家督を相續す現時前記各會社の重役たり（大阪府中河內郡鴨華町安中四〇〇電八尾三二一）

參照＝※澁谷啓助の項

植松安

從四位勳四等、豪北帝國大學教授
交政學部勤務、東京府在籍

妻　淑子　明二四、八生、埼玉、士、志方銀二女
男　一郎　明四四、九生
男　茂　大三、一生
女　八重子　大五、六生

君は愛知縣人植松有經の五男にして同健の弟なり明治十八年八月を以て生る同四十一年東京帝國大學文科大學文科を卒業し爾來明倫中學校教諭東京帝國大學附屬圖書館事務取扱を經て大正三年同大學助教授兼司書官に任ぜられ後豪北帝國大學講師に轉じ現時同大學教授にして文政學部勤務たり曩に大正十年英佛獨伊米各國に視察の爲留學を命ぜらる家族は尙三男經彥（大七、七生）姪道子（明三〇、一〇生、兄植松京一長女）及其長男元彥（大九、一〇生、現戶主）あり（豪北市錦町一二六電四〇三〇）

參照＝植松健の項

植村家治

正四位、子爵、貴族院議員、滿洲バルプ興業㈱監査役
舊和州高取藩

妻　幸　大三、一生

當家は源頼光の末裔土岐伊勢守光衆の男源三郎持益の後なり持益初めて植村と稱す後二代氏明に仕へ三河安祥七譜代の一なり數世を經て出羽守家政に至り大和國高取二萬五千石に封ぜらる十餘世を經て先代從二位家壽に至り明治十七年子爵を授けられ久しく陵墓監として神武天皇御陵に奉祭す君は家壽の三男にして子爵本多涉の從叔父に當る明治二十年三月十四日を以て生れ大正九年襲爵す同二年東京外國語學校佛語專修科を卒業し曩に鐵道省に勤務せしが昭和六年滿洲バルプ興業會社監査役に就任す同五年貴族院議員に互選せられ同七年再選し同八年繼馬に於ける萬國議院商事會議及びマドリッドに於ける列國議會同盟會議に參列す家族は尙二男家隆（大九、六生）あり長女治子（明四四、四生、女子學習院出身）は福井縣人白崎一男長男正男に從叔母幸子（明八、八生）は子爵本多猶一郎先代康虎に嫁せり（東京市世田谷區池尻二一三電青山六九二〇）

參照＝子爵本多猶一郎、子爵本多涉※子爵本多忠昭※本多敏樹の項

植村一四

岩井商店㈱取締役
東京府士族

妻　つね　明一七、七生、兵庫、增田虎造妹
男　四郎　明三七、七生
男　祿郎　明四一、九生
女　京子　明四四、七生
男　英介　大三、九生

君は兵庫縣人永井米郎の二男にして明治十年十月を以て生れ先代虎熊馬の養子となり同四十一年家督を相續す現時前記會社の重役にして曩に日本興業無盡會社の重役を兼ぬ家族は尙三女まり子（大一一、四生）あり四男敏三（同七、一一生）は神奈川縣人細井ハマの養子となれり（東京市澁谷區神泉町九）

植村卯三郎

正四位勳三等、醫學博士、日本製鐵㈱八幡製鐵所病院長、醫師
三重縣在籍

妻　田鶴　明二三、一二生、福岡、植田與六三女
男　剛　大四、一生、九州帝大醫學部在學

君は三重縣人稻口彥識の三男にして明治十二年二月を以て生れ叔父傳治郎の養子となり大正九年家督を相續す明治三十八年東京帝國大學醫科大學を卒業し更に大學院に學び同四十年製鐵所附屬病院訓院長となり同院長を經て大正七年歐米に出張す其間製鐵所醫官病院長に任じ同八年歸朝す同九年醫學博士の學位を受け昭和二年同所醫務部長に任ぜられ同四年再度歐洲各國に出張す昭和九年一月製鐵所合同に依り日本製鐵株式會社

の成立するに及び引續き八幡製鐵所病院長の職に在り家族は尙二男睦男（大六、一生、七高在學）ありA六五〇（八幡市高見町一丁目日本製鐵會社社宅）

植村克巳

大林組㈱常務取締役、日本ビチュマルス㈱監査役、內外木材工業㈱相談役、奈良縣在籍

妻　さゑ　明二八、八生、青森、士、淺川道長女、青山女學院出身
養子　武治　明二四、五生、父傳重郎五男、日本石油會社員、工學士
婿　トマ　明三一、六生、養子武治妻、福島渡邊彌七妹、縣立福島高女出身
女　貞子　大八、二生

植村家は舊大和國官幣大社廣瀨神社鎭座地川合村の舊家にして遠く豐太閤以前よりの家系を有す先代傳重郎は土地の各種名譽職を以て終始せり君は其の長男にして明治九年九月を以て生れ大正七年家督を相續す夙に上京して建築學を修め日露戰爭當時大林組の創立者大林芳五郎に知られ入りて同家の事業に參畫す明治四十二年自ら提唱して東京支店開發を畫策し其の支店長となり拮据經營よく今日の隆盛を致す東京驛歌舞伎座日本興業銀行等は同支店に於て完成せる代表建築物なり大正七年同社の株式組織となるや擧げられて取締役兼支店長となり現時同社常務取締役たり趣味として盆栽園藝及謠曲を嗜む家族は尙孫大允（大一〇、九生、養子武治長男）同萬里子（同一二、七生、同長女）あり弟亀藏（明一四、二生）は分家せりA一三八七（東京市本郷區駒込上富士前町一一九電大塚四七〇五）

參照＝渡邊彌七の項

植村儀右衛門

運送業
京都府在籍

養子　春吉　明二六、三生、二女ふじ夫、京都奥村忠次郎二男
女　ふじ　明三〇、一〇生、養子春吉妻

君は京都府人奥村寫六の二男にして慶應元年十二月十五日を以て生れ明治二十一年先代儀右衛門の養子となり同三十六年家督を相續し前名字太郎を改め襲名す運送業を營む家族は尙孫貞子代（大八、九生、養子春吉長男）あり（A五三四B一五四（京都市下京區黑門通木津屋橋下電下九四〇）

植村久五郎

植久、洋服商
東京府在籍

母　なを　嘉永五、一二生、東京、鈴木初五郎長女
妻　ふぢ　明二六、二生、長野、横田孝之助妹
男　松太郎　大一五、九生
女　靜江　明三六、二生、東京高女出身

君は東京府人先代久五郎の長男にして明治七年十月を以て生れ同十九年家督を相續し後襲名して前名松太郎を改む幼少より父を扶けて家業に從事し植久と號し洋服商を營み同業者間に知らる曩に東京洋服商工組合副組長芝區會議員等に擧げらる家族は尙四女登美枝（大一〇、六生）五女琴子（同一二、七生）二男光次（昭五、一〇生）あり二女喜久（明三二、一生、東京高女出身）は埼玉縣人蓮沼一雄に嫁し姉さた（同四、六生）は同夫十郎（同三、三生、愛知、鈴木太郎兵衛長男）及其四女と共に弟益次郎（同一三、一生）は同妻みね（同一六、九生、東京、清田男爵妹）及其一男を伴ひ各分家し同久三郎（同一七、一生）も亦分家せりA四四七（東京市芝區新橋六ノ八電芝一三八九）

植村金吾

ホリエンタル寫眞工業、寫眞化學研究所各㈱監査役
東京府在籍

妻　こう　大一五、五生、離緣養子克三長男
孫　哲夫　長女
女　つる　明三三、一〇生

君は東京府士族植村澄三郎の弟にして同甲午郎同泰二の叔父なり慶應三年九月を以て生れ明治三十三年分れて一家を創立す現時前記各會社監査役たり家族は孫哲夫（昭四、二生、離緣養子克三二男）ありA四五九（東京市目黑區月光町一三五電高輪四五四）

參照＝植村甲午郎、植村泰二、植村澄三郎、植村四郎※荒井誠一郎の項

植村倉吉

地主
神奈川縣在籍

妻　シツ　明一三、一〇生、神奈川、田村德太郎妹
男　伊知郎　明三四、一生、神奈川縣多額納稅者
嫁　ミハ子　明四一、三生、長男伊知郎妻、神奈川、吉川佳五郎四女、平塚高女出身
女　喜美子　明四四、一生
女　千惠子　明四四、一一生、横濱高女出身

君は神奈川縣人植村伊三郎の二男にして明治六年九月を以て生れ同三十二年分れて一家を創立す地主たり養に煙草元賣捌業を營み横濱商工會議所議員に推され神奈川縣多額納稅者に列す謠曲に趣味を有す家族は尙二男茂保（大一〇、三生）孫俊保（昭二、八生、長男伊知郎長男）同英子（同五、二生、同長女）ありA四〇六（神奈川縣高座郡藤澤町藤澤一二三電二五六）

參照＝※猪熊元之助の項

植村小七

琴三絃商
東京府在籍

男　幸吉　明二五、七生
嫁　繁　明三一、一〇生、長男幸吉妻、大阪、金田松藏長女
女　キクエ　明二九、二生

君は大阪府人植村小兵衛の長男にして文久二年八月二十日を以て生れ明治十五年家督を相續し後前名市松を改む琴三絃商を營む家族は尙孫讃子（大一〇、九生、長男幸吉長女）同益次（同一二、七生、同長男）同美之祐（同一四、一生、同二男）同順一（昭二、七生、同三男）同安佐子（同七、一二生、同二女）あり妹シケ（明三、一〇生）は大阪府人安田彌七長男耕次郎に同イト（同一一、一生）は同府人殿中廉藏に嫁し弟壽夫（同一三、三生）は分家せりA五八五B一〇八（大阪市東區安土町一ノ二〇ノ二電本町八二一）

植村甲午郎

正五位勳四等、貴族院議員、貴族院局事務官兼特許局事務官、貴族院局總務部庶務課長
東京府士族

父　澄三郎　文久二、一〇生、現戶主
妻　淑　明三二、一一生、男爵富井政章三女、御茶の水高女出身
男　泰忠　大一〇、四生

君は東京府士族植村澄三郎の長男同泰二の兄同金吾の甥にして明治二十七年三月を以て生る大正七年東京帝國大學法科大學を卒業し商工事務官兼書記官に任ぜられ後貴族院事務官に轉じ總務部調査課長を經て現時庶務課長に就任し特許局事務官を兼ぬ家族は尚長女弘(大一二、七生)二女敏子(同一四、四生)三女和子(昭三、一生)二男泰久(同五、一〇生)ありA八二四(東京市澁谷區千駄谷三ノ四九六六**電青山六一三七**)

參照＝男爵富井政章、植村金吾、植村泰二、植村澄三郎※荒井誠一郎、※富井周、※太刀川平治の項

植村治三郎

深江屋、木綿晒袋商並金融業
大阪府在籍

養母　ゑい　安政五、一生、大阪、中川定七二女
妻　八重　明二四、四生、大阪、竹村松之助長女
男　治　明四〇、七生
男　次郎　明四二、一生
女　愛　大二、八生
女　薫　大七、三生

君は大阪府人肇田勝助の二男にして明治十八年二月を以て生れ同三十九年先代治良兵衛の養子となり大正九年家督を相續す深江屋と稱し手廣く木綿晒袋商並金融業を營む家族は尚三男盛一(大五、九生)ありA二〇二五B九五(**大阪市南區鍛冶屋町五八ノ乙電南二六九**「店舗」同市南區長堀橋筋一ノ三八電**南五八五〇**)

植村靜

從五位勳三等、陸軍三等獸醫正、地方技師、大阪府警察部勤務
大阪府在籍

安政三、一〇生、大阪、野口五郎二女
母　ひさ　明四四、一生
男　利治　明四〇、一生
女　美代　大三、三生
男　弘

君は大阪府人植村十郎の長男にして明治十四年九月十五日を以て生れ大正九年家督を相續す明治三十四年長崎醫學專門學校藥學科を卒業し陸軍に入り陸軍三等藥劑官に任じ日露の役に從軍す同三十九年大阪府立高等醫學校助手兼病院藥劑員となり奈良縣技手同技師大阪府技師同地方技師に歷任し現時大阪府警察部に勤務す家族は尚二女和子(大一〇、一生)あり弟譽吉(明一七、一二生)は分家せり(大阪府警察部內)

植村俊平

正五位勳四等、大和護謨栽培㈱社長、百十銀行、大正生命保險、大日本人造羊毛各㈱取締役、ジョホール護謨栽培㈱監査役、京王電氣軌道各㈱相談役

山口縣士族
軌道、王子電氣軌道各㈱相談役

君は山口縣士族植村烏之丞の二男にして文久三年十月を以て生れ大正九年明精吾の死跡を相續す明治十九年東京帝國大學法學部を卒業し直に同大學助教授に任じ同二十一年之を辭し同二十四年英國に留學し法律學を研究しパリストル・アット・ローの稱號を得歸朝す肆護士開業後同二十九年日本銀行支配役に就任し又大阪住友本社に入り同三十五年九州鐵道會社支配人となり鐵道國有後鐵道院理事に任じ九州鐵道管理局長に補せらる同四十三年選ばれて大阪市長となり幾許もなく之を辭す現時大和護謨栽培會社長の外前記銀行會社の重役たり家族は尚孫照子(大一五、三生、長男琢長女)同攻(昭三、三生、同長男)同マリ子(同六、二生、同二女)同多喜子(同五、四生、二男成長女)同和歌子(二男成二女)あり長女綾(明二七、一二生、學習院女學部出身)は法學士安井英二に嫁せりA一二七(東京市麴町校同上)は法學士東榮二に嫁せりA一二七(東京市麴町區上二番町四一電**九段一四六七**)

參照＝赤星陸治、岡村於苑彥、安井英二※緒方知三郎※岡村龍彥の項

妻　多榮
男　琢
婿　加壽子
男　成
婿　利子

植村泰二

妻　マサ　明三一、八生、東京、太田長佑二女
男　泰一　昭九、三生

君は東京府人植村澄三郎の二男同甲午郎の弟にして同金吾の甥なり明治二十九年八月を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す同年北海道帝國大學農學部農藝化學科を卒業し現時前記會社の重役にして義に理化學研究所研究員たりし事あり家族は尚長女泰子(大一二、一二生)二女文(同一五、三生)三女百合(昭二、六生)四女公(同三、七生)五女富(同六、一二生)ありA三四一〇(東京府北多摩郡砧村喜多見成城三〇電**砧三四四**)

參照＝植村甲午郎、植村金吾、植村澄三郎※荒井誠一郎の項

植村種三

家主
兵庫縣在籍

母　せい　元治元、九生、兵庫、藤原三之助長女
妻　こを　明二八、三生、兵庫、龍野喜右衛門二女

君は兵庫縣人植村晉吉の長男にして明治二十六年九月二十九日を以て生れ昭和七年家督を相續す家主たりA一七九九(神戸市澁區新在家宮西二八四電**葺合二六一七**)

植村澄三郎

寫眞化學研究所、PCL映畫製作所各㈱所長、オリエンタル寫眞工業、オリエンタル酵母工業各㈱取締役、大日本麦酒㈱監査役、日獨酵母㈱顧問兼代表社員
東京府在籍

妻　マキ　明三一、八生、東京、太田長佑二女
男　琢　昭九、三生

君は舊幕臣植村厚十郎の長男にして文久二年十月を以て生れ明治十六年家督を相續す夙に職を官に奉じ開拓使吏員大藏農商務出仕遞信管理局次長等に歷任し後實業界に入り現時前揭諸會社の重役たり二男泰二(明二九、八生、北海道、太田長祐二女)を伴ひ分家し長女梅(同三一、一二生)は大藏省預金部長荒井誠一郎に嫁せりA七四七四(東京市赤坂區表町四ノ四**電青山一四一〇**)

參照＝荒井誠一郎、植村甲午郎、植村金吾、植村泰二の項

植村恒三郎

正四位勳三等、林學博士、九州帝國大學教授、農學部勤務
福島縣在籍

妻　てる　明二三、一生、林學博士本多靜六長女
男　敏彥　明四三、四生

君は舊會津藩士植村平太郎の弟にして明治十五年二月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治三十九年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し大學院に學び盛岡高等農林學校教授同生徒監を經て同四十四年九月林政學及森林經理學研究の爲獨國に留學し歐米を遊歷大正三年歸朝す大正九年論文を提出して林學博士の學位を受け同十一年九州帝國大學教授に任じ農學部勤務たり嘗に農學部附屬演習林長農學部長たりし事あり家族は尚二男誠次(大四、四生)三男秀三(同七、八生)四男恒義(同一〇、四生)あり長女幸子(明四四、九生)は岡山縣人河內二郎に嫁せりA一九八(**福岡市春吉花園一五八**)

參照＝本多靜六※三浦伊八郎の項

植村傳助

植村商店、羅紗輸入卸商
東京府在籍

繼母　ゑん　慶應三、八生、東京、中澤喜三郎姉
妻　廣子　明三〇、六生、子爵諏訪忠元二女
男　傳　大一〇、六生

君は東京府人先代傳助の長男にして明治二十年三月を以て生れ同四十二年家督を相續し前名傳を改め襲名す先代傳助夙に毛織商の有望なる名を先見し英國に渡航し將來の取引を約して歸朝し爾來事業大に發展し今日の基礎を作る君は明治四十二年慶應義塾理財學科を卒業し家業を繼ぎ羅紗輸入卸商として今日に至り同業者間に有數の地位を占む曩に東京府多額納稅者たり家族は尚二男實(大一二、七生)三男佐(同一四、六生)四男秀(昭三、六生)姉ヤエ(明一四、一生)あり弟龜次郎(同二九、四生、慶應義塾出身)は分家し妹テル(同二〇、三生)は東京府人關幸重に嫁せりA六五三二B一二九六(東京市日本橋區本石町三ノ六**電日本橋九〇二**)

參照＝子爵諏訪忠元、關幸重※子爵堀山正興の項

植村東彥

從四位勳二等、陸軍中將、陸軍造兵廠長官、東京府士族
明二四、六生、長崎、士、臼井晉夫二女

妻　キヨシ
男　泰彥　大六、一生、學習院在學
女　菊枝　大四、一生、女子學習院出身
女　若榮　大八、三生、女子學習院在學

君は芝城縣士族植村茂の長男にして明治十四年四月十五日を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十五年陸軍砲兵少尉に任じ昭和八年陸軍中將に累進す其間明治四十四年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し爾來陸軍造兵廠東京工廠砲具製造所長航空本部御用掛嗅軍技術本部御用掛商工事務官陸軍技術本部附等に歷補し昭和五年陸軍省兵器局長に補せられ同九年前記現職に轉ず同二年歐洲に出張を命ぜらる家族は尚二男武彥(大一〇、一生)あり長女小芳(大二、一生、雙葉高女出身)は子爵花房孝太郎に嫁せりA一三五(東京市淀橋區西大久保二ノ一八三**電四谷三四一五**)

參照＝子爵花房太郎、臼井晉夫※清水本之助の項

植村徹

藥種商、藥劑師
京都府在籍

妻　萬龜　明四四、一〇生、京都、一井素藏妹
男　治　昭九、四生

君は京都府人植村德治郎の長男にして明治四十二年三月二十六日を以て生れ昭和六年家督を相續す藥劑師にして藥種商を營む姉須賀尾(明三五、一一生)は京都府人西田保治郎に同文尾(同三八、一一生)は高知縣人中野元實長男元俊に嫁せりA四四六(京都市中京區東洞院夷川下**電上二〇〇一**)

植村廣太郎

植村文明堂、文房具商
京都府在籍

妻　ます　明九、一生、京都、植村藤吉姉
養母　キヌ　明四〇、一生、京都、山田松之助三女
男　淳二　昭五、二生

君は京都府人北村又治郎の庶子にして明治三十四年八

植村泰二

妻　マサ　明三一、八生、東京、太田長佑二女
男　泰一　昭九、三生

君は東京府人植村澄三郎の二男同甲午郎の弟にして同金吾の甥なり明治二十九年八月を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す同年北海道帝國大學農學部農藝化學科を卒業し現時前記會社の重役にして義に理化學研究所研究員たりし事あり家族は尚長女泰子(大一二、一二生)二女文(同一五、三生)三女百合(昭二、六生)四女公(同三、七生)五女富(同六、一二生)ありA三四一〇(東京府北多摩郡砧村喜多見成城三〇電**砧三四四**)

參照＝植村甲午郎、植村金吾、植村澄三郎※荒井誠一郎の項

植村寅

永田同族土地株式會社常務取締役、藤永田造船所㈱監査役、十五銀行㈱大阪支店長、福島縣在籍

母　ナヲ　萬延元、七生
妻　貞子　明三一、四生、秋田、法學士小西傳助妹、東京實踐女學校專門部出身

君は舊會津藩士松川健次郎の二男にして明治二十二年十月十五日を以て生れ後先代植村千代吉の養子となり家督を相續す夙に岩手縣に奉職せるも後北米に遊學三年にして歸國し第二高等學校を經て大正八年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し直に十五銀行に入る大正十一年本店督業部長代理に進み同十二年九月獨英米に留學を命ぜられ同十四年十一月歸朝本店督業部副部長大阪支店次長を經て現時大阪支店長たり夙ら昭和六年以來約二ケ年間に亘り藤永田造船所常務取締役たりし事あり現に同社監査役及永田同族土地會社常務取締役たり趣味として登山を好む(西宮市若松町六**電西宮二〇七四**)

植村直藏

柴本商店員
滋賀縣在籍

母　とめ　明三、九生、滋賀、澤田彌三郎二女
妻　よね　明三〇、四生、滋賀、竹內政次郎義妹

君は滋賀縣人植村藤吉の長男にして明治二十六年十一月を以て生れ昭和四年家督を相續す現に柴本商店員たり家族は尚弟馬三(明三九、七生)妹八重(大三、四生)あり姉ゑい(明二五、五生)は滋賀縣人千代治次郎二男勝次に嫁し弟猪作(同三二、二生)は同妻りゆ(同三四、一〇生、滋賀、青木駒吉長女)と共に分家せりA五二〇(大阪市天王寺區烏ヶ辻町六)

植村廣太郎

植村文明堂、文房具商
京都府在籍

妻　ます　明九、一生、京都、植村藤吉姉
養母　キヌ　明四〇、一生、京都、山田松之助三女
男　淳二　昭五、二生

君は京都府人北村又治郎の庶子にして明治三十四年八

月二十六日を以て生れ同年先代ますの養子となり大正十四年家督を相續す同十五年慶應義塾大學法學部を卒業し植村文明堂と稱し文房具商を營む家族は尙長女悲子（大一五、四生）三男省三（昭六、一一生）二女惠美子（同九、一生）ありA四二一B一五五（京都市下京區四條通高倉西電本局二五六二）

植村平兵衛

妻　つち　明一〇、一〇生、大阪、山田治兵衛妹
養子　治　明二三、一二生、大阪、山田治兵衛弟
婦　しか　明三〇、七生、養子治妻、兵庫、鷺尾友之助妹

古物商　大阪府在籍

君は大阪府人川井九郎兵衛の二男にして明治三年四月を以て生れ先代了清の養子となり同二十年家督を相續す古物商を營む家族は尙孫勸一（大一一、一二生、養子治長男）同晳也（同一四、三生、同二男）同和紀子（昭二、二生同、長女）同恭三（昭五、六生、同三男）ありA三五六B一九三（大阪市東區道修町五ノ一八電本局六八一）

植村正純

妻　房江　明三九、七生

安田銀行㈱安治川支店長　大阪府在籍

君は大阪府人植村勸治郎の長男にして明治二十四年七月二十九日を以て生れ昭和八年家督を相續す大正三年明治大學法學部を卒業し同五年第三銀行に入り同十二年同行の安田銀行と合併後も引續き勤務し出町支店長を經て昭和七年安治川支店長となり今日に至る家族は尙男喬（大七、二生）女正子（昭九、三生）ありA一二四（大阪府北河内郡四宮村下馬伏三八四ノ一）

殖栗文造

妻　文夫　明三四、六生、新潟、水澤鳶吉四男
養子
婦　しゞ　明四四、一生、養子文夫妻、東京井口吉藏四女

從七位勳八等、京橋銀座郵便局長　東京府在籍

君は東京府人上野松五郎の長男にして明治七年十二月を以て生れ先代父造の養子となり同三十四年家督を相續し前名留吉を改め襲名す貴產家にして現時銀座郵便局長たり家族は尙孫初子（昭五、九生、養子文夫長女）同文子（同八、七生、同二女）あり養子ムメ（明二九、三生、東京、加藤光三郎長女）は絕家上野氏を再興せりA二六三（東京市牛込區南榎町七八電牛込一二六一）

參照‖井口吉藏※小野塚喜三次※田中良三の項

殖田俊吉

妻　菊江　明三三、六生、東京、大築志夫姉
男　俊一　大一三、一〇生　京都府立第一高女出身

正四位勳三等、前陸軍經理局長　東京府在籍

君は大分縣人殖田直太郎の長男にして明治二十三年八月を以て生れ同三十一年家督を相續す大正三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直に大藏省に入り文官高等試驗に合格す大正五年以來廣島稅務署長門司大阪各稅關監視部長歷任同十一年佛蘭西國際稅關會議準備委員會に列席す歸朝後大藏事務官に任じ大藏省銀行局に勤務し產業組合中央金庫監理官日本勸業銀行監理官等の職務に從事す昭和二年大藏書記官に任ぜられ內閣總理大臣祕書官を兼任す同年大藏省事務官仰付られ御大典に奉仕す同四年拓務省開設と同時に同省殖產局長に任ぜられ後昭和六年五月臺灣總督府殖產局長に轉じ更に昭和八年八月陸軍經理局長に轉任したるも翌九月官を辭し現時閑地に在り家族は尙長女園子（昭五、七生）あり妹榮子は山口縣人海軍大佐武久完に嫁し弟の養子となり同三郎（水產講習所教授、農學士）は叔父殖田錄吉の死跡を相續せり（東京市牛込區戸山町三七電牛込六三一二）

魚里彌太郎

妻　スエ　明一〇、一二生、大阪、長井末三郎長女
男　博　明三六、七生
女　芳子　明四四、一一生

質商　大阪府在籍

君は大阪府人砂原彌一郎の長男にして明治十三年十一月を以て生れ同十四年家督を相續す貿商を營む長女ヤス子（明三四、四生）同夫平次郎（同二七、六生、奈良、市田太吉三男）は其子女を伴ひ分家し二女美那子（同三七、一一生）は大阪府人中畑ミツの死跡を相續し三男三郎（同四〇、一生）も亦同府人市川キヌの死跡を相續せりA八五五（大阪市北區太融寺町一電北三三五四）

魚住友八

妻　玉　明三、四生、養父伊吉長女
男　榮吉　明三二、一生
婦　悌子　明三八、一二生、長男榮吉妻、熊本、士、神鷹正妹

熊本縣多額納稅者、貿商　熊本縣在籍

君は熊本縣人志柿吉平の三男にして明治五年二月を以て生れ先代伊吉の養子となり大正四年家督を相續す貿商を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅二千五百四十八圓を納む蠶に都酒造會社代表取締役熊本米穀取引所理事たりしこゝあり家族は尙孫英夫（大一五、一一生、長男榮吉長男）同智惠子（昭四、五生、同長女）あり（熊本市練兵町電七一二）

浮田和民

妻　五女　明四、七生、工學博士、下村孝太郎妹
男　友樹　明二一、一生、醫學博士
婦　はま　明二八、六生、二男友樹妻、東京西澤喜太郎長女、日本女大出身
男　秀樹　明二五、三生

法學博士、早稻田大學教授、著述家、東京府在籍

君は舊熊本藩士浮田十太の三男同郷矢の叔父にして安政六年十二月を以て生れ明治三十九年分れて一家を創立す始め熊本洋學校京都同志社等に學び同二十五年米國に遊學しエール大學に入り史學及政治學を修む歸朝後同志社政治學部教授に任じ後早稻田大學に轉じ史學政治學社會學等を擔任し同四十年法學博士の學位を受く現に同大學の教授にして著述尠からず長女操（明二八、五生）は德島縣人原安三郎に二女惠美（同三五、八生、日本女大附屬高女出身）は東京府人若林卯三郎に三女東（同三六、八生、出身校同上）は茨城縣人江幡辰三郎長男實夫に嫁せり（神奈川縣高座郡茅ヶ崎町下高砂下

一ノ一四七二）

參照‖浮田鄕次、浮田秀樹、下村孝太郎、原安三郎の項

浮田熊太

養子　豊一郎　明二八、三生、三女ツルエ夫、廣島、中島治郎平三男
女　ツルエ　明三六、三生、養子豊一郎妻
女　花子　明四三、一一生

浮田別館、旅館業　大阪府在籍

君は大阪府人浮田磯七の二男にして明治八年七月を以て生れ大正元年家督を相續す浮田別館と稱し旅館業を營む家族は尙孫稔（大一〇、四生、養子豊一郎長男）同昭（昭二、三生、同二男）あり四女キミ子（明四一、一生）は愛知縣人桑原新吉養子初彥に嫁せりA三九〇B一〇八（大阪市北區東梅田町七電話北二四四八）

浮田桂造

祖母　壽子　明七、九生
母　鶴子　明二三、八生

喜福㈱吐員、浮田五龍圓藥房、藥種商、大阪府在籍

君は大阪府人先代忠治郎の長男にして大正三年一月を以て生れ同十四年家督を相續し後前名永之助を改め桂造を襲名す浮田五龍圓藥房と稱し廣く知られ藥種商を營む家族は尙弟忠之進（大四、三生）同二男（同七、一生）あり叔母孤（明二七、一〇生）は分家し叔母鳳子は大叔母田鶴の養子となりA一〇九九三（大阪市南區安堂寺橋通四ノ二電船場二六〇）

參照‖浮田壽子、浮田貫、早瀨太郎三郎の項

浮田鄕次

妻　フジエ　明一九、三生、愛媛、篠原五平治妹、日本女大出身
男　義彥　明四二、八生、不動貯金銀行員、早大商科出身
男　禮彥　明四四、三生、東京帝大經濟學部在學
男　智彥　明四五、三生、大阪帝大醫學部在學

正四位勳三等、日本學術振興會囑託、東京府在籍

君は熊本縣士族浮田眞鄕の二男にして法學博士浮田和民陸軍中將石光眞臣の甥に當り明治七年三月を以て生れ同四十一年兄家雄方より分れて一家を創立す夙に東京高等商業學校に學び外務省に入り釜山總領事館在勤を振出に爾來三十年間在外公館に勤務し大正十四年大使館參事官に任じ昭和二年宮內事務官に轉じ閑院宮附となり同九年三月退官現に日本學術振興會囑託たりA二七二（東京市世田谷區三軒茶屋町八八電世田谷二四一六）

參照‖石光眞臣、浮田和民の項

浮田茂太郎

妻　カネ　明三九、一二生、香川、香西爲吉妹
男　茂　大三、一一生、東大法學部在學

京都市理事、監理部長　香川縣在籍

君は香川縣人浮田芳平の長男にして明治十六年一月を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し東京鐵道會社に入り引續き東京市吏員となり大正八年同市主事となる同十二年下關市助役に轉じ次で昭和二年下關市長に推され同六年任期滿了退職す現時京都市理事監理部長の職に在り家族は尙長女茂子（昭三、二生）二女美子（同四、一生）あり弟清は淺野家を繼ぎ鄕里にあり妹ツルエ（明三四、一生）は長野縣人鳥田龜之助五男芳松に嫁せり（京都市上京區紫野柳町七三電西陣三九〇〇）

浮田善三郎

男　仙治郎　明二二、四生
婦　たね　明二二、一生、長男仙治郎妻、大阪、辻中岩吉妹、堺高女出身
男　善造　明三一、九生、京都遞專出身
孫　多美子　大四、一生、長男仙治郎長女、樟蔭高女專門部出身
孫　富美子　大六、三生、長男仙治郎二女
孫　喜美子　大八、一一生、長男仙治郎三女

家主　大阪府在籍

君は大阪府人浮田仙藏の長男にして明治二年四月を以て生れ同四年家督を相續す家主たり家族は尙孫靜子（大一一、二生、長男仙治郎四女）同華子（同一三、一生、同五女）同美子（昭二、二生、同六女）あり二男善治郎（明二五、二生）長女リン（同二八、八生、清水谷高女出身）は各分家し二女かね（同三二、一生）は大阪府人伊尾善松二男清に三女律子（同三五、六生）は同府人安達與一郎に嫁せりA一一七三（大阪市天王寺區上汐町四ノ一一電天王寺四八五六）

浮田高太

妻　サチ　明二一、一〇生、宮崎、士、林俊祐吉
男　淑　大五、二生
女　大元、一一生

纖物文庫紙商　大阪府在籍

君は岡山縣人浮田和太郎の三男にして明治三年二月を以て生れ同三十二年分れて一家を創立す纖物文庫紙商を營む長女幾代（明三三、三生）は同夫一二三と共に岡山縣に於て廢家浮田氏を再興し養父の營業を繼承し二女たま（同三六、三生）は大阪府人樹下慶藏に四女秀子（同三九、九生）は吉岡恒治に嫁せりA四四四（大阪市東區北久太郎町一ノ一五電船場二五〇四）

浮田辰平

妻　サチ　明二一、一〇生、宮崎、士、林俊祐吉
男　大元、一一生
女　大五、二生

正五位勳五等、州立臺北第一高等女學校長、岡山縣在籍

君は岡山縣人浮田又作の二男にして明治十六年二月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す明治四十一年東京高等師範學校研究科を卒業し翌四十二年高知縣立第三中學校教諭となり爾來新潟縣立村松新發田各中學校教諭同新發田高等女學校長高田師範學校教諭新潟縣立糸魚川中學校長臺北師範學校教諭等に歷任し昭和二年臺灣總督府編修官兼視學官に任じ文教局編修課長に補せられ同六年南記現職に轉ず家族は尙四女美（昭一、五生）あり（臺北市南門町四ノ二）

浮田長須計

母　ワカ　明四、九生、新潟、時田知三長女
妻　癸巳　明二六、一〇生、新潟、相馬熊次郎五女
男　正司　大四、九生
女　ヨシエ　大二、七生

新潟縣納稅者、農業　新潟縣在籍

女　シゲル　大六、七生
女　幸　大八、五生

君は新潟縣人浮田良藏の長男にして明治二十二年五月を以て生れ大正三年家督を相續す農業を營み直接國稅二千五百四十六圓を納め新潟縣多額納稅者たり家族は倚四女萬里(大九、一一生)二男侑(同一二、三生)妹セイ(明二五、三生)弟辨次郎(同三一、四生)同甲子雄(同四二、一〇)生あり養弟俣治(同二三、一二生、新潟、礦部忠太郎二男)は其二子を伴ひ分家し叔父和作(同一四、二生)も亦分家し弟良雄(同四五、三生)は其養子となり妹イツ(同二七、七生)は新潟縣人西村强に同スミ(同三三、一生)は山形縣人須貝礦壽雄に嫁せり(新潟縣北蒲原郡築地村)

浮田鶴子

喜福貿代表社員、地主
大阪府在籍

母　壽子　明七、九生
男　桂造　大三、一生、現戸主

君は大阪府人先々代忠治郎の長女浮田貿の養姉にして明治二十三年八月二十一日を以て生る地主にして現時喜福合資會社代表社員たりA三八三七(大阪市南區安堂寺橋通四ノ二電船場二六〇)

參照‖浮田桂造、浮田壽子、浮田貿の項

浮田壽子

喜福貿社員、地家主
大阪府在籍

女　鶴子　明二三、八生
孫　桂造　大三、一生、現戸主

君は大阪府人浮田桂造の長女同貿の養母にして明治七年九月一日を以て生れ同二十一年亡夫忠治郎を迎ふ爾來夫を扶けて家業浮田五龍園藥房の經營を監し併せ內助の功多し地家主にして現に喜福合資會社々員たりA三八三七(大阪市南區安堂寺橋通四ノ二電船場二六〇)

參照‖浮田桂造、浮田鶴子、浮田貿の項

浮田秀樹

安田銀行總會田支店長
東京府在籍

父　和民　安政六、一二生、現戸主
妻　ウメノ　明三四、一一生、靜岡、池田倉次郎三女
男　秀一　大一四、一一生

君は東京府人浮田和民の三男にして明治二十五年三月九日を以て生る大正三年早稻田大學商科を卒業し同十年明治商業銀行に入社す同十二年同社合併に依り安田銀行へ引繼爾來安田銀行に勤務累進して昭和七年飯田支店長となり今日に至る家族は倚長女彌生(大一一、三生)二男秀二(同一四、一生)二女和子(昭四、一〇生)あり(長野縣下伊那郡飯田町)

參照‖浮田和民の項

浮田貿

喜福貿社員、藤田鑛業會社員
大阪府在籍

妻　勝子　明二五、三生、養父忠治郎二女、喜福貿出資社員
男　章一　大九、一生

君は大阪府人西川作太郎の弟浮田鶴子の養弟同桂造の養叔父にして明治二十二年一月を以て生れ同府人浮田忠治郎の養子となり大正八年分れて一家を創立す現時喜福合資會社出資社員にして兼ねて藤田鑛業會社員たり家族は倚二男悌二(大一〇、一生)ありA六四六(大阪市南區安堂寺橋通四ノ四電船場一五七一)

參照‖浮田桂造、浮田鶴子、浮田壽子、浮早濱太郎三郎の項

請川卓

讃岐煉瓦紡績株取締役
香川縣在籍

母　カチル　明一四、五生、香川、藤田金三郎妹
妻　文子　明三九、一生、愛媛、茨田武夫姉
男　一男　昭四、九生

君は故香川縣多額納稅者實業家請川歪治の長男にして明治三十二年十二月を以て生れ昭和九年家督を相續す風に讃岐煉瓦紡績會社取締役となり今日に及ぶ家族は倚長女愛子(昭八、八生)二女素子(同六、七生)三女秀子(同八、七生)弟健藏(明三六、二一生)同妻雪子(同四四、八生、愛媛、茨田武夫妹)及其一子あり妹富美子(同四〇、一生)は香川縣人守谷房之進二男課之に同美代子(同四四、五生)は同縣人阿河吉之助二男準一に嫁せり(香川縣三豊郡紀伊村)

牛尾健治

姬路商工會議所副會頭、姬路頭取、羽東電氣代表取締役、姬路製絃專務取締役、山陽商事中國合同電氣東美電燈、日本フエルト工業各種取締役、株式公債賣買藏、兵庫縣在籍

母　きぬゑ　明三五、三生、兵庫、望月存寧三女養妹
妻　みつ　昭四、三生
男　吉朗

當家の先代梅吉は關西財界の大立物として知られ兵庫縣多額納稅者に列し姬路商工會議所會頭に擧げらる君は其長男にして明治三十一年十一月を以て生れ昭和九年家督を相續す大正十二年東京商科大學を卒業し株式公債賣買藏を營み傍ら現時前記各銀行會社の重役にして推されて姬路商工會議所副會頭たり家族は倚長女治子(大一二、一〇生)弟清(明四二、一一生)同政夫(同四三、一一生、兵庫、三木太平長女)は絕家三木氏を再興して弟敏(明四〇、一二生)は其養子となり弟五郎(大二、四生)も亦其生母三木するゑの養子となり養姉ハナ(明二八、七生、京都、伊藤洞月長女)は大阪府人蕚島松長男利一に嫁せり(姬路市西紺屋町一五電五九八)

參照‖中村彌之祐※三木敏の項

牛尾竹之助

臺灣銀行總倫敦支店長
兵庫縣在籍

母　せん　安政二、三生、兵庫、三木助三郎女
妻　隆子　明三四、七生、兵庫、黑田彦次五女
男　一男　昭四、九生

君は兵庫縣人牛尾廷郎の二男にして明治二十年八月を以て生る同三十九年神戸商業學校を卒業し臺灣銀行に入り整理部第一課長兼第二課長を經て現時同行倫敦支店長たり家族は倚長女房子(大一五、八生)兄松千代(明一七、八生、現戸主)同妻るん(同二四、一〇生、兵庫、松田藤治郎三女)及其四子あり妹富美(同一〇生、三生)は兵庫縣人來住萬吉二男藤吉に同じずゑ(同一四、四生)は同縣人沖中整根に嫁せり(倫敦、臺灣銀行支店內)

參照‖崇山內譜吉の項

牛尾友次

大阪堂島米穀取引所取引員
兵庫縣在籍

繼母　むら　明三、一〇生、兵庫、黑田吉次郎妹
妻　こゆき　明一三、七生、兵庫、黑田吉次郎妹
男　繁　明四〇、一〇生
男　登　明四二、三生
女　美・代　明四四、一生
男　廣治　大二、一一生

君は兵庫縣人牛尾藤次郎の長男にして明治十四年一月を以て生れ同四十一年家督を相續す現時大阪堂島米穀取引所正米部精算部取引員たり家族は倚五男敏郎(大一三、二生)弟留雄(明三六、四生)あり妹みき(同二一、六生)は兵庫縣人永井善次に同みつ(同三〇、一二生)は同縣人出口敬二に同なつ(同三二、九生)は岡山縣人浦上豊行に嫁し弟慶次(同二五、三生)同秀太郎(同二七、三生)は各分家し同賢次(同二八、一〇生)は兵庫縣人永井常次郎に同一夫(同三九、六生)は前記永井善次に各養子となれりA六七一九B一三〇六(大阪市北區堂島濱通一ノ九四電北七七一)

牛尾量一

福岡製銃所主、銃砲火藥商
福岡縣士族

君は福岡縣士族牛尾景藏の長男にして明治四十年七月を以て生れ大正十二年家督を相續す福岡製銃所主にして銃砲火藥商を營む家族は倚姉ユキ(明三六、一二生)同ヨシ(同三九、二生)妹アキ(同四二、一二生)同タキ(同四四、八生)弟延二(大二、八生)ありA五一三B一九一(福岡市中島町六〇電三一九)

牛島久次郎

千歲貿易商會底取締役、石綿及アスファルト商、東京府士族

妻　政　明三二、一〇生、三重、國分利郎長女
男　陽太郎　大一二、二生

君は佐賀縣人大塚源次郎の長男にして明治十八年四月を以て生れ大正二年母方の實家牛島家に入り家督を相續す明治四十一年東京高等商業學校を卒業し範多商店日本毛絲會社に勤務し大正十三年七月千歲貿易商會を自營し米國ジョーンスマンヴィル株式會社の日本總代理店として石綿及アスファルト製品を取扱ひたりしが昭和四年十二月組織を變更して株式會社千歲貿易商會と稱し現に其取締役たり家族は倚二女たゑ子(大一〇、一一生)あり(東京市麻布區霞町二三電青山三七一六)

牛島航

正五位勳五等、東洋鑛業株式會社取締役、福岡縣士族

妻　ひで　明二八、九生、靜岡、吉川由郎三女、山脇高女出身
男　宥　大五、一〇生、府立五中在學

君は福岡縣士族牛島清民の二男にして明治十八年七月を以て生れ同三十三年家督を相續す同四十二年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し北海道鹽技師山口熊本佐賀各縣技師內務部土木課長を任補し後地方技師に任じ大阪府土木部長たりしも官を辭して現時前記會社の重役たり家族は倚長女くに(大一一、二高女在學)四男滋(同一三、六生)亡弟鼎妻續子(明三一、四生、兵庫、齊藤峻妹)及其二男あり三男泰(大八、一〇生)は福岡縣人牛島チョの養子となり妹クメ(明二四、二生)は京都府士族折田有彦兄有恒に嫁せりA二四一(東京市本郷區西片町一〇ろノ八電小石川四三二一)

參照‖折田有彦の項

牛島貞雄

正四位勳二等、功五級、陸軍中將、第十九師團長、熊本縣在籍

妻　綾　明二二、一生、東京、士、津野田是重妹
男　義明　明四四、八生

君は熊本縣人牛島義雄の五男にして明治九年一月を以て生れ大正十二年兄續方より分れて一家を創立す明治三十四年陸軍少尉に任じ爾來累進して大正十五年陸軍少將に昇進し其間歩兵第三聯隊長參謀本部課長歩兵第二十九旅團長陸軍大學校幹事陸軍大學校長等に歷補す現時第十九師團長たり家族は倚二男孝之(大九、一〇生)あり朝鮮咸鏡北道羅南電二二六(留守宅)東京市杉並區西田町一ノ七八〇電萩窪三七二八)

牛島實常

正五位勳三等、功四級、陸軍少將、陸軍工兵監部附、東京府在籍

妻　エツヨ　明二一、四生、熊本、林仙太郎二女
養子　稔　大七、九生、靜岡、鹽谷房吉二男
養子　イチ　明三三、一生、熊本、林仙太郎五女

君は舊福岡藩士牛島憲助の長男にして明治十三年二月十一日を以て生れ後北海道に移住し昭和五年養兄辰次郎方より分れて一家を創立す風に陸軍士官學校を卒業し明治三十七年工兵少尉に任じ昭和七年陸軍少將に累進す其間陸軍大學校を卒業し士官學校教官近衛師團參謀砲工學校教官陸軍大學校兵學教官工兵第五大隊長工兵監部々員等を經て昭和五年第十一師團參謀長同六年陸軍工兵學校教育部長同幹事に歷補し現時陸軍工兵隊部附たり曩に日獨戰役に從軍し野戰交通部參謀たりA一四九(千葉縣東葛飾郡松戸町一ノ一八三)

牛島省三

從四位勳三等、朝鮮總督府內務局長、朝鮮總督府古蹟保存會委員、鹿兒島縣士族

妻　幸　明二四、七生、鹿兒島、士、牛島實幸二女
男　正五郎　大五、一二生
女　通惠　大二、七生
女　三木子　大四、一生
女　順子　大八、二生

君は鹿兒島縣士族牛島鐵之助の弟にして明治十六年三月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試驗に合格す同四十四年兵庫縣試補となり兵庫縣警視同縣英賀郡長鳥取縣理事官山口熊本兵庫各縣警察部長等を經て茨城縣知事となり昭和六年朝鮮總督府學務局長に任ぜられ轉じて內務局長となり今日に至る同八年朝鮮總督府賞勳古蹟名勝天然記念物保存會委員を命ぜらる家族は倚二男鴻(大一〇、六生)三男三郎(同一二、一一生)あり(京城府西小門町官舍電光八六〇)

牛塚虎太郎　正三位勳一等、東京市長
富山縣在籍
明一九、一〇生、東京、服部玄三郎ノ虎ノ門女學館出身
妻　なを
男　公太郎　明四三、一生、東大法學部在學
女　恭子　大二、六生、雙葉高女出身
女　清子　大六、八生、雙葉高女在學
女　明子　大八、六生、雙葉高女在學
君は富山縣人牛塚虎太郎の長男にして明治十一年四月二十八日を以て生れ大正十一年家督を相續す明治三十八年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し直に遞信省に奉職し文官高等試驗に合格す爾來遞信書記官兼商船學校教授海員審判所審判官內閣書記官內閣統計局長國勢院部長兼行政裁判所評定官臨時國勢調査局次長岩手群馬各縣知事に歷任し大正十五年宮城縣知事に轉じ昭和四年東京府知事に任じ特に選任官待遇を賜はり官を辭して後昭和八年東京市會議員に當選し次いで同年五月永田秀次郎の後を承け第二十二代目東京市長に擧げられ今日に至る讀書を好む長女和子（明四四、一〇生、御茶の水高女出身）は島取縣農務課長稻田清助に妹とれ（同一六、八生）は富山縣人高田義海に嫁せりA二四二（東京市麴町區中六番町一九電九殷三六）
參照‖服部玄三郎河田源三郎清水賢一郎杉村米次郎中原繁之助仁井田益太郎松山陸郎の項

牛造昌彥　地家主
大阪府在籍
君は大阪府人牛造宋太郎の長男にして大正三年一月を以て生れ同十三年家督を相續す地家主たりA三八一八（大阪市浪速區大國町一ノ四電戎一七〇〇）

牛場清次郎　早稻田大學幹事、農業
三重縣在籍
明二一、一生、三重、若松德平六女
男　彥右衛門　明三九、六生
女　せん　明四四、三生
君は三重縣人牛場林造の二男にして明治十三年三月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十四年早稻田大學邦語政治科を卒業し農業を營み現時早稻田大學幹事同評議員たり蘊に三重縣會議員等に當選す家族は尙二男紀典（大四、六生）三男球平（同八、三生）四男四郎（同一〇、五生）あり（三重縣度會郡濱郷村）

牛丸喜一　日華製油總取締役
佐賀縣士族
文久二、一〇生、佐賀、士、中尾平治二女
妻　豊　明二八、一一生、東京、士、春山克郎四女
男　一成　大一〇、一二生
女　秀　大六、九生
君は佐賀縣士族牛丸卯吉の長男にして明治十九年二月を以て生れ大正二年家督を相續す明治四十一年佐賀縣派遣生として上海東亞同文書院を卒業し現時日華製油會社取締役たり家族は尙二女キヨ（昭三、一生）あり妹チヨヲ（明二八、一生）は佐賀縣人日本鋼管會社員花田清次郎に嫁せり（神戸市須磨區上中島三ノ三電須磨一二二）
參照‖※春山作樹の項

牛丸福作　從四位勳二等功五級、海軍中將、海軍軍令部出仕、岐阜縣在籍
妻　梅　明二二、五生、陸軍中將押上森藏三女、府立第二高女出身
女　澄子　大四、七生、御茶の水高女出身、駿河臺學院在學
女　春子　大六、二生、府立第一高女高等科在學
君は岐阜縣人牛丸新七郎の四男にして明治十五年二月三日を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す明治三十六年海軍機關學校を卒業し海軍機關少尉に任じ昭和五年海軍中將に累進す其間艦政本部々員横須賀海軍工廠造機部長等を經て同三年海軍艦政本部第四部長同七年海軍省軍需局に歷補し同九年五月軍令部出仕を命ぜらる書畫篆彫を好むA一九五（東京市小石川區表町一〇九電小石川四〇七八）
參照‖※森彥兵衛の項

牛山榮太郎　第十銀行經取締役兼支配人
山梨縣在籍
妻　貴代　明二九、一二生、山梨、堀內正順長女、甲府高女出身
男　一　大九、五生、甲府中學在學
女　貴美子　大六、二生、日本女大在學
君は山梨縣人牛山儀助の長男にして明治二十一年十二月を以て生れ昭和二年家督を相續す大正元年東京高等商業學校を卒業し更に同三年同校專攻部銀行科を卒業し日本銀行に入り同十二年一月同行を辭して第十銀行に入り東京支店長を經て現時同行取締役兼支配人たり家族は尙二女謙美子（昭三、二生）あり（甲府市柳町一二一電三九九一）

牛山三郎　神奈川縣多額納稅者、地主
神奈川縣在籍
妻　ミサヲ　明二六、五生、神奈川、橋本一夫姉
男　龜太郎　大八、三生
君は神奈川縣人牛山龜次郎の二男にして明治二十五年七月を以て生れ同四十三年家督を相續す地主にして神奈川縣多額納稅者に列し直接國稅三千八百六十五圓を納む家族は尙長女京子（大一〇、一一生）二女和子（同一三、八生）三男友次郎（昭二、五生）三女百合子（同四、一一生）姉タケ（明一一、八生）同ミチ（同二一、二生）あり（横濱市神奈川區三ツ澤下町五一電本局一一八三）

氏家清　移川水電株取締役、農業
羆島縣士族
妻　キセ　明元、一〇生、羆島、士、氏家良助二女
男　績　明一八、四生
男　敏　明三二、一生、尋男績妻、羆島、熊川明妹
婦　君は羆島縣士族氏家爲重の長男にして慶應二年十月を以て生れ明治二十八年家督を相續す農を業とし傍ら前記會社の重役にして蘊に移川水電會社長羆島縣會議員立憲民政黨羆島縣支部幹事長衆議院議員等に擧げらる（羆島縣雙葉郡津島村）

氏家謙曹　正六位、早稻田大學教授
岩手縣在籍
妻　玉井　明八、九生、北海道、士、沼田正之女
男　愛子　明二六、一生
男　榮一　大四、一一生
女　芳枝　大八、六生
君は宮城縣人先代清吉の長男にして明治二十五年四月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名榮吉を改め襲名す現時前記銀行會社の重役にして仙臺商工會議所議員に擧げられ直接國稅三千二百三十五圓を納め宮城縣多額納稅者たり家族は尙二男卓也、大六、一一生）二女薫子（同一一、五生）三男琢磨（同一三、九生）あり（仙臺市支倉町一三電七九五）

氏家長明　正五位勳三等、海軍少將、佐世保海軍工廠長、石川縣士族
妻　心子　明二七、八生、石川、士、山岡倭妹、大阪府立清水谷高女出身
男　誠孝　大六、一〇生、東京高校在學
君は石川縣士族舊金澤藩士の豪家に明治十九年四月三十日を以て生る同四十年海軍機關學校を卒業し同四十一年海軍機關少尉に任じ大正二年六月英國海軍大學校を卒業し同十四年同大佐に昭和六年十二月海軍少將に累進す爾來艦政本部第四第五各部長に歷補し同九年四月現職に轉ずA一五〇（佐世保市海軍官舍）
參照‖山岡倭※岸田幸雄の項

氏家丈吉　宮城縣多額納稅者、金融業
宮城縣在籍
妻　いわ　慶應三、九生、宮城、父丈吉長女
男　直吉　明二七、三生
婦　滋子　明三四、四生、二男直吉妻、宮城士、新妻洵滋長女
君は山形縣人富樫六右衛門の二男にして慶應二年八月を以て生れ先代丈吉の養子となり明治三十九年家督を相續し前名吉郎を改め襲名す金融業を營み宮城縣多額納稅者に列し直接國稅三千五百七十九圓を納め資產家として知られる蘊に角田電氣鐵道角田製氷會社等の重役たりし事あり家族は尙孫直（大一〇、六生、二男直吉長男）同正子（同一三、七生、同長女）あり長女いし（明二二、六生）は宮城縣人永澤安之助に二女たま（同三五、四生）は愛知縣人野村利治に三女てる子（同三九一〇生）は宮城縣人遠藤富雄に四女千代（同四〇、一一生）は同縣人永山恒に嫁し三男忠吉（同二九、四生）五男信吉（同三二、三生）六男七郎（同三七、三生）七男哲郎（同四二、五生、慈惠醫大出身）は各分家せり（宮城縣伊具郡角田町電七）

氏家信　小金井藥生院々長、醫師
宮城縣在籍
明二五、二生、宮城、中島銳治二女
妻　かつ　大九、七生、武藏高校等當科在學
男　鐘一　君は宮城縣人氏家時の弟にして明治十五年三月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學醫科大學を卒業し東京府巢鴨病院に勤務し後之を辭し晉羽美生所を經營せしが昭和二年小金井藥生院を新設し其院長となり腦病神經病精神病各科の診療に從事す家族は尙二男銳士（大一四、七生）三男照美（昭二、四生）ありA四〇六（東京市本郷區駒込西片町一〇ノ三〇電小石川一〇一〇「病院」東京府北多摩郡小金井村電小金井四〇）
參照‖※森忠藏の項

氏家清吉　仙臺商工會議所議員、宮城縣多額納稅者、七十七銀行取締役、仙臺不動產、昭和土地各臺信託、仙臺取締役、宮城殖林監査役
宮城縣在籍
妻　愛子　明二六、一生
男　榮一　大四、一一生
女　芳枝　大八、六生
君は宮城縣人先代清吉の長男にして明治二十五年四月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名榮吉を改め襲名す現時前記銀行會社の重役にして仙臺商工會議所議員に擧げられ直接國稅三千二百三十五圓を納め宮城縣多額納稅者たり家族は尙二男卓也、大六、一一生）二女薫子（同一一、五生）三男琢磨（同一三、九生）あり（仙臺市支倉町一三電七九五）

氏家長明　正五位勳三等、海軍少將、佐世保海軍工廠長、石川縣士族
妻　心子　明二七、八生、石川、士、山岡倭妹、大阪府立清水谷高女出身
男　誠孝　大六、一〇生、東京高校在學
君は石川縣士族舊金澤藩士の豪家に明治十九年四月三十日を以て生る同四十年海軍機關學校を卒業し同四十一年海軍機關少尉に任じ大正二年六月英國海軍大學校を卒業し同十四年同大佐に昭和六年十二月海軍少將に累進す爾來艦政本部第四第五各部長に歷補し同九年四月現職に轉ずA一五〇（佐世保市海軍官舍）
參照‖山岡倭※岸田幸雄の項

氏家又治郎　羆島縣多額納稅者、酒造業並藥種商、羆島縣在籍
妻　ヒデ　明二四、一生、青森、高木岩太郎長女
男　義正　明四三、二生
男　嘉伊治　明四四、一〇生
女　智枝　大二、二生
女　命　大八、一〇生
君は羆島縣人先代又治郎の長男にして明治十二年二月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名保壽を改め襲名す酒造業並藥種商を營み縣下の多額納稅者に列し直接國稅二千七百五十八圓を納む養に新田川電氣會社取締役たりし事あり長女富美（明三四、九生）は羆島縣人菅野構之助の養子となり養子ヨシ（同二八、一生、羆島中村定一妹）及姉サカイ（同五、一一生）同夫英樋（同四

一一生、福島、黒澤六郎兵衛三男）は各其子女を伴ひ分家せり（福島縣伊達郡川俣町電三二）

氏原　寛　雲產家　東京府在籍

母　タマ　明二二、五生、福岡、萩原只吉二女
女　和子　大二、九生

君は東京府人氏原佐藏の長男にして大正五年一月三十一日を以て生れ昭和六年家督を相續し資產家たり先代父佐藏は夙に東京帝國大學醫科大學に於て精神病學を研究し後防疫官補として內務省に勤務し後內務技師に任ぜられ又商工技師を兼ね昭和二年醫學博士の學位を受く弟茂（昭六、三生）は高知縣人片岡福龜の養子となれり（東京市小石川區林町五七電小石川三八七一）

氏原　均一　從五位勳五等、醫學博士、醫師　東京府士族

母　チヤウ　安政六、二生、大阪、西山明數長女
妻　壽　明一五、六生、鳥取、西尾守行長女
男　久男　明四一、九生
男　幸男　明四三、一生
男　秀男　大二、二生

君は大阪府士族氏原知正の長男にして明治十一年十月二十二日を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十八年東京帝國大學醫科大學醫學科を卒業し糖尿病專門醫師にして診療所を經營す義に醫學博士の學位を受く（東京市日本橋區小網町四ノ一電茅場町一五五六）

氏原　助造　豐橋商工會議所常議員、製絲業　愛知縣在籍

妻　つま　明一二、三生、愛知、廣中倉藏二女
男　悅治　明三三、一一生
婦　靜子　明三六、四生、二男悅治妻、愛知村瀨伊三郎長女

君は愛知縣人氏原源八の長男にして明治九年十二月を以て生れ同三十一年家督を相續す製絲業を營み現時推されて豐橋商工會議所常議員たり嘗に共立社取締役た

潮　歌之助　家主　東京府在籍

妻　まち　明二三、五生、茨城、下川邊了明五女
男　新太郎　明三八、二生
婦　かつ　明四二、三生、長男新太郎妻、東京、菅沼久五郎二女
男　新衛　明四四、九生
女　光　大三、四生
女　千代　大五、一〇生
女　泰子　大八、四生

君は神奈川縣人大島幸次郎の四男にして明治十六年六月十三日を以て生れ同三十一年先代樂翠の養子となり同三十七年家督を相續す家族は尙七男泰衛（大一〇、一〇生）孫昇（昭六、三生、長男新太郎長男）あり二男篤治（明三九、一二生）は分家し三男榮三（同四二、四生）は東京府人横尾吉政の養子となれりA五四〇（東京市本所區東駒形四ノ一四ノ三電墨田四〇五二）

參照‖菅沼久五郎の項

潮　惠之輔　從三位勳一等、貴族院議員、日本赤十字社常議員、島根縣在籍

妻　實根　明二五、一生、男爵益田肇施姉
女　瑞子　大三、一一生、青山女學院出身

君は島根縣人潮房太郎の二男にして明治十四年八月を以て生る同四十年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試驗に合格す爾來內務屬長野縣事務官內務事務官內務書記官內務省參事官地方局事務官內務省衛生局長內務省地方局長等を歷任し昭和三年內務次官となり同六年八月之を辭し貴族院議員に勅選せられ現に其任にあり昭和七年五月再び內務次官に任ぜられ同九年七月退官す家族は尙二女照子（大九、九生、府立第六高女卒業）三女光子（同一三、一一生）四女樹子（昭三、四生）五男米藏（昭五、一二生）あり三男幸三（同八、五生）は愛知縣人佐藤久七の養子となり妹かぎ（明二二、一〇生）は分家せりA三五四B一四〇（名古屋市中區米濱町一五電南三九二〇）

臼井吉次郎　從三位勳一等、貴族院議員、日本銀行監事、東和銀行監事、東拓合同銀行監事、東京、古川阪次郎妹婿　東京、古川阪次郎妹婿　東京、古川阪次郎妹婿　

生）は東京府人酒井佐敏に嫁せりA三五九（大阪市天王寺區勝山通一ノ二一四電天王寺一二五七）

臼井源次　正五位勳四等、海軍豫備大尉、地方海員審判官兼逓信局技師門司地方海員審判所勤務大分縣在籍

父　理平　明二四、九生、大分、鷲塚鐵一郎
妻　シヅ　長女
男　衛　明四四、二生
女　辰子　大五、四生

君は大分縣人臼井理平の長男にして明治十四年三月二十四日を以て生る同四十年商船學校を卒業し日本郵船會社加賀丸二等運轉士廣島縣立商船學校教諭甲種船長丸船長等に歴任す大正十二年地方海員審判所審判官兼逓信局技師に任じ現時門司地方海員審判所勤務たり家族は尚二男晁（大二二、一生）二女千壽子（同一五、一生）あり（門司市花山通四丁目）

臼井定民　從七位、土佐吉野川水力電氣株式會社取締役、岩手縣在籍

妻　ツル　明一三、一〇生、岩手、士、山本鉞長女
男　毅　明四〇、一二生
女　勇子　明四三、三生
男　誠　明四四、一〇生
男　亨　明四四、一〇生
女　英子　大五、一二生

君は岩手縣士族關定昌の二男三田定則の兄にして明治五年十月を以て生れ先代宗方の養子となり後家督を相續す明治三十三年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し同三十五年海軍技師に任じ同三十七年轉じて實業界に入り東京市街鐵道會社土木課技師小坂鐵山技師兼工作課長東京鐵道會社技師東京市技師住友別子鑛業所土木課長副支配人支配人副長を經て昭和二年同社常務取締役に擧げられしも後之を辭し現時土佐吉野川水力電氣會社取締役たり（東京府北多摩郡砧村字喜多見成城八八一電砧一〇一）

參照＝三田定則の項

臼井桑哉　愛仁堂醫院、醫師、東京府在籍

妻　きみ　明三五、八生、東京、士、高木政勝長女
男　正哉　明四二、四生
男　保哉　大三、三生
女　捨子　大五、一一生

君は岐阜縣人臼井宇左衛門の兄にして明治九年六月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す愛仁堂醫院と稱し內科小兒科醫師たり家族は尚三男恒哉（大七、三生）四男和哉（同一一、三生）あり二女繁子（明三七、八生）は岐阜縣人山田三右衛門二男治郎に四女壽惠子（同四〇、二生）は東京府人青木關治に嫁し三女順子（同三九、二生）は同府人山口權太郎の養子となれりA三〇八（東京市麻布區森元町三ノ七電赤坂一二四〇）

臼井大翼　法政大學講師、辯護士、神奈川縣在籍

養母　ヨシ　明六、二生、神奈川、木村利右衛門五女、横濱共立女學校出身
妻　ミチ　明二三、一生、先々代儀兵衛長女、東京女學館出身
男　淳之　大四、三生、成城學園高等部出身

君は千葉縣人千松武雄の兄にして明治十八年二月を以て生れ先代ミチの入夫となり大正四年家督を相續す同二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し直ちに大安生命保險會社を創立し其專務取締役たりしが昭和二年之を辭し辯護士を開業し一般法律事務に從事する傍ら法政大學講師たり養に南洋興產千代田商行各會社取締役野村組監査役たりしことあり短歌に趣味を有し雜誌「靭王樹」を主宰し歌集「私燈」の著あり家族は尚二男滋（同一四、四生）あり（東京市芝區新橋一ノ八宇都宮ビル五階五四電銀座五四一三）

臼井哲夫　勳三等、元衆議院議員、東京府士族

妻　マセ　明二、八生、長崎、大原久敬三女
男　大助　明四一、一生
婿　清子　明四五、五生、長男大助妻、靜岡、小泉策太郎長女

君は長崎縣士族臼井三平の長男にして文久三年一月二十九日を以て生れ明治三十八年家督を相續す曩に西海日報社を創立し後吾妻川電力會社長其他諸會社の重役となり又衆議院議員に當選する事七回に及び政界實業界に活躍せり大正三四年事件の功により勳三等に叙せらる家族は尚孫滋子（昭八、一二生、長男大助長女）あり二女キヨシ（明二四、六生）は東京府士族植村東彥に三女スミ（同二八、一〇）生は同府人清水本之助に五女洸子（同四五、一一生）は同府人横井故農學博士東京帝國大學名譽教授時敬長男時炎に嫁せり（東京市芝區芝公園二五ノ二電芝七八五）

參照＝植村東彥、小泉策太郎、清水本之助の項

臼井知胤　資產家、千葉縣在籍

母　アサ　明一四、八生、東京、紅林七五郎妹

君は東京府人臼井泰胤の長男にして同直胤同平胤の甥なり明治三十六年八月を以て生れ昭和四年祖父義胤の後を受け家督を相續す大正十五年早稻田大學專門部法科を卒業し現に鐵道省經理局に勤務す家族は尚妹良子（明四四、六生、東京女學館出身）あり同登美（同三八、二生、出身校同上）は福岡縣人法學士淡河信行に同登喜（同四〇、一生、出身校同上）は愛知縣人精谷鑄右衛門二男忠四郎に嫁せりA一〇二五（東京市麻布區笄町一七電青山六九七）

參照＝臼井直胤、臼井平胤の項

臼井直胤　東京鋼材株式會社大阪出張所長、東京府在籍

妻　そめ　明三三、三生、東京、鹿谷喜一郎長女
男　利胤　大一五、七生

君は神奈川縣人臼井義胤の四男にして同平胤の兄同知胤の叔父なり明治二十八年三月十六日を以て生れ大正九年分れて一家を立て同元年早稻田大學理工科を卒業し現時東京鋼材會社大阪出張所長たり家族は尚二女敬子（大一三、一生）三女禮子（昭四、七生）四男篤胤（同六、一生）五男信胤（同七、三生）六男晴胤（同八、八生）ありA一〇三三（大阪府豐能郡箕面村大字牧落六〇六ノ八）

參照＝臼井知胤、臼井平胤の項

臼井平胤　資產家、東京府在籍

妻　富美　明三八、二生、群馬、岡島市太郎長女
男　幸胤　大一五、一〇生

君は神奈川縣人臼井義胤の五男にして同直胤の弟同知胤の叔父なり明治三十二年六月二十五日を以て生れ同四十年分れて一家を創立す大正十二年明治大學商學部を卒業す篆刻繪畫運動に趣味を有す家族は尚長女多美子（大一四、四生）二男守胤（昭三、一〇生）三男良胤（同五、八生）二女久美子（同八、五生）ありA九二二四（東京市麻布區櫻田町五四電青山七二八七）

參照＝臼井直胤、臼井知胤の項

臼井米二郎　小林腦行、樟腦貿易商、栃木縣在籍

養母　テイ　明二一、五生、先々代要助長女
妻　民　明三七、四生、東京、山田太一郎姪
男　良照　大一三、九生

君は栃木縣人小林喜八の弟にして明治三十六年二月を以て生れ先代テイの養子となり昭和二年家督を相續す小林腦行と稱し樟腦貿易商を營む家族は尚長女雅子（大一五、三生）二男英次郎（昭四、一生）ありA二三九七B六二〇（「店舗」＝東京市大森區山王一ノ二五〇〇電高輪四四五〇）

同市日本橋區本町三ノ七ノ一電日本橋四九七）

臼居万太郎　井上電氣製作所孤取締役、機械工具類輸入商、京都府在籍

妻　よし　明三六、四生、京都、森うめの養子
男　良一　大一〇、一二生

君は京都府人臼井千太郎の長男にして明治二十三年二月二十三日を以て生れ同三十二年家督を相續す機械工具類輸入商を營み傍ら現時井上電氣製作所取締役たり家族は尚長女君子（大一二、八生）二男大造（同一四、二生）三男三郎（同一五、五生）四男四郎（昭二、一二生）あり弟吉太郎（明二五、四生）は分家し妹幷（明二八、一一生）は滋賀縣人小堀彌七二男政三郎に同せん（同三一、一〇生）は滋賀縣人岩崎英三郎弟東一郎に嫁し姪春枝（同四五、三生、亡妹千代私生子）は京都府人森うめの養子となれりA三九三三二〇七（京都市下京區西洞院木津屋橋下ル電下一四五八）

臼杵九郎　正五位勳四等、檢事、熊谷區裁判所檢事、浦和地方裁判所、熊谷支部檢事、大分縣在籍

養母　キク　萬延元、九生、大分、士、後藤基照三女
妻　セツ　明一四、一〇生、大分、黑野ヒテ二女
男　譲　明三五、二生
男　勉　明四〇、三生
女　セイ　明四二、四生

君は大分縣人後藤基照の二男にして明治七年一月を以て生れ先代キクの養子となり同三十六年家督を相續す同三十三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十六年判事に任じ神戸區裁判所判事に補せられ次で檢事に轉じ關來德島區同地方彥根區札幌地方同區熊本區同地方各裁判所檢事に歴任明治四十十四年退職大正六年復職更に水戸地方同區木更津區千葉區同地方各裁判所檢事に歴補し大正十五年八日市場區裁判所檢事叅千葉地方裁判所八日市場支部檢事昭和三年小田原區裁判所檢事等を經て現時前記の職に在り（熊谷市聖天町一一一六）

臼倉錠次郎　正五位勳六等、長岡高等工業學校教授、東京府在籍

妻　映　明三三、五生、千葉、山崎傳次郎二女
男　英夫　昭三、一生

君は東京府人臼倉實藏の二男にして明治二十二年八月十五日を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す同三年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し同五年鐵道院技手となり同十年東京高等工業學校教授に轉じ同十三年長岡高等工業學校教授に任ぜらる昭和二年英米に留學し同四年歸朝す家族は尚長女みどり（昭五、五生）あり（長岡市學校町三丁目高等工業學校官舍四號）

臼倉由五郎　吳服太物商、東京府在籍

妻　あさ　明一五、七生、東京、石山鐵五郎妹

臼田久內　明三二、一生、埼玉、長堀太郎吉五男
妻　壽滿　明三七、五生、養子吉之助妻、東京、臼倉五平長女
婿　ます　明一二、一生、福岡、士、椿原隼雄二女
男　馨　明一九、七生
婿　コト　明二四、一一生、長男馨妻、東京士、名倉富治五女
男　幸雄　明三八、二生
女　愛子　明四四、一生
女　シヅ子　大三、二生
孫　萬嘉子　明四三、二生、長男馨長女
孫　俊子　明四四、六生、長男馨二女
孫　一郎　大二、八生、長男馨長男
孫　幸枝　大四、八生、長男馨三女

君は鳥取縣士族臼田久雄の二男にして元治元年一月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時大牟田製氷會社社長たる外前記各會社の重役たり養に旭セメント會社取締役會長帝國セメント會社監査役に擧げられ大正四年以來郷里鳥取縣より推されて衆議院議員に當選すること三回又大牟田商工會講所會頭大牟田市參事會員及市會議長たりしことあり家族は尚三男勇夫（大七、八生）孫二郎（同六、一二生、長男馨二男）同玲子（同九、八生、同四女）同信子（同一二、一一生、同五女）同美砂子（同一五、一生、同六女）あり長女たつ（明二一、四生）は鳥取縣人金田堯春に嫁し姉マツ（文久二、八生）は東京府人名倉治知の家籍に入れり（大牟田市旭町一電一）

大牟田製氷、大牟田魚市場各株社長、三池無盡、大牟田瓦斯各株取締役、博多株式取引所株主監査役、鳥取縣士族

臼田久雄　明三三、一生、埼玉、長堀太郎吉五男
婿　ます　明三七、五生、養子吉之助妻、東京、臼倉五平長女
君は埼玉縣人長堀太郎の弟にして明治六年十二月二十七日を以て生れ先代壽太郎の養子となり同三十二年家督を相續す吳服太物商を營む家族は尚孫和子（昭二、一生、養子吉之助長女）同郭尹（同四、一生、同二女）同康尹（同六、二生、同三女）同敎雄（同八、八生、同長男）ありA三五七（東京市王子區豐島町二五三六電王子九五八）

臼倉錠次郎　正五位勳六等、長岡高等工業學校教授、東京府在籍

妻　映　明三三、五生、千葉、山崎傳次郎二女
男　英夫　昭三、一生

君は東京府人臼倉實藏の二男にして明治二十二年八月十五日を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す同三年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し同五年鐵道院技手となり同十年東京高等工業學校教授に轉じ同十三年長岡高等工業學校教授に任ぜらる昭和二年英米に留學し同四年歸朝す家族は尚長女みどり（昭五、五生）あり（長岡市學校町三丁目高等工業學校官舍四號）

臼倉由五郎　吳服太物商、東京府在籍

妻　あさ　明一五、七生、東京、石山鐵五郎妹

臼田久內　明三二、一生、埼玉、長堀太郎吉五男
婿　ます　明三七、五生、養子吉之助妻、東京、臼倉五平長女
君は埼玉縣人長堀太郎の弟にして明治六年十二月二十七日を以て生れ先代壽太郎の養子となり同三十二年家督を相續す吳服太物商を營む家族は尚孫和子（昭二、一生、養子吉之助長女）同郭尹（同四、一生、同二女）同康尹（同六、二生、同三女）同敎雄（同八、八生、同長男）あり（東京市王子區豐島町二五三六電王子九五八）

臼田潔

妻　珠江

男　實

女　達

明四一、一二生

男　明三九、三生

君は東京府士族臼田松次郎の長男にして明治十三年五月を以て生れ大正十年繼父和吉の後を承け家督を相續す明治三十四年東京法學院を卒業し判檢事登用試驗に合格し同三十九年判事に任じ獄來新潟宇都宮各地方北條千葉八王子東京下妻相馬各區裁判所判事下妻區裁判所判事兼水戸地方裁判所下妻支部々長長岡區裁判所判事兼新潟地方裁判所長岡支部々長等に歷補し昭和三年熊谷區裁判所監督判事兼浦和地方裁判所熊谷支部々長となり現時前記の職に在り家族は尙五男允（大五、一〇生）長女黑白子（同九、一生）二女給井（同一一、四生）次男奐（同一三、五生）弟納三郎（明二七、五生）同妻ミツイ（同四〇、八生、新潟、吉越健治郎姪）あり（松本市松本區裁判所內）

碓井榮太郎

妻　一雄

婿　トシ

男　明三四、七生、長男一雄妻、富山

明二七、三生

谷村由之助三女

君は富山縣人碓井與十郎の長男にして明治六年六月十六日を以て生れ同三十一年家督を相續す組織變更を繼承し傍ら富山縣絹物模範工場專務取締役に擧げられ興業を益ひ富山商工會議所議員に當選す家族は尙孫昌治（大九、五生、長男一雄長男）同宏司（同一一、九生、同二男）同充子（同一四、八生、同長女）同榮子（昭四、二生、同二女）あり長女セツ（明三二、七生）は富山縣人島豊次郎に妹サト（同二一、六生）は同縣人今家敬造長男喜代次に嫁し三男三郎（同三八、一二生）同妻都子（同四〇、一生、富山、谷村英三二女）は共に其の一女を伴ひ分家し弟與四郎（同一九、一生）も亦分家せり（富山市東四十物町三九電二八六八）

碓氷勝三郎

妻　千代

母　ミヤ

女　恵子

明一四、三生、新潟、窪田忠藏長女

明三〇、四生、北海道、飯田傳一姉

大五、一一生

君は故北海道多額納稅者碓氷勝三郎の長男にして明治二十五年三月を以て生れ昭和四年家督を相續し前名吉三郎を改め襲名す家業を營み碓氷合名會社代表社員にして北海道多額納稅者に列し直接國稅千百五十八圓を納む蠶に日本蠶繭諸共同販賣會社監査役を兼ねしことあり家族は尙二女きみ（大一〇、六生）妹トシ（明二八、八生）同夫榮（同二三、一二生、千葉、細組織人）及其二子同美代（同四五、三生）あり（北海道根室郡根室町）

薄井邦矛

妻　てい

養母

男　恭一

女　獅生

明二三、七生、養父佳久二女、女學習院出身

大六、二生、學習院在學

大八、三生、女子學習院在學

君は舊幕臣薄井爲三郎の長男にして日本火災保險會社取締役日本火災保險會社監査役東京倉庫會社社長等に擧げられ君實は靜岡縣人沼津銀行創立者武藤勇次郎の二男にして明治十五年十二月十三日を以て生れ佳久の養子となり大正十一年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し大日本セルロイド會社技師長兼工場長三井鳥朝後文部省に入り維新史料編纂官に任じ導いで帝國圖書館司書官を兼ぬること六年現時は前揭の任に在り讀書と旅行を好む（東京市豊島區雜司ヶ谷町五ノ七三九）

薄井福治

妻　つた

男　榕一

男　直樹

女　春子

從五位勳六等、維新史料編纂官東京府在籍

明二一、八生、小松傳語長女、松本高女出身

明四二、四生、スマトラ護謨拓殖會社員、經濟學士

明四五、二生、東京帝大在學

大三、三生、日本女大家政科在學

君は長野縣人薄井慶藏の四男にして明治十六年十一月七日を以て生れ大正元年兄貞一郎方より分れて一家を創立す明治三十八年早稲田大學高等師範部歷史地理科を卒業し直に東京帝國大學史料編纂所に勤務同三十九年清國疆建高等師範學校教授に招聘せられ同四十四年歸朝後文部省に入り維新史料編纂官に任じ導いで帝國圖書館司書官を兼ぬること六年現時は前揭の任に在り讀書と旅行を好む（東京市豊島區雜司ヶ谷町五ノ七三九）

薄井周介

妻　喜代

男　敬介

女　大二、七生、水戸高校在學

君は長野縣人薄井逸七の五男にして明治十五年九月二十五日を以て生れ大正四年兄莊介方より分れて一家を創立す明治四十年商船學校航海科を卒業し甲種二等運轉士となり日本郵船會社に入り甲種一等運轉士に進む大正元年轉じて商船學校教諭となり同四年東京高等商船學校教授に任じ同五年甲種船長となる現に生徒主事遞信技師高等海員審判所理事官を兼ぬ昭和三年海事教育視察の爲歐米各國へ出張を命ぜらる家族は尙二女久子（大一〇、三生、日本高女在學）あり（東京市小石川區小日向臺町三ノ一〇）

參照＝淡內山昇の項

太秦康光

從五位、男爵、陸軍騎兵少尉、北海道帝國大學教授、理學部勤務舊公卿家

母　信子　明八、六生、子爵山井兼武叔母

妻　智子　明三九、二生、子爵京極高光姉

當家は正三位權井併秀の二男併親の立つるところなり供親初め南都興福寺に入り慈尊院の住職となる明治元年復飾し同二年堂上に列し家姓を太秦と稱す先代併康堀河子爵家より入りて其後を承け同八年華族に列し同十七年男爵を授けらる夙に軍籍に入り陸軍步兵少佐に陞り日露役の功に依り功四級を賜ひ後貴族院議員に擧げらる君は其二男にして子爵堀河康文の從兄なり明治三十二年三月三十日を以て生れ大正十四年家督を相續し摯爵仰付らる同十一年東京帝國大學理學部化學科を卒業し同大學理學部に勤務し昭和三年より二年間文部省在外研究員として英米に留學同五年北海道帝國大學助教授に任じ同六年同教授に進み現に理學部に勤務す乘馬スキーに趣味を有す家族は尙長女寛子（昭五、一生）二女章子（同六、一一生）妹登美子（大二、一生）同美枝子（同五、七生）あり（札幌市外圓山南大通二ノ四六）

參照＝子爵京極高光、子爵堀河康文、子爵山井兼武

※從爵花山院親忠次男爵南岩倉具威の項

鶉尾謹爾

妻　キヨ

男　信

正五位勳六等、京都府在籍、京都、川崎車輛瓦斯電氣

明二六、一一生、京都、岸本精一郎三女

大七、七生

君は京都府人鶉尾謹親の長男にして明治十四年七月を以て生れ昭和三年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し朝鮮總督府鐵道管理局勤務鐵道局技師神戸鐵道局工作課東京鐵道局大井工場各勤務門司鐵道局工作課車輛掛長大阪鐵道局吹田工場長等に歷任し昭和四年鐵道技師に任ぜられ工作局工場課勤務たりしが後退官し現時前記會社の囑託たり家族は尙二女直子（大一一、五生）三女虞子（同一四、八生）二男清（昭二、一〇生）四女ちか子（同四、一〇生）五女梅子（昭七、二生）あり（東京市牛込區市谷河田町八）

歌田千勝

從五位、靜岡縣書記官、警察部長山梨縣在籍

母　しん　元治元、一生、山梨、清水源五郎妹

妻　英　明三五、七、廣島、式村茂四女

男　勝弘　大一四、八生

君は山梨縣人歌田千代太郎の長男にして明治二十七年一月十四日を以て生れ同三十七年家督を相續す大正八年文官高等試驗に合格し翌年東京帝國大學獨法科を卒業直に群馬縣屬となり次で三重縣警視廣島縣理事官地方事務官愛知縣勤務等を經て山形縣書記官警察部長等に歷任し昭和七年前記現職に任ぜらる同三年歐米各國に出張す家族は尙長女洋子（昭六、二生）あり（靜岡市縣警察部長官舍）

歌橋憲一

妻　はな

男　一典

女　美代

君は東京府士族歌橋久三郎の長男にして明治二十二年五月一日を以て生る歌橋製藥所と稱し製藥業を營む家族は尙三女わか（大一一、三生）四女都子（同一三、八生）二男昭和（昭二、一生）四男憲三（同四、三生）五女也（同三五、七生、藥學士）同妻マサ子（同四一、一生、東京、入江七平二女）及其一男一女あり妹愛（同三七、九生、日本橋高女出身）は神奈川縣人大久保忠鑑弟忠正に同寄代（同三九、九生、御茶の水高女出身）は大分縣人中里捷一郎に嫁せりA一五五八B五一六（東京市品川區南品川五ノ一三電高輪二九一）

內池廉吉

妻　ヨネ

男　和夫

明一六、秋田、逗藤竹次郎姉、東京女高師出身

大七、一二生、東京高師附屬中學在學

君は福島縣人內池三十郎の長男にして明治九年十月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治三十一年東京高等商業學校を經て同校專攻部を卒業し神戸高等商業學校教授となり商業學研究の爲歐米に遊學せし事三回大正八年法學博士の學位を受け現に東京商科大學教授兼同附屬商學專門部教授神戸高業大學教授たり二女省子（大三、一生、女子學習院出身）は男爵勝田二郎に妹貞（明二七、八生）は宮城縣人鈴木富太郎長男菊藏に嫁せりA一七一（東京市淀橋區下落合一ノ三六六電大塚三七二八）

參照＝男爵勝田二郎、鈴木菊藏の項

內ヶ崎作三郎

妻　喜代

母　とく

男　虔二郎

男　英四郎

女　光枝

玉枝

正五位、衆議院議員（宮城縣選出）早稲田大學政治經濟學部講師宮城縣在籍

明元、一一生、宮城、森谷平四郎三女

明一三、一〇生、東京、平岩愃保長女、東洋英和女學校出身

明三七、九生、鐵道經濟調査會東京出張所囑託、農學士

明四一、一一生、大阪中央放送局勤務

明四五、六生

大四、七生、櫻蔭高女出身

君は宮城縣人內ヶ崎作太郎の長男にして明治十年四月を以て生れ大正三年家督を相續す明治三十四年東京帝國大學文科大學英文學科を卒業し早稲田大學の講に應じて教授となり同四十一年より滿三ヶ年間英國牛津大學に留學し大正九年歐米及支那を漫遊す諸種の文化運動を起し又文明批判の著書「ロイド・ヂョーヂ」近代人の信仰」「リンカーン」等あり囊に國際聯盟協會理事に擧げられ又同十三年以來鄉黨より推されて衆議院議員に當選すること四回立憲民政黨に屬し昭和四年內務參與官に任ぜらる現時早稲田大學政治經濟學部講師たり家族は尙三女幸枝（大一三、一生）姉つるよ（明五、七生）及其子女ありA四一七（東京市豊島區巣鴨六ノ一四七〇電大塚一八七七）

內ヶ崎良平

靈水港製糖、臺灣生藥各總取締役宮城縣在籍

母　とみ
妻　てる
男　良太郎　大八、一生
君は宮城縣人内ケ崎多三郎の長男にして明治二十一年一月を以て生れ同二十八年家督を相續す同四十四年早稲田大學商科を卒業し鹽水港製糖會社に入り營業部計算係長經理部次長兼販賣係長新宮製糖所長事務取扱每を經て同社參事總務部長兼經理部長並調査課長に進み現時同社取締役を兼ねて臺灣生業會社重役たり家族は尙長女和（大一〇、三生）二男良男（同一二、一生）三男節三（同一四、一〇生）養弟龍治（明三一、一生、宮城、内ケ崎豐一郎弟）あり姉やす（同一七、一一生）は宮城縣人内ケ崎萬長衛長男常吉に嫁し姉よし（同二四、四生）同夫勝三郎（同一八、一生、宮城、君生重右衛門弟）は其子女を伴ひ分家せり（臺灣臺南州新營郡新營庄新營六五）
參照＝※蘆崎三郎助の項

内倉倉吉

地主　東京府在籍
繼母　ちよ　明元、二生、東京、櫻井初五郎妹
妻　あき　明二七、八生、東京、石原惣三妹
男　顯美　昭七、一生
女　のぶ　大二、三生
君は東京府人内倉嘉右衛門の長男にして明治二十三年三月を以て生れ大正九年家督を相續す地主たり家族は尙二女政枝（大一〇、五生）姉すて（明三、一一生）弟常吉（同四二、二生）あり同政吉（同二八、八生）は同妻ツヤ（同三四、二生、東京、梅田久三郎二女）と共に分家し同安五郎（同三六、七生）も又分家し妹なみ（同二六、七生）は東京府人荻本善次郎に同かつ（同四〇、二生）は同府人荒川政一に嫁せりA一〇八八（東京市淀橋區柏木四ノ九四二）

内田旭

三十五銀行總監査役
靜岡縣在籍
妻　はづへ　明一八、一生、靜岡、大富部喜兵衛五女

内田今五郎

地主　東京府在籍
妻　タリ　明一四、九生、福島、長谷部文治郎妹
男　桂一郎　明四四、一一生、東大農學部在學
女　雅子　明四四、一〇生、精華高女出身
男　俊二　大二、四生
君は栃木縣人海老原孫一郎の三男にして明治九年五月を以て生れ先代健藏の養子となり同四十二年家督を相續す義に愛國社と稱し醸造雜誌を發行し傍ら酒醤油醸造機具藥品等の販賣に從事せしも現時專ら土地經營に從事す家族は尙三男道夫（大五、二生）四男靜雄（同七、三生）ありA一二〇三（東京市四谷區右京町二五電四谷四〇三五）

内田勝司

商學、博士、明治大學教授、同大學證事、東亞興業株常務取締役
千葉縣在籍
妻　ます　明二三、三生、千葉、齋藤平右衛門長女
男　司　明四三、八生、大倉商事會社員、明大商學部出身
婦　萬代子　明四五、一生、長男司妻、東京田中千代男妹、精華高女出身
君は千葉縣内田平吉の二男にして明治十八年七月十七日を以て生れ大正三年分家して一家を創立す明治四十年明治大學商科を卒業し三井物產會社に入り大正三年農商務省より南支那に派遣せらる同四年母校明治大學教授となり同六年十二月東亞興業會社に入り前記現職に在り義に商學博士の學位を授けらる「支那爲替論」「外國爲替理論」其他の著書あり家族は尙二男正（大五、七生）三男寛（同九、六生）二女淑子（同一三、一二生）あり長女靜子（同三、三生）は東京府人小笠原武夫に嫁せりA七六〇（東京市中野區天神町一九電中野二五七八）

内田龜市

大津商工會議所議員、近江製氷株式會社監査役、魚商、京都府在籍
妻　ふじ　明二〇、一生、福井、高城熊藏姉
男　龜藏　明四〇、一生
男　善市　大三、六生
女　富久子　大五、七生

内田幾助

東京府多額納稅者、釘屋内田商店、銅鐵商、葛飾瓦斯株式會社取締役、東京府在籍
母　わか　安政四、八生、東京、内田富五郎長女
妻　たま　明三二、九生、東京、木村德兵衛長女
男　豐一　大一〇、一生
女　和子　大八、三生
君は東京府人先代幾助の三男にして明治二十六年五月二十八日を以て生れ大正二年家督を相續し前名眞吉を改め襲名す釘屋内田商店と稱し銅鐵商を營み傍ら現時葛飾瓦斯會社重役にして東京府多額納稅者に列す家族は尙二男晋二（大一四、一生）二女幸子（昭二、七生）三男寛（同四、一二生）弟淺之助（明三三、六生）あり妹仙（明一九、五生）は東京府人清岡榮之助に嫁せりA一四四九〇B一六八六（東京市本所區石原町四ノ八電局曇田七三二）
參照＝木村德兵衛、清岡榮之助※木村球四郎※木村孝太郎※黑川綱三郎の項

内田市郎左衛門

伊豆相互勸業貯蓄銀行、富士自動車、朝日製氷冷藏各株式會社取締役、熱海瓦斯株式會社監査役、清水快樂古屋旅館代表社員、靜岡縣在籍
妻　ヒサ　明五、一〇生、神奈川、小林助三郎養子
男　勇次　明二八、八生、熱海電氣鐵道株式會社取締役
婦　喜久　明三二、九生、二男勇次妻、神奈川、奥野增藏姪
男　辰雄　明三七、一生、慶大出身
婦　綾子　明四一、一生、四男辰雄妻、東京、森武保妹
男　章五　明三九、一〇生、東京工業試驗所技手、理學士
婦　とも　明四三、三生、五男章五妻、靜岡新聞嘉兵衛妹
君は靜岡縣人先代市郎左衛門の長男にして明治四年二月を以て生れ同二十七年家督を相續し前名好太郎を改め襲名す現時前記銀行會社の重役にして義に熱海町長に就任すること二期に及べり家族は尙孫榮太郎（大六、八生、二男勇次長男）同滋（同九、八生、同二男）同興三（同一二、一二生、同三男）同昌男（同一五、三生、同四男）あり三男貞三（明三一、九生）は外祖父小林助三郎の養子となり妹みや（同九、一一生）は東京府人野口龜吉に同まん（同二一、五生）は東京府人宇野寗三郎に嫁し弟慶三（同二三、一〇生）同妻ちゑ（同二四、八生、東京、山本正三姉）は其子女を伴ひ叔母ちよ（同元、六生）は同夫靜雄（文久三、六生、山梨、齋藤和三郎兄）は各分家せり（靜岡縣田方郡熱海町二七六電一六）

内田逸治

日の丸寫眞館、寫眞撮影業
大阪府在籍
妻　鹿女　明一六、七生、奈良、巽新五郎二
男　源五郎　明三五、四生
婦　イヱ　明三五、四生、長男源五郎妻、奈良、北川富藏長女
女　豐子　大六、三生
君は石川縣人古川熊太郎の庶子にして明治十四年四月五日を以て生れ先代イウの養子となり大正七年家督を相續す日の丸寫眞館と稱して寫眞撮影業を營む資產家たり家族は尙四男晴造（大四、一〇生）孫福造（同一三、四生、長男源五郎長男）同かね（昭二、五生、同長女）同恒子（同六、一二生、同二女）あり二男謙三（明四一、三生）は同妻シヅ子（同四三、五生、奈良、野口由太郎二女）と共に其二子を伴ひ分家し三男祐吉（同四三、一一生は）大阪府人安野サカヱの養子となり二女富子（同三八、四生）は同府人吉川淺市長男勝男に嫁せりA四三九（大阪市東成區東小橋南之町一ノ二五ノ一電南六〇八二）

君は京都府人内田利助の二男にして明治十年六月を以て生れ同三十九年兄德松方より分れて一家を創立す魚商を營み傍ら現時前記會社の重役にして推されて大津商工會議所議員たり家族は尙五男喜三（大七、一生）二女喜久子（同九、五生）三女隆野（同一一、四生）四女登三子（同一三、八生）あり二男勝（明四二、三生）は京都府人内田德之助の養子となりA九一四（京都市中京區河原町二條下ル電話上四九〇四・五四八八）
參照＝内田龜藏の項

内田龜藏

京都生魚組取締役
京都府在籍
父　龜市　明一〇、六生、現戸主
妻　ひさ子　郎六女　明四〇、一一生、兵庫、林田久次
君は京都府人内田龜市の長男にして明治四十年一月十五日を以て生る現時京都生魚會社取締役たり家族は尙長女和江（昭四、一〇生）二女喜代江（同五、一一生）ありA七三六（京都市中京區河原町通二條下ル電上五四八八）
參照＝内田龜市の項

内田寛一

正五位勳五等、東京文理科大學助教授、兼東京高等師範學校教授
妻　テイ　明三一、九生、香川、石川八十井長女
君は佐賀縣士族内田重雄の四男にして明治二十一年三月を以て生れ大正九年兄房太郎方より分れて一家を創立す明治四十三年東京高等師範學校本科地理歷史部を各卒業し文部省圖書官同圖書編修官を經て同十三年東京高等師範學校教授兼浦和高等學校教授に任じ現に前記の職に在り昭和三年より四年に亘り英佛兩國に留學す著書に「大戰後の世界地理概觀」「改造世界地圖」「最新世界地圖」「日本地圖」「日本產業地域圖」「郷土地理研究」「初島の經濟地理に關する研究」「經濟地域の諸問題に關する研究」「隨筆「山のこなた」譯本「西藏探險記」「史」其他著書多し（京東市中野區仲町二ノ二電四谷七〇一七）

内田喜一

花園商會株式會社長
埼玉縣在籍
母　もよ　明一〇、九生、埼玉、山崎富太郎妹
妻　なか　明三四、四生、埼玉、笠間茂平妹
男　常彦　大一二、八生
君は埼玉縣人内田文平の長男にして明治二十九年十一月を以て生れ昭和四年家督を相續す大正七年早稲田大學商科を卒業し三井物產會社に勤務せしが現時花園商會社長にして義に埼玉縣農工銀行監査役たりしことあり家族は尙長女茂登子（大一四、五生）二女光子（同一五、八生）三女美代子（昭三、一〇生）二男俊次（同五、七生）妹花子（大七、四生）あり（埼玉縣大里郡花園村）

内田清

福井縣多額納稅者、織物業
福井縣在籍
養母　とく　明三、二生、神奈川、士、山室慶三妹
妻　まさ　明四一、四生、福井、高島仲右衛門五女
君は福井縣人諸新平の二男にして明治三十六年三月三日を以て生れ先代清の養子となり昭和七年家督を相續し前名孝次を改め襲名す織物業を營み縣下の多額納稅者に列し直接國稅六百八十八圓を納む家族は尙長女さよ（昭二、二生）あり（福井市照手下町）
參照＝高島仲右衛門の項

内田金衛

倉敷商工會副議長、倉敷商工會議所副會頭、岡山縣多額納稅者、倉敷綿布、井原織物、各株式會社取締役、倉敷瓦斯株式會社監査役、金融業
父　善四郎　文久二、九生
母　久滿　萬延元、二生、祖父金衛長女
妻　トク　明二〇、七生、岡山、仁科亨作妹
男　一衛　明四二、三生
女　俊子　明四四、一生
女　美苗　大三、一二生
君は岡山縣人内田善四郎の長男にして明治十八年八月を以て生れ同三十九年先代祖父金衛の後を承け家督を相續し前名金七を改め襲名す同四十三年日本大學を卒業し金融業を營み直接國稅千六百四十八圓を納め縣下の多額納稅者にして傍ら前記各會社の重役及各種組合

理事組合長同市々會副議長倉敷商工會議所副會頭たり曾て倉敷商業銀行監査役早鳥紡績倉敷土地各會社取締役たりしことあり家族は尚二男嘉彦(大六、一生)三男尚(同八、二生)三女璦子(同一〇、一〇生)四男堯(同一二、一〇生)五男哲郎(昭二、二生)あり(倉敷市倉敷四七七電一三四)

内田金藏

佐野屋、綿布卸商
東京府在籍

養子　留次郎　明二二、二生、亡長女とく夫、滋賀、藤井彌三郎弟

君は福井縣人佐野重右衛門の二男にして文久三年十月十日を以て生れ先代官治の養子となり明治十七年家督を相續す佐野屋と稱し綿布卸商を營む家族は尚孫舶藏(大一二、一二生、養子留次郎長男)同修二郎(同一一四、一〇生、同二男)同健藏(昭四、一生、同三男)ありA一五六八B二〇四(東京市日本橋區堀留町二ノ八ノ一電浪花一九一九)

内田敬三

内田醬油㈱社長、滿洲海陸運送㈱代表取締役、山下汽船、阪神築港東洋海運、北鮮林業、渡川水力電氣各㈱取締役、昭和興業㈱監査役

妻　キミ　明二五、七生、京都、大久保信次郎養子

男　曙男　大一二、一生、武藏高校尋常科在學

女　敬子　大六、一一生、雙葉高女在學

當家の家祖内田十内は減前の國倉敷景の舊臣にして天正年間一乘没落の後福井に出で商賈と爲る五世内田會平三國町に分家し其の嫡男内田庸六世を嗣ぐ通稱惣右衛門と云ひ耕齊と號す北陸屈指の豪商として福井藩の財政を輔けて功あり秩祿三百石を賜ひ郷士を以て遇せられ其名最も顯はるる君は其の分家にして先代敬三の長男なり明治二十一年十月一日を以て生れ同二十八年父の死後を承けて家督を相續し襲名す大正二年東京高等商業學校專攻部を卒業し日本銀行に勤務する事四年大正六年山下汽船會社に入り現に同社取締役たるの外前記各會社重役を兼ぬ家族は尚二女俊子(大一五、五生)二男國木(昭四、四生)ありA四一二(東京市品川區上大崎一ノ四七二電高輪一六二九)

内田賢二

名古屋株式取引所取引員
愛知縣在籍

妻　まき　明二二、九生、愛知、加藤金右衛門三女

養子　竹三郎　明四一、四生、愛知、安藤慶太郎三男

婦　かね子　大二、一一生、養子竹三郎妻、愛知、早川兵左衛門孫

君は愛知縣人内田忠七の三男にして明治二十年六月十二日を以て生れ大正十年家督を相續す名古屋株式取引所取引員たり家族は尚孫冴子(昭七、一二生、養子竹三郎長女)ありA一八四二B三三四(名古屋市中區下前津町一二六電南五六一)

内田玄英

内田商事㈱取締役、農業
福岡縣在籍

養母　タネ　文久二、八生、福岡、井上榮太郎養母

妻　アキ　明三二、三生、佐賀、士、橋本榮治妹

男　英之助　明四三、一〇生

君は福岡縣人山崎泰英の二男にして明治十七年五月を以て生れ先代肇の養子となり大正十五年家督を相續す農業を營み傍ら内田商事會社取締役たり家族は尚長女セキ子(大一四、七生)二男典次(昭三、一一生)妹キミ代(大一三、一一生)ありA一二六　福岡縣糟屋郡美町

内田孝藏

醫學博士、丸ビル眼科醫院長、乃木坂内田眼科病院長、醫師
東京府士族

母　きさ　嘉永元、一〇生、長野、士、中林太次衛五女

妻　政惠　明二七、六生、大分、太田熊夫四女

大七、六生

君は長野縣士族内田文學の三男須田卓爾の弟にして明治十四年九月二十七日を以て生れ同四十三年家督を相續す大正元年九州帝國大學醫科大學を卒業し後醫學博士の學位を受く醫を開業し乃木坂内田眼科病院長にして丸ビル眼科醫院長を兼ぬ家族は尚長女妙子(昭二、一生)あり(東京市赤坂區青山南町一ノ五〇電青山四三七五)

参照＝須田卓爾※土橋源藏※妻木栗造の項

内田耕三

大和貿易㈱社長
東京府在籍

妻　コト　明二二、七生、重久篤健二女

男　正作　大三、四生

女　モト　大元、一〇生

君は東京府士族内田耕作の三男にして明治十三年十一月六日を以て生れ大正二年兄嘉作方より分れて一家を創立す現時大和貿易會社長たり家族は尚三男寅男(大六、一二生)四男正三郎(同八、二生)二女錫子(同九、七生)五男稔(同一二、八生)三女政(同一五、一生)あり(神奈川縣鎌倉郡鎌倉町雪ノ下七七〇)

内田佐七

知多銀行㈱頭取、敷島製パン㈱取締役、愛知縣在籍

妻　とし　明一九、一一生、愛知、鵜飼源六三女

男　佐太一　明三八、四生

男　正之　明四二、一一生

女　由紀子　大四、一生

君は愛知縣人先代佐七の長男にして明治十一年七月を以て生れ同十六年家督を相續し襲名す現に知多銀行頭取たる外前記會社の重役たり家族は尚四男新五(大六、九生)五男良朗(同九、九生)あり弟佐平二(明一二、七生)は愛知縣人内田こうの養子となり同三郎(同一三、八生)は同妻りう(同三三、八生、愛知、瀧井國雄姉)と共に弟秀四郎(同一五、一二生、工學士)同妻操(同二六、一一生、東京、士、關野修藏四女)は其子女を伴ひ各分家し長女千江(同四一、一生)は岐阜縣士族川井一弟外治に嫁せり(愛知縣知多郡内海町雷三)

参照＝川井一※關野謙吉の項

内田治助

八百治、乾物商
福岡縣在籍

妻　サキ　明九、一一生、福岡、郡島喜平二女

養子　平助　明四一、一生、養子シナ夫、福岡、佐藤平次郎二男

養子　シナ　明四四、一二生、養子平助妻、福岡、郡島喜平孫

君は福岡縣人内田治平の二男にして明治五年七月を以て生れ昭和二年先代兄次兵衛の後を承け家督を相續す八百治と稱し乾物商を營む家族は尚亡兄次兵衛妻イノ(明七、二生、福岡、郡島喜平長女)ありA九四四B一〇八(福岡市奈良屋町一二電一二〇)

内田鹿藏

内田タンス店㈱代表社員、算筍婚禮道具商、大阪府在籍

母　知賀　慶應元、一〇生、和歌山、出張市右衛門四女

妻　ます　明二六、五生、大阪、志築榕三郎妹

男　隆造　大二、一二生

君は大阪府人先代龜藏の二男にして明治二十二年九月三十日を以て生れ大正六年家督を相續し前名二郎を改め襲名す内田鹿算筍店と稱し市内有數の算筍及婚禮道具商として知られしが昭和五年組織を改め合名會社内田タンス店と稱し現時其代表社員たり家族は尚二男惠三(大五、一一生)三男昌男(同一〇、二生)長女百合子(同一二、八生)あり四男照和(同一五、五生)は外戚志築榕三郎の養子となれり(大阪市東區西久太郎町四ノ二電船場二〇七七)

内田茂

大阪商船㈱神戸支店長
大分縣在籍

妻　タミ　明二七、八生、長崎、松岡精一妹

君は大分縣士族内田登也の三男にして明治十六年九月を以て生れ大正元年兄登の後を承け家督を相續す夙に早稲田大學を卒業し大阪商船會社に入り紡績部門各在勤を經て大正十三年タコマ支店長に轉じ現時同社神戸支店長たり(兵庫縣武庫郡御影町城ノ前一四三八電御影五二三二)

内田重次郎

足袋商
東京府在籍

妻　すき　明二四、四生、東京、森錄之助叔母

男　圓之助　大七、一生

女　竹子　大元、八生

女　月子　大三、一生

女　大五、三生

君は東京府人内田角五郎の長男にして明治十五年七月を以て生れ大正四年家督を相續す足袋商を營む家族は尚二男山之助(大九、九生)四女貞(同一一、八生)三男一〇生)長女百合子(同一二、一生)妹とよ(明二六、五生)は外戚志築榕三郎の養子となれり(大阪市東區西久太郎町四ノ二電小石川一一電小石川一四二六)

内田重成

從三位勳一等、貴族院議員、山陽電氣軌道㈱取締役、山口縣士族

妻　コウ　明五、八生、養父護長女

男　護文　明三四、三生、東京地方裁判所判事、法學士

婦　幾久　明三四、一〇生、長男護文妻、山口、平田道成養母

男　幸成　明三七、一生、上田蠶業學校出身

男　道成　明四〇、一〇生

女　正子　大六、一生

君は山口縣士族平井健助の弟にして明治元年一月を以て生れ先代護の養子となり大正八年家督を相續す明治三十二年文官高等試驗に合格し司法官試補となり檢事及海軍法務局長等に歷任し更に貴族員議員に勅選せられ今日に至る又現に前記會社の重役たり家族は尚孫博就(大一四、四生、長男護文長男)同昭就(昭二、五生、同二男)ありA二四、四生、長男護文長男)同昭生、工學士)は熊本縣人杉原惟敬の養子となれり(山口縣豐浦郡清末村「控邸」東京市牛込區北山伏町三七)

参照＝杉原惟敬の項

内田重之助

地主
東京府在籍

妻　あさ　明二三、一〇生、東京、海老澤勝五郎三女

男　靜雄　明四四、五生

女　しげ　大二、七生

女　とし　大五、五生

君は東京府人内田晉次郎の二男にして明治十八年四月二十日を以て生れ大正九年家督を相續す地主たり家族は尚二男武雄(大七、八生)四女みね子(同一〇、八生)三男三郎(同一四、一生)五女秀子(昭六、八生)あり長女かま(明四二、五生)は東京府人石井清太郎二男銀藏に嫁し弟角次郎(同二五、九生)同妻はつ(同二三、一二生、東京、酒井倉次郎長女)は其三子を伴ひ同慶三(同二八、一生)同妻靜(同四一、九生、東京、佐布松之助長女)は一子を伴ひ各分家せりA三四七(東京市在原區小山町一八一)

内田祥三

從四位勳三等、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、地震研究所員、東京帝國大學營繕課長事務取扱、東京府在籍

妻　みね　明二六、一一生、東京、士、橋本武長女

男　祥文　大二、一〇生、日大工學部在學

男　美祥　柯　大七、五生、府立第三高女在學

君は東京府人内田安兵衛の長男にして明治十八年二月を以て生れ同二十二年家督を相續す同四十年東京帝國大學工科大學建築學科を卒業し三菱合資會社本社技手を經て大正五年東京帝國大學工科大學助教授に任じ同八年工學博士の學位を授與せらる同十年同大學教授に任じ工學部に勤務する外現時前記の職に在り又震災豫防評議會評議員學術研究會議會員に擧げらる家族は尚二男祥哉(大一四、五生)あり妹いと(明一九、一二生)は東京府人荒井惠亡兄欽哉に嫁せりA八七三(東京市麻布區笄町一四二電青山四四二三)

参照＝荒井惠の項

内田信也

從三位勳三等、鐵道大臣、衆議院議員(茨城縣選出)、東京府在籍

妻　サキ　大二、七生、山口、兄窪田四郎長男

君は茨城縣人内田寛の六男にして窪田四郎の弟なり明治十三年十二月六日を以て生れ同四十四年兄誠太郎方より分れて一家を創立す同三十八年東京高等商業學校を卒業し海運業を營み内田商事内田造船帝國窯業各會社々長明治海運東京毛布國際汽船朝日海上火災保險各會社取締役に就任し大正十三年以來郷里茨城縣より推されて衆議院議員に當選する事四回昭和二年

田中内閣成るや海軍政務次官に任ぜられ亦遞信政務次官に歴任昭和九年七月岡田内閣に列し鐵道大臣に親任せらるる曩に水戸高等學校創設費を寄附し紺綬褒章を賜はる（東京市麻布區三河臺町二八電赤坂三〇八）

参照＝窪田四郎の項

内田慎太郎

小兒科内田病院長、醫師
東京府士族
明一一、四生、栃木、小林庄一郎
妻　トク
男　慎一郎　明三六、六生、昭和醫專出身

内田家は代々幕府に仕へたる家柄にして其始祖は藤原氏なり先代祐順は義に大藏省に勤務せり君は其長男にして慶應二年十二月十六日を以て生れ明治十六年家督を相續す同二十九年東京帝國大學醫科大學を卒業し直に同大學小兒科助手となり小兒科研究に從事する事四年後小兒科專門内田病院を開設し自ら其の院長となり都下有數の小兒科醫として知らる曩に淺草區醫師會副會長東京市醫師會理事文部省醫術開業試驗委員等に擧げられ現に淺草區醫師會長たり趣味として釣魚書畫音樂を好む長女喜美（明三三、一生、東京女學館出身）は東京帝國大學醫學部講師醫學博士山本康祐に二女良子（同三八、八生府立第一高女出身）は神奈川縣人篤緑賀易商横濱取引所取引員小島周次郎に三女文子（同四〇、六生、御茶の水高女出身）は東京府人醫學士小林豊に嫁せりA七二六（東京市淺草區淺草橋三ノ一七ノ二電淺草五〇三七・五〇三八）

参照＝小島周次郎の項

内田助治郎

酒類薪炭商
東京府在籍
明一五、一〇生、愛知、黒柳留吉
妻　てい　長女
男　一郎　明四二、一一生
婿　静　大三、七生、長男一郎妻、埼玉、遠藤孝吉四女

君は埼玉縣人内田源藏の弟にして明治十一年一月六日を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す明治三十八年現地に於て和洋酒食料品店を開業し刻苦勉勵して今日の產をなし現に酒類薪炭商を營む長女政子（明三七、一生）は東京府人金子直衛に二女富子（同四〇、一生）は同府人伊藤榮一に嫁せりA四二三（東京市芝區西久保八幡町七電芝一六七七）

内田清一

佐賀縣會議員、九州農產肥料總取締役、大川企業株式會社監査役、清和高等女學校主、佐賀縣在籍
妻　ウタ
男　喜久雄　明二一、八生、佐賀、江島元吉二女
女　大二、三生

君は佐賀縣士族北野安五郎の弟にして明治十三年五月を以て生れ後内田喜右衛門の養子となり同二十九年分れて一家を創立す現時清和高等女學校主にして前記各會社の役員を兼ね佐賀縣會議員に擧げらる長女フミ（明四二、一二生）は佐賀縣人若林嘉茂に嫁せり（佐賀市與賀町五二電六四〇）

内田清三

足利紡績株式會社常務取締役
東京府在籍
萬延元、八生、静岡、宇佐美藤一郎長女
妻　静江　明三〇、一二生、栃木、齋藤積善妹
男　清一郎　大九、一生、市立一中在學
女　誠子　大四、一生

君は東京府人内田忠行の二男にして明治十八年八月一日を以て生れ同三十九年家督を相續す同四十年東京高等商業學校を卒業し現に足利紡績會社常務取締役たり家族は尙長女正子（大一〇、九生、御茶の水高女在學）二女文子（同一二、九生）弟新造（明三一、三生）同妻隆子（同四三、一〇生、新潟、片桐秀治四女）及其二子あり妹榮（同二八、一二生）は愛知縣人大野成一に嫁せりA一三八（東京市麹町區五番町四電九段三一二六）

参照＝齋藤積善の項

内田清之助

正五位勳六等、農學博士、農林技師、畜產局兼山林局勤務、埼玉縣在籍
妻　静江　明二七、九生、東京、中川清妹
男　清一郎　大五、二生
女　誠子　大四、一生

君は東京府人内田安兵衛の長男にして明治十七年十二月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十一年東京帝國大學農科大學獸醫科を卒業し警察練習所講師農商務省囑託東京帝國大學理科大學閣手同農科大學講師農商務技師等に歷任し現時農林技師にして畜產局並に山林局に勤務し為獸調査事務を擔當す傍ら東京帝國大學農學部講師文部省囑託國立公園調査會委員等に擧げらる動物學特に鳥學の研究家にして「日本鳥類圖說」其他の著書あり大正十四年農學博士の學位を授けられ昭和二年布哇ホノルに開催の汎太平洋教育會議に文部省より本邦代表として列席を命ぜられ同年農林省より歐米各國に出張す家族は尙二女町子（大九、九生）二男清二郎（同一二、一〇生）三女照子（同一五、一一生）弟男三郎（明二七、一二生）ありA一四〇（東京市澁谷區青葉町八）

参照＝中川清の項

内田善助

白善、莫大小商
愛知縣在籍
明一五、七生、愛知、士、安藤信之四女
妻　すみ
男　喜久雄　大二、三生
女　久雄　明二一、八生、佐賀、江島元吉二女

君は佐賀縣士族北野安五郎の弟にして明治十三年五月を以て生れ後内田喜右衛門の養子となり同二十九年分れて一家を創立す現時清和高等女學校主にして前記各會社の役員を兼ね佐賀縣會議員に擧げらる長女フミ（明四二、一二生）は佐賀縣人若林嘉茂に嫁せり（佐賀市與賀町五二電六四〇）

内田清三

足利紡績株式會社常務取締役
東京府在籍
萬延元、八生、静岡、宇佐美藤一郎長女
妻　静江　明三〇、一二生、栃木、齋藤積善妹
男　清一郎　大九、一生、市立一中在學
女　誠子　大四、一生

君は東京府人内田忠行の二男にして明治十八年八月一日を以て生れ同三十九年家督を相續す同四十年東京高等商業學校を卒業し現に足利紡績會社常務取締役たり家族は尙長女正子（大一〇、九生、御茶の水高女在學）二女文子（同一二、九生）弟新造（明三一、三生）同妻隆子（同四三、一〇生、新潟、片桐秀治四女）及其二子あり妹榮（同二八、一二生）は愛知縣人大野成一に嫁せりA一三八（東京市麹町區五番町四電九段三一二六）

参照＝齋藤積善の項

内田善助

白善、莫大小商
愛知縣在籍
明一五、七生、愛知、士、安藤信之四女
妻　すみ
男　喜久雄　大二、三生
女　久雄　明二一、八生、佐賀、江島元吉二女

君は佐賀縣士族北野安五郎の弟にして明治十三年五月を以て生れ後内田喜右衛門の養子となり同二十九年分れて一家を創立す現時清和高等女學校主にして前記各會社の役員を兼ね佐賀縣會議員に擧げらる長女フミ（明四二、一二生）は佐賀縣人若林嘉茂に嫁せりA四二三（東京市芝區西久保八幡町七電芝一六七七）

内田清一

佐賀縣會議員、九州農產肥料總取締役、大川企業株式會社監査役、清和高等女學校主、佐賀縣在籍
妻　ウタ
男　喜久雄　明二一、八生、佐賀、江島元吉二女
女　久雄　大二、三生

君は佐賀縣士族北野安五郎の弟にして明治十三年五月を以て生れ後内田喜右衛門の養子となり同二十九年分れて一家を創立す現時清和高等女學校主にして前記各會社の役員を兼ね佐賀縣會議員に擧げらる長女フミ（明四二、一二生）は佐賀縣人若林嘉茂に嫁せりA四二三（東京市芝區西久保八幡町七電芝一六七七）

君は東京府人内田安兵衛の長男にして明治十七年十二月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十一年東京帝國大學農科大學獸醫科を卒業し警察練習所講師農商務省囑託東京帝國大學理科大學閣手同農科大學講師農商務技師等に歷任し現時農林技師にして畜產局並に山林局に勤務し為獸調査事務を擔當す傍ら東京帝國大學農學部講師文部省囑託國立公園調査會委員等に擧げらる動物學特に鳥學の研究家にして「日本鳥類圖說」其他の著書あり大正十四年農學博士の學位を授けられ昭和二年布哇ホノルに開催の汎太平洋教育會議に文部省より本邦代表として列席を命ぜられ同年農林省より歐米各國に出張す家族は尙二女町子（大九、九生）二男清二郎（同一二、一〇生）三女照子（同一五、一一生）弟男三郎（明二七、一二生）ありA一四〇（東京市澁谷區青葉町八）

参照＝中川清の項

内田壯

正五位勳四等、工學博士、東京工業大學教授、東京府在籍
母　ふさ　明元、四生、静岡、士、桃立榮二女
妻　サイ　明三〇、六生、岩手、士、狐崎富敬二女、東京女學館出身
男　星美　大一五、五生

君は舊幕臣從四位勳三等内田萬次郎の長男にして明治二十一年五月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治四十五年東京帝國大學工科大學を卒業し農商務省林業試驗場東京帝國大學講師東京高等工業學校教授東京商

科大學講師等に歷任し昭和二年工學博士の學位を受く同二年三月獨米瑞西に留學を命ぜられ同四年八月歸朝す現時東京工業大學教授たり家族は尙長女留里子（大九、八生）二女滿里子（同一二、六生）あり姉花子（明一九、八生）は東京外國語學校授田代光雄に妹カツ子（同二三、九生）は横濱正金銀行員松村孫一に同キツ子（同二六、九生）は農林技師農學士喜松博に嫁せり（東京市淀橋區百人町三ノ三四五電四谷一四一五）

参照＝田代光雄、高松博、松村孫一の項

内田武次

地家主
東京府在籍
大元、一〇生、東京、田中敏男繼子
男　維夫　昭七、一生

君は東京府人内田新五郎の二男にして明治四十年十二月三十一日を以て生れ大正十五年家督を相續す地家主たり家族は尙長女範子（昭九、一生）養姉すゑ（明九、一生、静岡、笠藤金市妹）弟三平（同四三、七生）同妻ノブ（同三七、六生、福島、齋藤澤次妹）及其四子弟松二郎（大九、四生）ありA六六三（東京市小石川區小日向三軒町七電小石川五七五三）

内田長吉

榮太樓支店、菓子商
東京府在籍
明一九、九生、養父長吉二女
妻　とく　大一〇、五生
男　以志夫　大元、八生
女　百子　大四、四生
　　牛　大七、二生
女　貞　大七、二生

君は長野縣人大脇牧の四男にして明治十六年十月を以て生れ先代長吉の養子となり同四十五年家督を相續し大正六年襲名して前名隆二を改む榮太樓支店と稱し菓子商を營む長女サダヲ（明四二、九生）は東京府人村上重三郎長男重太郎に妹かめ子（同二五、一一生）は三重縣人堀木安太郎弟重兵衛（同三〇、一一生）は東京府人宮島新太郎養子信次郎に同トミ子（同三六、一〇生）は同府人西宮保吉に嫁せりA二五八B八五（東京市芝區濱松町二ノ二ノ一七電芝三二八）

参照＝村上重三郎の項

内田恒太郎

前大日本蚕糸會監査役
岡山縣在籍
明五、八生、岡山、士、江田俊親長女
妻　雪　明二八、一二生、工學博士、東京工業大學教授
男　俊一　明三六、六生、長男俊一妻、故陸軍害顧問官有松英義二女、女子學習院出身
婿　常　明四〇、一一生
女　千代子　明四三、六生
男　英二

君は岡山縣人内田武壽の長男にして明治元年一月を以て生れ明治六年家督を相續す養に三井物產會社横濱支店山陽倉庫銀行岡山銀行等に勤務して大日本蚕酒會社に入り樹來巢遞して商務課長名古屋出張所長及び東京出張所長取締役監査役等を歷任し現時閑地にあり宗族は尙祖父久雄（大一五、二生、長男俊一長男）同武雄（昭三、一生、同二男）同光雄（同四、一生、同三男）ありA一六五（東京市麻布區廣尾町三五電高輪二五五〇）

参照＝井田耕治の項

内田十喜治

從五位勳五等、工學博士、岐阜縣多額納稅者、岐阜縣在籍
妻　はる　明二一、七生、養父甚三郎養子、男僣井田磐楠妹
男　俊郎　大二、七生

君は岐阜縣人森川準之助の次男にして明治十六年六月を以て生れ先代甚三郎の養子となり大正十一年家督を相續す明治四十年東京都帝國大學理工科大學製造化學科を卒業し珠那鐵器製造會社技師となる同四十一年農商務省海外實業練習生となり英米獨各國に留學す歸朝後同社技師長に進みしが大正三年之を辭し工業試驗所技師に任ぜられ大阪工業試驗所第三部長に補せらる昭和八年退官し現時閑地に在り岐阜縣多額納稅者にして直接國稅九百二十九圓を納む家族は尙二男逸郎（大六、八生）發叔徒歌定（明一〇、四生）あり（岐阜縣海津郡西江村）

参照＝※男僣坊城俊賢の項

内田敏雄

正五位、男爵
東京府華族
明一三、一二生、東京、西山清水長女
母　鶴　明三九、九生、石川、時國甫太郎六女
妻　敏子

當家は先代正敏より家名を揚ぐ正敏は舊高知藩士にして明治十一年海軍少尉に任じ後海軍中將に累進す其間千代田高砂八島各艦長吳鎭守府海兵團長佐世保海軍港務部長同海運部長同豫備船部長常備艦隊司令官吳鎭守府艦隊司令官等に歷補し日清戰役に功四級を賜ひ同四十年日露戰役の功により華族に列し男爵を授けらる後貴族院議員に互選せらるゝ事三期に及ぶ君は其孫にして明治三十三年十二月五日を以て生れ大正十一年家督を相續し襲爵す學習院高等科を經て同十二年東京帝國大學法學部政治科を卒業し現時東京市社會局に勤務す弟榮二（明三六、一生、法學士）は山口縣人依岡省輔の養子となれり（東京市淀橋區西大久保三ノ二七電四谷六三二八）

参照＝男僣本多政樹※右近權左衛門の項

内田豐吳

醫師
石川縣在籍
安政五、一一生、栃木、生澤豐吉二男
妻　よし　明一七、四生、青森、松倉儀助妹女、高岡高女出身
男　一　大一〇、七生
　　巴　大二、二生
女　子　大七、一生
　　佐和子

君は栃木縣人富田梅吉の庶子にして明治二十五年二月を以て生れ先代總一の養子となり昭和三年家督を相續す醫師として知られ名望家たり讀書に趣味を有す家族は尙三女恒子（大一二、二生）二男守（同一四、一生）養弟九一（同五、九生）同十一（同九、一〇生）あり（金澤市味噌藏町間ノ町七）

内田信保　正七位勳六等、明治神宮外苑管理署長、長崎縣在籍
妻　クリ　明元、一生
男　久吉　明二三、一一生、醫學博士
君は元治元年五月を以て生る明治二十四年東京法學院を卒業し警視廳警部となり埼玉縣警察部勤務青森縣警察部保安課長青森警察署長等を經て同三十四年警察監獄學校を卒業し同年青森縣警視に任ぜられ青森福井各警察署長福井縣南條郡長等に歷任同四十一年官を辭し高崎市長に就任す大正八年明治神宮造營局參事に任じ明治神宮社務所庶務課長を經て昭和三年明治神宮外苑管理署長に補せられ今日に至る家族は尙孫信久(大五、一二生、長男久吉長男)あり(東京市四谷區南町四八電四谷七〇〇一)

内田英雄　醫學博士、東京市技師、大久保病院長、醫師、東京府在籍
妻　田鶴子　明二二、一生、愛知、士、竹内森之助長女
君は大分縣人野中小九郎の四男にして明治二十一年三月を以て生れ大正二年先代田鶴子の入夫となり家督を相續す同四年東京帝國大學醫科大學を卒業し東京市技師に任じ廣尾病院副院長を經て現に大久保病院長たり義に醫學博士の學位を授けらる(東京市足立區千住町二ノ四〇電千住二〇一三)

内田正明　從五位、子爵、舊下總小見川藩
母　澄子　明一六、一一生、男爵中御門經民姉
當家は内田信濃守正信の後なり正信德川家光に仕へ近習頭を勤め家光薨去の日之に殉ず其子出羽守正榮より十世を經て正學に至る正學下總小見川一萬石の封を繼ぎ明治十七年子爵を授けらる軍籍に入り陸軍歩兵大尉に進み君は正吉の長男にして明治に陞任し貴族院議員に列す三男正吉其後を承け亦軍籍に入り陸軍歩兵大尉に進む君は正吉の長男にして明治十三年二月十六日を以て生れ同四十四年家督を相續し大正元年襲爵す家族は尙姉靜子(明四一、二生、女子學習院出身)妹盛子(同四五、一生)あり叔母光(同、三〇、二生)は千葉縣士族菅興の養子となり同花(同三七、三生)は愛媛縣人捷崎達人に嫁せり(千葉縣香取郡小見川町一〇〇一)
參照‖男爵中御門經民※侯爵中御門經恭の項

内田雅治　滿月、料理業、長崎縣在籍
妻　ノブ　明二〇、五生、東京、久保猶太郎長女
男　初夫　明三九、二生
男　芳子　明四四、七生、長男初夫妻、長崎山下萬三郎五女
婦　彪　明四三、四生
男　正三　大二、三生
女　きみ　大六、九生
君は長崎縣人内田豊吉の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正二年家督を相續す滿月と稱し料理業を營み農に縣下の多額納稅者に列す家族は尙母ノブ(嘉永三、五、二生)三女まさ子(同九、五生)伯母ノブ(嘉永三、三生)長女良子(明四〇、七生)は長崎縣人横田尙之に嫁せり(長崎市萬歲町五電三四一一)

内田雅久　常磐堂、雷おこし本舗、菓子商
男　善士　東京府在籍
妻　いく　明三九、七生
男　松太郎　明三九、二生
婦　うの　明三六、二生、長男松太郎妻、滋賀、萬木六之助長女
女　以代　明三九、九生
男　猪之助　明四三、一生
男　初四郎　明四五、一生
女　美代　大二、三生
君は東京府人内田永力の二男にして明治八年一月二十六日を以て生れ先代永圓の養子となり同十四年家督を相續す常磐堂と稱し菓子商を營み雷おこしの本舗として知らるA三四六B八二八(東京市淺草區馬道町一ノ五電淺草七〇〇〇)

内田松之助　丸松、友仙商、京都府在籍
妻　いく　明一四、九生、福井、入江喜三郎妹
男　松太郎　明三五、五生
女　以代　明三九、九生
婦　うの　明四三、一生
君は長崎縣人内田豊吉の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正二年家督を相續す滿月と稱し料理業を營み農に縣下の多額納稅者に列す家族は尙母ノブ(嘉永三、五、二生)三女まさ子(同九、五生)伯母ノブ(嘉永三、三生)長女良子(明四〇、七生)は長崎縣人横田尙之に嫁せり(長崎市萬歲町五電三四一一)

内田茂吉　東京府多額納稅者、大東證券㈱取締役社長、東京株式取引所取引員、大二商店、有價証券現物賣買業、東京府在籍
妻　英　明三〇、二生、東京、泉英太郎妹
男　邦夫　大九、六生
女　悅子　大六、四生
君は東京府人内田半兵衛の五男にして明治二十四年五月二十二日を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す幼にして角丸商會に入り勤續多年に至り業績頗る顯著遂に其專務取締役に推されしが昭和元年之を辭し大東證券會社を創立し現に其社長にして傍ら大二商店を經營する外東京株式取引所一般取引員組合副委員長國債取引員想合商議員にして東京府多額納稅者に列す(A一七七〇四B五一八四)(東京市日本橋區兜町三電茅場町二一四一)

内田安右衛門　東京府參事會員、本所區會副議長、常陸屋、醬油商、東京府在籍
繼母　ゆう　明三七、四生、埼玉、田中玄蕃妹
妻　ちか　明三、二生、千葉、田中玄蕃妹
男　常太郎　大七、五生
君は東京府人先代安右衛門の三男にして明治二十四年二月九日を以て生れ大正十二年家督を相續し前名久太郎を改め襲名す祖業を承けて醬油釀造業を營み常陸屋と稱し現時推されて東京府參事會員本所區會副議長たり家族は尙二女久美子(大九、三生)四女久(同一一、一二生)二男正(同一四、七生)五女とし子(昭三、三生)三男昭(同五、三生)あり姉きん(明一七、一〇生)は東京府人醫師津田博明に妹きみ(同三一、八生)は同府人新井精司に同喜久代(同四二、一二生)は千葉縣人新井

君は福井縣人内田豬之助の孫にして明治十二年六月二十一日を以て生れ同三十一年母ハツの後を承けて家督を相續す丸松と稱し友仙商を營み尙く知らる家族は尙六男益雄(大四、六生)孫守一(同一四、九生、長男松太郎長男)同茂男(昭二、九生、同二男)同豊子(同四、一二生、同長女)同順三(同七、四生、同三男)あり(A一三八〇B一三九(東都市中京區壬生坊城町電本局四八三八)

内田茂吉　東京府多額納稅者、大東證券㈱取締役社長、東京株式取引員、大二商店、有價証券現物賣買業、東京府在籍
妻　英　明三〇、二生、東京、泉英太郎妹
男　邦夫　大九、六生
女　悅子　大六、四生
君は東京府人内田半兵衛の五男にして明治二十四年五月二十二日を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す幼にして角丸商會に入り勤續多年に至り業績頗る顯著遂に其專務取締役に推されしが昭和元年之を辭し大東證券會社を創立し現に其社長にして傍ら大二商店を經營する外東京株式取引所一般取引員組合副委員長國債取引員想合商議員にして東京府多額納稅者に列す(A一七七〇四B五一八四)(東京市日本橋區兜町三電茅場町二一四一)

内田安右衛門　東京府參事會員、本所區會副議長、常陸屋、醬油商、東京府在籍
繼母　ゆう　明三七、四生、埼玉、田中玄蕃妹
妻　ちか　明三、二生、千葉、田中玄蕃妹
男　常太郎　大七、五生
君は東京府人先代安右衛門の三男にして明治二十四年二月九日を以て生れ大正十二年家督を相續し前名久太郎を改め襲名す祖業を承けて醬油釀造業を營み常陸屋と稱し現時推されて東京府參事會員本所區會副議長たり家族は尙二女久美子(大九、三生)四女久(同一一、一二生)二男正(同一四、七生)五女とし子(昭三、三生)三男昭(同五、三生)あり姉きん(明一七、一〇生)は東京府人醫師津田博明に妹きみ(同三一、八生)は同府人新井精司に同喜久代(同四二、一二生)は千葉縣人新井

正義に嫁せり八五九〇(東京市本所區緊川町三ノ四電本所一一四)
參照‖※岩崎恒雄の項

内田康哉　正二位勳一等、伯爵、貴族院議員、前官禮遇、熊本縣華族
妻　敬　明四、一二生、土倉庄三郎二女
内田家は熊本縣八代郡鹿島村に於ける屈指の舊家にして代々醫を業とし先代玄眞に至る玄眞は蘭法醫にして先覺者として著聞す君は其長男にして慶應元年八月十日を以て生れ明治十八年家督を相續す同二十年帝國大學法科大學政治科を卒業し交際官試補となり獨逸農商務大臣祕書官外務書記官公使館二等書記官同一等書記官辨理公使通商局長政務局長等に歷任し同三十二年特命全權公使に昇任し政務局長を兼ね次で外務總務長官駐清公使となり日露戰役後全權大使に任じ墺國及米國に駐劄更に露國に駐在す同四十四年第二次西園寺内閣成るや入りて外務大臣に親任せられ大正七年原内閣に再び外相となり原首相の凶兇に殪るゝや臨時内閣總理大臣を兼攝す次で加藤友三郎内閣には依然外相の印綬を帶び同氏歿後再び臨時首相を兼攝す同十四年樞密顧問官に轉げられ昭和四年之を辭す昭和六年滿鐵總裁に任じ同七年齋藤實非常時局を擔當し内閣を組織するに及び四度外相に任じ昭和八年之を辭す同五年貴族院議員に勅選せられ現に其任に在り其間明治四十年日露事件の功に依り華族に列し男爵を授けられ同四十四年日米條約改正の功に依り子爵に大正九年日獨事件の功に依り伯爵に陞さる義に特渙位節として羅馬法王廳に使し又獨立三百年記念祝典參列の爲羅國に派遣せらる昭和九年七十歳の高齡に付御紋付銀盃並に酒肴料を下賜せらる謙曲に趣味あり家族は尙養姪薛滿子(大元、一一生、弟晉次郎養子、女子學習院高等科出身、米國バインス女塾修業)あり妹シツ(慶應三、九生)は熊本縣人奈須義賓に同ノブ(明七、四生)は愛知縣人鈴木裕三に嫁し弟晉次郎(同三、五生)は分家せり(東京市淀橋區西大久保二ノ三五〇電四谷一九〇)
參照‖※青木鐵太郎※佐伯理一郎の項

内田勇三　内田商店㈱取締役、食料品商、東京府在籍
母　ソノ　明七、五生、東京、揖田茂十郎姉
君は東京府人内田勇太郎の三男にして明治三十八年十一月を以て生れ昭和七年家督を相續す昭和三年慶應義塾大學經濟學部を卒業し食料品商を營み現に株式會社内田商店取締役たり家族は尙弟勇男四郎(明四二、一生、慶大醫學部出身)妹愛(同四五、一生)あり姉繁子(同二七、一〇生)は東京府人佐藤伊右衛門養子清三郎に同とき(同三〇、六生)は同府人三輪竹次郎に嫁し兄勇二(同三五、一二生、株式會社内田商店社長、慶大經濟學部出身)は分家せり(東京市神田區仲町一ノ二電園下谷一五九五)
參照‖三輪竹次郎の項

内田與兵衛　鮪與、川魚商、東京府在籍
妻　ふく　明一〇、三生、埼玉、細淵寅象妹
男　善藏　明三九、六生、跡見女學校出身
女　正　載　明三六、六生、慶大在學
稻　大二、五生、慶大在學
當家は古くより千住に於て川魚商を營み鮪與と稱し著聞せる舊家なり君は東京府人先代與兵衛の二男にして故文學博士内田銀藏の弟なり明治八年十一月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名善藏を改め襲名す祖業を繼ぎ川魚商を營む家族は尙三男幸介(大四、五生)五男永治(同八、一二生)あり三女糸(明四一、一〇生)は亡兄銀藏の養子となり妹和嘉(同二〇、五生)は同府人藤田直次に嫁せりA七六〇B一六〇(東京市足立區千住仲町四七電淺草八五八・足立二〇三〇)

内田善久　家主、東京府在籍
妻　しけ　明一九、一二生、東京、花崎萬藏四女
男　八郎　大一五、三生
女　德　大二、二生
富子　大三、一二生
イネ子　大七、二生
女　直子　大八、八生
君は東京府人内田三次郎の長男にして明治十五年二月三十日を以て生れ同三十二年家督を相續す大正五年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し三菱造船會社長崎造船所技師補となり同七年遞信局技師に任じ東京遞信局海事部浦賀出張所長同横濱出張所勤務を經て昭和九年現勤務に轉ず家族は尙長女孝(大一二、一生)二女紳代(同一四、九生)二男浩嘉(昭八、一二生)あり姉みき(明九、五生)は千葉縣人高山喜代藏に同つる(同一一、一一生)は東京府人渡邊一美に同みさを(同一四、二生)は山口縣士族山縣韻治良長男將質に同琴實(同一九、二生)は新潟縣人伊藤虎太郎弟豊治に嫁せり(長崎十四日を以て生れ同十六年家督を相續し昭和五年前名芳太郎を改む家主たり家族は尙七女ヱイ子(大一〇、一一生)あり四女ヨネ(同五、一二生)は東京府人内田留吉の養子となり弟留吉(明二〇、一生)同七五郎(同二七、一〇生)は東京府人佐藤伊右衛門養子清三郎に同とき(同三〇、六生)は同府人三輪竹次郎に嫁し兄勇二(同三五、一二生、株式會社内田商店社長、慶大經濟學部出身)は分家せり(東京市神田區仲町一ノ二電園下谷一五九五)
參照‖三輪竹次郎の項

内田與兵衛　鮪與、川魚商、東京府在籍
妻　ふく　明一〇、三生、埼玉、細淵寅象妹
男　善藏　明三九、六生
女　正　載　明三六、六生、跡見女學校出身
稻　大二、五生、慶大在學
當家は古くより千住に於て川魚商を營み鮪與と稱し著聞せる舊家なり君は東京府人先代與兵衛の二男にして故文學博士内田銀藏の弟なり明治八年十一月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名善藏を改め襲名す祖業を繼ぎ川魚商を營む家族は尙三男幸介(大四、五生)五男永治(同八、一二生)あり三女糸(明四一、一〇生)は亡兄銀藏の養子となり妹和嘉(同二〇、五生)は同府人藤田直次に嫁せりA七六〇B一六〇(東京市足立區千住仲町四七電淺草八五八・足立二〇三〇)

内田善久　家主、東京府在籍
妻　しけ　明一九、一二生、東京、花崎萬藏四女
男　八郎　大一五、三生
女　德　大二、二生
富子　大三、一二生
イネ子　大七、二生
女　直子　大八、八生
君は東京府人内田三次郎の長男にして明治十五年二月三十日を以て生れ同三十二年家督を相續す大正五年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し三菱造船會社長崎造船所技師補となり同七年遞信局技師に任じ東京遞信局海事部浦賀出張所長同横濱出張所勤務を經て昭和九年現勤務に轉ず家族は尙長女孝(大一二、一生)二女紳代(同一四、九生)二男浩嘉(昭八、一二生)あり姉みき(明九、五生)は千葉縣人高山喜代藏に同つる(同一一、一一生)は東京府人渡邊一美に同みさを(同一四、二生)は山口縣士族山縣韻治良長男將質に同琴實(同一九、二生)は新潟縣人伊藤虎太郎弟豊治に嫁せり(長崎

内田嘉彦　正五位勳六等、遞信局技師、熊本遞信局海事部長崎出張所勤務、東京府在籍
母　せい　安政二、六生、東京、松井小三郎二女、故男爵神田乃武姉
妻　豊　明三一、六生、靜岡、須原快平二女
男　嘉剛　昭五、三生
君は東京府人内田嘉一の長男にして明治二十二年四月三十日を以て生れ同三十二年家督を相續す大正五年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し三菱造船會社長崎造船所技師補となり同七年遞信局技師に任じ東京遞信局海事部浦賀出張所長同横濱出張所勤務を經て昭和九年現勤務に轉ず家族は尙長女孝(大一二、一生)二女紳代(同一四、九生)二男浩嘉(昭八、一二生)あり姉みき(明九、五生)は千葉縣人高山喜代藏に同つる(同一一、一一生)は東京府人渡邊一美に同みさを(同一四、二生)は山口縣士族山縣韻治良長男將質に同琴實(同一九、二生)は新潟縣人伊藤虎太郎弟豊治に嫁せり(長崎

内田義男　中國日々新聞社㈱社長、兵庫縣在籍
妻　ゆき　明二一、九生、養父太郎吉三女
男　良弘　明四五、一生
女　田鶴子　大二、三生
素子　大四、一二生
君は兵庫縣人岡田勝太郎の二男にして明治二十二年五月を以て生れ同府人内田太郎吉の養子となり同四十五年分れて一家を創立す現時中國日々新聞社長として知らる家族は尙二男民男(大八、一一生)庶子富美子(同一二、一生、生母、兵庫、島丸ヒデ)あり(姫路市東紺屋町)

内田嘉彦　正五位勳六等、遞信局技師、熊本遞信局海事部長崎出張所勤務、東京府在籍
母　せい　安政二、六生、東京、松井小三郎二女、故男爵神田乃武姉
妻　豊　明三一、六生、靜岡、須原快平二女
男　嘉剛　昭五、三生
君は東京府人内田嘉一の長男にして明治二十二年四月三十日を以て生れ同三十二年家督を相續す大正五年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し三菱造船會社長崎造船所技師補となり同七年遞信局技師に任じ東京遞信局海事部浦賀出張所長同横濱出張所勤務を經て昭和九年現勤務に轉ず家族は尙長女孝(大一二、一生)二女紳代(同一四、九生)二男浩嘉(昭八、一二生)あり姉みき(明九、五生)は千葉縣人高山喜代藏に同つる(同一一、一一生)は東京府人渡邊一美に同みさを(同一四、二生)は山口縣士族山縣韻治良長男將質に同琴實(同一九、二生)は新潟縣人伊藤虎太郎弟豊治に嫁せり(長崎

市熊本遞信局海事部長崎出張所内）

内野一太郎　安田銀行㈱外國課長　東京府在籍

父　興重郎　慶應三、一一生、現戸主
母　なつ　明七、八生、埼玉、竹谷賢三郎二女
妻　セイ　明三八、八生、埼玉、鈴木權平三女、川越高女出身
男　皓司　昭七、四生

君は東京府人内野興重郎の長男にして明治三十年十一月二日を以て生る大正十年東京商科大學高等商業科を卒業し同年共濟生命保險會社に入社し同十一年轉じて安田銀行に入り同十四年銀行業務研究の爲海外に留學し昭和二年歸朝し同七年外國課長に累進し今日に至る家族は尙弟良男（明三四、六生）同妻しう子（同四〇、九生、東京、河野武雄妹）弟英男（同四〇、七生）妹恒子（同三八、五生）同喜代子（同四四、三生）あり（東京市世田谷區世田谷二ノ一一六七）

内野　淳　南蠻酒造㈱監査役、醫師　熊本縣在籍

妻　廉　明一一、一生、佐賀、士、手島須一妹
男　亨　明四一、一一生
男　久　明四五、一生
女　久子　大二、八生

君は熊本縣人内野二郎の二男にして明治十四年八月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す醫師にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙三男典（大四、九生）あり（熊本縣飽託郡力合村電二九）

内野　晋　關東州興業㈱社長、內野農事㈱取締役、關東州內野釀造所長、內野農場主、東京府在籍

妻　琴　明三七、八生、茨城、榊原清衛三男
光　昭九、三生

君は東京府人内野五郎三の長男にして明治三十六年九月五日を以て生れ昭和九年家督を相續す東京農業大學を卒業し現時關東州興業內野農事各會社重役たる外關東州內野釀造所及內野農場經營主たり家族は尙二女として子（昭三、五生）三女として子（同六、三生）弟良男（同三一、九生）弟讓（同四〇、七生）同恂（大六、九生）同完（同一〇、一生）あり姉よね（明二九、四生、三輪田高女出身）は豫備海軍中將中村靜嘉長男認に二女きく（同三一、九生、田身校同上）は東京府人塚原周造長男周吾に三女さく（同四二、六生、出身校同上）は木幕清雄に妹美奈子（大二、六生）は東京府人伊藤琢磨長男勇二に嫁せりA七五三（東京市麹町區富士見町一ノ七電九段三一三一）

參照‖中村靜嘉の項

内野拾五郎　山口屋、薪炭商　東京府在籍

妻　うた　明二〇、六生、養父拾五郎二女
養子　毅　明四〇、二生、長女八重夫、新潟山口建治郎六男
女　八重子　大三、六生、養子毅妻

君は埼玉縣人矢部杢太郎の三男にして明治十三年二月を以て生れ同四十三年先代拾五郎の養子となり家督を相續し前名順行を改め襲名す山口屋と稱し薪炭商を營み資產家を以て知らる家族は尙二男昭一（昭二一、一生）ありA四〇九（東京市澁谷區千駄ヶ谷五ノ九九八電四谷三四〇二）

内野　仙一　研究所技師、衞生局防疫課長　東京府在籍

妻　タカ　明一六、一一生、山口、玉井政幹長女
男　仙一郎　明三六、一一生、內務省社會局勤務、法學士
婦　了子　明四三、一生、長男仙一郎妻、大阪、高原操四女
女　正子　大二、三生

內野家は舊くより山口縣下松町に土着し代々醫を業とし時には若干藩主に出仕せし事ある近郷に著聞せる家柄なり君は先代仙太郎の長男にして明治十年六月二十二日を以て生れ同三十六年家督を相續す同年東京帝國大學醫科大學を卒業し三浦內科の助手となり夙で傳染病研究所技手に轉じ臨時檢疫事務官兼內務技師を經て現時內務技師兼傳染病研究所技師に至る衞生局防疫課長たり養に諸威南洋清米國等に出張し大正十二年平和條約實施委員として國際聯盟會議に出席せり家族は尙孫和人（昭六、一生、長男仙一郎長男）弟仙治（明二七、三生、從五位、京都帝國大學教授、化學研究所員）同妻晴（同三五、一生、文學博士渡邊世祐長女）及其一男三女あり妹ヤスノ（同一六、九生）は東京府士族入澤重麿に嫁せり（東京市牛込區市谷加賀町二ノ一七電牛込三一〇五）

參照‖高原操、渡邊世祐の項

内橋　直三　加西合同銀行㈱取締役　兵庫縣在籍

妻　きし　明一六、八生、兵庫、片岡房三妹
男　榮一　明四一、二生、長男榮一妻、兵庫西村重三郎四女
婦　文子　大二、九生
男　芳夫　大二、九生

君は兵庫縣人內橋榮三郎の二男にして明治十二年八月を以て生れ後尙名直次を改め大正五年家督を相續す現時加西合同銀行取締役たり弟清雄（明四一、七生）は分家し繼母政野（同七、一生、岡山、岩城自助母）は其家籍に入れり（兵庫縣加西郡芳田村）

内林　直吉　武田長兵衞商店㈱顧問　兵庫縣在籍

妻　豊　明二、五生、滋賀、士、横地松二郎二女
養子　稔　明二六、九生、滋賀、谷村久郷三男
婦　君代　明三八、一生、養子稔妻、神奈川鈴木郁一郎妹

君は滋賀縣人內林藤七の長男にして文久三年五月を以て生れ明治十六年家督を相續す夙に實業界に入り現時武田長兵衞商店顧問たり家族は尙孫美代子（昭二、四生、養子稔長女）同政夫（同五、五生、同長男）ありA二二五九（兵庫縣川邊郡川西村庚申塚六ノ三電池田一三六）

内堀　太郎　資產家　熊本縣在籍

父　維文　明五、四生、現戸主
母　シマ　明一六、一二生、福岡、津田敬修長女

君は熊本縣人內堀維文の長男にして明治三十五年六月十二日を以て生る昭和六年東京帝國大學法學部政治學科を卒業す資產家たり家族は尙弟次郎（明三八、七生）妹文子（同四二、一二生）同富士子（大二、二生）同田鶴子（同六、六生）あり（東京市杉並區阿佐ヶ谷六ノ一〇一）

内丸最一郎　正四位勳二等、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務　福岡縣在籍

父　民平　嘉永五、七生、福岡、青木源次二男
妻　タケ　明一九、一二生、神奈川、岩田武彌太長女
男　正三　大三、一二生
女　ヨネ　明四二、一〇生、東京女學館出身
女　ミヨ　大六、五生

君は福岡縣人內丸民平の長男にして明治十年九月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治三十五年東京帝國大學工科大學機械工學科を卒業し同大學工科大學助教授に任ぜられ大正六年同教授となり同七年工學博士の學位を授けらる義に機械學研究の爲歐米各國に留學す尙昭和九年四月再び命を受け歐米（出張目下役地にあり）家族は尙四女トヨ（大九、一生）あり弟勇（明二〇、二生）同妻アヤ（同二六、一二生、大分、是永桃吉妹）は其子女を伴ひ分家し二女キヨ（同四四、一〇生）は神奈川縣人村田重義長男重金に妹チク（同一五、八生）は大分縣人久永米展二郎に同シチ（同二三、一二生）は福岡縣人重松安三長男甲子三に同トチ（同三〇、一生）は大分縣人蜂谷彦太郎長男昌藏に嫁し弟保治（同二七、三生）は大阪府人今西林三郎の養子となれりA二六八（東京市豐島區駒込一ノ九〇電小石川九八〇）

内丸　廉　從五位勳五等、少年審判官、東京少年審判所審判官、鹿兒島縣士族　父　休一郎　文久元、七生
母　ミヨ　文久三、一二生、鹿兒島、士、蜂須賀利右衛門五女

妻　キヌ　明二八、一二生、鹿兒島、谷山初七郎二女
男　忠彦　大六、一一生

君は鹿兒島縣士族內丸休一郎の長男にして明治二十二年四月を以て生れ後家督を相續す大正五年東京帝國大學法科を卒業し同七年判事に任じ爾來長崎地方兼同區熊本地方兼同區長崎地方兼同區東京區兼同地方各裁判所判事東京少年審判所審判官等に歷補し同十三年檢事に轉じ東京區裁判所檢事兼東京少年審判所審判官を命ぜらる現時少年審判官專任にして東京少年代（同一四、一二生）五男文彦（昭三、四生）あり妹トシ（明二五、一〇生）は鹿兒島縣人蜂須賀正雄に嫁ぬ妹ミヨ（同一七、九生、鹿兒島、士、神田橋吉吉二女）は大阪府人山中常吉に叔母キチ（慶應二、六生）は鹿兒島縣士族山內弘一に嫁し弟孚（明三一、八生）は同縣人鶴田アサエの養子となれり（東京府北多摩郡小金井村前原一〇二〇）

内海　顯二　資產家　東京府在籍

妻　なつ　明二〇、七生、東京、士、吉田敬吉妹
男　顯三　大一一、一生

君は兵庫縣人內海傳次郎の二男にして明治二十二年三月一日を以て生れ昭和二年兄傳一方より分れて一家を創立す資產家たりA九四〇（東京市牛込區原町三ノ四八電牛込四五四五）

内海　勝二　正四位、男爵、內海化學研究所長　東京府華族

妻　トミ　明二八、九生、神奈川、高島長敬妹、佛英和高女出身
男　勝正　大二、三生、從五位
男　啓勝　大三、九生
女　淳　大七、九生

當家は先代忠勝より家名を揚ぐ忠勝は舊山口藩士にして明治元年兵庫縣獄局出仕となり爾來長崎三重各縣令兵庫長野神奈川大阪京都各府縣知事貴族院議員會計檢査院長內務大臣等に歷任同三十三年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其二男にして明治二十年一月三日を以て生れ同三十八年襲爵す同四十五年慶應義塾大學政治科を卒業し渡米す歸朝後大正八年內海化學研究所を設立し所長たり家族は尙三男通勝（大四、一〇生）四男藤勝（同六、六生）五男唱勝（同八、一一生）六男敏勝（同一〇、五生）七男英勝（昭三、七生）ありA八二八（東京市芝區三田綱町四電三田四二）

參照‖高島長敬の項

内海龜之助　內海組、土木建築請負業並材木商　大阪府在籍

父　鶴松　慶應元、一生、現戸主
妻　千代　明二九、三生、奈良、岡橋辰藏四女
男　悅藏　大一〇、三生
女　廣子　大八、八生

君は大阪府人內海鶴松の長男にして明治二十年三月を以て生れ父業を繼ぎ內海組と稱し土木建築請負業並材木商を營む家族は尙二男好男（大一一、一一生）三女艷子（同一三、一二生）四女和子（昭二、二生）弟慎二（大三、一〇生）同建三（同一二、一二生）妹ウノ（明三三、四生）同キミ（同三五、三生）同夫保三（同二七、二生、熊本、中山三喜叔父）及其四子あり同マツ（同二四、一二生）は同夫虎雄（同二二、一生、大阪、白石寅之助二男）と共に其一子を伴ひ分家し同サキ子（大元、一一生）は其生母大阪府人今井きぬの養子となれりA五二〇（大阪市天王寺區逢阪上ノ町九五電天王寺二〇七）

内海　軍治　住友銀行㈱船場支店長兼松屋町支店長、廣島縣在籍

妻　園枝　明二七、一一生、東京、海老名彈夫姉
男　庸治　大九、一〇生
女　律　大四、九生
女　玉　大七、一〇生

君は廣島縣人內海儀平の二男にして明治十七年七月を以て生れ昭和二年兄量造方より分れて一家を創立す明治三十五年尾道商業學校を卒業し住友銀行に入り漢口下關備後町各支店長を經て昭和九年同行船場支店長兼松屋町支店長に轉ず家族は尙二男謙治（大一二、九生）

五女小枝(同一四、一〇生)三男信治(昭八、三生)あり長女静枝(大二、一一生)は京都府人永井信吉に嫁せりA三一〇(兵庫縣武庫郡住吉村電話御影三四五五)

内海静太郎

日本輸業護謨株式會社京都府在籍

妻　サヤ　明一九、七生、長崎、吉田龜次郎長女、長崎高女出身

男　鶴生　大九、七生

女　朗子　大五、九生、同志社女學校專門部在學

君は大阪府人内海爲七の長男にして明治十三年十二月を以て生れ同二十三年家督を相續す初め三十四銀行滿鐵中央試驗所等に在勤せしも大正十三年帝國人造絹糸會社監査役に就任次で同社專務取締役となり昭和二年鈴木商店の破綻に際し同社亦其影響により經營に大打撃を蒙りたるを整理し漸次社礎を固め今日の同社を見るに至りしが昭和八年十二月退任せり現時前記會社の重役たり家族は尚三女慶子(大一三、一生)あり長女鈴子(明四三、六生、廣島高女出身、同志社女學校專門部出身)は大倉商事會社員工學士大田原隆定に妹タカ(同一九、五生)は大阪府人橋本源藏に嫁し同タマ(同一六、六生)は分家せりA四八九八(京都市左京區田中飛鳥井町一三電上一四一四)

内海忠司

正五位勳四等、臺灣總督府新竹州知事、京都府士族

妻　サキ子　明二一、一〇生、兵庫、木村成太郎妹

男　忠昭　昭二、一一生

女　武子　大三、五生

女　桃子　大八、三生

君は京都府士族内海忠兵衛の二男にして明治十七年十二月を以て生れ大正八年家督を相續す明治四十四年京都帝國大學法科大學政治學科を卒業し大正二年文官高等試驗に合格す翌年山形縣東田川郡書記山形縣警部同縣鳥尻郡長香川縣視學官青森縣群馬佐賀各縣警察部長愛媛佐賀各縣内務部長等に歴任昭和三年臺灣總督府に轉じ臺北州警察部長臺南州内務部長臺北市尹を經て同七年新竹州知事に任ぜられ今日に及ぶ嚢に大正九年南滿洲及朝鮮(同十一年儋領浩海州に出張を命ぜらる家族は尚三女睦子(大一〇、一二生)四女慶子(同一一、一生)二男次郎(昭五、四生)あり(臺灣新竹市東門外官舎電二)

内海弘藏

明治大學豫科教授東京府在籍

妻　とめ　明一〇、二生、東京、中村きく姉

男　弘　明三三、五生

男　章　明三六、三生

女　千江　明三七、一〇生

男　篤　明四一、一二生

剛　大三、六生

君は神奈川縣人内海政雄の長男にして明治五年三月二生れ昭和四年姪靜子方より分れて一家を創立す明治三十一年東京帝國大學文科大學國文史學科十四日を以て生れ昭和四年東京帝國大學豫科教授にして六大學野球リーグ顧問たり嚢に同大學豫科々長たりしことあり月杖と雖し國文學に關する著書多し家族は尚六男正(大四、六生)庶子明子(同一三、三生、生母同上)あり三女姉(明四〇、一〇生、生母同上)あり(東京市世田谷區上馬町一ノ五二八)

内海正性

地主東京府在籍

君は東京府人内海餘太の四男にして明治三十五年十月二十五日を以て生れ大正三年兄譲孝の跡を承け家督を相續す地主たり姉秀子(明二三、三生)は東京府士族二德商會監査役櫻井源一郎に嫁し弟行貴(同三九、一生)は分家せりA三六一(東京市本郷區駒込千駄木町七〇)

内村達次郎

東京特許代理局主、辨理士東京府在籍

妻　まき　明二、一生、東京、士、内村良藏長女

男　良二　明二五、一二生、醫學博士

男　三　明三四、六生、二男良二妻、京都

婿　綾子　下村壽一妹

君は山形縣士族柿崎家數の二男にして明治元年一月二十八日を以て生れ先代源藏の養子となり同三十二年家督を相續す同二十三年東京高等工業學校を卒業し現時鉄理士を開業し東京特許代理局を經營す家族は尚孫良英(大一〇、一生、二男貞二長男)同京子(同一一、七生、同長女)同富美子(同一二、八生、同二女)同洋子(昭二、九生、同三女)あり三男省三(明二九、五生、醫學博士)は同妻ヨシ(同三五、七生、福島、藤井利譽長女、御茶の水高女出身)を伴し分家し長女テル(同三七、一二生、府立第三高女出身)は東京府人千野健彦に嫁し四男酉(同四二、六生)は同府人小田切延壽の養子となりA四四六(東京市大森區山王一ノ二六五二電大森二六八)

參照‖小田切延壽、藤井利譽、淺島居武雄の項

内村保

藤本ビルブローカー證券株式會社取締役兼東京支店支配人、海運證券株式會社監査役、東京府在籍

妻　姚　明二七、一一生、東京、葦澤爲三郎二女

男　靖　昭三、七生

女　正　大五、三生

君は島根縣人内村健次の二男にして明治十九年三月二十二日を以て生れ大正十三年兄愛助方より分れて一家を創立す夙に藤本ビルブローカー銀行に入り大阪本店勤務を經て現時藤本ビルブローカー證券取締役兼東京支店支配人にして前記會社の重役を兼ぬ家族は尚二女克(大一一、四生)三女光(同一四、九生)二男宏(昭七、六生)ありA七一〇(東京市芝區三田功運町一五電三田一四一八)

内本浩亮

九州送電株式會社常務取締役、九州水力電氣株式會社取締役、東京府士族

男　筑紫　明四三、七生、慶大在學

男　勝比古　大三、一一生、佐賀高校在學

君は東京府士族樊本彦重の五男にして明治十八年四月五日を以て生れ歳十八にして内本家を嗣ぐ同四十三年慶應義塾理財科を卒業し直ちに九州水力電氣會社の創立を企圖し同四十四年其成立と同時に事業地に赴任專ら建設の事に從ひ爾來福岡營業所長庶務課長兼調査課

長建設部次長管理部長等を經て大正十四年杖立川水力電氣會社の創設と共に常務取締役に擧げられ昭和五年九州水電取締役に同六年九州送電常務取締役に就任今日に及ぶ書畫を愛好し紅鬱と號し句作に親しむ茶に劍道は四段にして在學中は慶應義塾劍道部の主將たり家族は尚三男光(大九、一二生、福岡中學在學)四男麟(同一二、一生)あり(福岡市藥院十ケ浦)

内山岩太郎

正五位勳四等、大使館一等書記官、ブラジル大使館在勤、群馬縣在籍

父　岩吉　安政五、一生、現戸主

母　ちか　女久二、一二生、群馬、岩佐五郎太長女

妻　登志子　明三六、五生、宮城、十文字信雄姉

男　小太郎　昭三、二生

君は群馬縣人内山岩吉の三男にして同春吉の弟なり明治二十三年二月を以て生る同四十二年外務省留學生試驗に合格し同省留學生として マドリッドに遊び外務書記生として西班牙に勤務し大正六年外交官及領事官試驗に合格し波蘭公使館三等書記官外務大臣秘書官外務事務官伯剌西爾大使館二等書記官西班牙公使館二等書記官土耳古佛蘭西各大使館二等書記官等に歴任し公使館二等書記官兼ブエノスアイレス兼モンテイデオ各領事を經て昭和四年公使館一等書記官アルゼンテイン國兼パラグアイ國ウルグアイ國在勤兼領事ブエノスアイレス兼モンテイデオ在勤總領事に任じサンパウロ在勤を經て同九年大使館一等書記官に任じ現にブラジル大使館勤務たり家族は尚長女喜子(大一四、六生)二男吉春(昭四、七生)三男勇(同六、八生)弟菊雄(明三二、二生)同妻はる子(同四一、一生、兵庫、住市藏二女)及其一子あり兄政吉(同一八、一〇生)同妻きく(同二三、七生、群馬、船部島十郎五女)は其四男を伴し分家し弟助左衛門(同二六、七生)も亦分家せり(在ブラジル大使館)

參照‖内山春吉の項

内山丑太郎

神奈川縣多額納稅者、芳野屋、呉服商、神奈川縣在籍

妻　ヨシ　明一六、九生、神奈川、布川久次郎妹

男　定一　明四二、三生

女　定子　明三九、四生

君は靜岡縣人内山定治の三男にして明治十年十一月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す芳野屋と稱し呉服商を營み神奈川縣多額納稅者に列すA四五四三B一〇四〇(横濱市中區福富町東通一ノ二〇電長者町三二〇八・六一九)

内山圓藏

鹿兒島勧業銀行株式會社取締役、醫師、福岡縣士族

父　勇吾　安政元、一〇生、福岡、笈坂茂三郎二男、現戸主

妻　セツ　明二〇、四生、鹿兒島、原田種治長女

君は靜岡縣士族内山勇吾の二男にして明治十六年四月を以て生る醫師にして傍ら現時鹿兒島勧業銀行取締役たり家族は尚兄直憲(明九、一一生)同妻イセ(同二四、五生、福岡、榮田吉太郎三女)及其子女弟實(同三〇、六生)同妻アイ(同三四、一二生、福岡、末松信吉五女)及其二子あり(鹿兒島縣出水郡阿久根町電八)

内山喜三郎

内山物産貿易株式會社員、商、東京府在籍

母　きく　明四、七生、東京、秋山又右衛門妹

妻　きよ　明三六、一二生、東京、高木半之丞二女

男　喜久雄　大一四、一〇生

君は千葉縣人先代喜三郎の長男にして明治二十六年三月七日を以て生れ昭和三年家督を相續し前名久三郎を改め襲名す父業を繼き海屋と號し酒類商を營み併て内山物産合資會社を經營す家族は尚長女久子(大一〇、九生)二女喜美子(同一二、九生)三女和子(昭二、一一生)二男喜夫(同四、一一生)三男泰男(同七、六生)妹寡代(明三五、一二生)同とよ(同三九、八生、共立女子職業學校出身)あり姉ふみ(同二三、一一生)は山形縣人岩松源吉長男多吉に妹まつ(同二九、九生、跡見女學校出身)は東京府人横山清次郎に同うめ(同三三、九生、出身校同上)は前記岩松源吉二男文彌に嫁せり(東京市深川區蛤町一ノ五電本所五五八三)

參照‖横山清次郎の項

内山吉五郎

磐城炭礦株式會社監査役、東京府在籍

妻　とと　明一六、一生、東京、水野德右衛門三女

男　吉太郎　大一一、三生

女　豊子　明四五、五生、三輪田高女出身

内山家は區内有數の舊家にして代々酒商を營み君は先代吉左衛門の三男にして明治八年七月二十一日を以て生れ同四十年家督を相續す同三十年東京高等商業學校を卒業し直ちに第一銀行に入り本店勤務十餘年擢げられて新大坂町支店支配人となり次で伊勢町支店支配人室町支店長等に歴任せしも後同行を辭し現時磐城炭礦會社監査役たり園藝に趣味を有す家族は尚二男俊二郎(大一二、六生)あり長女八重子(明四三、四生、御茶の水高女出身)は東京府人桃井醫長男英夫に嫁し弟銀次郎(同一二、六生)は同府人内山平三郎の養子となれり(東京市小石川區大原町一八電大塚二七五)

參照‖内山平三郎の項

内山熊八郎

柏崎合同運送株式會社長、北日本製菓株式會社取締役、柏崎土地各株式會社監査役、清水組出張專務理事

妻　ケン　明二三、三生、新潟、吉浦吉助長女

男　正熊　大七、一生、市立一中在學

女　八藤子　大五、一生、三輪田高女出身

藤惠子　大八、一二生、府立第一高女在學

君は新潟縣人内山末八の長男にして明治十六年十月を以て生れ同四十二年家督を相續す夙に清水組に入り理事に進み本店第一部長兼大阪京都各支店長となり現時同社專務理事にして前記各會社の重役を兼ぬ家族は尚二男豊治(大一〇、九生)三男敬三郎(同一二、八生)三女阪惠(同一五、七生)あり妹トメ(明二五、八生)同キヨ(同二九、四生)は各分家せりA八四九九(東京市淀橋區下落合一ノ八二電目白大塚一二七〇)

内山敬三郎

内山同族株式會社長、上信銀行株式會社常務取締役、日電證券、日本電力各株式會社取締役、神奈川縣在籍

妻　キヨ　文久元、三生、神奈川、長坂鐵蔵二女
男　哲　明一八、一一生、現戸主

君は神奈川縣人内山市平の二男にして文久三年八月を以て生れ後家督を相續し昭和四年退隠す夙に三菱商業學校を出て英人バラーの塾に學ぶ後實業界に入り諸種の事業に關係し貿易商を營み同三十六年以降神奈川縣より推されて衆議院議員に當選する事二回現時内山同族會社長たるの外前掲各銀行會社の重役たり家族は尙庶子健三郎(大九、一〇生、生母、神奈川、廣瀬ツル)あり長女フミ(明一六、一二生)は陸軍少將古川岩太郎に三女サヤ(同二二、一一生)は神奈川縣人佐野惠三郎に孫秀子(同三四、一一生、長女フミ長女)は東京府人横倉誠次郎に嫁し二男丈(同二〇、一二生)は分家せり人九七八(横濱市中區本牧町和田一二七〇電本局一九三)

參照＝内山晉の項

内山小二郎

正二位勳一等功二級、男爵、陸軍大將、維新史料編纂會委員、東京府華族

妻　調　明四、九生、東京、士、田中兵助姉
嫡　はる　明三八、九生、亡長男雄二郎妻、東京、士、佐藤卓藏長女
孫　直明　大一三、二生、亡長男雄二郎長男
男　豪三郎　明二九、三生、正七位、陸軍砲兵大尉
嫡　通世　明四〇、一生、二男豪三郎妻、千葉、吉田清三女
男　武四郎　明三五、二生、豫備陸軍砲兵少尉
男　五郎　明三七、一一生、井上農巢員、農學士
男　六郎　明四三、九生
女　壽榮子　大二、六生、女子學習院出身

君は鳥取藩士内山覺治の二男にして安政六年十月二十日を以て生れ明治十五年兄陸軍砲兵少尉定吾の後を繼ぐ陸軍士官學校を卒業し同十二年陸軍砲兵少尉に任官大正四年累進して陸軍大將に陞る其間陸軍大學校を卒業し第六師團參謀由良要塞司令官東京灣要塞司令官第十五第十二各師團長侍從武官長等に歷補し同十二年豫備役被仰付日清戰役には第一師團參謀及參謀長たり日露戰役には野戰砲兵第一旅團長鴨綠江軍參謀長として出征し功二級を賜はる大正十年華族に列し男爵を授けらる家族は尙孫洋子(昭三、六生、亡長男雄二郎長女)同正純(同四、一二生、二男豪三郎長男)あり長女育子(明三六、四生)は東京府人遠藤喜一に二女良子(同四一、一一生、女子學習院出身)は豫備海軍中將山路一善長男一行に嫁せりA一七〇(東京市澁谷區原宿二ノ一七〇)

參照＝山路一善の項

内山茂藏

遠州銀行㈱取締役、靜岡縣在籍

妻　まん　明元、五生、靜岡、川合嘉平長女

君は靜岡縣人内山和佐次の長男にして明治元年十一月を以て生れ同四十四年家督を相續し前名卷太郎を改む現時前記銀行の重役にして義に濱松貯蓄銀行取締役を兼ぬ家族は尙孫登美(大一〇、三生、亡長男登長女)あり父和佐次(嘉永四、一生)母たき(弘化四、八生、靜岡、廣岡要作長女)は共に其の一子を伴ひ分入り二男憲治(明三〇、一〇生)同妻いくよ(同三七、三生、靜岡、廣岡要作長女)は共に其の一子を伴ひ分家し二女きよ(同二六、一〇生)は靜岡縣人山下吉太郎に五女とよ(同四〇、二生)は同縣人廣岡八郎に嫁せり(濱松市三組町三五電六二七)

内山恒三

從五位勳五等、地方技師、栃木縣内務部勤務、農事試驗場長

埼玉縣在籍

養父　定一　明元、一二生、埼玉、長谷川敬助
養母　その　長女、一二生、現戸主
妻　うた　明二八、一一生、養父定一二女
男　儁一　大一三、二生
女　貞子　大五、四生
女　操子　大七、二生

君は埼玉縣人踊根崇三郎の二男にして明治二十一年十月を以て生れ大正四年内山定一の養子となる明治四十五年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し同大學闘手囑託となり大正四年岐阜縣技師に任じ同縣農事試驗場技師兼農事講習所技師を命ぜらる同十年栃木縣技師に轉じ同十三年地方技師に任じ現時前記の官職に在り(宇都宮市農事試驗場内)

内山哲

エー・ピー・シー製菓、明和無盡各㈱社長、内山同族㈱取締役、神奈川縣在籍

父　敬三郎　文久三、八生
妻　テル　修吾二女
男　市雄　大二、七生
女　幸子　明四四、三生
女　義子　明四四、五生

君は神奈川縣人内山敬三郎の長男にして明治十八年十一月を以て生れ昭和四年家督を相續し現時明和無盡會社長たる外前記各會社の重役たりA二二四(神奈川縣鎌倉郡戸塚町四一二九電三)

參照＝内山敬三郎の項

内山直

東京瓦斯電氣工業㈱常務取締役、長崎縣士族

妻　藤　明三四、四生、東京、武笠清太郎四女

君は長崎縣士族内山直己の長男にして明治二十二年二月を以て生れ大正十二年家督を相續し現に十五銀行營業部長たり家族は尙長女美津(大一一、一生)二女美代子(昭二、三生)ありA二二九(東京市大森區山王二ノ二一七五電大森三八)

參照＝武笠清太郎※永峰春樹の項

内山昇

安曇銀行㈱頭取、安曇電氣㈱社長、信濃織道各㈱取締役、池田鐵道長野縣在籍

男　昇平　明四三、一一生
養子　正雄　明一五、二生、長女きみ夫、長野田多井和靖弟
女　きみ　明一九、六生、養子正雄妻
女　啓　明三六、二生
孫　秋人　明四二、一〇生、養子正雄長男

孫　豬之助　明四二、六生、養子正雄二男
孫　東平　大二、八生、養子正雄三男
孫　英子　大七、三生、養子正雄長女

君は長野縣人内山吉兵衛の男にして文久二年一月を以て生れ先代兄環の養子となり明治二十二年家督を相續す現時安曇銀行頭取たる外前記各會社の重役たり家族は尙孫元平(大五、一生、養子正雄四男)同雄平(同一一、一生、同五男)あり妹もよ(明七、四生)は同夫正次(同八、二生、長野、薄井退七二男)、會染村長)及其七子と共に分家し養父環(弘化四、一〇生)養母みつ(嘉永五、三生、長野、竹内孫左衛門三女)は其家籍に入れり(長野縣北安曇郡會染村四九二)

參照＝※薄井周介の項

内山春吉

天津商工會議所議員、利中公司㈱代表取締役、東興實業㈱專務取締役、天津電氣公司、天津信託各㈱取締役、天津萬國競馬倶樂部理事、東興懇業公司主、裕興公司主、群馬縣在籍

父　岩吉　安政五、一生、現戸主
母　ちか　文久二、一二生、群馬、岩佐五郎太長女

君は群馬縣人内山岩吉の長男にして明治十六年四月を以て生る夙に拓殖大學を卒業し同三十八年高田商會に入り北支那出張を命ぜらる同四十五年大倉組天津支店に轉じ大正九年更に隆和公司專務取締役となり現時裕興公司と稱し棉花石炭輸出入業を又東興懇業公司と稱し農場を營み傍ら前記各會社の重役にして天津商工會議所議員に舉げらる家族は尙弟岩太郎(明二三、二生)同妻登志子(同三六、五生、宮城、十文字信雄姉)弟菊雄(同三二、二生、同妻はる子(同四一、一生、兵庫、住市藏二女)及各其子女あり弟政吉(同一八、一〇生)同妻さく(同二三、七生、群馬、岩島十郎五女)は其子女を伴ひ分家し弟助左衛門(同二六、七生)も亦分家せり(天津日本租界須磨街三電二一三七七)

參照＝内山岩太郎の項

内山英保

共益不動産㈱專務取締役、新潟縣在籍

妻　シヅ　明三、一生、福島、清水清助養子

男　雄治　明二八、四生
嫡　ミヤコ　明三六、一一生、長男雄治妻、廣島、沖信太郎二女

君は新潟縣人前川德之助の弟にして明治元年十月を以て生れ先代市郎左衛門の養子となり同三十二年家督を相續し後前名幸作を改む現時共益不動産會社專務取締役にして義に横濱興信銀行常任監査役たりしとあり家族は尙孫英治(大一二、二生、長男雄治長男)同英美子(同一三、五生、同長女)同龍夫(昭三、一一生、同二男)ありA五一七(神奈川縣鎌倉郡鎌倉町扇ヶ谷二一電四六五)

内山平三郎

地主、東京府在籍

養母　よね　明五、九生、東京、堀江松五郎姉
妻　みち　明二四、七生、東京、冠權四郎二女
男　一郎　明四四、一〇生
女　千代子　大三、三生

君は東京府人内山吉五郎の弟にして明治十二年六月五日を以て生れ先代平三郎の養子となり大正十五年家督を相續し前名銀次郎を改め襲名す地主にして資產家たり家族は尙二男次郎(大五、八生)三男三郎(同八、四生)四男四郎(同一一、一生)二女和子(同一三、四生)三女貞子(同一五、六生)ありA一〇九八(東京市小石川區林町七一電小石川四九三〇)

參照＝内山吉五郎、冠權四郎、堀江松五郎の項

内山松世

富山銀行、富山信託各㈱取締役、農業、富山縣在籍

妻　たか　慶應二、一一生、養父年彦三女
男　季友　明二六、八生
嫡　量　明二一、一一生、長男季友妻、富山、盛永宏成長女
孫　日南子　大五、一二生、長男季友長女
孫　靜子　大八、八生、長男季友二女

君は舊富山藩士小池春香の長男にして元治元年二月を以て生れ先代年彦の養子となり後家督を相續す夙に漢學を修め後慶應義塾に學び農業に從事し現に前記銀行會社の重役たり襲に富山縣多額納稅者に列し富山縣農工銀行頭取富山電氣軌道會社取締役帝國火災保險會社監査役等に擧げられ又衆議院議員に當選せり平素百家の書を讀み漢詩を研鑽し傍て茶禮を修む家族は尙孫弘正(大四、二生、長男季友二男)同道子(同一〇、一〇生、同三女)同順子(同一一、一一生、同四女)同櫻子(同一三、三生、同五女)あり長女むろ(明一七、二生)は富山縣人柏原津左衛門二男與次郎に二女あて(同一九、七生)は東京府人松井甚四郎に三女すが(同二四、七生)は同府人藤岡萬藏に四女さや(同二六、九生)は富山縣人伊東與義に嫁し二男元二(同二八、九生)は同縣人米田元吉郎に養妹すゝ(同一一、一二生)は同縣人金子貫三に各養子となり三男威丸(同三九、六生)は分家し養妹もと(同七、四生)は同縣士族小池充彦の母たりA一二〇〇(富山縣婦負郡百塚村)

參照＝小池充彦、松井甚四郎、米田元吉郎の項

内山安衛

前橋商工會議所議員、前橋合同運送㈱取締役、群馬縣在籍

男　良一　明三〇、八生
嫡　よね　明三一、二生、長男良一妻、群馬、石黒與一姉
男　豊治　明三二、九生
嫡　とみ　明三七、三生、二男豊治妻、群馬、中澤伴藏二女
男　忠三　明四四、四生

君は群馬縣人石黒與平の三男にして明治七年十二月を以て生れ先代安衛の養子となり同四十二年家督を相續し襲名す現時前橋合同運送會社取締役にして推されて前橋商工會議所議員たり襲に群馬縣多額納稅者に列す家族は尙孫たい(大一二、一生、長男良一長女)同榮子(同一四、八生、同光隆(同一五、一一生、二男豊治長男)同清子(昭四、四生、同長女)あり二女まち(明四二、二生)は群馬縣人池田秀雄に妹くに(同二二、一一生)は同縣人手塚錄五郎に嫁せり(前橋市連雀町一四)

參照＝手塚錄五郎の項

内山安兵衛

五日市鑛道㈱代表取締役、東京府在籍

繼母　テル　安政二、六生、神奈川、原省三二女

妻　フサ　明一〇、六生、神奈川、扁井直吉二女
男　善一　明三〇、五生
婦　素子　明三四、八生、長男善一妻、東京、神山閑次三女
男　良　明三三、四生
婦　道子　明四二、一〇生、二男良妻、東京、水谷叔彦四女

君は東京府人内山善右衛門の長男にして慶應元年十二月二十日を以て生れ明治十六年家督を相續す現時五日市鐵道會社代表取締役たり嘗に神奈川縣會議員東京府會議員同郡郡會議長衆議院議員等に當選す妹クミ（明一〇、二生）は長島勇雄の養母にして同ツナ（同一一、四生）は東京府人宮田平藏長男靜造に養子カツ（同六、一二生、東京、士、千葉豊姉）は東京府士族橋本五老に嫁せりA二八三（東京府西多摩郡五日市町六九）

参照＝神山閑次、長島勇雄の項

打田與三吉

貴産家　大阪府在籍

妻　ヤエノ　萬延元、六生
婦　ウタ　明一七、四生、亡養子爲次郎妻、大阪、吉水榮次郎二女
孫　アサ　明四〇、八生、亡養子爲次郎長女
孫　八重子　大四、二生、亡養子爲次郎四女、大阪府立大手前高女出身
孫　喜代子　大七、一二生、亡養子爲次郎五女、大阪府立大手前高女在學

君は兵庫縣人福若長兵衛の三男にして安政六年十一月八日を以て生れ先代ヤエノの入夫となり明治二十一年家督を相續す資産家たりA五一八（大阪市西區江戸堀北通三の四二電土佐堀三三七四）

打保常次郎

南樟鐵道㈱取締役、王子製紙㈱野田工場長、岐阜縣在籍

妻　せい　明一四、四生、岐阜、田中健三姉
養子　庸彌　明四四、四生、東京、寺境彌二男

君は岐阜縣人打保庄九郎の二男にして明治十一年十一月を以て生れ大正五年家督を相續す明治四十三年東京高等工業學校を卒業三井物産會社小樽支店に入り次で三井合名會社樺太紙料工場に轉ず後王子製紙會社に入り大泊工場詰より巣鴨して野田工場長となり昭和八年同社の富士製紙樺太工業各會社と合併後も引續き其に任ず大正十四年兼ねて南樟鐵道會社取締役に擧げられ今日に至る（樺太野田郡野田町）

打矢正朋

東京市方面委員、地家主　東京府在籍

母　てる　明一〇、九生、東京、鈴木鐵次郎長女
妻　サク　明三七、六生、奈良、下村貫治郎二女、東京市立第一實科高女出身
男　友祥　昭三、五生

君は秋田縣人打矢正吉の長男にして明治三十二年十月を以て生れ昭和六年家督を相續す大正十二年早稲田大學商學部を卒業し地家主にして現時東京市方面委員に擧げらる家族は倚二男文俊（昭四、一二生、日本高女出身）弟九、三生）妹松子（明四二、一二生、愛安（大元、一〇生）妹好子（同六、八、一〇生）あり弟晋三郎（明三八、一生）は分新島昌言の養子となり同光四郎（同四〇）（東京市小石川區家弟正次の死跡を相續せりA四〇〇、關口町九〇）

移川子之藏

正五位勲四等、臺北帝國大學教授、文政學部勤務、東京府在籍

妻　丈兒　大一〇、四生

君は福島縣人移川嘉藏の四男にして明治十七年十一月を以て生れ昭和八年兄源吉方より分れて一家を創立す夙に北米シカゴ大學を卒業し墺でハーバード大學大學院に學び大正七年ドクトル、オブ、フヰロソフヰーの學位を授與せられ同大學海外研究員として東印度方面に派遣せられ在留二年歸朝後慶應義塾大學文學部東京高等商業學校各講師を囑託せられ大正十年東京商科大學附屬商學專門部教授兼同大學豫科教授に任ず同十五年況太平洋學術會議準備委員となり後臺灣總督府高等學校教授に轉じ同時に英獨佛各國に留學し昭和三年歸朝臺北帝國大學教授に任ぜられ文政學部に勤務す家族は倚長女甲子子（大一三、一生）二女敦子（同一五、八生）二男次彦（昭四、七生）あり（臺北市昭和町大學住宅電四一八二）

靱仲次郎

マグネシヤ工業㈱取締役、大阪株式取引所取引員、東京府在籍

妻　麻子　明三三、三生、生母、大阪、森岡リツ、マグネシヤ工業㈱取締役
庶子　信一　明三五、五生、庶信一妻、香川、自川春造姪
婦　貞子　明四五、六生

君は大阪府人靱早太の二男にして明治七年二月十四日を以て生れ同二十三年家督を相續す大阪株式取引所取引員にして倚らマグネシヤ工業會社取締役たり家族は倚庶子博正（大一二、二生、生母、兵庫、前川ゑん）孫靱子（昭三、一二生、庶子信一長女）同一雄（同五、五生、同長男）ありA一八八五（大阪市住吉區住吉町五四三ノ一電戎一一七七）

采野與兵衛

呉服商　京都府在籍

養母　とも　嘉永六、七生、京都、川原清兵衛二女
妻　たみ　明一九、一〇生、養父與兵衛二女
男　英一　大一四、八生
養子　信夫　明三二、九生、長女アイ夫、京都、廣瀬源三郎二男
女　アイ　明三七、一生、養子信夫妻
女　ツネ　明三九、六生
女　ヨシ　明四五、五生
女　アサ　大六、一生

君は滋賀縣人岡野庄五郎の二男にして明治八年八月を以て生れ先代與兵衛の養子となり大正五年家督を相續し前名繁治郎を改め襲名す呉服商を營む家族は倚孫知惠子（昭五、三生、養子信夫長女）同親男（同七、一生、同長男）ありA一〇二六B二〇九（京都市下京區五條烏丸西入ル電下三九五）

生方繁三郎

太洋商會、丸石染料各㈱取締役　東京府在籍

男　温太郎　明四三、六生、米國留學
女　紅葉　明四〇、四生、東洋英和女學校修學
女　加奈　明四五、五生、東洋英和女學校出身

妻　芳二郎　大二、六生、米國留學

君は群馬縣人生方治作の三男にして明治十年十二月を以て生れ同四十二年家督を相續す夙に英領加奈陀に渡航し事業界に投じ現時前記各會社の重役にして養に日英自動車製造同志貿易各會社取締役を兼ぬゴルフ競劇を趣味とす家族は倚三男保三郎（大六、八生、慶大在學）四女信（同一〇、七生）あり二女千嘉（明四一、一二生）はルーマニヤ國人デメートル・エム・ニコラウトに嫁せりA四四七（東京市芝區白金臺町一ノ一〇電高輪一六四一）

生方裕元

日本煉瓦製造㈱取締役　東京府在籍

妻　マツ　明一九、一生、群馬、飯野金吾姉
男　孝一　明三七、六生、法學士
男　竹二　明四二、一生
女　大七、一〇生
女　晄子

君は舊越後高田藩士安松立志の二男にして明治六年九月三日を以て生れ同三十二年先代フデの入夫となり家督を相續し前名彌太郎を改む現時日本煉瓦製造會社取締役たり家族は倚三男淳三（大四、五生）四男芳丸（同六、一生）養妹酉（明三〇、七生）あり長女英子（同三八、一〇生）は東京府人高野芳三郎に嫁せり（東京市淀橋區柏木二ノ二五五電四谷三七〇七）

馬野由松

質商　東京府在籍

母　ぎん　明元、八生、東京、小野澤伊之助二女
妻　とと　吉二女　明三四、一一生、東京、大澤子之助二男　昌久　昭二、四生

君は東京府人馬野鉄太郎の三男にして明治二十九年八月七日を以て生れ同四十一年家督を相續す質商を營む家族は倚長女靜江（大一二、一〇生）二女光以（昭六、一生）あり姉てつ（明二七、三生）は東京府人馬野新次郎に妹すゑ（同四〇、五生）は同府人小野澤富次郎長男豊次郎に嫁し弟菊藏（同三五、一生）は同妻モト子（同四一、一生、埼玉、高橋吉藏長女）及其一子を伴ひ養兄新次郎（同一七、八生、東京、岡田元次郎二男）は其二子と共に各分家し妹かま（同三二、八生）は東京府人高橋きんの養子となれりA三六九（東京市荏原區戸越町一二八八電荏原二一一六）

海上浩

横濱正金銀行㈱シンガポール支店支配人、東京府士族

妻　まき　明二一、三生、東京、椎野ぎん六女
男　俊夫　明四三、七生
男　次郎　大二、九生

君は東京府人海上胤範の長男にして明治十九年七月二十日を以て生れ同四十五年家督を相續す先是同四十二年東京高等商業學校を卒業し横濱正金銀行に入り東京支店詰を經て現時シンガポール支店支配人たり家族は倚三男春雄（大一〇、三生）四男輝雄（同一八、九生、東京、遼靖（明二二、一二生）同妻禮（同二八、九生、東京、遼藤忠次二女）及其三子あり（シンガポール横濱正金銀行支店内）

海川吉治郎

名古屋合同運送㈱取締役　愛知縣在籍

妻　てう　明五、一〇生、三重、水谷與四郎二女
男　彦次郎　明三二、一二生
婦　静惠　明二八、一二生、三男彦次郎妻、愛知、小川吉次郎三女
男　寅一　明三五、二生
女　豊子　明四三、三生
男　正吉　明四四、一生
男　喜七郎　明四五、四生

君は愛知縣人海川重藏の長男にして慶應二年十二月五日を以て生れ明治三十六年家督を相續す現時前記會社の重役たり家族は倚九男俊次（大六、一生）十男清重（同八、九生）孫吉彦（同一四、七生、三男彦次郎長男）同正彦（昭三、七生、同二男）あり長女きく（明二五、同正彦（昭三、七生、同二男）あり長女きく（明二五、三生）は愛知縣人谷田銀次郎に二女金子（同三六、一一生）は長崎縣人今川彰一郎に嫁し三女勝子（同三八、七生）は三重縣人水谷竹松弟米吉に五男貴吾（同四一、一生）は愛知縣人淺野半藏に各養子となれりA一九七（名古屋市中區南武平町四ノ二四電中一二〇七）

（※印は姻族關係）

海野敷馬

衆議院議員（靜岡縣選出）、出版業　靜岡縣在籍

妻　きよ　明二四、一〇生、靜岡、倉澤保七二女
女　ひさ子　大七、一〇生

君は靜岡縣人大井善吉の三男にして明治二十二年六月を以て生れ先代平作の養子となり大正五年家督を相續し前名勇吉を改む明治四十四年日本大學法律科を卒業し出版業を營む嘗に靜岡縣會議員に選ばる昭和三年以來靜岡縣より推されて衆議院議員に當選すること三回現に其任に在り立憲民政黨に屬す家族は倚庶子利子（大一一、二生、生母、靜岡、太田せん）あり養兄鐵次郎（明一一、九生、靜岡、山内貞藏二男）同妻たつ（同一五、一一生、靜岡、鈴木吉三郎二女）は其子女を伴ひ分家し姪スミエ（同三四、一生、分家養兄鐵次郎長女）は靜岡縣人大森良平に嫁せり（靜岡市馬淵町「東京宅」東京市麹町區元園町二ノ二電九段一三八〇）

海野源藏

地家主　大阪府在籍

父　源太郎　元治元、四生、現戸主
母　タネ　明三、二生、大阪、池永善左衛門妹
妻　のぶ　明三一、二生、大阪、松本辰藏長女、梅田高女出身
男　源左衛門　大九、一二生

君は大阪府人海野源太郎の長男にして明治三十一年六月を以て生る大正十年同志社大學法學部經濟科を卒業し地家主たり家族は倚三男和男（昭二、四生）あり姉チノ（明二二、一一生）は大阪府人羽間庄太郎に伯母リエ（嘉永五、八生）は同府人松本淺次郎に從姉イト（明八、五生、伯母リエ長女）は前記松本辰藏に嫁せりA九二三六（大阪市東淀川區中津濱通四ノ三一電北六六七八）

参照＝羽間庄太郎、松本辰藏の項

海野耕平

安田銀行㈱京都支店長　靜岡縣士族

妻　りん　明三二、八生、東京、渡邊源次郎長女
男　良一　大一二、一二生

君は静岡縣士族海野覺太郎の二男にして明治二十二年十一月を以て生れ大正八年家督を相續す夙に安田銀行に入り昭和二年同行櫻田支店長に轉じ現時京都支店長たり家族は尚長女茂子（大一〇、一二生）二女芳子（同一五、一〇生）三女延子（昭四、五生）四女愛子（同六、一二生）養子幸子（大九、一生、靜岡、秋元とき子叔母）弟宙平（明二七、一二生）ありA一一三（京都市上京區中立賣通油小路西入ル上ル電西陣四一九七）

海野得志

正五位勳五等、檢事、高田區裁判所檢事兼新潟地方裁判所高田支部檢事、宮崎縣在籍

母　チイ　安政元、二生、宮崎、河野權兵衛長女

妻　りき　明三六、七生、宮城、阿部直江叔母

男　毅　明四三、五生

男　淡路　明四五、五生

女

君は宮崎縣人海野庄平の長男にして明治十九年四月を以て生れ同四十年家督を相續す同四十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し大正二年檢事に任じ爾來甲府地方東京區兼同地方長野地方兼同區大垣區兼金澤地方七尾支部四日市區兼安濃津地方四日市支部福井地方兼同區豊橋區各裁判所檢事に歴補し飯田區裁判所檢事兼長野地方裁判所飯田支部檢事下妻區裁判所檢事兼水戸地方裁判所下妻支部檢事を經て現時前記の職に在り家族は尚二男未知雄（大五、七生）三女静枝（同一一、一一生）四女須美（同一三、七生）ありA二一三四（大阪市東メイ（明二四、九生）は同縣人河野龜太郎長男寛に從姉ムツ（元治元、二生）は同縣人黒木助四郎に嫁せり（高田市西城町三ノ六電七七二）

海野八郎

家主　大阪府在籍

母　巻　明一三、四生、大阪、田中正治姉

君は大阪府人海野梅三郎の長男にして明治四十年八月を以て生れ大正十一年家督を相續す家主たり油繪に趣味を有す家族は尚妹瀧（明四三、三生）弟三郎（同四五、七生）妹和子（大六、一一生）ありA二一三四（大阪市東淀川區中津本通三ノ二七電北八三〇五）

梅浦健吉

東洋モスリン、入山採炭、東洋毛絲各㈱專務取締役、鴨綠江製紙、各㈱取締役、金綱鐵路公司㈱監査役、東京府在籍

男　一　大五、一一生

君は東京府人大竹逸藏の二男にして明治十八年六月二十一日を以て生れ梅浦モトの養子となり大正十一年養弟五一方より分れて一家を創立す明治四十三年水產講習所を卒業し翌年朝鮮水產會社に入り同社技師となり次で清津出張所長に進みしが大正四年同社を辭し現時東洋モスリン會社專務取締役の外前記各會社の重役たり曾て露領林業奉天電車各會社の重役たりし事あり家族は尚二女鶴子（大一四、九生）あり養姉フミ（明一七、一一生）は東京府人大倉喜三郎に嫁せりA三〇六五（東京市麹町區永田町一ノ一五電銀座三五一〇）

梅岡源太郎

梅岡正吉商店㈱專務取締役、銅鐵、東京丸銅商店各㈱監査役、東京府在籍

父　正吉　安政元、四生

妻　ハル　明二三、一〇生、東京、豊田平八妹

男　醇太郎　大六、四生

女　照　明四四、九生

君は東京府人梅岡正吉の長男同忠之助の兄同平七の從兄にして明治十四年六月を以て生る現時梅岡正吉商店專務取締役にして東京銅鐵東京丸銅商會各會社監査役を兼ぬ家族は尚二男眞二（大一〇、一〇生）ありA一〇一（東京市麹町區元園町一ノ二七電九段四〇五二）

参照＝梅岡正吉、梅岡忠之助、梅岡平七の項

梅岡正吉

梅岡正吉商店㈱社長、東京銅鐵各㈱取締役、東京府在籍

男　源太郎　明一四、六生

女　菊　明二二、三生、御茶の水高女出身

養子　伊佐夫　明三六、六生、五女芳香夫、千葉伊藤安次郎二男

女　芳香　明三九、七生、養子伊佐夫妻、御茶の水高女出身

君は東京府人先代平七の二男梅岡正吉の養男同源太郎同忠之助の從弟にして明治二十六年八月を以て生れ大當家は數代前より江戸に住したる商賈にして先々代平七初めて金物商を營み以て今日に至る君は埼玉縣人平澤文吉の弟にして梅岡平七の養伯父に當り安政元年四月七日を以て生れ先代きんの入夫となり家督を相續す銅鐵商を營み梅岡正吉商店社長にして傍ら前揭銀行會社の重役たり曩に神田區會議員同藥組合長等に推さる書を能くす家族は尚孫裕（昭五、一〇生、養子伊佐夫長男）同陽子（同八、一〇生、同長女）あり長女鎖（明一八、九生、御茶の水高女出身）は東京府人山田保太郎に三女英（同二七、三生、出身校同上）は同府人出井五郎松長男晋一に嫁し二男義三郎（同一六、七生、中央土地建物、梅岡正吉商店各㈱監査役）三男忠之助（同二四、九生）は各分家し四男謙三（同三二、八生、梅岡正吉商店㈱監査役、慶大理財科出身）は同妻久子（同四三、九生、茨城、野澤德長女）と共に亦分家せりA三四一（東京市神田區材木町二八電銀座三五五〇）

参照＝梅岡源太郎、梅岡忠之助、梅岡平七※締貫要之助の項

梅岡忠之助

梅岡正吉商店㈱取締役

妻　幸　東京府在籍明二七、二生、東京、中井新右門妹

君は東京府人梅岡正吉の三男同源太郎の弟同平七の從兄にして明治二十四年九月五日を以て生れ大正十年分れて一家を創立す現に梅岡正吉商店取締役たりA三九一（東京市麹町區三番町一四電九段一九三五）

参照＝梅岡源太郎、梅岡正吉、梅岡平七、中井新右門※中井永一※高津伊兵衛の項

梅岡平七

東京府多額納稅者、鐵藥銀行、許硝子工業各㈱取締役、梅岡本店資無限責任社員、銅鐵商、東京府在籍

繼母　うた　明一一、二生、東京、松村孫兵衛妹、梅岡本店資社員

妾　重　明三四、一生、法學博士鵜澤總明長女、梅岡本店資社員

男　總治　大一〇、七生

君は東京府人先代平七の二男梅岡正吉の養男同源太郎同忠之助の從弟にして明治二十六年家督を相續し前名正太郎を改め襲名す銅鐵商を營み合資會社梅岡本店無限責任社員たる外鐵藥銀行特許硝子工業會社各取締役にして東京府多額納稅者に列し直接國稅八千百八十二圓を納む家族は尚長女美和子（大一二、五生）二女慶子（同一五、一一生）あり伯母きん（萬延元、五生）は東京府人梅岡正吉に嫁し叔父助次郎（慶應三、九生）は同府人綿貫知道の養子となり其子要之助當主たり（東京市神田區東松下町三七電浪花一七六六）

参照＝梅岡源太郎、梅岡正吉、梅岡忠之助、鵜澤總明、松村孫兵衛、綿貫要之助の項

梅岡巳之吉

梅岡巳之吉商店㈱代表取締役、鐵屋、銅鐵卸商、東京府在籍

母　レン　明一六、八生、東京、鈴木與五郎長女

妻　由枝　明四三、四生、東京、木下利吉二女

君は東京府人先代巳之吉の長男にして明治三十九年二月二十七日を以て生れ大正七年家督を相續し前名征一郎を改め襲名す東京府立第一商業學校を卒業し鐵屋と稱し鋼鐵卸商を營み梅岡巳之吉商店代表取締役たり家族は尚妹芳瀬子（明四〇、八生、九段精華高女出身）弟泰夫（大二、九生）妹梅子（同七、四生、九段精華高女在學）あり姉千代子（明三八、四生、九段精華高女出身）は京都府人木下茂に嫁し弟隆三（同四二、八生、慶應義塾高等部出身）は分家せりA九六八二B一五五七（東京市神田區須田町二ノ二電浪花四三六〇）

梅垣德太郎

英大小雜貨商　大阪府在籍

妻　まき　明二八、八生、京都、渡邊與一妹

男　忠　大七、一生

君は京都府人梅垣常藏の二男にして明治二十三年五月を以て生れ大正十四年分れて一家を創立す英大小雜貨商を營む昭和四年英領印度を視察す家族は尚長女田鶴子（大九、九生）二女千鶴子（同一三、一生）三女澄子（同一五、二生）二男毅（昭三、七生）三男昌三（同五、二生）ありA二五七B一六七（大阪市西區土佐堀通二ノ二〇電土佐堀三七〇七）

梅川官藏

東北醸造㈱社長　秋田縣在籍

妻　ハツ　松長女、一四、一生、秋田、太田亥之助

男　正夫　明四〇、九生

君は秋田縣人梅川清吉の二男にして明治十一年三月を以て生れ同三十年家督を相續す現時東北醸造會社々長たり家族は尚弟豊治（明二二、六生）同妻キヲ（同二八、七生、秋田、佐藤喜久治二女）及其二男四女あり弟正助（同一三、二生）同妻ヨシ（同二二、三生、福井、中村清吉妹）は其二男を伴ひ弟清之助（同一八、二生）同妻ヨシ（同二七、一〇生、秋田、地主永助二女）は其一男を伴ひ叔父清治（元治元、七生）同妻スミ（慶應三、七生、秋田、佐藤久右衛門二女）は其子を伴ひ各分家し妹ミヤ（明一六、一生）は秋田縣人藤井靜庵養子珍藏に同シシン（同二〇、八生）は同縣人小原平八郎二男喜八郎に嫁せり（秋田縣仙北郡飯詰村）

梅小路定行

從二位勳三等、子爵、貴族院議員、不動貯金銀行㈱取締役、東京工科學校長、養公卿家

妻　章子　明六、一生、子爵藤波宗治從姉

男　定雄　明四二、九生、從五位、不動貯金銀行員、學習院出身

婦　花子　明四四、八生、長男定雄妻、子爵鍋島直和三女、女子學習院出身

男　定美　明四四、七生、京大經濟學部在學

男　實　大二、七生、同上

當家は内大臣清閑寺共房の三男權大納言定矩の後なり定矩別に一家を創め梅小路と稱す八世を經て先代定明に至る君は其長男にして慶應元年十一月十七日を以て生れ明治元年家督を相續し同十七年子爵を授けらる夙に京都華族會館勉學所に學び後陸軍士官學校に入る同十六年宮中殿掌に任じ京都市會議員に當選する事五回現に其任に在り又年以來貴族院議員に推さる同二十四年以來貴族院議員に當選する事五回現に其任に在り又不動貯金銀行取締役東京工科學校長たり謠曲圍碁を好む二女加壽子（明三四、八生、山脇高女出身）は子爵梅溪通虎叔父通弘に庶子富子（同四〇、一生、生母、熊本、湯淺ミカ、出身校同上）は東京府人牧野元次郎長男不動貯金銀行取締役太郎に嫁し三女美智子（同三六、五生）は京都府人倉内純之助の養子となれりA一六六五（東京市赤坂區中ノ町二九電青山三九〇〇）

参照＝子爵梅溪通虎、子爵鍋島直和、子爵藤波宗治、牧野太郎の項

梅咲直愛

南都銀行㈱取締役　奈良縣在籍

妻　カツ　明二四、三生、奈良、岡島嘉平次三女

男　直昌　大一一、一一生

君は奈良縣人梅咲嘉吉郎の二男にして明治二十二年八月を以て生れ同四十四年伯父善八の死跡を相續す夙に八木銀行に入り取締役兼支配人に舉げられ昭和九年六月同行の外に銀行と合同して南都銀行の成立を見るや其の取締役に就任す（奈良縣磯城郡安倍村）

梅崎繁馬

鹿島銀行㈱頭取　佐賀縣士族

妻　マツ　文久二、八生、佐賀、士、梅崎季誠四女

男　彌惣　明二二、八生、佐賀縣農事試驗場技手、千葉閑藝專門學校出身

婿　ミブ　明三一、一〇生、長男彌惣妻、佐賀、綾部幸暉五女、鹿兒島高女出身

君は佐賀縣士族梅崎季以の長男にして萬延元年十月を以て生れ明治二十九年家督を相續す同年鹿島銀行に入り支配人取締役を經て現時同行頭取たり義に町會議員郡會議員等に擧げられ又牛津紙會社監査役たりし事あり家族は尚孫久以（大六、一〇生、長男彌惣長男）同サガ子（同一一、一一生、同二女）同久次（同一四、九生、同二男）同久三（昭二、一一生、同三男）あり長女ツラキン（同二五、八生）は佐賀縣士族矢川譜堂三男四郎に三女カリ（同二六、一生）は同縣人梅崎長次郎長男亥三に四女（同三〇、六生）は同縣士族正司敬次郎に五女テキ（同三〇、六生）は同縣人倉崎喜一に嫁し弟岩一（慶應元、一二生）は同縣士族吉岡虎三郎の養子となれり（佐賀縣藤津郡鹿島町）

梅崎延太郎

正四位勳二等、陸軍中將、第二十師團長、東京府士族

母　千賀　安政二、一一生、高知、荒尾恭順二女
妻　くに　明二三、一一生、東京、肥田金一郎妹
男　國夫　大元、一一生

君は東京府士族梅崎信量の長男にして明治十三年七月を以て生れ大正五年家督を相續す夙に陸軍幼年學校及陸軍士官學校を卒業し明治三十四年陸軍騎兵少尉に任じ大正十五年陸軍中將に昇進す大正三年國遏及瑞典に留學し後瑞典丁抹公使館附武官を經て大正十年騎朝騎兵第十八聯隊長陸軍大學校兵學教官陸軍騎兵學校長騎兵第一旅團長軍馬補充部本部長等を歴補し昭和七年現職に補せられ今日に至る家族は尚り長女貞子（大一〇、一〇生）二女宮子（同一四、五生）あり弟良雄（明一九、一二生）は同妻キン（同二六、五生東京、萩野常吉妹）と共に弟季雄（同二九、六生）は同妻正（同三三、三生、新潟、西巻正敬妹）と共に各其一子を伴ひ分家せり（京城府漢江通一一）

参照＝※肥田玄次郎の項

梅澤源吉

南繊鐵道、樺太木材各㊥取締役
栃木縣在籍

妻　イク　明二八、六生、栃木、横田謹次妹
男　太郎　大五、八生
女　良子　大七、一〇生

君は栃木縣人梅澤美穂の二男にして明治十八年三月を以て生れ昭和五年兄長太郎方より分れて一家を創立す明治四十年盛岡高等農林學校を卒業し現時前記各會社の重役たり養に大泊商工會議所議員に舉げらる家族は尚り二男泰雄（大九、一〇生）二女幸子（同二一、一一生）三女君子（同一四、二生）三男宏之（昭三、四生）四女貞子（同五、二生）あり（樺太豊原郡豊原町）

梅澤純一

正五位、醫學博士、鐵道局技師、門司鐵道病院長兼内科醫長
埼玉縣在籍

妻　たか　明二三、一生、山梨、佐藤豫策長女
男　純夫　明四二、一一生
男　濱夫　大三、一〇生

君は埼玉縣人梅澤良三の長男にして明治十八年一月十三日を以て生れ昭和五年家督を相續す明治四十三年東京帝國大學醫科大學醫學科を卒業し同大學衛生學教室に於て細菌研究生を命ぜらる次で大學副手となり爾後細井縣遠敷郡立小濱病院長となり後鐵道局技師に任ぜられ札幌鐵道病院長兼内科醫長を經て現時門司鐵道病院長兼内科醫長たり大正十三年醫學博士の學位を受く家族は尚三男郭臣（大五、七生）四男勉（同一三、九生）五男實（同一一、八生）六男博臣（同一三、九生）の外從妹とし（明二九、二生）あり父良三（安政六、一二生）母なか（慶應二、一生、埼玉、秋庭善之助妹）は共に分家し叔父馨造（明一一、五生）も亦分家し弟癸巳雄（同二六、一二生）同妻英（同二八、八生、埼玉、秋間憲治二女）は其二女を伴ひ弟麟三（同三三、一生）同妻ふみ（同三五、一〇生、茨城、西村鮮藏四女）は其一男を伴ひ叔父辰三（同一三、八生）同妻キミ（同一五、三生、富山、金岡勝吉二女）も亦其子女を伴ひ各分家し妹直江（同二一、八生）は東京府人松本鈴四郎に叔母きわ（同六、六生）は前記秋間憲治に同かく（同八、一二生）は茨城縣人金塚安太郎に嫁せり（山口縣長府町印内鐵道官舎）

梅園篤彦

正四位、子爵、貴族院議員、精版印刷㊥監査役、舊公卿家

養母　ミチヨ　明一八、六生、京都、士、武部兵太郎長女
妻　まち　明二二、一〇生、滋賀、吉田幸治郎妹

君は本中將橋本實勝の二男實清の分立する所にして當家は左中將橋本實勝の二男實清の分立する所にして當家號を梅園と稱すそれより十二世を經て實紀に至り明治十七年子爵を授けらる男實師其後を繼ぎ君に至る君實は男爵親野行和の弟にして明治二十二年七月十七日を以て生れ大正二年先代實師の養子となり同六年家督を相續し舞爵す明治四十五年大阪市立高等商業學校を卒業し後京都帝國大學法科大學に入り政治經濟學を修む華族會館京都分館主事京都府工業研究會主事兼京都市校講師等に就任し現に貴族院議員にして前記會社の重役たり（京都市左京區下鴨中川原町三五號上二九二三）

参照＝男爵親野行和、吉田幸治郎※子爵山本公慶※猪田岩藏の項

梅田猪之助

木綿商
兵庫縣在籍

妻　きく　明四、七生、廣島、川中助十郎三女
男　榮一　明三四、三生
婿　あき子　明四〇、四生、長男榮一妻、兵庫久保丑之介二女
女　はつ　明三八、一二生
女　博子　大五、三生

君は兵庫縣人梅田佐左衛門の長男にして明治十一年八月を以て生れ同二十八年家督を相續す木綿商を營む家族は尚孫嘉一（昭五、二生、長男榮一長男）あり妹ため（明一六、一二生）は兵庫縣人岡田誠一に嫁し弟恒治（同二三、八生）は同縣人梅田きんの死跡を相續し二男謙二（同三六、七生）は更に其家督を嗣げりA七四二（神戸市葺合區二宮町二ノ一七電三宮二二五一）

梅田喜代三郎

從位勳五等、遞信局技師、名古屋遞信局勤務、京都府在籍

妻　テルヨ　明二七、一一生、愛媛、眞田善助長女、縣立今治高女出身
男　章　大九、一一生、縣立愛知一中在學
女　喜美子　大三、三生、實踐女專出身
女　すみゑ　大七、二生、愛知縣立第二高女在學

君は京都府人村松康三郎の弟にして明治二十二年五月十日を以て生る同四十四年大阪高等工業學校造船科を卒業し直に横須賀海軍工廠造船部勤務となり翌四十五年愛媛縣立弓削商船學校教諭に轉じ大正三年遞信局技手に任じ東京遞信局勤務九州遞信局海事部三池出張所長等を經て同九年遞信局技師に任ぜらる爾來札幌大阪仙臺東京各遞信局に勤務し昭和六年名古屋遞信局勤務を命ぜられ現在に至る（名古屋市中區鶴羽町一ノ二九ノ一）

梅田

教賀舞合同巡取締役、梅田㊥代表社員、東京府在籍

妻　きよ　明一九、七生、東京、士、小具てい三女
男　滿洲雄　明三七、三生
婿　悠同子　明四四、四生、長男滿洲雄妻、東京、小川六三郎長女
男　三良　明四二、三生

女　玉枝　大三、一生

君は青森縣人梅田吉之助の弟にして明治六年四月十日を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す現時敦賀舞合同會社取締役にして梅田合名會社代表社員たり養に東奥製絲梅田商會各會社々長たり家族は尚四男晃（大九、八生）孫登喜子（昭六、七生、長男滿洲雄長女）あり二男茂雄（明四一、一生）は前記小具ていの養子となり長女龍子（同四四、九生）は山形縣人段崎俊平弟俊吾に嫁せりA八八七（東京市麻布區本村町一一六電高輪三七四〇）

梅田建次郎

白木屋㊥取締役
滋賀縣在籍

父　石松　文久三、一〇生、現戸主
母　ナカ　明四、二生、大阪、井出久治郎長女
妻　ナヲ　明二〇、八生、京都、林與吉長女
養子　清次　明三九、四生、長女初枝夫、富山、大野嘉平二男
女　初枝　明四二、二生、養子清次妻、府立京都第二高女出身

君は滋賀縣人梅田石松の長男にして明治十九年十二月を以て生る現時白木屋取締役にして養に營業部長を兼ぬ家族は尚孫靖子（昭七、一〇生、養子清次長女）あり叔父新次郎（明五、八生）は大阪府人宮本テルの入夫となりA二二八（東京市荒川區日暮里町八ノ七〇電下谷五六九七）

梅田三次郎

家主
大阪府在籍

妻　あい　明四〇、一二生、京都、金澤豊二姉

梅田家は先代三藏奈良縣より大阪に出で一家を創立せるに創まる三藏來阪後浴場業を營み剃苦慟闘業況大いに揚る君は其庶子にして明治三十四年六月を以て生れ大正二年家督を相續す明星商業學校を經て同十五年明治大學を卒業し家主にして現に京阪電氣鐵道會社に勤務す野球の技に長じ明治大學在學中野球部選手として海外に遠征する事二回に及べり家族は尚長女泰子（昭四、四生）あり姉水榮（明二七、一二生）は分家せりA六一四（大阪市北區曾根崎新地二ノ二）

梅田

金繊業
東京府在籍

母　まさ　慶應三、一二生、三重、山村源助三女
妻　富佐子　明三一、一二生、和歌山、一色富之進長女
男　洋一　昭五、七生

君は三重縣人先代千代松の長男にして明治二十五年一月を以て生れ同四十五年家督を相續し前名傳一を改め襲名す夙に梅田製鋼所專務取締役に舉げられ現に其任に在り家族は尚長女靜子（大九、三生）二女照子（同一四、一二生）三女敦子（昭三、九生）あり弟愛之助（明二八、一一生）は三重縣人服部富造の養子となり妹やす（同三一、八生）は同夫政男（同二八、八生、三重、大西正之助弟）と共に分家せりA六〇〇（兵庫縣武庫郡精道村鷹屋藤ケ谷一四一四電鷹屋二八二二）

梅田牧太郎

地主
東京府在籍

妻　ギン　慶應二、九生、東京、野口三右衛門二女
男　謙藏　明三二、二生
婿　トク　明三二、一二生、五男謙藏妻、東京、宮崎國三郎二女
孫　長左衛門　大二、六生、亡男理兵衛長男
孫　華　大六、一二生、亡男理兵衛二女

君は東京府人梅田佐七の長男にして文久元年十月二十三日を以て生れ明治十二年家督を相續す地主たり家族は尚孫桂子（大一三、九生、五男謙藏二女）同晃司（同一五、一一生、同長男）あり同イヤ（明四四、八生、亡男理兵衛長女）は東京府人三井廣吉に嫁せりA五〇五（東京市杉並區和泉町三九九）

参照＝三井廣吉の項

梅田雄三

山陽中央水電㊥常務取締役、岡山電燈、山陽中央證券各㊥取締役
大阪府在籍

妻　マサ子　明一四、一生、大阪、益田正祐業
男　光雄　大九、一生
女　靜子　大六、七生

君は大阪府人梅田善兵衛の三男にして明治十九年九月を以て生れ昭和四年家督を相續す明治四十三年京都帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し現時山陽中央水電

会社常務取締役たる外岡山電燈山陽中央證券各會社取締役たり家族は尚姉コウ（明一四、一二生）及其の二子ありA三五〇（大阪市住吉區阪南町中一ノ三七電天王寺八〇七）

梅溪通虎

妻　夏子　従四位、子爵、東京貯蔵銀行總支店係長、舊公卿家　明四〇、七生、女子學習院出身

男　通明　昭七、九生

當家は權大納言久我敦通の男左中將通世の後なり家號を梅溪と稱し八世を經て通義に至り明治十七年子爵を授けらる長男通治繼ぎ平野神社宮司男山八幡宮大宮司等に歴任す先代通魯は其弟にして慶應義塾を卒業し三井銀行に勤務すること多年後戸畑鑄物會社監査役に就任す君其後を享く君實は三重縣人松平家晃の二男にして明治三十五年三月八日を以て生れ通魯の養子となり大正九年家督を相續し襲爵被仰付學習院高等科を經て同十四年京都帝國大學法學部法律學科を卒業し同大學院に於て行政法を攻究す現時東京貯蔵銀行員にして同本店支店係長たり撞球登山ゴルフ等を趣味とす家族は尚長女百合子（昭八、一二生）叔母直（明四、一〇生）あり妹淳子（同三六、七生）は男爵相樂綱直の養子となり侯爵艤峨公勝四男公愛を養子に迎へ叔父通禮（同一八、八生）は分家し同通弘（同二六、一一生）も亦其妻加壽子（同三四、八生、子爵梅小路定行二女）を伴ひ分家し叔母文（同七、一生）は東京府人藤田政輔の養母にして同貞子（同二〇、一二生）は京都府人池坊專啓に同縁子（同一七、四生）は埼玉縣人麻生誠之に嫁せり（東京市澁谷區羽澤町四四電青山三七八二）

参照＝子爵梅小路定行、子爵伯石政敬、男爵相樂公愛、池坊專啓、藤田政輔、松平家晃淡堀秀孝の項

梅津健吉

妻　京　東洋モスリン、盛岡電燈、花卷温泉各取締役、岩手縣在籍　明四〇、九生、岩手、橋本惣八長女

男　建一郎　昭二、一一生

君は岩手縣士族中野協蔵の二男梅津東四郎の養嗣にして明治三十二年十二月を以て生れ當家の養子となり同四十二年養父喜八の後を承け家督を相續す現時前記各會社の取締役たり家族は尚長女裕子（昭四、八生）養弟誠介（明三六、一一生）養妹とし（同三八、一〇生）同アツ（同四一、三生）あり養叔母イサ（同一六、五生）同夫半七（同一一、一生、岩手、村田喜次郎弟）は其子女を伴ひ分家し養叔父喜兵衛（同二四、一一生）も亦分家し養叔母カツ（同一八、七生）は岩手縣稗貫郡花卷町「東京宅」東京市麹町區永田町一ノ一五）

参照＝梅津東四郎の項

梅津小次郎

養父　秀義　正五位、鐵道病院、醫學博士、鐵道醫、東京皮膚泌尿科醫長、日本大學教授、醫師、山形縣在籍　明二、六生、現戸主

妻　美代子　明二三、四生、東京、小谷野末吉二女

男　静武　大五、四生、日大醫學部在學

女　静子　大二、九生、櫻井女塾出身

女　京子　大八、八生、三輪田高女在學

君は山形縣人澁谷伊兵衛の二男にして明治十五年五月を以て生れ同二十六年現戸主秀義の養子となる同四十二年東京帝國大學醫科大學醫學科を卒業し同大學副手鐵道保險課囑託を經て大正八年鐵道醫に任ず其間常盤病院皮膚泌尿科主任心得同醫長に歴補し現に東京鐵道病院皮膚泌尿科醫長にして前記の職を兼ぬ同十年鐵道従業員特殊疾病研究の爲獨佛各國に留學し歸朝後同十三年醫學博士の學位を受く養妹きち（明二八、一〇生）養伯父富彌（萬延元、三生）は各分家せりA一七九（東京市日本橋區兜町二ノ三六ノ二電茅場町二六三九）

梅津東四郎

妻　イヨ　盛岡電燈、盛岡瓦斯、岩手輕便鐵道各取締役、花卷温泉電氣鐵道花卷監査役、梅津家代表社員　明二八、八生、岩手、横澤德四郎女

男　勝弘　大四、七生

女　貞　大二、一生

君は岩手縣人梅津喜八の四男にして現戸主健吉の養叔父なり明治二十二年二月を以て生る尚家の養子となり現に前記諸會社の重役たり家族は尚二男庄造（大六、一二生）二女美代子（同九、一一生）三女加代子（同一二、九生）あり（岩手縣稗貫郡花卷町電二〇三「東京宅」東京市赤坂區青山北町六ノ四八）

参照＝梅津健吉の項

梅津福次郎

妻　タケコ　北海道多額納稅者、大沼養狐㊟取締役、酒類商、北海道在籍　明一五、一〇生、山口、士、高井二郎妹

君は茨城縣人梅津友三郎の二男にして安政五年二月を以て生れ明治二十三年分れて一家を創立す酒類商を營み傍ら大沼養狐會社取締役にして直接國稅九千六百六圓を納め北海道多額納稅者たり庶子かつ（明三四、一一生生母、竹内タミ）同夫貫（同三一、九生、秋田、手、探寛亮從弟）は共に分家せり（函館市末廣町五二電三一七）

梅津美治郎

男　美一　正五位勲二等功五級、陸軍中將、支那駐屯軍司令官、東京府在籍

女　美代子　大一二、七生

君は大分縣人梅津芳米の二男にして明治十五年一月を以て生れ同四十二年兄米藏方より分れて一家を創立す同三十七年歩兵少尉に任じ昭和九年陸軍中將に累進す其間陸軍省兵器局課員兼軍務局課員歩兵第三聯隊長參謀本部課長兼陸軍大學校兵學教官陸軍省軍務局軍事課長兼通信學校研究部々員歩兵第一旅團長參謀本部總務部長を歴補し次で參謀本部附となり昭和九年三月支那駐屯軍司令官に任ぜられ今日に至る（中華民國天津日本租界旭日街支那駐屯軍司令官々舍）

梅津芳三

母　ミチ　神戸市助役、岩手縣在籍　弘化三、八生、岩手、梅津喜八長女

妻　延　明三六、七生、神奈川、木村庫之助長女

男　之路　昭三、四生

君は岩手縣人梅津友藏の長男にして明治二十五年五月を以て生れ大正九年家督を相續す同五年文官高等試驗に合格翌年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し直に大分縣屬となり歴來高知縣警視同縣理事官地方事務官及群馬山梨靜岡各縣書記官警察部長等に歴任し後退官昭和五年神戸市助役に就任今日に至る家族は尚長女美緒子（昭五、一一生）二男文藝（同九、一生）弟八三（明三九、一二生）あり姉コト（同二三、六生）は岩手縣人吉田庄四郎に妹キミ（同三三、一生）は兵庫縣人由良民之助に同ツル（同三七、二生）は長野縣人長井村三郎に嫁せりA三六七（神戸市葺合區熊内町三ノ一〇七電葺合一〇三一）

梅鉢楠太郎

父　安太郎　南海興業㊟代表取締役、大阪府在籍　慶應二、六生、現戸主

妻　芳子　明三二、八生、大阪、士、竹村清雄妹

男　雅弘　大一一、六生

君は大阪府人梅鉢安太郎の長男にして明治二十四年六月二十四日を以て生る夙に實業界に入り現時南海興業會社代表取締役たり家族は尚二男守良（大一二、五生）三男幸重（同一四、一一生）ありA三八四（堺市並松町五電七六）

参照＝梅鉢安太郎、竹村清雄の項

梅鉢安太郎

男　楠太郎　堺商工會議所顧問、大阪府多額納稅者、梅鉢鐵工所、鐵工業、大阪府在籍　明二四、六生

男　安重　明二九、二生、早大理工科出身

婦　タケ　明三二、二生、二男安重妻、大阪士、吉弘茂喜養子

男　義尚　明三六、三生

男　嘉治　明四一、一二生

君は大阪府人鶴崎新兵衛の長男にして當主新兵衛の養兄なり慶應二年六月を以て生れ先代楠松の養子となり明治十六年家督を相續す組織を繼ぎ鍛冶屋たりしが後南海鐵道の敷設に刺戟せられて汽車電車其他鐵道要具の製造を創め爾々三十餘年にして遂に梅鉢鐵工所今日の隆盛を成すに至れり大正九年鐵綾襲章を授けらる現時堺商工會議所顧問に擧げられ大阪府多額納稅者に列す長女ハナ（明二二、一生、堺高女出身）は東京府士族三浦忠に嫁し三男信三郎（同三一、八生）同妻いう（同三三、七生、京都、山田啓之助妹、京都市立高女出身）は其一女を伴ひ養弟義三（同一六、三生）同妻安子（同二五、三生、茨城、士、清水進二女）は其一男二女を伴ひ各分家せりA五七一七B七二四（堺市並松町一二九電四五三）、山田啓之助※陶山誠太郎※長崎の項

梅林福松

妻　テル　廣島縣在籍　明一一、三生、養父㊟松二女

養子　義一　明二一、八生、長女カメヨ夫、廣島縣武内松太郎三男、かめ㊟松取締役　明二九、六生、養子義一妻

女　カメヨ　大三、八生、養子義一長男

孫　政夫　大五、八生、養子義一長女

孫　貞子　大五、八生、養子義一長女

君は廣島縣人濱越伴藏の二男にして明治四年九月を以て生れ先代福松の養子となり大正九年家督を相續し前名善吉を改め襲名す割烹店かめ㊟を經營し其取締役たり義に縣下の多額納稅者に列す家族は尚孫恒子（大九、二生、養子義一二女）同義生（同一四、四生、同二男）あり（廣島縣佐伯郡厳島町電一二一・一三五）

梅原逸太郎

母　テル　梅原商店、共和證券各㊟社長、相模銀行㊟取締役、地主、神奈川縣在籍　安政二、四生、神奈川、士、岡田光孚二女

妻　タカ　明一五、五生、男爵多久龍三郎姉

男　猶　明四〇、三生、梅原商店㊟專務取締役、共和證券㊟取締役、慶大經濟學部出身

婦　松子　大三、三生、長男猶妻、伯爵小笠原長幹五女、女子學習院出身

男　尊雄　明四四、七生、慶大在學

男　文雄　明四五、六生、慶大在學

女　綏子　大二、七生、東京女學館在學

女　翠　大六、一生、東京家政女學院在學

梅原家は古くより神奈川縣下南秦野に住し酒醤油の醸造を業とせる家柄なるも先代倫平に至る君は其二男にして明治十三年三月を以て生れ同三十七年家督を相續す現時梅原商店共和證券會社各社長にして相模銀行取締役を兼ぬ家族は尚四男湜（大四、七生、慶大豫科在學）あり長女田鶴子（明三七、二生）は子爵山井兼武に三女朗子（明四二、七生、東京女學館出身）は東京府人蒲生清に妹キョウ（同一六、四生）は高知縣士族馬詰次男に同ケイ子（同二三、九生）は神奈川縣人海老塚德三郎長男進一郎に姉フデ（同九、九生）は陸軍少將矢島峰太郎に嫁せり（東京市澁谷區青葉町一九電青山一六九四）

参照＝伯爵小笠原長幹、子爵山井兼武、男爵多久龍三郎※侯爵尚裕※伯爵伊達興宗※伯爵津軽義孝※伯爵久松定謨※子爵小笠原忠幸※男爵鍋島綱暦※安田善助の項

梅原久太郎

妻　すゞ　地主　東京府在籍　明一一、二生、東京、安野三左衛門長女

男　繁雄　明四〇、九生

女　悦　明三八、八生

女　カマ　大二、四生

子　江　大六、七生

君は東京府人梅原清兵衛の長男にして明治七年一月十二日を以て生れ同三十四年家督を相續す地主たり家族は尚五男勝三（大四、四生）次女栄（同一〇、七生）弟金之丞（明一二、一生）同妻さよ（同一四、三生、東京、伊東長太郎二女）及其四子弟留蔵（同一六、四生）及其五子あり長女ふじ（同三四、一〇生）は東京府人池鳥鎗次郎養子清三郎に二女好（同三六、一二生）は鳥取縣人荒尾友吉二男英晋に妹多賀（同一〇、一生）は東京府人鈴木喜六長男仙太郎に嫁し弟吉五郎（同一九、七生）は分家せりA三八七（東京市澁谷區代々木上原町一三六九）

梅原錦三郎

辯護士　東京府在籍

母　いち　文久三、一二生、東京、鹽野友次郎養子
妻　眞　子　明二六、一〇生、東京、山田甲子次郎長女
男　廣太郎　大八、六、九生

君は東京府人梅原岩治郎の長男にして明治十五年八月二十六日を以て生れ同十七年家督を相續す同四十一年日本大學法科を卒業辯護士試驗に合格し開業して今日に及ぶ家族は尙二男貫次（大一〇、一〇生）弟辰夫（明三六、二生）同妻しず（同三七、八生、東京、吉川軍司妹）及其二子あり妹まさ（同二六、一一生）は東京府人齋藤吉藏に同そめ（同二九、六生）は同府人石田瀧次郎四男巳之助に嫁せりA三八七（東京市杉並區馬橋四ノ四五六電中野五〇三八）

梅原啓助

東京市澁谷區會議員、地主
東京府在籍

妻　さん　明一四、一二生、東京、榎本喜八二女
男　孝一郎　明三八、一生
女　初代　明四〇、七生
男　喜代治　明四五、六生
女　ノブ子　大二、八生
女　敏子　大四、一一生
女　義子　大六、一二生

君は東京府人梅原金五郎の長男にして明治十年十二月十七日を以て生れ大正八年家督を相續す地主にして現時推されて澁谷區會議員たり家族は尙五女和子（大九、九生）三男平三郎（同一一、一生）六女秀子（同一四、一二生）四男啓孜（同一五、一一生）あり妹トク（明二〇、七生）は東京府人清水兵藏に同ひさ（同三二、九生）は同府人梅原紋藏二男傳藏に同光（同二七、八生）は同府人梅木權治郎に嫁せりA八〇六（東京市澁谷區代々木上原町一〇九一）
參照‖清水兵藏の項

梅原長兵衛

京都府多額納稅者、宇治屋、染呉服商、京都府在籍

妻　ミチ　明二四、五生、京都、士、小林深藏妹
女　好　大二、一生

君は京都府人梅原長左衛門の長男にして明治十四年六月を以て生れ同二十六年家督を相續し前名米三郎を改む宇治屋と稱し染呉服商を營み京都府多額納稅者に列す養に京都商工會議所議員たりしことあり家族は尙四女とみ子（大一〇、九生）あり父長左衛門（嘉永六、一生）繼母タネ（慶應二、六生、京都、岸本松太郎長女）は共に分家し姉エミ（明六、一〇生）弟龍三郎（同二一、三生）も亦各分家せりA三九五九B七七六（京都市下京區綾小路油小路東入電下八九三）

梅原藤次郎

金庫商
大阪府在籍

妻　エツ　明二二、二生、大阪、水野エイ妹
男　次郎　明三九、二生
男　三郎　明四二、八生
女　美年　明四五、二生
男　五郎　大三、一二生
女　艷子　大八、九生

君は大阪府人梅原藤三郎の長男にして明治十六年一月を以て生れ昭和四年家督を相續す金庫商を營む家族は尙四女里子（大一三、七生）あり妹ツル（明二三、四生）同夫善之助（同一八、三生、和歌山、西岡佐治兵衛孫）は其一女を伴ひ弟幸一（同二七、一生）は同妻ヒデ（同三四、五生、京都、富浪庄吉長女）及其一男一女を伴ひ各分家せり（大阪市西區梅本町四八電西一三二〇）

梅原德三郎

日華製油、丸十商會各㊟取締役
兵庫縣在籍

父　德兵衛　安政六、七生、現戸主
妻　ク　ニ　明二四、四生、大阪、米澤しか孫
女　初　稔　大五、八生
男　枝　大五、二生

君は兵庫縣人梅原德兵衛の長男にして明治十八年五月を以て生る現時丸十商會日華製油各會社の重役たり家族は尙二男豐（大七、一〇生）三男徹（同一〇、二生）あり（兵庫縣武庫郡精道村芦屋古新田六一九電芦屋三六〇五）

梅原延廣

從五位勳五等、地方技師、秋田縣內務部林務課長、靜岡縣在籍

君は靜岡縣人三田村宗三の二男にして明治二十一年六月を以て生れ先代萬作の養子となり大正十二年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學農科大學林學實科を卒業し同年山林技手に任ぜられ爾來東京大林區署白河原町各小林區署長山林技師鳥取公有林野官行造林署長營林署技師高野營林署長等に歷任し昭和四年大藏營林署長に轉じ同八年地方技師に任ぜられ現に秋田縣內務部林務課長たり（秋田縣內務部內）

梅原誠

家主
大阪府在籍

母　リウ　明一五、七生、愛媛、片山トミ三女

君は大阪府人梅原龜七の長男同八重の養弟にして大正二年一月一日を以て生れ昭和四年家督を相續す家主にして資產家として知らる先代龜七は明治四十五年三重縣選出衆議院議員にして大阪株式取引所理事伊勢電氣鐵道日本信託銀行土佐セメント京阪土地各銀行會社の重役に就任し又大阪府多額納稅者たり姉フミ（明二六、一七生）は東京府士族渡邊鏡に嫁し叔父德次郎（同一一、一生）は同妻ハル（同一五、二生、大阪、中村彌七長女）及其一女を伴ひ分家せりA四六九八（大阪市東區北濱三ノ三電本局八）
參照‖梅原八重の項

梅原八重

大阪府在籍

君は東京府士族渡邊鏡の長女にして明治四十五年七月十九日を以て生れ大阪府人梅原龜七の養子となり昭和六年養弟誠方より分れて一家を創立す家主たりA四二四（大阪市東區北濱三ノ三）
參照‖梅原誠の項

梅原彌一郎

近江屋、呉服商
東京府在籍

母　とき　明二一、二生、東京、尾崎慶次郎妹
繼母　たね　文久三、九生、靜岡、鈴木八東二女
妻　よし　明二六、七生、靜岡、野田八郎平四女、三島高女出身
男　崇信　大五、一生、一高在學
女　信子　大三、一生、一高在學

君は靜岡縣人三田村宗三の二男にして明治二十一年六月を以て生れ先代萬作の養子となり大正十二年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學農科大學林學實科を卒業し同年山林技手に任ぜられ爾來東京大林區署白河原町各小林區署長山林技師鳥取公有林野官行造林署長營林署技師高野營林署長等に歷任し昭和四年大藏營林署長に轉じ同八年地方技師に任ぜられ現に秋田縣內務部林務課長たり（秋田縣內務部內）

君は東京府人梅原彌三郎の長男にして明治四十四年八月を以て生れ大正十三年家督を相續す近江屋と稱し呉服商を營む家族は尙妹やす子（大二、一二生）あり姉八重（明四二、二生）は滋賀縣人牽島貞一弟道介に嫁せりA三七七（東京市京橋區木挽町四ノ一電京櫓五〇四）

梅原力太郎

梅原園、食料品商
東京府在籍

妻　たき　明二五、二生、東京、秦岩次郎二女
男　一郎　明三七、七生
男　昇一　明三九、六生
婿　ミツ　明四四、七生、二男昇一妻、鶴島、船田鬼三郎長女
男　敏夫　大二、四生
女　ふじ子　大六、三生

君は東京府人梅原晉次郎の長男にして明治十年十月十一日を以て生れ昭和三年家督を相續す梅原園と稱し食料品商を營む家族は尙五男力（大一〇、七生）六男豐（同一二、一〇生）七男健男（同一三、九生）八男茂（同一五、一生）四女德子（昭三、二生）五女直江（同六、七生）ありA三七〇B一〇〇（東京市澁谷區上通三ノ九電青山二五三四）

梅村馨

從五位勳六等、議事、那覇地方裁判所檢事兼同區裁判所檢事、山形縣士族

母　たけ　明二、一〇生、現戸主
妻　俊子　明三一、七生、千葉、遠山憲義妹

君は山形縣士族氏家親治の弟にして明治二十七年五月一日を以て生れ後梅村家の養子となる大正九年京都帝國大學法學部獨法科を卒業し司法官試補を經て檢事に任じ爾來東京地方平區鶴知山區大阪區穗島區青森區横手區各裁判所檢事に歷補し現時前記官職に在り嘗て趣味を有す家族は尙二男二女ありA一四三（那覇市松山町官舍電五四四）

梅村衡平

桃山廉賣所㊟代表取締役、有馬瑞寶寺土地、大阪羊毛工業㊟取締役、大阪八弘社㊟鑑査役、羅紗商

父　榮助　弘化四、七生、現戸主
母　つね　安政元、七生、愛知、山田惣九郎二女
妻　まきを　明二〇、一二生、愛知、岩田光叔母

君は愛知縣人梅村榮助の長男にして明治十四年九月を以て生る羅紗商を營み傍ら前記各會社の重役たり姉ひで（明一二、五生）は大阪府人原信吉に嫁せりA二七六四B五五五（大阪市東區淡路町三ノ二六電本局三三三）
參照‖淡鶴銅宗平の項

梅村鎭次郎

名古屋味噌溜㊟專務取締役、堀田商店、味噌商、愛知縣在籍

妻　信彌　明二八、一一生、養子紀子夫、愛知、吉田重信弟
養子　紀子　明三七、一二生、養子信彌妻、愛知、川島鶴次郎三女
養子　信彌　明四二、一一生、愛知、山田惣九郎の二男にして明治三年九月を以て生れ先代兵三郎の養子となり同十七年家督を相續す堀田商店と稱し味噌商を營み傍ら現に名古屋味噌溜會社專務取締役たり家族は尙孫登代子（昭三、四生、養子信彌二女）同邦信（同六、一一生、同長男）同久信（同七、一一生、同二男）あり（名古屋市西區桶屋町二ノ二觀本局一九五三）
參照‖淡鶴銅宗平の項

梅村四郎

豐國自動車㊟社長、和歌山モータース㊟代表取締役、兵庫縣在籍

妻　ちかゑ　明二九、九生、東京、小澤德平二女
男　甲子郎　大一三、一二生
女　蓉美枝　大六、四生

君は茨城縣人梅村英の二男にして明治十九年十月を以て生れ大正十四年兄清光方より分れて一家を創立す現時豐國自動車會社取締役社長和歌山モータース會社代表取締役にして日本ゼネラルモータース會社全國特約販賣店協會長たり養に奈良モータース會社の代表取締役たり事あり家族は尙二女富子（昭六、二生）ありA一一三六（兵庫縣武庫郡精道村芦屋芦原一一三六電芦屋三二〇九）

梅村清一

愛知縣多額納稅者、地主
愛知縣在籍

母　かぎ　嘉永四、八生、愛知、安藤宇兵衛長女
男　博　明四五、三生
女　田鶴子　大四、二生
女　房子　大七、一生

君は愛知縣人梅村又兵衛の三男にして明治二十三年十月三日を以て生れ明和五年兄定吉の後を承け家督を相續す地主にして愛知縣多額納稅者に列し直接國稅千六百十六圓を納む家族は尙亡兄又兵衛妻はる（明一七、二生、愛知、梅村隆造姉）あり（名古屋市中區蛭子町一ノ九電南三九三六）

梅村宗七

京都府多額納稅者、染呉服商
京都府在籍

妻　カネ　安政三、八生、養父宗七長女

梅村正一

資產家
東京府在籍

君は東京府人梅村正太郎の長男にして大正四年二月十三日を以て生れ昭和四年家督を相續す資產家たり家族は妹滿壽（大五、一二生）叔父忠雄（明四七、六生）あり同龜吉（同三五、一生）は分家せりA八五六（東京市淺草區猿若町一ノ二九電淺草六二一）

梅村甚兵衛

滋賀銀行㊟頭取
滋賀縣在籍

女　睿　明一八、一〇生
孫　信夫　明四二、七生、二女睿長男
孫　智夫　明四五、二生、二女睿二男
孫　體　大三、四生、二女睿長女

君は滋賀縣人松井左馬太の弟にして萬延元年十月を以て生れ梅村石燈の養子となり明治十七年家督を相續す夙に實業界に入り現時滋賀銀行頭取にして曩に八幡銀行近江信託會社等の重役たりし事あり家族は尙孫義夫（大五、五生、二女睿三男）あり庶子富枝（明四二、六生、生母、谷口とみ）は滋賀縣人山岡隆寛の養子となり養子となく（同一八、三生、滋賀、松居房之助姪）は同縣人東茂三郎に嫁せりA一一〇（滋賀縣蒲生郡八幡町永原町中七電七五）

梅村淸一

愛知縣多額納稅者、地主
愛知縣在籍

母　かぎ　嘉永四、八生、愛知、安藤宇兵衛長女
男　博　明四五、三生
女　田鶴子　大四、二生
女　房子　大七、一生

君は愛知縣人梅村又兵衛の三男にして明治二十三年十月三日を以て生れ明和五年兄定吉の後を承け家督を相續す地主にして愛知縣多額納稅者に列し直接國稅千六百十六圓を納む家族は尙亡兄又兵衛妻はる（明一七、二生、愛知、梅村隆造姉）あり（名古屋市中區蛭子町一ノ九電南三九三六）

梅村宗七

京都府多額納稅者、染呉服商
京都府在籍

妻　カネ　安政三、八生、養父宗七長女

養子　龍分　明一八、七生、長女ヒサ夫、滋賀
女　ヒサ　赤松龍親二男　明二四、一一生、養子龍分妻
孫　加三　明四一、九生、養子龍分長男
孫　利子　明四五、三生、養子龍分長女
孫　マサ子　大五、一二生、養子龍分二女

君は京都府人津田伊助の二男にして安政五年二月を以て生れ先代宗七の養子となり明治三十年家督を相續し前名吉之助を改め襲名す染呉服商を營み京都府多額納稅者に列し直接國稅二千九十八圓を納む家族は尙孫先三（大一一、一一生、養子龍分二男）あり二女エイ（明二七、一〇生）は同夫數之助（同二六、四生、京都、松本治平弟）と共に分家し養妹チヨ（同一〇、四生、京都、中村榮助長女）は京都府人榎重太郎に嫁せり（京都市下京區五條通烏丸西入電下三八七）

參照＝榎重太郎、松本治平の項

梅村惣左衛門

梅惣冷藏製氷業、取締役、金融業
宮城縣在籍

父　惣之助　明元、一生、現戸主
母　たよ　明一七、八生、宮城、清邊利兵衛
妹　せつこ　明三三、七生、宮城、近江吉治長女
妻　惣太郎　大一三、三生
男

君は宮城縣人梅村惣之助の長男にして明治三十一年五月を以て生る金融業を營み傍ら前記會社の重役にしてあり家族は尙長女房子（大一〇、一一生）二男惣次郎（昭四、八生）弟惣之丞（明三四、六生）同惣助（同三六、一一生）妹さと子（同四四、一一生）弟陽之助（大元、一一生）同陽二郎（同三、九生）同陽三郎（同五、九生）妹しげ（同九、八生）同いよ（同一一、七生）從弟長兵衛（同三、三生）あり妹ちよ（明四二、四生）は宮城縣人內田吾郎に嫁し同みち子（同四三、四生）は同縣人近江吉治の養子となれり（仙臺市肴町二〇電四二七）

梅村萬藏

愛知縣多額酒稅者、地主
愛知縣在籍

妻　ゑみ　明二〇、一〇生、愛知、山本儀一郎四女
男　禮藏　明四四、七生
男　修藏　大二、一〇生
女　芳　大八、四生

君は愛知縣人先代萬藏の長男にして明治十三年十月を以て生れ大正三年家督を相續し前名賢藏を改め襲名す地主にして直接國稅二千八百四十五圓を納め愛知縣多額納稅者たり家族は尙三男誠藏（大一〇、二生）四男慎藏（同一四、六生）あり長女壽美（明四一、一一生）は愛知縣人濱野與右衛門四男鈴造に嫁きみ（同二七、一〇生、弟張次郎二女）は同縣人榊原萬二に嫁し養妹俊子（同三六、八生、長野、名取爲吉長女）は同縣人高橋作之介の養子となれり（名古屋市中區前塚町四電南三二八）

參照＝濱野與右衛門の項

梅本德次郎

板硝子卸商
大阪府在籍

妻　きぬ　明一三、五生、大阪、梅本利右衛門姉
男　德造　明三九、一二生
女　登喜子　明三八、一〇生
女　秀子　大元、九生
女　芳子　大四、三生

君は大阪府人鶴原新助の三男にして明治十一年十二月を以て生れ同三十七年先代きぬの入夫となり家督を相續す板硝子卸商を營む（大阪市東區横堀町五ノ三電船場三八二）

參照＝梅本利右衛門※吉田猪太郎の項

梅本利右衛門

梅本商行、鐵材商
大阪府在籍

妻　太益　明二八、七生
男　大八、大阪、菊田藤七妹
女　喜久子　大六、九生

君は大阪府人先々代利右衛門の三男にして明治二十年三月を以て生れ同四十三年先代兄利右衛門の後を襲ひ家督を相續し襲名して前名作治郎を改む同四十一年大阪高等商業學校を卒業し爾來家業たる鐵材商を繼營し梅本商行と稱す家族は尙二男二郎（大一〇、八生）二女瑠璃子（同一三、一一生）三男文雄（同一五、一二生）あり弟英三郎（明二四、二生）は分家し姉きぬ（同一三、五生）も亦分家し大阪府人鶴原德次郎を夫に迎へ叔母いく（同八、一〇生）同は府人吉田猪太郎に嫁せり

A三七六五B六九八（大阪市住吉區濱口町四〇二ノ三一電住吉二三七〇）

參照＝梅本德次郎、菊田藤七、吉田猪太郎※桂壽助の項

梅山實明

正五位勳四等、判事、名古屋地方裁判所部長、奈良縣在籍

妻　よう　明二八、一生、愛知、小出敬三二女

君は奈良縣人梅山義弘の二男にして明治十六年四月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す明治四十一年明治大學を卒業し判檢事登用試驗に合格同四十四年判事に任じ爾來京都地方宮山地方名古屋地方同區豐橋區上野區岐阜地方各裁判所判事名古屋控訴院判事岐阜地方裁判所部長等に歷補し昭和四年前記現職に轉じ現在に至る（名古屋市西區上園町一ノ二二電本局三〇四六）

梅若實邦

梅若流宗家、能樂師
東京府在籍

男　龜之　明四〇、八生
婿　秀子　明四四、一一生、東京、島田利右衛門四女
男　貞之　明四三、一生
女　貴美　大三、九生、九段精華高女出身
女　智世　大四、一二生、九段精華高女出身

君は明治に於ける能樂界の耆宿梅若實の三男にして明治十一年四月二十八日を以て生れ同二十八年先代兄六郎の後を承け家督を相續し前名竹世を改め襲名し昭和八年更に實邦と改名す大正十年觀世宗家より破門されて別に一流を立つに至れる梅若一派の能樂師にして淺草區南元町に舞臺を有し同流宗家として知らる家族は尙三男泰男（大六、一〇生）姉つる（安政四、三生）孫曙子（昭七、九生、長男龜之長女）あり長女たけ（明三四、三生）は東京府人吉本清三に二女靜江（同三五、一〇生、淺草家政女學校出身）は同府人鈴木愛三に三女文枝（同四四、一二生、九段精華高女出身）は同府人大木良輔二男章二に妹波那野（同一四、二生）は同府人觀世鐵之丞長男纖雄に姪千代（同九、一一生、姉つる長女）は

新潟縣人平野大藏叔父又一郎に嫁せりA四六五（東京市淺草區南元町二九電淺草三三九〇）

卜部岩太郎

正五位勳四等、小樽高等商業學校生徒主事兼教授、廣島縣在籍

妻　清子　明二五、三生、岡山、原繁太郎三女
男　奎一　明四三、四生

君は廣島縣人卜部傳八の長男にして明治九年九月十七日を以て生れ同四十三年家督を相續す同三十七年東京高等師範學校專攻部を卒業し岡山高知三重愛媛各縣師範學校教諭に歷任し大正八年小樽高等商業學校教授に任ぜられ昭和四年同校生徒主事に轉じ教授を兼ねて今日に至る家族は尙二男昭典（大四、一〇生）四男尙史（同一一、一生）五男寃吾（同一三、一生）六男雄夫（同一五、四生）二女柔子（昭五、三生）三女和子（同六、九生）七男守六（同九、二生）あり弟定次郎（明一二、一二生）は岡山縣人三浦泰造の養子となり正昭と改名せり（小樽市小樽高等商業學校官舍電一八〇六）

卜部喜太郎

中央大學理事
埼玉縣在籍

妻　きち　明一〇、一生、埼玉、內田榮五郎妹
養子　貞　明一九、四生、養子ひさ夫、父喜平四男、埼玉縣兒玉郡旭村長
養子　ひさ　明四五、九生、養子貞妻、岩田綾三郎三女
養子　靜　明四二、六生、京都、鴨定次郎二女、東京府立第三高女出身
孫　喜代子　大三、四生、養子貞長女
孫　たつ　大五、六生、養子貞二女、浦和高女出身

君は埼玉縣人卜部喜平の長男にして明治元年十月を以て生れ先代キンの養子となり同二十年家督を相續す同二十六年英吉利法律學校英語法學科を卒業し代言人試驗に合格す爾來其職務に從事したりしも昭和九年八月廢業現時中央大學理事たり其間故法學博士江木衷と共に東京法學院發行の法學新報を主宰し又有志と同り江湖倶樂部を組織して雜誌「江湖」を發行す義に鄕黨より推されて衆議院議員に當選す家族は尙孫コト（大九、九生、養子貞三女、浦和高女在學）同みよ（同一三、九生、同四女）同喜一（同一五、八生、同長男）同アキ（昭四、一〇生、同五女）ありA二三五（東京市神田區蓁所町三電下谷六七二）

卜部資治

加島屋銀行監査役、酒造業
廣島縣在籍

妻　タク　明三一、一二生、廣島、梶田正太郎二女
男　貞寛　大一〇、三生

君は廣島縣人卜部讓介の二男同卓江の弟にして明治二十三年八月を以て生れ先代宗五郎の養子となり同三十八年家督を相續す酒造業を營み傍ら現時加島屋監査役にして義に櫻山酒造會社代表取締役に擧げらる家族は尙長女伸子（大一二、五生）二男尙文（同一四、三生）あり（廣島縣廣島郡驛家村電江長三）

參照＝卜部卓江の項

卜部卓江

上海日本商工會議所常議員、三井物產㈱上海支店長、廣島縣在籍

母　イソ　慶應二、五生、廣島、小野勝之助妹
妻　フデコ　明二三、九生、廣島、卜部雄太二女

君は廣島縣人卜部讓介の長男同資治の兄にして明治二十一年一月を以て生れ明治四十年神戸高等商業學校を卒業し三井物產會社に入り神戸支店員ボーランド出張員シドニー支店長神戸支店長スラバヤ支店長甲谷陀支店長等を經て現時上海支店長にして上海日本商工會議所常議員に推さる家族は尙弟龍雄（明三三、一一生）同妻町子（同四二、一二生、岡山、仲田秀雄長女）及其一子あり姉トシ（同一八、一生）は廣島縣人天野登一に妹良久（同三〇、三生）は同縣人佐伯悉に嫁し弟詮三（同二七、一一生）は大阪府人森田安松に同行平（同三七、一二生）は廣島縣人山脇ユウに各養子となれり（上海四川路一八五號三井物產支店內）

參照＝卜部資治、卜部雄太の項

卜部忠平

昭和酒造㈱代表取締役
兵庫縣在籍

妻　とし　明二一、一生、養父順治郎二女
養子　和子　大元、一〇生、兵庫、佐々木啓妹
正　彦　大一二、一生

君は兵庫縣人卜部直次郎の四男同滿男の養兄にして明治十六年八月を以て生れ卜部順治郎の養子となり大正三年分れて一家を創立し前名良吉を改む現時昭和酒造會社代表取締役たり從弟秀三郎（明一七、一二生、兵庫、卜部八兵衛三男）は東京府士族星島小梅の養子となれり（兵庫縣明石郡大久保村）

參照＝卜部滿男※松本歡藏の項

卜部東次

安田銀行㈱神戸支店長
兵庫縣在籍

妻　和子　明三六、三生、伯爵中川久任長女
正　彦　大一二、一生

君は兵庫縣人卜部寛三の二男にして明治三十年一月二十日を以て生る大正九年東京帝國大學經濟學部を卒業し直に第三銀行に入り同十二年同行合併により安田銀行に勤務す同十四年銀行業務研究の爲海外に留學し昭和二年歸朝後京都支店副長となり同四年廣島支店長同七年熊本支店長となり同九年前記神戸支店長に轉じ現在に至る趣味として旅行文學を愛す家族は尙二男道彥（大一三、九生）あり（神戸市須磨區離宮前町二二〇電須磨二一二九）

參照＝伯爵中川久任※卜部滿男※川崎恂一※堀義男※小坂武雄の項

卜部豊太郎

江井ケ島酒造㈱社長、江井ケ島酒粕㈱取締役、兵庫縣在籍

妻　きち　明二七、五生
男　敬三　明三五、九生、長男敬三妻、兵庫田口政五郎四女
婿　みつ

君は兵庫縣人村上七右衛門の長男にして明治元年一月を以て生れ卜部家に養子となり同三十四年養甥八右衛門方より分れて一家を創立す卜部退三は其養甥に當る現時江井ケ島酒造會社長たる外前記會社の重役たり家族は尙孫篤（大一一、三生、長男敬三長男）同し保（同五、二生、同長女、同努（昭三、一一生、同二男）あり（兵庫縣明石郡大久保村電江井ケ島七）

卜部滿男　江井ケ島酒造、江井ケ島酒粕各㊟取締役、卜部酒造㊟代表社員兵庫縣在籍

父　順治郎　安政五、八生、兵庫、卜部八兵衛弟
母　かつ　右衛門二女　明二六、一〇生、兵庫、士、鷲尾愛
妻　中　妹　大一三、五生
男　順一　大四、八生
女　廣　大四、八生

君は兵庫縣人卜部順治郎の長男にして明治二十三年七月を以て生れ大正十五年家督を相續す現時卜部酒造合名會社代表社員の外前記各會社の重役たり家族は尙二女漢（大九、三生）の外弟逢次（明三四、三生）同妻都子（同四一、三生）兵庫、赤松治郎四女）及其一子あり姉ちよ（同一九、四生）は兵庫縣人松尾新一郎に妹峡枝（同二五、一〇生）は叔父松本歡藏長男敬二に嫁し姉とし（同二一、一生）は其夫忠平（同一六、八生、兵庫、卜部寛三弟）と共に分家せり（兵庫縣明石郡大久保村）

參照‖卜部忠平、松本歡藏※卜部東次※川崎恂一※菅原大太郎※葬義男の項

卜部陸太　農業　廣島縣在籍
婿　ミチエ　廣島、山中久太郎二女　明二五、九生、亡長男守之妻、廣
孫　筴三　大一四、一一生、亡長男守之三男
孫　和子　大六、一〇生、亡長男守之長女

君は廣島縣人門田與左衛門の四男にして安政五年五月を以て生れ先代才次郎の養子となり明治二十年家督を繼ぐ農業を營み養に兩備鐵道會社取締役たり家族は尙孫悅子（大二一、四生、亡長男守之二女）同ヤエ（昭二、七生、同三女）あり養父才次郎（天保五、一〇生）は養母タカ（同一一、一二生、廣島、檀上信太郎姉）と共に三男範治（明二六、八生）は同妻鶴子（同三二、一一生、岡山、末廣米次郎長女）及其一子と共に各分家し叔父宗五郎（安政三、一一生）も又分家し長女ヨシコ（明一六、五生）は岡山縣人姫井永叔長男良夫に二女フデコ（同二四、七生）は廣島縣人卜部卓江に嫁し四男俊雄（同二九、九生）は岡山縣人江木伯助の養子となれり（廣島縣廣島郡家村電江東一〇）

參照‖卜部卓江の項

占部百太郎　法學博士、慶應義塾大學教授、文學部勤務、高等部主任　福岡縣在籍
妻　カセ　造　大三、三生、東京農大獨科在學
男　明六、一〇生、埼玉、田幡宗順五女

君は福岡縣人占部總五郎の長男にして明治三十四年三月十三日を以て生れ昭和八年家督を相續す地主たり家族は尙三男英（昭七、一二生）弟五郎（明三七、一生）同明（同四三、五生）妹澄子（大六、四生）ありA五〇〇（神戸市林田區駒ケ林町一ノ二四二）

浦井鏘次　資產家　東京府在籍
妻　ヒテ　郎長女　明一九、一二生、熊本、永添克次
男　芳雄　明四〇、一二生
女　喜代　明四二、一生
男　邦弘　明四三、九生
女　喜和　大三、九生
女　喜都子　大八、四生

君は東京府人浦井信の二男にして明治十年六月二十六日を以て生れ昭和七年甥浦井交雄方より分れて一家を創立す資產家たり家族は尙三男和久（大六、二生）六女科子（大一〇、八生）七女佳子（大一二、一〇生）あり（大阪市住吉區北田邊町一ノ二）

浦川忠藏　從四位勳三等、檢事、旭川地方裁判所檢事正、佐賀縣士族
母　千東　安政五、九生、佐賀、士、酒見今朝一姉
妻　ヨネ　明二二、五生、佐賀、士、副島保太郎妹
男　寛　大二、一生
女　繁子　明四三、七生

君は佐賀縣士族浦川俊藏の長男にして明治十一年九月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治三十八年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し同四十年檢事に任じ舊來宇都宮區並同地方千葉區並同地方長野地方並同區札幌區並同地方小樽區土浦區横濱地方並同區大阪地方並同區各裁判所檢事大阪控訴院檢事に歷補し鳥取穗島各地方裁判所檢事正を經て現時前記官職に在り家族は尙二男駒雄（大七、一生）三女綾子（同九、九生）六女久子（昭二、四生）七女英子（同四、七生）あり弟貞雄

妻　慣子　明三七、一〇生、兵庫、小畑種吉三女
男　洋　昭二、一生

君は兵庫縣人浦井清三郎の三男にして明治三十四年三月十三日を以て生れ昭和八年家督を相續す地主たり家族は尙三男英（昭七、一二生）弟五郎（明三七、一生）同明（同四三、五生）妹澄子（大六、四生）ありA五〇〇（神戸市林田區駒ケ林町一ノ二四二）

浦慶二　家主　大阪府在籍
妻　夙子　明二八、八生、大阪、坂田音吉長女

君は大阪府人浦芳松の長男にして明治二十二年三月一日を以て生れ大正八年家督を相續す家主たり家族は尙長女和子（大一一、一生）妹八重（明二八、八生）同文子（同三六、八生）弟三良（同三八、四生）あり同一平（同三三、六生）は大阪府人倉田四郎三郎の養子となれりA五二五（大阪市南區空堀町二電東八二九）

參照‖倉田四郎三郎の項

浦井一郎　地主　兵庫縣在籍
祖母　しか　慶應三、七生、兵庫、二星健吉姉
母　みよ　明九、四生、兵庫、中野熊右衛門妹

（※印は姻族關係）　ウ九四

（明三二、一生）は分家せり（旭川市七條通十七丁目電三〇五五）

浦川敏介　正五位勳六等、秋田鐵山專門學校教授、鳥取縣士族
父　敏直　嘉永五、一生、現戸主
妻　いちゑ　明二五、五生、兵庫、吉田逸雄長女
男　直樹　大二、八生
女　初惠　大三、一〇生

君は鳥取縣士族浦川敏直の長男にして明治二十年十二月を以て生る同四十五年京都帝國大學理工科大學採鑛冶金學科を卒業し古河合名會社に入り足尾銅山に勤務せしが大正七年秋田鐵山專門學校教授に任じ生今日に至る同十年英米獨各國に留學す趣味として旅行讀書を好む家族は尙二男康男（大五、一二生）三男則男（同八、一一生）二女隆子（同一一、一二生）あり妹雅世（明二四、八生）は鳥取縣人林原義道に嫁し同道子（同三三、三生）は同縣人齊鹿友次郎の養子となれり（秋田市手形谷地町下丁九電二七八）

浦木清十郎　和歌山縣多額納稅者、大同銀行、新宮電力各㊟取締役、新宮鐵道、和歌山縣在籍
妻　せき　明一二、六生、養父清十郎二女
養子　茂芳　明二五、九生、長女松代夫、和歌山、西兵右衛門三男
女　松代　男二七、一生、養子茂芳妻
孫　斐　大三、二生、養子茂芳長女
孫　みわ　大五、一〇生、養子茂芳二女

君は和歌山縣人木村松三郎の弟にして慶應元年十月を以て生れ先代清十郎の養子となり明治三十三年家督を相續し前名安吉を改め襲名す農業を營み傍ら大同銀行新宮鐵道新宮電力會社の取締役として知られ和歌山縣多額納稅者に列し直接國稅千二百六十圓を納む養に那智銀行頭取新宮銀行熊野織絲會社の重役たりし事あり資產家を以て知られ地方に信望あり家族は尙孫知多（大一〇、一生、養子茂芳三女）同久喜（昭四、二生、同四女）同一伍（同五、二生、同長男）あり（和歌山縣東牟婁郡三津村）

浦島正兵衛　日本水電㊟監査役
妻　ムツ　鹿兒島縣在籍　明二二、九生、鹿兒島、上野喜久次妹

君は鹿兒島縣人先々代正兵衛の二男にして明治二十年一月を以て生れ同二十九年先代兒正兵衛の跡を享け家督を相續し襲名す現時日本水電會社監査役たり（鹿兒島縣薩摩郡川內町電（明二五、二生）は分家せり（鹿兒島縣薩摩郡川內町電六九）

浦田久吉　北海道多額納稅者、倉庫業　北海道在籍
妻　ヒサ　文久二、一〇生、秋田、平川甚太女
男　平吉　明一七、五生
婿　ミセ　明二九、三生、長男平吉妻、北海道、高島幸太郎四女
孫　信治　明四三、六生、長男平吉長男
孫　光治　大二、七生、長男平吉二男

君は秋田縣人浦田平兵衛の四男にして安政四年十二月を以て生れ明治十一年分れて一家を創立す倉庫業を營み北海道多額納稅者にして直接國稅二千三百九十三圓を納む家族は尙孫得治（大五、一二生、長男平吉三男）同常治（同一三、六生）同五男）同定治（同一五、一二生、同六男）あり三男久三郎（明二六、七生）同妻タミ（同三〇、九生、富山、横山弘英妹）は其二子を伴ひ分家せり（函館市眞砂町四電四六〇）

浦田清造　京都府在籍　正本店、半纏商
父　清兵衛　安政三、一生、京都、篠山鳥行元治元、一一生
母　ハル　二女　明二二、六生、滋賀、高野とわ私生子
妻　ひさ　明四三、五生
男　正三　大二、二生
女　喜美　大二、二生

君は京都府人浦田清兵衛の長男にして明治十七年七月を以て生れ大正九年家督を相續す半襟商を營み正本店と稱し義に京都府多額納稅者に列す昭和五年紺綬褒章を賜ふ家族は尙二男富久三（大六、八生）三男健造（同九、一生）三女齋美子（同一一、五生）四男清久（同一三、一一生）五男敬造（昭三、九生）ありA妹ミチ（明二一、四生）は兵庫縣人吉本甚八郎弟盛市に同フク（同二七、二生）同夫實（同一七、一二生、愛媛、隅田友雄弟）は其一男一女を伴ひ弟榮三郎（同二八、九生）同妻はる（同三三、二生、京都、北邑清助二女）も亦其一女を伴ひ各分家せりA六六六（京都市中京區寺町四條上電本局二六五五）

參照‖吉本甚八郎の項

浦田善介　船善、造船業　兵庫縣在籍
男　善治郎　明四二、三生、現戸主
婿　喜代子　明四〇、七生、長男善治郎妻、大阪、山本源右衛門二女

君は佐賀縣人先々代善次郎の長男にして安政四年七月十九日を以て生れ明治二十三年家督を相續し昭和八年退隱す船善と稱し造船業を營む家族は尙孫和子（昭二、六生、長男善治郎長女）同善七郎（同四、六生、同長男）同敬子（同八、七生、同二女）ありA二五一B一一八（尼崎市東町南濱二ノ九〇電二六九）

浦谷勇　大阪市南區會議長、大阪府多額納稅者、地家主、大阪府在籍
妻　美津江　明一三、七生、先々代義恭二女
男　清　明四一、一生、京都帝大大學院在學、法學士

君は大阪府人柏本兼次の二男にして明治八年二月八日を以て生れ同三十五年先代美津江の入夫となり家督を相續す地家主にして現時大阪府多額納稅者に列し直接國稅五千三百二十五圓を納む明治四十三年以來引續き南區會議員に當選現に同議長に擧げらる養に營業稅所得稅各調査員等幾多の公職に就き日本赤十字社より有功章及金杯を贈與せられ昭和三年紺綬褒章を大正五年及昭和四年大禮紀念章を下賜せらるA五八七四（大阪市南區南桃谷町五電南二七五八）

參照‖※鹽田菊太郎の項

浦中友治郎　近江織業㊟代表取締役　愛媛縣在籍
妻　ソノエ　明一三、八生、愛媛、上甲廉蔵

（※印は姻族關係）　ウ九五

養子　尚　大二、一〇生、愛媛、上甲香二男
君は愛媛縣人菊地守太郎の二男にして明治五年七月を以て生れ先代要次郎の養子となり同三十二年家督を相續す同二十六年日本大學を卒業し現時近江鐵道會社代表取締役たり曩に伊豫鐵道電氣會社監査役を兼ぬ養父要次郎（天保四、一一生、愛媛、林吉太郎三男）養母シユン（同八、一〇生、養祖父要次郎長女）は共に分家せり（愛媛縣西宇和郡八幡濱町三五五番地）二七
參照‖※淺井重平の項

浦野歌子　地主　東京府在籍
曾祖母　うた　安政四、一一生、東京、小宮八十右衛門二女
祖母　まつ　明一二、五生、東京、伊藤鐵之助二女
母　たか　明三七、六生、東京、佐藤剛吉三女
君は東京府人浦野萬造の長女にして大正十五年七月二十一日を以て生れ昭和四年家督を相續す地主たり家族は尚叔父德雄（明三九、八生）叔母千代（大七、三生）伯祖父萬次郎（明二二、一一生）同妻うた（同二四、八生東京、坪井永吉長女）叔從父千之助（大一四、三生）同光司（昭六、七生）ありA八六六八（東京市尚島區寺島町二ノ三九）

浦野喜代太郎　喜仙、鳥料理業　東京府在籍
妻　タキ　明一〇、五生、東京、柴田喜太郎養子
庶子　保　昭三、八生、生母、東京、松野きく
女　トシエ　大六、四生
君は東京府人浦野嵐吉の長男にして明治九年十二月十七日を以て生れ同二十八年家督を相續す喜仙と稱し鳥料理業を營む家族は尚三女マサ子（大九、六生）四女ハツ子（同一二、七生）ありA（東京市京橋區銀座西六ノ五ノ七電銀座八三〇）

浦野多門治　醫學博士、大阪回生堂病院疎取締役、醫師、長野縣在籍

母　ぬい　明二、三生、組父勘平長女
妻　チヨ　明二七、四生、栃木、加藤武男妹
男　治雄　大一一、一生
日本女大出身
君は長野縣人浦野甲治郎の長男にして明治十九年九月十九日を以て生れ大正九年家督を相續す先是明治四十一年千葉醫學專門學校を卒業し歐洲留學後岡山醫學專門學校教授京都帝國大學醫學部講師等に歷任し現時大阪回生堂病院レントゲン科長にして兼ねて同病院取締役に舉げられ大正十一年醫學博士の學位を授けらる家族は尚長女美奈子（大一三、六生）二男幸雄（同一五、一生）三男和雄（昭二、一一生）あり弟武彥（明三一、八生）は同妻たか子（同三七、五生、長野、三澤鎌十三女）及其一子を伴ひ分家し妹たみ（同三五、四生）は長野縣人太田廣藏に同富子（同四三、二生）は同縣人笠原陽樹に嫁す（大阪府豐能郡豐中町新免二五三番地）
參照‖※乳井龍雄の項

浦野藤吉　地主　東京府在籍
養母　あさ　嘉永六、一生、養祖父與兵衛長女
妻　いそ　明八、一生、養父丑之助二女
男　與一郎　明三九、一二生
男　吉橋信吉長女　明三六、一生、長男與一郎妻、東京
婿　梅子　明四五、五生
男　武雄　明四雄
君は東京府人浦野作次郎の弟にして明治五年三月二十四日を以て生れ先代あさの養子となり同三十一年家督を相續す地主として知らる家族は尚四男平夫、大七、六生、三、四生、同長男）同幸子（同六、四生、同二女）ありA（東京市城東區大島町六生、東京鈴木作次郎孫）と共に分家し養弟近太郎（同六、一生）も亦分家し養姉よう（同四、五生）は東京府人市木龜吉二男芳次郎に養叔母まき（慶應三、一二生）は靜岡縣人柴田長藏に嫁せりA四九六（東京市城東區大島町六ノ五九八）

浦野德太郎　中外會密工業㊞監査役、藥種商　奈良縣在籍
妻　ヒサ　明二一、七生、廣島、吉村愼吉妹
男　一　大九、一生
女　歌子　明四三、一二生
女　愛　大二、一〇生
女　鈴　大五、九生
養子　シズエ　明四二、五生、奈良、乾忠吉三女
君は奈良縣人浦野茂七の二男にして明治十年二月を以て生れ同三十一年兄駒吉方より分れて一家を創立す藥種商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尚四女靖子（大一二、一生）二男英男（同一四、三生）五女敏子（昭四、七生）あり養子ムメノ（明二五、二生、兄駒吉二女）は德島縣人林與平弟琳平に嫁せりA三四二（大阪市東區伏見町三ノ二八電本局五七一）

浦野富太郎　佐波見銀行㊞監査役　長崎縣在籍
妻　フデ　明四、八生、長崎、松添龜太郎姉
男　安　明二八、一二生
婿　イチ　明三三、一生、長男安妻、長崎、松添龜太郎長女
君は長崎縣人浦野安次郎の長男にして明治五年一月を以て生れ同十四年家督を相續す現時前記銀行の重役たり家族は尚孫六代（大七、一二生、長男安長男）同鈴子（同一一、二生、同長女）同花子（同一三、四生、同二女）同和義（昭二、四生、同長女）同昭幸（同五、一生、同三男）あり長女ウラ（明二三、一一生）は長崎縣人佐々木與右衛門養子岩太郎に姉キン（慶應二、八生）は同縣人小田兵右衛門に嫁し弟市五郎（明九、四生）は同縣人土橋治左衛門の養子となれり（長崎縣東彼杵郡上波佐見村）

浦野巳之助　質商　東京府在籍
繼母　ミネ　元治元、二生、栃木、峰岸十郎兵衛長女
妻　つる　明二二、七生、千葉、荒原留吉長女
男　誠一　明四一、一生
女　ハナ　大二、一〇生
君は東京府人先代澁次郎の長男にして明治十四年四月八日を以て生れ昭和七年家督を相續す質商を營む家族

妻　たつる　明二五、一二生、東京、下村武夫姉
女　啓　大七、四生
君は青森縣人浦山宗八の長男にして明治十八年八月十六日を以て生れ大正五年養兄磯八方より分れて一家を創立す明治四十四年慶應義塾大學部理財科を卒業し日本勸業銀行に入り調査役及青森高松各支店長本店預金課長を經て浦和支店長となり現時同行參事にして山形支店長たり家族は尚二女豐子（大一四、一二生）三女高子（昭四、一〇生）あり（山形市日本勸業銀行支店內）

浦山助太郎
男　春雄　明四二、一生
女　八重　大三、三生
君は青森縣人夏目彌平の長男にして慶應元年十月二十四日を以て生れ浦山太郎兵衛の養子となり大正十一年分れて一家を創立す風に明治義塾に入り法律經濟學を修め後實業界に入り現時東洋水力電氣會社專務取締役たる外前記銀行諸會社の重役たり曩に衆議院議員たり事あり家族は尚三男秀雄（大五、一〇生）あり三女清子（明三四、一生）は工學博士上田螺雄に四女俊子（同三七、二生）は東京府人渡邊文三郎弟信藏に嫁し四男重雄（大八、八生）は同府人夏目キヨの養子となれりA三九六八（東京市小石川區水道町四五電小石川二一一）
參照‖上田螺雄、渡邊文三郎の項

浦山一朗　日本勸業銀行㊞參事、山形支店長　東京府在籍
妻　千榮　明九、八生、養父卯兵衛長女
君は佐賀縣人吉川好正の二男にして明治九年三月を以て生れ先代卯兵衛の養子となり大正三年家督を相續す現時博多株式取引所理事の外前記各會社の重役たり（唐津市唐津二一一〇六電二三六）

浦山清　唐津水電興業㊞代表取締役、唐津魚㊞取締役、博多株式取引所㊞理事、佐賀縣在籍
妻　千榮　明九、八生、養父卯兵衛長女
君は佐賀縣人吉川好正の二男にして明治九年三月を以て生れ先代卯兵衛の養子となり大正三年家督を相續す現時博多株式取引所理事の外前記各會社の重役たり（唐津市唐津二一一〇六電二三六）

浦元清　從五位、子爵　舊公卿家
母　はな　明一八、四生、東京、丹治寛雄長女
當家は權大納言正親町季秀の男參議季福の後なり季福晩れて一家をなし裏辻と稱す爾れより八代を經て先々代公愛に至る六男彥六郎其後を繼ぎ明治十七年子爵を授けらる軍籍に入り陸軍少將中佐に累進し日露戰役の功に依り功五級を賜ふ君は其長男にして明治四十四年八月十九日を以て生れ昭和三年家督を相續し襲爵被仰付水產講習所を卒業し現に靜岡縣內務部水產課に勸務

は尚二女文江（大九、七生）三女初子（昭五、三生）ありA一九七五（東京市葛飾區本田四ッ木町三五六）

浦野穩直　京都府會議員、帝國共立無盡㊞社長、京都府士族
妻　輝子　明三六、一一生、大阪、桐本清明妹、大阪信愛高女出身
男　穩香　明四〇、一生、滿鐵社員、法學士經濟學士
女　嘉代子　大八、一二生
君は京都府士族浦野直輝の長男にして明治十四年八月九日を以て生れ同十五年家督を相續す同三十七年立命館大學を卒業し現時前記會社々長にして推されて京都府會議員たり曩に京都市會議員同參事會員に擧げられ共榮自動車會社第一土地商事會社等の重役たりし事あり家族は尚六女增珂子（昭四、一生）庶子直忠（大一四、八生、生母、大阪、柴崎千代）同直孝（昭二、四生、生母同上）同百代（同五、四生、生母同上）あり長女治子（明三五、一〇生）は大阪府人吉田稔に嫁し三女禮代子（同四二、六生）は絕家龜谷氏を再興し五女彰子（大一三、五生）は京都府人奥村キミの養子となれりA一〇三（京都市左京區淨土寺西田町電西陣四〇〇六）

浦野義隆　大阪府會議長、大阪府多額納稅者、大阪乘合自動車㊞取締役、辯護士　大阪府在籍
明三二、一〇生、和歌山、平松助右衛門四女
男　一夫　大八、一一生
君は大阪府人浦野藤長衛の長男にして明治十六年七月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十二年京都帝國大學法科大學を卒業し辯護士となり傍ら大阪乘合自動車會社取締役にして大阪府多額納稅者に列し又推されて大阪府會議長たり曩に同府參事會員に擧げられし事あり家族は尚二男二郎（大一一、七生）長女弘子（同一四、一生）三女榮子（昭二、二生）三男三郎（同三、二生）三女榮子（同五、九生）あり叔父寅之助（明三、二生）は同妻コト（同一〇、一二生、奈良、井田淺治郎妹）及其子女を伴ひ分家せりA六四四八（大阪市天王寺區堀越町九三電天王寺一五六九）

浦濱喜一　地主　大阪府在籍

妻　キクエ　慶應三、九生、大阪、古山宇右衛門妹
男　信一　明二六、七生
婿　エン　太田利三良長女
君は大阪府人浦濱三治郎の長男にして元治元年十一月二十一日を以て生れ明治四十三年叔父三治郎の跡を承けて家督を相續す地主たり家族は尚孫嘉一（大九、七生、長男信一二男）同芳郎（同一一、四生、同三男）同敏子（同一四、五生、同三女）同登美（昭八、三生、同四女）妹フジ（明三、七生）ありA三八七九（大阪市東淺川區三國町一九）

浦邊襄夫　東京地下鐵道、櫻組々㊞取締役　千葉縣在籍
養母　いち　嘉永三、二生、浦邊市郎平長女
妻　くに　明五、三生、養父喜平長女
女　田鶴　明三四、三生、御茶の水高女出身
當家は柴田勝家の後裔にして往時は柴田姓を名乘り代々千葉縣東條村に住し農業として知らる君は同縣中川村に於ける名主の家柄たる藤田貞藏の二男同萬一郎の養叔父にして明治四年六月を以て生れ先代嘉平の養子となり同四十三年家督を相續す同三十年東京專門學校邦語政治科を卒業し櫻組に入り同四十一年其の組織變更に與り合資會社となし更に株式會社に改む現時同社取締役の外前記會社の重役にして民政黨千葉縣支部顧問たり曩に房總日日新聞社長郡山彥榮早稻田大學維持員に擧げらる（東京市中野區道玄町六電四谷六四四）
參照‖藤田萬一郎の項

浦山助太郎
妻　たつる　明二五、一二生、東京、下村武夫姉
女　啓　大七、四生
君は青森縣人浦山宗八の長男にして明治十八年八月十六日を以て生れ大正五年養兄磯八方より分れて一家を創立す明治四十四年慶應義塾大學部理財科を卒業し日本勸業銀行に入り調査役及青森高松各支店長本店預金課長を經て浦和支店長となり現時同行參事にして山形支店長たり家族は尚二女豐子（大一四、一二生）三女高子（昭四、一〇生）あり（山形市日本勸業銀行支店內）

浦野巳之助　質商　東京府在籍
繼母　ミネ　元治元、二生、栃木、峰岸十郎兵衛長女
妻　つる　明二二、七生、千葉、荒原留吉長女
男　誠一　明四一、一生
女　ハナ　大二、一〇生
君は東京府人先代澁次郎の長男にして明治十四年四月八日を以て生れ昭和七年家督を相續す質商を營む家族

妻　ヒサ　明二一、七生、廣島、吉村愼吉妹
男　一　大九、一生
女　歌子　明四三、一二生
女　愛　大二、一〇生
女　鈴　大五、九生
養子　シズエ　明四二、五生、奈良、乾忠吉三女
君は奈良縣人浦野茂七の二男にして明治十年二月を以て生れ同三十一年兄駒吉方より分れて一家を創立す藥種商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尚四女靖子（大一二、一生）二男英男（同一四、三生）五女敏子（昭四、七生）あり養子ムメノ（明二五、二生、兄駒吉二女）は德島縣人林與平弟琳平に嫁せりA三四二（大阪市東區伏見町三ノ二八電本局五七一）

浦野富太郎　佐波見銀行㊞監査役　長崎縣在籍
妻　フデ　明四、八生、長崎、松添龜太郎姉
男　安　明二八、一二生
婿　イチ　明三三、一生、長男安妻、長崎、松添龜太郎長女
君は長崎縣人浦野安次郎の長男にして明治五年一月を以て生れ同十四年家督を相續す現時前記銀行の重役たり家族は尚孫六代（大七、一二生、長男安長男）同鈴子（同一一、二生、同長女）同花子（同一三、四生、同二女）同和義（昭二、四生、同長女）同昭幸（同五、一生、同三男）あり長女ウラ（明二三、一一生）は長崎縣人佐々木與右衛門養子岩太郎に姉キン（慶應二、八生）は同縣人小田兵右衛門に嫁し弟市五郎（明九、四生）は同縣人土橋治左衛門の養子となれり（長崎縣東彼杵郡上波佐見村）

浦野德太郎　中外會密工業㊞監査役、藥種商　奈良縣在籍
妻　ヒサ　明二一、七生、廣島、吉村愼吉妹
男　一　大九、一生
女　歌子　明四三、一二生
女　愛　大二、一〇生
女　鈴　大五、九生
養子　シズエ　明四二、五生、奈良、乾忠吉三女
君は奈良縣人浦野茂七の二男にして明治十年二月を以て生れ同三十一年兄駒吉方より分れて一家を創立す藥種商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尚四女靖子（大一二、一生）二男英男（同一四、三生）五女敏子（昭四、七生）あり養子ムメノ（明二五、二生、兄駒吉二女）は德島縣人林與平弟琳平に嫁せりA三四二（大阪市東區伏見町三ノ二八電本局五七一）

浦野富太郎　佐波見銀行㊞監査役　長崎縣在籍
妻　フデ　明四、八生、長崎、松添龜太郎姉
男　安　明二八、一二生
婿　イチ　明三三、一生、長男安妻、長崎、松添龜太郎長女
君は長崎縣人浦野安次郎の長男にして明治五年一月を以て生れ同十四年家督を相續す現時前記銀行の重役たり家族は尚孫六代（大七、一二生、長男安長男）同鈴子（同一一、二生、同長女）同花子（同一三、四生、同二女）同和義（昭二、四生、同長女）同昭幸（同五、一生、同三男）あり長女ウラ（明二三、一一生）は長崎縣人佐々木與右衛門養子岩太郎に姉キン（慶應二、八生）は同縣人小田兵右衛門に嫁し弟市五郎（明九、四生）は同縣人土橋治左衛門の養子となれり（長崎縣東彼杵郡上波佐見村）

浦野巳之助　質商　東京府在籍
繼母　ミネ　元治元、二生、栃木、峰岸十郎兵衛長女
妻　つる　明二二、七生、千葉、荒原留吉長女
男　誠一　明四一、一生
女　ハナ　大二、一〇生
君は東京府人先代澁次郎の長男にして明治十四年四月八日を以て生れ昭和七年家督を相續す質商を營む家族

妻　たつる　明二五、一二生、東京、下村武夫姉
女　啓　大七、四生
君は青森縣人浦山宗八の長男にして明治十八年八月十六日を以て生れ大正五年養兄磯八方より分れて一家を創立す明治四十四年慶應義塾大學部理財科を卒業し日本勸業銀行に入り調査役及青森高松各支店長本店預金課長を經て浦和支店長となり現時同行參事にして山形支店長たり家族は尚二女豐子（大一四、一二生）三女高子（昭四、一〇生）あり（山形市日本勸業銀行支店內）

浦山助太郎
男　春雄　明四二、一生
女　八重　大三、三生
君は青森縣人夏目彌平の長男にして慶應元年十月二十四日を以て生れ浦山太郎兵衛の養子となり大正十一年分れて一家を創立す風に明治義塾に入り法律經濟學を修め後實業界に入り現時東洋水力電氣會社專務取締役たる外前記銀行諸會社の重役たり曩に衆議院議員たり事あり家族は尚三男秀雄（大五、一〇生）あり三女清子（明三四、一生）は工學博士上田螺雄に四女俊子（同三七、二生）は東京府人渡邊文三郎弟信藏に嫁し四男重雄（大八、八生）は同府人夏目キヨの養子となれりA三九六八（東京市小石川區水道町四五電小石川二一一）
參照‖上田螺雄、渡邊文三郎の項

浦山一朗　日本勸業銀行㊞參事、山形支店長　東京府在籍
妻　千榮　明九、八生、養父卯兵衛長女
君は佐賀縣人吉川好正の二男にして明治九年三月を以て生れ先代卯兵衛の養子となり大正三年家督を相續す現時博多株式取引所理事の外前記各會社の重役たり（唐津市唐津二一一〇六電二三六）

浦元清　從五位、子爵　舊公卿家
母　はな　明一八、四生、東京、丹治寛雄長女
當家は權大納言正親町季秀の男參議季福の後なり季福晩れて一家をなし裏辻と稱す爾れより八代を經て先々代公愛に至る六男彥六郎其後を繼ぎ明治十七年子爵を授けらる軍籍に入り陸軍少將中佐に累進し日露戰役の功に依り功五級を賜ふ君は其長男にして明治四十四年八月十九日を以て生れ昭和三年家督を相續し襲爵被仰付水產講習所を卒業し現に靜岡縣內務部水產課に勸務

す家族は尙弟三郎(大八、七生)妹温子(同一〇、二生)亡從兄弁麿妻タツノ(明元、三生、宮城、板橋啓之進三女)あり姉加壽子(同四〇、一二生、東京女大出身)は鳥取縣人稲村國次郎に同幸子(同四二、一二生、出身校同上)は神奈川縣人畑宗正長男宗一に嫁せり(東京市杉並區阿佐ケ谷一ノ八八九)

裏松友光

正四位、子爵、貴族院議員、大興電氣㈱常任監査役、舊公卿家

安政二、六生、伯爵萬里小路芳房大叔母

母　千代子　明二九、一生、貴族院議員橋本圭三郎長女

妻　ミチ　昭元、七生

男　昭光　昭二、七生

當家は權中納言烏丸廣賢の次男參議資清の後なり資清別に一家を立て裏松と稱す夫より九世を經て先代良光に至り明治十七年子爵を授けらる君は其二男にして子爵水無瀬忠政の從弟なり明治十八年十一月七日を以て生れ大正四年襲爵す明治四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し横濱正金銀行に入り後辭す貴族院議員に互選せらるゝ事三回現に其任に在り傍ら大興電氣會社常任監査役たり義に支那各地を視察し昭和三年巴里萬國議員商事會議並に伯林列國議會同盟會議に參列す家族は尙長女國子(大一一、四生)二女千恵子(同一三、一一生)あり姉良子(明一二、五生)は正親町季董に伯爵今子(安政三、四生)は伯爵大原重明先代重朝に嫁せりA四七〇(東京市澁谷區代々木山谷町一六九番)

參照＝伯爵大原重明、伯爵萬里小路芳房、子爵水無瀬忠政、橋本圭三郎の項

瓜生外吉

從二位勳一等功二級、男爵、海軍大將、東京府華族

男　剛　明一九、一二生、正五位

婦　愛　明三五、一一生、二男剛妻、茨城中島鎮三郎姉

男　男　明三六、三生

婦　壽々子　明四三、九生、四男勇妻、東京、岩下秀夫姉

君は福井縣士族寺澤勘之助の弟にして安政四年十日を以て生れ先代寅の養子となり文久元年家督を繼ぐ夙に大阪開成所大學南校東京大學助教授に任ぜられ又牛田鐵山技師長松岡銀山尾小屋銅山各鑛山長三菱合資會社尾去澤佐渡各鑛山長同社鑛山部副長たり現時本店檢査課員一一生、同長女)同朝子(昭四、九生、長男通長男)同節子(同一五、六、四生、同三男)あり長女鳥子(明一八、二生)は男爵小畑大太郎に三女アツ(同二三、九生)は東京府人永松照載弟四郎に五女白子(同三五、四生)は北海道人增井享弟進に嫁し二男正(同二五、七生)は同妻龍子(同三三、七生、東京、子爵福岡孝紹姉)及其二子を伴ひ三男昌(同二九、一生)は同妻千重(同三九、一生、三重、吉原屋姉)及其一女を伴ひ四男相(同三〇、一生)は同妻近子(同三六、一生、東京、本田彌太郎姉)と共に各分家せり(神奈川縣鎌倉郡鎌倉町小町二一〇電二〇六)

參照＝子爵福岡孝紹、男爵小畑大太郎※子爵實吉純郎※津田八郎兵衛の項

瓜生泰

資產家　東京府士族

母　セン　鴨門長女

安政五、八生、神奈川、山下七左

男　通　明二二、一〇生

婦　敏子　明二七、四生、長男通妻、滋賀、伊延貞吉妹

君は福井縣士族寺澤勘之助の弟にして安政二年一月三日を以て生れ先代寅の養子となり大正二年家督を繼ぐ夙に大阪開成所大學南校東京大學に學び明治八年英國に留學す義に東京大學助教授に任ぜられ又牛田鐵山技師長松岡銀山尾小屋銅山各鑛山長三菱合資會社尾去澤佐渡各鑛山長同社鑛山部副長たり現時開地に在り家族は尙孫聽(大八、六生、長男通長男)同節子(同一五、一一生、同長女)同朝子(昭四、九生、同二女)同武(同六、四生、同三男)あり長女鳥子(明一八、二生)は男爵小畑大太郎に三女アツ(同二三、九生)は東京府人永松照載弟四郎に五女白子(同三五、四生)は北海道人增井享弟進に嫁し二男正(同二五、七生)は同妻龍子(同三三、七生、東京、子爵福岡孝紹姉)及其二子を伴ひ三男昌(同二九、一生)は同妻千重(同三九、一生、三重、吉原屋姉)及其一女を伴ひ四男相(同三〇、一生)は同妻近子(同三六、一生、東京、本田彌太郎姉)と共に各分家せり(神奈川縣鎌倉郡鎌倉町小町二一〇電二〇六)

參照＝子爵福岡孝紹、男爵小畑大太郎※子爵實吉純郎※津田八郎兵衛の項

瓜生卓爾

正五位勳四等、鐵道局長、札幌鐵道局長、東京府士族

母　クラ　安政四、二生、東京、神尾清輔二女

妻　トキ　明二四、八生、神奈川、猪熊億造妹

男　卓造　大九、一生

女　ふみ　大五、一一生、藤高女出身

君は東京府人瓜生道朝の長男にして明治十四年二月二十三日を以て生れ同二十三年家督を相續す同三十八年早稲田大學政治經濟科を卒業し日本鐵道會社に入り翌年鐵道作業局雇となり同四十一年文官高等試驗に合格す爾來鐵道院參事補同副參事鐵道局副參事同參事兼鐵道省事務官等に歷任し大正十一年獨逸に出張し次で歐米各國を視察し同十四年歸朝す同十三年鐵道書記官に任じ經理局倉庫課長及同局調査課長となり昭和七年經理局購買第二課長となる後鐵道局長に任じ現時札幌鐵道局長たり妹ノブ(明一八、一一生)は東京府人平野竹次郎長男平助に嫁せり(札幌市北四條西一丁目鐵道官舍電五七四)

瓜生常吉

鞍手銀行㈱取締役　福岡縣在籍

妻　ウメ　明元、七生、福岡、瓜生義次三女

君は福岡縣人岩村平四郎の五男にして萬延元年五月を以て生れ先代ウメの入夫となり明治二十四年家督を相續す現時衆記銀行の重役にして鞍に筑豐酸素會社代表取締役を兼ぬ(直方市直方四三三電四四)

參照＝※堀三次郎の項

瓜生正雄

東京際寫堂㈱鏡査役、醫師

母　とみ　慶應元、三生、祖父保愛三女

妻　たつ　明二七、一生、千葉、宇井信太郎妹

男　茂樹　大一〇、一〇生

君は福井縣人瓜生貞謨の二男にして明治二十一年三月を以て生れ大正八年家督を相續す醫師にして傍ら東京醫寫堂監査役たり家族は尙二女節子(大九、一〇生)二男孝男(同一一、一一生)三男高嶽(同一四、一生)四男法夫(昭三、三生)あり弟正(明二五、八生)同妻きくゑ(同三〇、七生、福井、黒田彌左衛門二女)は其一男を伴ひ分家せりA三二五(東京市荒川區尾久町八ノ二七〇〇)

瓜生須

資產家　東京府在籍

君は東京府人瓜生震の長男にして大正六年二月二十八日を以て生れ同九年家督を相續す遺產を承け資產家として知らる先代震は夙に英學を修め明治四年工部省鑛道寮に出仕し同年岩倉大使に隨伴して歐米に赴き引續き留學生として在留すること三年歸朝後再び鑛道寮に入りしも同十年官を辭し實業界に轉じ高島炭礦に入り後同炭礦三菱の有に歸するや同社に入社し果進して本社營業部長に昇る後之を辭し東京海上火災保險戲鱗麥酒汽車製造三菱合資各會社の重役に就任し大正八年家督を養子治に讓り分れて一家を創立せりA九七四(東京市目黒區上目黒一ノ一四三電菁山七四一九)

瓜生保道

瓜生製作所㈱社長、鐵工業　大阪府在籍

妻　アサエ　明三一、五生、大阪、白禁正三姉

男　誠一　大五、一生

君は大阪府人瓜生卯太郎の長男にして明治二十一年九月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す鐵工業を營み瓜生製作所を經營し現に其社長たり家族は尙三男芸郎(大一〇、三生)四男健二(同一一、七生)長女千代子(同一五、一生)あり二男善計(同七、一二生)は父卯太郎の養子となれり(大阪市東區宮林町四電東三六一九)

瓜生雪雄

横濱正金銀行員　東京府在籍

妻　和　明二八、三生、東京、河口定義四女

男　進　大三、七生

君は東京府人瓜生復の長男にして明治十九年十一月九日を以て生れ大正九年家督を相續す明治四十一年慶應義塾大學理財科を卒業し直に横濱正金銀行に入りリオデジヤネイロ奉天各支店副支配人を經て陽原支店支配人となり現時本店檢査課員たり家族は尙長女智惠子(大九、九生)二女照子(同一一、一生)三男雄(同一三、六生)四男貳(昭五、一生)ありA一七〇(東京市麻布區北日ケ窪町四四電赤坂一九八二)

瓜谷長造

大連商工會議所常議員、遼東信託㈱、大連製油、鍵鈔信託、大連油脂工業、大連取引所鍵鈔信託㈱取締役、大連取引所信託㈱監査役、滿洲特產物輸出貿易商、兵庫縣在籍

妻　むめ　明二〇、一二生、煎江伊兵衛長女

男　敏郎　大四、一〇生

女　幸子　大三、三生

君は富山縣人荒木長光の二男にして明治十四年十二月を以て生る夙に穀肥の輸入を志し鄕里を離れ神戸に出で同地穀肥輸入商瓜谷英一經營の堺力洋行に勤務し同四十二年開店の吸籙を讓受け瓜谷姓を名乘り大連出張所主任たりしも後大正二年獨立して滿洲特產物輸出貿易を營み今日に至り傍ら前記諸會社の重役に就任し大正八年家督を養子治に讓り分れて一家を創立せりA九七四(東京市目黒區上目黒一ノ一四三電菁山七四一九)

瓜谷良藏

資產家　兵庫縣在籍

妻　とう　明一二、五生、兵庫、水田熊太郎女

男　篤治　明三八、一二生、辯護士、法學士

婦　馨　明四四、二生、二男篤治妻、兵庫武井幾太郎長女

男　好子　大二、八生、神戸女學院出身

女　重敏　大三、一一生

君は兵庫縣人瓜谷宇兵衛の長男にして明治六年一月を以て生れ大正七年家督を相續す資產家として知らる家族は尙孫良彦(昭六、八生、二男篤治長男)あり長女貞子(明四二、九生、神戸市立女學校出身)は兵庫縣人森本保に二女豊子(同四五、二生、神戸女學院出身)は同縣人平林茂に嫁せり(神戸市須磨區東細澤町三電須磨二一九)

瓜本政吉

金融業　兵庫縣在籍

養母　はる　文久三、三生、兵庫、吉川忠友三女

妻　ときよ　明一二、四生、兵庫、紫島謙次郎姉

養子　信夫　大五、七生、兵庫、圓山惣吉四男

君は大阪府人四方清助の二男にして明治九年三月を以て生れ先代寅兵衛の養子となり同四十四年家督を相續す金融業を營むA一三三一B二三一(神戸市葺合區磯上通三ノ三電葺合二二七二)

漆昌賢

資產家　東京府在籍

妻　雅子　明二二、一生、養父昌巖匡子、生母、東京、若林うた

養子　光知　明四二、五生、長女二紀子夫、愛加藤昌武弟

女　二紀子　明四一、二、七生、養子光妻

君は東京府人加藤惣左衛門の二男にして明治七年十一月二十日を以て生れ同四十四年先代昌巖の養子となり昭和九年家督を相續す資產家たり先代養父昌巖は夙に芝增上寺學寮に學び北品川宿法禪寺住職となり後實業界に入り品川製氷會社重役に擧げられ明治三十五年以來衆議院議員に當選する事六回に及べり家族は尙五女喜代子(大一二、六生)孫靖子(昭九、四生、養子光長女)あり(東京市品川區北品川二ノ八三電高輪二〇一六)

漆戸起一

資產家　東京府士族

妻　かつ　明一二、九生、東京、伊藤岩吉長女

男　太郎　明三六、九生、桐生高工出身

婦　千鶴子　明四二、七生、長男太郎妻、東京、飯野松一妹

君は東京府士族山瀨正巳の三男にして明治八年十二月四日を以て生れ先代兵三郎の養子となり後家督を相續す同二十八年東京高等工業學校機械科を卒業し山陽鐵道會社に入る後之を辭し三菱製紙會社に入り同社中川

工場長となり傍ねて湘南興業會社監査役たりしも現時之を辭し閑地に在り謡に製紙業視察の爲歐米を巡遊す謡曲閑碁を趣味とす家族は尙孫一彌（昭六、四生、長男太郎長男）同意子（同八、三生、同長女）あり長女道子（明三三、一二生、成女高女出身）は島根縣人高橋誠一に嫁せり（東京市淀橋區角筈七〇八電四谷三六〇〇）

漆原勝藏

資産家
東京府在籍
明一三、一二生、東京、千葉原兵左衛門三女

妻　きん　明三四、四生
男　茂利　明三五、一〇生、長男茂利妻、東京、佐伯佐左衛門六女
嬶　ふみ　明四二、二生
男　新吉　大五、四生
女　たつ

君は東京府人漆原泰太郎の二男にして明治六年十二月二日を以て生れ大正十五年家督を相續す資産家たり家族は尙孫良子（大一五、一生、長男茂利長女）同春樹（昭五、一生、同長男）同三代子（同六、一二生、同三女）あり（東京市荏原區中延町二九七）

漆原正

山一證券㈱常任監査役、滿信證券㈱監査役、栃木縣在籍
明三二、六生、栃木、關田元一郎妹、佛英和高女出身
妾　モン　大一二、一二生
男　正仁

當家は代々栃木縣大宮奈良部漆原の地に住し庄屋を勤め先々代清六郎に至る君は其の三男にして明治二十五年四月を以て生れ昭和八年家督を相續す大正五年東京高等商業學校を卒業し直に小池合資會社に入り翌年四月杉野喜精氏の山一合資會社を組織するや同社外國部長に就任し同十五年同社の組織變更後山一證券會社取締役兼外國部長に擧げられ昭和七年常任監査役となり今日に及ぶ傍ら滿信證券會社監査役たり劍道大弓將棋謡曲に趣味を有す家族は尙長女千鶴子（大一五、二生）二女富子（昭二、一二生）二男正義（同四、一二生）三男正禮（同六、七生）兄錄郎（明一二、三生、扶桑商會代表社員、栃木師範出身）同妻英子（同二七、六生、栃木小島京三長女、渡邊裁縫女學校出身）あり（東京市世田谷區若林町一二五電世田谷六七三）

漆原辰雄

高松商工會議所理事、香川縣多額納稅者、高松木材㈱取締役、農業
香川縣在籍
嘉永二、一二生、香川、土居繁長女
祖母　マサ　明四、二生、香川、遠藤嘉三郎二女
母　サエ　明三六、二生、海軍中將寺垣猪三五女
妻　巴　大八、一一生
男　元興

君は香川縣人漆原元三郎の長男にして明治二十八年九月を以て生れ同三十二年家督を相續す大正七年東京農業大學を卒業し農を業とし傍ら現時高松商工會議所理事に推され高松木材會社取締役にして縣下の多額納稅者に列し直接國稅五百七十一圓を納む家族は尙長女淑子（大一二、一生）二女迪子（同一四、九生）二男昭二（昭二、一〇生）三女禮子（同五、一生）妹文子（明三一、八生）は香川縣人中村貞七長男實に同繼子（同二五、三生）は同縣人佐々木英夫に嫁し再從兄清（同二六、七生）は香川縣人川崎ナカの養子となれり（高松市三番町二八電二八〇三）

參照＝寺垣猪三※子爵田村不顧※木村修三※兒玉孝顯※白土琢三の項

漆原鐵太郎

東京市荏原區會議員、地主
東京府在籍
母　さと　文久元、三生、東京、岡田金兵衛二女
妻　すま　明一七、九生、東京、白井力藏三女
男　新藏　明四三、九生
女　さゑ子　大元、一一生

君は東京府人漆原善太郎の長男にして明治十五年九月十七日を以て生れ大正十年家督を相續す地主にして現時推されて荏原區會議員たり家族は尙三男廣（大八、八生）五男彌太郎（同一一、一一生）六男久幸（昭二、二生）弟政之助（明二五、一一生）同妻ヨネ（同三〇、二生、北海道、馬道三右衛門四女）及其子女あり妹せい（同三一、二生）は東京府人野村竹次郎に同ぎん（同三三、二生）は同府人大野龜次郎長男仙太郎に嫁し弟國藏（同二二、五生）同妻ろく（同二二、五生、東京、田中吉五郎三女）は共に分家せり（東京市荏原區中延町五六九）

漆原傳四郎

地主
東京府在籍
妻　つや　明七、八生、神奈川、守屋豊吉養子
男　鐵之助　明二四、二生
嬶　ふき　明二八、一二生、長男鐵之助妻、東京、岡田三五郎五女
孫　貞子　大五、八生、長男鐵之助長女
孫　久二枝　大八、生生、長男鐵之助二女

君は東京府人岡田金兵衛の二男にして文久三年九月二十一日を以て生れ先代茂吉の養子となり明治十六年家督を相續す地主たり家族は尙孫芳江（大一三、一生、長男鐵之助三女）あり（東京市荏原區中延町六五一）

漆間一太郎

日本通信社長
東京府士族
母　れん　明六、七生、東京、士、水野正速五女
妻　操　明三五、三生、茨城、三好龜久壽二女
男　敬明　大一一、一生

君は東京府士族漆間眞學の長男にして明治二十三年十一月二十六日を以て生れ昭和九年家督を相續す現時父眞學の主宰社長たり日本通信社長たり家族は尙二男眞二（大一四、三生）三男通夫（同一五、九生）長女久美子（昭四、二生）四男小六（同六、一〇生）弟眞雄（明四四、三生）同貞夫（大二、一二生）あり妹益子（明三一、二生）は愛媛縣人高橋眞男に同壽子（同三八、九生、府立第三高女出身）は富山縣人竹内昇に嫁せり（東京市赤坂區新坂町五三電青山五〇一〇）

參照＝※細田代造の項

漆山雅喜

臺灣製腦㈱取締役、臺灣拓殖製茶㈱監査役、三井各㈱帝國森林會理事
東京府士族

母　すみ　弘化二、三生、長野、士、神戸立人三女
妻　まさ　明一五、四生、東京、士、師岡政宣長女、熊本高女出身
男　一　明三五、四生、三井物産會社員、工學士
嬶　文子　明四一、八生、長男一妻、東京、梁瀨長太郎長女
男　巳年夫　明三八、七生、王子製紙會社員、慶大經濟學部出身
嬶　京子　明四二、三生、三男巳年夫妻、東京、檔武三女
男　小四郎　大元、八生、神戸高等商船在學
女　俊子　大六、七生、東洋英和女學校在學

當家は舊高遠藩士代の家臣にして祖父は內藏家老たり君は先代高雅の長男にして明治七年九月九日を以て生れ同三十三年家督を相續す同二十九年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し古河鑛業所鴻池銀行の山林事業に從事し同四十年三井合名會社山林課長たる外前揭各會社の重役たり謡曲を好む家族は尙五男雅敎（大八、五生）六男睦夫（同一〇、四生）孫孝（昭六、四生、長男一長男）同裕（同七、四生、同二男）同治（同八、一二生、三男巳年夫長男）あり長女雅樂子（明四一、一生、府立第三高女出身）は東京府人伊地知壯一に二女末子（同四三、一〇生）は岡山縣人湯淺武孫長男藥學士孝孫に嫁し五女惠美子（大一二、三生）は茨城縣人松田善三郎の養子となれりA二三〇四（東京市牛込區戸山町三〇電牛込四七二八）

參照＝伊地知壯一、梁瀨長太郎の項

エ(エ) 之 部

江頭次平

福岡縣多額納稅者、酒造業

妻　ヨネ　明一九、一生、福岡、井下倉太郎二女

男　吉次　大二、七生

女　キミエ　明四二、一〇生

　　チサエ　明四四、一一生

君は福岡縣人江頭松五郎の四男にして明治十年七月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す酒造業を營み直接國稅千一圓を納め福岡縣多額納稅者に列す嘗に福岡縣會議員に選ばれ肥筑物産㈱セメント各會社取締役たりしことあり家族は尙三男松次(大四、六生)五男健次(同一〇、九生)七女トミエ(同一二、九生)八女廣子(同一五、六生)あり長女松江(明三五、一〇生)は福岡縣人福井健夫に嫁せり(福岡縣三池郡三池町電話八)

江上彦助

白山殖産㈱取締役
大阪府在籍

妻　もと　安政六、一一生、大阪、江上田米助二女

男　彦太郎　明一八、六生

婦　スミ　明二六、八生、長男彦太郎妻、大阪、江上誹助二女

孫　豊一　大二、一生、長男彦太郎長男

君は大阪府人高橋竹造の二男にして安政五年七月を以て生れ先代くにの養子となり明治十二年家督を相續す現時白山殖産會社取締役にして藝に福岡酢造資社重役を兼ぬ家族は尙孫周作(大四、一一生、長男彦太郎二男)同光枝(同一二、一生、同長女)あり長女ゑつ(明一五、九生)は高知縣人山崎敏男に嫁し三男錦之助(同二三、四生)は大阪府人齋藤米造の養嗣子となれり(大阪市西成區津守町四一五)

江上秀雄

從五位、閥東廳視察官、內務局學務課勤務、三重縣在籍

妻　文子　明三五、七生

男　信雄　大一四、一生

君は三重縣人にして明治二十九年七月を以て生る大正十年東京帝國大學文學部教育學科を卒業し文部屬として文部大臣官房學校衛生課に勤務し同十三年第四高等學校教授に任ぜられ兼ねて金澤醫科大學附屬藥學專門部講師第十臨時教員養成所講師を嘱託せらる昭和五年教育視察の爲布哇及びアメリカ合衆國に出張し同七年より八年に至る間心理學及び論理學研究の爲め獨佛英各國に留學し同九年四月關東廳學官に轉じ現在に至る家族は尙長女千代子(昭二、六生)二女壽賀子(同五、六生)あり(旅順市高崎町二五電六八五)

江川勒次郎

地主
東京府在籍

妻　さと　明一五、二生、東京、村木友次郎長女

男　金太郎　明四三、一〇生

婦　きよ　大三、一生、三男金太郎妻、東京、村木作次郎二女

女　かね　大六、五生

君は東京府人江川貞次郎の長男にして明治九年一月九日を以て生れ大正七年家督を相續す地主たり家族は尙四女あき子(大九、九生)孫綾子(昭七、一生、三男金太郎長女)あり長女とく(明三六、四生)は分家し弟源藏(同一四、一一生)も亦分家し四男鈴雄(大元、一〇生)は其養子となり二女よね(明三八、三生)は東京府人田島市太郎孫安右衛門に嫁し五男正義(大三、一〇生)は同府人江川清太郎の死跡を相續せりA三〇五(東京市豊島區池袋一ノ五三八)

江川金平

ブレイガイド㈱取締役
東京府在籍

君は東京府人大久保源五衛門の庶子にして前川孫三郎の兄なり明治十年八月を以て生れ同二十三年先代くめの養子となり大正元年家督を相續す現時株式會社ブレイガイド取締役たりA三四七B一九一(東京市京橋區銀座二ノ二電話京橋一二五九)

参照‖前川孫三郎の項

江川治一郎

江川同家㈱取締役
大阪府在籍

父　治兵衛　嘉永三、八生、現戸主

母　アサ　元治元、九生、大阪、吉岡吉兵衛妹

妻　ヒサ　明三七、四生、大阪、西田榮三郎長女

君は大阪府人江川治兵衛の長男にして明治三十三年九月を以て生る現時江川同族會社取締役たり家族は尙長女逗子(昭二、四生)ありA一〇五〇(大阪市住吉區天王寺町三ノ二五三)

江川重治郎

鳥榮、鶏肉商
大阪府在籍

妻　久尾　明三二、八生、養父晉吉三女

男　敏夫　大四、六生

君は大阪府人津田柳吉の長男にして明治二十四年二月を以て生れ先代晉吉の養子となり大正十三年家督を相續す鳥榮と稱し鶏肉商を營む家族は尙二男榮造(大一五、二生)長女節子(昭三、四生)三男重男(同五、七生)四男最穂(同七、七生)妹綾子(大五、八生)あり同靜枝(明三六、六生)は大阪府人柴田甚藏長男英之祐に同好子(同四四、七生)は同府人相模英藏に嫁し同光子(同三九、一〇生)は分家せりA四五八B一七六(大阪市北區網島町一六電東四三一)

参照‖柴田甚藏の項

江川常右衛門

江川商會、不動產有價證券賣買業並木炭商、鹿兒島縣在籍

妻　ヨシ　明一〇、一生、鹿兒島、佐藤熊太郎妹

男　正雄　明三四、九生、日本徴兵保險會社員、慶大法學部出身

男　常藏　明三九、八生

女　榮　大元、一〇生

女　芳澄　大三、二生

女　清子　大六、三生

君は鹿兒島縣人江川市助の長男にして明治四年二月を以て生れ同四十年家督を相續す江川商會と稱し不動產有價證券賣買業並に木炭商を營み義に縣下の多額納稅者に列す家族は尙五男淇清(大九、九生)孫淳治(昭二、一〇生、二男正雄長男)あり女富江(明四三、九生)は鹿兒島縣人森山仲助男榮吉に嫁せり(鹿兒島縣姶良郡加治木町電二二四)

江川時三郎　横濱商工會議所常議員、共同運輸㈱專務取締役、三菱倉庫㈱取締役神奈川縣在籍

明一九、四生、長崎、吉村豐松二女

妻　シズカ　泰三　櫻子　多嘉子

男　大一〇、八生

女　大六、四生　大八、四生

君は長崎縣人江川佐平の長男にして明治十二年六月を以て生れ大正二年家督を相續し夙に三菱倉庫會社に入り同社取締役兼横濱支店長となり現に前記會社の重役にして横濱商工會議所常議員に推さるA五三二四（横濱市神奈川區幸ケ谷三電本局一一七一）

江川英文　從六位、東京帝國大學助教授、法學部勤務、靜岡縣士族

文久二、二生、男爵伊丹重雄叔母

母　せい子

妻　美　晴　昭六、一二生

男　英　晴

當家は遠く鎮守府將軍源滿仲の次子頼親より出で世々大和國宇野に住す後九世宇野太郎親信伊豆韮山に移り二十一世英信家名を江川と改め爾來太郎左衛門と稱し世襲代官たり更に二十五世を經て英龍に至る英龍夙に蘭學を修め洋算調量洋風練兵に通じ其砲術は長崎の高島秋帆に習ひ當時其右に出づる者なし外船の來航に際し海防築城製艦を建議し又韮山に於て始めて大砲の鑄造を試せる等功績顯る多く幕末の偉人として其名を聽す先代英武は其二男にして先々代兄英敏の後を襲ぎ明治元年聖駕東下の先導として駿河より東京に入り同年韮山の權知事に任じ同四年之を辭し岩倉大使に隨行し米國に遊學し同十二年歸朝後内務大藏各省に奉職し正六位に敘せらる後郷里に歸り豆陽學校を興し子弟の教育に盡瘁せり現今靜岡縣立韮山中學校と稱するは其後身なり農を業とし義に靜岡縣多額納稅者に列す君は其長男にして明治三十一年七月を以て生れ昭和九年家督を相續す夙に第一高等學校を經て大正十四年東京帝國大學法學部佛法科を卒業し山田三良博士の下に國際私法助手を勤め次で法學部助教授に進む運動普樂文學等に趣味を有す家族は尚長女幸子（昭八、八生）あり姉しげ（明一八、八生、日本女大出身）は東京帝國大學名譽教授法學博士山田三良に同集（同二四、一二生）は東京府人辯護士法學士山田隆昭に同久子（同二九、一二生、東京女子學館出身）は東京帝國大學助教授文學博士法學士山田隆昭に同久子（同二九、一二生、士辰野隆に妹ヤス（同三三、一生、出身校同上）は京都府士族山岡清直長男工學士佩一に嫁せり（東京市牛込區辨天町一四〇電牛込一五九二三本邸）靜岡縣田方郡韮山町一四三）

參照‖男爵伊丹重雄、辰野隆、山田三良、山田隆昭

※伊丹二郎の項

江川理三郎　江川同業㈱代表取締役　大阪府在籍

明二三、一一生、養ゆつや養子、大阪、岡本榮三郎長女、現戸主、江川同族㈱取締役

妻　テイ　昭三、七生

男　常一

君は廣島縣人森田繁二郎の二男にして明治二十八年七月二日を以て生れ昭和三年現戸主テイの入夫となる現時不動產有價證券賣買業江川同族會社代表取締役たり

A一二二二（大阪市北區堂島濱通四ノ一電福島一三六）

江草重忠　日本書籍、大日本圖書各㈱取締役有妻閣、書籍出版業、東京府士族

妻　はる　明二八、五生、新潟、新保勇次養子

養子　四郎　明三三、一二生、長女英子夫、兵庫、竹中七左衛門四男、法學士

女　英子　明四〇、一生、養子四郎妻、九段精華高女出身

君は三重縣の素封家にして酒造業を營める水谷忠左衛門の弟にして明治十年二月を以て生れ先代弁太郎夙に上京し古本屋を開業して有妻閣と稱せしが故法學博士奥田義人等の後援あり業況頗る揚る乃ち明治二十三年憲法發布を一轉機として專ら法律書の新刊を試み爾來年毎に發展して現時同業者間の互商として遍く江湖に知らるゝに至れり君は明治三十七年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し先代の遺業を承け書肆有妻閣を主宰する傍ら商記各會社の重役たり謙曲に趣味あり家族は尚二男紀元（昭三、二生）孫證子（同三、三生、養子四郎長女）同雅子（同五、三生、同二女）同忠九（同六、五生、同長男）同壽子（同七、一二生、同三女）あり從弟義雄（明二五、二生、亡養母もと男）は分家せりA三六九七七B一六六九（東京市神田區神保町二ノ一七電九段三二二・三二三）

江口義一　東京市會議員、地主　東京府在籍

明二三、八生、千葉、松原岩吉長女

妻　むめ　明三五、九生、

男　一夫　明四〇、二生、長男一夫妻、東京

婦　智惠子　奥村邦太郎四女

男　二郎　明四四、二生

君は東京府人江口淺次郎の長男にして明治九年五月六日を以て生れ同三十二年家督を相續す地主にして資產家として知られ嘗て王子町長に擧げられ現に東京市會議員たり家族は尚四男孝（大七、二生）孫篤夫（昭六、一生、長男一夫長男）同寛子（同八、九生、同長女）ありA一四六八（東京市王子區豐島町一二四五電王子二三七二）

江口賢一　愛知縣多額納稅者、新三河鐵道㈱監査役、呉服半襟商、愛知縣在籍

慶應二、一生、愛知、村瀬淳一郎叔母

母　みせ　明三六、一二生、東京、川島齋兵衛二女

妻　あい　大一三、九生

男　裕通

君は愛知縣人江口理三郎の長男にして明治二十九年七月を以て生れ昭和四年家督を相續す先代理三郎は夙に實業界に入り尾張電氣會社々長其他諸會社の重役に擧げられ又名古屋商工會議所議員に列し財界に其名を知らるる君は第八高等學校を經て大正十二年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し家業呉服半襟商を營み傍ら現時前記會社の重役にして直接國稅二千三百九圓を納め愛知縣多額納稅者に列す姉かよ（明二三、六生）は醫學博士若谷貞之に同ゑい（同二七、九生）は東京府人岩田岡次郎に妹せつ（同三三、二生）は愛知縣人文學士吉川卯吉に同芳子、四生、愛知縣立第一高女出身）は男爵横田祐に嫁し姉のぶ（同二六、一生）は其一子を伴ひ分家せり（名古屋市中區南呉服町一ノ三電中三八二）

參照‖男爵横田祐、川島齋兵衛、村瀬淳一郎、吉川卯吉※村瀬庸二郎の項

江口駒之助　前東京株式取引所㈱相談役　山形縣在籍

明二、一一生、茨城、士、松延清之助長女

妻　より

養子　鶴雄　明一六、四生

君は山形縣人江口萬右衛門の長男にして安政五年十一月を以て生れ明治十二年分れて一家を創立す夙に米澤興讓館に漢學を學び又同師範學校を卒業し上京して若松塾に入り修學し尚清國公使館に就て支那語を學び同十二年淺清し漢口上海天津等に滯留して時文語學を研修し尚滿洲其他各地を視察し得る所あり上海領事館に勤務し在職三年同十七年歸朝長崎縣勤業課に出仕し「清國通商事情」と題する一書を著し同廳より出版す同二十一年農商務省に轉じ會社課長商事課長等を歷任す同二十八年日清戰爭和議成るや清國新開港視察を命ぜられ九月渝の關稅實業家を同伴して蘇州杭州より遠く楊子江を遡て重慶まで詳査し歸朝復命す同三十一年官を辭し翌年東京株式取引所に入り支配人に擧げられ同三十六年理事に就任す大正七年之を辭し同所相談役たりし明和八年之を退く先是明治三十二年歐米諸國の取引所調査の爲出張を命ぜられ同時に農商務省の囑託を受け諸外國を歷遊し株式賣買の實況を視察し歸朝す「歐米取引所」と題する浩瀚の著書ありA九四九〇（東京市澁谷區原宿一ノ六四電青山一二七三）

參照‖江口鶴雄の項

江口定條　勳五等、貴族院議員、明治製糖㈱監査役、如水會理事長、同人會副會長、日華會、日本女子大學校各理事、東京府在籍

明二、一生、佐賀、士、澁谷徹十郎長女

妻　ハル　明三〇、二生、三菱銀行員、法學士

男　健助

婦　あい子　明四〇、四生、長男健助妻、新潟長尾半平姪

男　恭助　明三一、九生、明治製糖會社員、商學士

婦　郁　明四二、一〇生、二男恭助妻、富山、石坂友太郎二女

男　俊助　明三七、八生、農林省畜產課員、農學士

婦　政子　明四二、五生、三男俊助妻、長野滝喜作二女

男　達助　明三九、五生、靜岡、燒津水產學校教諭、早大英文科出身

男　泰助　明四四、一〇生、四男達助妻、靜岡、淺井熊太郎六女

婦　ましゑ　明四二、一二生、京大文學部英文學科在學

君は祖高知藩士江口千條の三男にして慶應元年四月一日を以て生れ明治四十三年兄昌條方より分れて一家を創立す同二十年東京高等商業學校卒業後同校に留まり教鞭を執り同二十四年三菱合資會社に入り東京及大阪に於て同社銀行部に在勤する事多年後長崎門司支店長本社鑛業部副長營業部長等務理事總理事等に進み其樞機に參與したりしが大正十三年之を辭し昭和五年南滿洲鐵道會社副總裁に就任越へて同七年其職を退き貴族院議員に勅選せられ今日に至る現時前記の職に在り家族は尚孫英一（昭四、二生、長男健助長男）同妙子（同七、六生、同長女）同朝彦（同八、一〇生、二男恭助長男）あり長女靜（明二八、七生、府立第二高女出身）は貴族院議員次田大三郎に二女タマエ（同三四、五生、府立第二高女出身）は醫學博士滿洲醫科大學教授平山遠雲松濤一五一）

參照‖※谷口勝季の項

江口碩之輔　江口木材㈱社長、江口汽船、名古屋幹振所㈱取締役、江口至代表社員、愛知縣在籍

養母　みすゑ　明三、六生、岐阜、三宅授教二女

妻　イツ　明二五、八生、神奈川、大和忠吉姪

養子　キヨ　大四、二生、愛知、碧石しずゑ養子

君は愛知縣人江口彌十郎の二男にして明治三十三年五月を以て生れ先代猪三郎の養子となり明和二年家督を相續す現時前記諸會社の重役たり家族は尚養妹末尾（明三四、一二生、岐阜、三宅愈教四女）同夫成三（同二六、八生、愛知、速水康次郎）及其一子ありA一五三四（名古屋市中區松重町一〇電南六二三）

江口治郎　江口證券㈱社長、大阪株式取引所取引員、有價證券賣買業　大阪府在籍

妻　滋子　大二、一一生、清水谷高女出身

江口家は若く東區北濱に在りて大和屋と稱し代々彌兵衛を襲名し菓子商を營みしが先々代彌兵衛に至り大阪株式取引所取引員となり商次產を積み當家今日の基礎を成す君實は愛媛縣人二宮茂平の四男にして明治四十三年二月二十七日を以て生れ先代次三郎の養子となり大正四年家督を相續す昭和七年京都帝國大學經濟學部を卒業し大阪株式取引所取引員にして有價證券賣買業を營み江口證券會社々長たりA一二〇四七（大阪市東區北濱一ノ三〇電本局三七七五）

江口順一　正五位勳六等、營繕管財局書記官、總務部國有財產課長、佐賀縣在籍

父　榮吉　元治元、八生、現戸主

妻　勝　明三三、一二生、東京、谷口吉太郎三女、三崎田高女出身

男　順勝　大八、一一生

君は佐賀縣人江口榮吉の長男にして明治二十六年四月を以て生れ明治四十年兄昌條方より分れて一家を創立す同二十年東京高等商業學校卒業後同校に留まり帝國大學法科大學政治學科を卒業し大藏屬に任じ爾來副司稅官稅務監督局事務官稅關事務官營繕管財局書記官銀行檢査官等に歷任し現時營繕管財局書記官にして總務部國有財產課長たり家族は尚二男誠二（大一一、一生）長女三重子（同一三、三生）三男武敏（昭八、八生）妹チト（明二九、三生）同夫儀太郎（同二六、九生、佐賀吉賀梅吉二男）及其子女弟榮治（同三二、三生、東京日日新聞記者、文學士）あり妹ソデ（同三四、九生）は佐賀縣人糸山嘉六に同ステ（同三七、八生）は同縣人田中堯に嫁せりA一三三（東京市世田谷區代田二ノ六七六

江口鶴雄　鶴見瓦斯、京濱コークス各㈱取締役、東京瓦斯㈱工務課長　山形縣在籍

養父　駒之助　安政五、一一生、現戸主

妻　タカ　明二九、一〇生、養父駒之助養子
　　山形、江口勝之助四女
男　敬一　大六、五生

君は山形縣士族堀尾重興の三男にして明治十六年四月を以て生れ同二十九年江口駒之助の養子となり前名重三を改む同四十三年東京帝國大學工科大學應用化學科を卒業し直に東京瓦斯會社に入社し大正十年歐米に出張同十一年歸朝し現時同社工務課長にして鶴見瓦斯京濱コークス各會社重役を兼ぬ家族は尚二男雄二(大九、四生)二女千鶴子(同一三、一〇生)あり長女萬里子(同四、四生)は茨城縣人松延球の養子となれりA一三四〇(東京市澁谷區原宿一ノ六二)電青山一六八三)

參照‖江口駒之助の項

江口政平

妻　都留　明二二、九生、熊本、三木五郎妹
男　四郎　明三四、七生
婿　美歌三木五郎長女　明四二、一生、四男四郎妻、熊本
男　勝利　明四七、一〇生
女　とし子　明四二、一生
女　タツ子　明四四、三生
男　政之　明四四、九生

君は福岡縣人江口久八の四男にして慶應元年五月を以て生れ明治三十一年分れて一家を創立す現に前記諸會社の重役にして養に大東畜産旭セメント三池土木各會社の重役たりし事あり家族は尚十男政康(大九、八生)十一男久(同一二、一〇生)十二男正(昭二、六生)あり長女ツル(明二六、八生)は福岡縣人城戸俊一に嫁し二男正二(同三一、一生)は分家し五男正久(同三五、一生)は大阪府人小西ナラ峰の養子となれり(福岡縣三池郡玉川村)

江口彌一郎

妻　ひさ子　名古屋商工會議所議員、大正産業㊫取締役、三重人造絹糸㊫監査役、江口商店㊫、江口富組、名古屋織物整理㊫各代表社員、愛知縣在籍
長男、卿子　柴橋男妹

君は愛知縣人江口恒次郎の弟にして明治十六年五月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同三十七年愛知縣立工業學校紡織科を卒業し現に前記諸會社の重役にして推されて名古屋商工會議所議員たり家族は尚長女富士子(昭九、四生)あり(名古屋市中區南武平町一ノ一二電中二五四一)

江口隆二郎

妻　サタ　江口商店㊫代表社員、米穀肥料貿易商、東京府在籍
男　新吉　明一七、八生、鹿兒島、飛岡卯一郎妹
婿　光江　明三六、一二生
男　郎　明四〇、八生、長男新吉妻、沖繩青山壯吉養子

君は鹿兒島縣人江口休右衛門の二男にして明治十二年三月を以て生れ後分家して前名休次郎を改む米穀肥料貿易商を營み合名會社江口商店代表社員たり家族は尚四男隆之(大七、一生)二女志奈(同九、一〇生)五男貞雄(同一二、七生)孫惠美子(昭五、四生、長男新吉長女)あり二男新造(明三九、一生)は分家し三男謙三(大二、一生)長女道子(同五、一生)は共に其家籍に入れり(鹿兒島市山之口町七二)

參照‖青山壯吉の項

江口鱗六

妻　トヨ　正四位勳二等、海軍中將、佐賀縣在籍
男　重國　明七、一二生、佐賀、士、江副充三長女
女　正子　明二六、三生、法學士
　　大二、六生

君は佐賀縣士族江口重起の三男にして慶應元年四月を以て生れ明治二十四年分れて一家を創立す同十九年海軍兵學校を卒業し同二十一年海軍少尉に任じ大正四年海軍中將に累進す其間赤城千早須磨生駒薩摩河內各艦長竹敷要港部佐世保鎮守府各參謀長海軍砲術學校長海軍兵學校教頭等に歷補し後豫備役に編入せらる家族は尚孫千里(大一四、八生、長男重國長女)同重和(昭元、一二生、同長男)あり長女リト(明二九、一二生)は大分縣人豊田副武に二女ヌサ(同三六、六生)は埼玉縣人林豊適に三女對(同四一、一一生)は福岡縣人阿賀正美に嫁し二男新城(同三二、九生)は佐賀縣士族江副キヨに三男俊夫(大七、三生)は同縣人柴田伸一に各養子となれり(東京市世田谷區玉川尾山町一六〇電田園調布八七三)

參照‖豊田副武の項

江坂幸次郎

妻　菊雄　粉末塞天製造業、東京府士族
男　輝彌　明二七、一〇生、高知、黒瀬馬平
　　大八、二生
婿　新吉　明一〇、一生、福岡、士、中村敬止姉

君は東京府士族江坂寅吉の長男にして明治二十年十一月一日を以て生れ大正七年家督を相續す明治四十三年東京外國語學校獨逸語科を卒業し塞天製造業を營む養に山元オブラート會社長たり家族は尚長女由紀子(大一一、八生)二女俊子(同一四、三生)あり養子濤子(同一二、六生、東京、江川くめ私生子)は高知縣人北村鹿太郎の養子となれり(東京市世田谷區三軒茶屋町二三五)

江崎一郎

妻　タミノ　工學博士、東洋計器製作所㊫取締役、三菱重工業㊫技術顧問、福岡縣士族
男　英一郎　明三七、一一生

君は舊筑後柳川藩士江崎千吾の長男にして明治元年七月を以て生れ同十六年家督を相續す同二十八年帝國大學工科大學機械科を卒業し三菱合資會社に入り同社長崎製鋼所長兼長崎造船所副長同本社參與同製鐵會社取締役等を經て現時同重工業會社技術顧問にして東洋計器製作所取締役たり養に造船業視察軍艦發島建造準備軍艦士佐主機製作準備等の目的を以て渡英する事四回「パーソンス・スチームタービン」の設計及製作を日本に輸入せし功勞者として知らる大正三年工學博士の學位を受く弟眞澄(明一一、一一生、法學士)同妻シヅコ(同二〇、三生、故鐵道院副總裁長谷川謹介三女)は共に分家し二女多喜子(同三五、九生)は醫學博士近藤次繁二男綸二に嫁し弟殿重(同一七、八生、慶應義塾理財科出身)は懲島縣人白泉久太郎の養子となれりA五八一(東京市麹町區富士見町三ノ三ノ二電九段一九一五)

參照‖近藤次繁

江崎榮造

妻　ノブ　長崎縣多額納稅者、江崎籠甲美術品製作所、籠甲品商、長崎縣在籍
男　榮一　明三、七生
女　昇三　明三六、四生
女　澄子　明三八、一二生
男　洋造　明四二、一生
女　君子　明四五、二生
男　清　大三、一〇生
女　郁子　大七、一生

君は長崎縣人先代榮造の庶子にして明治十一年一月を以て生れ大正元年家督を相續し襲名す江崎籠甲美術品製作所主にして一流の籠甲品商として知られ縣下の多額納稅者に列し直接國稅七百十一圓を納む養に長崎商業會議所議員に列す長女文子(明三〇、六生)は東京府人竹村久に養子シカ(同一六、五生)は長崎縣士族值賀連に叔母チヨ(慶應三、三生)は福岡縣人瀨川守次郎に嫁せり(長崎市今魚町五七電三二八)

參照‖值賀連の項

江崎歡藏

妻　知登　正五位勳六等、東京高等工藝學校教授、東京府在籍
男　健一郎　明二七、四生、熊本、木村喜太郎妹
　　大一〇、一生

君は熊本縣士族江崎伊門の四男にして明治十九年二月二十日を以て生れ大正十二年見彰眞方より分れて一家を創立す同五年京都帝國大學理科大學數學科選科を卒業し山梨縣立都留中學校教諭となり同十一年現職東京高等工藝學校教授に任ず「高等代數學概論」「微分學概論」等の著あり家族は尚二女昭子(昭二、二生)三女和子(同八、一生)あり(東京市淀橋區西大久保三ノ一〇五)

江崎定次郎

妻　セイ　正四位勳三等、判事、大審院判事、愛知縣士族
男　信一　明二〇、五生、鹿兒島、兒玉利實長女
男　武二　明四一、七生、慶大法學部出身
女　春子　明四二、一二生、東大農學部在學
女　成子　大六、二生、高女高女在學

君は愛知縣士族江崎猪三郎の長男にして明治八年九月を以て生れ後家督を相續す同三十三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十六年判事に任じ爾來横濱區同地方甲府地方同區松本區各裁判所判事浦和地方裁判所部長東京控訴院判事東京都地方裁判所監督判事神戸地方裁判所部長大阪控訴院部長に歷補し大正十三年現職に轉じ現在に至る弟雁太郎(明一〇、一〇生)同妻さく(同一七、一〇生、千葉、田村七助二女)弟庄三(同一八、七生)同妻あき(同二七、一生、千葉、松本岩松四女)は各其子女を伴ひ分家し姉とら二同五、一〇生)は鹿兒島縣士族肥後勇之進に妹たい(同一二、一一生)は愛知縣士族中澤清造長男寅男に同しげ(同一五、八生)は同縣士族谷政宜長男祐吉に同もと(同二四、八生)は同縣人西村卯三に同みね(同二七、八生)は東京府人柳原貞次郎に嫁し同とよ(同二二、一〇生)は同府人榊原柳三郎養子清次郎の養子となれりA一三一(東京市四谷區南寺町一三)

江崎政忠

妻　きく　從四位勳四等、大井川電力㊫取締役、鴻池信託、昌榮堂印刷所各㊫監査役、鴻池㊫監事、大阪府士族
弟　悌三　明一五、一一生、東京、士、鹽小路光治妹
　　明三二、七生、從五位、九州帝國大學教授、農學部勤務
婿シャルロッテ　明三六、六生、三男悌三妻、獨逸ヴィッテ・フリードリッヒ長女
男　信五　明三八、七生
女　ひな　大三、三生
女　松枝　大八、一生

君は長野縣士族江崎政國の長男にして慶應元年九月四日を以て生れ明治三十八年家督を相續す同二十三年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し農商務省屬林務官補宮內省御料局技師帝室林野局技師等に歷任し其間內外博覽會の審査官理事官山梨縣山林經營顧問及東京市水道水源調査顧問等を嘱託せらる退官後實業界に轉じ鴻池系統の銀行會社に關係し現に鴻池合名會社監事たる外前記各會社の重役たり家族は尚六男伊勢雄(大六、五生)五女なつ(同九、七生)孫はる(昭四、三生、三男悌三長女)あり弟誠(明四、一〇生、文學士)同妻田鶴(同一七、一生、東京、士、伊藤千熊㊫)は共に分家し妹操子(同元、七生)は詩人國分青崖に同いそ(同一五、一二生)は大阪府人故山中逸に嫁千代(同三五、八生)は福岡縣人與田作造弟四郎に嫁せりA八〇二(大阪市北區新川崎町一電堀川一八八)

參照‖江崎政行の項

江崎政行

妻　まき　正五位勳五等、南洋廳法院檢事、高等法院檢事㊫兼バラオ地方法院檢事、東京府在籍
男　政篤　明二九、四生、東京、杉浦文五郎二女
　　大三、一生

君は東京府人江崎政國の三男にして明治十二年十月を以て生れ大正九年兄政忠より分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し司法官試補となり同四十五年檢事に任じ爾來福島區兼同地方秋田區兼同地方本莊區各古屋區兼同地方熊谷區水戸區兼同地方千葉地方各裁判所檢事に歷補し大正十一年南洋廳法院檢事に任じ南洋廳高等法院兼同地方法院檢事を經て現時前記の現職に在り養にサイパン地方法院檢事をも兼ぬ三男勇(大九、二生)は神奈川縣人關野辰造の養子となれり(南洋群島パラオ島南洋高等法院檢事局內)

參照‖江崎政忠の項

江崎與右衛門

妻　いさを　醬油釀造業、愛知縣在籍
男　正夫　明二九、九生、岐阜、設田健一姉
　　大元、九生

君は愛知縣人先代與右衛門の長男にして明治十七年九月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名秀雄を改め襲名す家業を繼承し醬油釀造業を營み名古屋鹽小賣組合長名古屋味噌醬油商組合副長に擧げらる家族は尚二男直夫(大六、二生)四男米夫(昭八、二生)あり弟省吾(明一八、二生)同敏雄(同二三、二生)同琢(同二四、九生)は各分家し妹沖(同二一、四生)は愛知縣人神谷八郎に同尋(同二七、四生)は同縣人久田伊左衛門に嫁せりA八三二B二三〇(名古屋市南區呼續町背戸田一電南九一〇)

參照‖神谷八郎の項

江指卯之助

養父　豊治郎　江指商店㊫代表社員、帽子並帽子原料商、日本國民禁酒同盟理事
嶽母　たま　大阪府在籍
　　嘉永元、六生
　　安政二、二生、大阪、渡邊ひさ母

妻　す　ゑ　明一二、四生、福井、江指新兵衛三女、ウヰルミナ女學校出身

君は京都府人小寺市兵衛の二男にして明治十二年一月二十七日を以て生れ先代豊治郎の養子となり大正六年家督を相續す帽子並に帽子原料商を營み合名會社江指商店代表社員たり傍ら日本國民禁酒同盟天滿基督教會及天滿職業紹介所各理事たり昭和三年米國ロスアンゼルスに開催の第十回世界日曜學校大會に日本委員として出席し終いで米國に於ける禁酒事業を視察し歐洲諸國を巡遊す家族は尚養妹ハツ(明四五、二生、愛知、中村京太郎五女)あり養子げん(同三七、一〇生、同二女)は大阪府人渡邊ひさに孫元(大一四、一一生、離縁養子庚子郎長男)同ヨウ(昭二、四生、同長女)は共に京都府人鳥居嘉三郎長男健に各養子となれりA一三五九B一八四(大阪市東區高麗橋詰三二**電東一六一**)

江澤淺吉

萬淺商店、果物商
東京府在籍

妻　は　ま　明一三、九生、東京、岡林長兵衛三女
男　養之助　明四〇、七生
女　さき子　明四二、六生、三輪田高女出身
男　正　平　大元、七生
女　初　世　大五、四生

君は千葉縣人鳥田勘右衛門の二男にして慶應三年二月を以て生れ先代くわの養子となり明治三十六年家督を相續し前名幸吉を改む萬淺商店と稱し果物商を營む義に東京中央市場運輸神田川倉庫各會社の重役たりし事ありA九一四B一三九(東京市神田區鍛冶町二ノ一**電神田七六三**)

江澤浦吉

萬浦商店、果物問屋業
東京府在籍

男　孝一郎　明二九、六生
婦　と　キ　明二八、一〇生、長男孝一郎妻、東京、岡田今之助長女

君は東京府人先代浦吉の長男にして明治四年九月を以て生れ同二十一年家督を相續し前名德三郎を改め襲名す萬浦商店と稱し果物問屋業を營む義に東京中央市場運輸會社重役たり事ありA六七三B一五二(東京市神田區連雀町一五**電神田三四二**)

江澤金五郎

前天賞堂代表取締役、東京府在籍

妻　久　明一四、一〇生、千葉、吉田甚左衛門妹
男　清太郎　明三八、六生、慶大經濟學部出身
婦　ゆう子　明四〇、八生、二男清太郎妻、東京、佐伯安四女
公　平　明四五、一生
女　道　子　大二、五生

當家は上總國大多喜町の舊家にして初代半右衛門呉服太物商を營み後内外書籍雜貨商に轉じ先代金五郎に至る金五郎は夙に和漢の學を修め大志を懷きて東都に出で時計貴金屬類の製造販賣業を營み他に卒先して海外貿易を開始し遂に今日の基をなせり君は其長男同謙二郎の從兄にして明治九年六月八日を以て生れ同二十九年家督を相續し前名增次郎を改め襲名す同二十七年慶應義塾を卒業し直に米國に渡り紐育大學卒業後同校々長の推薦にてスタンダード時計會社に入り重用せらる尋で歐洲大陸を見學し歸朝後父の遺業を繼ぎ時計寶玉美術工藝品蓄音器等の輸出入並に時計同附屬美術應用品の製造販賣に從事し歐米支那各地に支店又は出張所を設け慶々海外に就して彼國の實況を視察研究する等鋭意事業の振興を計り天賞堂の盛名洽く喧傳せらる義に天賞堂代表取締役たりしも現時之を辭し閑地にあり長女静子(明三一、一〇生、東京女學館出身)は東京府人信原義夫に二女梅子(同三六、一生、東京府人南莞爾長男醇一に三女長子(同四一、六生、出身校同上)は東京府人鈴木博長男鶴太郎に四女久子(同四三、一二生、實踐女學校出身)は同府人坂本亮四郎に嫁し叔父富吉(文久三、四生)は分家せり(東京市芝區高輪南町五三**電高輪三四四**)

参照＝江澤謙二郎、南莞爾、吉田甚左衛門※酒井卓造の項

江澤謙二郎

日本メタリコン工業所㊞社長
千葉縣在籍

父　富　吉　文久三、四生、現戸主
妻　清　清　明三七、一生、和歌山、木澤和姉
男　洋　一　大八、八生
女　孝　子　大六、一生

君は千葉縣人江澤富吉の二男同金五郎の從弟にして明治廿四年五月を以て生る大正四年東京高等商業學校を卒業し現時前記會社の社長たり家族は尚二女謙子(大九、一二生)三女泰子(同一一、一〇生)四女敬子(昭二、一〇生)五女和子(同三、一一生)二男建之助(同四、一〇生)あり(東京市赤坂區新坂町六四**電青山五七七九**)

参照＝江澤金五郎※南莞爾の項

江島伊兵衛

わんや書店㊞社長、松下檢料㊞代表取締役、江川堂印刷㊞監査役
東京府在籍

妻　八重子　明三八、七生、東京、實生嘉内五女
男　尤　一　昭二、一生

君は東京府人先代伊兵衛の長男にして明治二十八年四月十日を以て生れ同三十二年家督を相續し前名欽次郎を改め襲名す大正六年東京高等商業學校を卒業し出版業を營みわんや書店社長たる外前記各會社の重役たり家族は尚長女靖子(昭三、五生)二女孜子(同六、三生)あり姉フミ(明二〇、五生)は東京府士族村山欽治に嫁せりA二一三(東京市品川區大井鹿島町二九四三**電大森六三八**)

参照＝村山欽治の項

江島信次郎

千代田火災保險㊞京都支店次長
京都府在籍

妻　タ　シ　明一七、四生、島根、川上求馬長女
庶子　賢　大一四、六生、生母、福井、山崎ことはる
女　輝　大五、六生

君は京都府人江島六兵衛の二男にして明治十九年二月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す夙に法政大學を卒業し大正三年千代田火災保險會社京都支店に入り累進して現時同社京都支店次長たり家族は尚庶子慶(大一一、一二生、生母、福井、山崎ことはる)同潤(昭二、九生、生母同上)同廣(同四、一〇生、生母同上)ありA一一三(京都市左京區吉田上小路一)

江尻博孝

福島縣多額納稅者、磐東銀行㊞頭取、磐城電化㊞取締役、農業及金融業、福島縣在籍
慶應二、三生、福島、士、屋野正治長女

養母　ヨ　ウ
妻　いし　明一八、二生、茨城、蛭田新次郎長女

男　解　明四二、一二生
女　マ　サ　大三、五生
男　翠　明四五、三生
女　鶴　子　大八、一生

君は福島縣人江尻庄治郎の六男にして明治五年十一月を以て生れ先代富五郎の養子となり大正五年家督を相續し前名孝太郎を改む金融並農業を業とし傍ら現時前記銀行會社の重役に擧げられ福島縣多額納稅者にして直接國稅二千四百十三圓を納む家族は尚三男昇賢(大一〇、四生)四男義彦(同一三、一生、福島、三戸良治弟)は其二子を伴ひ分家し二女ヒサ(同三八、二生)は福島縣人諸橋久太郎三男元三郎に三女タケ(同三九、一〇生)は同縣人佐藤圭に嫁せり(福島縣石城郡泉村)

江角興義

島根縣多額納稅者、松江銀行㊞取締役、雲電證券、雲電電氣各㊞取締役、農業、島根縣在籍

養父千代次郎　元治元、一一生
妻　シ　ズ　明三〇、一二生、養父千代次郎長女
男　昇　明四三、四生
女　一　枝　明四五、六生
男　稔　大三、二生

君は島根縣人山田鐵藏の三男にして同美治の弟江角常太郎の養嗣なり明治二十一年五月を以て生れ先代千代次郎の養子となり大正十五年家督を相續す先是明治四十三年早稻田大學商科を卒業し農業を營み傍ら現時前記銀行會社の重役に擧げられ縣下の多額納稅者に列し直接國稅三千二百五十圓を納む家族は尚三男皓(大七、一一生)四女茂子(同一〇、一生)四男馨(同一二、二生)五男穣(同一四、九生)あり長女八千代(明四一、五生)は京都府人平野吉左衛門養子賢藏に嫁せり(島根縣簸川郡出東村**電平田一二五**)

参照＝江角千代次郎、江角常太郎、平野吉左衛門の項

江角金五郎

正五位勲五等、地方農林技師、兵庫縣農事試驗場長、島根縣在籍

妻　棟　明三二、三生、島根、内藤英八長女
男　新一郎　昭二、九生

君は島根縣人安達唯市の五男にして明治二十一年十月を以て生れ先代藤兵衛の養子となり同四十四年家督を相續す大正二年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し岩手長崎各縣農事試驗場長を經て大正十四年富山縣農事試驗場長に轉じ次で新潟縣農務課長福岡縣技師を歴任し昭和四年朝鮮總督府農事試驗場技師に任ぜられ現時兵庫縣農事試驗場技師に任ぜられ同縣農事試驗場長たり家族は尚長男穂(大九、三生)二女明子(同三、一生)三男金次郎(昭五、八生)あり(明石市太寺一ノ三三六**九電六六四**)

江角泰助

島根縣多額納稅者、松江銀行㊞取締役、農業、島根縣在籍

慶應二、七生、島根、福井本三郎叔母

養母　ス　エ　美
妻　正　朝　明一四、九生、島根、田都長右衛門義妹
男　武　朝　明三六、二生
婦　壽　子　明三七、一生、和歌山、木澤和姉
男　忠　朝　明三八、六生
男　良　朝　明四〇、三生
女　寛　子　明四二、二生
女　敏　子　明四三、八生
大二、二生

君は島根縣人江角常市の二男にして明治七年十月を以て生れ先代柳四郎の養子となり同三十九年家督を相續し傍ら前記銀行の重役に擧げられ縣下の多額納稅者にして直接國稅三千百五十圓を納む家族は尚六男壽朝(大七、三生)七男貞朝(同九、一〇生)八男壽朝(同一一、一〇生)四生)孫香子(昭二、一〇生、二男正朝長女(同妙幸子(同四、三生、同二女)あり長男泰朝(明三三、一一生)は分家せり(島根縣簸川郡久木村)

参照＝赫原武太郎、田都長右衛門の項

江角千代次郎

勲四等、農業
島根縣在籍

妻　セ　イ　明三、四生、島根、佐藤吉太郎姪
養子　興　義　明二一、五生、現戸主

君は島根縣人江角權藏の長男にして明治二十二年二月を以て生れ後家督を相續し大正十五年退隱す農を業とし傍ら前記會社の重役たり家族は尚長男穂(大一三、一生)あり

君は島根縣人江角常太郎の養嗣にして直接國稅三千七百十圓を納む家族は尚二男義雄(大一、一生)あり

参照＝赫原武太郎、田都長右衛門の項

江角常太郎

關西電氣化學㊞取締役、農業
島根縣在籍

安政六、八生、父權藏長女
明一五、一生、島根、矢野爲左衛門六女
妻　ツ　カ　大一二、一生
男　一　雄　大三、九生、生母、島根、古志益子
庶子　光　孝　大三、一生

君は島根縣人江角權藏の三男にして同千代次郎の弟同興義の養叔父なり明治三年三月を以て生れ實姉カメ亡夫仙七の養子となり同四十三年家督を相續す農を業とし傍ら關西電氣化學會社取締役たり義に出雲電氣靜同軌道木炭製紙會社等の重役を兼ね島根縣多額納稅者に列す(島根縣簸川郡出東村)

参照＝江角興義、江角千代次郎※平野吉左衛門の項

江副孫右衛門

日本碍子㊞が務取締役、伊奈製陶㊞監査役、愛知縣在籍

母　レ　イ　萬延元、五生、佐賀、山本源四郎姉
妻　た　き　明二三、九生、岐阜、三輪かつ二女
男　石　男　大三、三生
女　節　子　明四五、三生
女　枝　芳　大五、一生

君は佐賀縣人江副八藏の長男にして明治十八年二月を以て生れ大正十五年家督を相續す先是明治四十二年東京高等工業學校窯業科を卒業し歐米の事業を視察すること前後三回に亘り現時前記會社の重役たり家族は尚三女みゑ子(大一三、一生)ありA一〇一五(名古屋市南區竹田町三ノ一**電南二二三六**)

江田忠吉

大日本自轉車㊞㈱工場長、栃木縣在籍

妻　男　啓　一　大一三、一〇生
女　和　子　大八、一生

君は栃木縣人江田啓藏の長男にして明治二十二年二月を以て生れ同三十七年家督を相續す同四十一年大倉高等商業學校を卒業し現時前記會社の社長たり家族は尚二女謙子(大一一、一二生)三女泰子(同一一、一〇生)四女敬子(昭二、一〇生)五女和子(同三、一一生)二男建之助(同四、一〇生)あり(東京市赤坂區新坂町六四**電青山五七七九**)

参照＝江澤金五郎※南莞爾の項

江澤金五郎

前天賞堂代表取締役、東京府在籍

妻　久　明一四、一〇生、千葉、吉田甚左衛門妹
男　清太郎　明三八、六生、慶大經濟學部出身
婦　ゆう子　明四〇、八生、二男清太郎妻、東京、佐伯安四女
公　平　明四五、一生
女　道　子　大二、五生

當家は上總國大多喜町の舊家にして初代半右衛門呉服太物商を營み後内外書籍雜貨商に轉じ先代金五郎に至る金五郎は夙に和漢の學を修め大志を懷きて東都に出で時計貴金屬類の製造販賣業を營み他に卒先して海外貿易を開始し遂に今日の基をなせり君は其長男同謙二郎の從兄にして明治九年六月八日を以て生れ同二十九年家督を相續し前名增次郎を改め襲名す同二十七年慶應義塾を卒業し直に米國に渡り紐育大學卒業後同校々長の推薦にてスタンダード時計會社に入り重用せらる尋で歐洲大陸を見學し歸朝後父の遺業を繼ぎ時計寶玉美術工藝品蓄音器等の輸出入並に時計同附屬美術應用品の製造販賣に從事し歐米支那各地に支店又は出張所を設け慶々海外に就して彼國の實況を視察研究する等鋭意事業の振興を計り天賞堂の盛名洽く喧傳せらる義に天賞堂代表取締役たりしも現時之を辭し閑地にあり長女静子(明三一、一〇生、東京女學館出身)は東京府人信原義夫に二女梅子(同三六、一生、東京府人南莞爾長男醇一に三女長子(同四一、六生、出身校同上)は東京府人鈴木博長男鶴太郎に四女久子(同四三、一二生、實踐女學校出身)は同府人坂本亮四郎に嫁し叔父富吉(文久三、四生)は分家せり(東京市芝區高輪南町五三**電高輪三四四**)

参照＝江澤謙二郎、南莞爾、吉田甚左衛門※酒井卓造の項

江澤謙二郎

日本メタリコン工業所㊞社長
千葉縣在籍

父　富　吉　文久三、四生、現戸主
妻　清　清　明三七、一生、和歌山、木澤和姉
男　洋　一　大八、八生
女　孝　子　大六、一生

君は千葉縣人江澤富吉の二男同金五郎の從弟にして明治廿四年五月を以て生る大正四年東京高等商業學校を卒業し現時前記會社の社長たり家族は尚二女謙子(大九、一二生)三女泰子(同一一、一〇生)四女敬子(同一一、一〇生)五女和子(同三、一一生)二男建之助(同四、一〇生)あり(東京市赤坂區新坂町六四**電青山五七七九**)

参照＝江澤金五郎※南莞爾の項

江島伊兵衛

わんや書店㊞社長、松下檢料㊞代表取締役、江川堂印刷㊞監査役
東京府在籍

妻　八重子　明三八、七生、東京、實生嘉内五女
男　尤　一　昭二、一生

君は東京府人先代伊兵衛の長男にして明治二十八年四月十日を以て生れ同三十二年家督を相續し前名欽次郎を改め襲名す大正六年東京高等商業學校を卒業し出版業を營みわんや書店社長たる外前記各會社の重役たり家族は尚長女靖子(昭三、五生)二女孜子(同六、三生)あり姉フミ(明二〇、五生)は東京府士族村山欽治に嫁せりA二一三(東京市品川區大井鹿島町二九四三**電大森六三八**)

参照＝村山欽治の項

江島信次郎

千代田火災保險㊞京都支店次長
京都府在籍

妻　タ　シ　明一七、四生、島根、川上求馬長女
庶子　賢　大一四、六生、生母、福井、山崎ことはる
女　輝　大五、六生

君は京都府人江島六兵衛の二男にして明治十九年二月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す夙に法政大學を卒業し大正三年千代田火災保險會社京都支店に入り累進して現時同社京都支店次長たり家族は尚庶子慶(大一一、一二生、生母、福井、山崎ことはる)同潤(昭二、九生、生母同上)同廣(同四、一〇生、生母同上)ありA一一三(京都市左京區吉田上小路一)

江尻博孝

福島縣多額納稅者、磐東銀行㊞頭取、磐城電化㊞取締役、農業及金融業、福島縣在籍

養母　ヨ　ウ　慶應二、三生、福島、士、屋野正治長女
妻　いし　明一八、二生、茨城、蛭田新次郎長女

等商業學校を卒業し大日本自轉車會社に入り現時同社常務取締役兼第二工場長たり家族は尙二女榮子(大一〇、六生)ありA一八八(東京市牛込區余丁町八五電四谷一二五一)

江塚甫　醫學博士、醫師　靜岡縣在籍

妻　アサ　明一七、一一生、東京、櫛口彝義四女

男　保　明三八、一一生、住友電線製造所研究部勤務、工學士

男　健　明四〇、三生、文學士

男　廉　明四三、三生、北海曹達會社伏木工場勤務、理學士

女　正子　大元、九生、京都府立第一高女高等科出身

女　信子　大三、一〇生、京都府立第一高女高等科出身

君は靜岡縣人江塚省三の長男にして明治六年十二月を以て生れ同二十六年家督を相續す同三十一年第一高等學校醫學部を卒業し內務省衛生局に勤務次で東京帝國大學醫學部三浦內科教室に於て實地研究す後靜岡縣立御殿場病院長同縣公立伊豆病院長を經て明治三十七年臺灣基隆堡藤田組瑞芳鑛山病院長に轉じ同四十年大阪藤田男爵邸顧問醫となる大正五年より九年の間京都帝國大學醫學部藥物學教室に於て一般藥物學を研究し同九年論文を提出して醫學博士の學位を受く同十三年以來一般內科診療に從事して名あり(京都市中京區御池通堺町西入電本局五六一四)

江藤榮吉郎　尙美堂、江藤各㊞社長、時計寶飾品製造及萬古ペンシル製造販賣業　大阪府在籍

母　シメ　喜永四、一生、大阪、備江武兵衛長女

妻　ぬい　明一四、一二生、兵庫、石田庄三郎長女

男　順藏　明三三、九生

男　悅三　大元、一〇生

君は大阪府人江藤清助の二男にして明治十年一月七日を以て生れ同二十六年家督を相續す時計貴金屬寶飾製造及萬古ペンシル製造販賣業を營み現時尙美堂江藤各株式會社を長たり家族は尙五男顯三(大五、三生、三生)六男善七郎(同七、三生)三女萩子(同一二、一一生)あり二男喜二郎(同三七、二生、神戶高商出身)三男和夫(同四〇、九生、京大法學部出身)は各分家し弟嘉吉(同一四、八生)は同妻あい(同一九、一生、兵庫、石田庄三郎二女)及其子女と共に弟治吉(同一九、一〇生)は同妻ハナ(同二〇、五生、兵庫、首藤政藏長女)及其子女と共に各分家し長女靜(同四三、一二生)は大阪府人河原利兵衛長男利次に嫁せりA一〇一九(大阪市東區大川町一九電話本局四七八八)

參照‖江藤順藏の項

江藤喜三郎　東京中野銀行㊞監査役、阿波屋、呉服商、東京府在籍

妻　くら　明三一、九生、東京、清水權藏長女

養子　龍太郎　明四一、一生、東京、鈴木喜太郎二男

女　まさ　明四一、二生、三輪田高女出身

君は東京府人先代喜三郎の長男にして明治十年八月一日を以て生れ同三十七年家督を相續し前名春吉を改め襲名す阿波屋と稱し呉服商を營み傍ら前記銀行の重役たり家族は尙孫喜久子(大一二、二生、養子龍太郎長女)あり二女みつ(明三九、三生、三輪田高女出身)は分家し伯母イク(安政六、四生)は其養子と共に姉亭津(明五、五生、養兄喜太郎妻)も亦其子女を伴ひ各分家せりA二四三〇B二九〇(東京市中野區本町通四ノ三一電四谷六〇三)

江藤源九郎　從四位勳三等功四級、陸軍少將、業議院議員(奈良縣選出)　奈良縣在籍

君は奈良縣人にして明治十二年二月を以て生る陸軍士官學校を卒業し歩兵少尉より同少將に陞り豫備役に編入せらる其間歩兵第三十八聯隊附同大隊副官士官學校區隊長中隊長第五十三第三十八各聯隊長第十師團軍法會議判士參謀本部出仕同副官關東都督府副官新發田聯隊區司令官第十六師團司令部附等に歷補し日露戰役に從軍す昭和七年郷黨より推されて衆議院議員に當選し立憲政友會に屬し同九年二月政友會を脫黨し無所屬となる現時奈良縣禁酒聯盟理事長小作調停委員奈良縣擬兵職友會長を兼務す曾て滿洲支那馬來半島ジヤバボルネオ各地を視察し蘭に南洋視察に關する御前講演を奉仕す(奈良市法蓮町一一九九)

江藤繁雄　熊本縣多額納稅者、九州新聞社㊞監査役、農業、熊本縣士族　安政三、三生

父　茂　明二七、六生、熊本、光永貞三六女

妻　シツヲ　明四四、一〇生

男　武彥　大三、八生

男　邦彥

君は熊本縣士族江藤茂の長男にして明治十四年八月を以て生れ大正十五年家督を相續す先是明治四十二年京都帝國大學法科大學經濟學科を卒業し農を業とし傍ら九州新聞社監査役に就任し縣下の多額納稅者にして直接國稅三千三百六十九圓を納む家族は尙三男信彥(大六、七生)四男義彥(同一〇、一生)長女美惠(同一三、三生)二女昭子(昭二、九生)あり(熊本縣菊池郡陣內村)

江藤順藏　尙美堂㊞監査役、大阪府在籍

父　榮吉郎　明一〇、一生、現戶主

妻　幹枝　明三六、六生、京都、人見鹿太郎三女、日本女大出身

男　基雄　昭二、五生

君は大阪市豪商江藤榮吉郎の長男にして明治三十三年九月六日を以て生る大正十二年神戶高等商業學校を卒業し直ちに父の營業に從事し尙美堂並に江藤各株式會社の重役に就任し父日に至る家族は尙長女恭子(昭四、七生)二女賴子(同七、一生)三女忠子(同八、一〇生)ありA四六二(大阪市東區大川町一九電本局一二三六)

參照‖江藤榮吉郎、人見鹿太郎の項

江藤甚三郎　弘報堂、第一ビルディング各㊞社長、東京護謨工業、東京煉瓦各㊞取締役、九州水力電氣、博多電氣軌道、九州電氣工業、筑後電氣、東京府在籍

妻　テル　明一二、六生、東京、富田卓爾長女

男　榮藏　明三五、五生、弘報堂、第一ビルディング各㊞取締役、三井生命保險會社員、慶大出身

男　直輔

婦　博　明四三、八生、二男直輔妻、東京大河原榮之助長女、雙葉高女出身

男　直三　明三六、五生、弘報堂、第一ビルディング各㊞取締役、慶大出身

婦　文美榮　明四三、一生、三男直三妻、福岡常家の組江藤外記は藤原氏に出で大友氏に仕へて功あり後耶馬溪に移り爾來十數世土地の豪族たり君は先代直純の三男にして慶應元年六月二日を以て生る夙に實業に從事し諸種の業に携りしが後上京して廣告取次業を開始し弘報堂と稱す大正九年之を擴張して株式組織となし現時同會社長として經營に任じ其他前記會社の重役に擧げられ東京商工會議所議員特選者にして日本新聞協會理事日本工業倶樂部日本貿易協會生活改善同盟會等の評議員其他教育會學校保護者會理事等公共團體の役員に推擧せらる義に畏米諸國の實業界を視察す家族は尙甚一郎(昭五、九生、二男直輔長男)同喜久代(同七、五生、同長女)同直筵(同九、二生、同二男)あり長男直重(明三三、六生)は同妻とら(同三七、七生、大分、久持房男姉)と共に分家し妹タカ(慶應三、一二生)は大分縣人久持勝之助に嫁せりA三七八四(東京市京橋區銀座西五ノ三ノ一六電銀座二〇八三)

參照‖大河原榮之助※大河原源五郎の項

江藤惣六　從五位勳五等、典獄、札幌刑務所長、福岡縣在籍

妻　ハツ　明二一、五生、福岡、菊池元俊四女

男　總臣　大六、四生

君は福岡縣人江藤惣平の三男にして明治二十年八月を以て生れ昭和四年兄長太郎方より分れて一家を創立す大正四年日本大學法科を卒業し司法官となり判事より典獄に轉じ大分福岡長崎各刑務所長に歷補し昭和八年現職に轉ず家族は尙二男成總(大一〇、七生)三男吉總(同一四、二生)四男光總(昭二、一〇生)五男守總(同五、二生)あり(北海道札幌郡札幌村札幌刑務所內)

江藤得三　三井信託㊞代表取締役兼總務部長、三井銀行、三信建物各㊞取締役　靜岡縣在籍

妻　良　明二七、三生、千葉、鹿野吾一郎長女

男　秀夫　大一四、四生

男　百合子　明四二、六生、聖心女子學院出身

女　京子　大元、七生、聖心女子學院出身

君は靜岡縣人江藤舒三郎の三男にして明治十一年一月を以て生れ同二十六年家督を相續す同三十一年第一高等學校醫學部を卒業し內務省衛生局に勤務次で東京帝國大學醫學部三浦內科教室に於て實地研究す後靜岡縣立御殿場病院長同縣公立伊豆病院長を經て明治三十七年臺灣基隆堡藤田組瑞芳鑛山病院長に轉じ同四十年大阪藤田男爵邸顧問醫となる大正五年より九年の間京都帝國大學醫學部藥物學教室に於て一般藥物學を研究し同九年論文を提出して醫學博士の學位を受く同十三年以來一般內科診療に從事して名あり(京都市中京區御池通堺町西入電本局五六一四)

江藤榮吉郎　尙美堂、江藤各㊞社長、時計寶飾品製造及萬古ペンシル製造販賣業　大阪府在籍

母　シメ　喜永四、一生、大阪、備江武兵衛長女

妻　ぬい　明一四、一二生、兵庫、石田庄三郎長女

男　順藏　明三三、九生

男　悅三　大元、一〇生

君は大阪府人江藤清助の二男にして明治十年一月七日を以て生れ同二十六年家督を相續す時計貴金屬寶飾製造及萬古ペンシル製造販賣業を營み現時尙美堂江藤各株式會社を長たり家族は尙五男顯三(大五、三生、三生)六男善七郎(同七、三生)三女萩子(同一二、一一生)あり二男喜二郎(同三七、二生、神戶高商出身)三男和夫(同四〇、九生、京大法學部出身)は各分家し弟嘉吉(同一四、八生)は同妻あい(同一九、一生、兵庫、石田庄三郎二女)及其子女と共に弟治吉(同一九、一〇生)は同妻ハナ(同二〇、五生、兵庫、首藤政藏長女)及其子女と共に各分家し長女靜(同四三、一二生)は大阪府人河原利兵衛長男利次に嫁せりA一〇一九(大阪市東區大川町一九電話本局四七八八)

參照‖江藤順藏の項

江藤喜三郎　東京中野銀行㊞監査役、阿波屋、呉服商、東京府在籍

妻　くら　明三一、九生、東京、清水權藏長女

養子　龍太郎　明四一、一生、東京、鈴木喜太郎二男

女　まさ　明四一、二生、三輪田高女出身

君は東京府人先代喜三郎の長男にして明治十年八月一日を以て生れ同三十七年家督を相續し前名春吉を改め襲名す阿波屋と稱し呉服商を營み傍ら前記銀行の重役たり家族は尙孫喜久子(大一二、二生、養子龍太郎長女)あり二女みつ(明三九、三生、三輪田高女出身)は分家し伯母イク(安政六、四生)は其養子と共に姉亭津(明五、五生、養兄喜太郎妻)も亦其子女を伴ひ各分家せりA二四三〇B二九〇(東京市中野區本町通四ノ三一電四谷六〇三)

江藤源九郎　從四位勳三等功四級、陸軍少將、業議院議員(奈良縣選出)　奈良縣在籍

君は奈良縣人にして明治十二年二月を以て生る陸軍士官學校を卒業し歩兵少尉より同少將に陞り豫備役に編入せらる其間歩兵第三十八聯隊附同大隊副官士官學校區隊長中隊長第五十三第三十八各聯隊長第十師團軍法會議判士參謀本部出仕同副官關東都督府副官新發田聯隊區司令官第十六師團司令部附等に歷補し日露戰役に從軍す昭和七年郷黨より推されて衆議院議員に當選し立憲政友會に屬し同九年二月政友會を脫黨し無所屬となる現時奈良縣禁酒聯盟理事長小作調停委員奈良縣擬兵職友會長を兼務す曾て滿洲支那馬來半島ジヤバボルネオ各地を視察し蘭に南洋視察に關する御前講演を奉仕す(奈良市法蓮町一一九九)

江藤繁雄　熊本縣多額納稅者、九州新聞社㊞監査役、農業、熊本縣士族　安政三、三生

父　茂　明二七、六生、熊本、光永貞三六女

妻　シツヲ　明四四、一〇生

男　武彥　大三、八生

男　邦彥

君は熊本縣士族江藤茂の長男にして明治十四年八月を以て生れ大正十五年家督を相續す先是明治四十二年京都帝國大學法科大學經濟學科を卒業し農を業とし傍ら九州新聞社監査役に就任し縣下の多額納稅者にして直接國稅三千三百六十九圓を納む家族は尙三男信彥(大六、七生)四男義彥(同一〇、一生)長女美惠(同一三、三生)二女昭子(昭二、九生)あり(熊本縣菊池郡陣內村)

江藤順藏　尙美堂㊞監査役、大阪府在籍

父　榮吉郎　明一〇、一生、現戶主

妻　幹枝　明三六、六生、京都、人見鹿太郎三女、日本女大出身

男　基雄　昭二、五生

君は大阪市豪商江藤榮吉郎の長男にして明治三十三年九月六日を以て生る大正十二年神戶高等商業學校を卒業し直ちに父の營業に從事し尙美堂並に江藤各株式會社の重役に就任し父日に至る家族は尙長女恭子(昭四、七生)二女賴子(同七、一生)三女忠子(同八、一〇生)ありA四六二(大阪市東區大川町一九電本局一二三六)

參照‖江藤榮吉郎、人見鹿太郎の項

江藤甚三郎　弘報堂、第一ビルディング各㊞社長、東京護謨工業、東京煉瓦各㊞取締役、九州水力電氣、博多電氣軌道、九州電氣工業、筑後電氣、東京府在籍

妻　テル　明一二、六生、東京、富田卓爾長女

男　榮藏　明三五、五生、弘報堂、第一ビルディング各㊞取締役、三井生命保險會社員、慶大出身

男　直輔

婦　博　明四三、八生、二男直輔妻、東京大河原榮之助長女、雙葉高女出身

男　直三　明三六、五生、弘報堂、第一ビルディング各㊞取締役、慶大出身

婦　文美榮　明四三、一生、三男直三妻、福岡常家の組江藤外記は藤原氏に出で大友氏に仕へて功あり後耶馬溪に移り爾來十數世土地の豪族たり君は先代直純の三男にして文久元年六月二日を以て生る夙に實業に從事し諸種の業に携りしが後上京して廣告取次業を開始し弘報堂と稱す大正九年之を擴張して株式組織となし現時同會社長として經營に任じ其他前記會社の重役に擧げられ東京商工會議所議員特選者にして日本新聞協會理事日本工業倶樂部日本貿易協會生活改善同盟會等の評議員其他教育會學校保護者會理事等公共團體の役員に推擧せらる義に畏米諸國の實業界を視察す家族は尙甚一郎(昭五、九生、二男直輔長男)同喜久代(同七、五生、同長女)同直筵(同九、二生、同二男)あり長男直重(明三三、六生)は同妻とら(同三七、七生、大分、久持房男姉)と共に分家し妹タカ(慶應三、一二生)は大分縣人久持勝之助に嫁せりA三七八四(東京市京橋區銀座西五ノ三ノ一六電銀座二〇八三)

參照‖大河原榮之助※大河原源五郎の項

江藤得三　三井信託㊞代表取締役兼總務部長、三井銀行、三信建物各㊞取締役　靜岡縣在籍

妻　良　明二七、三生、千葉、鹿野吾一郎長女

男　秀夫　大一四、四生

男　百合子　明四二、六生、聖心女子學院出身

女　京子　大元、七生、聖心女子學院出身

君は靜岡縣人江藤舒三郎の三男にして明治十一年一月を以て生れ大正十三年家督を相續す同二十六年第一高等學校醫學部を卒業し內務省衛生局に勤務次で東京帝國大學醫學部三浦內科教室に於て實地研究す後靜岡縣立御殿場病院長同縣公立伊豆病院長を經て明治三十七年臺灣基隆堡藤田組瑞芳鑛山病院長に轉じ同四十年大阪藤田男爵邸顧問醫となる大正五年より九年の間京都帝國大學醫學部藥物學教室に於て一般藥物學を研究し同九年論文を提出して醫學博士の學位を受く同十三年以來一般內科診療に從事して名あり(京都市中京區御池通堺町西入電本局五六一四)

江藤豐二　中日實業㊞取締役　鹿兒島縣在籍

妻　とよ　明二三、一生、故藥學博士高松秀松五女

君は鹿兒島縣人江藤治兵衛の長男にして明治十五年一月を以て生れ大正十三年家督を相續す同二十正十三年家督を相續す夙に東京立教學院を出で曾て三井物產會社員たりしが現時中日實業會社取締役たり義に中華民國より二等大綬嘉禾章を授けらる弟篤志(明三〇、八生)同利八(同三四、五生)は各分家せり(東京市品川區五反田六ノ一九一電高輪四〇三五)

參照‖※田中謙の項

江藤增實　熊本縣多額納稅者、地主　熊本縣士族

妻　シモ　明一九、七生、奈良、出羽魯吉長女

男　逸司　明三一、七生

男　靜　明三二、一生、二男逸司妻、熊本松尾實章二女

男　舜次　明三四、九生

男　久實　明三五、九生

女　ヌイ　明四五、一生

君は熊本縣士族江藤虎記の長男にして元治元年十月を以て生れ明治三十四年弟久喜の後を承け家督を相續す地主にして熊本縣多額納稅者に列し直接國稅千二百二十三圓を納む家族は尙孫晃(大一〇、八生、二男逸司)同三藏(同五、四生、同三男)あり(熊本縣熊本郡妙體寺町)

江藤林太郎　沼津銀行㊞取締役　靜岡縣在籍

壽　明一〇、八生、靜岡、士、羽山益吉妹

男　欣三　大六、一二生

女　きみ子　明四二、二生、東京家政學院出身

女　たへ　明四五、三生、東京家政學院出身

女　さき子　大四、四生

君は靜岡縣人江藤舒三郎の長男にして同得三の兄なり明治元年四月を以て生れ同三十七年家督を相續す同二十三年慶應義塾を卒業し現時沼津銀行取締役たり家族は尙四男修(大九、一生)及叔父龜吉郎(安政六、五生)あり長女みわ(明三五、一一生)は東京府人森泰治に二女しづ(同三九、三生)は山梨縣人秋山鐵雄に妹とし(同一八、六生)は福岡縣士族柿內常次郎に同さだ(同二〇、五生)は東京府士族宇木幸吉に嫁し長男俊吉(同二七、一一生)は分家し弟庸藏(同一五、一二生)も亦同妻ふみ(同二七、四生、東京、山田巽二女)を伴ひ分家せり(靜岡縣駿東郡金岡村)

參照‖宇木幸吉、江藤得三の項

江夏岩吉　宮崎縣多額納稅者、米穀荒物醬油商、宮崎縣在籍

妻　ヨシ　明一九、一〇生、宮崎、三輪次郎姉

男　榮藏　明三八、八生

婦　フミ　明三六、七生、二男榮藏妻、宮崎黑岩常平二女

男　精一　明三一、四生

婦　フミ　明三一、一〇生、三男精一妻、弟吉助長女

男　精藏　明三四、九生

男　榮　明四一、一生、四男精藏妻、鹿兒島、中村善兵衛養子

婦　榮二　明三六、一〇生、東京商大出身

男　登美子　明四五、五生、五男榮二妻、宮崎杉田與平二女

婦　績二　明三七、一二生

女　ミツ　明三九、八生

君は宮崎縣人江夏計佐吉の長男にして同芳太郎同吉助同喜兵衛の兄なり明治四年三月を以て生れ同二十七年家督を相續す米穀荒物醬油商を營み縣下の多額納稅者にして直接國稅二千二百七十圓を納む義に都城銀行都城電氣球磨川電氣各會社の取締役たりし事あり家族は尙孫弘(大一一、九生、二男榮藏長男)同正(同一四、三生、同二男)同悅子(昭二、三生、同長女)同英三郎

(同四、一〇生、同三男)同隆(大一三、七生、三男精一長男)同敏郎(同一五、一二生、同二男)同浩一(昭三、一一生、四男精藏長男)同美彌子(同五、四生、五男繁二長女)あり三女ヒサ(明四〇、一二生)は宮崎縣人菊池松七四女ミヨ(同四二、六生)は同縣人早川繁夫に妹ハカエ(同一七、四生)は同縣人諫田吉郎に嫁し八男修一(同四五、五生)は弟喜兵衛の養子となり其當主たり(都城市西町電局二一)

参照‖江夏吉助、江夏修一、江夏芳太郎、黒岩常平

※瀬戸山德藏※持永善市の項

江夏吉助

宮崎縣多額納稅者、米穀商

宮崎縣在籍

妻　マツエ　明一七、七生、宮崎、早川綱一妹

男　順吉　大四、一一生

女　明三八、一一生

女　數子　明四〇、三生

女　マサ子　大元、一一生

女　登記子　大八、一生

君は宮崎縣人江夏計佐吉の四男にして現戸主岩吉及江夏芳太郎の弟同修一の叔父に當り明治九年二月を以て生る米穀商を營み縣下の多額納稅者にして接國稅三千六百二十七圓を納む嚢に北諸縣郡是製絲會社長たり家産は尙三男豐壽(大一〇、二生)あり長女ツミ(明三五、一〇生)は兄岩吉三男精一に嫁せり(宮崎縣北諸縣郡沖水村)

参照‖江夏岩吉、江夏修一、江夏芳太郎の項

江夏修一

江夏系代表社員、砂糖醬油荒物商

宮崎縣在籍

養母　キイ　明二〇、七生、宮崎、外山忠一姉

甥なり明治四十五年五月二十五日を以て生れ後叔父喜兵衛の養子となる砂糖醬油荒物商を營み現に江夏合名會社代表社員たり養父喜兵衛に宮崎縣多額納稅者に列し日南製氷宮崎林業森永製品九州興業各會社取締役たりしことあり家族は尙養妹富ヨ子(大一四、三生、宮崎、森金七三女)あり(宮崎市橋通一丁目電二四二局四五二)

参照‖江夏岩吉、江夏吉助、江夏芳太郎の項

江夏芳太郎

宮崎縣會議員、都城商工會議所會頭、宮崎縣多額納稅者、砂糖醬參粉商

宮崎縣在籍

妻　サカエ　明一四、五生、宮崎、外山忠一姉

男　眞二　明三五、一〇生、東京商大出身

婦　ヤス　明四一、七生、二男眞二妻、宮崎菊池忠之助三女

君は宮崎縣人江夏計佐吉の三男にして現戸主岩吉の弟江夏吉助の兄同修一の叔父に當り明治七年七月を以て生る砂糖麥粉商を營み宮崎縣多額納稅者にして直接國稅千六百十五圓を納め推されて宮崎縣會議員都城商工會議所會頭たり家族は尙孫由布子(昭三、三生、二男眞二長女)同昇(同四、五生、同長男)あり(都城市上町電二二一四〇)

参照‖江夏岩吉、江夏修一、江夏吉助の項

江波利三郎

日比谷商店(株)常務取締役、日比谷銀行(株)監査役、東京府在籍

父　榮次郎　文久元、一生、現戸主

母　ミツ　萬延元、四生、東京、小林春吉四女

妻　松枝　明二二、九生、東京、井關美清孫

太郎　明四四、七生

男　正二郎　大二、一二生

君は東京府人江波榮次郎の長男にして明治十六年三月を以て生る同三十七年慶應義塾大學理財科を卒業し現時日比谷商店常務取締役にして傍ら前記銀行の重役たり家族は尙三男洋三郎(大一〇、九生)長女慶子(同一三、一生、東京、關口千代香母)あり弟善三郎(明一八、三生)同妻シメ(同二〇、七生、東京、長男亮助一生)は共に分家し妹鳥子(同二九、一一生)は東京府士族山口貴雄長男一に嫁せりA一三六六(東京市牛込區市谷河田町一九電牛込五七六)

江波戸常吉

明石屋運送店、運送業

東京府在籍

妻　かね　明七、九生、養父作右衛門長女

男　亨　明三八、一二生

女　キク　明四一、一〇生

女　千代　明四三、一一生

君は千葉縣人江波戸榮助の男にして明治六年三月六日を以て生れ同作右衛門の養子となり同四十三年分れて一家を創立す明石屋運送店と稱し運送業を營む嚢に錦糸町運輸會社長にして小名木川合同運送會社代表取締役を兼ね二女あき(明三二、八生)は東京府人椎名延に三女こう(同三五、五生)は青森縣人石橋吉三郎に嫁せりA三三〇(東京市本所區長崎町八電本所三六八四)

江波戸盛惇

土木建築請負業

東京府在籍

母　とみ　明一六、一生、祖父定吉二女

妻　中女　明四四、九生、新潟、石川林益三

君は東京府人江波戸義之助の二男にして明治三十七年三月十二日を以て生れ昭和五年家督を相續す土木建築請負業を營み東京土木建築請負業組合第四支部理事に推さる家族は尙弟厚憲(明四一、一生、東京高等造園學校出身)妹登志子(同四四、一〇生、上野高女出身)同靜江(大三、一〇生、第一高女出身)同君代(同一〇、七生、市立第一高女在學)弟靖(同六、二生、慶大豫科在學)あり妹のぶ(明三三、一〇生)は渡邊憲隆に嫁せり(東京市淺草區向柳原町二ノ一電淺草六七四八)

江場萬次郎

醫師

愛知縣在籍

妻　さく　明二四、九生、岐阜、古屋達平叔母

男　秀雄　明四二、六生

女　てる子　大二、一生

君は愛知縣人江場秀伯の二男にして明治八年一月六日を以て生れ同三十八年家督を相續す醫師たり家族は尙二男章(大一四、二生)二女郁子(同一五、一一生)ありA八〇〇(名古屋市中區岩塚新屋敷二八電西四一九〇)

江橋修

從五位勳五等、檢事、長崎控訴院檢事、茨城縣士族

妻　朝子　明三一、一生、生駒直長女

男　英一　大一一、八生

君は茨城縣士族江橋貞雄の三男にして明治二十三年八月を以て生れ同三十三年家督を相續す大正四年文官高等試驗に合格し同五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同七年檢事に任ず爾來高松地方(兼同區大阪地方兼同區熊本地方兼同區各裁判所檢事小倉區兼福岡地方小倉支部久留米支部各裁判所檢事長崎控訴院檢事等に歷補し鹿兒島地方裁判所檢事兼鹿兒島區裁判所檢事を經て現に長崎控訴院檢事たり家族は尙二女華子(大一五、三生)二男忠敬(昭三、七生)あり(長崎市長崎控訴院內)

江橋芳雄

川崎第百銀行(株)富澤町支店長

茨城縣在籍

母　ちよ　慶應元、八生、茨城、士、鈴木藤之介二女

君は茨城縣人江橋克巳の二男にして明治二十一年一月を以て生れ大正十五年家督を相續す夙に水戸中學校を卒業し後川崎第百銀行に入り八王子支店長を經て現に同行富澤町支店長たり家族は尙長女佳子(大九、八生、九段精華高女在學)弟博(明二八、七生、川崎貯蓄銀行員)及其二子あり二女登美子(大一〇、一二生)は東京府人江橋活朗の養子となれり(東京市杉並區阿佐ヶ谷五ノ三二)

江畑彌惣吉

金融業

大阪府在籍

男　彌惣一　大四、一生

君は滋賀縣人江畑彌惣平の三男にして明治二十四年六月十三日を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す金融業を營む家族は尙長女光子(大一〇、三生)匝子彌惣雄二(同一一、八生、生母、大阪、日下よね)同彌惣雄(昭二、三生、生母同上)同彌惣輝(昭二、三生、生母同上)同彌惣昭(同五、五生、生母同上)同彌與子(同七、一生、生母同上)同榮彌(同九、二生、生母同上)同榮子(大一二、三生、生母、滋賀、江畑ちめ)同榮子(同一五、一〇生、生母同上)同彌惣治(昭三、八生、生母同上)同壽美(同五、八生、生母同上)同やち子(同七、七生、生母同上)あり八五七六(大阪市西成區南吉田町一〇一電天下茶屋二〇三三)

参照‖江畑彌惣平の項

江幡新

水戸商工會議所會頭、常磐銀行(株)頭取、川崎會庫、茨城瓦斯各(株)取締役、茨城縣在籍

妻　さた　明六、二生、茨城、士、中村壽昌長女

男　亮　明二三、一二生

婦　小英　明三一、一二生、長男亮妻、廣島、江村恒一二女

君は茨城縣士族大高引重の三男にして慶應二年十二月を以て生れ先代惣吉の養子となり明治十九年家督を相續す現に常磐銀行頭取の外前記各會社の重役にして推されて水戸商工會議所會頭たり家族は尙孫和雄(大八、二生、長男亮助)同眞知子(同一二、一〇生、同長女)同清子(同三女)あり長女清子(明三二、一一生、水戸高女出身)は茨城縣人江幡四郎に嫁せり(水戸市上市常磐町五七七一電一二五五)

江原金兵衛

松屋、醬油商

大阪府在籍

妻　ハツ　明二八、四生、大阪、奇二治良兵衛二女、一生

男　正藏　大七、一生

女　昌子　大五、四生

君は大阪府人先代金兵衛の長男にして明治二十二年二月十三日を以て生れ大正二年家督を相續す松屋と稱し醬油商を營む(三二五B一三〇(大阪市東區本町一ノ七五電本町八八八)

江原桂三郎

前橋市長

群馬縣在籍

母　とよ　明九、九生、群馬、江原俊夫伯母

妻　ツヤ　明三六、二生、埼玉、齋藤英作二女

男　桂介　大一五、九生

當家は土地の名望家にして先代桂三郎は前橋市長群馬縣會議員同議長前橋商工會議所會頭諸銀行會社の重役等に擧げらる君は其二男にして明治二十七年五月九日を以て生れ後家督を相續し前名亮次を改め襲名す大正八年東京帝國大學法學政治學科を卒業し直に三菱銀行に入り同十年東京電燈會社前橋支店に轉じ昭和三年更に轉じて群馬中央銀行に入社す爾來同銀行常務取締役群馬農工銀行取締役上毛倉庫會社監査役三山自動車會社取締役群馬內銀行常務取締役等に擧げられ前橋市農會副會長群馬縣農會議員前橋商工會議所議員同常議員等に選ばる昭和八年前橋市長に就任し現在に至る(前橋市新町電五六三)

参照‖※江原三郎の項

江原三郎

上毛倉庫(株)社長

群馬縣在籍

妻　ケイ　明二二、四生、栃木、吉澤兵左妹

男　宮太郎　大一一、七生

女　益子　大五、八生

女　貞子　大八、二生

君は群馬縣人江原芳平の三男にして同俊夫の叔父なり明治十七年一月を以て生れ同三十二年姉ひさの死跡を相續し本家江原家より分家す現時前記會社々長たり嚢に縣下の多額納稅者に列し前橋商工會議所常議員群馬縣會議員に選ばる文學美術に造詣深く又裏手家の茶道に通ず家族は尙五女房子(大九、一一生)あり(前橋市北曲輪町三八電三六)

参照‖※江原桂三郎の項

江原貞助

江原商工、江原商店各(株)代表取締役、群馬縣在籍

妻　キチ　明五、一生、群馬、江原長平長女

男　雄一　明三六、一生、法大經濟科出身

婦　公子　明四四、一生、長男雄一妻、群馬細谷哲長女

養子　南　明一九、二生、長女マサ夫、長野坂口紀之助四男、京都高工藝出身

女　マサ　明二六、一生、養子南妻

養子　三郎　明四六、二女フク夫、群馬林彥五郎三男、早大商科出身

女　フク　明二七、九生、養子三郎妻

孫　隆子　大五、一生、養子南長女

孫　俊子　大六、八生、養子南二女

君は埼玉縣人倉上福藏の長男にして明治六年七月を以て生れ先代貞藏の養子となり同三十一年家督を相續し前名由太郎を改め養父の舊名を襲名す現時前記各會社の重役たり家族は尙孫幸子(昭八、二生、長男雄一長女)同實(大一一、三生、養子南長男)あり三女かつ(明四〇、一一生)は群馬縣人稻垣繁に嫁せりA三六二〇B一二五〇(桐生市新宿通一ノ一二〇電二二〇八・三一〇八)

江部順治

下野酒造(株)常務取締役、下野醬油(株)取締役、都須商業銀行(株)監査役

栃木縣在籍

妻　アサ　明二三、八生、養父惣四郎長女、日本女大附屬高女出身

男　福太郎　明四五、二生、東大工學部在學
男　國次郎　大三、一〇生、水戸高校理科在學
君は秋田縣人高堂長右衛門の五男石川信助の弟にして明治十六年一月を以て生れ先代惣四郎の養子となり同四十四年家督を相續す同三十九年東京高等工業學校應用化學科を卒業し現時前記銀行會社の重役たり家族は尚三男敬三郎(大六、二生、浦和高校文科在學)四男貞四郎(同一〇、一生、栃木中學在學)ありA二三八(栃木縣下都賀郡小山町電三〇)

江邊清夫　從五位勳六等、三重縣書記官、警察部長、山形縣在籍
妻　しづ　明三六、四生
男　俊一　大一二、一二生
君は山形縣人にして明治二十八年十一月五日を以て生る大正九年東京帝國大學法學部英法科を卒業し直に遞信局爲替貯金局書記に任じ同年文官高等試驗に合格翌年山梨縣屬となり爾來山梨縣西山梨郡長山梨縣警視地方警視地方事務官都市計畫地方委員會事務官兼地方事務官等に歷任し富山縣書記官學務部長山形縣書記官警察部長を經て昭和七年三重縣書記官に任じ警察部長に補せらるる筆に滿洲國に出張を命ぜらる家族は尚長女正子(大一四、八生)二女美和子(昭三、七生)三女妙子(同五、三生)四女泰子(同六、八生)二男正敏(同八、一生)あり(津市縣警察部長官舍電一六〇)

江見清風　從四位勳四等、宮幣大社春日神社宮司、新潟縣士族
妻　操　明二五、四生、金澤三四郎長女
男　清　鷹　明二九、一二生、經濟學士
君は新潟縣士族金子豐雄の二男にして明治元年五月十一日を以て生れ先代田鶴雄の養子となり同四十一年家督を相續す同二十七年國學院專科を卒業後國幣中社彌彥神社宮司となり同三十三年神宮編纂に任ぜられ爾來神宮司廳土木課長同廳儀式課長を經て宮幣大社八坂神社宮司明治神宮權宮司を歷任し昭和三年官幣大社春日神社宮司に轉じ今日に及ぶ家族は尚孫敬二(昭三、一生、長男清鷹二男)あり長女トミ(明二四、一〇生)は福井縣人岡倉乘誉弟實雄に嫁せり(奈良市高畑町六二七)

江見節男　正五位勳六等、浦和高等學校教授
岡山縣在籍
養父　馬太郎　明元、一〇生、現戸主
妻　季子　明三二、二生、東京、士、海軍造機大佐山田鉦太郎三女
女　江　大六、一生
女　裕子　大八、三生
君は岡山縣人多賀實右衛門の二男にして明治二十三年一月を以て生れ同二十八年江見馬太郎の養子となる同四十五年東京帝國大學理科大學純正化學科を卒業し大正七年第八高等學校教授に任じ同十二年浦和高等學校教授に轉じ現に其任に在り昭和三年化學及化學教授法研究のため英米獨に留學を命ぜらる著書に「高等無機化學」「高等化學計算法(解義)」等あり家族は尚三女明子(大一〇、一一生)の外養妹勝代(明二八、二生)及び同睦子(同四五、六生)あり同文子(同三八、四生)及び同助(同七、一〇生)は分家し同清助(同一七、四生)は其の家籍に入れり(東京市中野區桃園町三六)

江南要次郎　天滿織物、日之出製鎖各㊫監査役
滋賀縣在籍
妻　よね　明二七、一〇生、滋賀、佐野末吉妹
男　正雄　大二、二生
君は滋賀縣人藤村德兵衛の二男にして明治十八年十二月を以て生れ先代ゐその養子となり同二十九年家督を相續す現時前記各會社の重役たり義に江南會社取締役を兼ぬ家族は尚長女靜(大一二、一〇生)二女美代子(同一三、八生)ありA二六四四(兵庫縣武庫郡住吉村反高林電御影一二一八)

江村義三郎　安治川鐵工所、大阪製鎖所各㊫監査役、大阪府士族
妻　シゲヨ　明一一、三生、養父源助二女、山口高女出身
男　俊吉　明三七、五生、農林技師、農學士
婿　重子　明四一、九生、長男俊吉妻、東京橋健行妹
男　英雄　明四〇、九生、北日本汽船會社員
男　勤三　明四二、二生、小野田セメント製造會社員、工學士
男　孝之　明四三、一〇生
女　昌子　大二、二生、大手前高女出身
女　敦子　大四、八生、大手前高女出身
君は舊三田尻藩士にして家老職を勤めたる田上由平の三男にして明治五年一月を以て生れ先代源助の養子となり大正四年家督を相續す明治三十一年東京帝國大學工科大學を卒業し大阪鐵工所に入り技師長となり海外に派遣さるゝ事四回移同社本津川工場長となりしも大正十一年同工場の戸畑鑄物會社に讓渡せらるゝや入りて同社取締役に擧げらる後之を辭し現時安治川鐵工所大阪製鎖所各監査役たり家族は尚孫宏一(昭九、一生、長男俊吉二男)あり長女ムメ(明三二、三生、梅田高女出身)は岡山縣人醫學博士皆木泰一郎に三女美代子(同三八、一一生、出身校同上)は福岡縣人平賀義美四男農學士五郎に嫁せり(大阪府豐能郡熊野田町)
參照‖平賀義美の項

江本謙藏　能勢電氣軌道㊫專務取締役、妙見鋼索鐵道㊫取締役、兵庫縣在籍
妻　せい　明二四、五生、大阪、若間平七長女、夕陽丘高女出身
男　憲一郎　大五、一〇生
君は岐阜縣人淺井利作の二男にして同柳三の兄なり明治十三年七月を以て生れ同三十七年兄鶴吉方より入りて叔母江本とくの死跡を相續す現時前記各會社の重役にして曩に江本製紐會社長野口汽船會社專務取締役を兼ぬ家族は尚二男吉三(大七、九生)三男友三郎(同一〇、四生)三女トミ(同一三、九生)四男善五郎(同一五、七生)四女篤(昭二、九生)ありA二一七(兵庫縣川邊郡反谷村)
參照‖淺井柳三の項

繪川長三良　金融業
大阪府在籍
母　ヌイ　明一〇、四生、大阪、茶珍新兵衛妹
妻　とみ　明三八、一〇生、大阪、靜儀兵衛二女
男　長俊　昭五、一一生
君は大阪府人繪川鶴松の長男にして明治三十四年四月を以て生れ同年家督を相續す金融業を營む家族は尚二男長滋(昭七、一二生)及弟義治(明三九、三生)あり妹恒子(同三八、一生)は伯父新兵衛の死跡を相續せりA二七九五四〇B九三二(大阪市東區今橋一ノ一一電本局六八四、兵庫縣武庫郡本庄村青木六五電御影二八〇三)

永瀧久吉　從四位勳三等、滿洲興業銀行總裁
新潟縣在籍
妻　と　よ　明一四、七生、東京、小野喜太郎長女
養子　久彌　大七、一二生、分家弟忠治五男
君は新潟縣人永瀧源治の長男にして慶應二年十二月を以て生れ明治十四年家督を相續す同廿二年中央大學及專修大學法律科經濟科を卒業し同年代書人試驗及文官高等試驗に合格し司法官試補に任じ同二十三年外務省試補に轉じ日清戰役の際は領事官補として釜山仁川に勤務し夫より領事總領事に累進沙市倫敦シドニー漢口上海間鳥布哇の各地に在勤其間國際問題の交渉日露戰役に於ける功勞多く特に恩賞の御沙汰を蒙る事數次大正三年退官す翌四年安田保善社に入り理事となり後東京建物會社正隆銀行等の重役其他會社の協議役に就任したりしも昭和八年退職し現時滿洲興業會社相談役たり養子イツ(明三六、四生、分家弟源作三女)は神奈川縣人繁田五郎養子一敏に同テイ(同四一、一二生、同五女)は德島縣人武田安吉四男醫學博士德晴に嫁し弟源作(同四、九生)同忠治(同九、四生)は各分家し同勇司(同一六、四生)は新潟縣人金子長の家籍に入れりA五二三(東京市淀橋區諏訪町一九四電牛込六五五)

榮國嘉七　東京瓦斯電氣工業、日本エヤーブレーキ各㊫取締役、大阪府在籍
妻　志津　明二七、二生、大阪、山本德三郎五女
男　嘉一　大元、八生、慶大法學部在學
君は大阪府人榮國傳右衛門の三男にして明治十六年五月を以て生れ大正六年兄傳方より分れて一家を創立す先是明治三十九年大阪高等工業學校機械科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尚二男篤三郎(大六、八生)長女芳子(同九、一生、香園女學校在學)二女節子(同一一、一一生)ありA三九三(東京市大森區新井宿二ノ一四八四電大森三一六五)

榮國義策　石炭商
大阪府在籍
養母　ヒサ　慶應二、一二生、兵庫、添田德藏二女
妻　かね　明一五、二生、養父庄兵衛長女
養子　隆子　明四四、八生、兵庫、田中陸子妹
君は兵庫縣人田中吉次郎の二男にして明治十六年三月二十六日を以て生れ先代庄兵衛の養子となり大正十二年家督を相續す石炭商を營むA六六三(大阪市港區南宏治川通二ノ二六電西一九五四)

衞藤顯　正五位勳六等、判事、鹿兒島地方裁判所部長、大分縣在籍
父　忠藏　明二、七生、大分、衞藤順平二男
現戸主　明六、一二生、大分、衞藤又三郎妹
繼母　キヨウ　明二八、一二生、大分、三浦數平長女、大分高女出身
妻　久　謙　一　大六、一一生
君は大分縣人衞藤忠藏の長男にして明治二十二年十二月を以て生る大正四年東京帝國大學法科を卒業し直に東京に於て辯護士を開業同八年判事に任じ福岡地方裁判所判事兼同區裁判所判事長崎控訴院判事佐賀地方裁判所部長等を經て現時前記の職に在り家族は尚二男晋(大九、一〇生)長女文子(同一二、一〇生)三男慶夫(同一四、一二生)二女澄子(昭三、七生)四男榮人(同五、七生)弟忠夫(明三六、九生)同正之(大五、三生)あり(鹿兒島市鹿兒島地方裁判所內)

衞藤幸六　玖珠貿業銀行㊫取締役
大分縣在籍
男　義　六　明三八、三生
養子　忠彥　明二八、二生、二女チヨウ夫、大分、藤業電弟
女　チヨウ　明三〇、一二生、養子忠彥妻
女　リユウ　明四一、四生
女　ユキ　明四三、八生
男　仁　六　大二、七生
衞應家は古くより大分縣下森町に在り箱屋と稱す先々代孫右衛門に至り吳服商を始め指據經營今日の基礎を成すに至れり君は先代曾六の長男にして明治五年十一月を以て生れ同二十四年家督を相續す夙に玖珠貿業銀行重役に推されて現に其任に在り家族は尚三男猪六(大五、一生)孫君子(昭二、一二生、養子忠彥二女)同昭子(同四、九生、同三女)の外弟嘉六(明二三、一一生、商學士)同逸すみ(同三三、一〇生、靜岡、小栗慶次郎五女)及其二子あり三女フジ(同三三、九生)は福岡縣人平井義信に嫁せり(大分縣玖珠郡森町電五)
參照‖※足立純一郎の項

衞藤祐盛　正五位、朝鮮總督府鐵道局技師、鐵道局運輸課長、大分縣在籍
妻　ユキ　明二七、一生、大分、矢野半之助二女
男　祐吉　大七、三生
女　トシ　大三、一生
女　美津代　大五、九生
君は大分縣人衞藤源十の二男にして明治十六年十二月を以て生れ先代庄八の養子となり同三十九年家督を相

續す同四十一年京都帝國大學工科大學機械工學科を卒業し同年南滿洲鐵道會社に奉職し次で大正八年歐米各國に出張し同十年朝鮮鐵道の滿鐵委任經營に渡鮮し京城鐵道局の運輸課長となり同十四年朝鮮總督府鐵道局技師に任じ運輸課長に補せられ今日に至る家族は尙二男洋吉(大八、八生)あり(京城府漢江通一三鐵道官舍六一)

枝　貢　三滅㊟神戸支店長　兵庫縣在籍

男　誠　昭八、二生
女　千代哉　大四、一〇生
女　和子　大六、六生

君は神奈川縣人間宮五兵衛の弟にして明治二十二年一月を以て生れ大正四年兵庫縣人枝德二の養子となり昭和七年家督を相續す明治四十五年東京高等商業學校を卒業し株式會社芝川商店東京支店三井物産會社等に勤務昭和六年株式會社三越に入社同七年神戸支店長となり現在に至る家族は尙三女道子(大一五、一〇生)ありA一〇〇(神戸市葺合區熊内町四ノ四五電葺合四四九三)

枝重武良　高知縣多額納稅者、製紙原料商　高知縣在籍

母　熊　明五、八生、高知、森木寅右衛門二女
妻　鶴喜　明二九、一一生、高知、森木寅右衛門孫

君は高知縣人枝重米次の長男にして明治二十四年二月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治四十二年市立高知商業學校を卒業し製紙原料商を營み高知縣多額納稅者にして直接國稅五百六十圓を納む家族は尙妹武尾(明二九、一二生)弟清亨(同三六、八生)同妻妙子(同三九、五生、山口、松南卓平妹)あり(高知縣高岡郡高岡町一三七七)

枝原百合一　從四位勳二等、海軍中將、旅順要港部司令官、山口縣在籍

妻　辰　明二五、二生、高知、三浦介雄二女、東京香蘭女學校出身

君は山口縣人枝原榮吉の二男にして明治十四年七月を以て生れ大正五年兄幸太郎方より分れて一家を創立す明治三十六年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和七年海軍中將に累進す其間海軍砲術學校高等科及海軍大學校を卒業し第二艦隊參謀二艦隊參謀富士分隊長海軍砲術學校教官露國駐在武官歩鳥鹿島各砲術長軍令部參謀海軍省副官兼海軍五戰隊參謀千早大井磐手陸奥各艦長霞浦海軍航空隊司令兼海軍技術會議々員第一航空戰隊司令官海軍航空本部出仕横須賀鎭守府附海軍航空廠長等に歷補し昭和八年前記現職に轉ず義に日露日獨各戰役に出征し又鹿島固航員として英國に出張す(東京市中野區氷川町三二電中野四〇九〇)

枝松胖　大日本製氷㊟取締役兼大阪出張所長、關濱氷冷藏、宇和島製氷、八幡濱製氷冷藏、池田製氷、大連製氷、灘製氷冷藏、高松製氷冷藏、田邊製氷、土佐製氷冷藏、福知山製氷冷藏、石若製氷㊟監査役、狹製氷、明石製氷冷凍、多度津製氷、昭和製氷冷凍、製氷各㊟取締役、大阪府在籍

妻　繁　明二三、一二生、大阪、眞野秀次郎二女

君は兵庫縣人枝光孫左衛門の長男にして明治十八年十月二日を以て生れ大正二年家督を相續す現時前記諸會社の重役たり家族は尙三男信之(大九、八生)四男秀之(同一〇、三生)あり長女文世(明三二、一二生)は兵庫縣人寺田啓二弟滿郎に二女たつ(同三五、八生)は同縣人足立孝に三女富子(同三、九、二生)は栃木縣人淺邊源藏に嫁せりA二五七〇(神戸市須磨區東須磨南一ノ二三電須磨三五九)

枝光寅太郎　地家主　兵庫縣在籍

妻　たい　明一五、一一生、兵庫、藤田庄太郎長女
女　孫　明四三、二生
女　澤　明四五、一生
女　繁　明四五、一生
女　信　大三、四生
女　世　大五、五生

君は岡山縣士族影山遐の二男にして明治二十年六月を以て生れ後舊池田藩醫複奇藏の養子となり家督を相續す大正二年京都帝國大學法科大學を卒業し朝鮮總督府司法官に任ぜられ同三年歸鄕辯護士を開業し後縣會議員に當選議長に擧げられ同九年貴族院に投じ第一合同銀行に入り取締役に進み現時前記銀行會社の重役として知られる讀書臨池を愛好す家族は尙二男二郎(大一〇、一二生)三男省三(同一五、一生)あり養妹惠(明二九、二生)は岡山縣人田中實に嫁せり(岡山市上之町九九電三四一七)

榎　政之助　家主　京都府在籍

妻　よし　明二二、三生、滋賀、石川清太郎四女
男　政太郎　大五、九生
女　ふし　大三、一一生

君は京都府人榎彌三郎の四男にして同房治郎の兄同重太郎同樣太郎喜多見長兵衛の弟なり明治十六年十月二十日を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す家主たり家族は尙二男清次郎(大七、一二生)三男三郎(同一〇、一生)三女良子(同一二、一生)あり長女たか(同二、七生)は大阪府人力身盛次郎長男貞一に嫁せりA七九〇(京都市下京區八條觀音寺町二電下四八四五)

參照‖榎重太郎、榎樣太郎、喜多見長兵衛の項

榎　元太郎　日石アスファルト並建築材料商　大阪府在籍

母　スエ　元治元、八生、大阪、田中善次郎妹
妻　ナカ　郎妹　大九、一〇生
男　克朗　大九、一〇生、大阪、十石米次郎

君は大阪府人榎巳之助の長男にして明治二十一年七月二十三日を以て生れ同二十四年家督を相續す日石アスファルト並建築材料商を營む家族は尙長女澄子(昭三、八生)あり妹コマ(明二六、五生)は大阪府人龜井駒吉の養子となりA七〇五B二〇四(大阪市東淀川區本庄西四ノ一七電北四一〇二)

榎樣太郎　京都府多額納稅者、地家主　京都府在籍

妻　シツ　明一三、一〇生、京都、四手井源之助妹

君は京都府人榎彌三郎の二男にして同重太郎の弟同政之助同房治郎喜多見長兵衛の兄なり明治七年十月を以て生れ大正八年家督を相續す地家主にして京都府多額納稅者として知られ直接國稅六千二百九十八圓を納む家族は尙妻巳代、男暁一、四生、兄重太郎長女(明三一、四生)あり弟朗(昭八、一生)

君は京都府人榎彌三郎の六男同重太郎同政之助喜多見長兵衛の弟にして明治二十一年七月一日を以て生れ大正八年兄樣太郎方より分れて一家を創立す資產家たりA一四四六(京都市下京區一貫町通松原下ル)

參照‖榎重太郎、榎樣太郎、喜多見長兵衛の項

榎　元太郎　日石アスファルト並建築材料商　大阪府在籍

母　スエ　元治元、八生、大阪、田中善次郎妹
妻　ナカ　郎妹　大九、一〇生
男　克朗　大九、一〇生、大阪、十石米次郎

君は大阪府人榎巳之助の長男にして明治二十一年七月二十三日を以て生れ同二十四年家督を相續す日石アスファルト並建築材料商を營む家族は尙長女澄子(昭三、八生)あり妹コマ(明二六、五生)は大阪府人龜井駒吉の養子となりA七〇五B二〇四(大阪市東淀川區本庄西四ノ一七電北四一〇二)

榎樣太郎　京都府多額納稅者、地家主　京都府在籍

妻　シツ　明一三、一〇生、京都、四手井源之助妹

君は京都府人榎彌三郎の二男にして同重太郎の弟同政之助同房治郎喜多見長兵衛の兄なり明治七年十月を以て生れ大正八年家督を相續す地家主にして京都府多額納稅者として知られ直接國稅六千二百九十八圓を納む家族は尙妻巳代、男暁一、四生、兄重太郎長女(明三一、四生)あり弟朗(昭八、一生)

君は京都府人榎彌三郎の六男同重太郎同政之助喜多見長兵衛の弟にして明治二十一年七月一日を以て生れ大正八年兄樣太郎方より分れて一家を創立す資產家たりA一四四六(京都市下京區一貫町通松原下ル)

參照‖榎重太郎、榎樣太郎、喜多見長兵衛の項

榎並吉太郎　榎並銅鐵商㊟砂糖取締役、イタリヤ軍㊟取締役、新潟縣在籍

督　ツネ郎二女
男　健一　明四五、一生
女　健　明四五、一生
男　節　明四五、一生

君は新潟縣人榎並健吉の長男にして明治五年八月を以て生れ大正十四年家督を相續す現時前記各會社の重役たり長女チヨ(明三四、五生)は同縣人本彌惣八長男惣兵衛にハル(同一八、九生)は同縣人吉川吉五郎に嫁し同ユキ(同三四、五生)は同縣人大慶作(同一二、二生、新潟、五十嵐喜藏二男)と共に其四子を伴ひ分家せりA四五五(新潟市下大川前通六ノ一電一四七〇)

榎並喬一　愛知縣多額納稅者、日本興業銀行㊟參事、表屋、疊表商　愛知縣在籍

母　ふゆ　明八、一一生、愛知、吉田種彦妹
妻　里江　明三九、五生、愛知、太田德九郎三女

君は京都府人榎彌三郎の二男にして同重太郎の弟同政之助同房治郎喜多見長兵衛の兄なり明治七年十月を以て生れ大正八年家督を相續す地家主にして京都府多額納稅者として知られ直接國稅六千二百九十八圓を納む家族は尙妻巳代、男暁一、四生、兄重太郎長女(明三一、四生)あり弟朗(昭八、一生)

君は京都府人榎彌三郎の六男同重太郎同政之助喜多見長兵衛の弟にして明治二十一年七月一日を以て生れ大正八年兄樣太郎方より分れて一家を創立す資產家たりA一四四六(京都市下京區一貫町通松原下ル)

參照‖榎重太郎、榎樣太郎、喜多見長兵衛の項

榎並喬一　愛知縣多額納稅者、日本興業銀行㊟參事、表屋、疊表商　愛知縣在籍

母　ふゆ　明八、一一生、愛知、吉田種彦妹
妻　里江　明三九、五生、愛知、太田德九郎三女

君は京都府人榎彌三郎の二男にして同重太郎の弟同政之助同房治郎喜多見長兵衛の兄なり明治七年十月を以て生れ大正八年家督を相續す地家主にして京都府多額納稅者として知られ直接國稅六千二百九十八圓を納む家族は尙妻巳代、男暁一、四生、兄重太郎長女(明三一、四生)あり弟朗(昭八、一生)

君は京都府人榎彌三郎の六男同重太郎同政之助喜多見長兵衛の弟にして明治二十一年七月一日を以て生れ大正八年兄樣太郎方より分れて一家を創立す資產家たりA一四四六(京都市下京區一貫町通松原下ル)

參照‖榎重太郎、榎樣太郎、喜多見長兵衛の項

榎並吉太郎　榎並銅鐵商㊟砂糖取締役、イタリヤ軍㊟取締役、新潟縣在籍

督　ツネ郎二女
男　健一　明四五、一生
女　健　明四五、一生
男　節　明四五、一生

君は新潟縣人榎並健吉の長男にして明治五年八月を以て生れ大正十四年家督を相續す現時前記各會社の重役たり長女チヨ(明三四、五生)は新潟縣人大岡清治に妹ハル(同一八、九生)は同縣人本彌惣八長男惣兵衛に同ユキ(同三四、五生)は同縣人吉川吉五郎に嫁し同ツ(同一三、六生)は同夫慶作(同一二、二生、新潟、五十嵐喜藏二男)と共に其四子を伴ひ分家せりA四五五(新潟市下大川前通六ノ一電一四七〇)

榎並喬一　愛知縣多額納稅者、日本興業銀行㊟參事、表屋、疊表商　愛知縣在籍

母　ふゆ　明八、一一生、愛知、吉田種彦妹
妻　里江　明三九、五生、愛知、太田德九郎三女

君は京都府人榎彌三郎の二男にして同重太郎の弟同政之助同房治郎喜多見長兵衛の兄なり明治七年十月を以て生れ大正八年家督を相續す地家主にして京都府多額納稅者として知られ直接國稅六千二百九十八圓を納む家族は尙妻巳代、男暁一、四生、兄重太郎長女(明三一、四生)あり弟朗(昭八、一生)

君は京都府人榎彌三郎の六男同重太郎同政之助喜多見長兵衛の弟にして明治二十一年七月一日を以て生れ大正八年兄樣太郎方より分れて一家を創立す資產家たりA一四四六(京都市下京區一貫町通松原下ル)

參照‖榎重太郎、榎樣太郎、喜多見長兵衛の項

榎並充造　神戸商工會議所副會頭、新興土地建物、東神興業、日伯拓殖國道自動車、日本染工㊟取締役、神戸取引所㊟理事、東川西倉庫、朝鮮海谷商會、神戸火災保險㊟監査役、東和汽船㊟監査役、內外護謨、阪東調帶護謨各㊟監査役、兵庫縣在籍

妻　てる　明一三、八生、兵庫、榎並直三郎妹
男　正一　大元、八生、慶大法學部在學
女　たみ子　明四三、六生、神戸女學院出身
女　えつ子　大八、二生、甲南高女在學

君は兵庫縣人榎並彦五郎の長男にして明治十二年十一月を以て生れ同三十七年家督を相續す現時前揭各會社の重役にして神戸市商工會議所副會頭に擧げられ彙に推されて神戸市會議員たりしことあり又產業功勞者として綬綬賞章を下賜さるA一六二七(神戸市須磨區櫻木町一ノ二六電須磨六五)

參照‖榎並直三郎※川西清兵衛※高安流成の項

榎並赳夫　四日市商工會議所常議員、四日市興宜洋行㊟社長、四日市會庫運輸㊟常務取締役、四日市中央自動車㊟取締役、四日市運送㊟取締役、鹿兒島縣士族

妻　キク　明二五、一一生、大阪、間倉定吉長女
男　愼吾　大一三、一一生

君は鹿兒島縣士族榎並龍之助の長男にして明治二十五年十一月二十五日を以て生れ昭和三年從姉玉の後を承け家督を相續す現時四日市倉庫運輸會社常務取締役に推さる家族は尙二女文代(大一一、九生)三男啓吾(昭四、八生)庶子則(同五、七生、生母、三重、酒井文男(大二、三生)あり妹綾子(明三二、一〇生、愛知縣立第一高女出身)は酒造家辰馬悅藏に同波子(同四〇、一一生、出身校同上)は靜岡縣人原科彦雄に嫁し弟眞造(同三六、一生、慶大高等部出身)は兵庫縣人小曾根貞松の養子となれり(神奈川縣鎌倉郡鎌倉町雪ノ下三五五電一四五〇「店舗」名古屋市西區御幸本町七ノ六電本局一七三一)

參照‖太田德九郎、小曾根貞松、辰馬悅藏の項

榎並充造　神戸商工會議所副會頭、新興土地建物、東神興業、日伯拓殖國道自動車、日本染工㊟取締役、神戸取引所㊟理事、東川西倉庫、朝鮮海谷商會、神戸火災保險㊟監査役、東和汽船㊟監査役、內外護謨、阪東調帶護謨各㊟監査役、兵庫縣在籍

妻　てる　明一三、八生、兵庫、榎並直三郎妹
男　正一　大元、八生、慶大法學部在學
女　たみ子　明四三、六生、神戸女學院出身
女　えつ子　大八、二生、甲南高女在學

君は兵庫縣人榎並彦五郎の長男にして明治十二年十一月を以て生れ同三十七年家督を相續す現時前揭各會社の重役にして神戸市商工會議所副會頭に擧げられ彙に推されて神戸市會議員たりしことあり又產業功勞者として綬綬賞章を下賜さるA一六二七(神戸市須磨區櫻木町一ノ二六電須磨六五)

榎並赳夫　四日市商工會議所常議員、四日市興宜洋行㊟社長、四日市會庫運輸㊟常務取締役、四日市中央自動車㊟取締役、四日市運送㊟取締役、鹿兒島縣士族

妻　キク　明二五、一一生、大阪、間倉定吉長女
男　愼吾　大一三、一一生

君は鹿兒島縣士族榎並龍之助の長男にして明治二十五年十一月二十五日を以て生れ昭和三年從姉玉の後を承け家督を相續す現時四日市倉庫運輸會社常務取締役に推さる家族は尙二女文代(大一一、九生)三男啓吾(昭四、八生)庶子則(同五、七生、生母、三重、酒井文男(大二、三生)あり妹綾子(明三二、一〇生、愛知縣立第一高女出身)は酒造家辰馬悅藏に同波子(同四〇、一一生、出身校同上)は靜岡縣人原科彦雄に嫁し弟眞造(同三六、一生、慶大高等部出身)は兵庫縣人小

日本窒素肥料㈱勤務取締役兼支配人、朝鮮窒素肥料、日本窒素火藥旭ベンベルグ絹絲各㈱取締役兼兵庫縣在籍

榎並直三郎

母　り　き　安政二、一〇生、祖父直五郎四女

君は兵庫縣人榎並直五郎の二男にして明治十年九月を以て生る同三十八年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し現時日本窒素肥料會社專務取締役兼支配人たる傍ら前記各會社の重役たり家族は尙兄英治郎（明八、三生、現戸主）同妻とよ（同三二、二生、兵庫、竹中七右衛門養子）及其一男あり弟武一（同一六、三生）同妻春江（同二四、八生、高知、高瀨直清姉）は其一女を伴ひ分家し同純治（同二七、四生）は兵庫縣人山本市郎右衛門の養子となり姉ふさ（同六、一生）は同縣人川西清兵衛に妹てる（同一三、八生）は同縣人榎並充造に同きぬゑ（同二〇、一〇生）は大阪府人高安清成に嫁せりA八九六九（神戸市須磨區櫻木町二ノ二九電須磨八二九）

參照＝榎並充造、川西清兵衛、高安清成の項

榎本鉦太郎

地家主
東京府在籍

妻　は　る　明七、三生、神奈川、山下光太郎
姉　ま　ん　明一九、一一生、千葉、淺見平兵衛長女

君は東京府人先代鉦太郎の長男にして明治七年二月七日を以て生れ同三十年家督を相續し前名孫太郎を改め襲名す地家主たり家族は尙孫正子（大四、九生、亡長男）同和子（明三四、五生）は東京府人髙野與三郎長男富藏に二女道子（同三五、八生）は山口縣人萩原萬藏長男新市に妹ふさ（同一五、四生）は東京府人日幕宥阿に嫁し四男鎌三（同四一、一生）は同府人榎本徳次郎の養子となりA四七六（東京市淀橋區角筈一ノ七四二電話四谷六九）

榎本次郎右衛門

千葉縣多額納稅者、農業
千葉縣在籍

母　よ　う　明一九、一一生、千葉、淺見平兵衛長女
妻　美　代　明三七、一生、茨城、古川與志郎
男　武　一　大一五、四生

君は千葉縣人先代次郎右衛門の長男にして明治三十四年十月を以て生れ大正十五年家督を相續し前名倶一を改め襲名す先代次郎右衛門は夙に衆議院議員に推され又布川銀行取締役帝國瓦斯粉會社長たり事あり君家業を繼承し農に從事し現に直接國稅千二百七十七圓を納め千葉縣多額納稅者たり家族は尙二女調子（昭二、七生）三女和子（同三、九生）二男久彌三男陽三あり妹幾生）三女和子（同三、九生）二男久彌三男陽三あり妹幾（明三〇、七生、女子美衛學校裁縫科選科出身）は千葉縣人大塚敬次郎に同敏子（同四五、一生）は群馬縣人東京市吏員山田憲太郎に嫁せり（千葉縣東葛飾郡布佐町電木下五七）

榎本重治

正五位勳四等、海軍教授兼海軍書記官、海軍大學校教官
東京府在籍

妻　孝　明三一、一生、岡山、士、杉山岩三郎妹
男　一　郎　大九、一〇生
男　豊　大六、四生
女　黛　大八、三生

君は東京府人榎本重治の四男にして明治二十三年一月を以て生れ大正八年甥善雄方より分れて一家を創立す同二年文官高等試驗に合格翌三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し直に鐵道部書記となり次で海軍教授に轉じ海軍省參事官同書記官等を經て現時海軍教授海軍書記官の任に在り曩に華府軍縮會議講府三國軍縮會議海軍一般軍縮會議等に參列せり家族は尙二男賢二郎（大一二、三生）あり（東京市淀橋區柏木四ノ九三七電四谷七三七、三生）

君は東京府人榎本源太郎の長男にして明治四十年一月三十一日を以て生れ大正三年家督を相續す地主として知らる姉セン（明二七、五生）は東京府人星野庄吉に同ヨシ（同二九、八生）は群馬縣人高木幸太郎弟榮樹に嫁せりA六三九（東京市淀橋區柏木四ノ九三七電四谷七

榎本鎖次

地主
東京府在籍

妻　ギ　ン　明七、一一生、東京、川本又四郎三女
男　ゆ　き　明四一、四生、東京、川本正叔母
男　孝　昭八、五生

君は東京府人榎本鎖次の三男にして明治二十一年一月を以て生れ大正八年甥善雄方より分れて一家を創立す家族は尙二男賢二郎（大一二、三生）あり（東京市淀橋區柏木四ノ九三七電四谷七

榎本清五郎

地家主
東京府在籍

妻　登　兎　明一五、九生、埼玉、關根卯之助妹
男　久太郎　明四一、四生
婦　と　り　明四二、六生、長男久太郎妻、埼玉、石田產十郎四女
男　八重郎　明四四、一生
婦　ま　さ　明四四、一〇生、二男八重郎妻、埼玉、石田產十郎五女
男　滿五郎　大二、七生
女　あき子　大四、一一生

君は東京府人榎本清五郎の二男にして明治十三年九月を以て生れ大正十年家督を相續す地家主として知らる家族は尙三女納婦子（大九、二生）あり長女亦久女（明三八、一一生）は東京府人田畑吉兵衛四男金夫に嫁せりA一三七八（東京市小石川區關口水道町二〇）

參照＝田畑吉兵衛の項

榎本善兵衛

埼玉縣多額納稅者、農業
埼玉縣在籍

母　ま　ん　嘉永六、六生、埼玉、小林伊平長女
男　善　躬　明三八、五生
男　善　行　明四一、一生
女　多豆子　大七、四生

君は埼玉縣人先代善兵衛の二男にして明治十一年四月を以て生れ同四十三年家督を相續し前名善亮を改め襲名す先是同三十五年中央大學を卒業し農を業とし埼玉縣多額納稅者にして直接國稅千五百五十二圓を納む曩に埼玉農工銀行監査役に擧げらる家族は尙四女君子（大九、九生）六女都留子（昭二、四生）あり長女尙子（明三四、一〇生）は埼玉縣人小山三省に姉よし（同三、一二生）は同縣人福島貞次郎に妹たい（同一六、二生）は同縣人宮内翁助長男純に嫁せり（埼玉縣南埼玉郡久喜町）

參照＝小山三省の項

榎本惣五郎

川越市會議員、武藏製粉㈱社長、埼玉縣在籍

妻　ノ　ブ　明三、三生、埼玉、櫻井彌助長女
男　德三郎　明二七、一生

婿　き　よ　明三二、一〇生、長男德三郎妻、埼玉、池田彌右衛門七女
養子　藤　吾　明二九、九生、二女こう夫、埼玉、栗原登藏弟、大倉土木會社員、早大理「學部建築學科出身

女　こ　う　明三五、一二生、養子藤吾妻

君は埼玉縣人榎本啓次郎の三男にして明治二年四月を以て生れ同二十五年分れて一家を創立す米穀商を營み製粉會社長にして川越市會議員に擧げらる家族は尙孫武藏浩貞（昭三、一生、養子藤吾長男）同靖（同五、四生、同二男）ありA二七二（川越市川越九七七電四二一一）

榎本武英

從五位、子爵
東京府華族

妻　と　み　明四三、三生、群馬、星野源左衛門長女

當家は先々代武揚より顯る武揚は舊幕臣にして弱冠海軍練習所の教授となり和蘭に航し海陸の兵制を研究し歸來海軍奉行に擧げらる戊辰の役開陽回天の二艦を率ゐて函館に降り大鳥圭介等と共に王師に抗し軍敗れて降る明治五年其罪を赦され海軍中將に任じ後特命全權公使となり露國及清國駐劄を命ぜられ爾來海軍卿遞信大臣文部大臣樞密顧問官外務大臣農商務大臣議定官等に歷任し同二十年華族に列し子爵を授けらる長男武憲其後を繼ぎ東京帝國大學法科大學を出で貴族院議員に列す君は武憲の二男にして明治四十三年十一月十二日を以て生れ大正十三年家督を相續し襲爵被仰付家族は尙兄清武（明三三、八生）妹綾子（大一三、一生）叔父眷之助（明一三、一生）同妻壽子（同二八、六生、秋田、織田信鄕長女）及其子女同尙方（同一六、一生、阪川半乳店專務取締役、第一タクシー監査役）同妻登兎（同二五、六生、東京、岩本貞英二女）及其子女ありA姉千代子（同三八、一生）は伯爵黑田清先代清仲の養子となれり（神奈川縣足柄下郡小田原町十字三ノ七〇九電九三〇）

參照＝伯爵黑田清※伯爵黑木三次の項

榎本正

大阪府多額納稅者、赤玉、料理業
大阪府在籍

妻　とくゑ　明三四、二生、奈良、池口榮吉長女
養子　善之助　大一三、三生、高知、太田幾太郎甥

君は大阪府人榎本國吉の長男にして明治二十八年五月を以て生れ昭和二年家督を相續す赤玉と稱し料理業を營み大阪府多額納稅者に列す家族は尙弟明三（明三〇、一一生）同三吉（同三三、五生）同妻ヒサ（同三七、八生）叔父定吉（同四、八生）ありA八五八五B一四一九（大阪市南區笠屋町二四電南六五九〇）

榎本丹三

文祥堂㈱取締役兼支配人
東京府在籍

妻　い　ね　明二一、四生、靜岡、竹村茂三郎二女
男　直　司　大四、四生、東京商大在學
女　朋　子　大五、六生、成女高女出身

君は神奈川縣人榎本直次郎の三男にして明治二十一年二月六日を以て生れ同四十一年分れて一家を創立す現に文祥堂取締役兼支配人たり趣味として謠曲を能くす家族は尙二男俊郎（大七、七生）三男徹郎（同九、一生）四男祥一（同一一、四生）五男文彥（同一三、七生）二女惠子（同一五、七生）三女富喜子（昭四、七生）ありA三八七（東京市淀橋區西大久保二ノ二三九電四谷四六一八）

參照＝※佐藤保太郎の項

榎本留吉

種子商
東京府在籍

妻　は　る　明三四、五生、東京、内田七五郎長女
男　泰　吉　大一三、一一生

君は東京府人先代留吉の二男にして明治三十二年二月十一日を以て生れ昭和四年家督を相續し前名熊吉を改め襲名す種子商を營む家族は尙二男良吉（昭三、九生）三男豐吉（同九、三生）弟榮吉（明四一、一〇生）は分家し妹壽美（同四〇、三生）は東京府人荒井安久太郎長男孫康に嫁せりA三四八（東京市豐島區西巢鴨四ノ五二五）

參照＝※荒井安久太郎の項

榎本鍋吉

地主
東京府在籍

男　鐵　治　明三〇、五生
婦　プ　キ　明三五、四生、長男鐵治妻、東京、中村寅吉二女

君は東京府人榎本吉右衛門の二男にして明治五年十一月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す地主として知らる家族は尙弟孫弘（大一四、五生、長男鐵治長男）同敬子（昭三、四生、同長女）同昭（同四、一二生、同二男）ありA三六一（東京市淀橋區角筈一ノ七四二電四谷一一九七）

榎本平七

丸釘販賣所㈱取締役會長、安田商事㈱専務取締役、日本窒夜銀行㈱取締役、柄木農商銀行㈱監査役
東京府在籍

妻　き　め　明一六、一〇生、東京、池ヶ谷榮次郎二女
男　達　郎　明四四、八生

君は東京府人鈴木平八の長男にして明治九年十一月を以て生れ先代初五郎の養子となり同二十六年家督を相續す夙に安田銀行に入り大正十二年安田家に於て淺野家經營の日本窒夜銀行を引受くるや同行に轉じ現時其取締役にして傍ら前記銀行會社の重役たり家族は尙二男和男（大四、四生）あり長女御代（明三五、一〇生）は福井縣人大村百次に二女綾子（同四二、一二生）は靜岡縣人本多菊太郎に嫁せりA六九三（東京市目黑區緣岡町二三四五電㈱荏原三一〇七）

榎本まつ

地主
東京府在籍

男　東三郎　明三八、一二生
婦　貞　明四一、七生、長男東三郎妻、埼玉、野口潤三二女
女　春　明三二、一生

君は東京府人橋本紋次郎の長女にして明治三年十一月十一日を以て生れ後榎本家に嫁し昭和四年男牛政方より分れて一家を創立す地主たり家族は尙孫和夫（昭四、八生、長男東三郎長男）同智惠子（同六、二生、同長女）同宏（同八、一生、同二男）ありA九四一（東京市瀧野川區上中里町三六六）

榎本又吉

地主
東京府在籍

母　ク　ラ　安政四、四生、東京、安藤與兵衛三女
妻　か　ね　明二九、八生、東京、安藤春吉姉
男　武　雄　明四三、五生
男　光　照　大二、二生
男　太　一　大三、九生